

茨城県教育財団文化財調査報告第419集

吉 十 北 遺 跡 勘 十 郎 堀 跡

東関東自動車道水戸線(鉾田～茨城空港北間)
建設事業地内埋蔵文化財調査報告書

第2分冊

平成29年3月

東日本高速道路株式会社
公益財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第419集

吉
十
郎
北
遺
跡
勘
十
郎
堀
跡

(第2分冊) 公益財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第419集

よし じゅう きた 遺 跡
かん じゅう ろう ぼり 跡
吉 十 北 遺 跡
勘 十 郎 堀 跡

東関東自動車道水戸線(鉾田～茨城空港北間)
建設事業地内埋蔵文化財調査報告書

第2分冊

平成29年3月

東日本高速道路株式会社
公益財団法人茨城県教育財団

目 次

—第2分冊—

第3章 吉十北遺跡

第3節 遺構と遺物

1 縄文時代の遺構と遺物

(4) 土坑（第201号土坑～第600号土坑）	295
-------------------------------	-----

第201号土坑 (第257図 PL45)

位置 調査区中央部北寄りのC3d5区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第202号土坑を掘り込み、第204号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 西部が第202・204号土坑と重複しているため、開口部は長径が1.83m、短径が1.68mしか確認できなかった。楕円形と推定でき、長径方向はN-48°-Eである。底面は長径2.82m、短径2.10mの不整楕円形で、平坦である。確認面からの深さは103cmである。壁は大きく内傾しており、袋状を呈している。

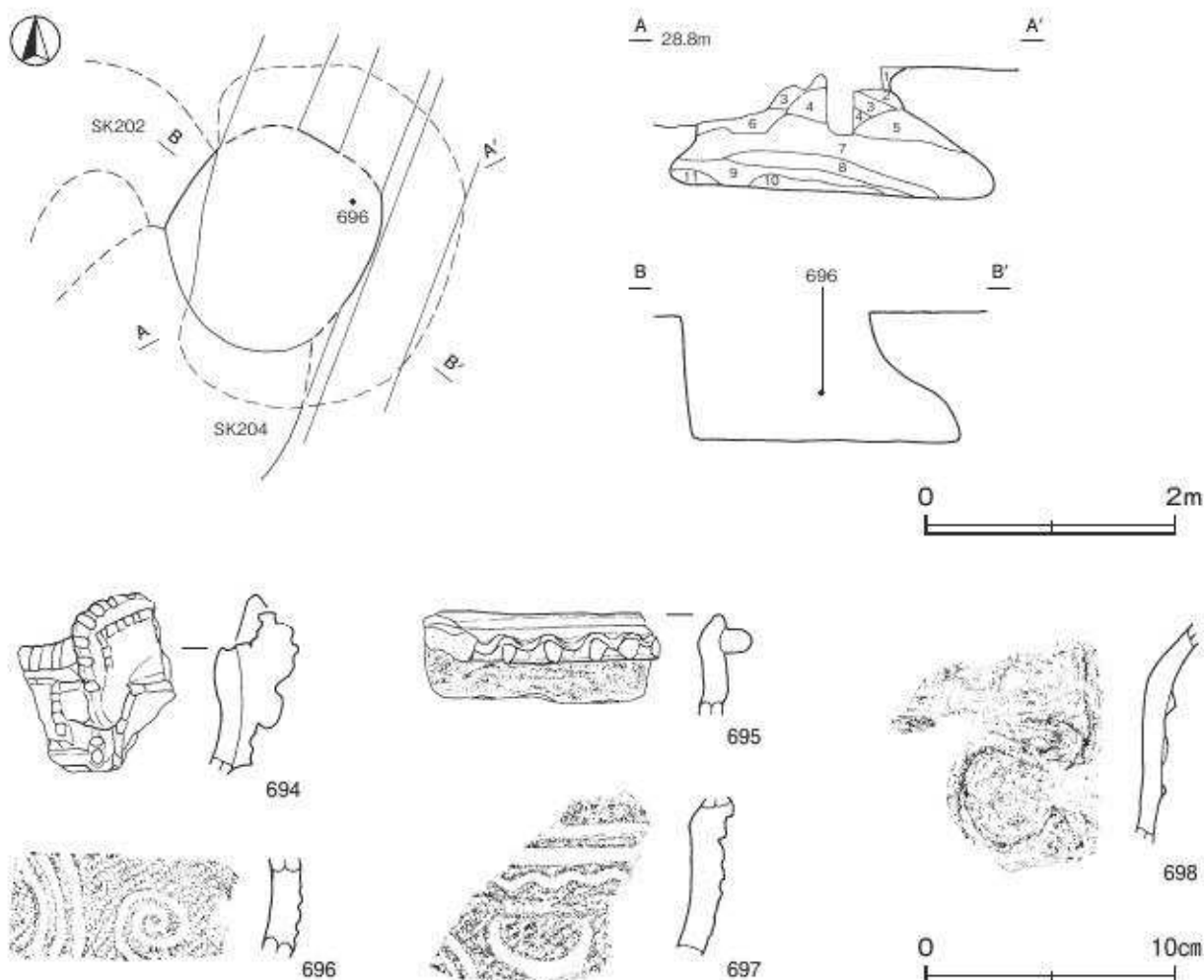
覆土 11層に分層できる。各層にローム粒子が多量に含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子少量	7	黒褐色	ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子多量、炭化粒子微量	8	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子中量、炭化粒子微量
3	暗褐色	ローム粒子中量	9	黒褐色	ローム粒子多量、炭化粒子少量
4	褐色	ローム粒子多量、炭化粒子微量	10	黒褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量
5	暗褐色	ローム粒子多量、炭化粒子少量	11	黒褐色	焼土ブロック・粘土ブロック少量、ロームブロック微量
6	暗褐色	ロームブロック中量			

遺物出土状況 縄文土器片381点(深鉢377, 浅鉢4), 石器2点(磨石), 石核4点(石英), 剥片6点(石英4, 砂岩1, 瑪瑙1), 礫2点が出土している。698は覆土上層と覆土下層から出土した破片が接合している。694・695・697は覆土下層から、696は中央部の覆土中層からそれぞれ出土している。いずれも破片が散乱した状態で出土しており、埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第257図 第201号土坑・出土遺物実測図

第 201 号土坑出土遺物観察表 (第 257 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
694	縄文土器	深鉢	-	(7.4)	-	長石・石英	にぶい青褐色	普通	扇状把手 口径頂部に利突文 隆帯に沿って有節沈線	覆土下層	
695	縄文土器	深鉢	-	(4.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	口径部に段を有し太い隆帯が一段 隆帯上に利突文	覆土下層	
696	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	胎文に単節縄文 RL (縦) 沈線による文様描画	覆土中層	
697	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	浅黄褐色	普通	胎文に単節縄文 RL (縦) 半截竹管による縞線・波状文・曲線文 波状文の下位に有節沈線	覆土下層	
698	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	断面三角形の隆起線で文様描画 外・内面横位の磨き	覆土上・下層	

第 202 号土坑 (第 258 ~ 261 図 PL45・99)

位置 調査区中央部北寄りの C 3 d4 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 201・203・204 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南半部を複数の土坑に掘り込まれているため、開口部は南北径 1.06 m しか確認できなかった。東西径は 1.00 m で、円形または楕円形と推定できる。底面は径 2.62 ~ 2.70 m の円形で、平坦である。確認面からの深さは 126 cm である。壁は大きく内傾して袋状を呈し、上位はほぼ直立している。

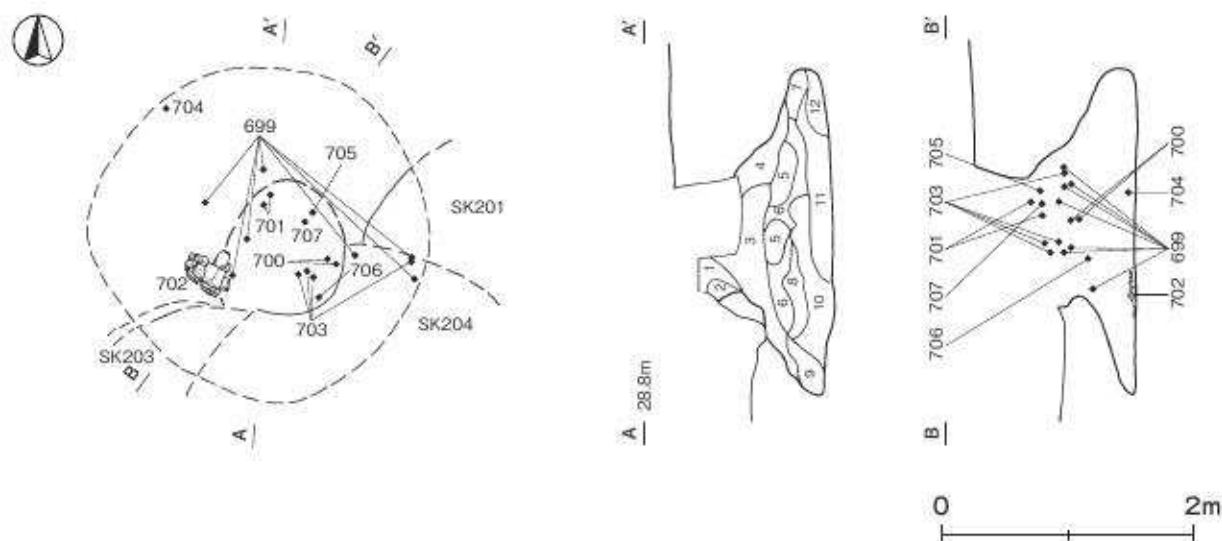
覆土 12 層に分層できる。第 3・4 層は含有物の少ない黒褐色土で、一時的に開口していた際に流れ込んだ土と考えられる。第 5 層以下は不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。

土層解説

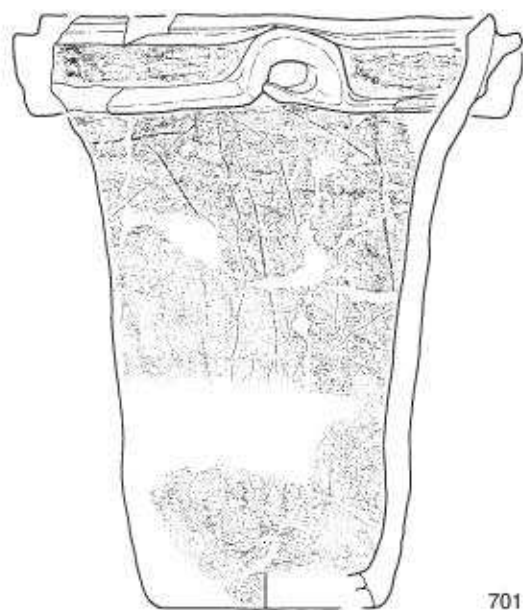
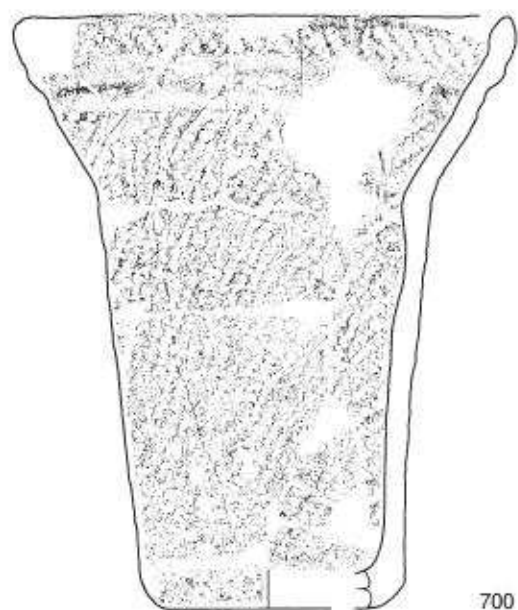
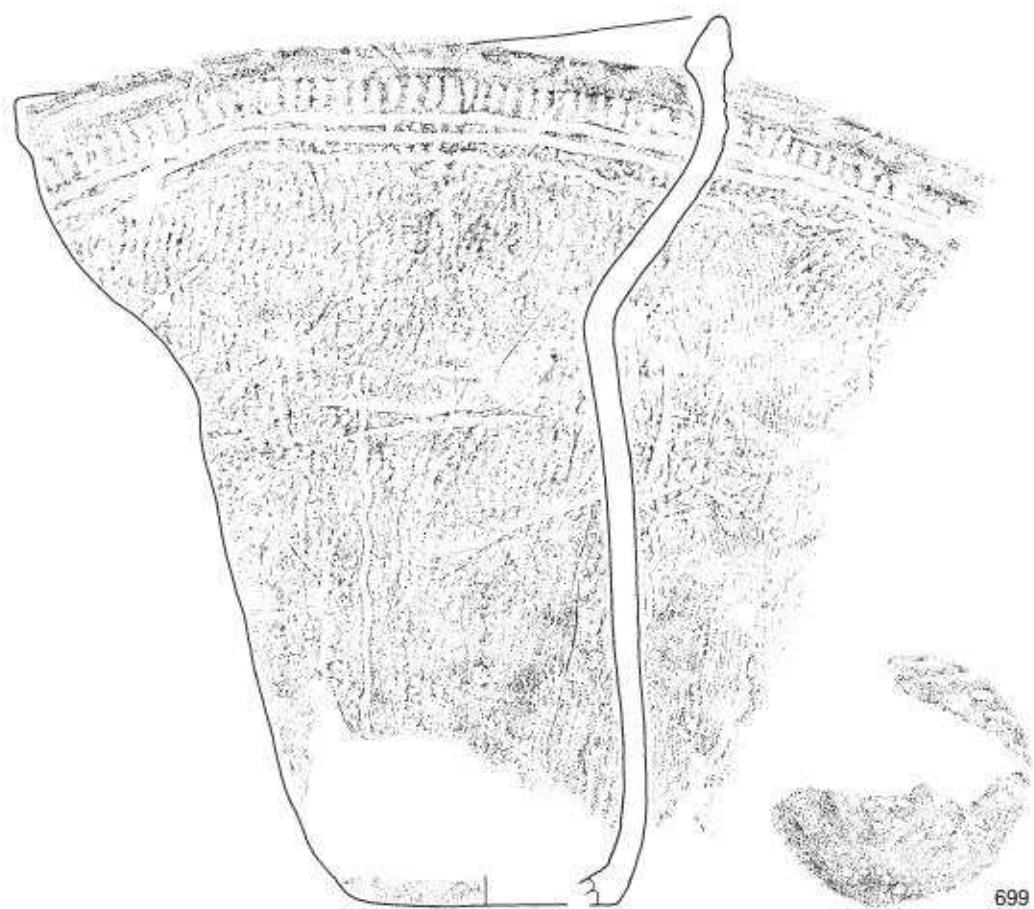
- | | | | |
|----------|-----------------------|-----------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量 | 8 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 | 9 暗褐色 | 鹿沼パミスブロック・ローム粒子中量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子少量 | 10 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 5 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量、鹿沼パミスブロック微量 | 11 黒褐色 | ロームブロック中量 |
| 6 極暗褐色 | ローム粒子中量 | 12 にぶい黄褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 縄文土器片 243 点 (深鉢 239、浅鉢 4)、石器 6 点 (磨製石斧 3、磨石 1、敲石 1、敲砥石 1)、石核 1 点、礫 1 点が出土している。702 は中央部南西寄り、704 は北西壁際の底面から出土している。702 は底部が欠損しているが、横位で押しつぶされた状態で出土しており、廃絶時に遺棄されたものと考えられる。699 ~ 701・703・705 ~ 707・709・710、Q 188 は、覆土中層からまとも出土しており、ある程度埋め戻された凹地状の部分に一括投棄されたものと考えられる。

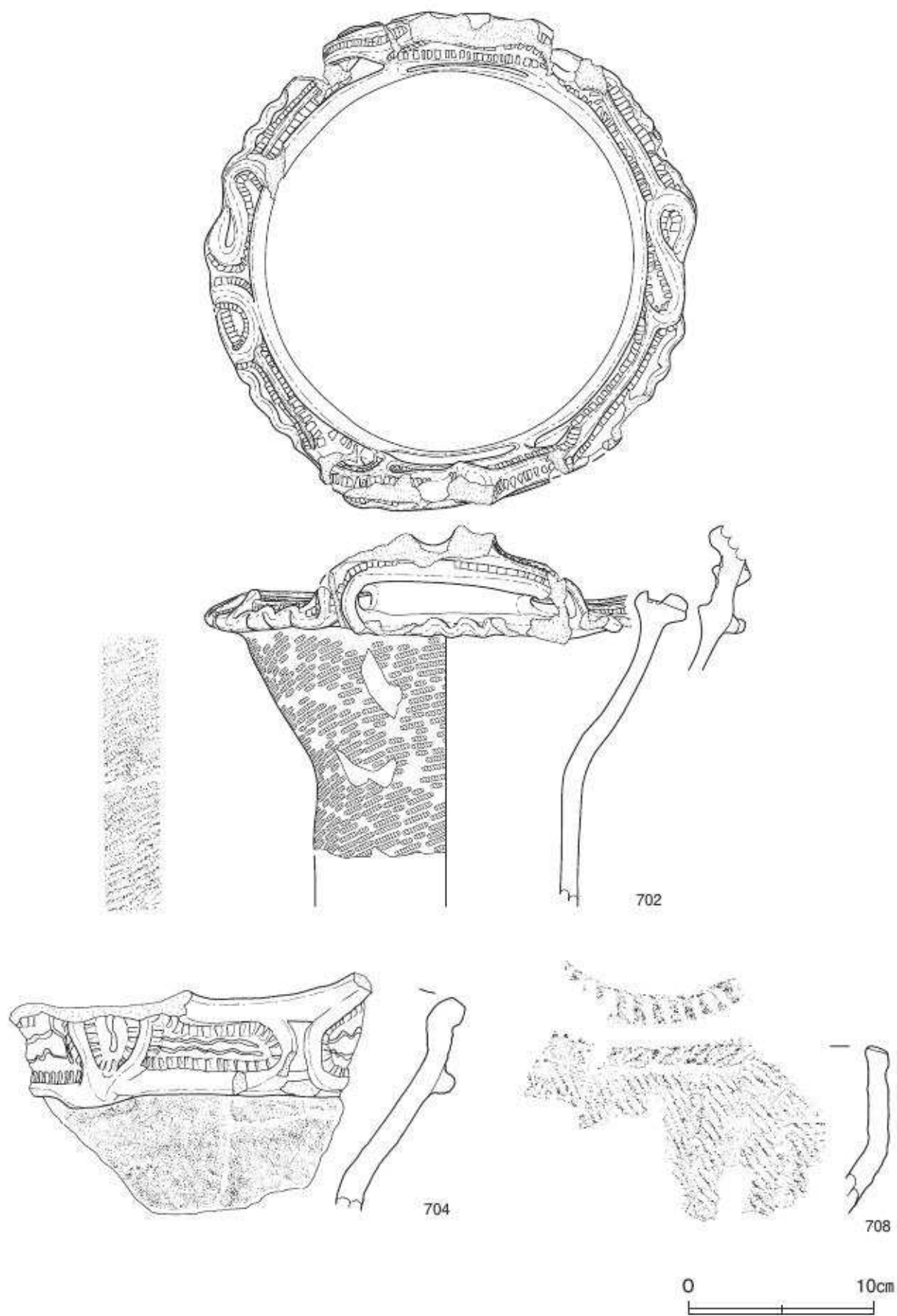
所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



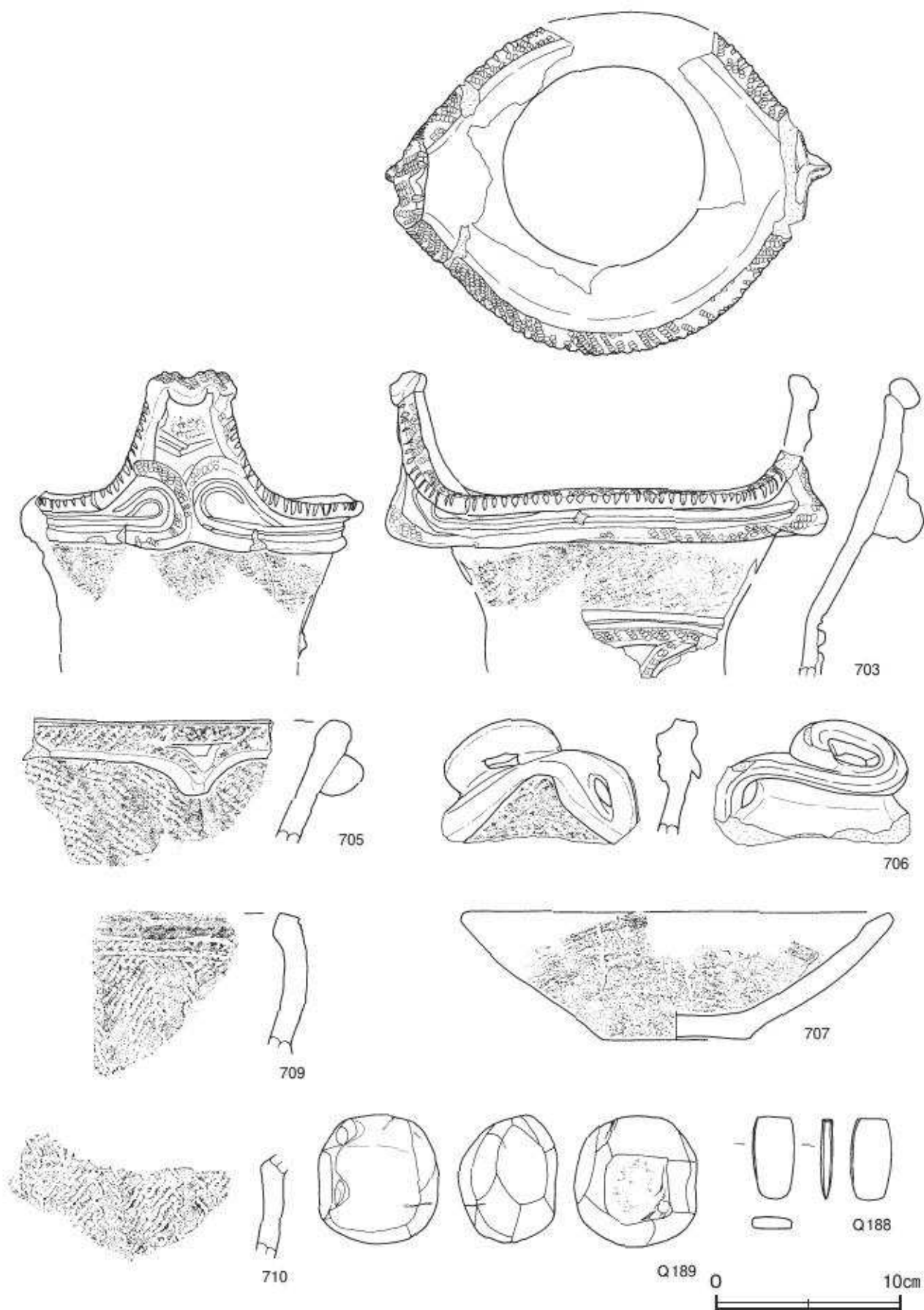
第 258 図 第 202 号土坑実測図



第 259 図 第 202 号土坑出土遺物実測図(1)



第 260 图 第 202 号土坑出土遗物实测图 (2)



第 261 図 第 202 号土坑出土遺物実測図(3)

第 202 号土坑出土遺物観察表 (第 259 ~ 261 図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	文 様 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
699	縄文土器	深鉢	27.7	35.4	10.4	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部無文帯に幅広い爪形文・並行波線・波状文が一道。頸部以下地文に単節縄文 RL (縦・斜) 蛇行文・条線文が重なり。底面網代表	覆土中層	80% PL126
700	縄文土器	深鉢	[18.9]	23.5	[8.6]	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部に紋を有し段上に単節縄文 RL (横) 胴部同一原体 (縦)	覆土中層	80% PL126
701	縄文土器	深鉢	17.8	23.5	[8.5]	長石・石英・雲母	褐	普通	口縁部瓦状の隆帯による文様描画 口縁部外面横位の磨き 頸部以下縦位の磨き	覆土中層	50% PL126
702	縄文土器	深鉢	21.4	[20.4]	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	一對の穿孔把手 把手下部に楕円区画 把手表面に有節波線 口唇頂部隆帯による S 字状・弧文・線文 隆帯に沿って有節波線 口縁部緑波状隆帯が突出 胴部単節縄文 RL (縦)	底面	80% PL126
703	縄文土器	深鉢	18.6	[15.2]	-	長石・石英・雲母	黒	普通	把手頂部から口唇部に単節縄文 RL (横) 胴面にキザミ目 隆帯を二高させ把手下で文字状に交差 交差部縮み状 胴部同一原体 (縦)	覆土中層	20% PL126
704	縄文土器	深鉢	-	[12.8]	-	長石・石英・針状鉱物	黒褐	普通	隆帯による楕円区画 区画内隆帯に沿ってキョウタビク文 2本の波状波線 頸部無文帯	底面	20%
705	縄文土器	浅鉢	-	[6.7]	-	長石・石英・雲母	暗赤褐	普通	口縁部上縁に V 字状の隆帯隆帯 口縁部外面縄文 LR (横) 胴部同一原体 (縦) を間隔を置いて施文	覆土中層	
706	縄文土器	浅鉢	-	[6.3]	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	把手表面背割れ隆帯による横 S 字状文 地文に単節縄文 RL (横)	覆土中層	
707	縄文土器	浅鉢	[22.9]	6.9	7.8	長石・石英	暗赤褐	普通	外・内面横位の磨き 底面丁寧なナデ	覆土中層	50% PL126
708	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	にぶい橙	普通	口唇頂部にキザミ目 肥厚部に無節縄文 L (横) 胴部同一原体 (縦)	覆土中	
709	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	口縁部上部に平行有節波線が一道 地文に結節縄文 (縦) を間隔を置いて施文	覆土中層	710・SK35 720 と同一個体。
710	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	地文に結節縄文 (縦) を間隔を置いて施文	覆土中層	709・SK35 720 と同一個体。

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
Q 188	磨製石斧	4.5	2.2	0.6	128	角閃岩	極小型 全面研磨 両側縁に稜 刃部は表裏から砥ぎ出す	覆土中層	PL170
Q 189	砥石	7.0	6.6	5.3	3783	黒色安山岩	円縁の両縁部に多方向からの砥面により稜をもつ	覆土中層	PL172

第 203 号土坑 (第 262・263 図 PL46)

位置 調査区中央部北寄りの C 3 e4 区。標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 202・205 号土坑を掘り込み、第 204 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 東部を第 204 号土坑に掘り込まれており、開口部は北西・南東径が 2.34 m で、北東・南西径は 2.13 m しか確認できなかった。楕円形で、長径方向は N - 65° - W である。底面は長径 2.26 m、短径 1.98 m の楕円形である。平坦で、南壁際に径 60cm、深さ 10cm ほどの浅い凹みがある。確認面からの深さは 70cm である。壁は内彎しており、袋状を呈している。

ピット 2 か所。P 1・P 2 は、深さ 68・28cm で、西部と北西部の壁際に位置しており、補助的な貯蔵施設と考えられる。

ピット土層解説

- | | | | |
|----------|-----------|----------|-----------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量 | 5 にぶい黄褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量 | 6 暗褐色 | ロームブロック多量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量 | 7 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量 | | |

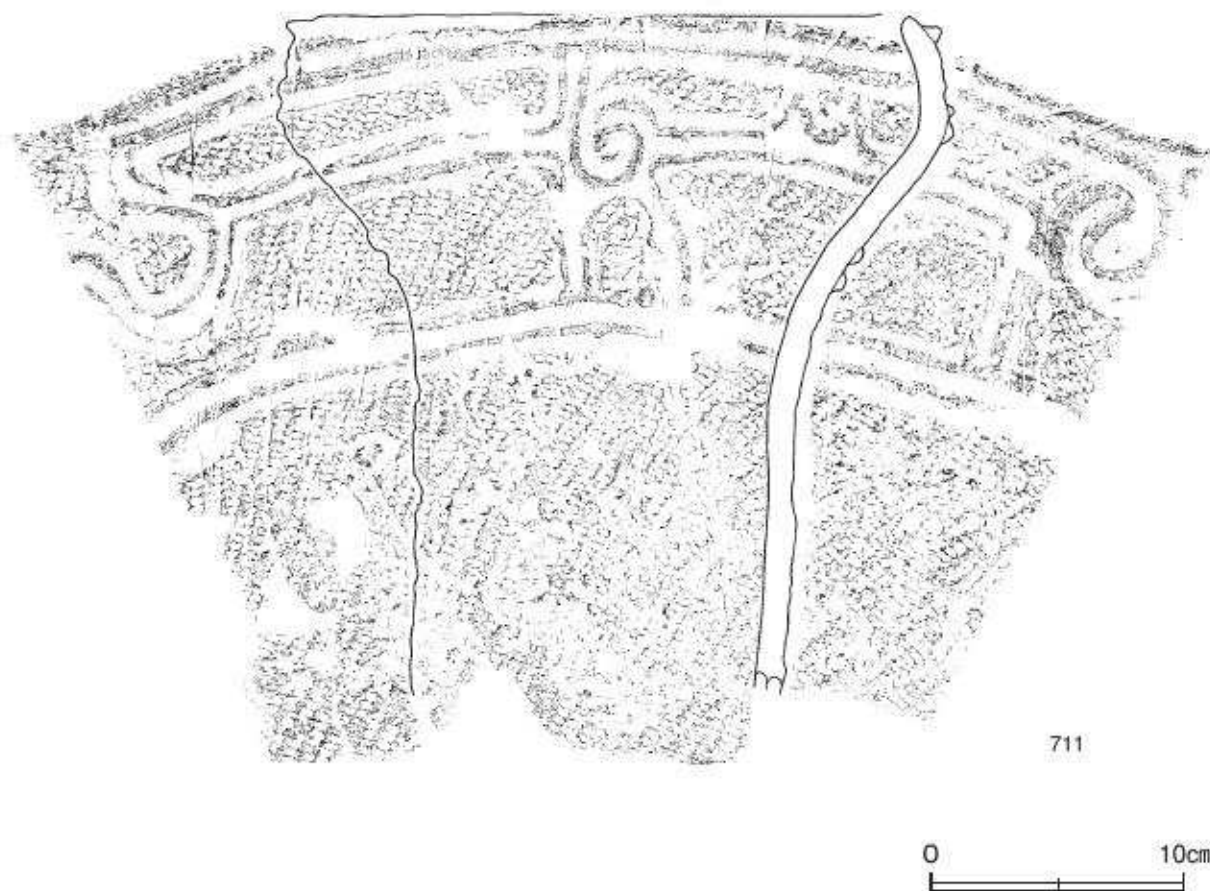
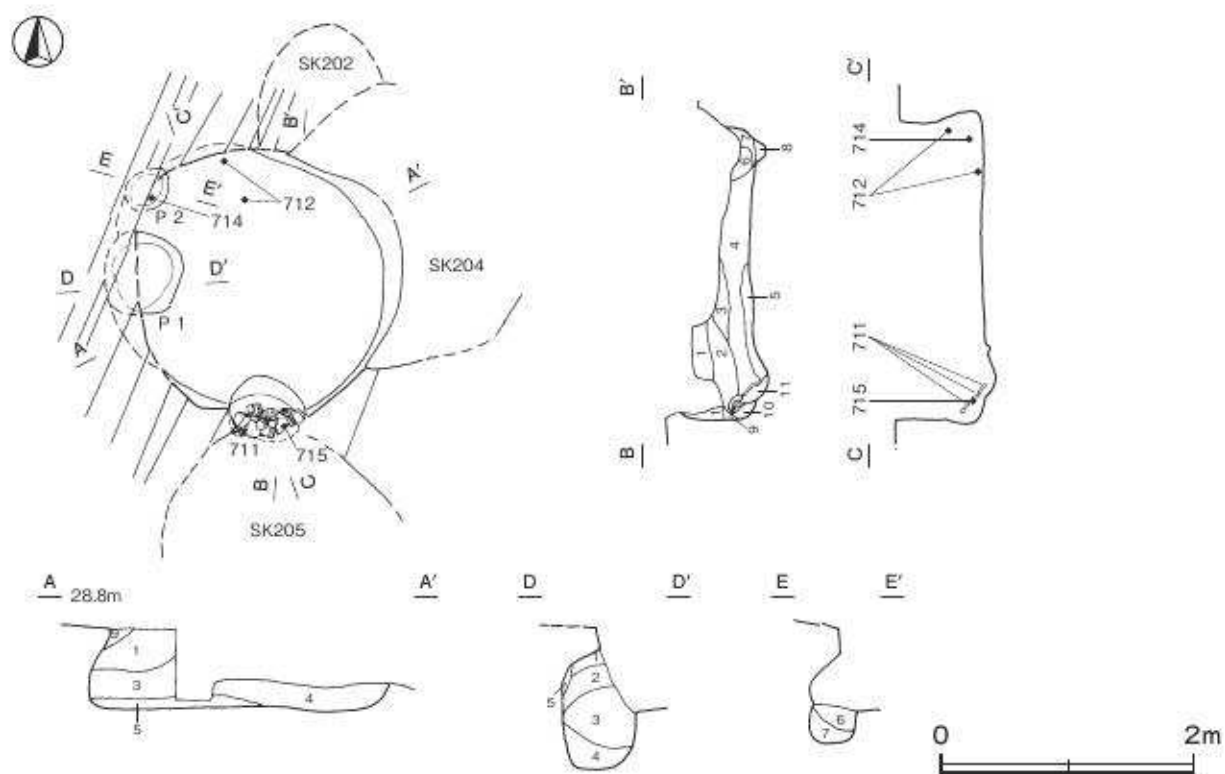
覆土 11 層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。

土層解説

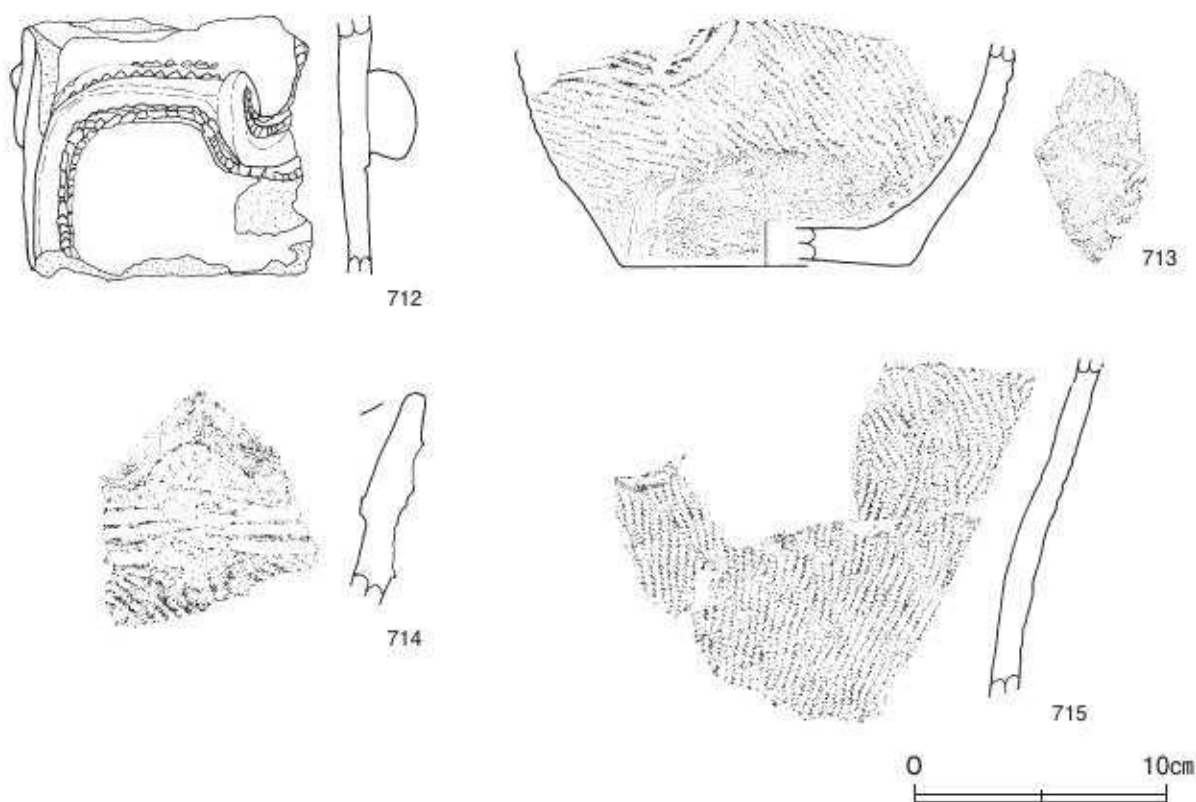
- | | | | |
|-------|--------------------------|-----------|--------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量。鹿沼バミスブロック・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量。炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子多量。炭化粒子少量 | 9 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子少量 | 10 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| | | 11 にぶい黄褐色 | ロームブロック多量 |

遺物出土状況 縄文土器片 48 点 (深鉢) が出土している。711・715 は南壁際の凹みの上部から出土しており、711 は破片が一か所にまとめられた状態で出土していることから、破碎後に遺棄されたと考えられる。712・714 は、北壁際の覆土中層から下層にかけて出土した破片が接合しており、埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第 262 図 第 203 号土坑・出土遺物実測図



第263図 第203号土坑出土遺物実測図

第203号土坑出土遺物観察表 (第262・263図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
711	縄文土器	深鉢	23.3	(27.0)	-	長石・石英	橙	普通	地文に早節縄文RL(縦)。口唇頂部に沈線一筋。背側縁部によるクランク文・渦巻文。	覆土下層	70% PL.125
712	縄文土器	深鉢	-	(10.5)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	部状隆帯で文様描画し一部に縞み状の突起。隆帯に沿って平行有筋沈線。	覆土中～下層	10%
713	縄文土器	深鉢	-	(8.8)	[11.4]	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	地文に早節縄文LR(縦)。太い沈線で文様描画。側下縁部位の磨き。底面網代痕をナゲ消す。	覆土上層	15%
714	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にがい赤褐色	普通	口縁部上縁に3本の沈線が一筋。沈線下部から早節縄文RL(横)。	覆土下層	
715	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	地文に早節縄文LR(縦・斜)施文。	覆土下層	

第204号土坑 (第264図)

位置 調査区中央部北寄りのC3e5区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第201～203号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 耕作による攪乱を受けているが、長径2.77m、短径2.21mの楕円形で、長径方向はN-63°-Eである。底面は平坦で、深さは45cmである。壁は外傾している。

覆土 2層に分層できる。北東側から埋め戻された堆積状況を示している。

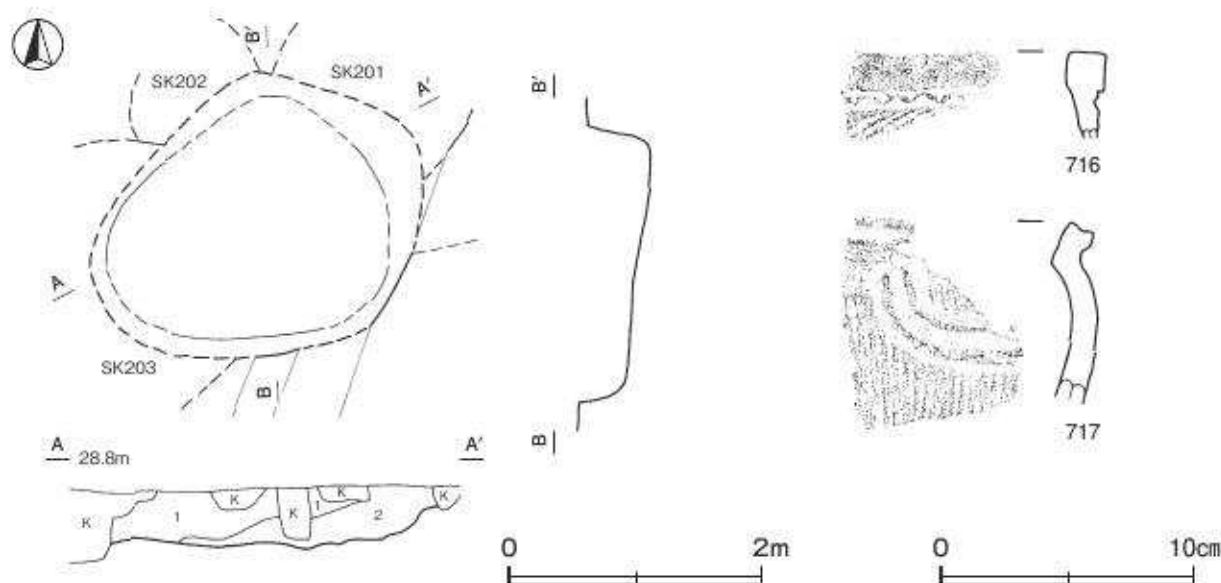
土層解説

1 暗褐色 ローム粒子中量

2 暗褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 縄文土器片77点(深鉢)、石核1点(頁岩)が出土している。716・717は、覆土下層から出土している。

所見 耕作による攪乱を受けているため明確でないが、規模から袋状土坑の下部と推定でき、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第264図 第204号土坑・出土遺物実測図

第204号土坑出土遺物観察表（第264図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
716	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口唇部半坦面、口縁部横文帯、胴文下部に交互斜文、地文に多数縄文RL（縦）	覆土下層	
717	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口唇部に泥線が一面、地文に多数縄文RL（斜）、背割れ隆帯による文様描画	覆土下層	PL126

第205号土坑（第265図 PL46）

位置 調査区中央部のC 3e4区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第203号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は径1.85～1.95mの円形である。底面は長径3.30m、短径2.80mの楕円形で、平坦である。確認面からの深さは124cmである。壁は大きく内傾して袋状を呈し、底面から68～84cmのところできびれ、上位は外傾している。

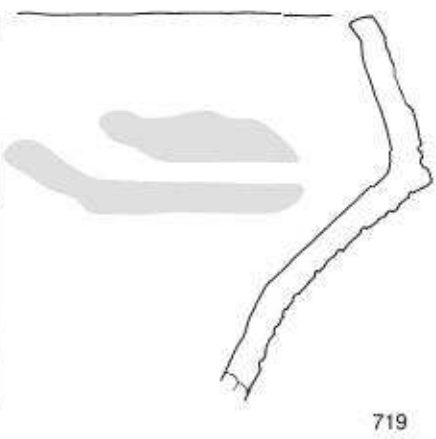
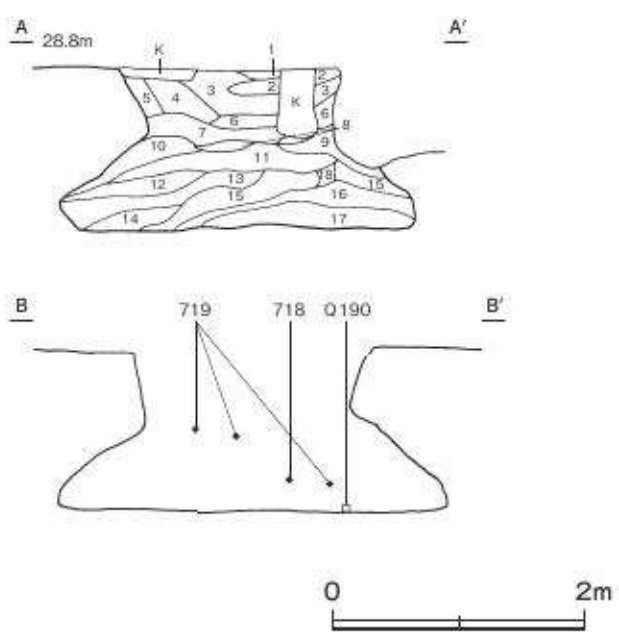
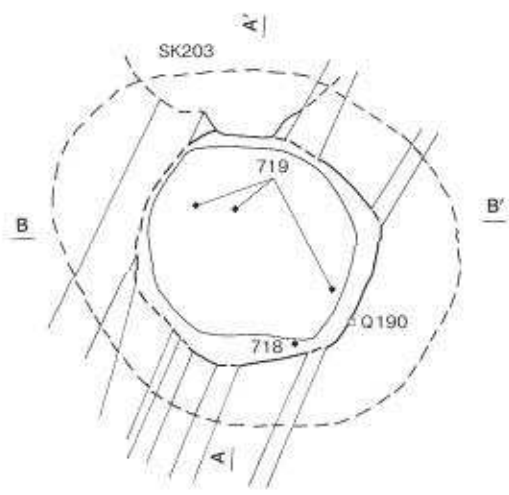
覆土 18層に分層できる。ロームブロックを多く含む層と黒褐色土が互層に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子中量	10 暗褐色	ロームブロック少量
2 黒褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	11 暗褐色	ローム粒子中量
3 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子中量	12 暗褐色	ローム粒子少量
4 黒褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量	13 暗褐色	ロームブロック中量
5 暗褐色	ローム粒子微量	14 暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
6 暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量	15 褐色	ロームブロック多量
7 暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	16 黒褐色	ロームブロック中量
8 にぶい黄褐色	ロームブロック多量	17 褐色	ロームブロック中量
9 黒褐色	ローム粒子微量	18 黒褐色	ロームブロック微量

遺物出土状況 縄文土器片162点（深鉢161、浅鉢1）、石器1点（磨製石斧）、石核1点（頁岩）が、覆土上層及び最下層から散乱して出土している。719は、中央部から南東部の覆土中層から下層にかけて出土した破片が接合している。Q 190は底面から、718は覆土下層からそれぞれ出土している。また、720と同一個体とみられる土器片が、第202号土坑の覆土中層から出土している。

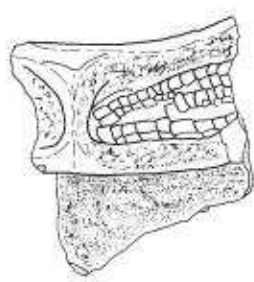
所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



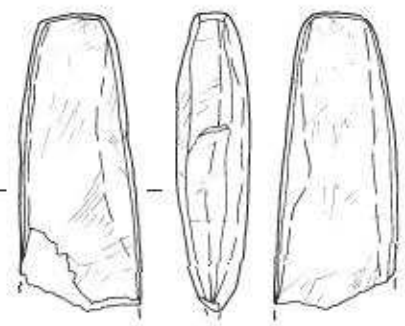
719



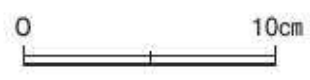
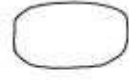
720



718



Q190



第 265 図 第 205 号土坑・出土遺物実測図

第205号土坑出土遺物観察表(第265図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
718	縄文土器	深鉢	-	(10.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	隆帯による楕円区画。区画接合部に突起。隆帯に沿って有節沈線。隆帯上単節縄文RL(横)	覆土下層	
719	縄文土器	浅鉢	[29.8]	(15.4)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	地文に単節縄文LR(縦)。口縁部沈線で方形区画。裏手文。頸部並行沈線と液状沈線。胴部風貌文・幾重文。	覆土中～下層	10% PL125
720	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐	普通	口縁部上部に平行有節沈線が一部。地文に単節縄文(縦)を間隔を置いて施文。	覆土中	SK202 719・710と同一個体。

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 190	磨製石斧	(11.8)	4.8	2.8	(246.6)	緑色岩	定角式。全面に微細な敲打調整後研磨。刃部欠損。	底面	PL167

第206号土坑(第266・267図 PL47)

位置 調査区西部のC 2c9区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第234号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 耕作による攪乱を受けているが、開口部は長径1.37m、短径1.08mの楕円形で、長径方向はN-62°-Wと推定できる。底面は径1.77～1.86mの円形で、平坦である。確認面からの深さは82cmである。壁は大きく内彎して、袋状を呈し、底面から27～54cmのところにくびれ、上位は外傾している。

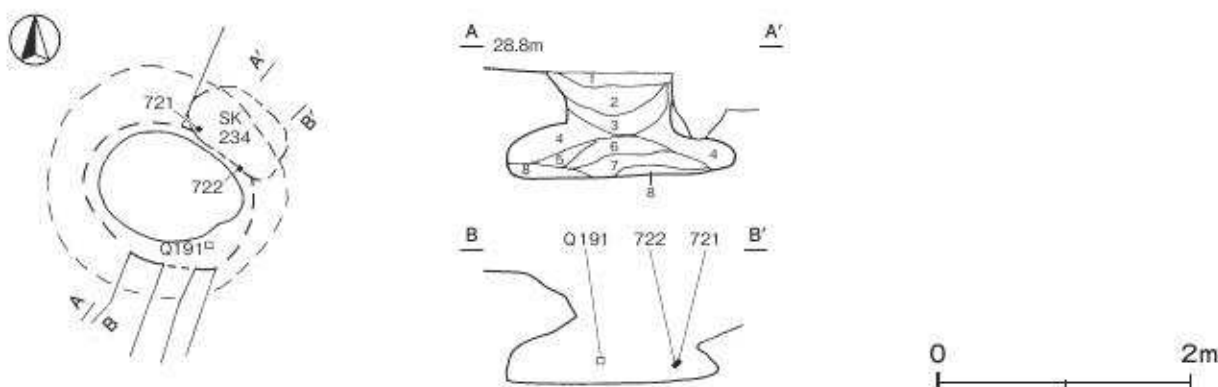
覆土 8層に分層できる。各層にロームブロックや炭化物が含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック、炭化物微量	5	暗褐色	ロームブロック中量
2	暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化物微量	6	黒褐色	ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量
3	暗褐色	ローム粒子少量、炭化物微量	7	暗褐色	ロームブロック少量、炭化物微量
4	黒褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量	8	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片106点(深鉢)、石器1点(凹石)、剥片2点(黒色安山岩、チャート)が出土している。721は北部、722は東部、Q 191は南部の覆土下層から散乱した状態で出土している。

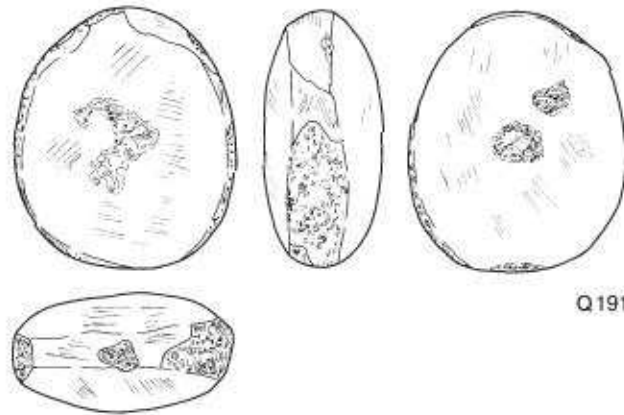
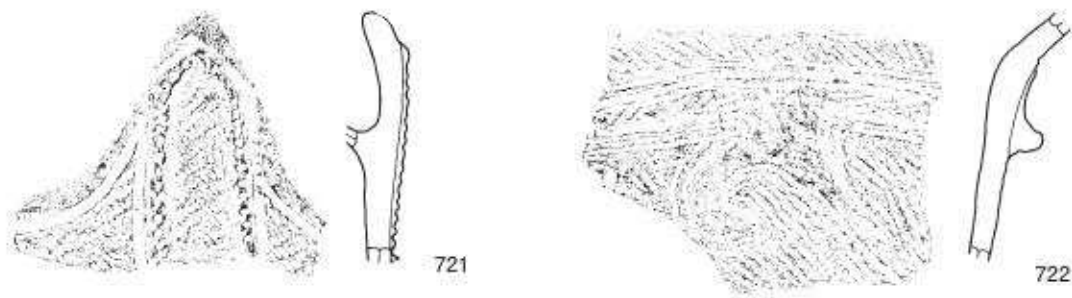
所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第266図 第206号土坑実測図

第206号土坑出土遺物観察表(第267図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
721	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	地文に単節縄文RL(縦)。逆U字状の隆帯貼付。隆帯上に刺突文。口縁に沿って沈線。液状沈線。頂部表層袋状の凹み。	覆土下層	
722	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	地文に単節縄文LR(縦)。深鉢状隆帯貼付一部突起。隆帯に沿って有節沈線。	覆土下層	



第267図 第206号土坑出土遺物実測図

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q191	凹石	10.3	8.8	4.8	617.0	安山岩	表表面、側面の一部研磨痕、縁部と表表面の一部に敲打痕	覆土下層	PL181

第208号土坑（第268図 PL44・47）

位置 調査区西部のC2b9区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第199号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径0.55m、短径0.40mの楕円形で、長径方向はN-38°-Wである。底面は平坦で、深さは103cmである。壁は直立している。

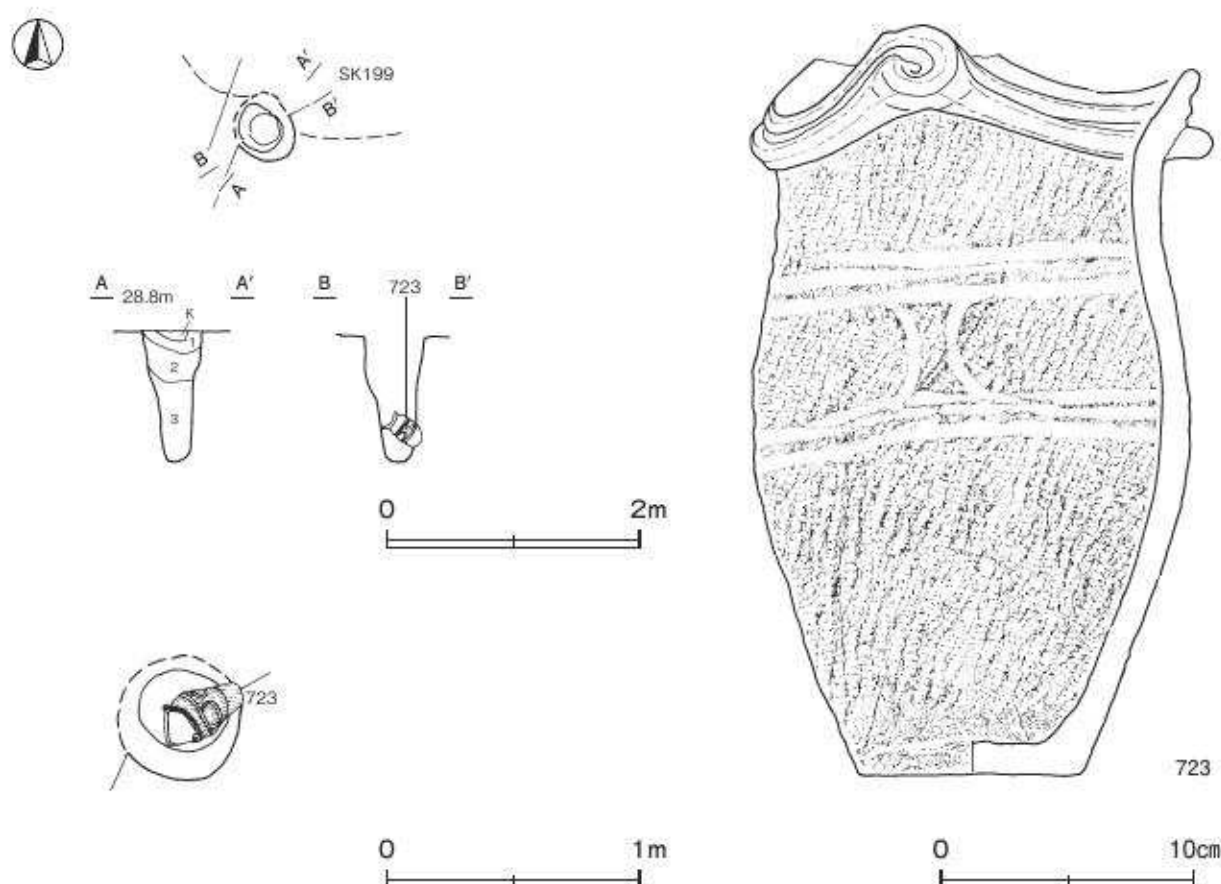
覆土 3層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が多く含まれていることから、埋め戻されている。柱抜き取り後の埋土と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量

遺物出土状況 縄文土器1点（深鉢）が出土している。723は覆土下層から、口縁部を上に向けた斜位の状態で出土しており、柱の抜き取り後に埋納されたものと考えられる。

所見 形状から柱穴と考えられるが、構造や対応するようなその他の柱穴の存在は不明である。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第 268 図 第 208 号土坑・出土遺物実測図

第 208 号土坑出土遺物観察表 (第 268 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
723	縄文土器	深鉢	16.0	29.8	8.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐色	普通	波頭部背割れ縁帯による渦巻文・表文に0段多条LR(横)・並行沈線による4単位の楕円区画	覆土下層	95% PL127

第 209 号土坑 (第 253・269 図 PL47)

位置 調査区北西部の C 2 a9 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 196～198 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 西半部が複数の土坑に掘り込まれているため、長径は 1.62 m、短径は 1.31 m しか確認できなかった。円形または楕円形と推定できる。底面は平坦で、深さは 40cm である。壁は直立している。

覆土 3層に分層できる。含有物の少ない暗褐色土が水平に堆積していることから、自然堆積である。

土層解説

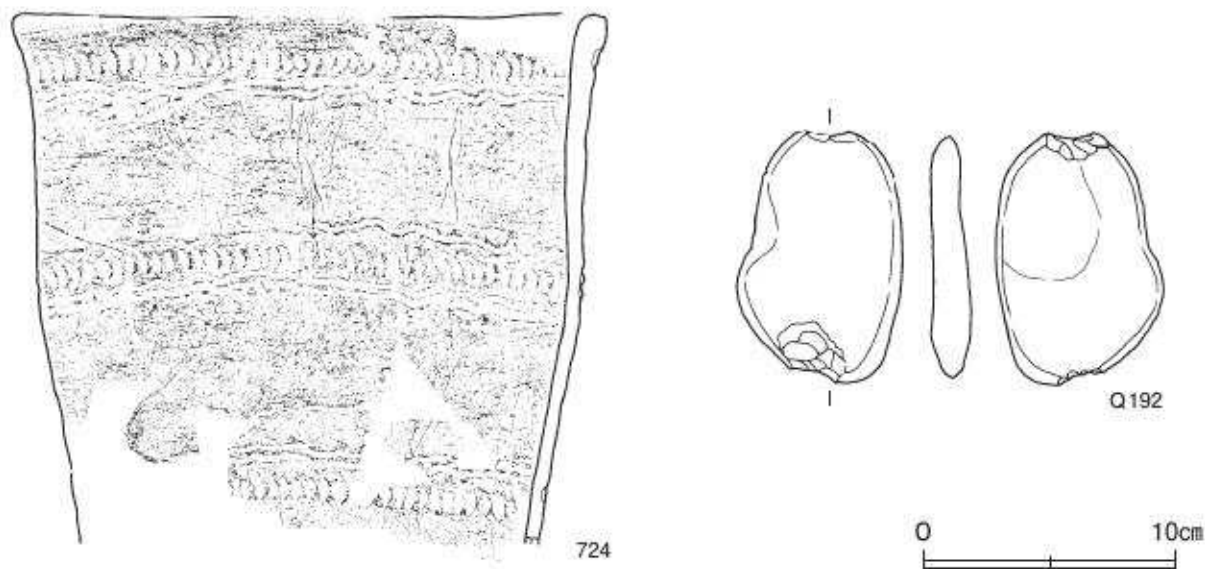
1 暗褐色 ローム粒子少量、炭化物・焼土粒子微量

3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量

2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片 49 点 (深鉢)、石器 1 点 (石錘)、剥片 2 点 (安山岩、瑪瑙) が出土している。724 は、東壁際の覆土最下層から大型の破片がつぶれた状態で出土しており、廃絶後、間もなく投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第269図 第209号土坑出土遺物実測図

第209号土坑出土遺物観察表（第269図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
724	縄文土器	深鉢	[232]	(21.0)	—	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁下部・胴部に爪形文と波状文が一巡	覆土下層	30% PL127
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
Q192	石錘	10.1	6.6	1.6	150.7	砂岩	扁平な自然石を利用 両端を敲打		覆土上層	PL181	

第211号土坑（第270・271図 PL48・98）

位置 調査区北西部のB25区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第345号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は長径1.78m、短径1.41mの楕円形で、長径方向はN-38°-Eである。底面は径2.28～2.38mのほぼ円形で、平坦である。確認面からの深さは111cmである。壁は大きく内傾して袋状を呈し、底面から64～70cmのところできびれ、上位は外傾している。

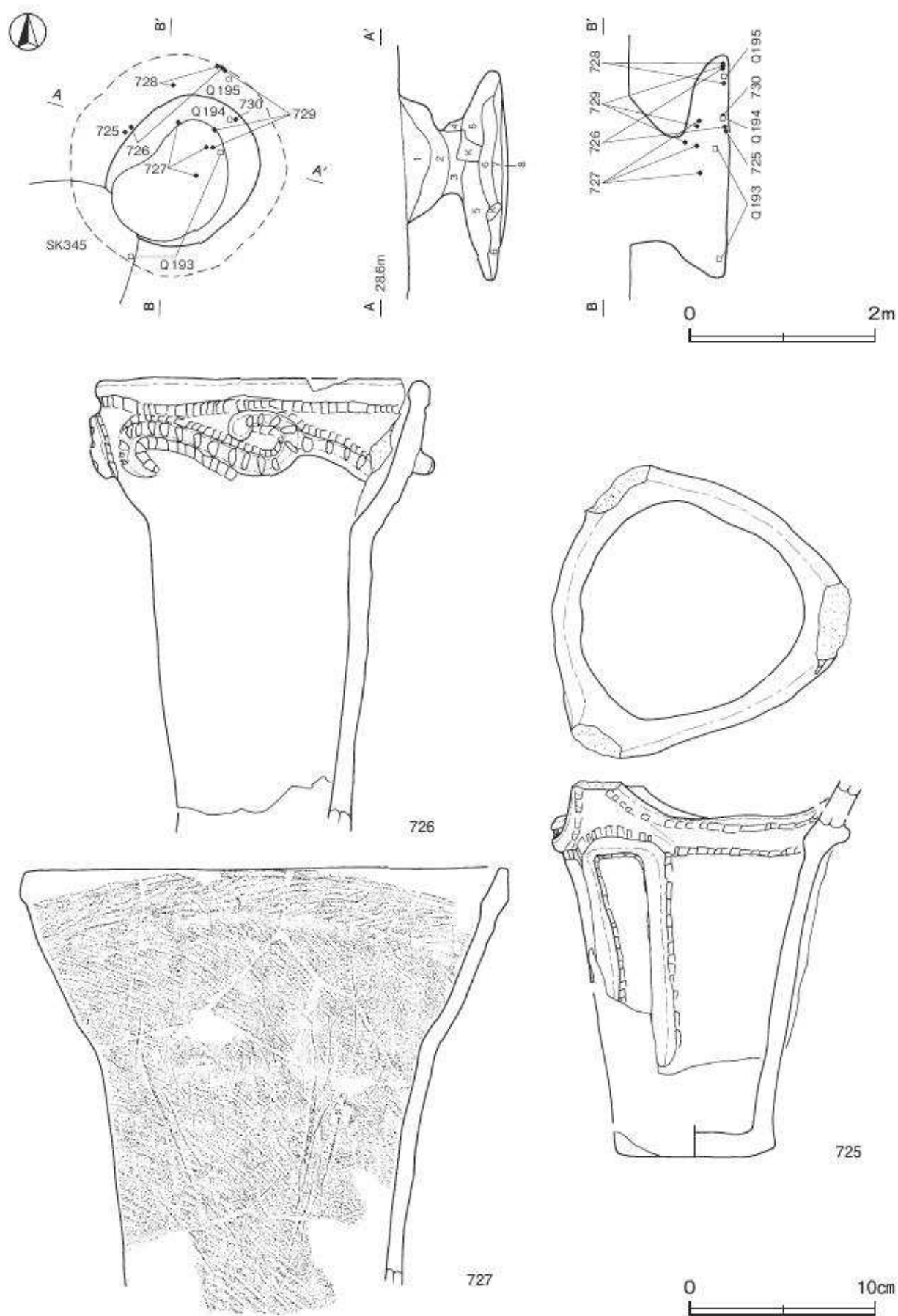
覆土 8層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

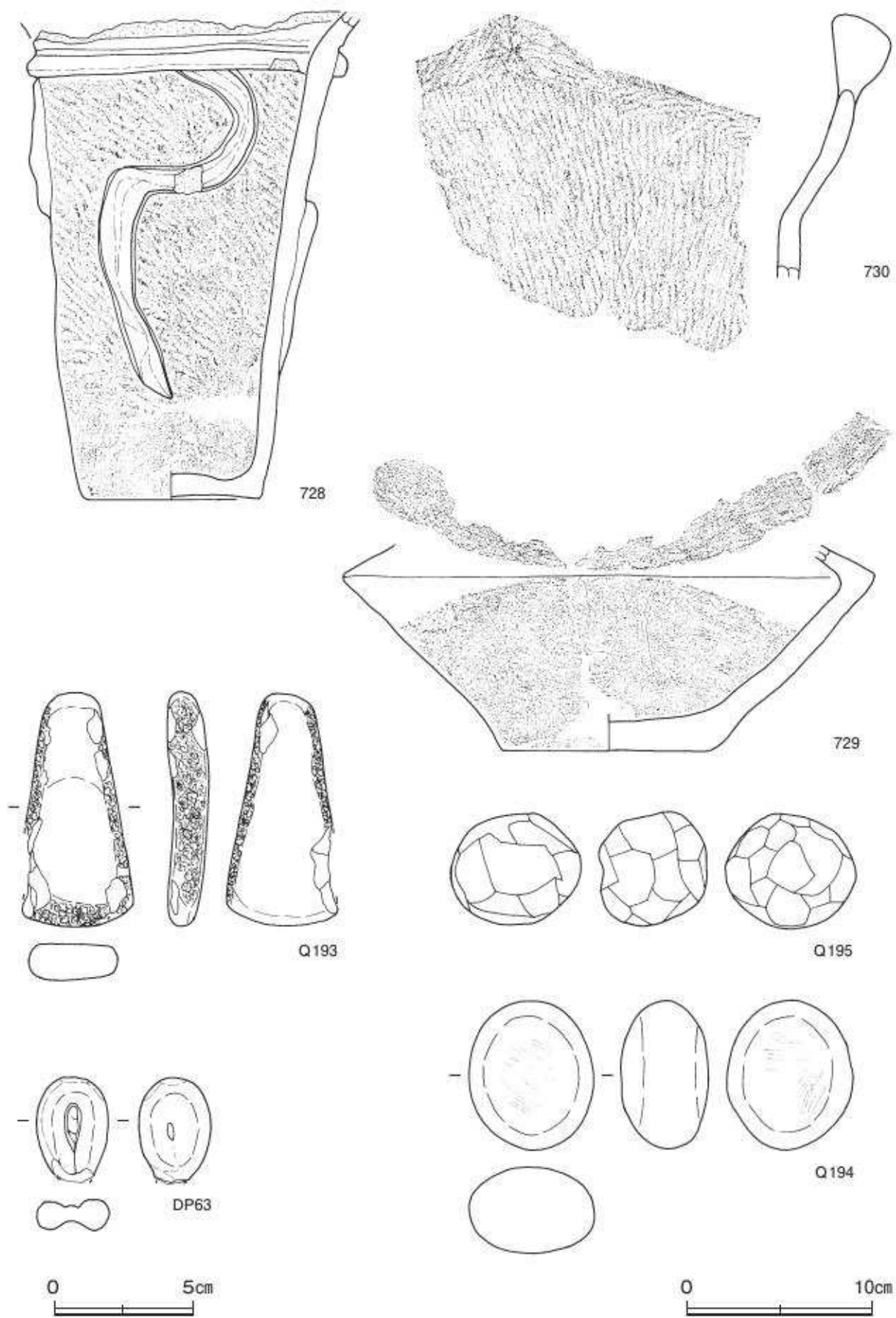
1 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量、炭化物微量	5 黒褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
2 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化物微量	6 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化物微量
3 黒褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量	7 黒褐色	ロームブロック少量、炭化物微量
4 暗褐色	ローム粒子中量、炭化物粒子微量	8 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化物微量

遺物出土状況 縄文土器片201点（深鉢196、浅鉢5）、土製品1点（不明土製品）、石器3点（磨製石斧未成品、磨石、敲砥石）、剥片2点（石英、泥岩）が出土している。725・726・728・730、Q193～Q195は北部の覆土下層から散乱した状態で出土している。727・729は、北半部の覆土中層の第5層を中心に、破片がまとまって出土しており、埋め戻す過程で一括投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第 270 図 第 211 号土坑・出土遺物実測図



第271图 第211号土坑出土遗物实测图

第211号土坑出土遺物観察表(第270・271図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
725	縄文土器	深鉢	13.6	(20.4)	8.5	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	3単位の把手・口縁部上端2本の有節沈線・把手部から遠目字状の隆帯垂下・隆帯に沿って有節沈線・底面ナデ	覆土下層	70% PL127
726	縄文土器	深鉢	17.5	(24.8)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	暗褐色	普通	口縁部幅広の有節沈線一巡・隆帯による横目字状文・隆帯上刻突文及び隆帯に沿って有節沈線	覆土下層	80% PL127
727	縄文土器	深鉢	25.8	(22.7)	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	口縁上端半節縄文LR(横)・胴部同一原形(縦)	覆土中層	60% PL127
728	縄文土器	深鉢	-	(26.4)	9.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	褐色	普通	短文に無節縄文LR(横)・胴部隆帯が一巡・断面三角形の隆帯がクランク状に垂下・底面網代直	覆土下層	80% PL127
729	縄文土器	浅鉢	-	(11.2)	11.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐色	普通	外・内面横位の丁寧な磨き	覆土中層	80% PL127
730	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	口唇部肥厚・瘤み状の突起貼付・口唇部無節縄文LR(横)・胴部同一原形(斜)	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP63	不明な製品	13.8	2.6	1.1	(11.1)	長石・石英	にぶい褐色	紅土粒をドーナツ状に連結し、中央部に突起貼付・端部一部欠損	覆土中	PL160

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q193	磨製石斧 未成品	12.6	6.0	2.4	217.2	砂岩	表裏面研磨痕・周縁部・片刃部敲打調整	覆土下層	PL170
Q194	磨石	8.0	6.7	4.6	336.0	砂岩	表裏面研磨痕	覆土下層	PL181
Q196	敲砥石	6.1	7.0	5.8	346.6	チャート	円縁の周縁部に多方向からの砥面により稜をもつ	覆土下層	PL172

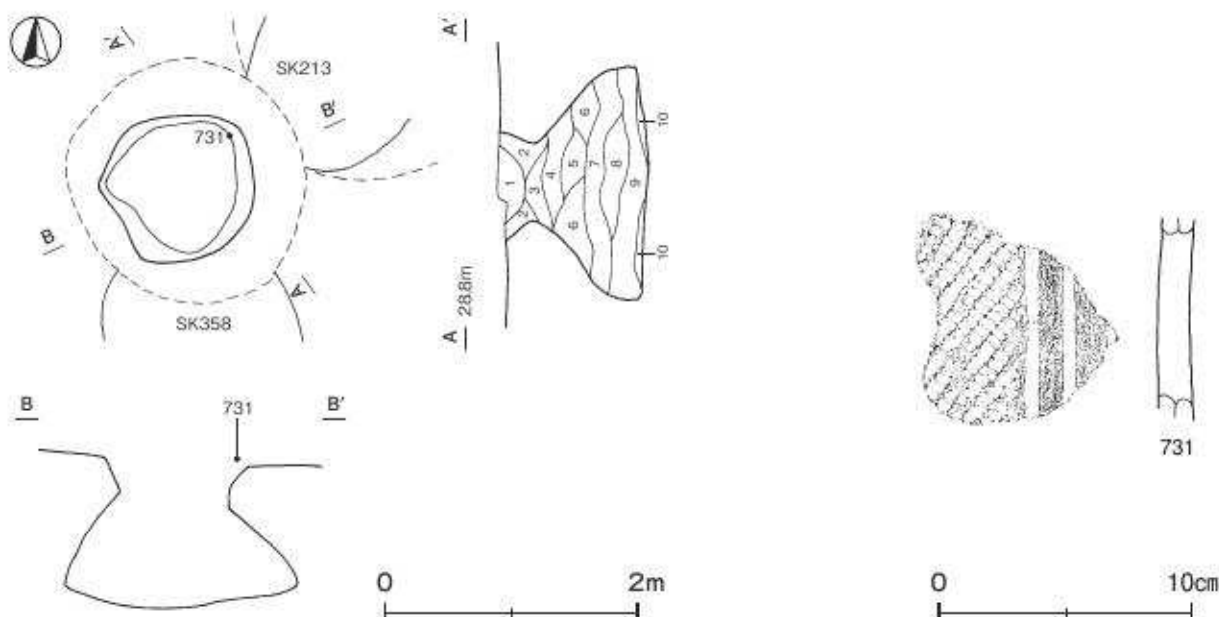
第212号土坑(第272図 PL48)

位置 調査区北西部のC2b8区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第213・358号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 開口部は径1.19～1.30mの円形である。底面は径1.82～1.97mの円形で、中央部が皿状に凹んでいる。確認面からの深さは118cmである。壁は内傾して袋状を呈し、底面から82～90cmのところできびれ、上位は外傾している。

覆土 10層に分層できる。各層にロームブロックや炭化物が多く含まれていることから、埋め戻されている。



第272図 第212号土坑・出土遺物実測図

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック・炭化物中量、焼土ブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子少量 | 9 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子中量、焼土粒子少量 | 10 褐色 | ロームブロック多量 |

遺物出土状況 縄文土器片1点（深鉢）、石器2点（打製石斧、石皿）、剥片1点（チャート）が出土している。731は、覆土最上層から出土している。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

第212号土坑出土遺物観察表（第272図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
731	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	におい青割	普通	地文に単冠縄文RL（縦）3本の沈線と垂下沈線同形	覆土上層	

第213号土坑（第273～275図 PL48・100）

位置 調査区北西部のC2b8区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

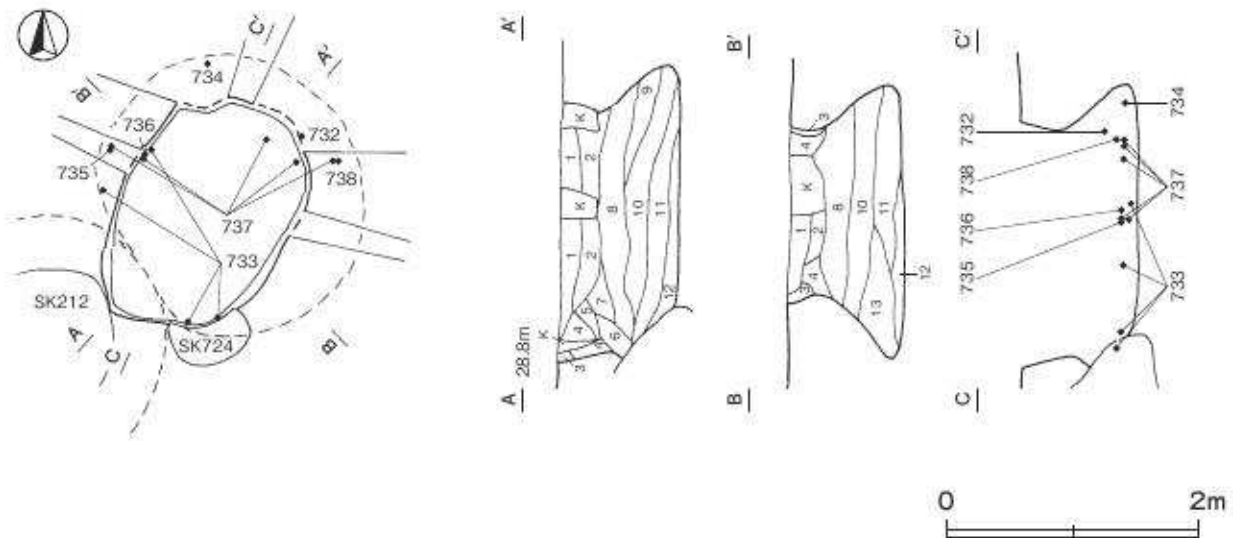
重複関係 第212・724号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は長径2.09m、短径1.34mの不整楕円形で、長径方向はN-24°-Eである。底面は南西部を第212号土坑に掘り込まれているが、径2.08～2.27mの円形で、平坦である。確認面からの深さは93cmである。壁は内傾して袋状を呈し、底面から62～72cmのところできびれ、上位はほぼ直立している。

覆土 13層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

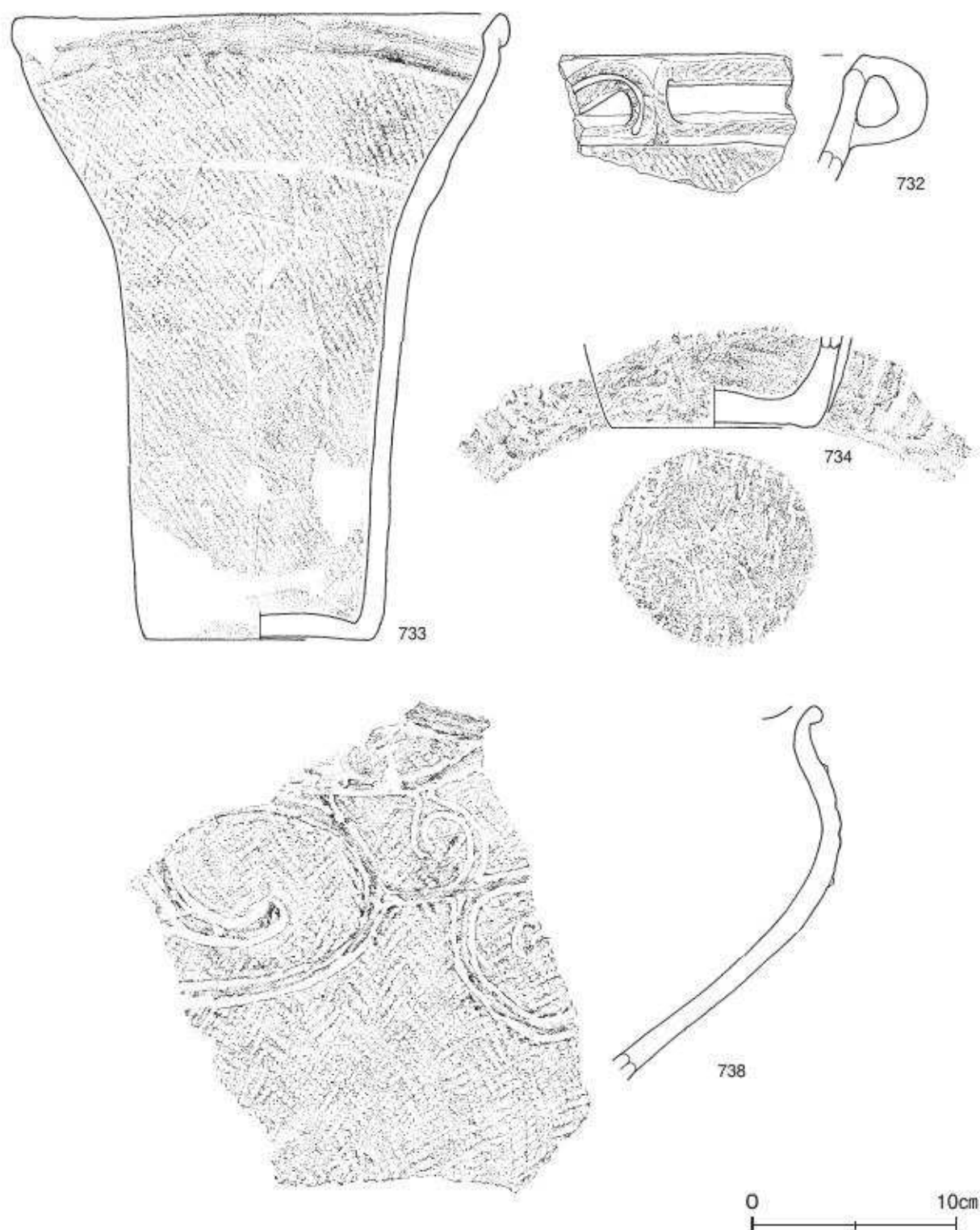
- | | | | |
|-------|-------------------------|--------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子中量、炭化物少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子少量、炭化物微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化物微量 | 10 黒褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量 |
| 4 褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 11 暗褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 12 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化物・焼土粒子微量 | 13 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子微量 | | |



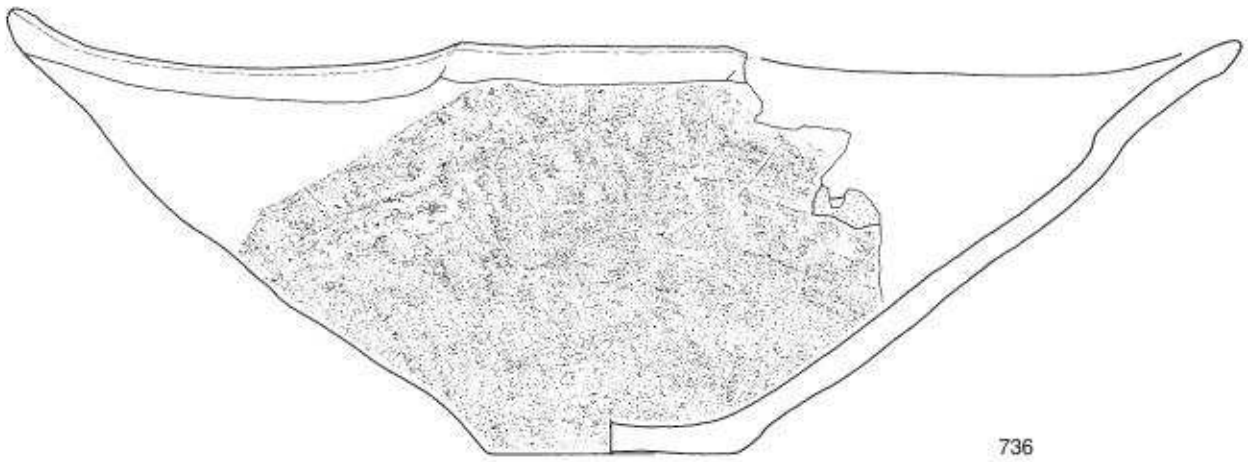
第273図 第213号土坑実測図

遺物出土状況 縄文土器片 150 点（深鉢 135, 浅鉢 14, 器台 1）, 石器 6 点（打製石斧 1, 敲石 2, 砥石 1, 台石 2）が出土している。732・734～736・738 は北半部の壁際, 733 は西部及び南部の壁際の覆土下層から, 大型の破片が散乱した状態で出土している。いずれも埋め戻しの早い段階で投棄されたものと考えられる。

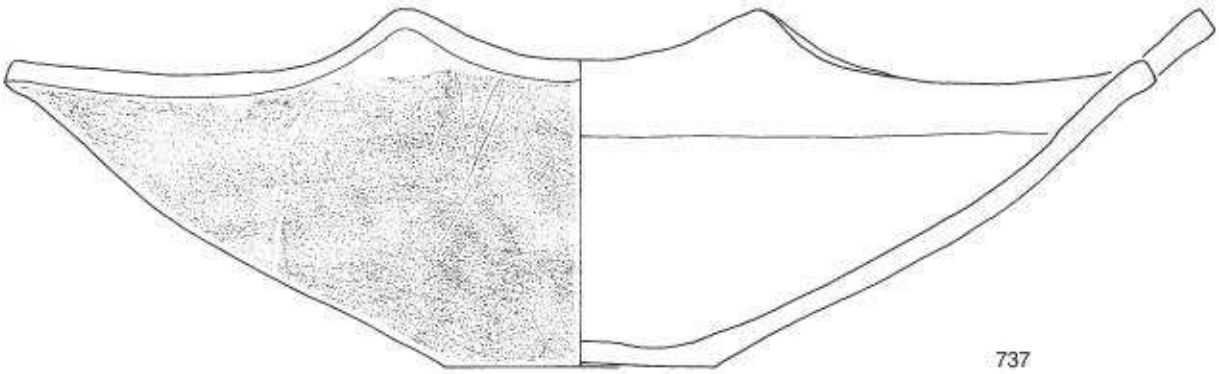
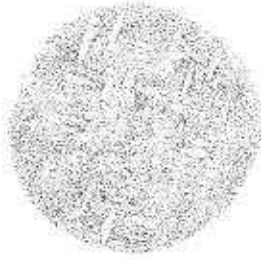
所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。



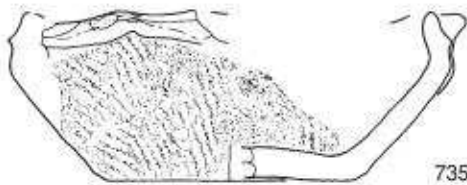
第 274 図 第 213 号土坑出土遺物実測図 (1)



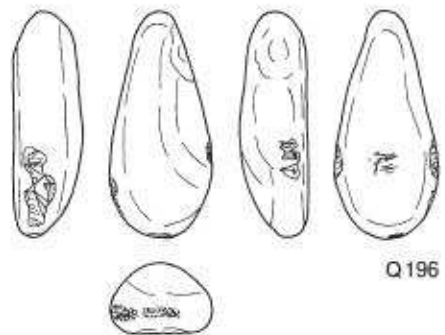
736



737



735



Q196



第 275 図 第 213 号土坑出土遺物実測図 (2)

第213号土坑出土遺物観察表(第274・275図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
732	縄文土器	深鉢	-	(6.1)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁上部に隆帯と猪状把手貼付 隆帯上に無節縄文L(横) 胴部同一原体による縦位施文	覆土下層	
733	縄文土器	深鉢	23.6	30.9	10.8	長石・石英・雲母・黒色砂子	橙	普通	口縁部肥厚 肥厚部無文 胎文に単節縄文LR(縦) 底部ナデ	覆土下層	80% PL128
734	縄文土器	深鉢	-	(4.9)	10.0	長石・石英・雲母・赤色砂子	暗褐色	普通	2本の薄錐状隆帯が垂下 横位のナデ 底面網代模	覆土下層	10%
735	縄文土器	浅鉢	[15.8]	6.7	[9.8]	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口縁部断面三角形の隆帯帯を流らせ部分的に突起貼付 胎文に無節縄文L(縦)	覆土下層	30% PL128
736	縄文土器	浅鉢	48.6	16.8	9.9	長石・石英・雲母	褐色	普通	外・内面横位の丁寧な磨き 底面網代模 2か所穿孔あり	覆土下層	50% PL128
737	縄文土器	浅鉢	[49.0]	14.3	11.0	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	外・内面丁寧な磨き 口縁部及び口唇部赤彩痕 底面網代模	覆土下層	60% PL128
738	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	胎文に単節縄文LR(横・縦)で羽状に隆帯隆帯による文様描画 隆帯に沿って有節比喩内面上部赤彩痕	覆土下層	PL128

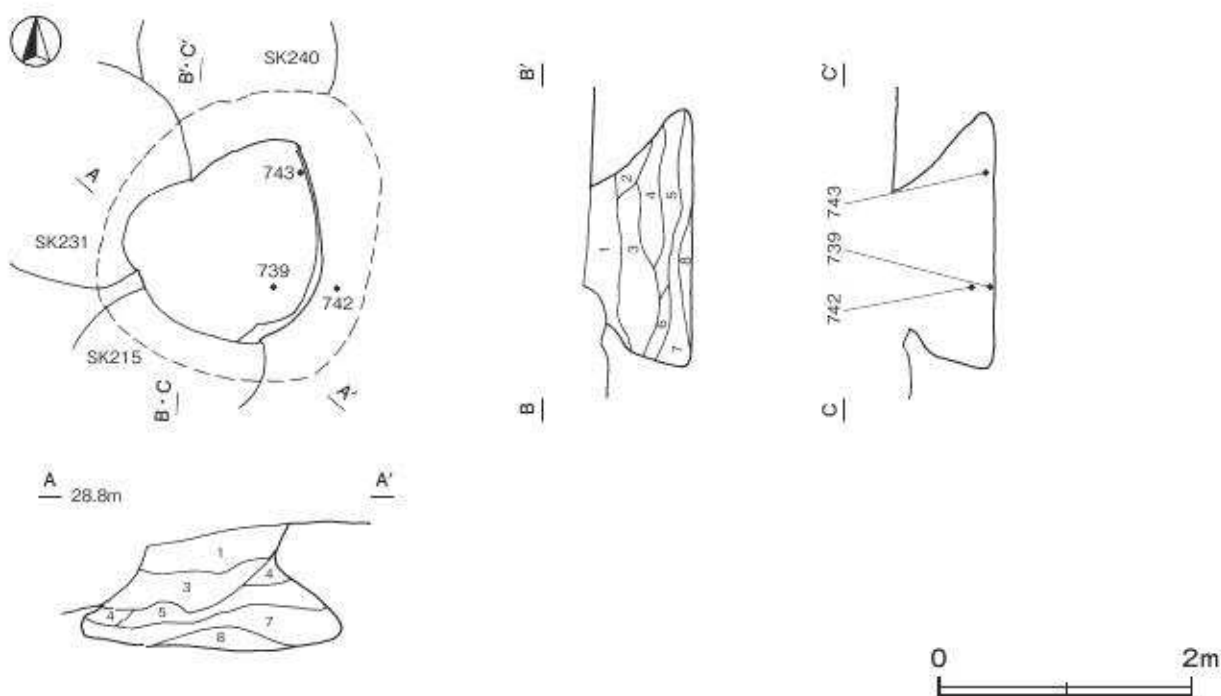
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q196	敲石	9.0	4.1	2.8	128.5	流紋岩	側縁の一部と端部に敲痕	覆土中	PL172

第216号土坑(第276・277図)

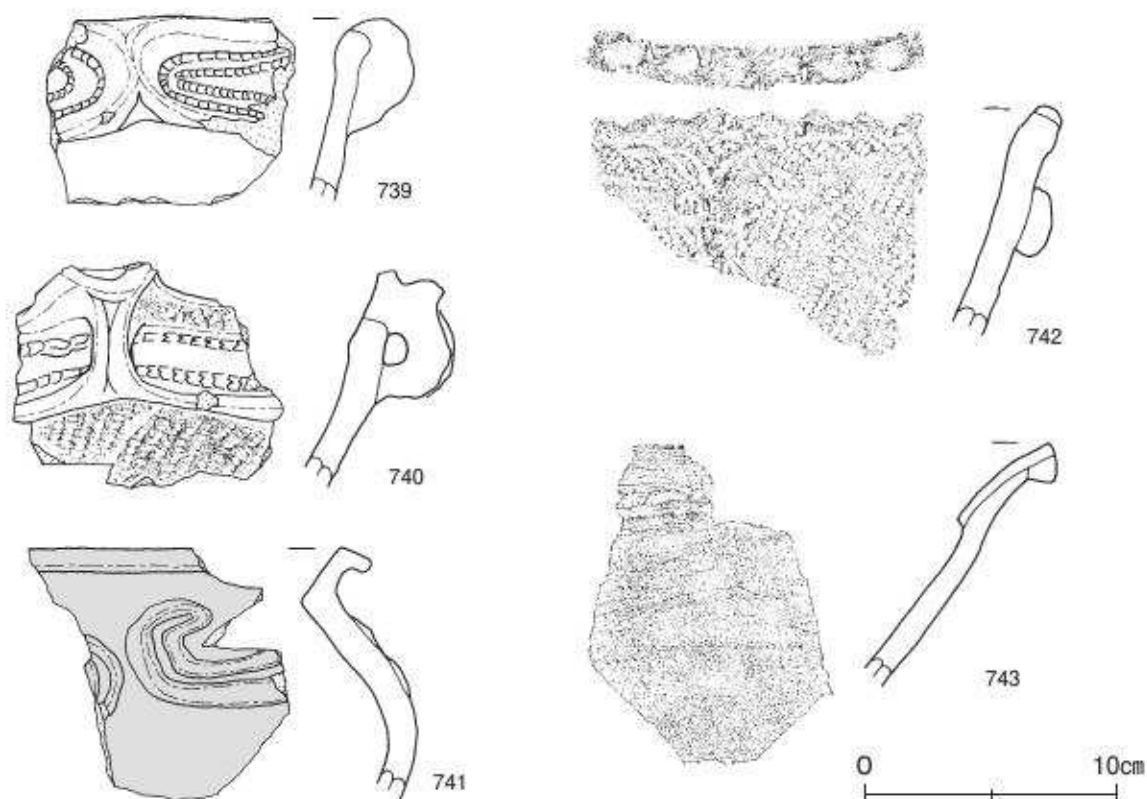
位置 調査区北西部のC2b7区。標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第240号土坑を掘り込み、第215・231号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 西・南部を第215・231号土坑に掘り込まれているため、開口部は長径が1.66m、短径が1.32mしか確認できなかった。不整楕円形で、長径方向はN-23°-Eである。底面は長径2.45m、短径2.14mの楕円形で、平坦である。確認面からの深さは98cmである。壁は内傾して袋状を呈し、底面から74cmのところできびれ、上位はほぼ直立している。



第276図 第216号土坑実測図



第277図 第216号土坑出土遺物実測図

覆土 8層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック中量、炭化物微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化物微量 | 8 黒褐色 | ローム粒子多量、炭化粒子中量、焼土ブロック微量 |

遺物出土状況 縄文土器片96点（深鉢86、浅鉢10）、石器3点（磨製石斧1、磨石2）、剥片3点（瑪瑙）が出土している。739・742・743は東半部の覆土下層から散乱した状態で出土しており、埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第216号土坑出土遺物観察表（第277図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
739	縄文土器	深鉢	-	(73)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部隆帯による箱内区画文、区画間に挿み状に張出す隆帯に沿って2本の有部沈線	覆土下層	
740	縄文土器	深鉢	-	(86)	-	長石・石英	橙	普通	口縁上部2本の隆帯、隆帯間有部沈線、條状把手貼付、隆帯上と胴部卑部純文RL（横・縦）	覆土中	
741	縄文土器	浅鉢	-	(100)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	背割れ隆帯による礎手文、外・内面丁寧な磨き、口縁部内面赤彩痕	覆土中	
742	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	口唇頂部指頭による波状沈線、口縁部V字状の隆帯貼付、口縁部及び胴部卑部純文RL（横・縦）	覆土下層	
743	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外・内面横位の丁寧な磨き	覆土下層	

第 222 号土坑 (第 278 図 PL49)

位置 調査区北部の C 3 a4 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 223 号土坑を掘り込み, 第 221 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径 1.94 m, 短径 1.70 m の楕円形で, 長径方向は N - 63° - W である。底面は平坦で, 深さは 42cm である。壁は外傾している。

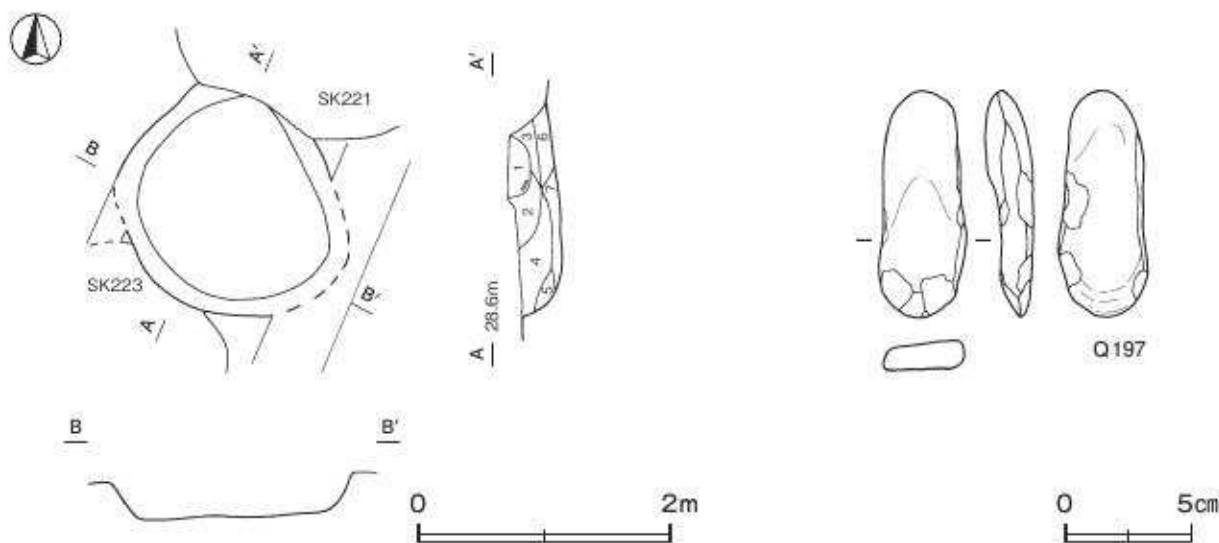
覆土 7層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が多く含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------|-------|-----------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子中量 | 5 黒褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量 | 6 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子少量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子中量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 25 点 (深鉢), 石器 2 点 (磨製石斧, 磨石), 剥片 1 点 (石英) が出土している。

所見 時期は, 出土土器から中期と考えられるが, 詳細は不明である。



第 278 図 第 222 号土坑・出土遺物実測図

第 222 号土坑出土遺物観察表 (第 278 図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q197	磨製石斧	90	3.5	1.9	82.3	緑色岩	短冊形・表裏面研磨 両端縁微細な敲打痕 刃部は片面を敲打	覆土中	PL168

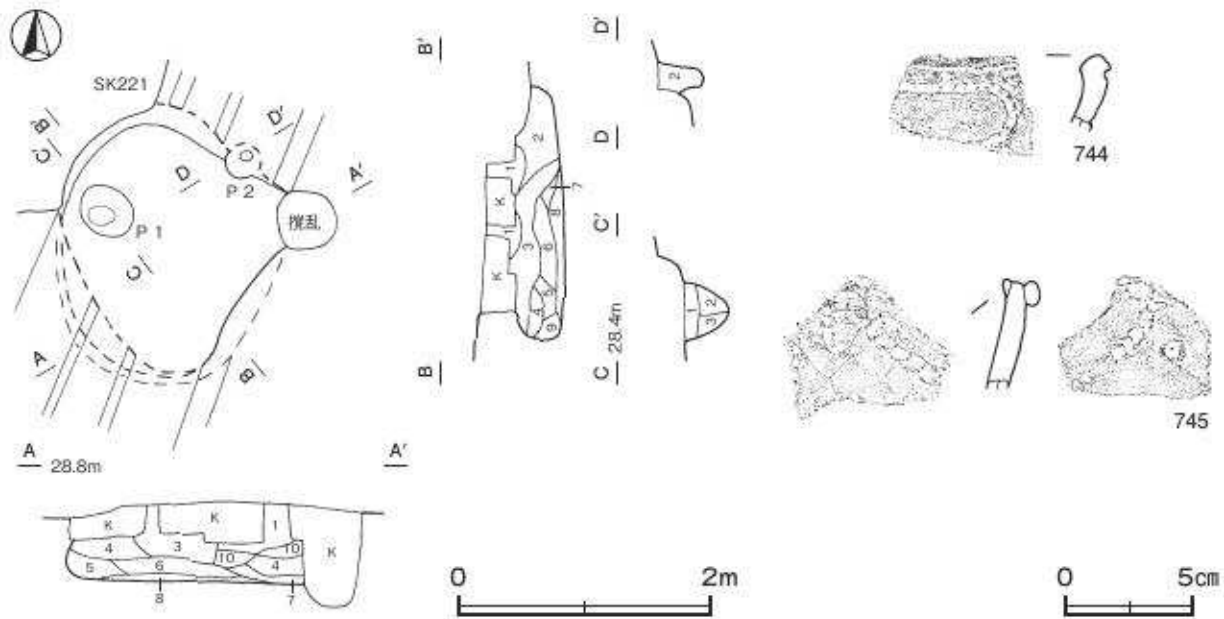
第 224 号土坑 (第 279 図)

位置 調査区北部の C 3 a4 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 221 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 耕作による攪乱を受けているが, 開口部は長径 2.16 m, 短径 1.76 m の不定形である。底面は径 1.90 ~ 2.06 m の不整形円で, 平坦である。確認面からの深さは 64cm である。壁は北半部が外傾しており, 南半部が内彎して, 袋状を呈している。

ピット 2か所。深さは, P1 が 36cm, P2 が 38cm で, 性格は不明である。



第279図 第224号土坑・出土遺物実測図

ビット土層解説

- | | |
|-----------------|---------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量 | 3 黒褐色 ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量 | |

覆土 10層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|----------------------|-------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子中量 | 6 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量 | 7 黒褐色 ローム粒子少量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量 | 8 黒褐色 ロームブロック微量 |
| 4 にぶい黄褐色 ロームブロック微量 | 9 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 5 暗褐色 ローム粒子中量 | 10 極暗褐色 ロームブロック少量 |

遺物出土状況 縄文土器片54点(深鉢), 石器1点(磨石)が出土している。

所見 上部が耕作による攪乱を受けているため明確でないが、規模と形状から袋状土坑の下部と推定でき、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期前葉と考えられる。

第224号土坑出土遺物観察表(第279図)

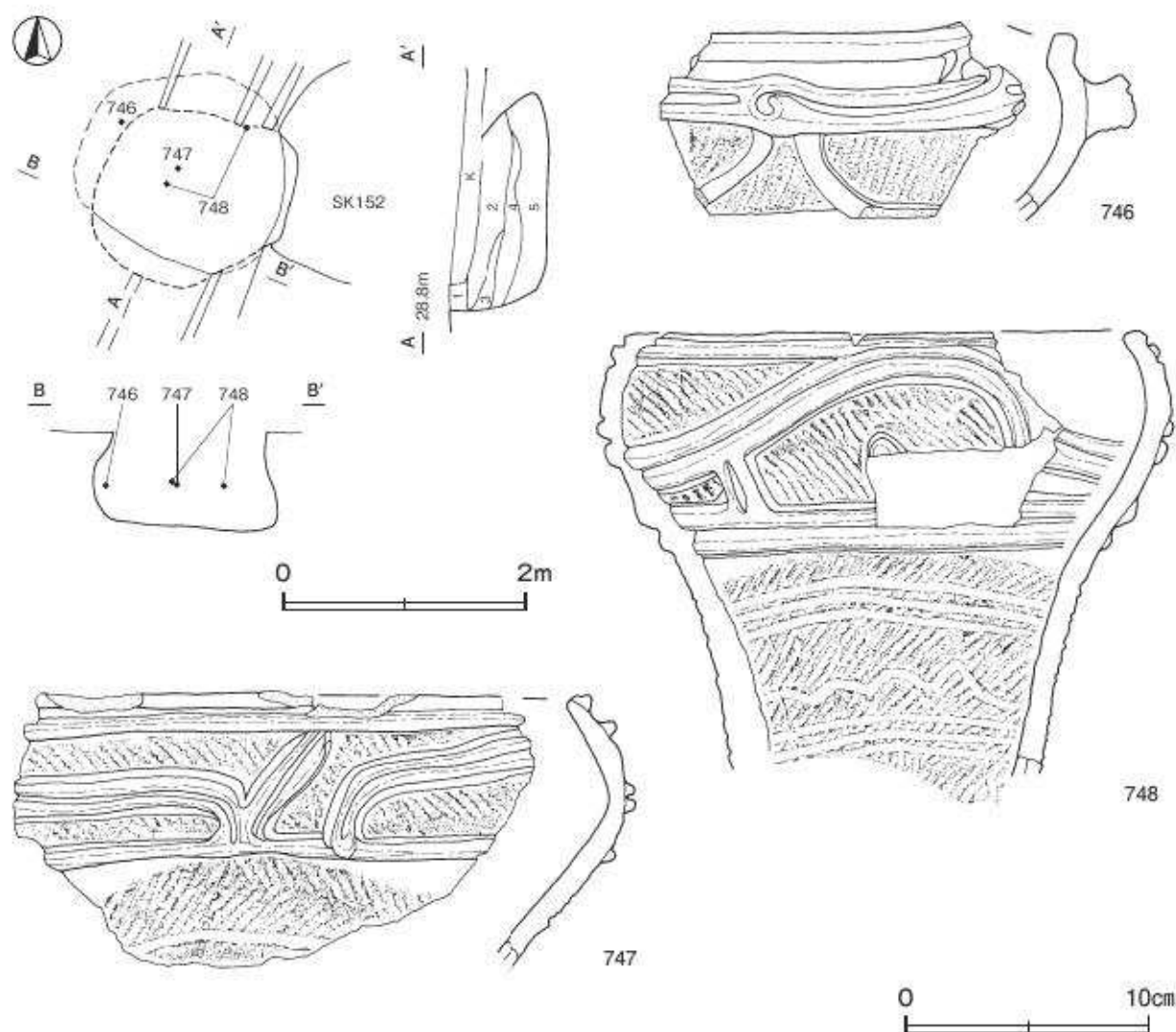
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
744	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐	普通	有筋沈線による楕円区画文	覆土中	
745	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐	普通	深底部に柄杓状の突起、外・内面口縁に沿って有筋沈線 内面円形刺突文	覆土中	

第227号土坑(第280図)

位置 調査区中央部のC3e2区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第152号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 耕作による攪乱を受けているが、開口部は長径1.76m、短径1.45mの不整楕円形で、長径方向はN-64°-Eである。底面は径1.72~1.78mの円形で、平坦である。確認面からの深さは81cmである。壁は南・東部がほぼ直立している。北・西部は内彎して、袋状を呈しており、底面から54~56cmのところまで、上位は直立している。



第280図 第227号土坑・出土遺物実測図

覆土 5層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|---------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 | 4 濃い黄褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子少量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子中量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片99点(深鉢)、石器1点(磨石)、石核2点(瑪瑙)、剥片3点(石英1、瑪瑙2)が出土している。746～748は、覆土中層の第2層から破片が散乱した状態で出土しており、いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第227号土坑出土遺物観察表(第280図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
746	縄文土器	深鉢	-	(8.2)	-	長石・石英・雲母	濃い黄褐色	普通	口縁部厚みのある隆帯貼付。隆帯上に沈線。頸部単部縄文RL(縦)と隆帯貼付	覆土中層	
747	縄文土器	深鉢	-	(11.2)	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	口縁部縄文に単部縄文RL(横)と頸部RL(縦)で引括構成に施文。背割れ隆帯によるクランク文頸部沈線が一筋し無文帯	覆土中層	10%
748	縄文土器	深鉢	(21.0)	(18.2)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部有多量縄文RL(横)背割れ隆帯。胴部同一原体の縦位施文。沈線による文様枠圍	覆土中層	20%

第 229 号土坑 (第 281 図 PL35)

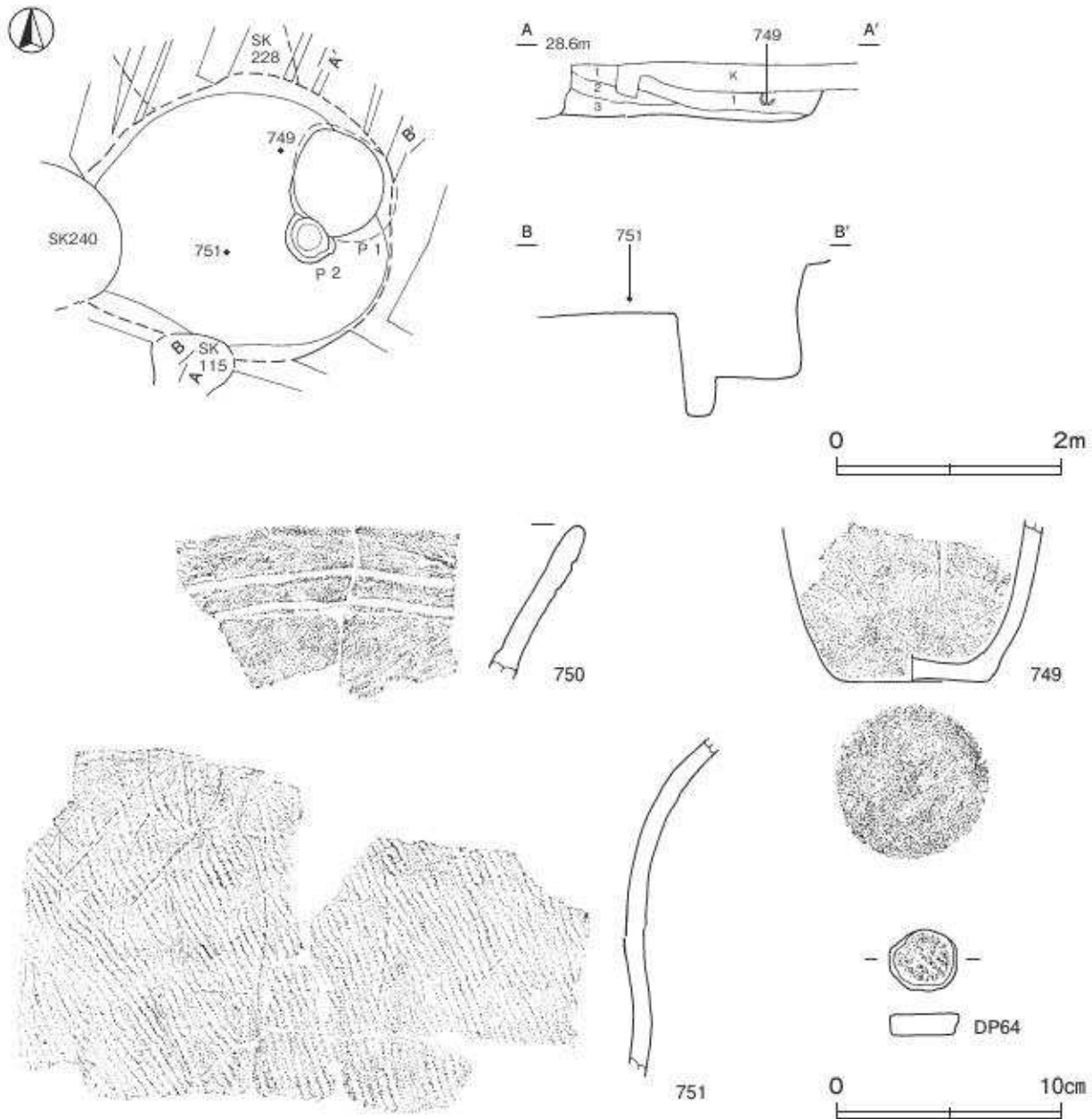
位置 調査区北西部の C 2b8 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 228 号土坑を掘り込み、第 115 号土坑に掘り込まれている。第 240 号土坑との新旧関係は不明である。

規模と形状 耕作による攪乱を受け、西部が第 240 号土坑と重複しているため、長径は 2.84 m しか確認できなかった。短径は 2.38 m で、楕円形と推定でき、長径方向は N - 80° - W である。底面は平坦で、深さは 47 cm である。壁は外傾している。

ピット 2 か所。P 1 は径 83 ~ 91 cm の円形で、深さ 55 cm である。北東壁際に位置していることから、補助的な貯蔵施設と考えられる。P 2 は深さ 92 cm である。柱穴と考えられる。

覆土 3 層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が多く含まれていることから、埋め戻されている。



第 281 図 第 229 号土坑・出土遺物実測図

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量、炭化物少量、焼土粒子微量
 2 暗褐色 ロームブロック多量、炭化粒子少量、焼土ブロック微量
 3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片 176 点（深鉢）、土製品 1 点（土器片円盤）、剥片 4 点（チャート 2、石英 1、泥岩 1）が出土している。749 は北部、751 は中央部の覆土中層から、破片が散乱した状態で出土しており、埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 上部が耕作による攪乱を受けているため明確でないが、規模と形状から袋状土坑の下部と推定でき、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

第 229 号土坑出土遺物観察表（第 281 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
749	縄文土器	深鉢	-	(7.2)	6.8	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外・内面・底面丁寧なナデ 一部単節縄文 RL (縦)	覆土中層	20%
750	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部磨りの緩い単節縄文 RL (横) 口縁下部一原体 (縦) 2本の北行沈線一筋	覆土中	
751	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	地文に0段多条縄文 RL (横) 頸部無文帯	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP64	土器片円盤	2.8	3.0	1.0	10.7	長石・石英・雲母	橙	胴部片 肩縁部丁寧に研磨	覆土上層	

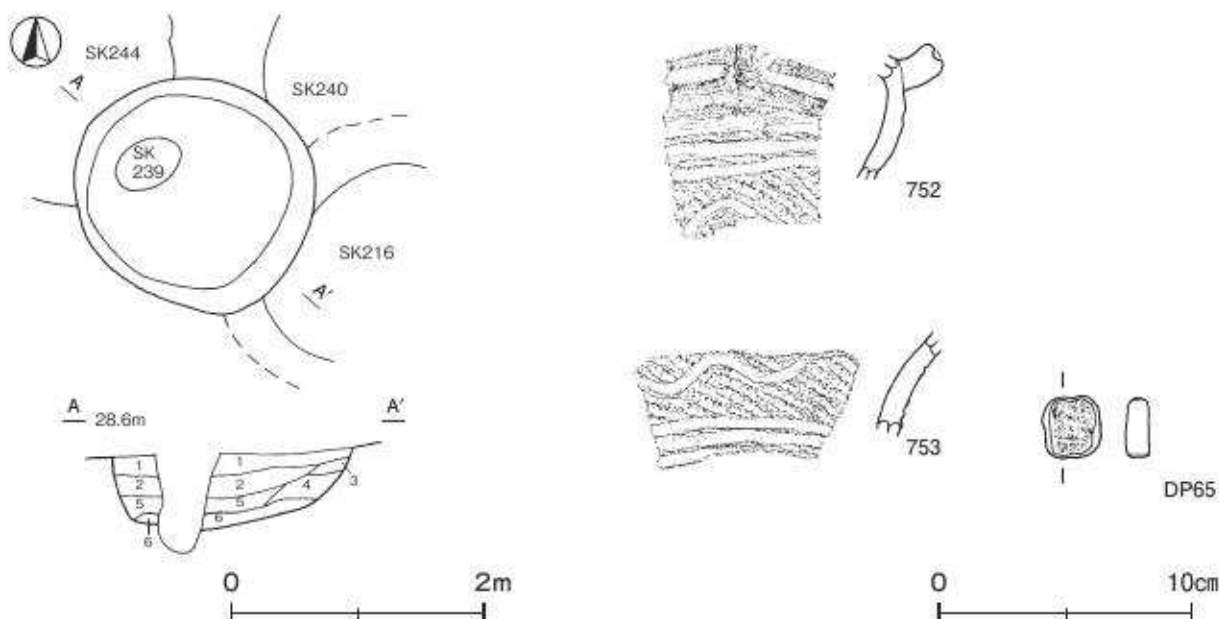
第 231 号土坑（第 282 図）

位置 調査区北西部の C 2 b7 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 216・240・244 号土坑を掘り込み、第 239 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 径 1.80 ~ 1.93 m の円形である。底面は平坦で、深さは 57cm である。壁は外傾している。

覆土 6 層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が多く含まれていることから、埋め戻されている



第 282 図 第 231 号土坑・出土遺物実測図

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量 | 6 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化物微量 |

遺物出土状況 縄文土器片 25 点（深鉢 17、浅鉢 8）、土製品 1 点（土器片錘）、剥片 2 点（泥岩、瑪瑙）が出土している。

所見 規模と形状から袋状土坑の下部と推定でき、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第 231 号土坑出土遺物観察表（第 282 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
752	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	におい赤割	普通	厚みのある深帯貼付、隆帯上に沈線、地文に単節縄文 LR（縦）、沈線による文様描画	覆土中	753 と同一個体
753	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	におい赤割	普通	地文に単節縄文 LR（縦）、沈線による文様描画	覆土中	752 と同一個体

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP65	土器片錘	24	23	0.9	5.7	長石・石英	明褐色	剥片、両端にキザミ目	覆土中	

第 235 号土坑（第 283 ～ 285 図 PL50）

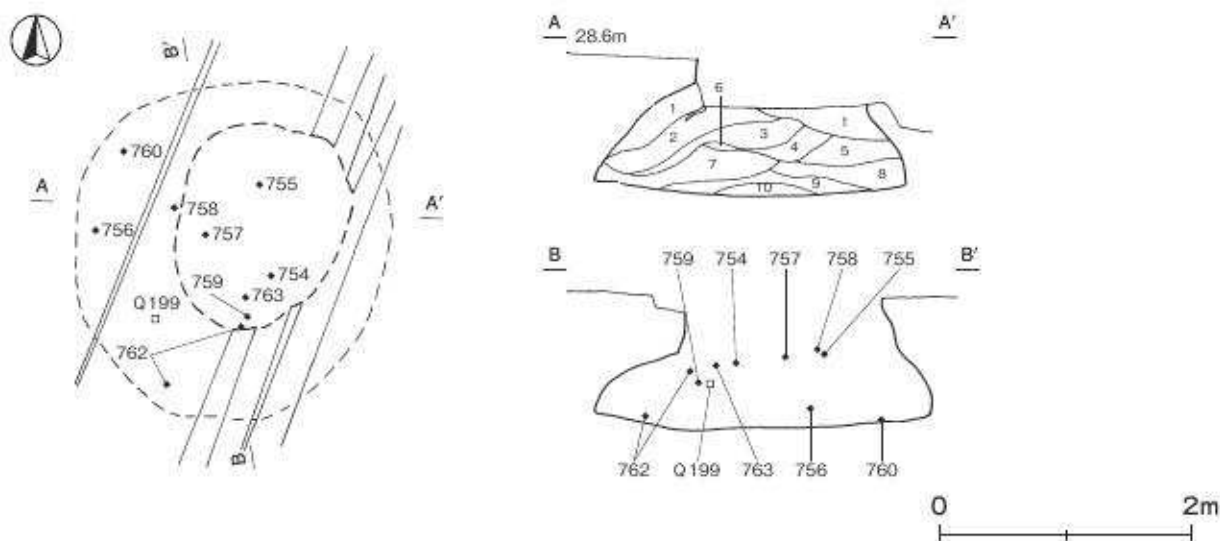
位置 調査区北西部の C 2a7 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 耕作による攪乱を受けているが、開口部は長径 1.68 m、短径 1.38 m の楕円形で、長径方向は N - 22° - E である。底面は径 2.57 ～ 2.76 m の円形で、平坦である。確認面からの深さは 105 cm である。壁は大きく内傾して袋状を呈し、底面から 60 ～ 89 cm のところでくびれ、上位はほぼ直立している。

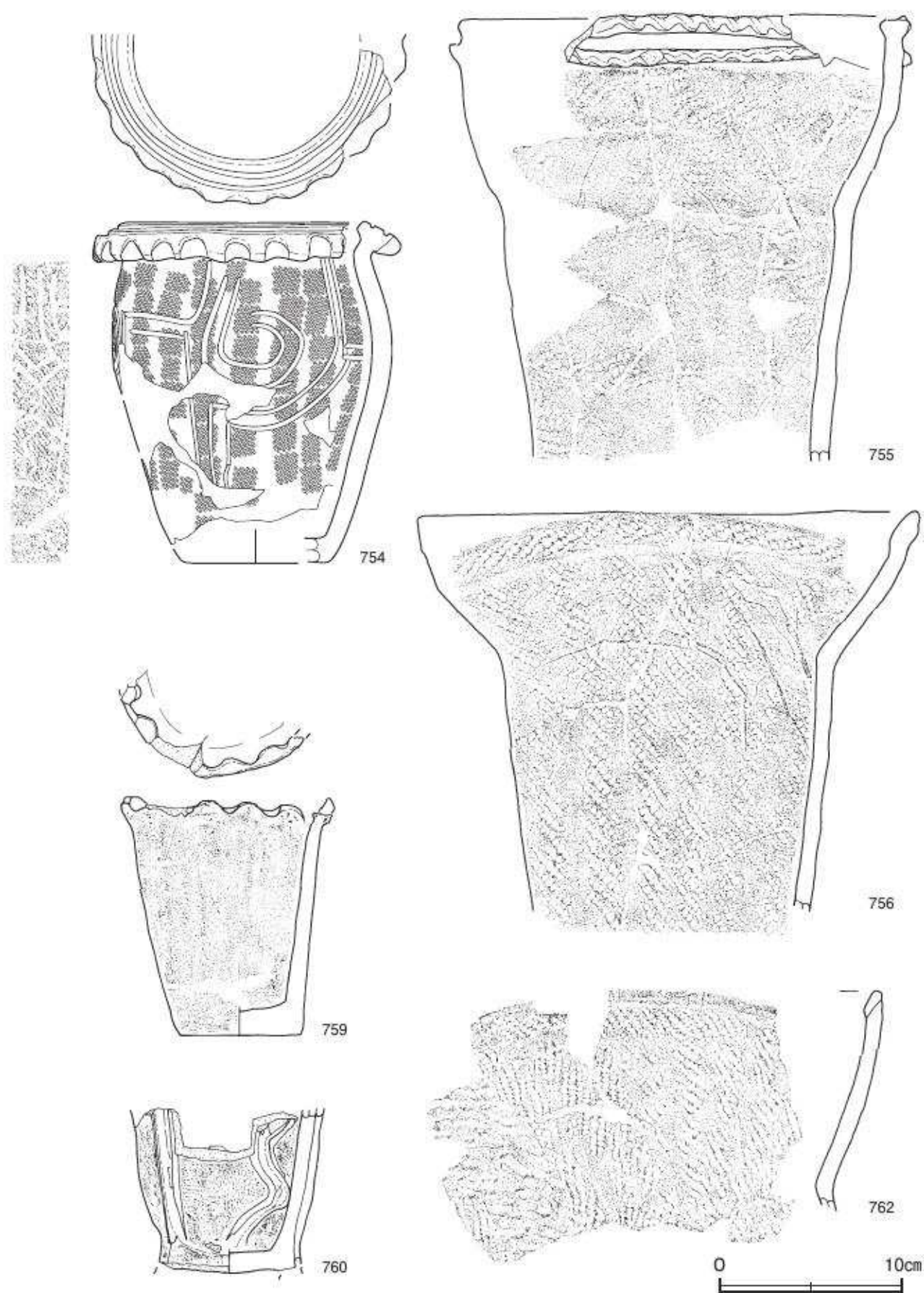
覆土 10 層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

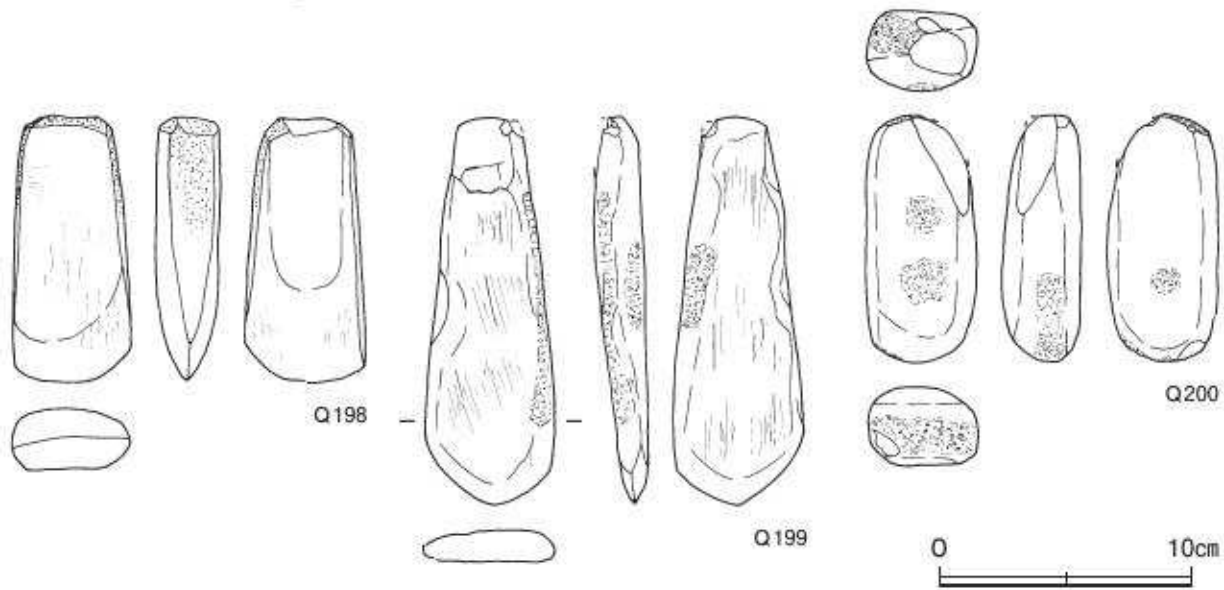
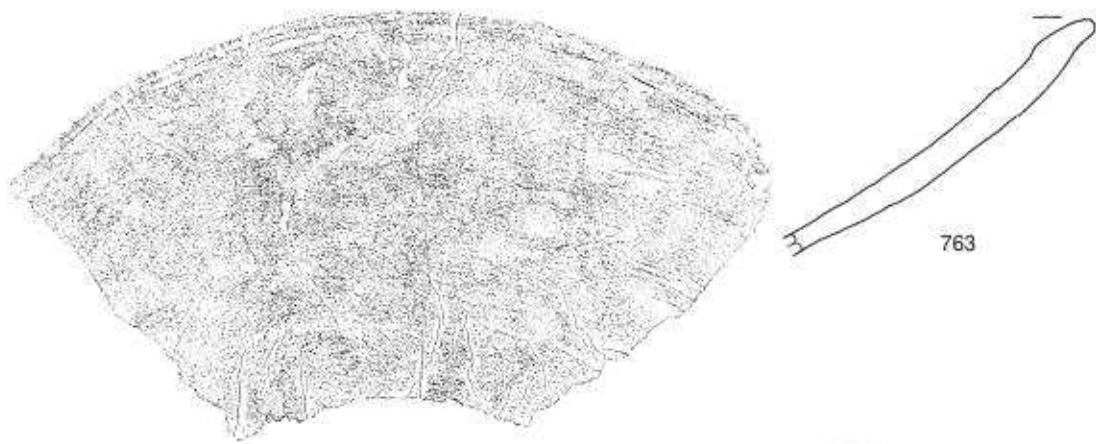
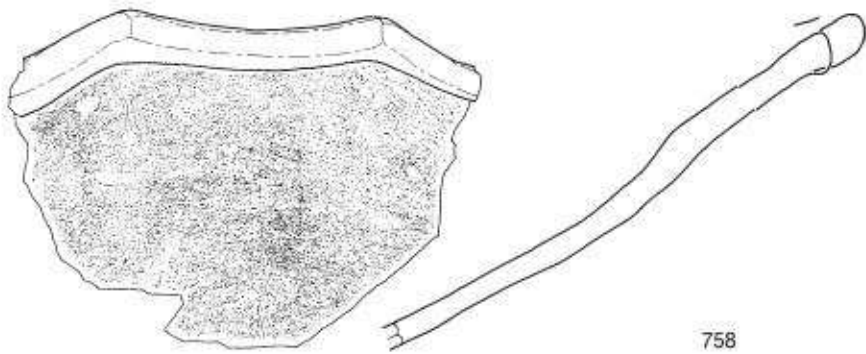
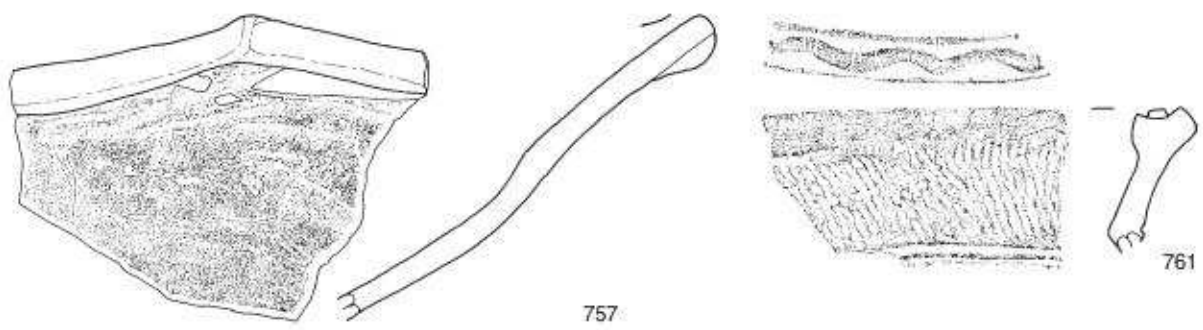
- | | | | |
|-------|------------------------|--------|----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量、炭化物微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子多量、炭化物・焼土粒子微量 | 7 褐色 | ロームブロック多量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子多量 | 8 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化物微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量 | 9 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量 | 10 暗褐色 | ロームブロック中量 |



第 283 図 第 235 号土坑実測図



第 284 図 第 235 号土坑出土遺物実測図(1)



第 285 图 第 235 号土坑出土遗物实测图 (2)

遺物出土状況 縄文土器片 275 点（深鉢 265、浅鉢 8、小型土器 1、小型台付土器 1）、石器 4 点（磨製石斧 2、磨石 1、敲砥石 1）が出土している。756・760 は、覆土下層から出土しており、廃絶直後に投棄されたものと考えられる。754・755・757～759・762・763、Q 199 は、覆土上層の第 1・2 層を中心に、破片が散乱した状態で出土していることから、ある程度埋め戻された段階で一括投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第 235 号土坑出土遺物観察表（第 284・285 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
754	縄文土器	深鉢	13.2	18.7	8.1	長石・石英・雲母・赤色砂子・青色砂子	にぶい褐色	普通	口縁部乾状の隆帯が認められる。口唇頂部 2 本の沈線が同径。胴部単節縄文 LR（縦） 2 本の沈線による区画文・渦巻文	覆土上層	70% PL129
755	縄文土器	深鉢	[24.1]	(24.6)	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	2 条の交互斜突状の隆帯 施文に単節縄文 LR（横）	覆土上層	50% PL129
756	縄文土器	深鉢	27.2	(22.0)	-	長石・石英	黒褐色	普通	口唇部単節縄文 LR（横） 胴部同一原体（縦）を胸帯を開けて施文	覆土下層	60% PL129
757	縄文土器	浅鉢	-	(12.2)	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	外・内面磨き 口縁部外・内面赤彩痕	覆土上層	10%
758	縄文土器	浅鉢	-	(13.5)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外・内面横位の磨き 口唇部・口縁部内面赤彩痕	覆土上層	10% PL129
759	縄文土器	小型土器	[11.0]	13.2	6.6	長石・石英	赤褐色	普通	口唇部指頭による波状口縁 外面縦位の磨き 内面横位の磨き 底部ナデ	覆土上層	80% PL129
760	縄文土器	小型台付土器	-	(9.1)	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	直線的隆帯と蛇行状隆帯を交互に巻下 隆帯に沿って沈線 隆帯側面溝状工具による施文	覆土下層	30% PL129
761	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口唇部平坦面作出し蛇行状隆帯貼付 口縁部無節縄文 L（縦） 口縁部下端非行沈線	覆土下層	
762	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	暗赤褐色	普通	口縁部単節縄文 RL（横） 口縁下乾然りのほどけた同一原体（縦）、一部（斜）	覆土上・下層	
763	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色砂子	黒褐色	普通	外・内面横位の磨き	覆土上層	PL129

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 198	磨製石斧	10.6	4.8	2.5	233.7	輝緑岩	定角式、穂縁部に弱い稜 片面に凹状の研磨痕 基部に敲打痕（ハマグリ）	覆土中	PL167 砥石再利用。
Q 199	磨製石斧	8.0	6.7	4.6	(202.4)	変質ドレライト	矩形形 表面面研磨 片縁縁微細な敲打調整 刃部は表裏から研ぎ出す 剣先状	覆土上層	PL168
Q 200	敲砥石	9.8	4.4	3.1	(226.1)	ホルンフェルス	楕円形の両端及び表裏に敲打痕・砥面をもつ	覆土中	PL172

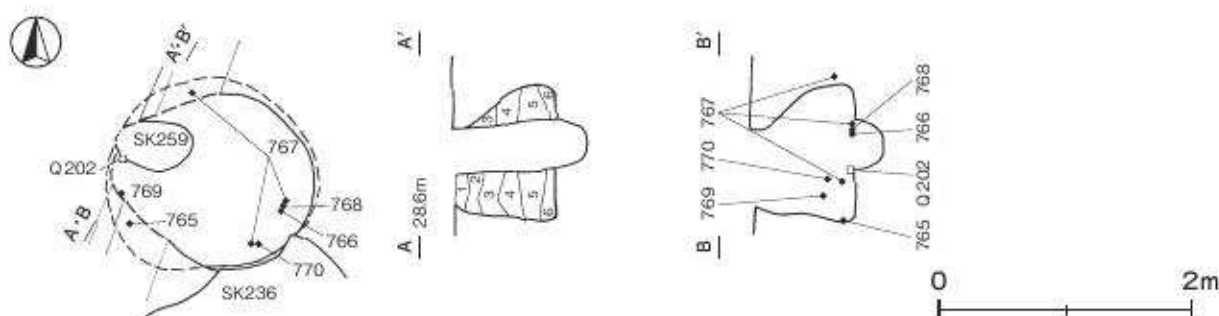
第 238 号土坑（第 286～288 図）

位置 調査区北西部の C 2 a7 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

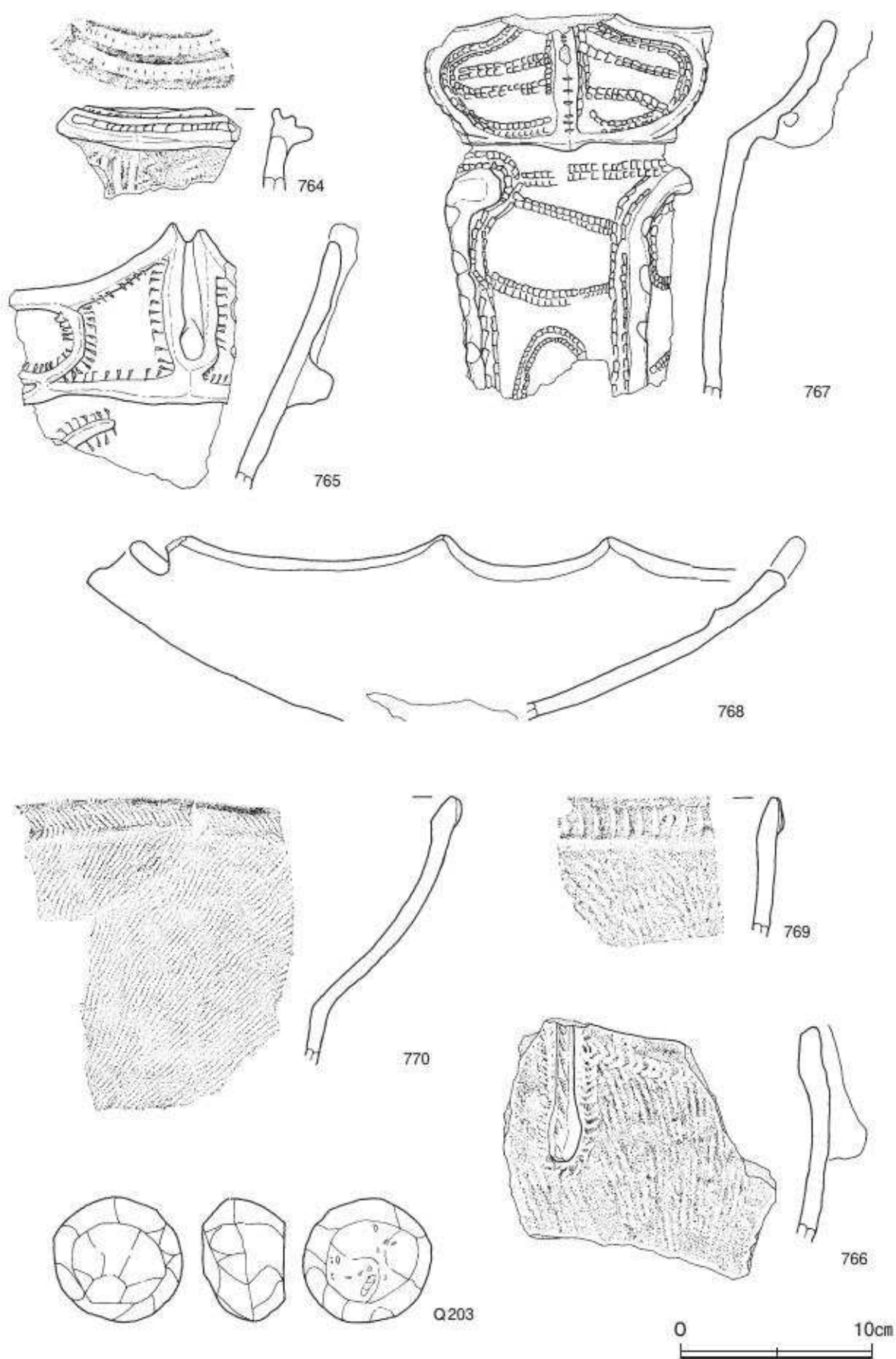
重複関係 第 236・259 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は長径 1.58 m、短径 1.34 m の楕円形で、長径方向は N - 83° - W である。底面は径 1.60 ~ 1.62 m の円形で、平坦である。確認面からの深さは 79 cm である。壁はやや内彎しており、袋状を呈している。

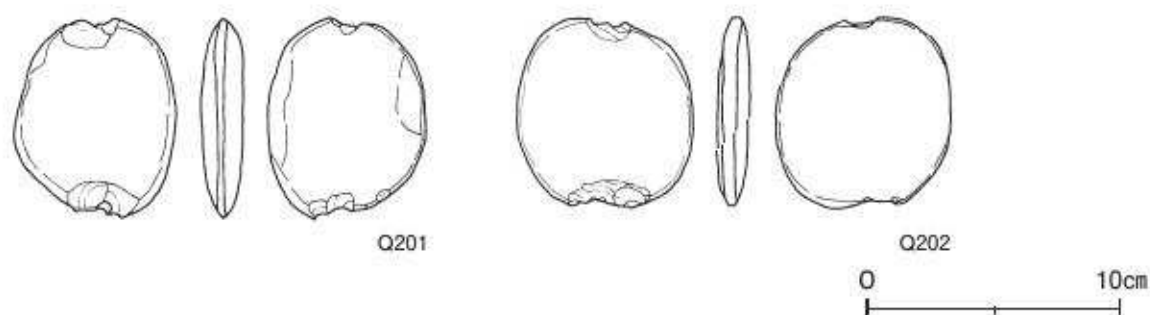
覆土 6 層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が多く含まれていることから、埋め戻されている。覆土上層には、焼土塊が投棄されている。



第 286 図 第 238 号土坑実測図



第 287 图 第 238 号土坑出土遗物实测图 (1)



第 288 図 第 238 号土坑出土遺物実測図(2)

土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------------|-------|-----------------------|
| 1 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、ロームブロック少量、炭化物微量 | 3 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量、炭化粒子少量、ロームブロック微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 |
| | | 5 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| | | 6 褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片 99 点（深鉢 93、浅鉢 6）、石器 3 点（石錘 2、敲砥石 1）、剥片 1 点（チャート）が出土している。765～770、Q 202 は、各壁際の覆土下層から破片が散乱した状態で出土している。いずれも埋め戻しの早い段階で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期前葉と考えられる。

第 238 号土坑出土遺物観察表（第 287・288 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
764	縄文土器	深鉢	-	(4.3)	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	口唇部部平ら面に 2 本の有部沈線・胴部単節縄文 RL (縦) 沈線垂下	覆土中	
765	縄文土器	深鉢	-	(13.9)	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	隆帯による文様描画・隆帯に沿ってキタビラ文	覆土下層	10%
766	縄文土器	深鉢	-	(13.8)	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	縦位の隆帯貼付・口縁部及び隆帯に沿って爪形文・地文に無部縄文 L (縦)	覆土下層	PL131
767	縄文土器	深鉢	-	(20.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口縁部隆帯による区画文・隆帯上キザミ目・区画内右部沈線・胴部隆帯垂下・隆帯上指頭圧痕・隆帯間を有部沈線で文様描画	覆土下層	20% PL131
768	縄文土器	浅鉢	[37.6]	(9.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外面横位の傾り・内面横・斜位の磨き	覆土下層	30% PL131
769	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	黒褐色	普通	口縁部幅広の爪形文・胴部単節縄文 L を多方向に粘文	覆土下層	
770	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	口縁部単節縄文 RL (横)・胴部同一部体 (縦)	覆土下層	PL131

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 201	石錘	8.0	6.3	1.7	120.0	安山岩	長径方向の両端部敲打痕	覆土中	PL181
Q 202	石錘	7.5	7.0	1.3	104.1	ホルンフェルス	長径方向の両端部敲打痕	覆土下層	PL181
Q 203	敲砥石	6.5	6.7	4.3	267.4	チャート	円盤の周縁部に多方向からの敲面により稜をもつ	覆土中	PL172

第 245 号土坑（第 289 図 PL50）

位置 調査区北西部の B 2j7 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 157 号土坑を掘り込み、第 248 号土坑に掘り込まれている。

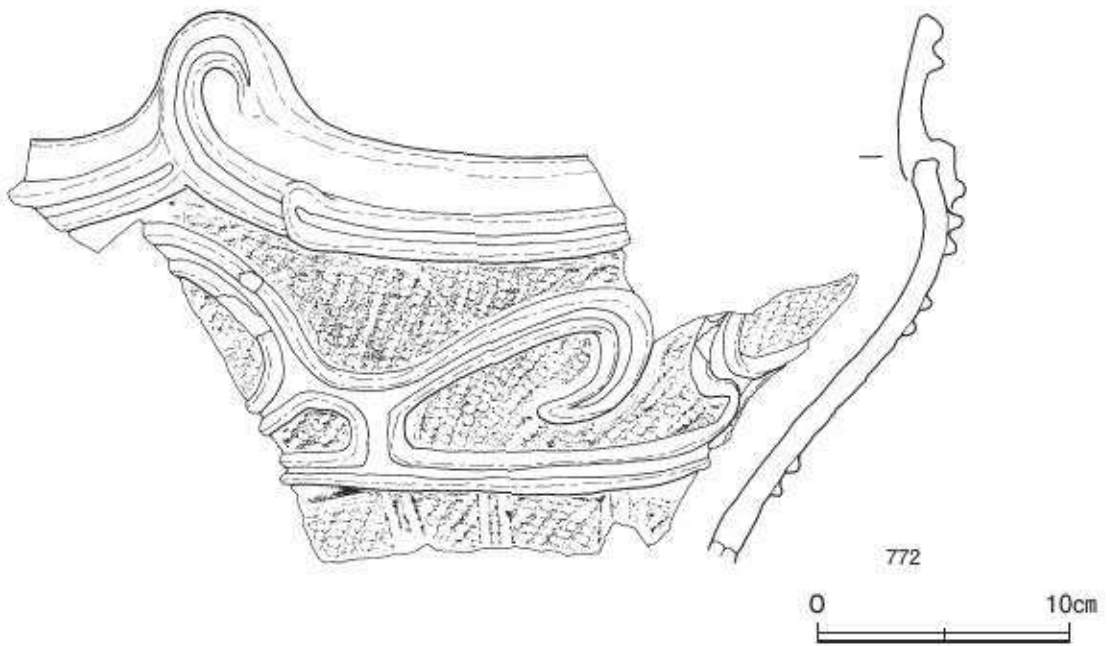
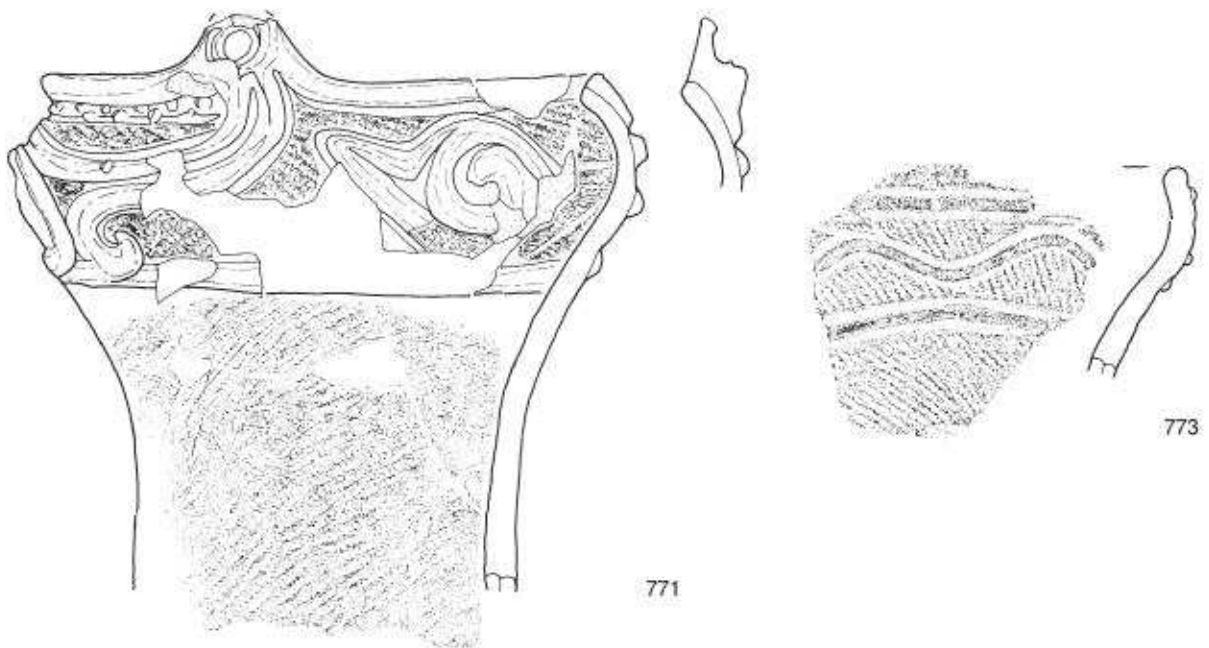
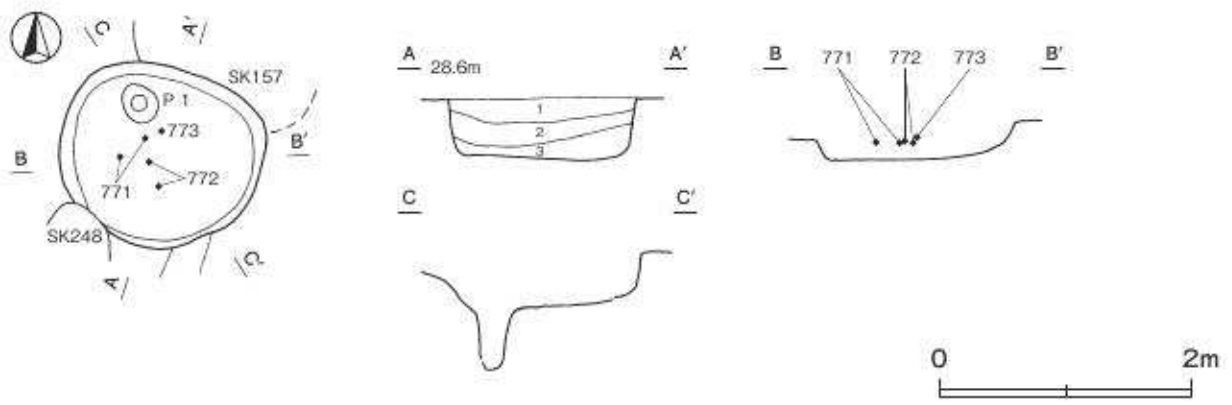
規模と形状 1.48～1.50 m の円形である。底面は平坦で、深さは 48 cm である。壁は外傾している。

ピット 深さ 46 cm で、柱穴と考えられる。

覆土 3 層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック少量、炭化物 | | |



第 289 图 第 245 号土坑·出土遗物实测图

遺物出土状況 縄文土器片 62 点（深鉢）、剥片 1 点（チャート）、礫 1 点が出土している。771～773 は、中央部の覆土中層から破片が散乱した状態で出土しており、埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第 245 号土坑出土遺物観察表（第 289 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
771	縄文土器	深鉢	21.8	(23.0)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部胎文に単面縄文 RL (横) 隆帯による渦巻文・変形クランク文・刺先文・交互刺突文 口唇部に渦巻状の突起 胴部同一原体 (楕)	覆土中層	50% PL129
772	縄文土器	深鉢	-	(21.8)	-	長石・石英・赤色 粒子	黒褐	普通	口縁部隆帯間に細点の沈線・渦巻状の突起 口縁部隆帯による文様描画 胎文に単面縄文 RL (縦・斜) 胴部並行沈線が垂下	覆土中層	10% PL129
773	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐(外) にふい粉用	普通	胎文に 1 段多条縄文 LR (縦) 隆帯による並行 区画 区画内並行隆帯 隆帯に沿って沈線	覆土中層	

第 247 号土坑（第 290・291 図）

位置 調査区北西部の B 2 j6 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 266 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径 2.00 m、短径 1.66 m の楕円形で、長径方向は N - 37° - E である。底面は平坦で、深さは 67cm である。壁は外傾している。

ピット 3 か所。P 1～P 3 は、径 26～45cm、深さ 28～44cm で、規模と形状から柱穴と考えられる。

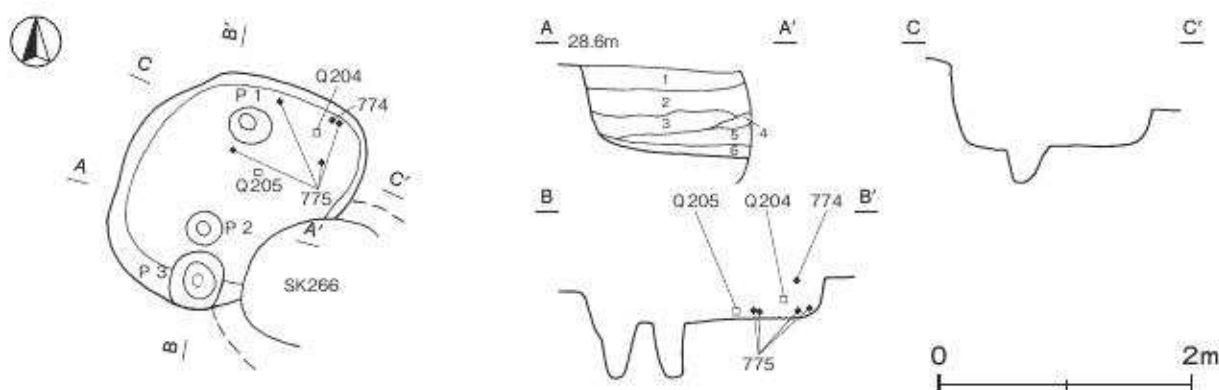
覆土 6 層に分層できる。各層にローム粒子が多量に含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|-------|----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子多量、焼土ブロック・炭化物微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化物・焼土粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片 100 点（深鉢）、石器 2 点（鎌、砥石）、剥片 1 点（頁岩）が出土している。775 は北部の底面から破片が散乱した状態で、Q 205 は中央部の覆土下層、Q 204 は北東壁際の覆土中層、774 は北東壁際の覆土上層からそれぞれ出土しており、廃絶直後から、埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

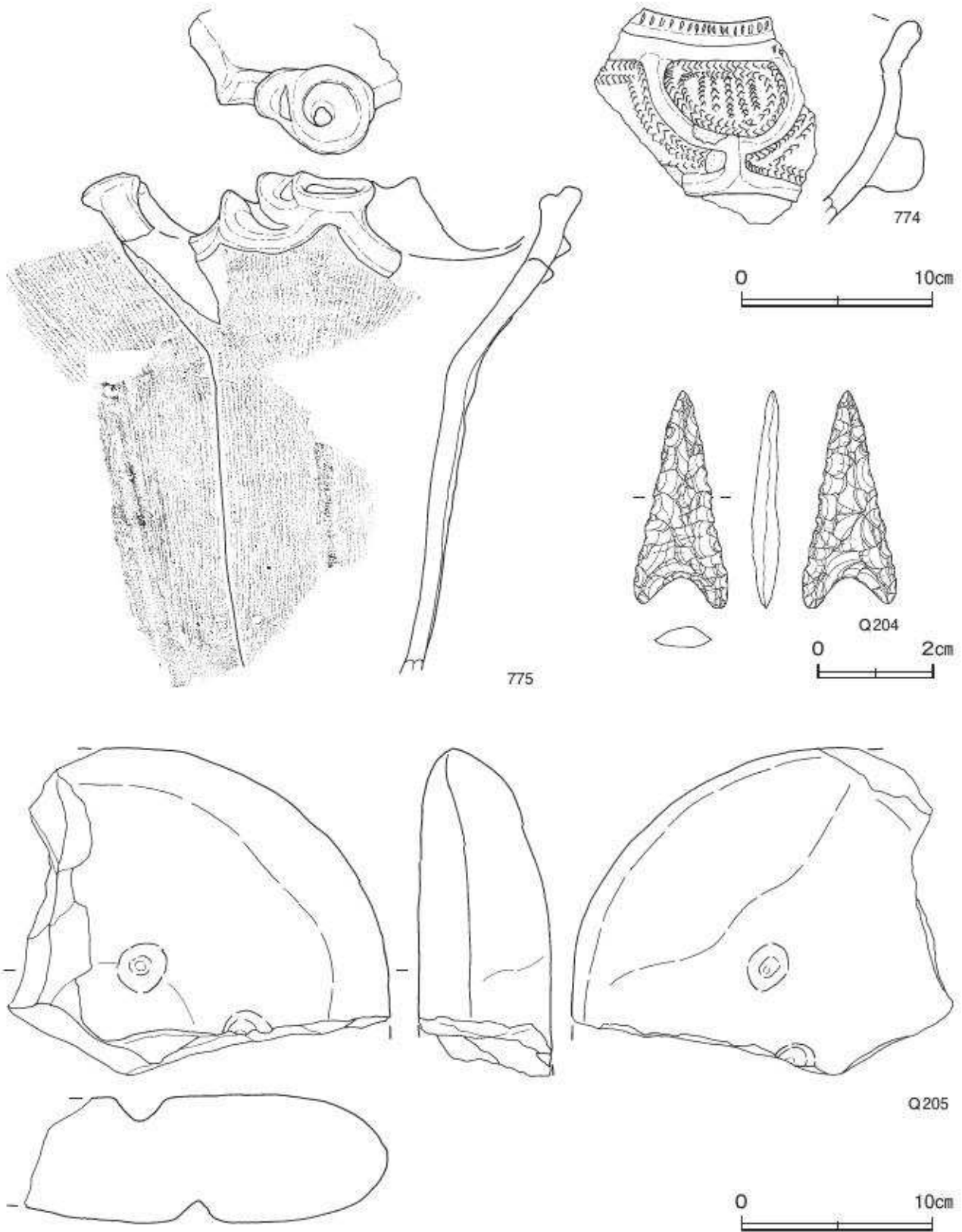
所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第 290 図 第 247 号土坑実測図

第 247 号土坑出土遺物観察表（第 291 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
774	縄文土器	深鉢	-	(11.3)	-	長石・石英・雲母 赤色粒子	灰黄褐	普通	口唇頂部にキザミ目 口縁部隆帯により区画 隆 帯交点描み上げ突起状 区画内ベン先伏刺突文	覆土上層	
775	縄文土器	深鉢	23.6	(26.4)	-	長石・石英・雲母	にふい赤褐	普通	胎文に縦方向の条線文 頸部から隆帯垂下	底面	60% PL130



第 291 図 第 247 号土坑出土遺物実測図

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 204	鏃	38	17	0.5	2.2	チャート	基部中央は穿孔。	覆土中層	PL161
Q 205	砥石	(17.2)	(20.0)	7.0	(262.2)	アブライト	石面転用・表面面に凹み痕・研磨痕。	覆土下層	PL180

第 260 号土坑 (第 292 図 PL51)

位置 調査区北西部の B 2j7 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 409 号土坑を掘り込み、第 176・195・218 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は径 1.37 ~ 1.46 m の円形である。底面は径 1.78 ~ 1.88 m の不整形円形で、平坦である。確認面からの深さは 109 cm である。壁は内彎しており、袋状を呈している。



第 292 図 第 260 号土坑・出土遺物実測図

ピット 長径46cm、短径36cmの楕円形で、深さ15cmである。西部の壁際に位置しており、補助的な貯蔵施設と考えられる。

覆土 11層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子、炭化粒子が多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	7	暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子少量
2	暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化物微量	8	暗褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量
3	黒褐色	炭化粒子中量、ロームブロック・焼土粒子少量	9	褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック少量、炭化物微量
4	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量	10	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子中量、焼土粒子少量
5	黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	11	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量、炭化物微量
6	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子中量、焼土ブロック少量			

遺物出土状況 縄文土器片208点（深鉢207、浅鉢1）、石器1点（磨製石斧）、剥片2点（石英、チャート）が出土している。776・778・779は、覆土下層から破片が散乱した状態で出土しており、埋め戻しの早い段階で投棄されたものと考えられる。777は、中央部の覆土上層の第3層から大型破片がまとまった状態で出土しており、ある程度埋め戻された段階で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第260号土坑出土遺物観察表（第292図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	粘土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
776	縄文土器	深鉢	-	(120)	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	口外周部に太い沈線、口縁部背側縁帯による区画と泥子貼付、区画内幅の太い条線文・地文に卑簡縄文RL（縦）	覆土下層	10%
777	縄文土器	深鉢	-	(27.4)	-	長石・石英・雲母	にがい青褐色	普通	地文に0段多糸縄文RL（横）	覆土上層	60%、PL130
778	縄文土器	深鉢	-	(62)	[13.4]	長石・石英・雲母	橙	普通	縦位の燃糸文、胴部下平及び底面磨き	覆土下層	
779	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	低い隆帯貼付、0段多糸縄文LR（縦）	覆土下層	

第266号土坑（第293図）

位置 調査区北西部のB236区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第247号土坑を掘り込み、第248・265号土坑に掘り込まれている。

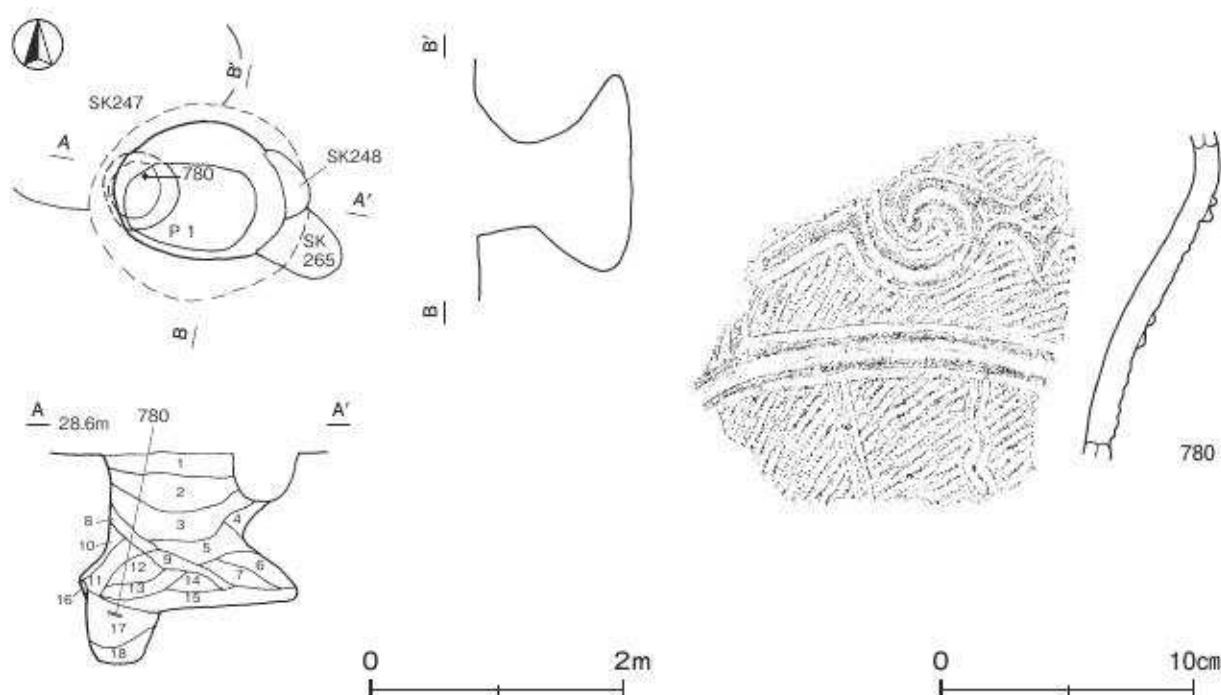
規模と形状 東部を第248・265号土坑に掘り込まれているため、開口部は長径が1.52mしか確認できなかった。短径1.18mの楕円形で、長径方向はN-80°-Wである。底面は長径1.70m、短径1.56mの楕円形で、平坦である。確認面からの深さは120cmで、壁は内傾して袋状を呈し、底面から57～75cmのところできびれて、上位は外傾している。

ピット 径60cm、深さ46cmで、西部の壁際に位置している。補助的な貯蔵施設と考えられる。

覆土 16層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。第17・18層はP1の覆土である。

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量	10	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	11	暗褐色	ロームブロック少量
3	黒褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量	12	褐色	ロームブロック多量、焼土粒子少量、炭化粒子微量
4	極暗褐色	ロームブロック中量	13	褐色	ロームブロック中量、炭化物微量
5	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	14	褐色	ローム粒子多量、焼土粒子微量
6	黒褐色	ロームブロック少量	15	暗褐色	ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子微量
7	暗褐色	ロームブロック中量	16	褐色	ローム粒子多量
8	暗褐色	ローム粒子少量	17	暗褐色	ロームブロック多量
9	黒褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量	18	褐色	ロームブロック多量



第293図 第266号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片2点（深鉢）が出土している。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第266号土坑出土遺物観察表（第293図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
780	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒	普通	胎文に単線縄文RL1段！ 隆帯による渦巻文・斜糸文。胴部衝走する背割れ隆帯から2本の並行沈線・蛇行線が垂下	P1覆土層	PL130

第267号土坑（第294・295図）

位置 調査区北西部のB2j6区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第5号竪穴建物跡、第264・395号土坑を掘り込んでいる。

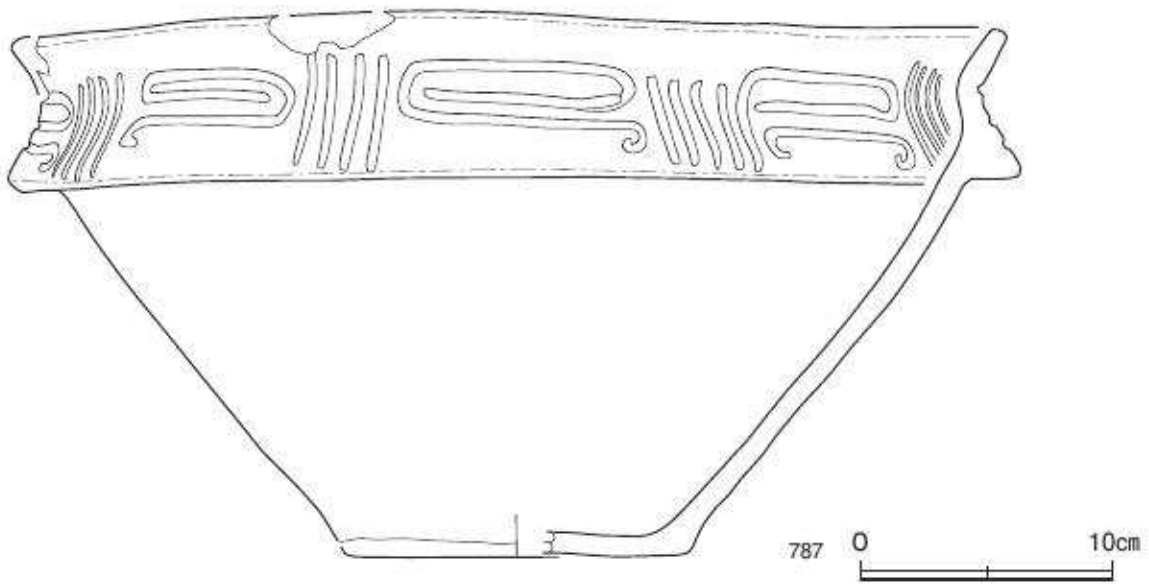
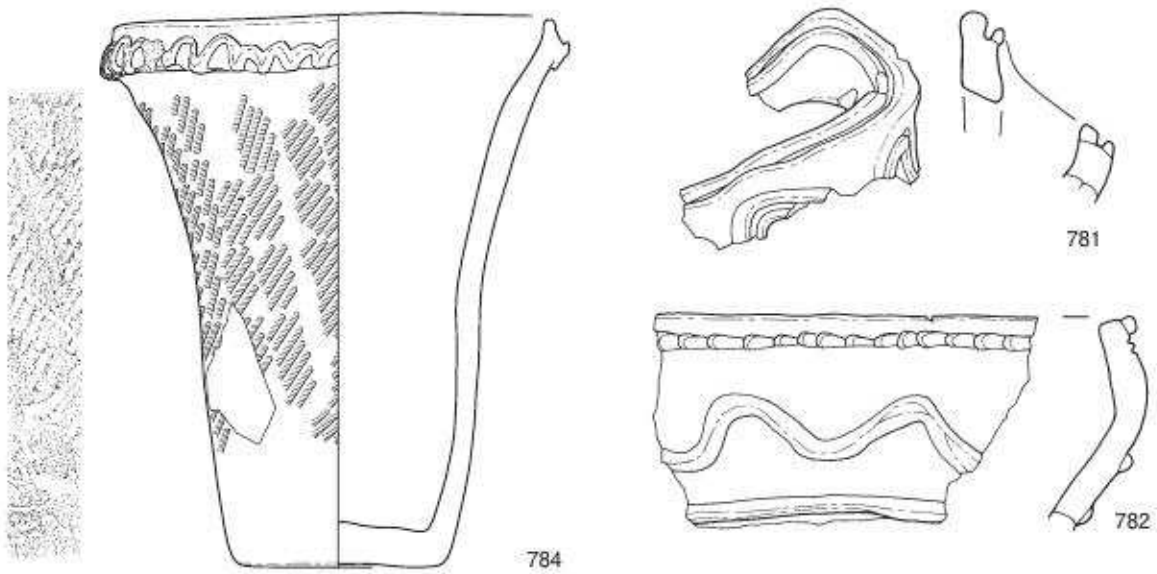
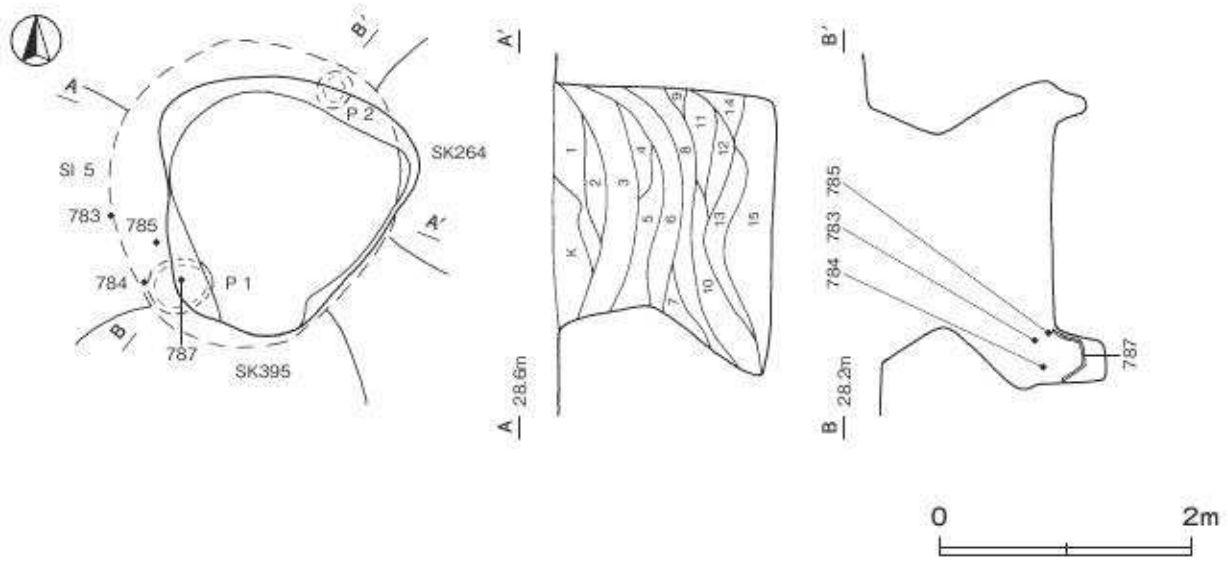
規模と形状 開口部は径2.05～2.08mの不整円形である。底面は径2.24～2.25mの不整円形で、平坦である。確認面からの深さは176cmである。壁は南東部が直立しており、その他は内傾して袋状を呈している。底面から88～97cmのところできびれて、上位は外傾している。

ピット 2か所。P1・P2は、径49・30cm、深さ44・24cmで、南西部と北東部の壁際に対峙して位置している。P1は、787の浅鉢がほぼ正位で据え置かれており、補助的な貯蔵施設と考えられる。

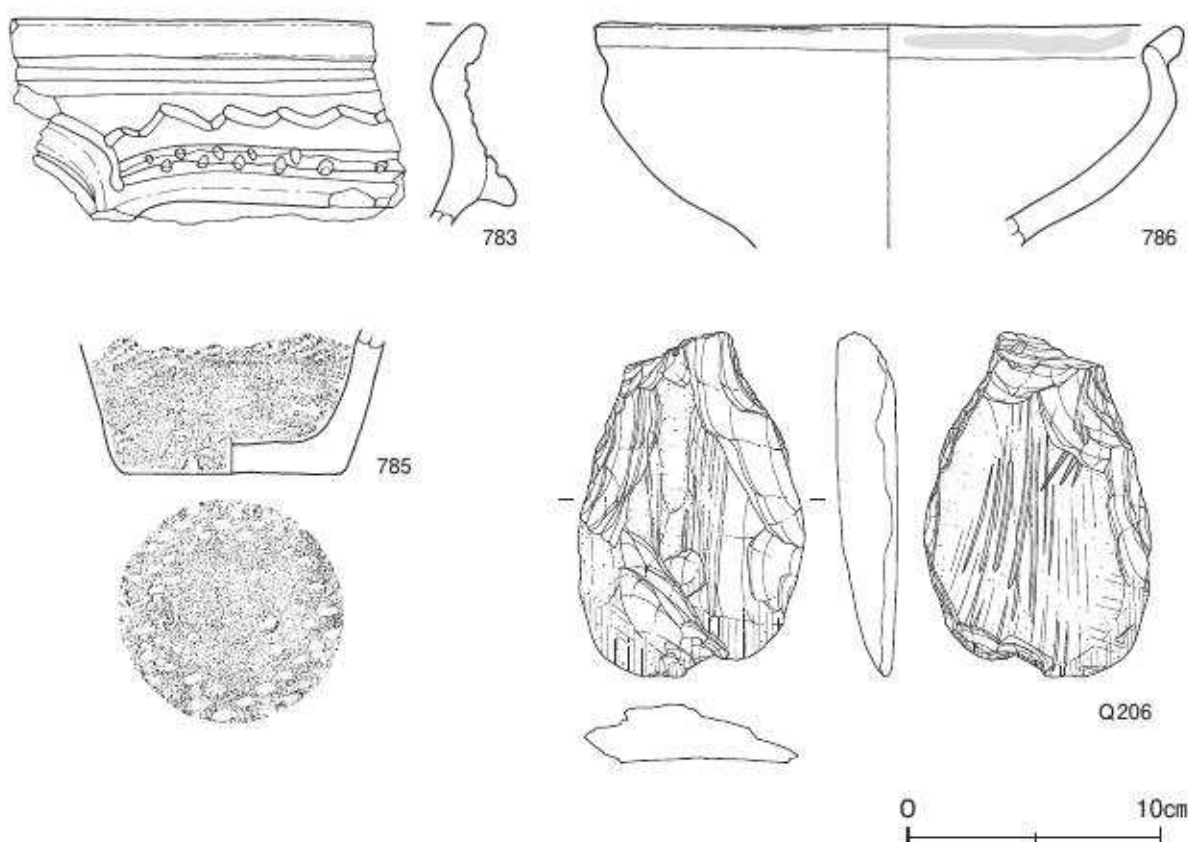
覆土 15層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。覆土中層にあたる第4層には、焼土塊が投棄されている。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量	6 褐色	ローム粒子多量、焼土粒子少量、炭化物微量
2 濃い黄褐色	ロームブロック中量	7 褐色	ロームブロック多量
3 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子中量、焼土粒子少量	8 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量
4 暗赤褐色	焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化粒子少量	9 褐色	ロームブロック中量
5 暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子少量	10 暗褐色	ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子少量



第294图 第267号土坑·出土遗物实测图



第295図 第267号土坑出土遺物実測図

- 11 暗褐色 ロームブロック多量, 炭化物・焼土粒子少量
 12 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子中量, 焼土粒子微量
 13 褐色 ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量
 14 褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量
 15 にぶい黄褐色 ロームブロック多量

遺物出土状況 縄文土器片 213点 (深鉢 178, 浅鉢 35), 石器1点 (砥石) が出土している。787は, P1内からほぼ正位で据え置かれた状態で出土しており, 使用時の状況を示している可能性がある。783～785は, 南東部の壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。

第267号土坑出土遺物観察表 (第294・295図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
781	縄文土器	深鉢	-	(9.4)	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	中空の把手 把手に沿って沈線	覆土中	
782	縄文土器	深鉢	-	(8.5)	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口縁上部に平截竹管による有部沈線 口縁部無文 底行隆帯貼付 面行隆帯一高	覆土中	10%
783	縄文土器	深鉢	-	(8.2)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁上部から2本の並行沈線・蛇行沈線・交互斜交文 底状の隆帯を貼付	覆土下層	
784	縄文土器	深鉢	17.2	22.1	7.9	長石・石英・雲母	褐	普通	口縁部に波状隆帯が巡る 地文に無節縄文R(縦)	覆土下層	90% PL130
785	縄文土器	深鉢	-	(5.7)	8.8	長石・石英	にぶい黄	普通	地文に0段多条縄文RL(縦) 胴部下端横位の磨き 底面網代気	覆土下層	10%
786	縄文土器	浅鉢	[23.0]	(8.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外・内面横位の磨き	覆土中	30%
787	縄文土器	浅鉢	39.6	21.7	[13.7]	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部太い沈線で文様描画 外・内面横位の磨き	P1覆土中層	80% PL130
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
Q206	砥石	13.7	9.0	2.5	330.1	緑色粘板岩	表裏に薄状の砥面		覆土中		

第 272 号土坑 (第 296 図 PL51)

位置 調査区北部の C 3 a5 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 3 号竪穴建物に掘り込まれている。

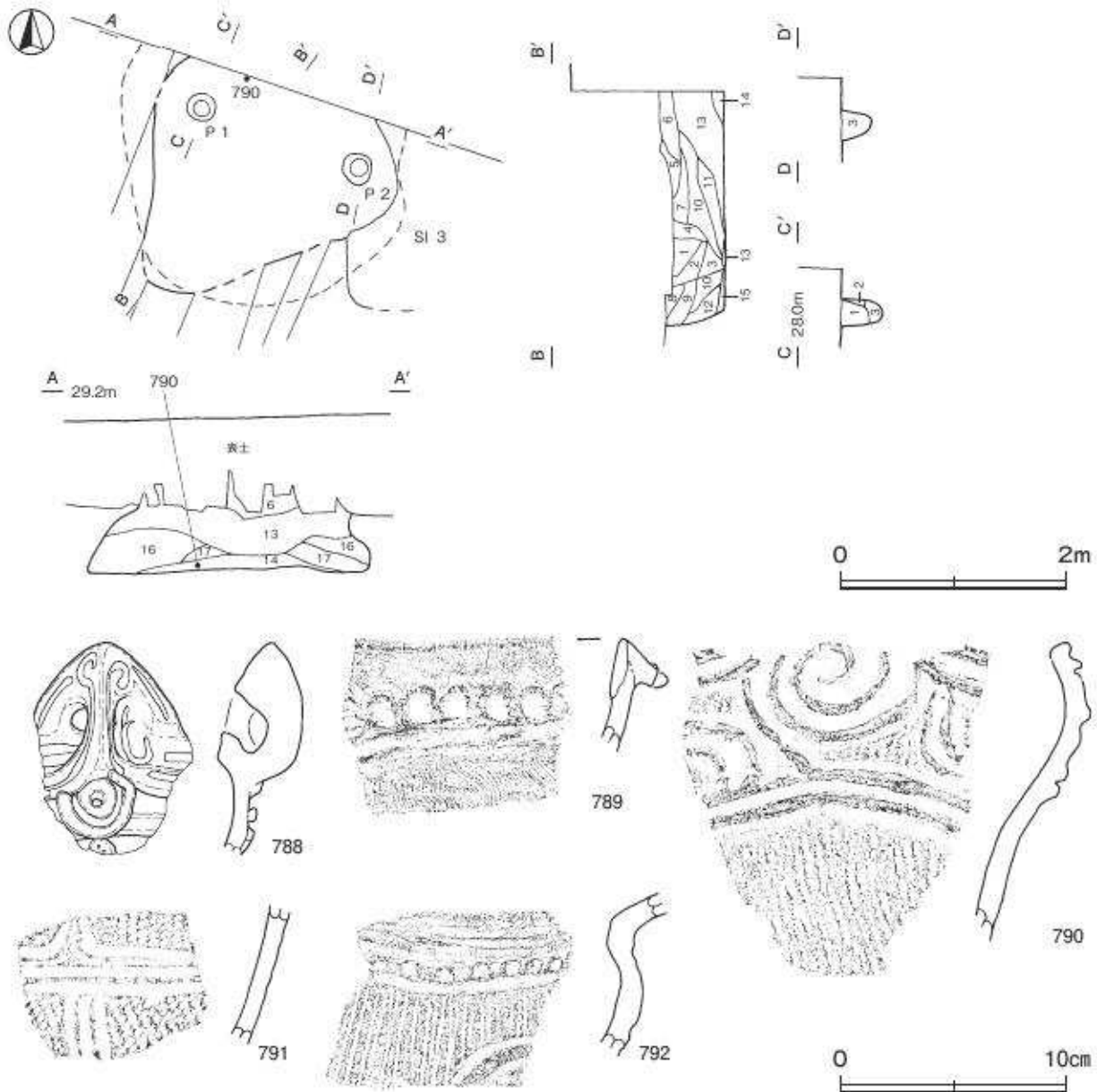
規模と形状 北部が調査区域外へ伸びており、開口部は東西軸が 2.20 m で、南北軸は 2.10 m しか確認できなかったが、不定形である。底面は東西軸が 2.60 m で、南北軸は 1.98 m しか確認できなかったが、確認できた範囲は平坦である。確認面からの深さは 87 cm である。壁は内彎して、袋状を呈している。

ピット 2 か所。P 1・P 2 は、深さ 36・26 cm で、東部と西部に対峙して位置していることから、柱穴と考えられる。

ピット土層解説

- | | |
|------------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量 | 3 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック微量・炭化粒子微量 | |

覆土 17 層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。



第 296 図 第 272 号土坑・出土遺物実測図

土層解説

1	黒褐色	ローム粒子少量	10	極暗褐色	ロームブロック中量
2	極暗褐色	ロームブロック微量	11	暗褐色	ロームブロック微量
3	黒褐色	ロームブロック中量	12	黒褐色	ロームブロック微量
4	黒褐色	ローム粒子中量	13	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子中量
5	極暗褐色	ローム粒子中量	14	暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
6	暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量	15	黒褐色	ロームブロック・焼沼パミスブロック少量、炭化粒子微量
7	黒褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量	16	暗褐色	ロームブロック少量
8	黒褐色	ロームブロック少量	17	黒褐色	ローム粒子微量
9	黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量			

遺物出土状況 縄文土器片 137 点（深鉢）、石器 1 点（磨石）、剥片 4 点（瑪瑙）が出土している。790 は、北部の底面から出土している。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第 272 号土坑出土遺物観察表（第 296 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
788	縄文土器	深鉢	-	(9.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	一次穿孔の中空把手、隆帯付残沈線で文様描画、隆帯上の一部に刺突あり	覆土中	PL131
789	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	L 隆帯上端隆帯貼付、隆帯上指頭圧痕、地文に櫛歯状工具による縦位の波状条線	覆土中	
790	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	地文に単面縄文 RL (横) 滑割れ隆帯による文様描画	底面	PL131
791	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	地文に単面縄文 RL (横) 沈線により文様描画	覆土中	
792	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	くびれ部に 2 本の沈線、沈線間に円形刺突文、胴部縦位の条線文と堂行沈線による文様描画、沈線間滑溜	覆土中	

第 274 号土坑（第 297 図 PL51）

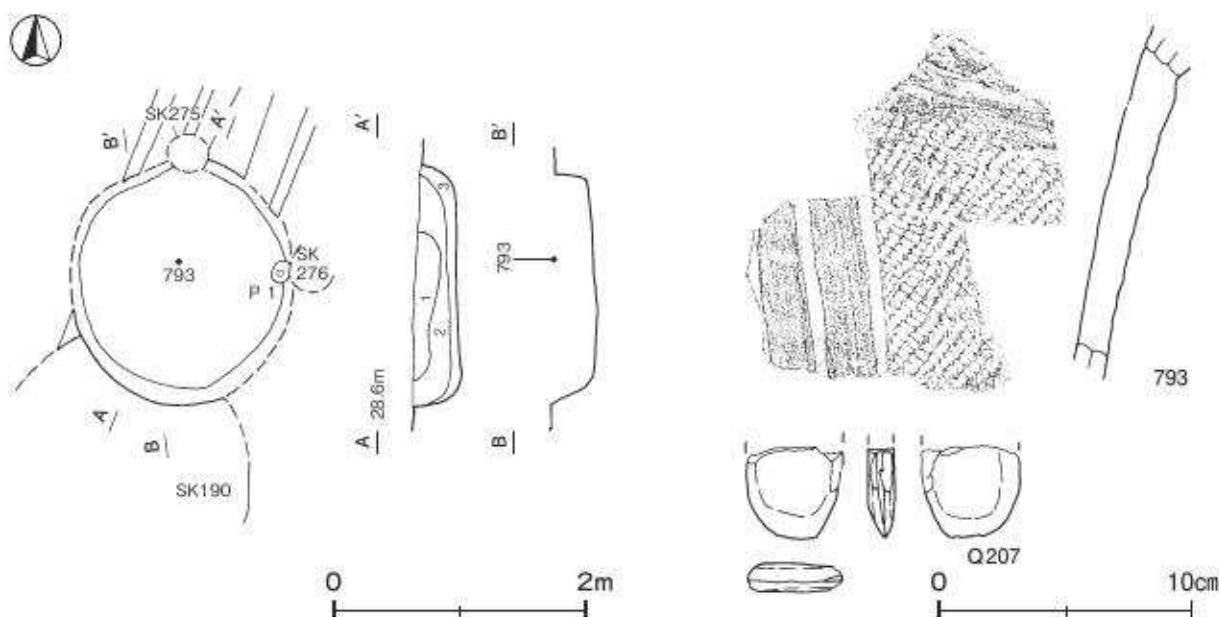
位置 調査区北西部の C.2 a0 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 190 号土坑を掘り込んでいる。第 275・276 号土坑との新旧関係は不明である。

規模と形状 径 1.80 ~ 1.87 m の円形である。底面は平坦で、深さは 36 cm である。壁は外傾している。

ピット 東壁際に位置し、径 13 ~ 16 cm の円形で、深さ 8 cm である。性格不明である。

覆土 3 層に分層できる。周囲から流れ込んだ堆積状況を示していることから、自然堆積である。



第 297 図 第 274 号土坑・出土遺物実測図

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量

2 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

3 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量

遺物出土状況 縄文土器片 86 点 (深鉢 85, 浅鉢 1), 石器 1 点 (磨製石斧), 剥片 2 点 (石英) が出土している。

793 は, 中央部の覆土上層から出土している。

所見 時期は, 出土土器から中期後葉と考えられる。

第 274 号土坑出土遺物観察表 (第 297 図)

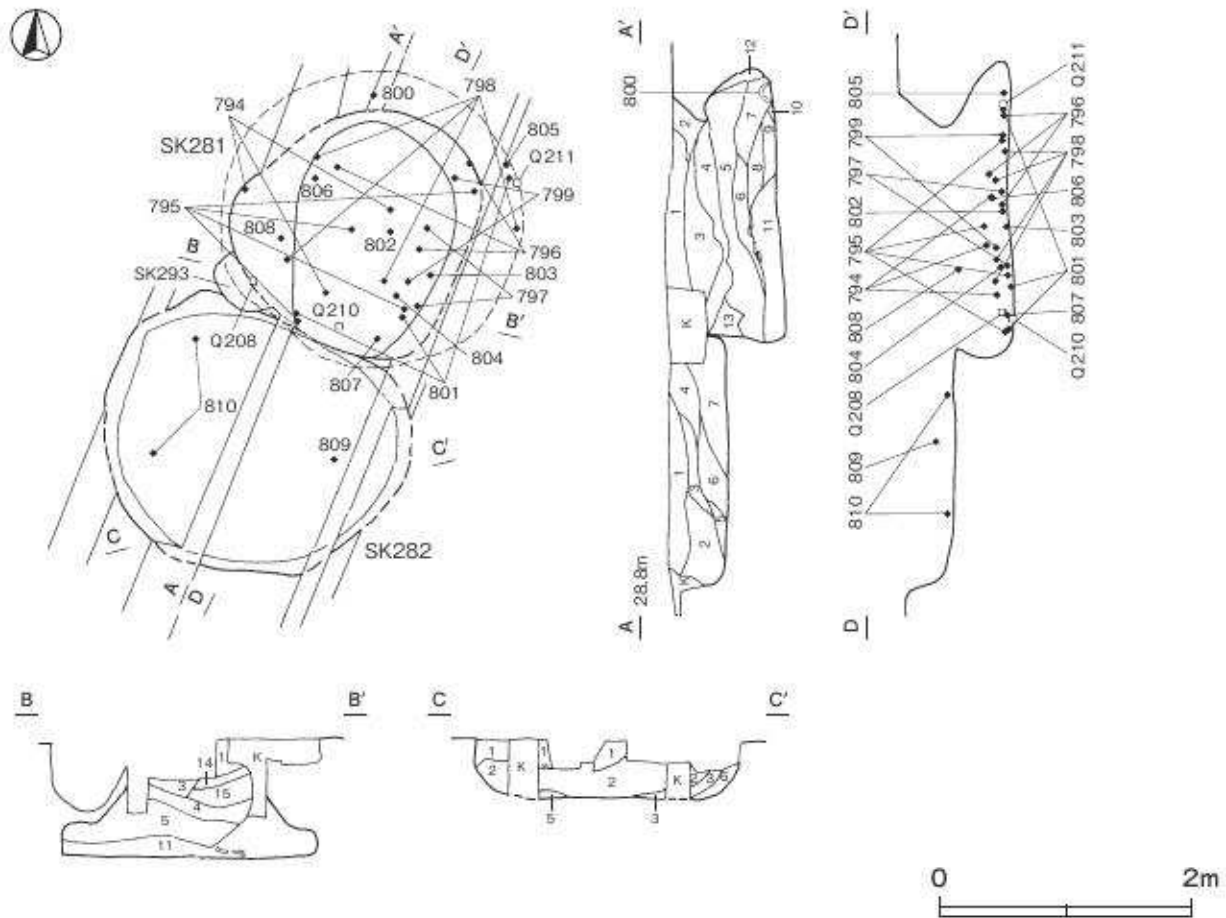
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
793	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にじみ青銅	普通	単節縄文 RL (縞) 3本の沈線垂下 沈線間磨消	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 207	磨製石斧	(36)	(3.9)	1.1	(23.8)	ホルンフェルス	小型 全面研磨 基部欠損 刃部は表裏から研ぎ出す	覆土中	

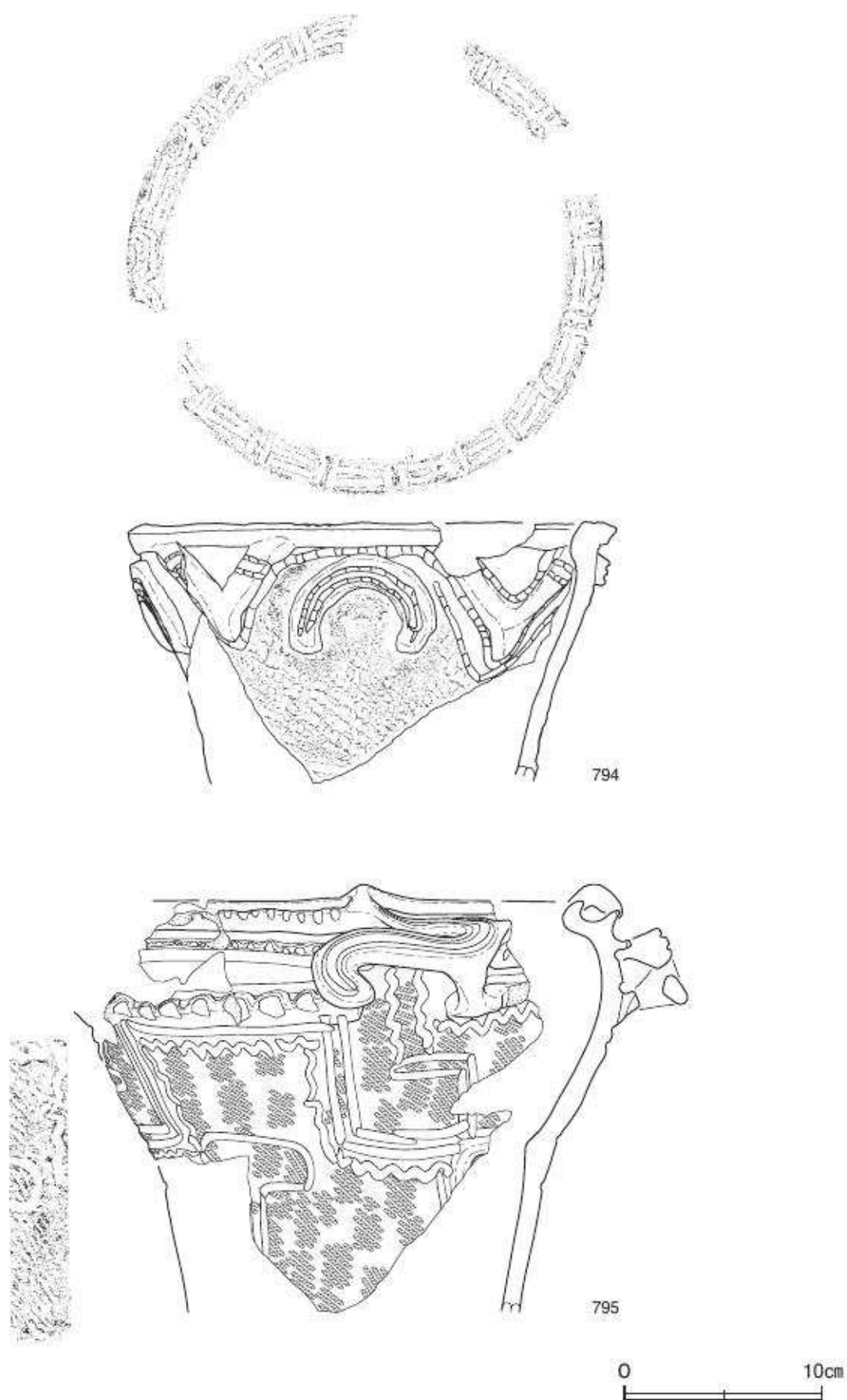
第 281 号土坑 (第 298 ~ 304 図 PL52・98)

位置 調査区北部の C 3 b5 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

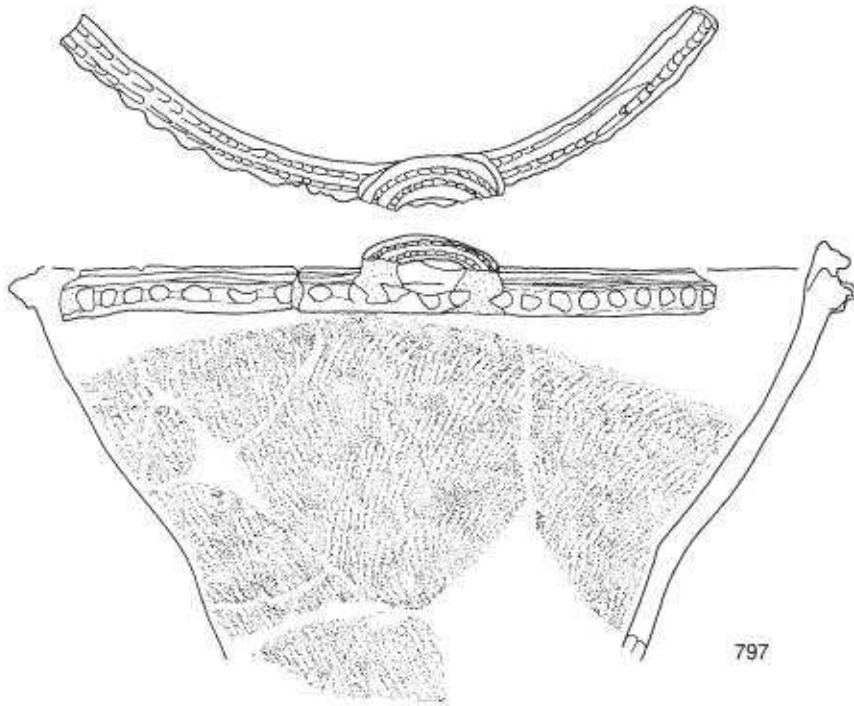
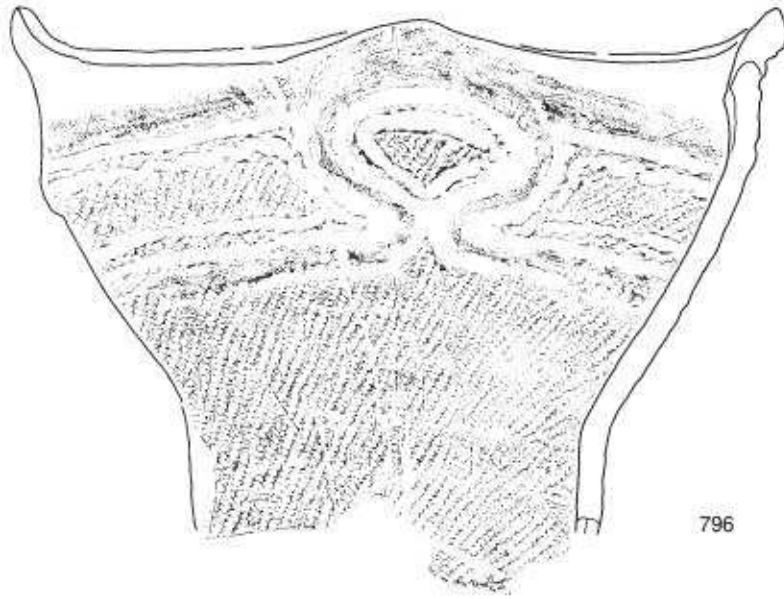
重複関係 第 282・293 号土坑に掘り込まれている。



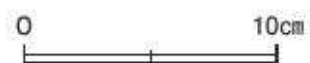
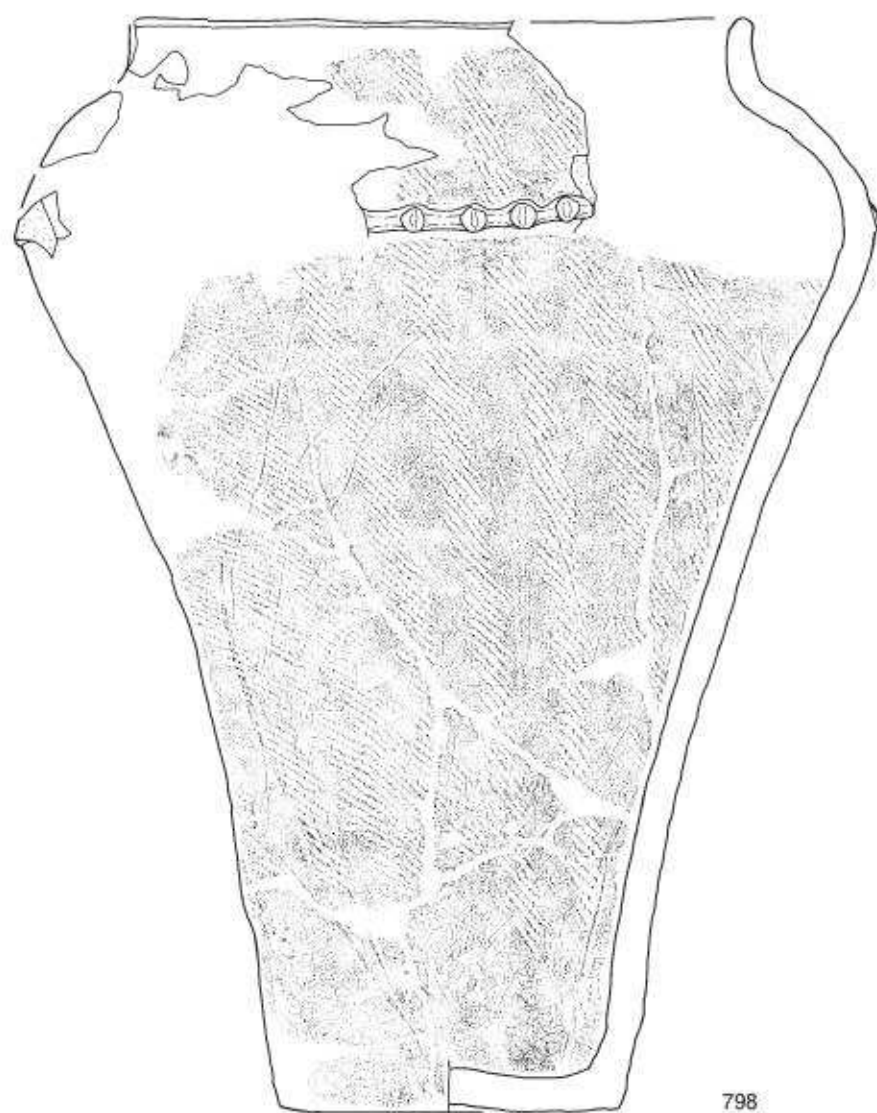
第 298 図 第 281・282 号土坑実測図



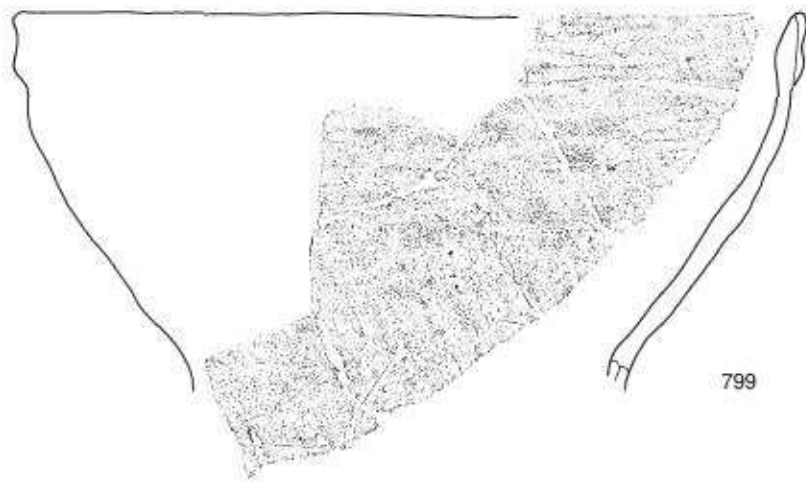
第 299 図 第 281 号土坑出土遺物実測図(1)



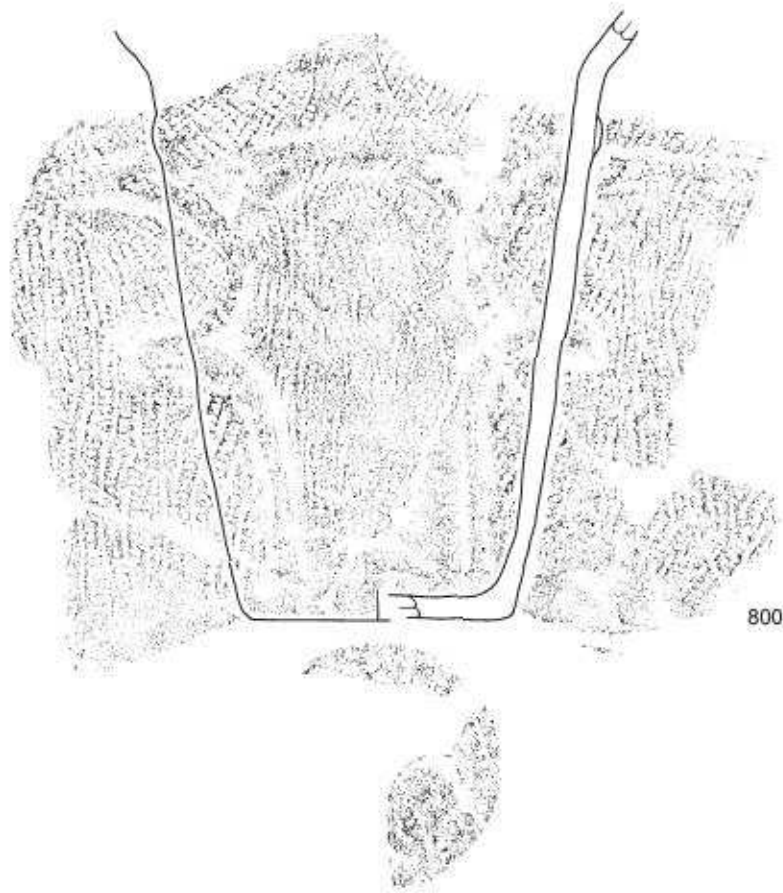
第 300 図 第 281 号土坑出土遺物実測図 (2)



第 301 図 第 281 号土坑出土遺物実測図 (3)



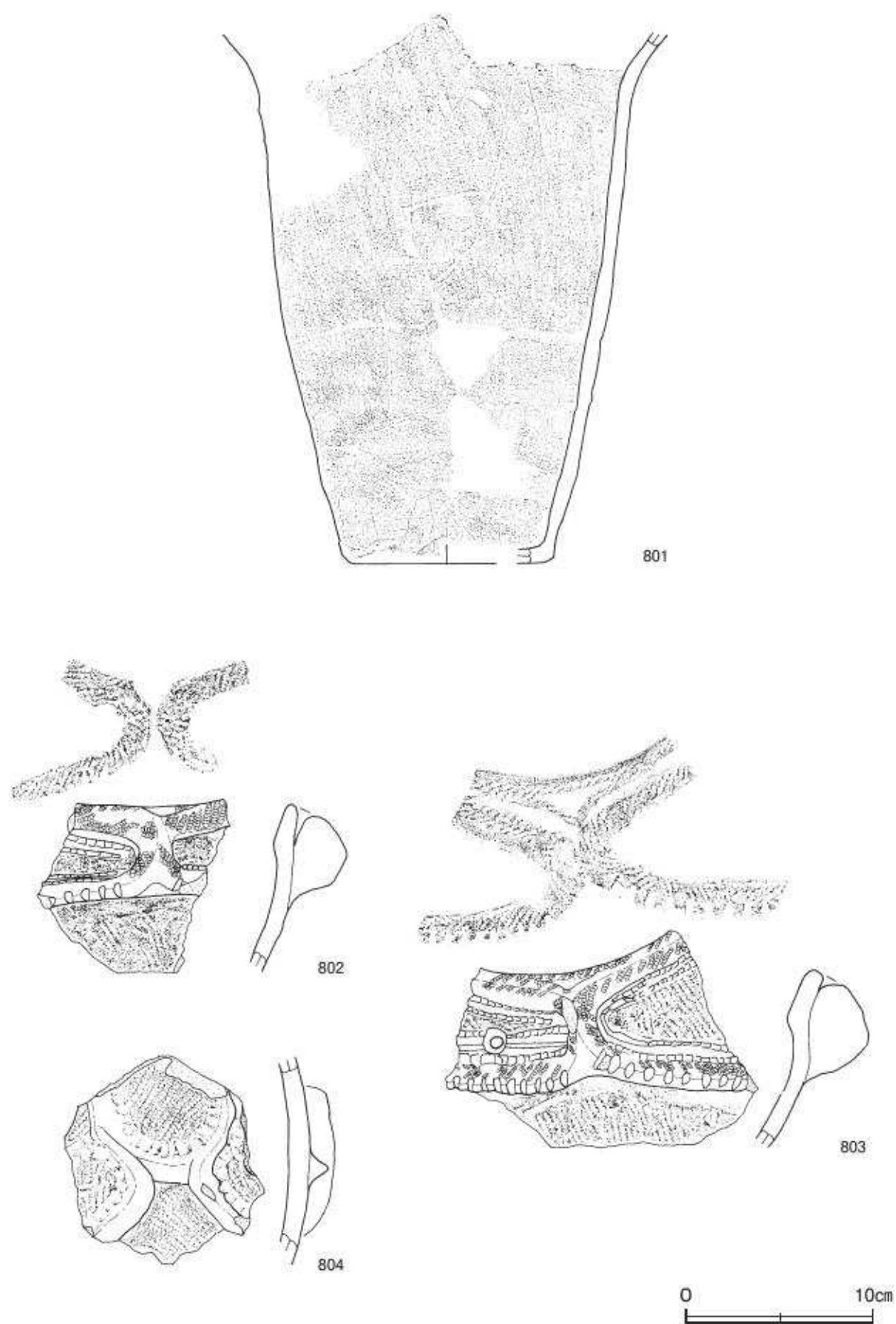
799



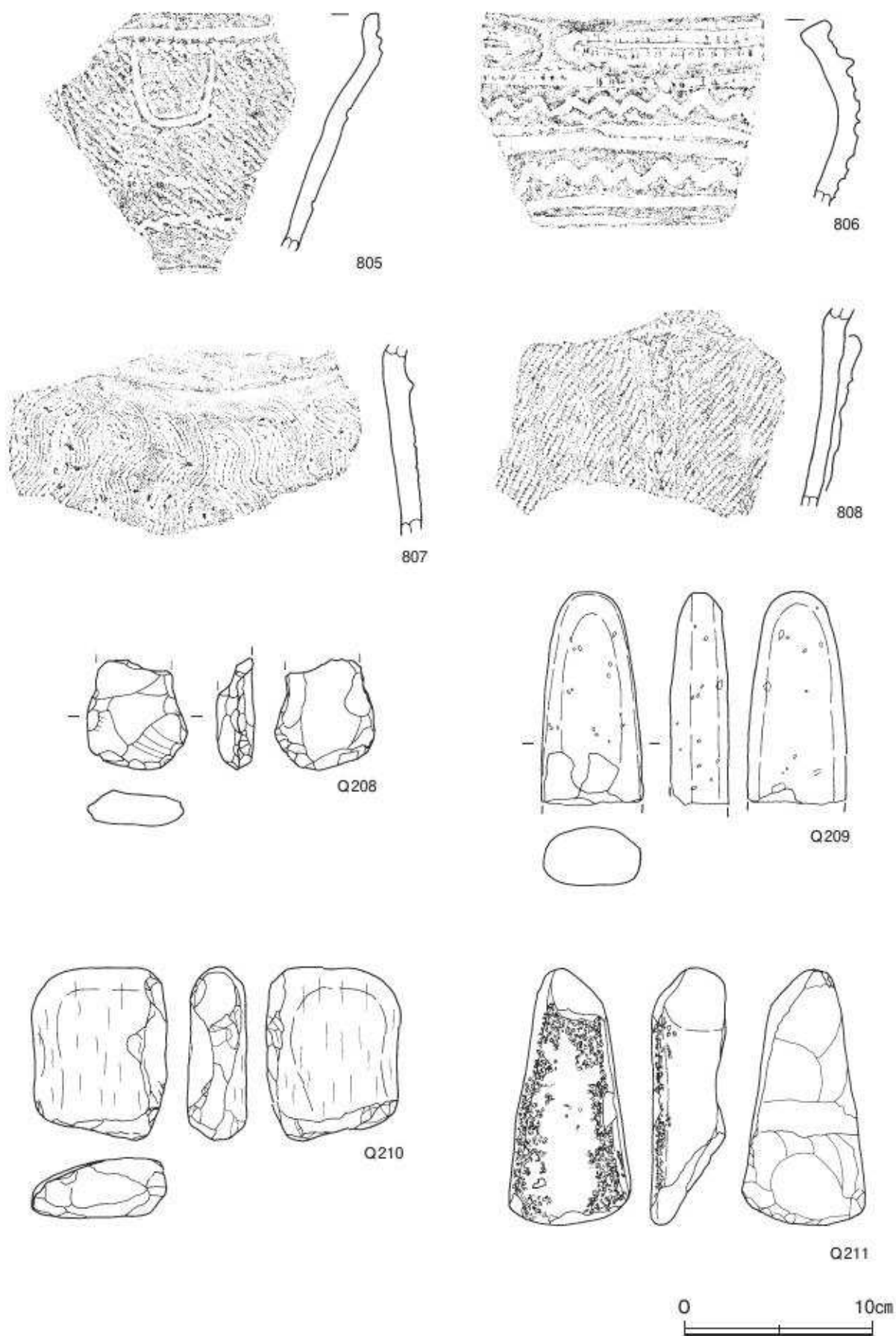
800



第 302 図 第 281 号土坑出土遺物実測図 (4)



第 303 図 第 281 号土坑出土遺物実測図 (5)



第304图 第281号土坑出土遗物实测图(6)

規模と形状 耕作による攪乱を受けているが、開口部は径1.86～1.93 mの不整円形で、長径方向はN-11°-Eである。底面は径2.32～2.40 mの円形で、平坦である。確認面からの深さは92cmである。壁は内彎して、袋状を呈し、底面から高さ52～58cmのところまでくびれて、上位は外傾している。

覆土 15層に分層できる。各層にローム粒子が多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1	黒褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	9	黒褐色	ローム粒子中量
2	暗褐色	ローム粒子少量	10	暗褐色	ロームブロック少量
3	黒褐色	ローム粒子多量、炭化粒子中量、焼土粒子微量	11	にぶい黄褐色	ローム粒子少量、焼沼パミスブロック微量
4	黒褐色	ローム粒子多量、炭化粒子少量、焼土粒子微量	12	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量
5	黒褐色	ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量	13	暗褐色	ローム粒子中量
6	黒褐色	ローム粒子多量、炭化粒子微量	14	黒褐色	ローム粒子少量
7	黒褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量	15	暗褐色	ロームブロック中量
8	暗褐色	ローム粒子多量、炭化粒子少量			

遺物出土状況 縄文土器片375点（深鉢374、器台1）、石器8点（打製石斧、磨製石斧、石皿、敲石、敲砥石、凹石、砥石、台石）、石核4点（瑪瑙）、加工痕のある剥片1点（瑪瑙）、剥片8点（石英1、チャート1、瑪瑙4、黒曜石2）、礫1点（砂岩）が出土している。800は北壁際の底面から横位で、794は中央部、795～799・801～807、Q 208・Q 210・Q 211は坑内全体の覆土下層から、大型の破片が散乱した状態で出土している。土器は、いずれも底部あるいは口縁部が欠損しており、不要になったものが、廃絶後間もない段階で一括投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第28I号土坑出土遺物観察表（第299～304図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
794	縄文土器	深鉢	23.1	(13.1)	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	口縁部平坦面・有面沈線による文様描画（口縁部隆帯による文様描画・隆帯に沿って有面沈線・地文に単節縄文LR（縦）	覆土下層	30% PL132
795	縄文土器	深鉢	23.2	(21.7)	-	長石・石英	黒褐色	普通	口縁部上縁波状の帯を貼付・指頭によるナデ2単位のS字状の把手貼付・胴部単節縄文LR（縦）沈線による文様描画	覆土下層	40% PL132
796	縄文土器	深鉢	28.4	(20.9)	-	長石・石英・雲母	無暗赤褐色	普通	口縁部に単節縄文LR（横）・隆帯隆帯による文様描画・隆帯に沿って流状沈線	覆土下層	60% PL132
797	縄文土器	深鉢	[30.8]	(16.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口縁部平坦面に2本の有面沈線・字橋門の把手貼付・口縁上縁隆帯貼付・隆帯上縁頭圧痕・地文に単節縄文LR（横・斜）	覆土下層	20% PL131
798	縄文土器	深鉢	[24.0]	43.5	13.4	長石・石英・赤色粒子	赤褐色	普通	胴部に刺突隆帯二高・地文に単節縄文L（縦）を間隔を置いて施文	覆土下層	70% PL132
799	縄文土器	深鉢	[31.0]	(15.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口縁部外・内面横位、胴部外面縦位の磨き	覆土下層	10%
800	縄文土器	深鉢	-	(24.2)	[9.8]	長石・石英・雲母	橙（外）黒（内）	普通	胴部は前面波状の低い隆帯貼付・隆帯からY字状構成の隆帯垂下・地文に附加糸一種縄文RL（横・斜）底面網代痕	底面	30% PL132
801	縄文土器	深鉢	-	(28.5)	[11.4]	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	外面縦位・内面斜位のナデ・底部ナデ	覆土下層	50% PL132
802	縄文土器	深鉢	-	(9.3)	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	口縁部隆帯で区画・隆帯上に単節縄文LR（横）とキサミ目・隆帯に沿って有面沈線・胴部同一原体（斜）	覆土下層	80と同一原体。
803	縄文土器	深鉢	-	(11.6)	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	口縁部隆帯で区画・隆帯上に単節縄文LR（横）とキサミ目・隆帯に沿って有面沈線・胴部同一原体（斜）袖修孔あり	覆土下層	10% 80と同一原体。
804	縄文土器	深鉢	-	(11.3)	-	長石・石英・雲母	暗褐色	普通	断面三角形の隆帯で区画・隆帯に沿って有面沈線・蛇行沈線・区画内単節縄文LR（縦・横）	覆土下層	
805	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐色	普通	地文に単節縄文L（縦）・口縁部上縁に2本の有面沈線・U字状の沈線文・胴部有面沈線一高	覆土下層	PL131
806	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口縁部上縁隆帯で区画・区画内及び隆帯に沿って有面沈線・蛇行沈線と並行沈線を交互に施文	覆土下層	PL131
807	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	隆帯が一高・6本単位の筒筒状工具による縦位の流状文	覆土下層	
808	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	黒褐色	普通	刺突隆帯が垂下・隆帯上及び地文に単節縄文RL（縦）	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 208	打製石斧	(5.8)	5.4	2.0	(72.5)	ホルンフェルス	分銅形・表裏面研磨・刃部は表裏を敲行・片刃部欠損	覆土下層	
Q 209	磨製石斧	(11.3)	5.4	3.1	(320.7)	珉れい岩	定角式・全面研磨・胴縁部に鋭い稜・刃部欠損	覆土中層	PL167
Q 210	敲砥石	9.2	7.2	3.2	348.0	石英珪岩	楕円形の両端及び側縁部に敲打痕・紙面をもつ	覆土下層	
Q 211	台石	137	6.5	4.0	412.6	ホルンフェルス	片側に繊細な敲打痕	覆土下層	

第 282 号土坑 (第 298・305 図 PL52)

位置 調査区北部の C 3 b5 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 281 号土坑を掘り込み、第 293 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 耕作による攪乱を受けているが、長径 2.45 m、短径 2.09 m の楕円形で、長径方向は N - 74° - W である。底面は平坦で、深さは 48cm である。壁は外傾している。

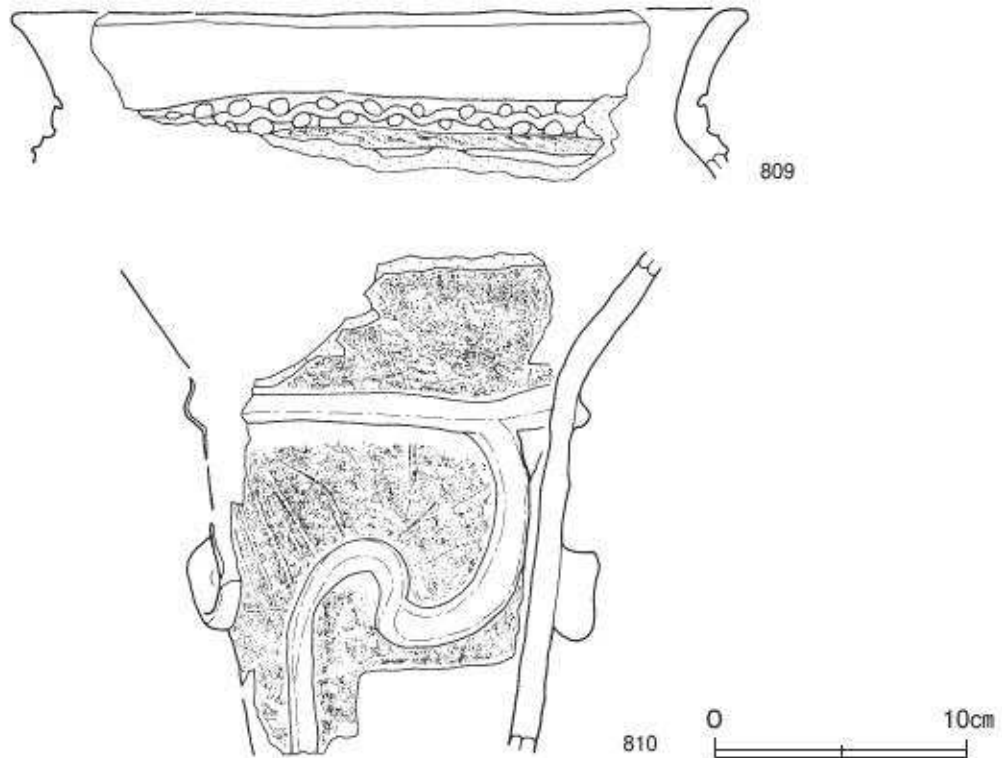
覆土 7 層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|----------|-----------|----------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量 | 5 にぶい黄褐色 | ロームブロック多量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子中量 | 6 褐色 | ローム粒子多量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量 | 7 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 にぶい黄褐色 | ローム粒子多量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 62 点 (深鉢)、石器 1 点 (打製石斧)、剥片 1 点 (瑪瑙) が出土している。809 は東部の覆土中層、810 は西部の覆土下層から、いずれも破片が散乱した状態で出土しており、埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 上部が耕作による攪乱を受けているため明確でないが、規模と形状から袋状土坑の下部と推定でき、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第 305 図 第 282 号土坑出土遺物実測図

第 282 号土坑出土遺物観察表 (第 305 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
809	縄文土器	深鉢	[28.6]	(6.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部無文帯 頸部交互刺突文 頸部単純縄文 LR (縦) 外・内面横位の磨き	覆土中層	
810	縄文土器	深鉢	-	(19.9)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	頸部・胴部縄状隆帯頭付 隆帯側面部柄み状の突起 一部に糸線文	覆土下層	40% PL130

第 283 号土坑 (第 306・307 図 PL53)

位置 調査区北部の C 3 b6 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 285・337 号土坑を掘り込んでいる。第 284 号土坑との新旧関係は不明である。

規模と形状 長径 2.50 m、短径 1.74 m の楕円形で、長径方向は N - 58° - E である。底面は平坦で、深さ 78 cm である。壁は外傾している。

ピット 深さ 32 cm で、壁際に位置していることから補助的な柱穴と考えられる。

ピット土層解説

- | | |
|---------------|---------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量 | 3 暗褐色 ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量 | |

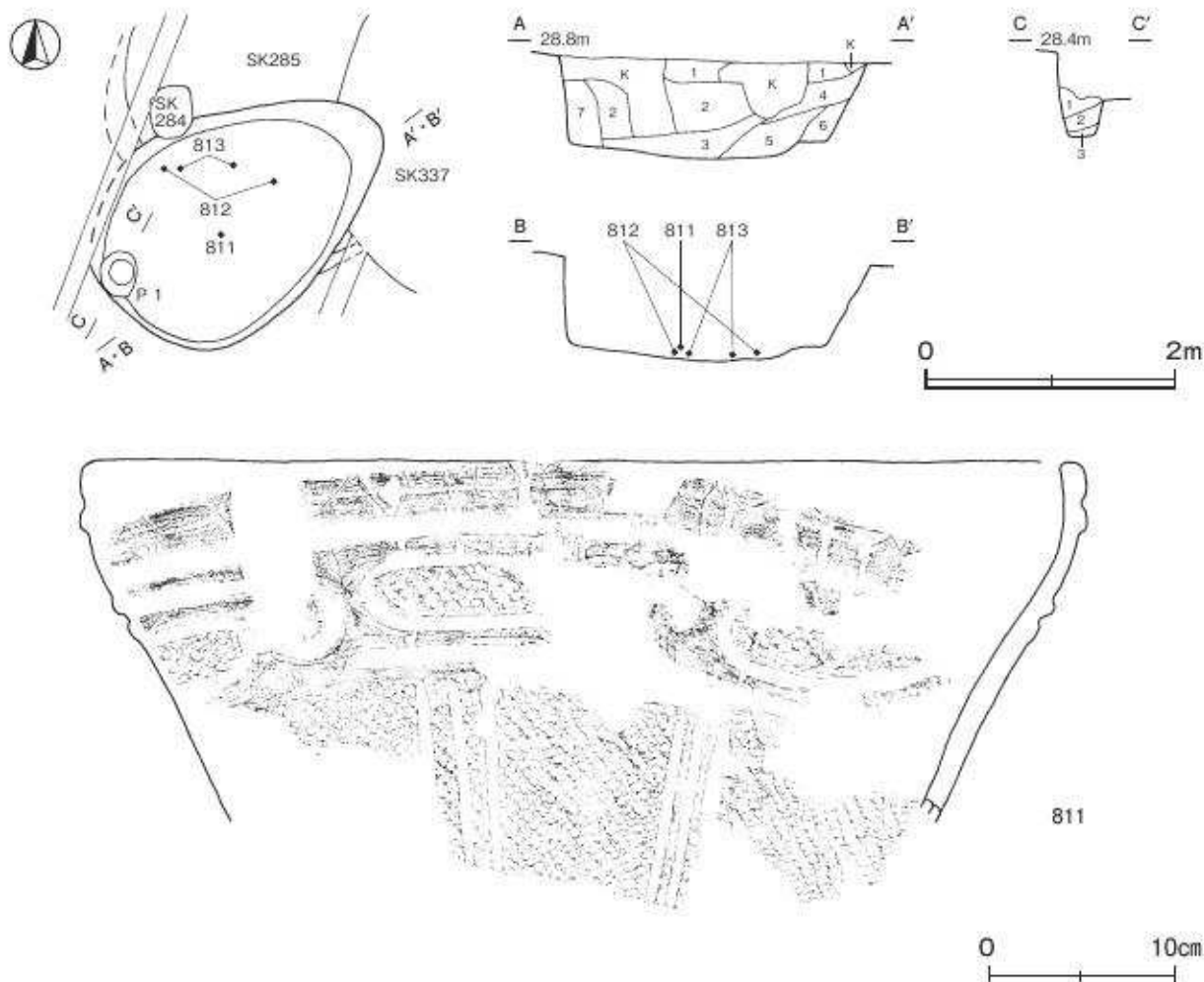
覆土 7層に分層できる。各層にローム粒子が多く含まれており、東側から埋め戻された堆積状況を示している。

土層解説

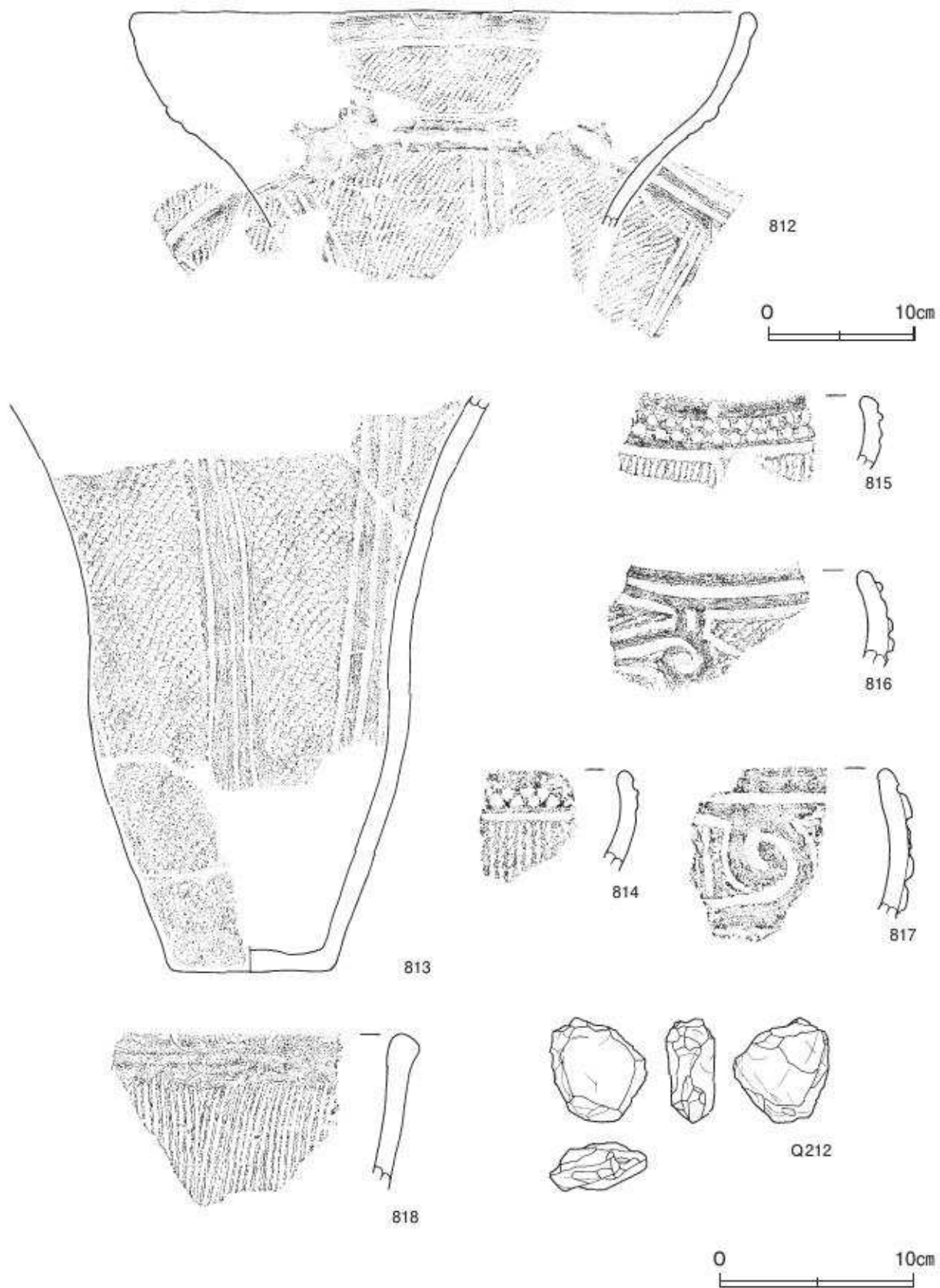
- | | |
|-----------------------------|--------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子中量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 6 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック中量 | 7 黒褐色 ローム粒子中量 |
| 4 黒褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量 | |

遺物出土状況 縄文土器片 301 点(深鉢 284, 浅鉢 17), 石器 1 点(敲砥石), 石核 16 点(石英 4, 瑪瑙 11, 水晶 1), 剥片 12 点(石英 5, 瑪瑙 3, 水晶 2, トロトロ石 2) が出土している。811 ~ 813 は、北半部の覆土下層から、破片が散乱した状態で出土しており、埋め戻しの早い段階で一括投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第 306 図 第 283 号土坑・出土遺物実測図



第 307 图 第 283 号土坑出土遗物实测图

第 283 号土坑出土遺物観察表 (第 306・307 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
811	縄文土器	深鉢	[52.6]	(19.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口縁部無文。隆帯による楕円区画。隆帯に沿って太い沈線。地文に横節縄文 LRL (縦) 胴部3本の沈線垂下	覆土下層	30% PL133
812	縄文土器	深鉢	[42.0]	(14.9)	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	口縁部無文。地文に単節縄文 LRL (縦) 隆帯による楕円区画。隆帯に沿って沈線。胴部3本の沈線垂下。沈線間磨消	覆土下層	10% PL133
813	縄文土器	深鉢	-	(29.3)	8.2	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	地文に単節縄文 LRL (縦) 3本の沈線垂下。沈線間磨消。底面ナデ	覆土下層	70% PL133
814	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明褐色	普通	口縁部上端交互刻突文。沈線が一筋。地文に懸糸文 (縦)	覆土中	
815	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	口縁部上端に3本の沈線を隔らし2本の沈線に刻突文。地文に懸糸文 (縦)	覆土中	
816	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	地文に多数条縄文 LR (横) 隆帯による区画文・渦巻文。隆帯に沿って太い沈線	覆土中	
817	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	低い隆帯による区画文・渦巻文。隆帯に沿って沈線。区画内縦位の沈線	覆土上層	
818	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰褐色	普通	口唇部肥厚。口縁部無文。縦・斜位の条線文	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q212	敲砥石	5.4	5.0	25	79.4	石英	円縁の細縁部に敲打痕・砥面をもつ	覆土中層	PL172

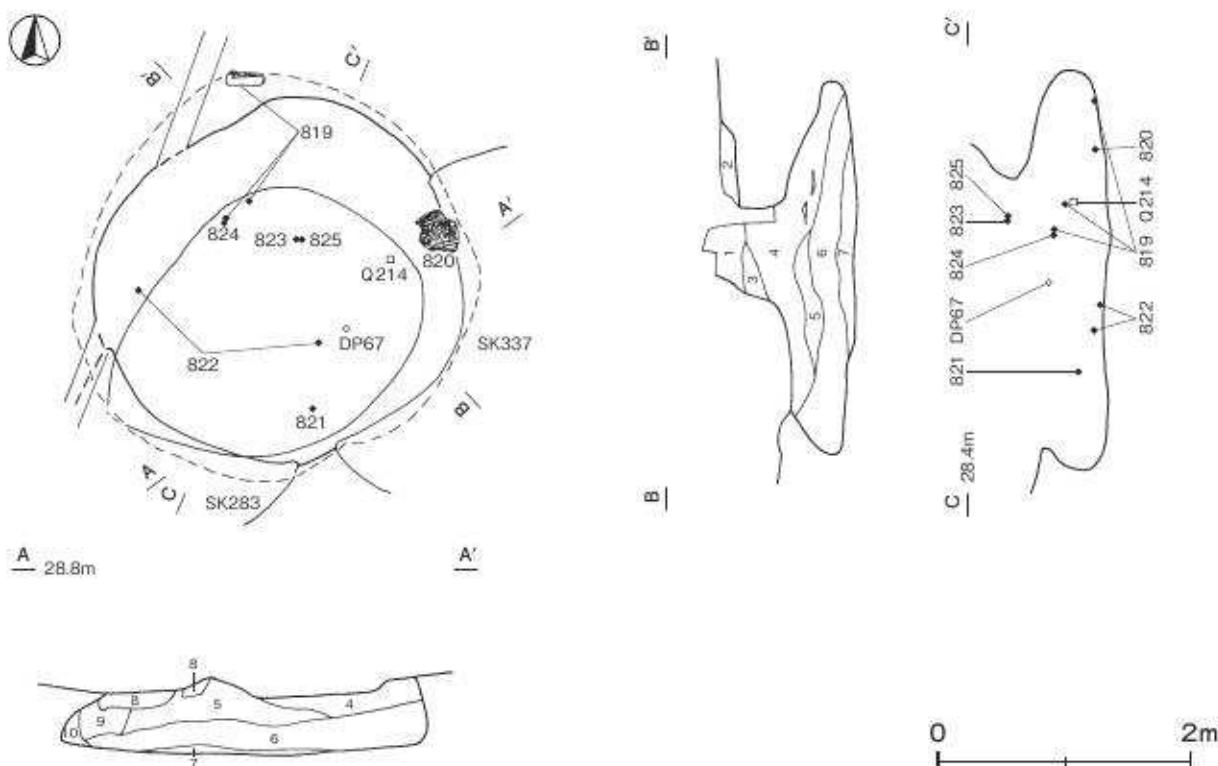
第 285 号土坑 (第 308 ~ 311 図 PL53)

位置 調査区北部の C 3 b7 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

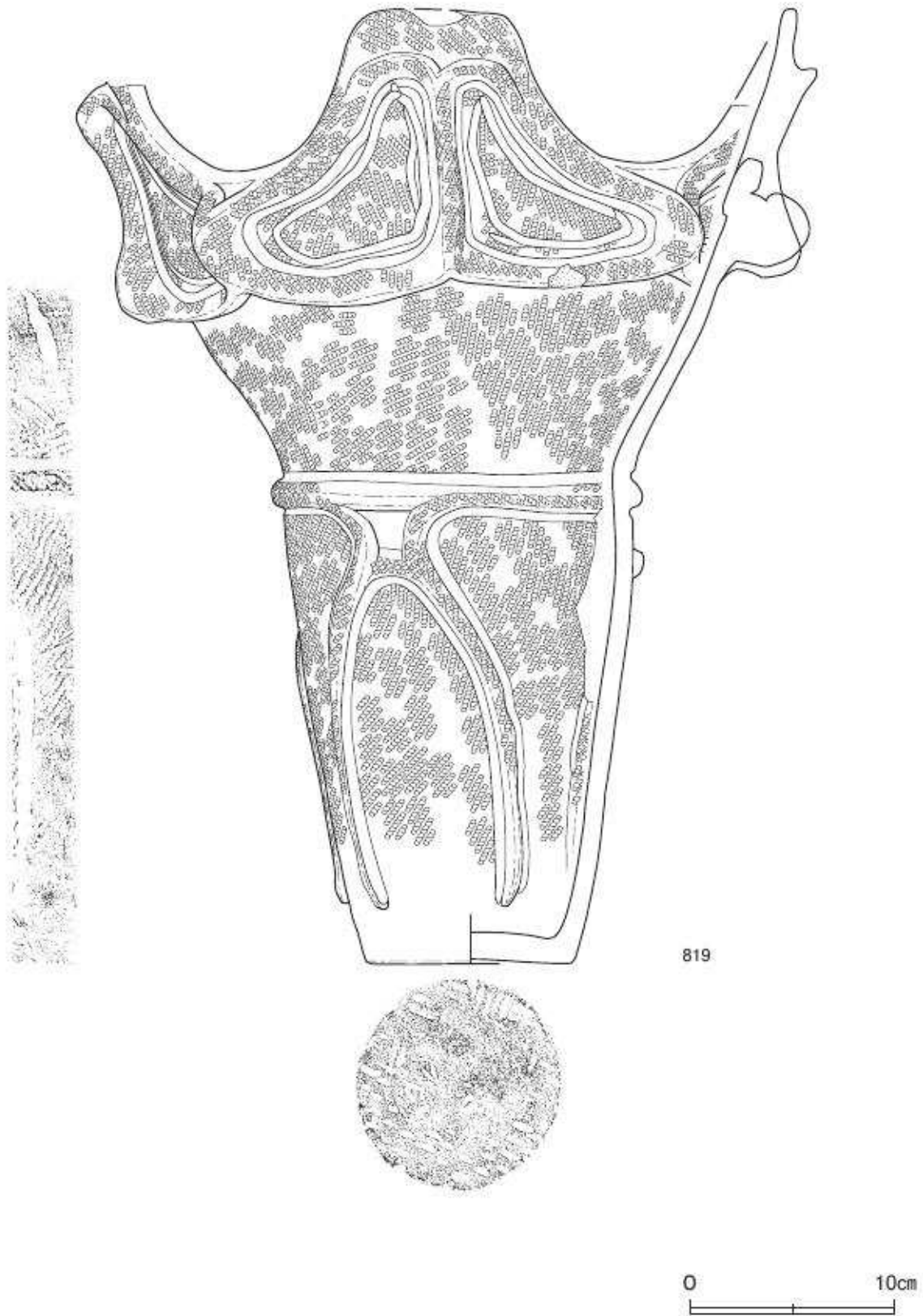
重複関係 第 283・284・337 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は長径 2.90 m、短径 2.65 m の楕円形で、長径方向は N - 53° - E である。底面は径 3.15 ~ 3.25 m のほぼ円形で、平坦である。確認面からの深さは 118 cm である。壁は大きく内彎して、袋状を呈し、底面から 74 ~ 90 cm のところでくびれ、上位は緩やかに傾斜している。

覆土 10 層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が多く含まれていることから、埋め戻されている。



第 308 図 第 285 号土坑実測図



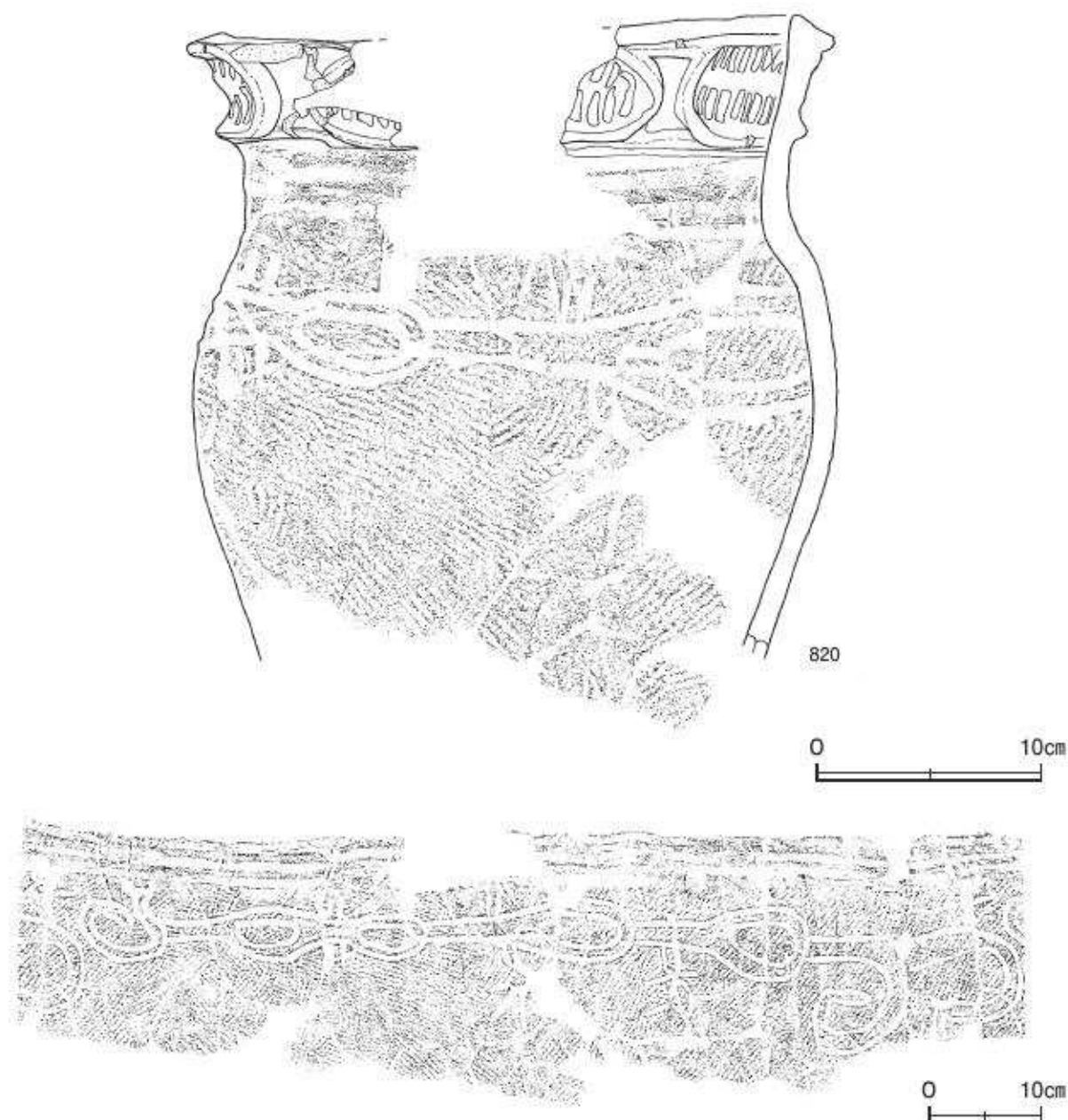
第 309 図 第 285 号土坑出土遺物実測図(1)

土層解説

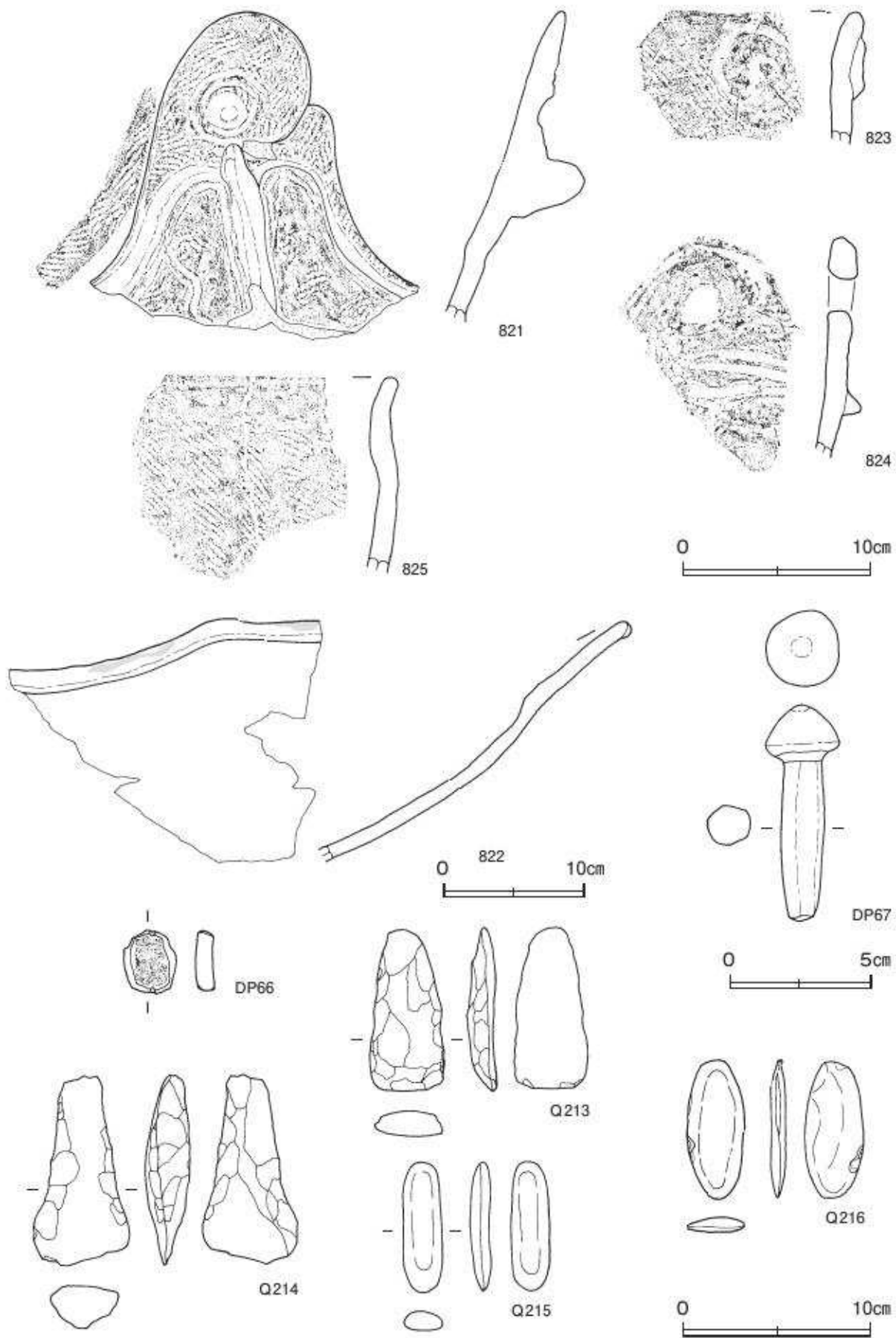
1 黒褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量	6 褐色	ロームブロック中量
2 暗褐色	ロームブロック少量	7 濃い黄褐色	ロームブロック中量
3 黒褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子微量	8 黄褐色	ロームブロック中量
4 黒褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量	9 黒褐色	ローム粒子中量
5 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	10 黒褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片 161 点 (深鉢 136, 浅鉢 25), 土製品 2 点 (土器片錘, きのか形土製品), 石器 5 点 (打製石斧 2, 磨製石斧 2, 磨石 1), 石核 15 点 (石英 1, チャート 1, 瑪瑙 13), 剥片 15 点 (石英 1, 安山岩 2, 瑪瑙 9, 水晶 3) が出土している。822 は東部と西部の底面から出土した破片が接合している。820 は底部を欠いており, 北東壁際から, 819 は縦に半截されており, 北壁際から, いずれも底面に横位で置かれた状態で出土している。819 の残りの半個体分は, 中央部の覆土中層から散乱して, 821・823～825, Q 214 は覆土中層の第 4 層を中心に出土している。いずれも廃絶直後とある程度埋め戻した段階で投棄されたと考えられる。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。



第 310 図 第 285 号土坑出土遺物実測図 (2)



第311图 第285号土坑出土遗物实测图(3)

第 285 号土坑出土遺物観察表 (第 309 ~ 311 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
819	縄文土器	深鉢	29.5	46.7	10.0	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	底面に環状隆帯による2つの三角区画。隆帯に沿って沈線。胴部環状隆帯による横線・透じ字状文。地文及び隆帯上単節縄文LR(縦・斜)。底面網代痕。	覆土中層・底面	90% PL134
820	縄文土器	深鉢	25.0	(28.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部隆帯による格内区画文。区画内2本の赤彩文。胴部単節縄文LR(縦)。2本の沈線で文様強調。	底面	70% PL134
821	縄文土器	深鉢	-	(17.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	地文に単節縄文LR(多方向)。底面部内彩突起貼付。突起中央に2本の沈線による凹み。液状部中央に環状隆帯と沈線。	覆土中層	PL134
822	縄文土器	浅鉢	-	(17.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	外・内面横位の磨き。口唇部・口縁部内面の一部に赤彩痕。	底面	10% PL134
823	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色砂子	にぶい褐	普通	地文に無節縄文L(縦)。透じ字状の隆帯貼付。	覆土中層	
824	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口唇部透じ字状の隆帯貼付。口唇部の一部に無節縄文L(横)。口縁部横位の3本の沈線。沈線下に隆帯で区画。	覆土中層	
825	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色砂子	にぶい赤褐	普通	地文に無節縄文L(縦)を間隔を空けて施文。	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP66	土器片録	3.4	2.8	0.9	11.6	石英・雲母・赤色砂子	にぶい赤褐	胴部片 両端にキザミ目	覆土中層	
DP67	土のこり土製品	7.7	2.6	2.7	28.5	長石・石英・雲母・角閃石	明赤褐	全体に丁寧なナデ	覆土中層	PL160 根本館蔵付着

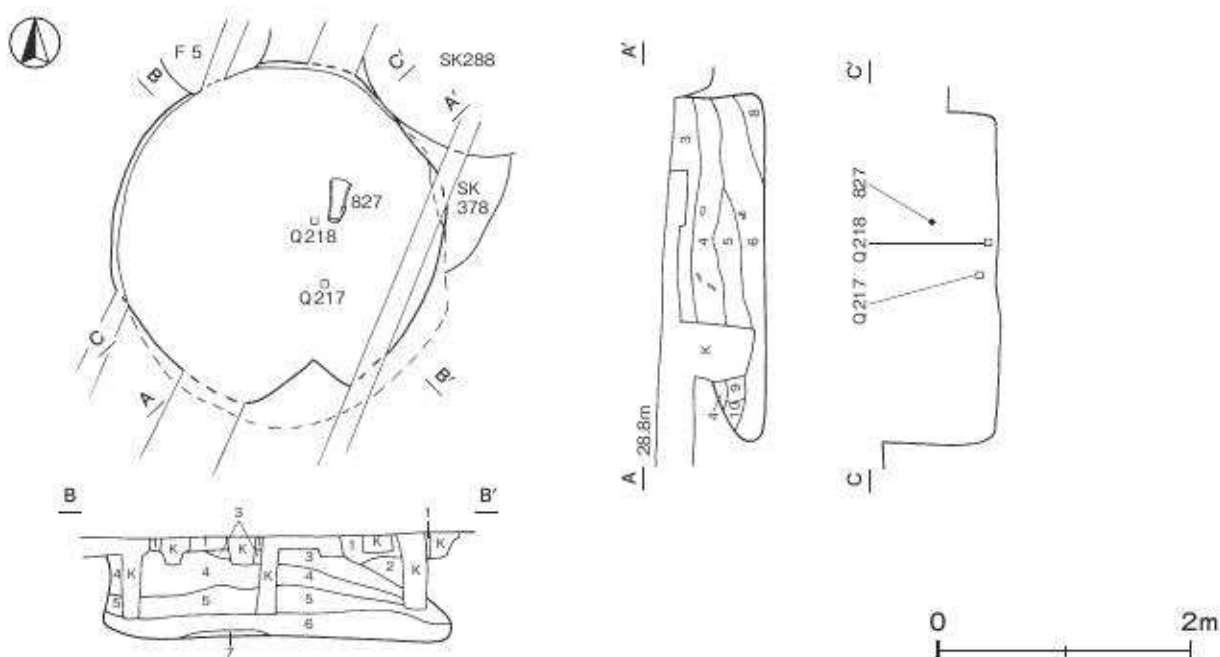
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 213	打製石斧	8.8	4.0	1.6	66.2	緑色岩	楔形 両側縁片面を敲打。刃部片面を研磨	覆土中	PL164
Q 214	打製石斧	10.2	5.2	2.4	98.2	砂岩	新形 片面に自然面。両側縁微細な敲打調整。刃部は未だがり	覆土中層	PL166
Q 215	磨製石斧	6.9	2.1	1.1	23.8	ホルンフェルス	極小型 扁平な自然面。刃部は表裏から研ぎ出す	覆土中	PL170
Q 216	磨製石斧	7.4	3.2	0.8	30.2	角閃岩	小型 扁平な自然面。両側縁に敲。刃部は表裏から研ぎ出す	覆土下層	

第 286 号土坑 (第 312 ~ 314 図 PL53)

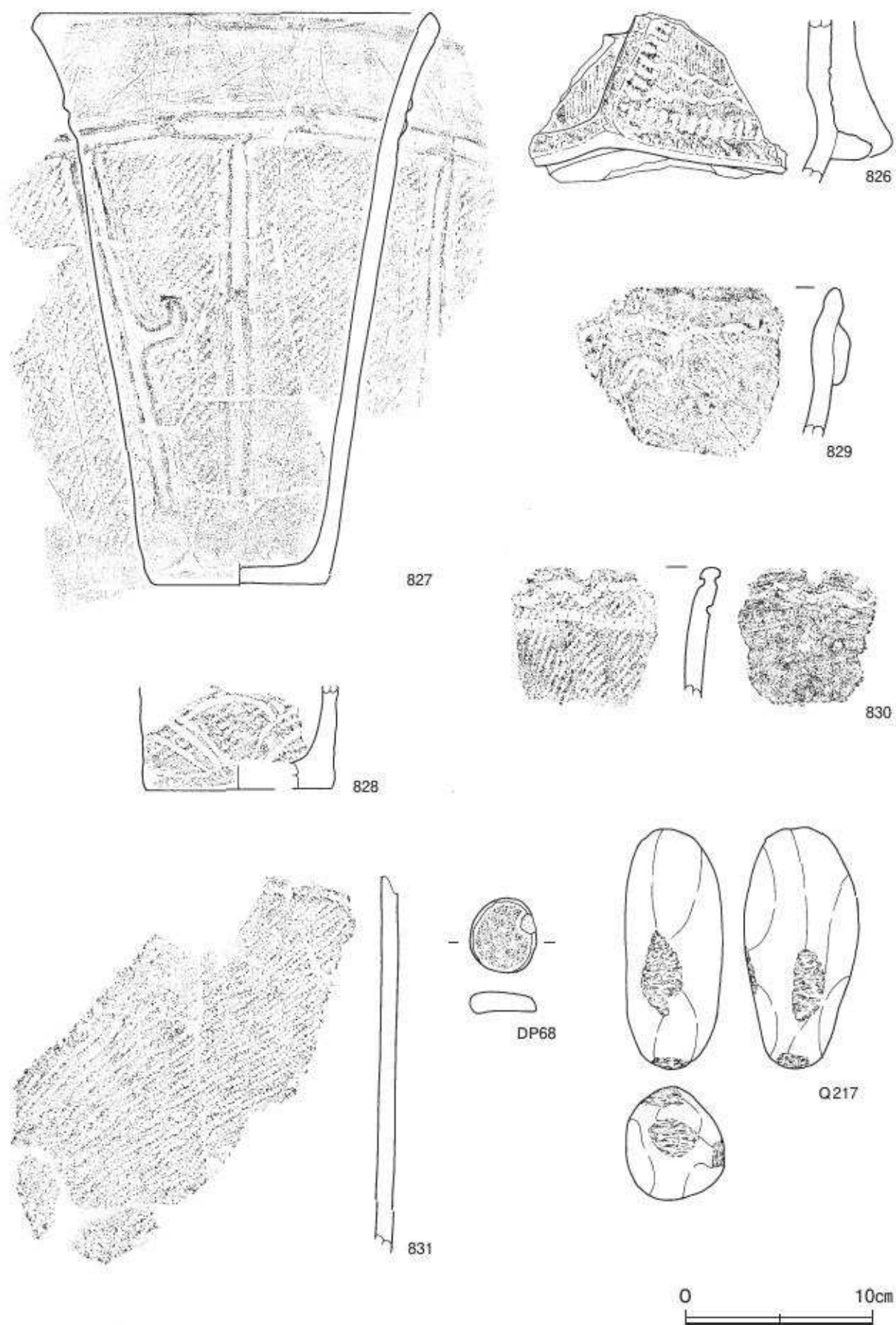
位置 調査区北部のC 3b7区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 5 号炉、第 288 号土坑に掘り込まれている。第 378 号土坑との新旧関係は不明である。

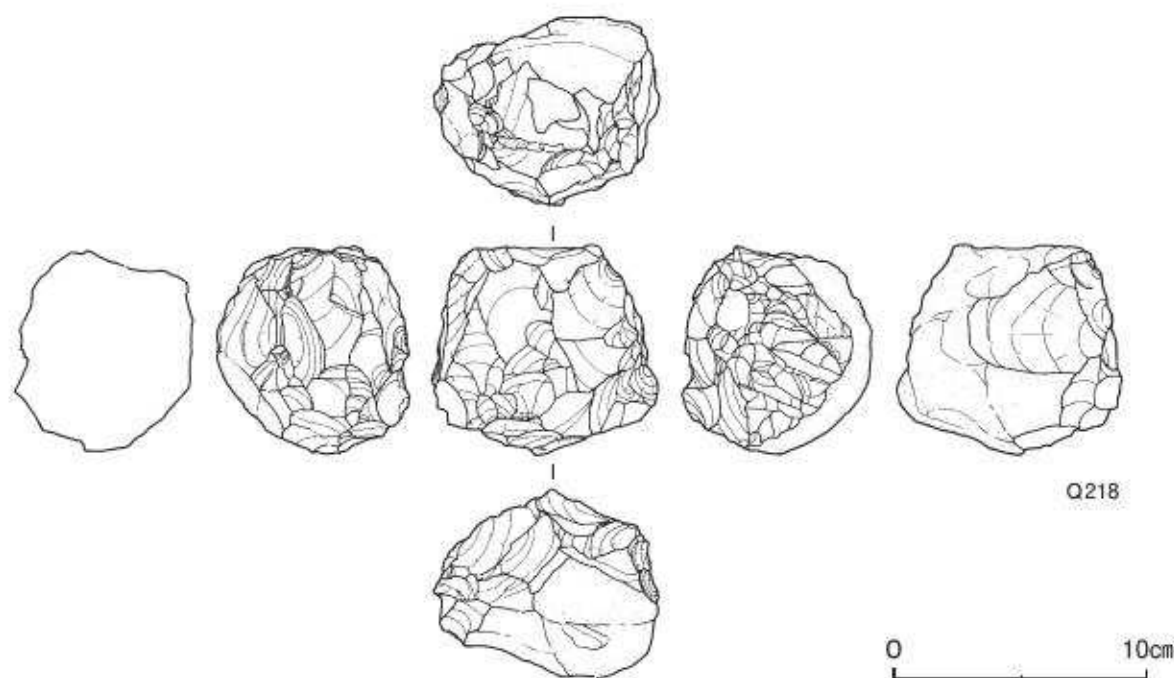
規模と形状 耕作による攪乱を受けているが、開口部は径 2.47 ~ 2.66 m の円形である。底面は長径 2.82 m、短径 2.55 m の楕円形で、平坦である。確認面からの深さは 86 cm である。壁は南東部が内彎しており、その他はやや内傾して袋状を呈している。



第 312 図 第 286 号土坑実測図



第 313 图 第 286 号土坑出土遗物实测图(1)



第314図 第286号土坑出土遺物実測図(2)

覆土 10層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が多く含まれており、北側から埋め戻された堆積状況を示している。

土層解説

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 6 黒褐色 ローム粒子多量、炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック中量 | 7 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子中量 | 8 黒褐色 ローム粒子少量 |
| 4 黒褐色 ローム粒子多量 | 9 褐色 ロームブロック少量 |
| 5 黒褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量 | 10 黒褐色 ロームブロック少量 |

遺物出土状況 縄文土器片 365点（深鉢）、土製品1点（土器片円盤）、石器1点（敲砥石）、母岩1点（瑪瑙）、剥片6点（石英4、瑪瑙2）が出土している。Q 217・Q 218は中央部の覆土下層から、827は中央部の覆土中層から横位でそれぞれ出土しており、埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第286号土坑出土遺物観察表（第313・314図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
826	縄文土器	深鉢	-	(9.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	鉢状の隆帯で区画。隆帯上0段多条縄文RL（縦）。隆帯に沿ってキョクビツ文。区画内条線文・波状沈線文	覆土上層	
827	縄文土器	深鉢	[21.0]	30.6	9.2	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	底文に単節縄文RL（縦）。背割れ隆帯による区画底部ナデ	覆土中層	50% PL131
828	縄文土器	深鉢	-	(5.5)	[10.0]	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	胎文に単節縄文RL（縦）。有節沈線による半帯円文	覆土中	
829	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	胴部無節縄文L（縦）。肥厚部下部にM字状の唇部貼付	覆土中	
830	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	胎文に単節縄文RL（縦）。口縁部上縁外・内面に波状の有節沈線。口唇部棒状の刺突圧痕により波状文	覆土中	
831	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい褐色	普通	0段多条縄文RL（縦）	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP68	土器片円盤	4.0	3.6	1.1	(17.9)	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	胴部片 肩縁部丁寧に研磨	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 217	敲砥石	12.9	5.5	6.1	549.3	安山岩	精円礫の両端及び側縁部に敲打痕・砥面をもつ	覆土下層	PL172
Q 218	母岩	8.9	8.6	7.5	636.6	瑪瑙	裏面に自然面を残し全面磨離	覆土下層	

第 291 号土坑 (第 315 図 PL54)

位置 調査区北部の C 3 b9 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

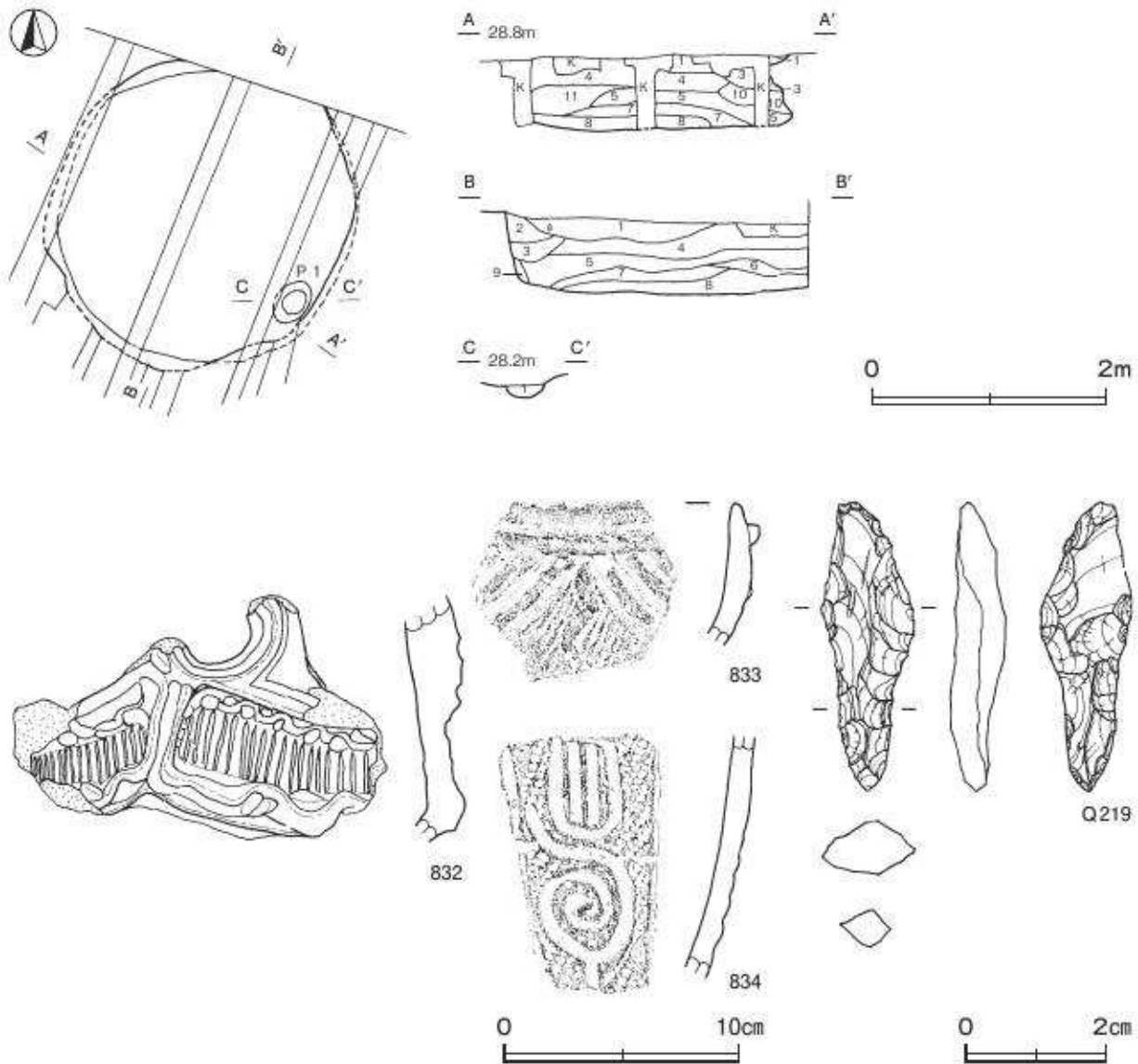
規模と形状 北端部が調査区域外へ延びているが、開口部は径 2.45 ~ 2.59 m の円形と推定できる。底面は径 2.52 m の円形と推定でき、平坦である。確認面からの深さは 62 cm である。壁は南・東部がやや内傾して袋状を呈しており、北・西部はほぼ直立している。

ピット 深さ 11 cm で、性格は不明である。

ピット土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

覆土 11 層に分層できる。含有物が少なく、黒褐色土や暗褐色土が主体であることから、自然堆積である。



第 315 図 第 291 号土坑・出土遺物実測図

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	7 暗褐色	ローム粒子少量
2 極暗褐色	ローム粒子微量	8 におい黄褐色	ロームブロック少量
3 暗褐色	ロームブロック少量	9 黒褐色	ロームブロック微量
4 黒褐色	ローム粒子少量	10 暗褐色	ロームブロック微量
5 黒褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	11 黒褐色	ローム粒子微量
6 暗褐色	ローム粒子微量		

遺物出土状況 縄文土器片 195 点（深鉢 194、浅鉢 1）、石器 3 点（石錐、磨石、敲石）、石核 1 点（瑪瑙）、剥片 5 点（石英 1、安山岩 1、チャート 1、瑪瑙 2）が出土している。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第 291 号土坑出土遺物観察表（第 315 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
832	縄文土器	深鉢	-	(10.5)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰褐色	普通	中型の把手、口縁部彫行際帯による区画、区画内交互刺突文・縦位の条線文	覆土中層	
833	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	におい黄褐色	普通	口縁上部無文帯、隆帯により支線幅細、地文に単筋縄文 RL（縦）	覆土上層	
834	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	におい黄褐色	普通	地文に単筋縄文 RL（縦）、沈線による縦位の渦巻文・横円区画文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 219	石錐	4.1	1.3	0.8	3.1	瑪瑙	両側縁押圧凹縁	覆土下層	PL160

第 292 号土坑（第 316・317 図 PL54）

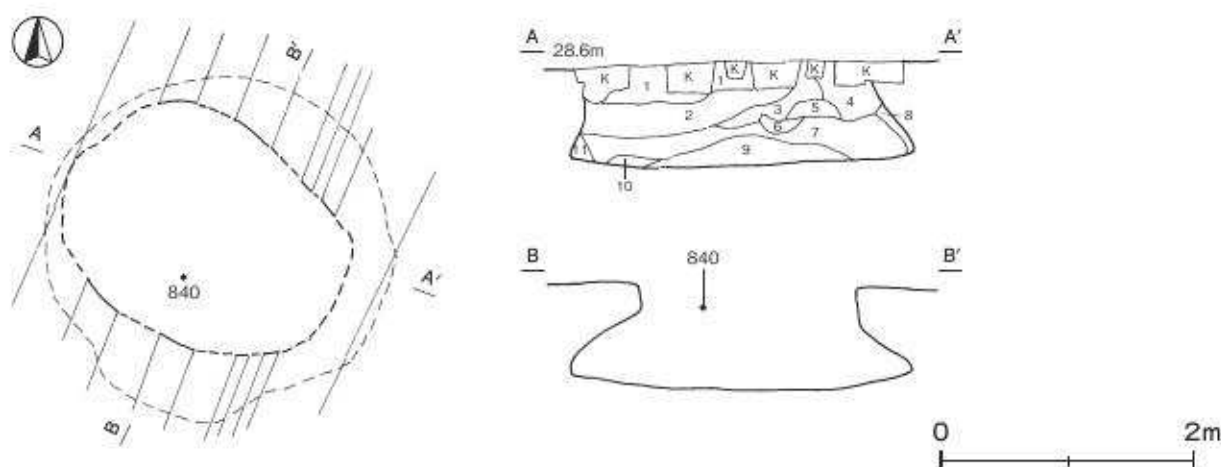
位置 調査区北部の C 3 b3 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 耕作による攪乱を受けているが、開口部は長径 2.34 m、短径 1.79 m の楕円形と推定でき、長径方向は N-70°-W である。底面は径 2.74~2.77 m の円形で、平坦である。確認面からの深さは 83cm である。壁は大きく内傾して袋状を呈し、底面から 45~60cm のところでくびれ、上位は直立している。

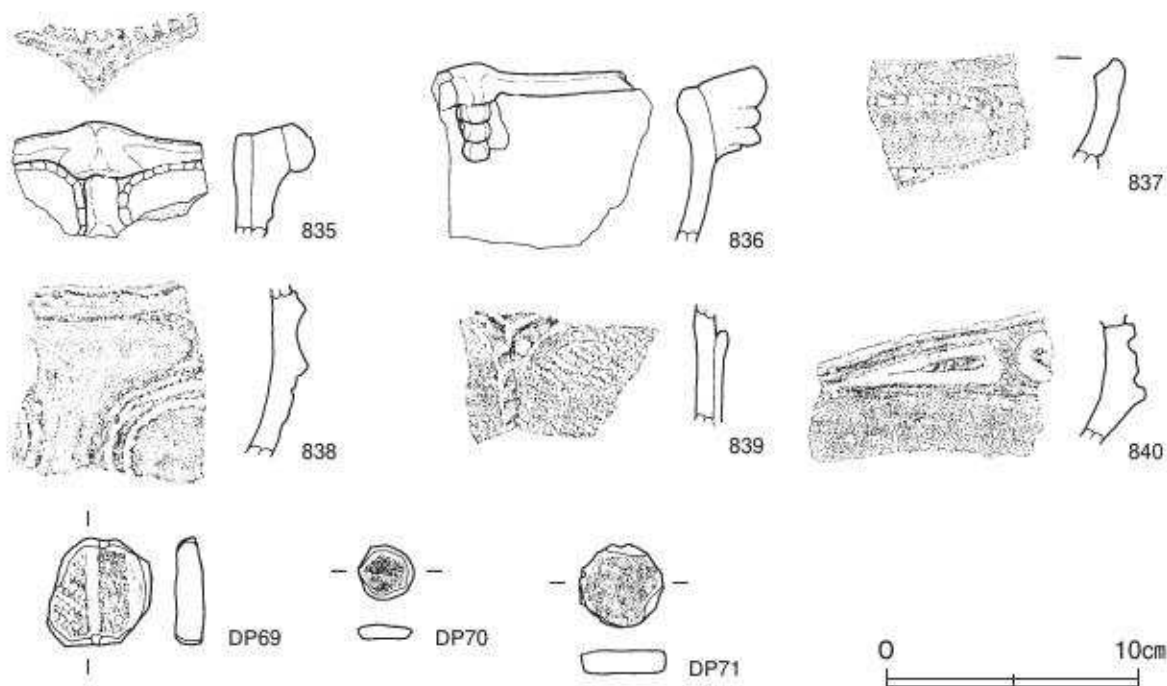
覆土 11 層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量	7 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量
2 黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	8 におい黄褐色	ロームブロック中量
3 暗褐色	ローム粒子中量	9 暗褐色	ロームブロック少量
4 黒褐色	ローム粒子多量、炭化粒子少量	10 黒褐色	ロームブロック少量
5 黒褐色	ローム粒子中量	11 黒褐色	鹿沼パミスブロック中量、ロームブロック少量
6 褐色	ロームブロック中量		



第 316 図 第 292 号土坑実測図



第 317 図 第 292 号土坑出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片 359 点（深鉢 352、浅鉢 7）、土製品（土器片錘 1、土器片円盤 2）・石核（石英、安山岩、瑪瑙）・剥片（安山岩 2、チャート 1）各 3 点が覆土中層から下層にかけて、散乱して出土している。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期前葉と考えられる。

第 292 号土坑出土遺物観察表（第 317 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
835	縄文土器	深鉢	-	(45)	-	長石・石英	灰褐色	普通	口縁上部隆帯貼付、揃み状突起、口縁部内面刻突別、突起部から隆帯垂下、隆帯に沿って有節沈線	覆土中層	
836	縄文土器	深鉢	-	(73)	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	口唇部断面三角形・縦長の段状の隆帯貼付、外・内面横位磨き	覆土中	
837	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	細い隆帯による楕円区画、隆帯に沿って有節沈線	覆土下層	
838	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	断面三角形の隆帯で区画、隆帯に沿って有節沈線	覆土下層	
839	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土・黒色粘土	にぶい褐色	普通	地文に単節縄文RL（横）断面三角形のY字状の隆帯を貼付	覆土下層	
840	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	沈線による文様楕圓、外・内面横位の磨き	覆土中層	

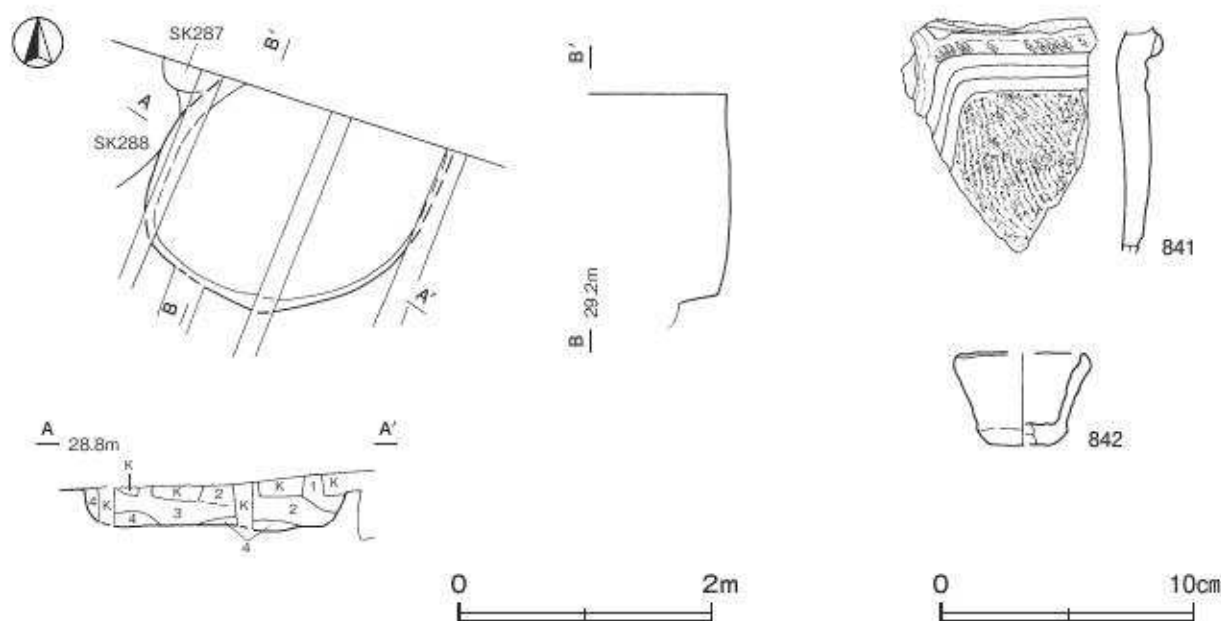
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP69	土器片錘	42	3.1	1.1	234	長石・石英・雲母	にぶい褐色	胴部片、両端にキザミ目	覆土中	
DP70	土器片円盤	21	2.1	0.6	27	長石・石英	褐色	胴部片、刻線部研磨	覆土中層	
DP71	土器片円盤	33	3.3	0.9	106	長石・石英・雲母	褐色	胴部片、刻線部粗雑に研磨	覆土中層	

第 295 号土坑（第 318 図 PL54）

位置 調査区北部の C 3 b8 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 287・288 号土坑との新旧関係は不明である。

規模と形状 耕作による攪乱を受けており、北部が調査区域外へ延びているため、北西・南東径は 1.97 m、北東・南西径は 1.71 m しか確認できなかった。楕円形と推定でき、北東・南西径方向は N - 38° - E である。底面は平坦で、深さ 42cm である。壁は外傾している。



第318図 第295号土坑・出土遺物実測図

覆土 4層に分層できる。含有物が少ない暗褐色土を主体としていることから、自然堆積である。

土層解説

- | | |
|------------------|-----------------|
| 1 にぶい黄褐色 ローム粒子少量 | 3 暗褐色 ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子少量 | 4 暗褐色 ロームブロック少量 |

遺物出土状況 縄文土器片6点（深鉢4，浅鉢1，手捏土器1）が，覆土上層から出土している。

所見 時期は，出土土器から中期中葉と考えられる。

第295号土坑出土遺物観察表（第318図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
841	縄文土器	深鉢	-	(9.4)	-	長石・石英・黒色 粒子	にぶい橙	普通	隆帯による区画，隆帯に沿って2本の太い沈線 隆帯上及び地文に黒部縄文L（縦）	覆土上層	
842	縄文土器	手捏土器	[4.1]	3.1	[2.8]	長石・石英	橙	普通	外面横位のナゲ・指頭痕あり 内面横位のナゲ	覆土中	40%

第299号土坑（第319図）

位置 調査区西部のC2c7区，標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第342号土坑を掘り込み，第4号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 東部を第4号竪穴建物，西部を第342号土坑に掘り込まれており，北西・南東径は2.29m，北東・南西径は2.06mしか確認できなかった。不整楕円形で，北西・南東径方向はN-68°-Wである。底面は平坦で，深さ57cmである。壁は外傾している。

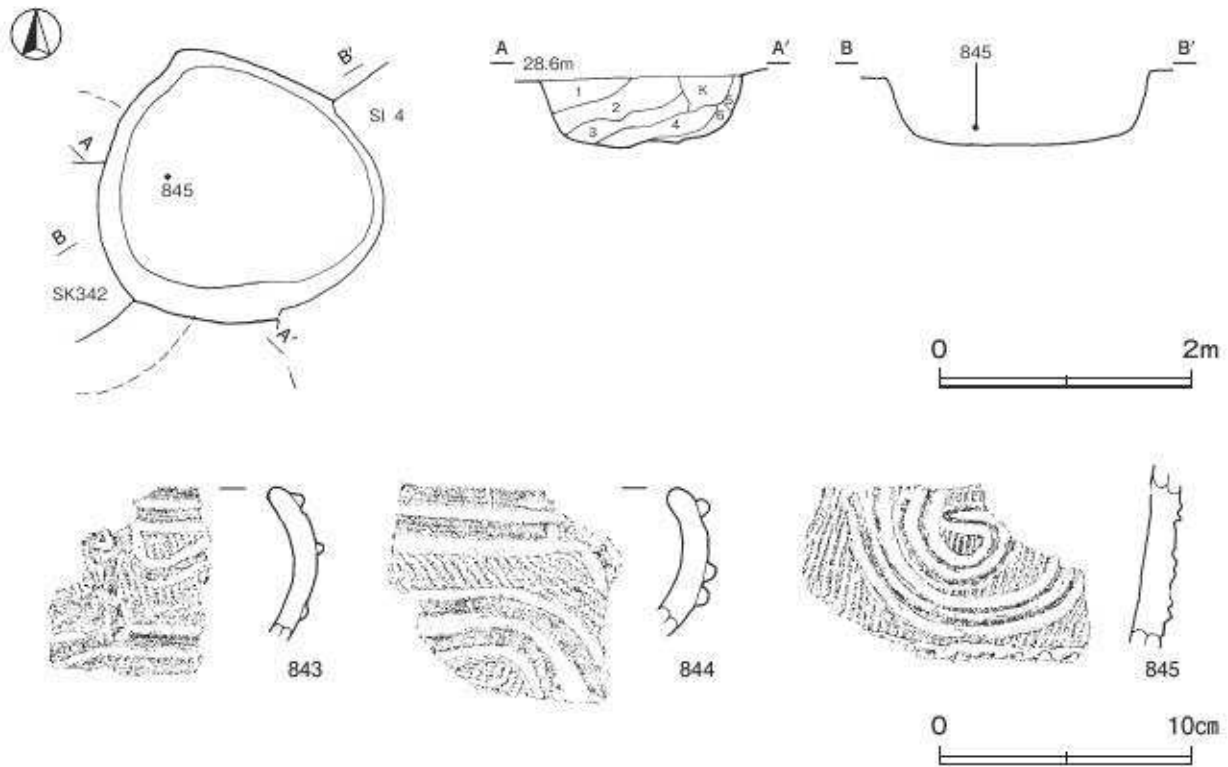
覆土 6層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|-----------------------------|-------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 | 4 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 褐色 ローム粒子多量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 褐色 ロームブロック多量 |

遺物出土状況 縄文土器片26点（深鉢19，浅鉢7）が出土している。845は西部の覆土下層から出土している。

所見 形状から袋状土坑の下部と推定でき，貯蔵穴と考えられる。時期は，出土土器から中期中葉と考えられる。



第 319 図 第 299 号土坑・出土遺物実測図

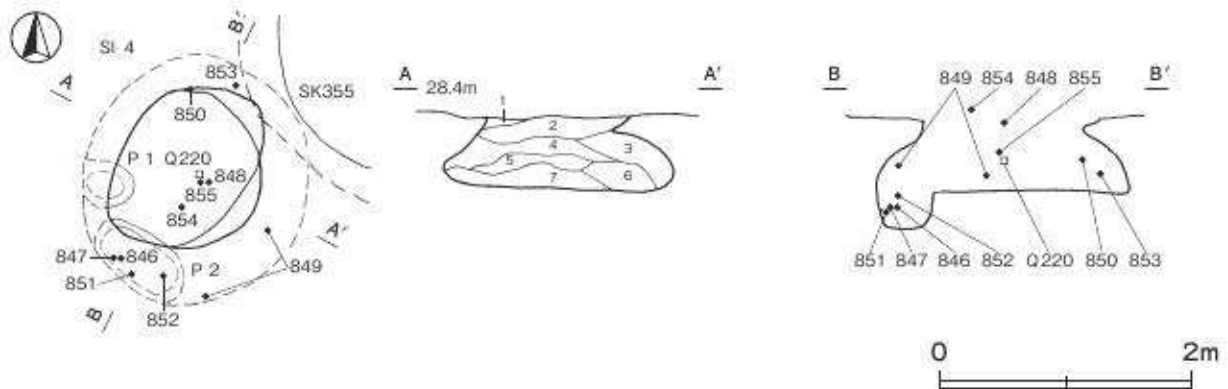
第 299 号土坑出土遺物観察表 (第 319 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
843	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	暗褐色	普通	地文に0段多茶褐色RL(横)隆帯による文様描画 隆帯に沿って沈線	覆土中	
844	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	地文に草節縄文RL(横・斜)隆帯による区画隆帯に沿って沈線	覆土中	
845	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	地文に断糸文(縦)背割れ隆帯による渦巻文	覆土下層	

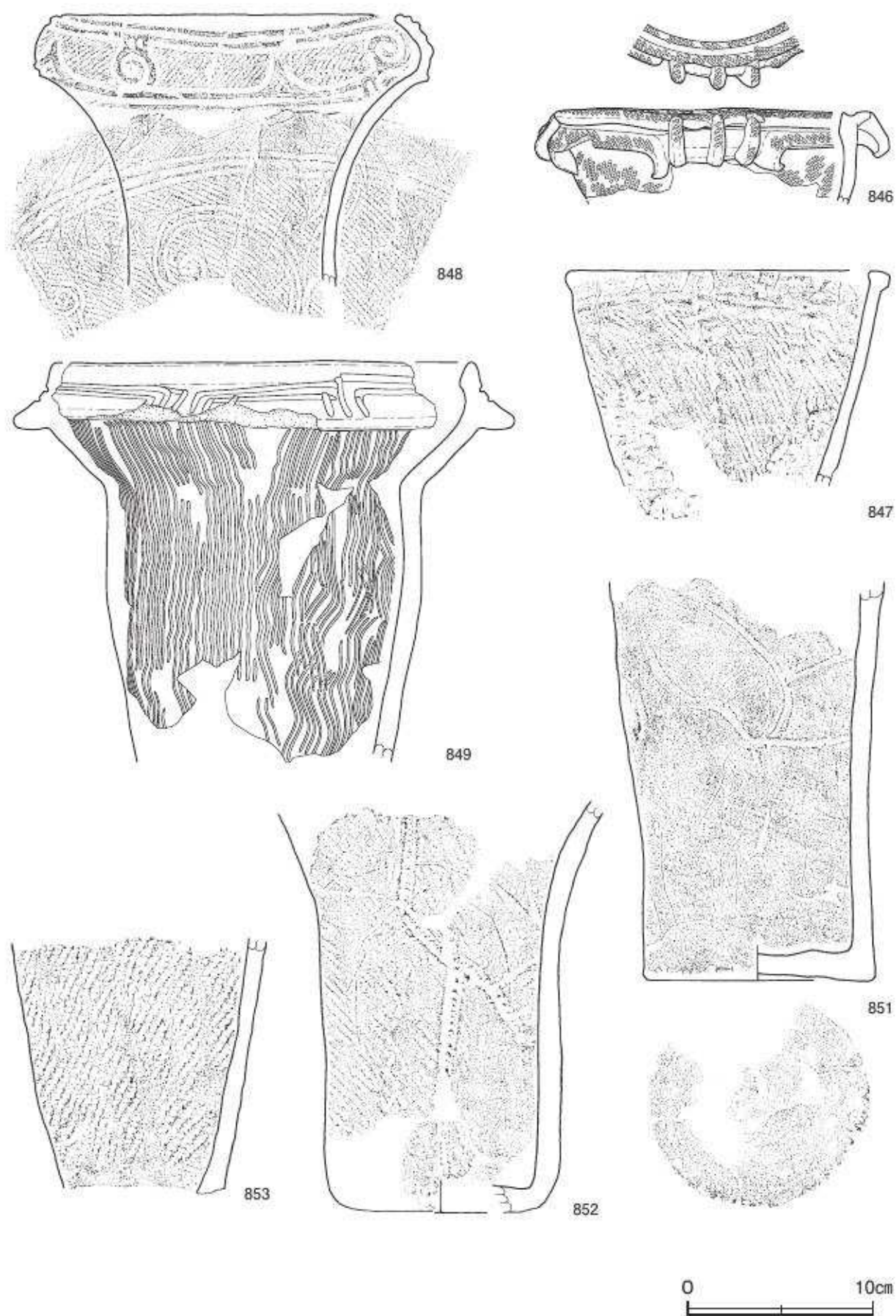
第 300 号土坑 (第 320 ~ 322 図 PL55)

位置 調査区西部のC 2c8区, 標高 28 mほどの台地平坦部に位置している。

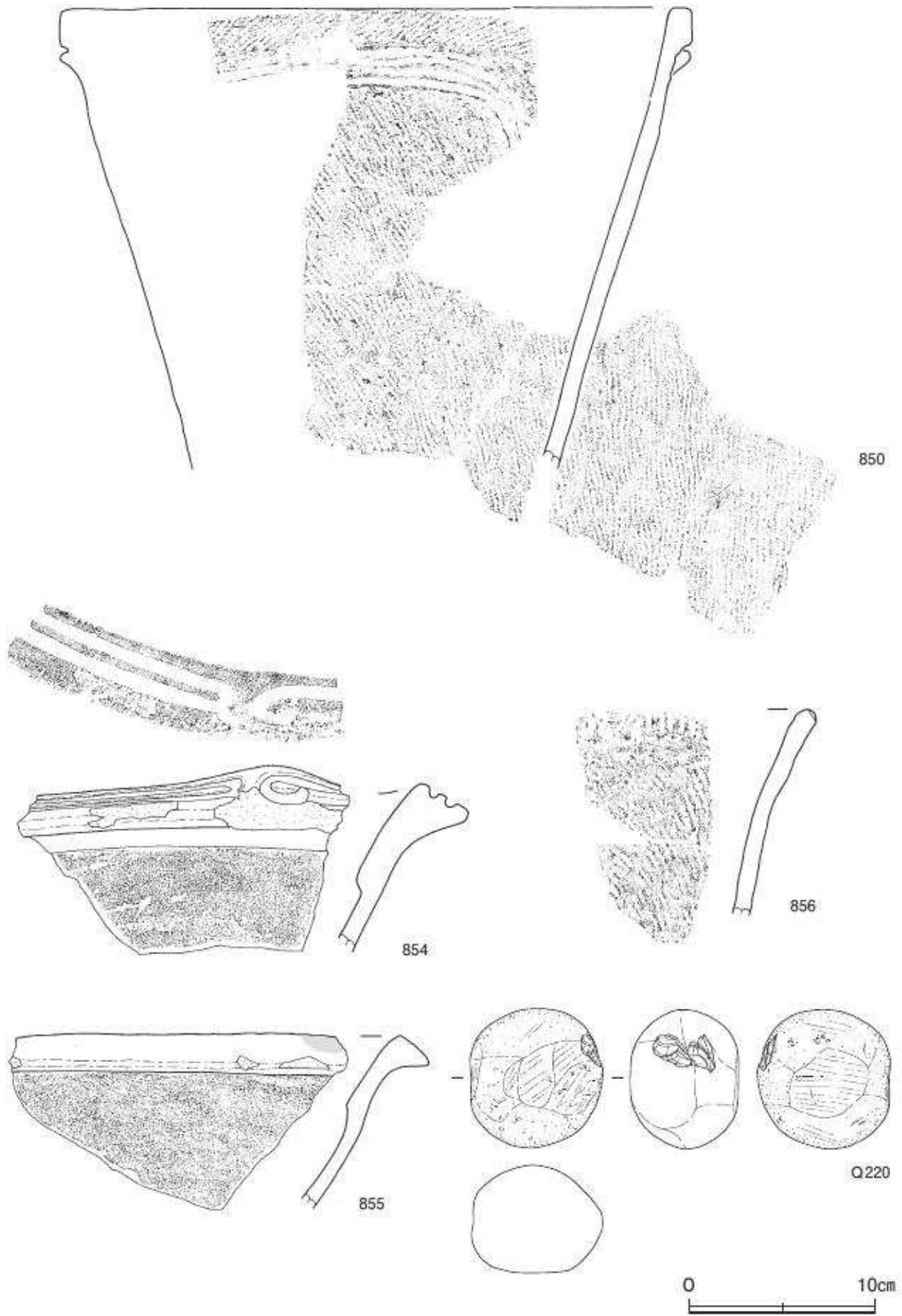
重複関係 第 4 号竪穴建物, 第 355 号土坑に掘り込まれている。



第 320 図 第 300 号土坑実測図



第 321 図 第 300 号土坑出土遺物実測図(1)



第 322 図 第 300 号土坑出土遺物実測図 (2)

規模と形状 開口部は長径 1.48 m、短径 1.15 m の楕円形で、長径方向は N - 50° - E である。底面は径 2.00 m ほどの円形で、平坦である。確認面からの深さは 56cm で、壁は底面から内彎して、袋状を呈している。

ピット 2 か所。P 1 は長径 50cm、短径 30cm の楕円形で、深さ 25cm である。P 2 は長径 80cm、短径 40cm の楕円形で、深さ 30cm である。位置と形状から補助的な貯蔵施設と考えられる。

覆土 7 層に分層できる。下層にロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	5 黒褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	6 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	7 褐色	ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量
4 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量		

遺物出土状況 縄文土器片 89 点（深鉢 87、浅鉢 2）、石器 1 点（敲砥石）、剥片 4 点（瑪瑙）が出土している。849・850・853・855、Q 220 は覆土下層から、848・854 は覆土上層から、846・847・851・852 は P 2 の覆土中層から、856 は覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第 300 号土坑出土遺物観察表（第 321・322 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
846	縄文土器	深鉢	16.3	(5.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	口唇頂部に平坦面を作り出し浅い沈線が一周隆帯貼付による文様描画。隆帯土及び地文に半節縄文 RL (縦) を施す	P 2 覆土中層	10% PL134 外・内面保存着
847	縄文土器	深鉢	[17.6]	(11.5)	-	長石・雲母・赤色粒子・黒色粒子	明赤褐色	良好	口唇頂部に平坦面。胴部無節縄文 L (縦) 外・内面横方向の磨き	P 2 覆土中層	25%
848	縄文土器	深鉢	18.1	(14.7)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明褐色	普通	口縁部無節縄文 LR (横) 口縁上部に沈線が一周隆帯により楕円区画・渦巻文。隆帯に剣先文。胴部無文帯。3本の沈線で区画。胴部同一原体 (縦)。沈線により縦位の渦巻文	覆土上層	40% PL134
849	縄文土器	深鉢	[22.5]	(21.7)	-	長石・石英	暗赤褐色	普通	口縁部に沈線による区画文。胴部の隆帯貼付。胴部から本単位の歯状工具による縦位の蛇行条線文	覆土下層	PL134
850	縄文土器	深鉢	[34.6]	(24.9)	-	長石・石英・雲母・黒色	灰褐色	普通	V字状の隆帯貼付。口縁下に並行沈線。口縁部無節縄文 L (横)・胴部 (縦)	覆土下層	30%
851	縄文土器	深鉢	-	(21.6)	12.2	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	浅い沈線により蛇行線文を描画	P 2 覆土中層	10% PL135
852	縄文土器	深鉢	-	(22.3)	[11.1]	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰褐色	普通	地文に半節縄文 L (縦) をまばらに描く。ベン先状剥突による有節沈線で縦位の文様描画	P 2 覆土中層	60% PL135
853	縄文土器	深鉢	-	(13.8)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明褐色	普通	地文に半節縄文 RL (縦)	覆土下層	30%
854	縄文土器	浅鉢	-	(10.1)	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい赤褐色	良好	口唇頂部に太沈線で楕円文・渦巻文を描画。外・内面横方向の磨き	覆土上層	
855	縄文土器	浅鉢	-	(9.5)	-	長石・石英・雲母	赤褐色	普通	口縁部横方向の磨き。外・内面横方向の磨き。口唇部及び口縁部内面赤彩痕	覆土下層	
856	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	褐色	普通	口唇頂部にキサミ目。胴部無節縄文 L (縦) を施す	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 220	敲砥石	7.5	7.2	5.8	441.9	石英	円礫の磨削面に多方向からの断面により稜をもつ	覆土下層	PL172

第 301 号土坑（第 323 図）

位置 調査区西部の C 2d3 区、標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。

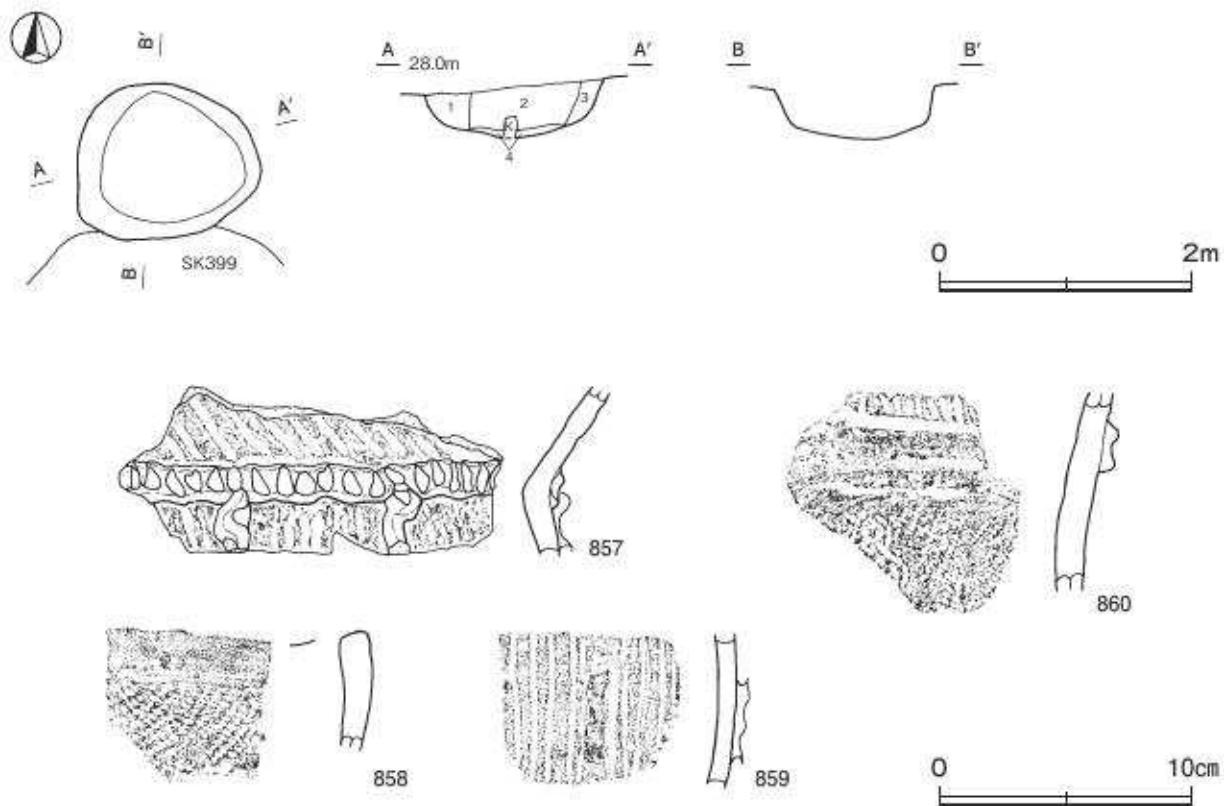
重複関係 第 399 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 1.46 m、短径 1.25 m の楕円形で、長径方向は N - 83° - W である。底面は皿状で、深さは 40cm である。壁は外傾している。

覆土 4 層に分層できる。不自然な堆積状況から、埋め戻されている。

土層解説

1 褐色	ローム粒子微量	3 褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
2 褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	4 にぶい褐色	ロームブロック微量



第 323 図 第 301 号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片 56 点（深鉢 54, 浅鉢 2）, 石器 1 点（磨製石斧）, 石核 1 点（安山岩）が出土している。

857～860 は覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

第 301 号土坑出土遺物観察表（第 323 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
857	縄文土器	深鉢	—	(6.7)	—	長石・石英	にぶい褐色	普通	肩突縁帯が一部、唇部から蛇行縁帯が垂下。地文に斜・縦の条線文。	覆土中	PL133
858	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・黒色粘土	にぶい橙	普通	口唇部厚肉、口縁部無文。地文に単節縄文 RL（縦）を施文。	覆土中	
859	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・針状鉱物	明水褐色	普通	地文に縦位の沈線文。縦位の肩突縁帯が垂下。	覆土中	
860	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	背割れ縁帯が一部、地文に単節縄文 RL（縦）縦位の結節縄文を施文。	覆土中	

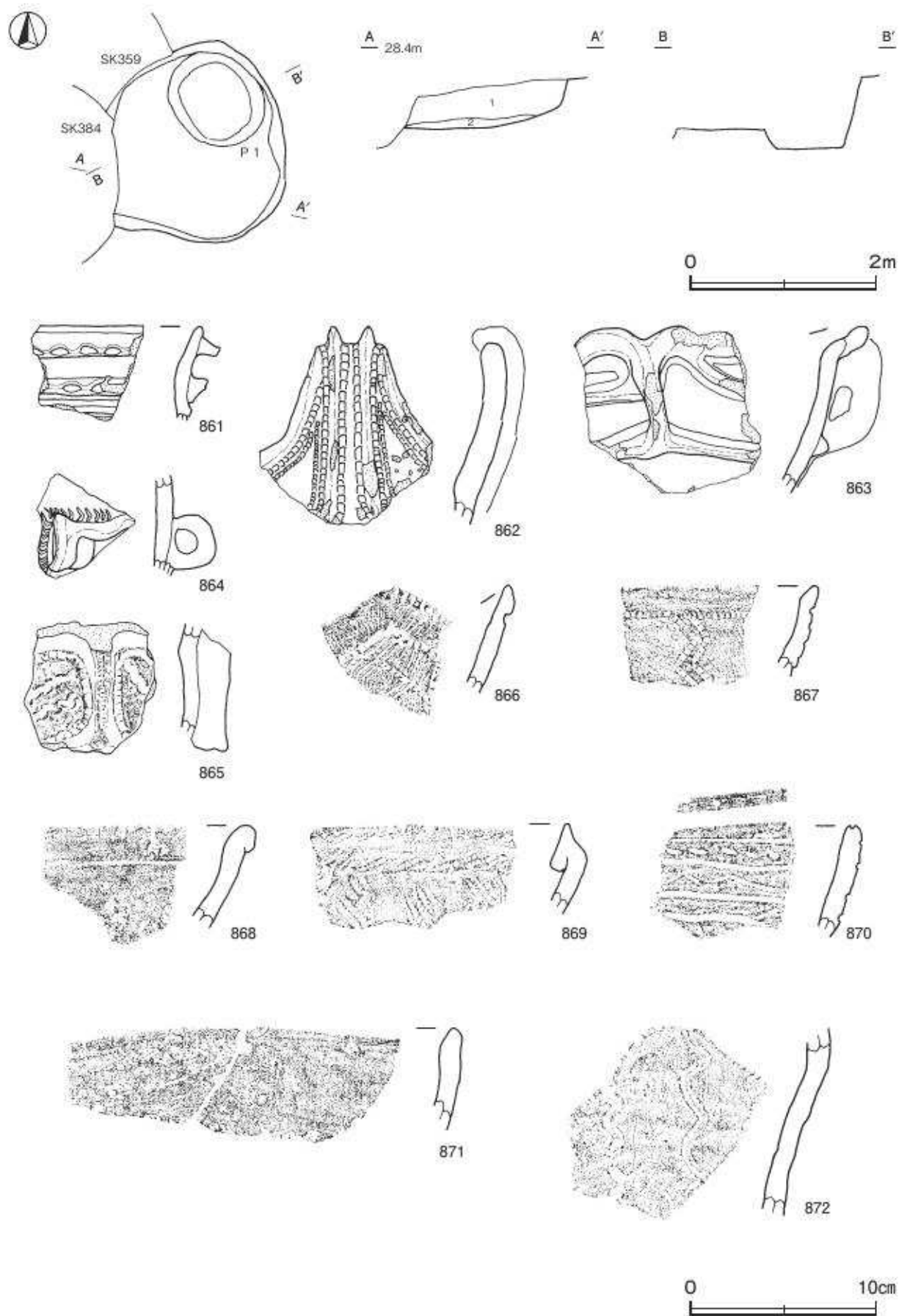
第 302 号土坑（第 324・325 図 PL55）

位置 調査区西部の C 2 e4 区、標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。

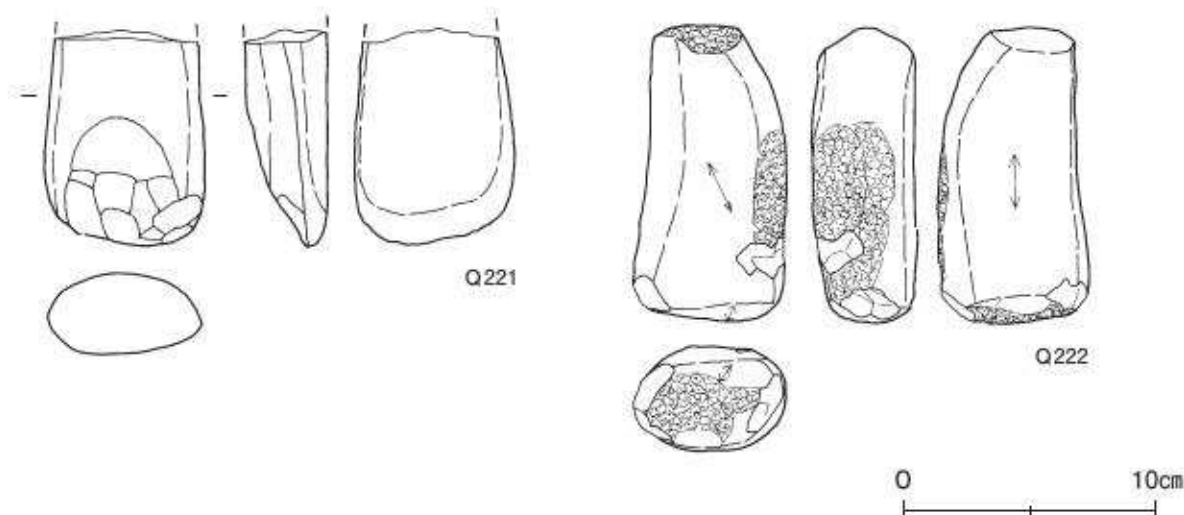
重複関係 第 359・384 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 径 2.05～2.18 m の円形である。底面は平坦で、深さは 55cm である。壁は緩やかに立ち上がっている。

ピット 北東壁際に位置し、長径 110cm、短径 100cm の楕円形で、深さ 20cm である。規模や形状から補助的な貯蔵施設と考えられる。



第 324 図 第 302 号土坑・出土遺物実測図



第 325 図 第 302 号土坑出土遺物実測図

覆土 2層に分層できる。ロームブロックが混入していることから、埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色 炭化粒子中量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量 2 暗褐色 炭化粒子中量, ロームブロック少量, 焼土粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片 489 点 (深鉢 483, 浅鉢 6), 石器 2 点 (打製石斧, 敲砥石), 剥片 2 点 (瑪瑙, 緑泥片岩) が出土している。861 ~ 872, Q 221・Q 222 はいずれも覆土中から出土していることから, 埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期前葉と考えられる。

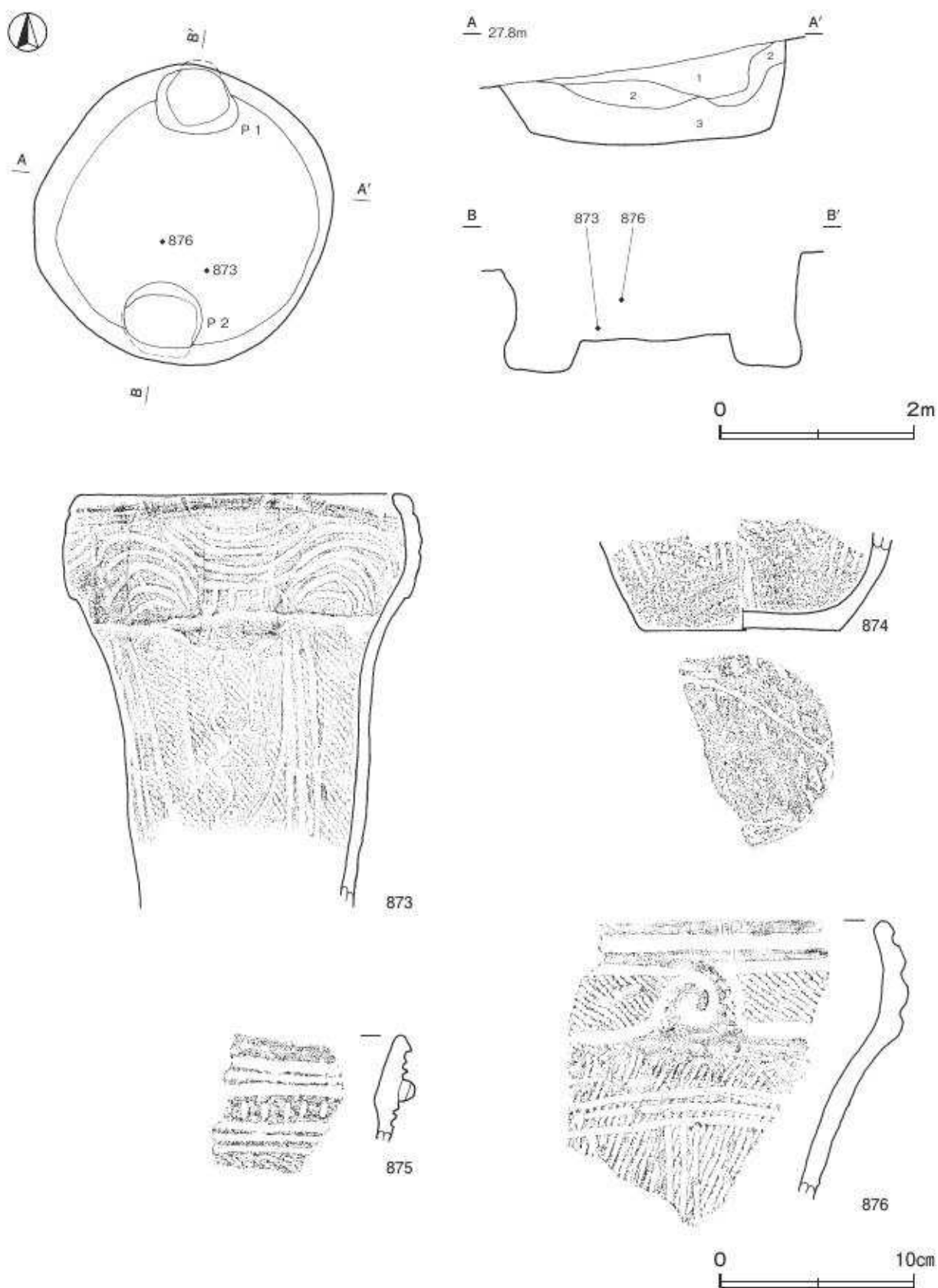
第 302 号土坑出土遺物観察表 (第 324・325 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
861	縄文土器	深鉢	-	(51)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	口唇直下から2条の蝸状隆帯を巡らせ、隆帯上に利突。下位の隆帯下に横位の並行沈線施文	覆土中	
862	縄文土器	深鉢	-	(107)	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	蝸状の隆帯貼付。隆帯に沿って有節沈線を施文	覆土中	
863	縄文土器	深鉢	-	(90)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	断面三角形の隆帯による区画文。隆帯の一部に中空の把手。隆帯に沿って沈線を施文	覆土中	
864	縄文土器	深鉢	-	(56)	-	長石・石英・雲母・黒色粒子・磁礫	橙	良好	断面三角形の隆帯上に眼鏡状の中空把手。隆帯に沿ってペン先状の利突による有節沈線	覆土中	
865	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	隆帯による方形区画。縦位の隆帯と隆帯に沿って有節沈線。区画内2本の蛇行沈線	覆土中	
866	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口縁部肥厚。口唇頂部にキザミ目。肥厚部に条線文。口縁に沿って有節沈線。胎文に横位の条線文	覆土中	
867	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口唇内面内削き。口唇部に列点文。口縁部有節沈線が一巡させ区画。2本の波状有節沈線が垂す	覆土中	
868	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	口唇部肥厚。外・内面横方向のナデ	覆土中	
869	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	赤褐色	普通	口唇内面に横・上縁部横方向のナデ→単節縄文 [長(横) 胴部同一原体により踵を開けて縦施文内面に単な横ナデ]	覆土中	
870	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	口唇頂部に利突。横位の並行沈線を巡らせ沈線間に利突文と蛇行沈線が一巡	覆土中	
871	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口唇部内削き。口唇頂部外削き。外・内面横方向のナデ	覆土中	
872	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	無文地に半截竹管による縦位の蛇行沈線	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 221	打製石斧	(86)	6.3	3.3	(3613)	砂岩	撥形 表裏に自然面 刃部は片面を敲打 基部欠損	覆土中	
Q 222	敲砥石	11.7	4.1	6.0	(4745)	砂岩	楕円形の両端及び片側縁部に敲打痕。破面により稜をもつ	覆土中	PL172

第 303 号土坑 (第 326 図 PL55)

位置 調査区南西部の C 2 i4 区、標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。



第 326 図 第 303 号土坑・出土遺物実測図

規模と形状 径3.06～3.16 mの円形で、底面は平坦である。深さは94cmで、壁はほぼ直立している。

ピット 2か所。南北の壁際に位置しており、いずれも径80cmほどの円形で、深さは30cmである。規模と形状から補助的な貯蔵施設と考えられる。

覆土 3層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況が見られることから、自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 縄文土器片135点（深鉢）、石器1点（磨石）が出土している。873は覆土下層、876は覆土中層から散乱した状態で、874・875は覆土中から出土している。いずれも埋没する過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

第303号土坑出土遺物観察表（第326図）

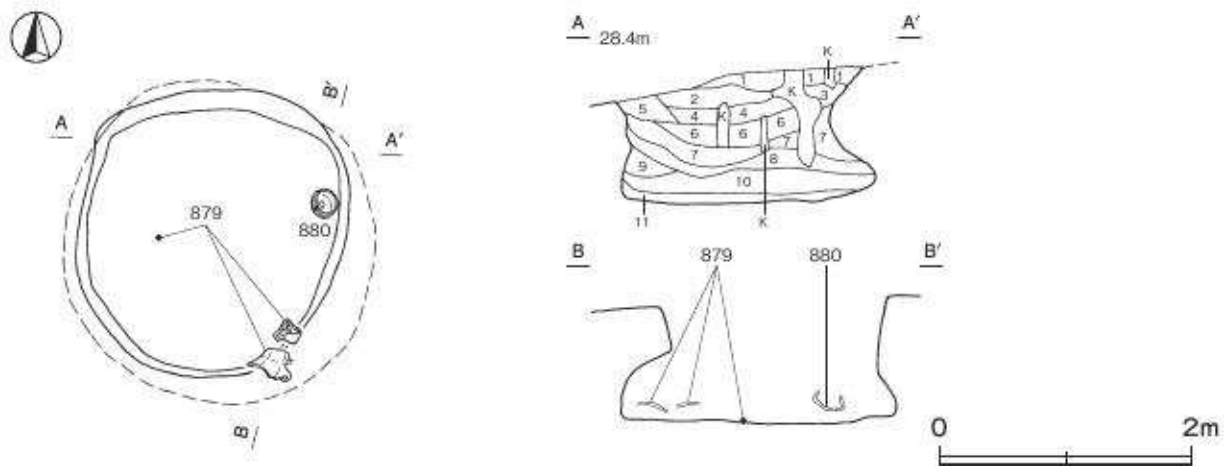
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
873	縄文土器	深鉢	16.0	(21.4)	—	長石・石英・雲母	におい赤褐色	普通	口縁部交互弧線文が一部（割部無節縄文L（縦）） 口縁部下から3本の並行沈線と1本の総行沈線が垂下	覆土下層	60% PL133
874	縄文土器	深鉢	—	(5.5)	10.0	長石・石英・雲母	におい橙	普通	胎文に単節縄文LR（縦） 3本の沈線が垂下 底面網代痕	覆土中	10%
875	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	におい黄褐色	普通	口唇部外側へ棒状工具による3本の沈線・キザミ目の隆帯が一道 割部単節縄文LR（縦）	覆土中	
876	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	におい黄褐色	普通	口唇上部に沈線が一道 隆帯による筒巻区画 区画内単節縄文RL（横） 頸部を3本の横位沈線 で区画し3本の並行沈線が垂下 胎文に同一 原形による網代胎文	覆土中層	PL133

第304号土坑（第327・328図 PL56）

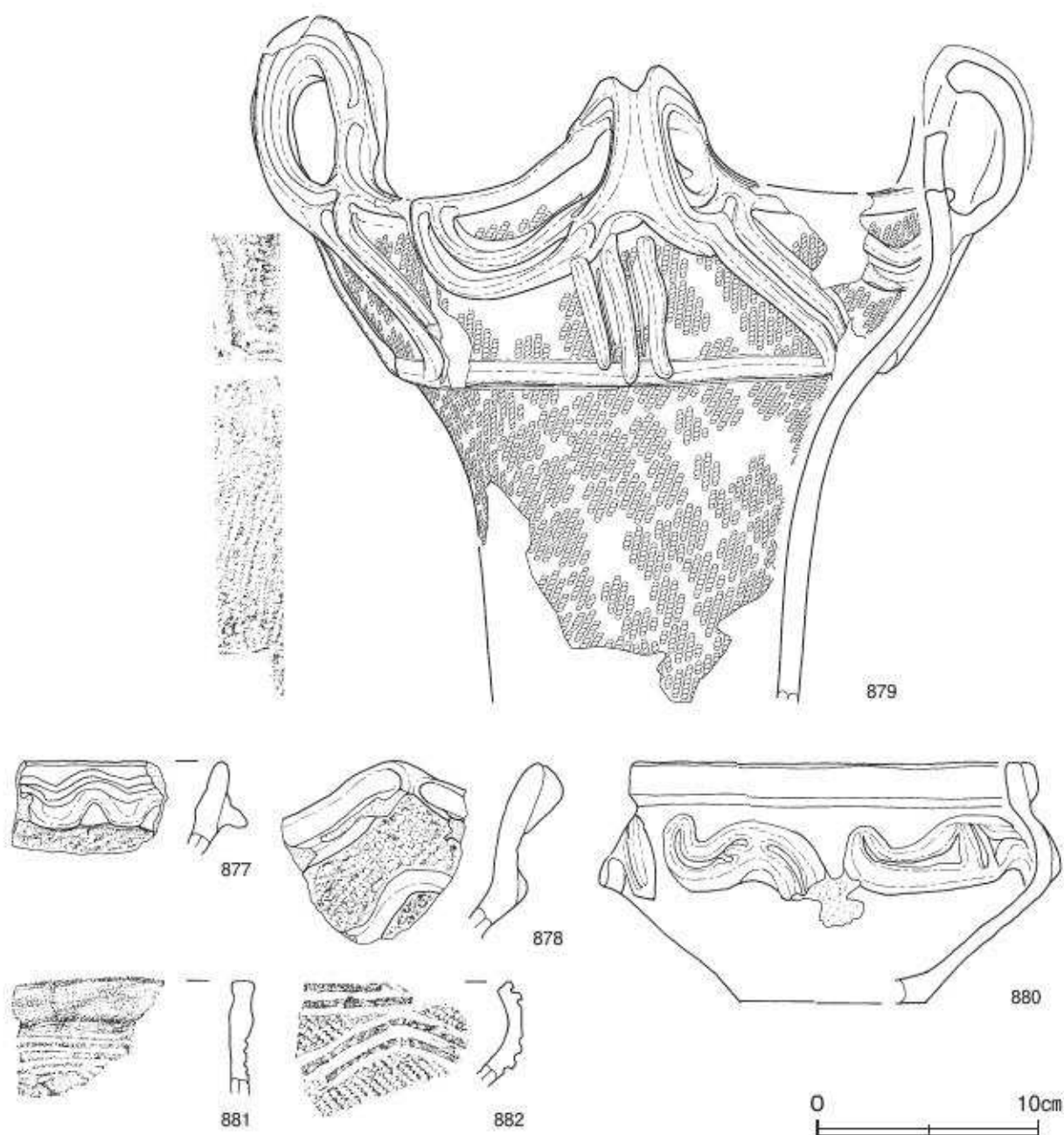
位置 調査区南西部のC215区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 開口部は径2.20～2.40 mの円形である。底面は径2.48～2.60 mの円形で、平坦である。確認面からの深さは102cmである。壁は内彎して、袋状を呈している。

覆土 11層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。



第327図 第304号土坑実測図



第 328 図 第 304 号土坑出土遺物実測図

土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------|---------|-------------------|
| 1 暗 褐色 | ロームブロック中量 | 7 暗 褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 暗 褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 8 暗 褐色 | ローム粒子中量 |
| 3 暗 褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 9 褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 黒 褐色 | ローム粒子微量 | 10 暗 褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 5 暗 褐色 | ロームブロック少量 | 11 褐色 | ロームブロック中量 |
| 6 黒 褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 135 点（深鉢 134, 浅鉢 1）、石核 1 点（安山岩）、剥片 3 点（瑪瑙、頁岩、チャート）が出土している。879・880 は覆土下層から一括出土している。877・878・881・882 は、覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第 304 号土坑出土遺物観察表 (第 328 図)

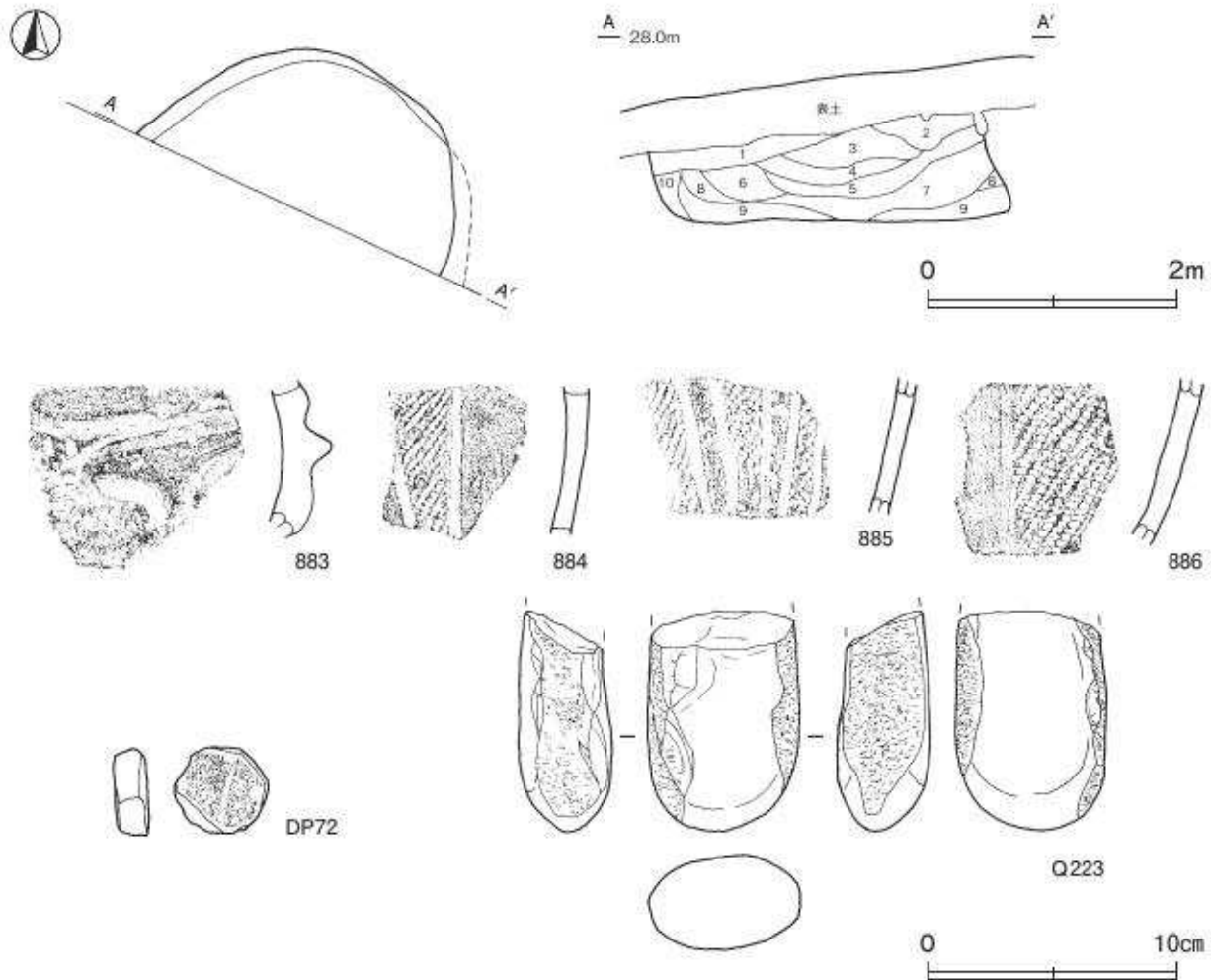
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
877	縄文土器	深鉢	-	(42)	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	口縁部頸状の刺突隆帯が一端 胴部は単節縄文 LR (横)	覆土中	
878	縄文土器	深鉢	-	(80)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口縁部頂部から太沈線 地文に単節縄文 LR (横) 涌線状の蛇行隆帯が走る	覆土中	
879	縄文土器	深鉢	27.2	(31.1)	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	4単位櫛状把手 地文は単節縄文 RL (斜) 隆帯による区画文	覆土下層	PL133
880	縄文土器	浅鉢	18.0	10.9	[8.2]	長石・石英・雲母・赤色粒子	良好	普通	外・内面1単な磨き 口唇部肥厚 青銅製漆帯貼付による横位の5単位の文様描画 口縁部外・内面赤彩帯	覆土下層	90% PL133
881	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口唇部平坦 口唇部肥厚 2本の半截竹管による沈線が一端	覆土中	
882	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐色	普通	口唇上部に管挿れ隆帯が一端 2条の蛇行隆帯が走る 地文に単節縄文 RL (横)	覆土中	

第 305 号土坑 (第 329・330 図 PL56)

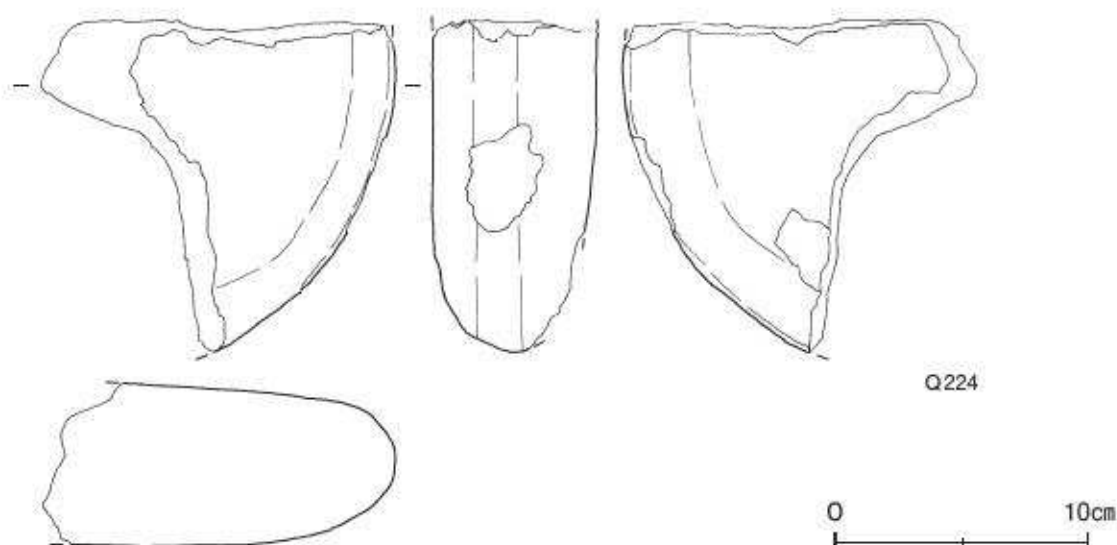
位置 調査区南西部の C 24 区、標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 南西部が調査区域外へ延びていることから、北西・南東径は 2.68 m、北東・南西径は 1.28 m しか確認できなかった。円形または楕円形と推定できる。底面は平坦で、深さ 85cm である。壁は、東部が緩やかに内彎しており、その他はほぼ直立している。

覆土 10 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。



第 329 図 第 305 号土坑・出土遺物実測図



第330図 第305号土坑出土遺物実測図

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|-----------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量 | 6 褐色 | ロームブロック多量、炭化物微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 9 褐色 | ロームブロック中量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 褐色 | ロームブロック多量 |

遺物出土状況 縄文土器片 77 点（深鉢）、土製品 1 点（不明土製品）、石器 5 点（磨製石斧未成品 1、砥石 1、磨石 1、敲石 2）、剥片 1 点（ホルンフェルス）が出土している。883～886、DP72、Q 223・Q 224 は覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

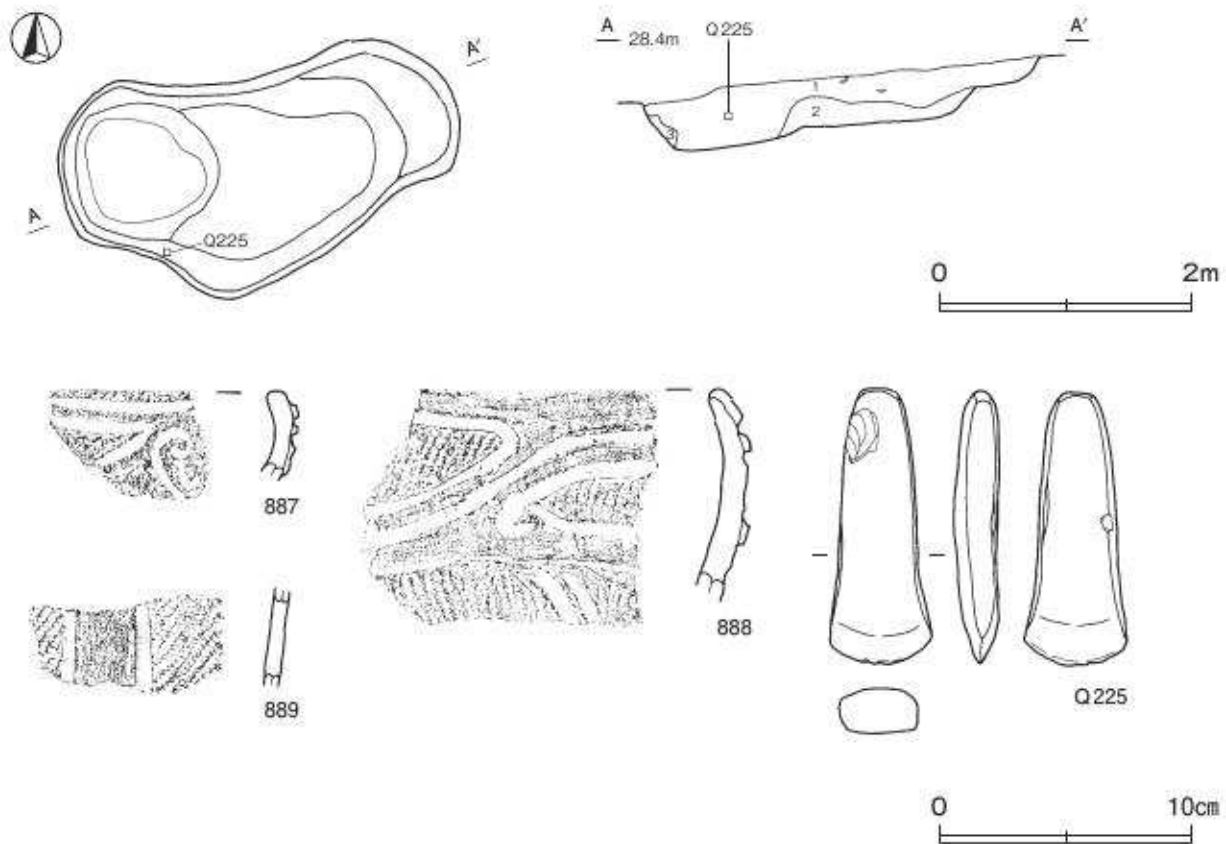
第305号土坑出土遺物観察表（第329・330図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
883	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母・黒色粒子	にぶい黄橙	普通	太沈線による渦巻文 縦長の刺突	覆土中	
884	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	地文に単節縄文 RL（縦） 2本の沈線を垂下 沈線間磨消	覆土中	
885	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	地文に単節縄文 R（縦） 沈線を垂下 沈線間磨消	覆土中	
886	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	地文に単節縄文 RL（縦） 浅い沈線を垂下 沈線間磨消	覆土中	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考	
DP72	不明土製品	3.5	3.7	1.4	18.3	長石・石英・雲母	橙	鋼部片 周縁部粗雑に研磨	覆土中	鏝・内盤未成品。	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考		
Q 223	磨製石斧未成品	(8.9)	6.1	3.7	(314.2)	安山岩	表裏面研磨 両側縁に微細な敲打痕 基部欠損	覆土中	PL171		
Q 224	砥石	(13.2)	(14.0)	6.5	(241.7)	砂岩	石皿転用 表裏に砥面	覆土中	抜熱		

第307号土坑（第331図）

位置 調査区西部のC 2 f4区、標高 28 mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸 3.18 m、短軸 1.74 mの不定形で、長軸方向はN-73°-Eである。底面は東部から西部にかけて3段の階段状を呈し、いずれも平坦である。深さは西部の最深部が 40cmで、壁は外傾している。



第331図 第307号土坑・出土遺物実測図

覆土 3層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
 2 褐色 ロームブロック少量
 3 褐色 ローム粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片69点(深鉢), 石器4点(打製石斧1, 磨製石斧2, 磨石1)が出土している。Q225は覆土中層から, 887~889は, 覆土中から出土している。いずれも埋没過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期後葉と考えられる。

第307号土坑出土遺物観察表(第331図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
887	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明褐色	普通	口縁上部に沈線が一巡。堀い窪帯による渦巻区画区画内早節縄文LR(横)	覆土中	
888	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	窪帯による区画。窪帯に沿って沈線区画。渦巻文区画内早節縄文RL(縦)。胴部同一層体(緑)並行沈線を施す	覆土中	
889	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	地文に早節縄文RL(縦)。2本の沈線を垂下沈線周磨消	覆土中	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
Q225	磨製石斧	109	40	18	107g	砂岩	新形。全面研磨。両側縁に弱い稜。方部は表裏から研ぎ出す。末広がり。			覆土中層	PL168

第308号土坑（第332図）

位置 調査区西部のC2f5区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径2.08m、短径1.43mの楕円形で、長径方向はN-87°-Wである。底面は平坦で、深さは28cmである。壁は外傾している。

ピット 2か所。P1は長径40cm、短径30cmの楕円形で、深さは65cm、P2は径30cmほどの円形で、深さは30cmである。規模と形状から柱穴と考えられる。

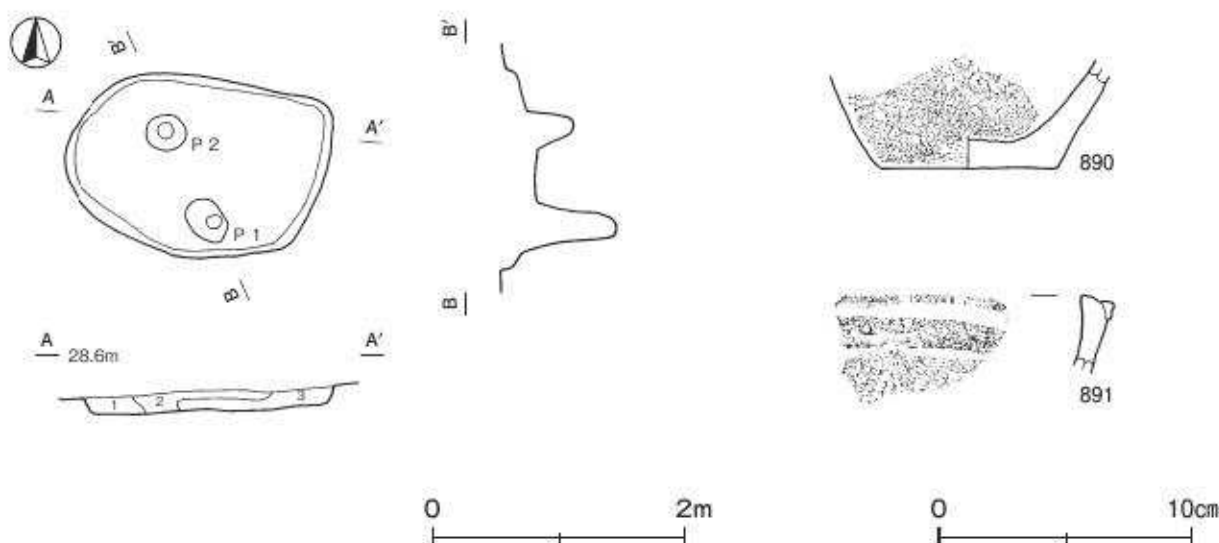
覆土 3層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
3 褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 縄文土器片21点（深鉢）、石器1点（打製石斧）、剥片1点（瑪瑙）が出土している。890・891は覆土中から出土している。埋没過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、柱穴を有する貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第332図 第308号土坑・出土遺物実測図

第308号土坑出土遺物観察表（第332図）

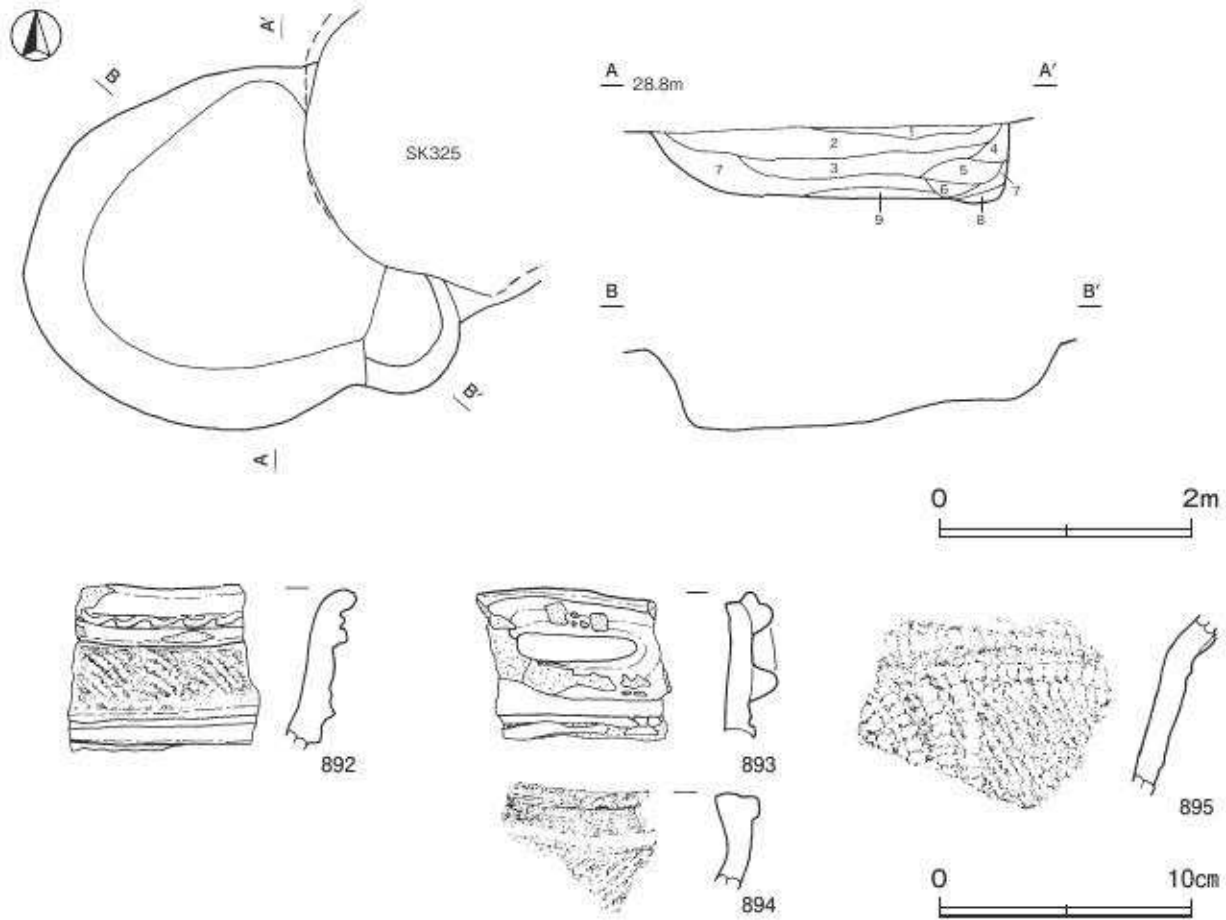
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
890	縄文土器	深鉢	-	(4.3)	7.0	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	地文に単節縄文。胴部下築横方向の磨き。底面下築なす。	覆土中	10%
891	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	口径部肥厚。口径頂部に沈線が一筋。地文に単節縄文LR（横）	覆土中	

第309号土坑（第333図 PL56）

位置 調査区西部のC2g5区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第325号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 長径2.87m、短径2.45mの南東部がやや張り出す楕円形で、長径方向はN-61°-Eである。底面は張り出し部に向かって緩やかに下降しており、深さは52～66cmである。壁は北部がほぼ直立し、南側は外傾している。



第333図 第309号土坑・出土遺物実測図

覆土 9層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	6	暗褐色	ロームブロック中量
2	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	7	褐色	ロームブロック中量、炭化物微量
3	黒褐色	炭化粒子中量、ロームブロック少量、焼土粒子微量	8	褐色	ロームブロック多量、炭化粒子微量
4	褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	9	褐色	ロームブロック多量
5	黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量			

遺物出土状況 縄文土器片106点（深鉢102、浅鉢4）、剥片6点（粘板岩4、チャート2）が出土している。

892～895は覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第309号土坑出土遺物観察表（第333図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
892	縄文土器	深鉢	-	(66)	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	口縁部2本の隆帯が一帯、隆帯間に交互刺突による波状文。区内単節縄文LR（縦）	覆土中	
893	縄文土器	深鉢	-	(59)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	隆帯による横位の楕円区画。隆帯下に2本の有節沈線を描文	覆土中	
894	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐色	普通	口唇部厚肉。口唇頂部に太沈線が一帯。地文に0段多条縄文RL（縦）	覆土中	
895	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	溝線状隆帯による区画文。地文に無節縄文L（縦）。隆帯に沿って2本の有節沈線	覆土中	

第310号土坑 (第334図 PL57)

位置 調査区南西部のC 2i7区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第385号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は径2.57～2.65mの円形である。底面は径2.39～2.45mの円形で、平坦である。確認面からの深さは93cmで、壁は北部がほぼ直立しており、その他は底面から内彎して、袋状を呈している。

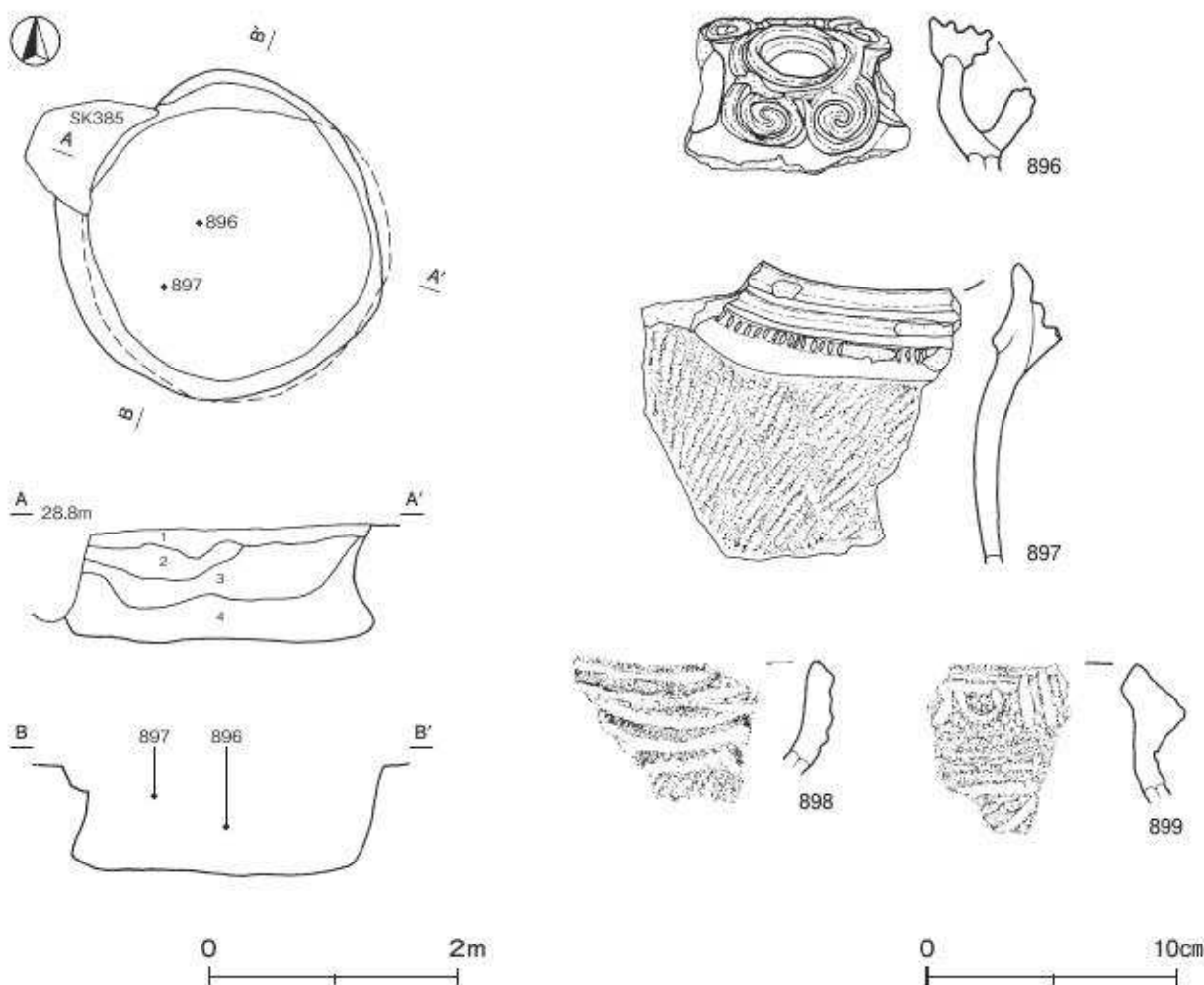
覆土 4層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|--------------------|----------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量 | 3 極暗褐色 ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子微量 | 4 褐色 ロームブロック微量 |

遺物出土状況 縄文土器片39点(深鉢)、剥片3点(瑪瑙、石英、チャート)が出土している。896・897は中央部の覆土中層から、898・899は覆土中からそれぞれ出土している。いずれも埋没過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第334図 第310号土坑・出土遺物実測図

第 310 号土坑出土遺物観察表 (第 334 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
896	縄文土器	深鉢	-	(62)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	中空把手。把手頂部に3箇の高卷文。把手下部に2箇の高卷文を描画	覆土中層	
897	縄文土器	深鉢	-	(120)	-	長石・石英・雲母	にぶい焼	普通	口唇内側にシャープな段。口縁部3条の隆帯を巡らし下段の隆帯にキザミ目。地文に単節縄文RL(縦)	覆土中層	10% 口縁部煤付着
898	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい焼	普通	地文に単節縄文LR(横) 隆帯により文様描画	覆土中	
899	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粘土	橙	良好	口唇部肥厚。肥厚部に単節縄文RL(横) 沈線により口縁部文様を描画	覆土中	

第 311 号土坑 (第 335 図)

位置 調査区南西部のC 2j7区、標高 29 mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 1.76 m、短径 1.57 mの不整楕円形で、長径方向はN-69°-Wである。底面は平坦である。深さは 28cmで、壁は外傾している。

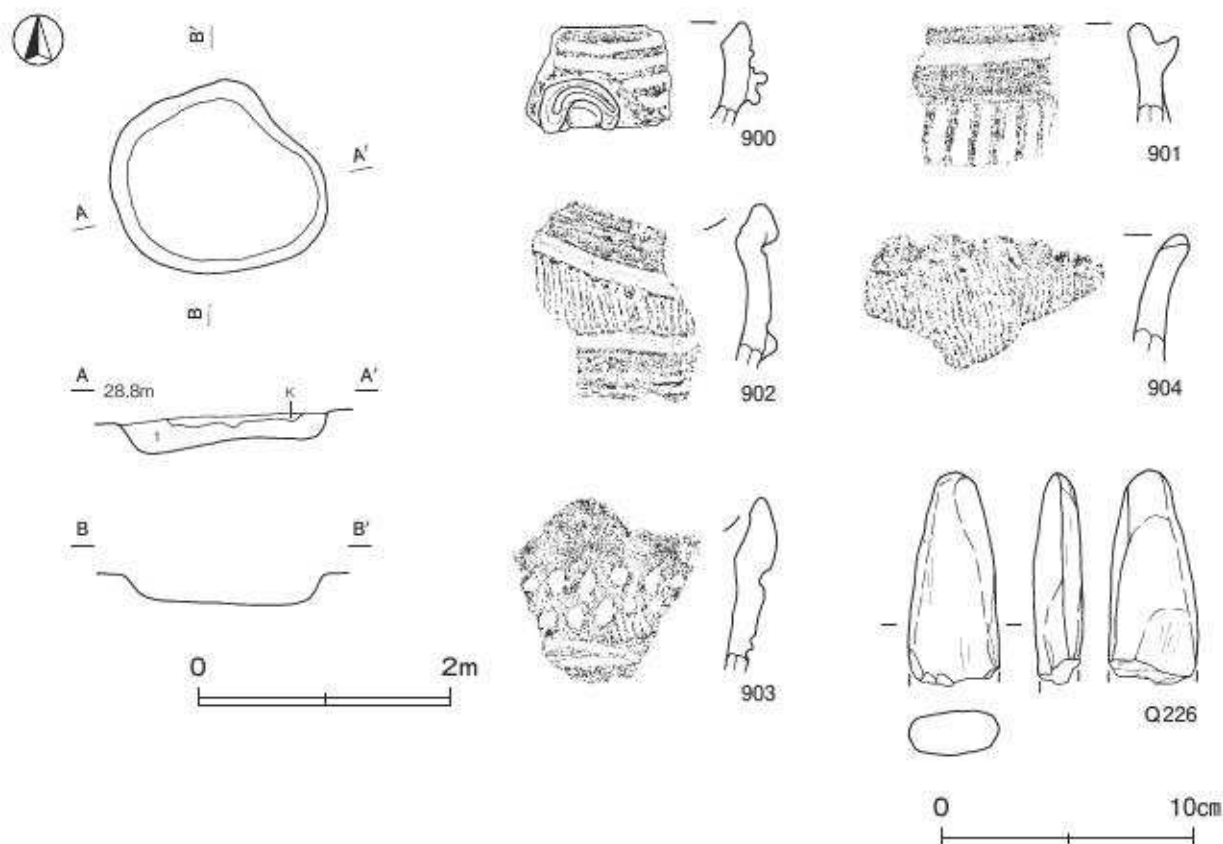
覆土 単一層であることから、埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 縄文土器片 141 点 (深鉢 139、浅鉢 2)、石器 3 点 (磨製石斧 1、磨石 2)、剥片 2 点 (瑪瑙、トトロ石) が出土している。900～904、Q 226 は覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。



第 335 図 第 311 号土坑・出土遺物実測図

第311号土坑出土遺物観察表(第335図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
900	縄文土器	深鉢	-	(4.2)	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	口唇部内削さ 半楕円隆帯貼付 沈線による横線文	覆土中	
901	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	橙	普通	口唇部肥厚 口唇頂部に太沈線が一部 太沈線による縦位の沈線	覆土中	
902	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい赤褐色	普通	口唇部肥厚 楕円状隆帯による区画文 区画内斜位の条線文	覆土中	
903	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	明褐色	普通	2条の縦長の刺突が高る 地文に縦位の燃糸文	覆土中	
904	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐	普通	口唇頂部隆帯による波状 口縁直下から縦位の燃糸文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q226	磨製石斧	(8.4)	3.6	1.8	(92.8)	角閃岩	短冊形 表裏面研磨 刃部欠損	覆土中	PL168

第312号土坑(第336図)

位置 調査区南部中央のD3b1区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第484号土坑を掘り込み、第313号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径2.28、短径1.57mの楕円形で、長径方向はN-86°-Wである。底面はほぼ平坦で、深さは45cmである。壁は外傾している。

覆土 3層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積と考えられる。

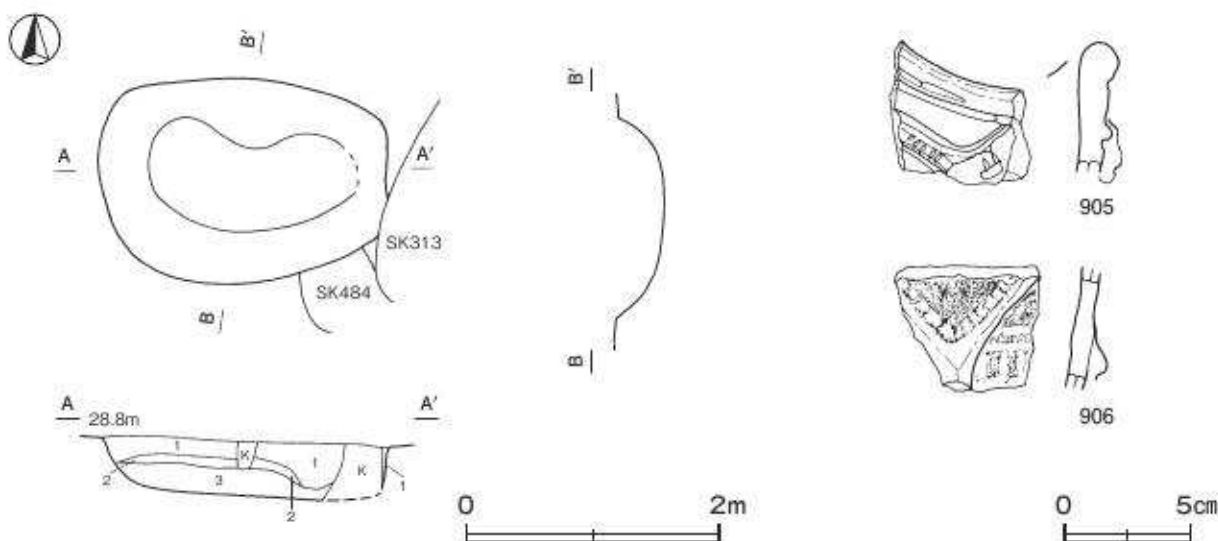
土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
2 褐色 ローム粒子少量

- 3 明褐色 ローム粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片23点(深鉢)が出土している。905・906は、覆土中から出土している。いずれも埋没過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第336図 第312号土坑・出土遺物実測図

第312号土坑出土遺物観察表(第336図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
905	縄文土器	深鉢	-	(5.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口唇部肥厚 隆帯により文様描画 隆帯に沿って沈線を附加 一部隆帯にキザミ目	覆土中	
906	縄文土器	深鉢	-	(5.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	楕円三角形の隆帯によるY字状文 交点挿み状隆帯に沿って有部沈線 横位の爪形文	覆土中	

第 313 号土坑 (第 337 図)

位置 調査区南部中央の D 3 c2 区。標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 312・315・484 号土坑を掘り込み、第 2 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 径 3.46 ~ 3.52 m の円形で、底面は皿状である。深さは 63cm で、壁は外傾している。

ピット 2 か所。P 1 は東部に位置し、径 1.10 m ほどの円形で、深さは 12cm である。規模と形状から、補助的な貯蔵施設と考えられる。P 2 は中央部に位置し、長径 50cm、短径 40cm の楕円形で、深さ 70cm である。位置と形状から柱穴と考えられる。

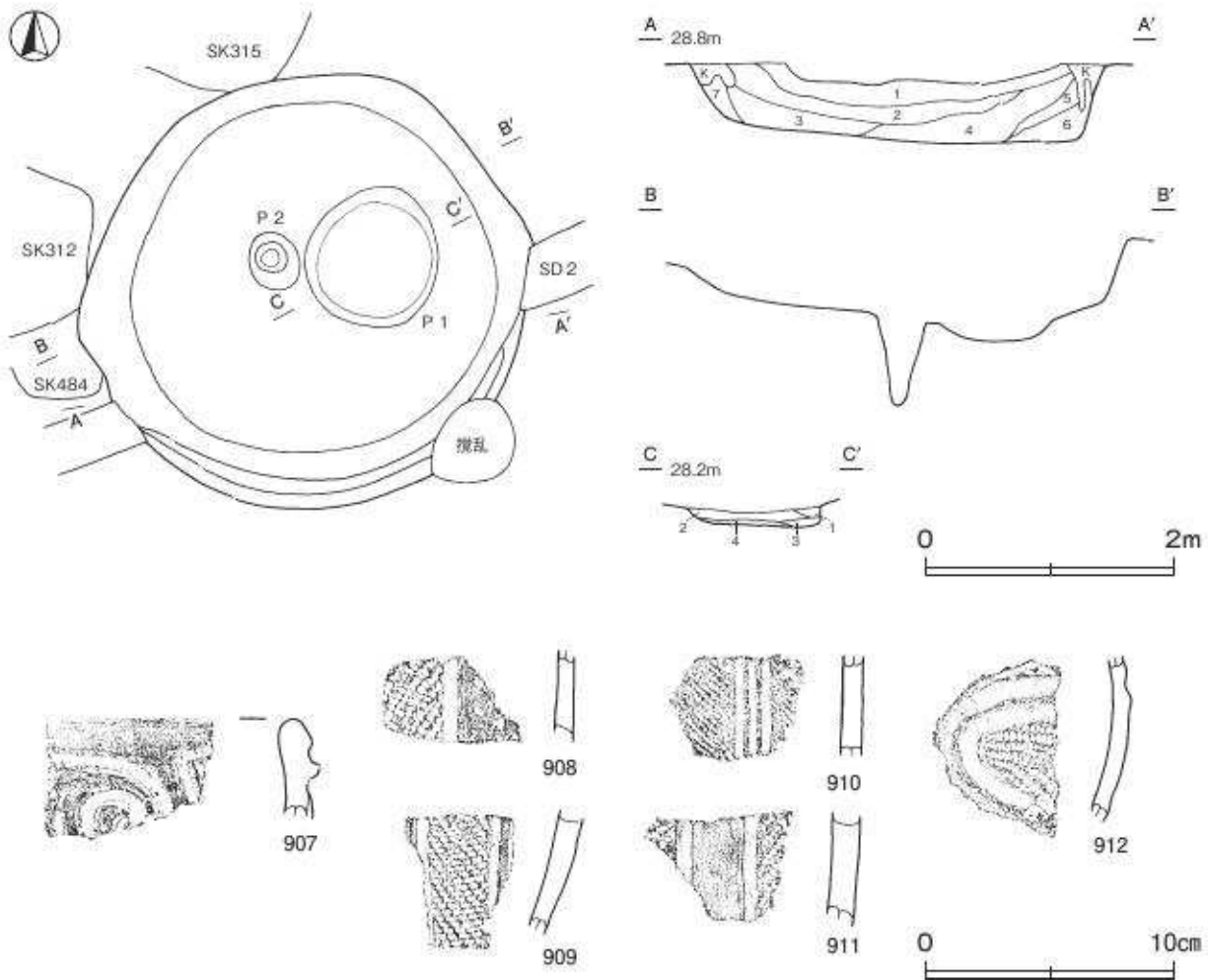
ピット土層解説

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック微量 | 3 明褐色 ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量 | 4 褐色 ロームブロック中量 |

覆土 7 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|------------------------|-----------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 5 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 6 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量 | 7 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック中量、炭化物微量 | |



第 337 図 第 313 号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片 77 点（深鉢）が出土している。907～912 は、覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、中央に柱穴を有する貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

第 313 号土坑出土遺物観察表（第 337 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
907	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	太沈線による渦巻文・方形区画 外・内面横方向の磨き	覆土中	
908	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	地文に単節縄文 RL（縦）太沈線が垂下 沈線間磨消	覆土中	
909	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	地文に複節縄文 LRL（縦）並行沈線が垂下 沈線間磨消	覆土中	
910	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい橙	普通	地文に単節縄文 LR（縦）3本の並行沈線が垂下	覆土中	
911	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	地文に単節縄文 RL（縦）並行沈線が垂下 沈線間磨消	覆土中	
912	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明橙	普通	地文に単節縄文 RL（斜）磨消を伴う隆起線により橋門区画	覆土中	

第 314 号土坑（第 338・339 図）

位置 調査区南部の D 3a1 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 径 2.40～2.47 m の円形で、底面は平坦である。深さは 70cm で、壁は外傾している。

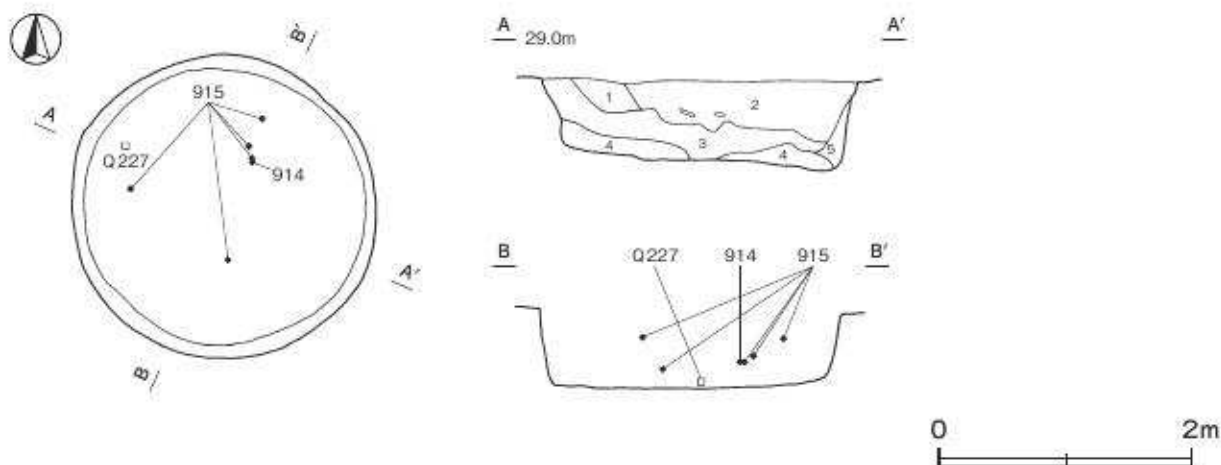
覆土 5 層に分層できる。ロームブロックや炭化物が含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

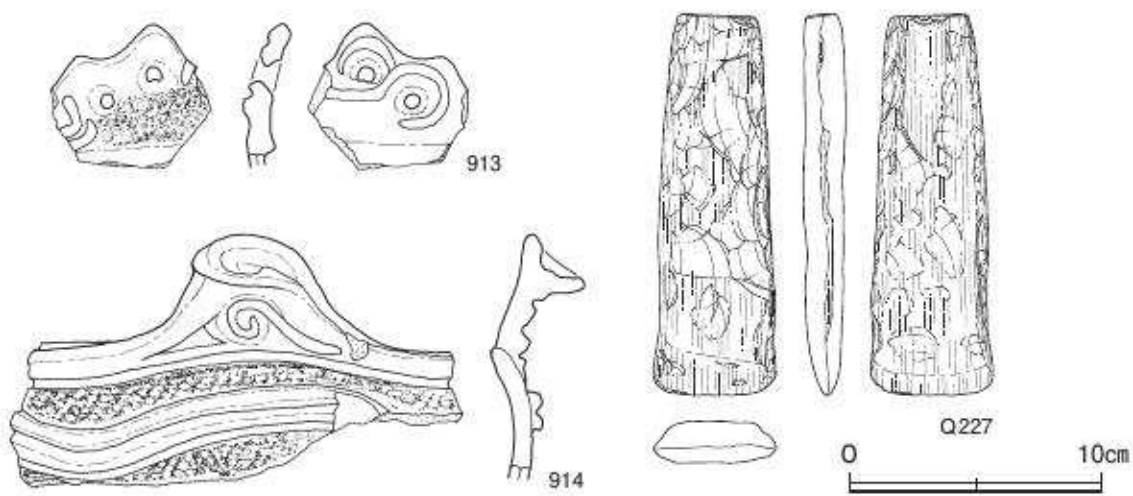
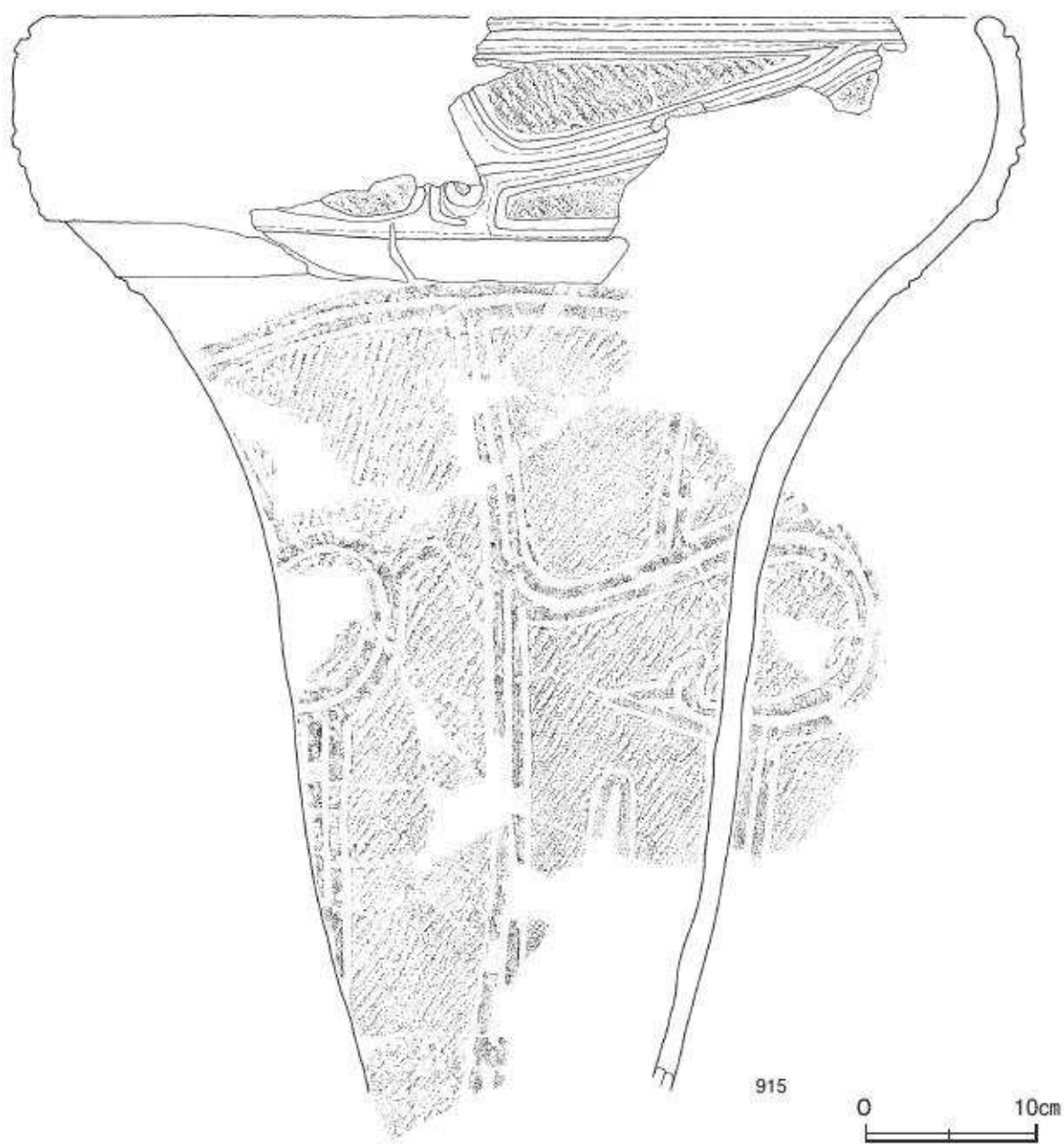
- | | |
|------------------|----------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子微量 | 4 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 2 亜暗褐色 ローム粒子微量 | 5 褐色 ロームブロック微量 |
| 3 褐色 炭化物・ローム粒子微量 | |

遺物出土状況 縄文土器片 160 点（深鉢）、石器 1 点（磨製石斧）が出土している。Q 227 は西部の底面から、915 は中央部の覆土上層から中層にかけて、散乱した状態で出土した破片が接合している。914 は覆土中層から、913 は覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で一括投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第 338 図 第 314 号土坑実測図



第 339 图 第 314 号土坑出土遗物实测图

第 314 号土坑出土遺物観察表 (第 339 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
913	縄文土器	深鉢	-	(5.8)	-	長石・石英・雲母・赤色鉄子	黒褐色	普通	把手2孔穿孔、裏面穿孔に沿って浅線、地文草部縄文LR(横)断面三角形の隆帯が走る	覆土中	
914	縄文土器	深鉢	-	(10.0)	-	長石・石英・雲母	暗褐色	普通	口唇及び把手頂部に太沈線、把手中央部に渦巻文、地文に草部縄文RL(縦)背割れ隆帯による蛇行文	覆土中層	
915	縄文土器	深鉢	[55.0]	(63.3)	-	長石・石英	灰褐色	普通	口縁頂部に沈線が一周、口段多葉縄文RL(横)隆帯による区画文、頸部無文、胴部同一原体(縦)並行隆帯による螺旋文・渦巻文・刺突文	覆土上~中層	35% PL135

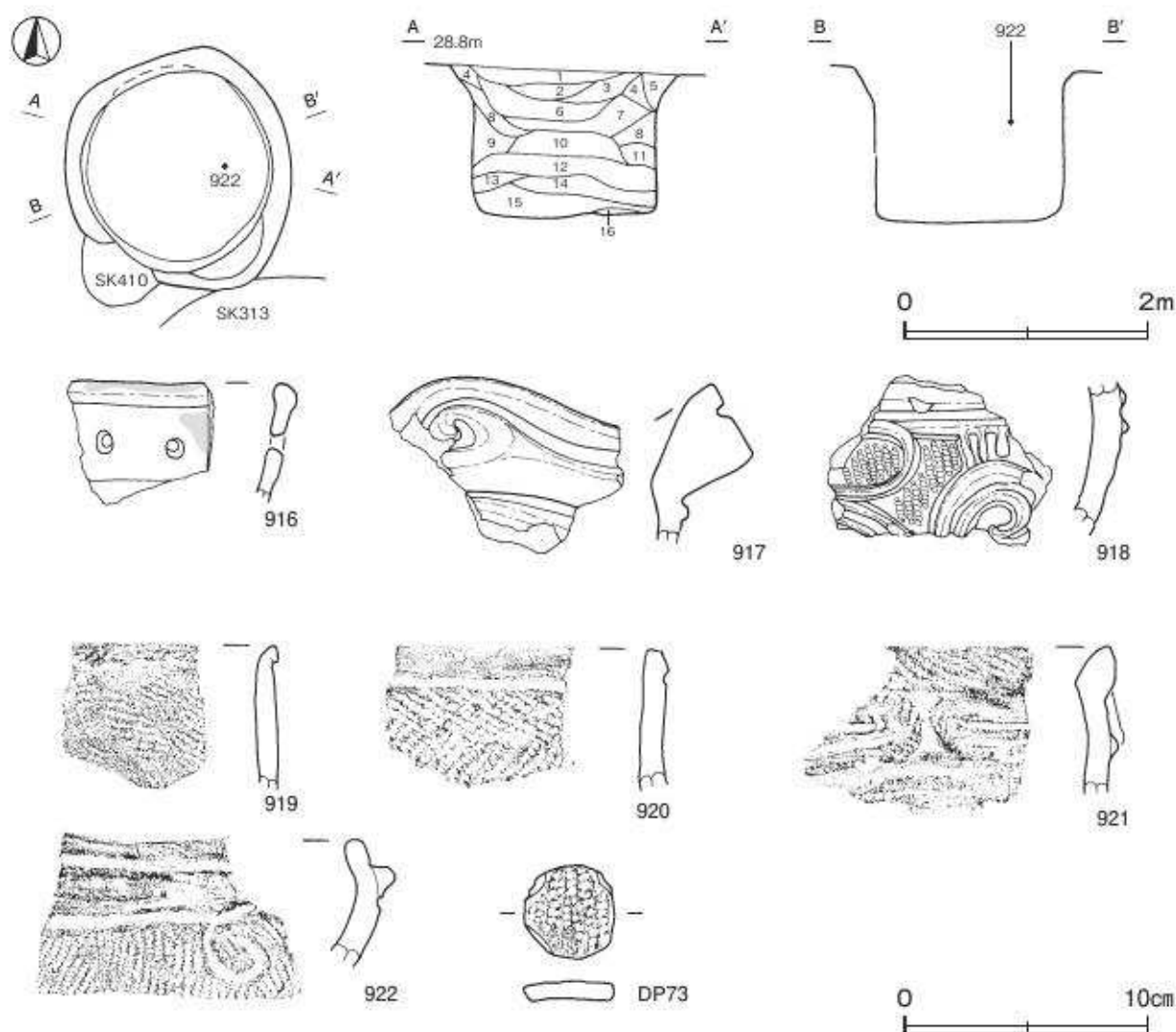
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q227	磨製石斧	8.4	3.6	1.8	2220	角閃岩	短冊形 全面研磨 刃部は表裏から研ぎ出す 平刃	表面	PL168

第 315 号土坑 (第 340 図 PL57)

位置 調査区南部中央のD3b2区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第313号土坑に掘り込まれている。第410号土坑との新旧関係は不明である。

規模と形状 長径2.04m、短径1.84mの楕円形で、長径方向はN-26°-Wである。底面は平坦で、深さは129cmである。壁はほぼ直立している。



第 340 図 第 315 号土坑・出土遺物実測図

覆土 16層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 黒 褐 色	ローム粒子微量	9 極 暗 褐 色	ローム粒子少量
2 黒 褐 色	ロームブロック少量	10 極 暗 褐 色	ローム粒子中量
3 黒 褐 色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	11 極 暗 褐 色	ロームブロック少量
4 黒 褐 色	ロームブロック微量	12 褐 色	ローム粒子少量
5 暗 褐 色	ロームブロック少量	13 極 暗 褐 色	ロームブロック微量
6 黒 褐 色	ロームブロック中量	14 暗 褐 色	ロームブロック中量
7 黒 褐 色	ローム粒子中量	15 褐 色	ロームブロック少量
8 黒 褐 色	ローム粒子少量	16 褐 色	ロームブロック微量

遺物出土状況 縄文土器片 147 点（深鉢 145、浅鉢 1、有孔土器 1）、土製品 1 点（土器片円盤）、剥片 1 点（安山岩）が出土している。922 は覆土中層、916～921、DP73 は覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第 315 号土坑出土遺物観察表（第 340 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	文 様 の 特 徴 ほか	出土位置	備 考
916	縄文土器	有孔土器	-	(5.0)	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	口唇部肥厚・口縁部棒状工具による穿孔・外・内面横方向の磨き	覆土中	
917	縄文土器	深鉢	-	(7.1)	-	長石・石英	灰褐色	普通	口唇部肥厚・背割れ隆帯による渦巻文	覆土中	
918	縄文土器	深鉢	-	(6.8)	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	頸隆起線及び背割れ隆帯により渦巻文等推測 地文に単節縄文 LR (縦)	覆土中	
919	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	口唇部隆帯が一段・隆帯上及び地文に単節縄文 RL (横)	覆土中	
920	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・黒色粒子	にぶい橙	普通	口縁部無文・沈線が一段・沈線下単節縄文 RL (横)・胴部同一面体による縦施文による羽状構成	覆土中	
921	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	口唇部内張り・隆帯による楕円区画・隆帯上に口段多条縄文 RL (横)	覆土中	
922	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	溝状隆帯が一段・地文に単節縄文 RL (横・斜)・沈線による渦巻文	覆土中層	

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	胎 土	色 調	特 徴	出土位置	備 考
DP73	土器片円盤	3.8	3.7	0.8	14.4	長石・石英・雲母・黒色粒子	灰褐色	胴部片・肩縁部粗雑に研磨	覆土中	

第 316 号土坑（第 341 図 PL57）

位置 調査区南部中央の D 3c6 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 径 3.83～3.96 m の円形で、底面は平坦である。深さは 90cm で、壁はほぼ直立している。

ピット 2 か所。P 1 は深さ 60cm、P 2 は深さ 45cm で、柱穴と考えられる。

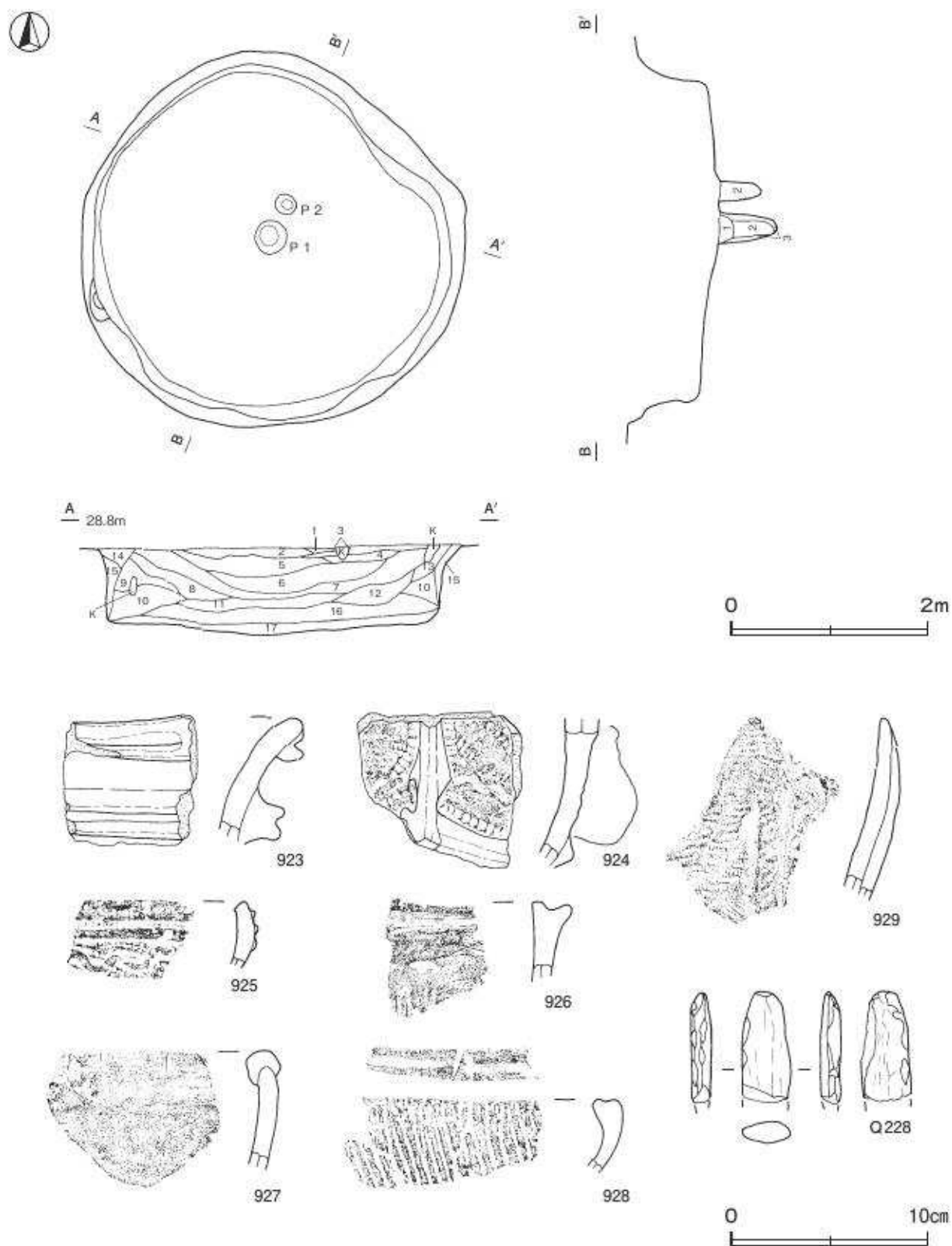
ピット土層解説

1 褐 色	鹿沼バミス少量、黒色粒子微量	3 にぶい褐色	鹿沼バミス微量
2 褐 色	鹿沼バミス微量		

覆土 17層に分層できる。第 1～4層は周囲からの流入による堆積状況から自然堆積で、第 5～17層は、ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 暗 褐 色	焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化物微量	10 暗 褐 色	ローム粒子多量
2 暗 褐 色	ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	11 暗 褐 色	ロームブロック中量、焼土粒子微量
3 暗 褐 色	ローム粒子微量	12 暗 褐 色	ローム粒子中量
4 暗 褐 色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	13 黒 褐 色	ローム粒子中量
5 黒 褐 色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	14 暗 褐 色	ロームブロック多量
6 黒 褐 色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量	15 褐 色	ロームブロック多量
7 暗 褐 色	ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量	16 暗 褐 色	ロームブロック中量
8 暗 褐 色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子少量	17 暗 褐 色	ロームブロック少量
9 暗 褐 色	ロームブロック中量、炭化粒子少量		



第341图 第316号土坑·出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片 377 点（深鉢 373、浅鉢 4）、石器 2 点（磨製石斧、磨石）、石核 2 点（石英、瑪瑙）、剥片 2 点（粘板岩、砂岩）が出土している。923～929、Q 228 は覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、柱穴を有する貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第 316 号土坑出土遺物観察表（第 341 図）

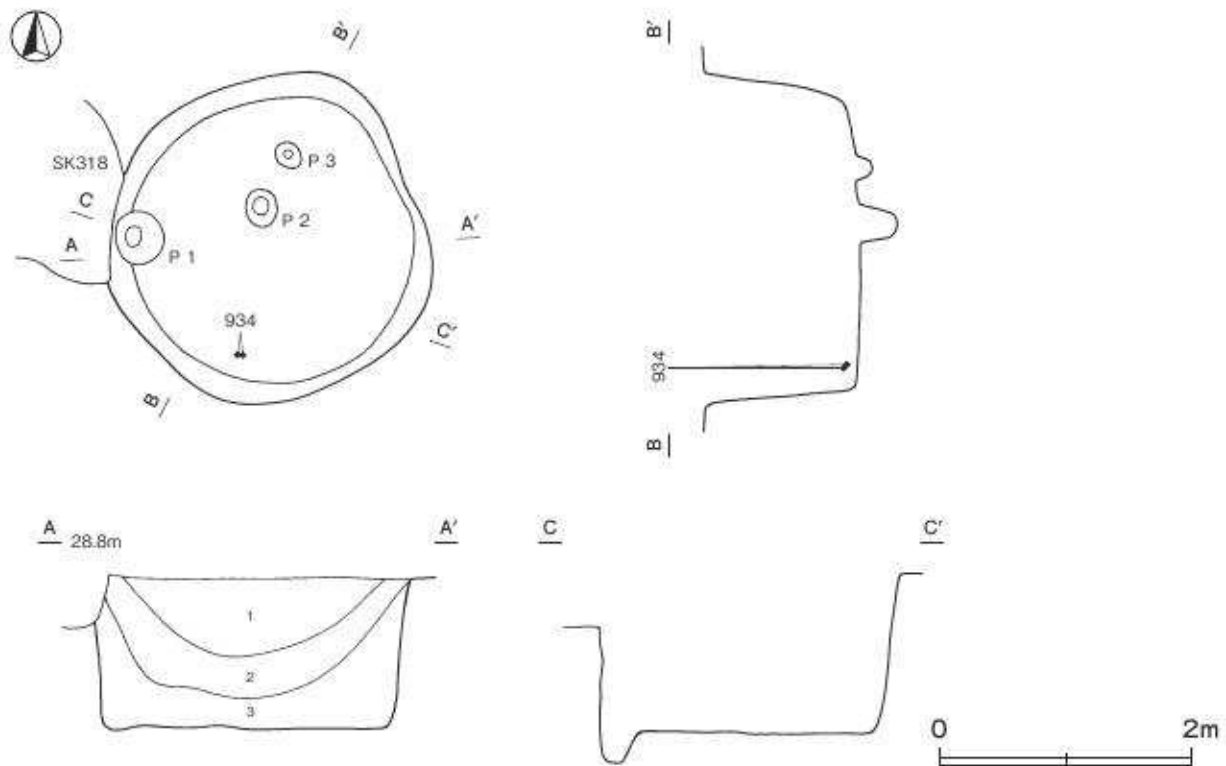
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
923	縄文土器	深鉢	-	(66)	-	長石・石英・雲母	におい赤褐色	普通	背割れ隆帯による横位の文様区画	覆土中	
924	縄文土器	深鉢	-	(79)	-	長石・石英・雲母	におい黄褐色	普通	隆帯による区画文・縮み状突起・隆帯に沿って有部沈線・区画内横位の波状沈線	覆土中	
925	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	口管内面に残る・地文に単富縄文 LR（斜） 2 条の並行隆帯と蛇行隆帯が走る	覆土中	
926	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	におい黄褐色	普通	口唇頂部に太沈線が一筋・地文にまばらな縦位の肥余文	覆土中	
927	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粘土	におい赤褐色	普通	口唇部肥厚 無文	覆土中	
928	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明黄褐色	普通	口唇部肥厚・口唇頂部に浅い沈線が一筋・手取竹管による斜位の条線文	覆土中	
929	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	暗褐色	普通	把手口唇部肥厚・隆帯による区画・隆帯上及び区画内 0 段多糸縄文 RL（横・斜）	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 228	磨製石斧	(57)	2.5	1.1	(242)	角閃岩	短小型 尖裏面研磨 側縁部に稜 刃部欠損	覆土中	PL170

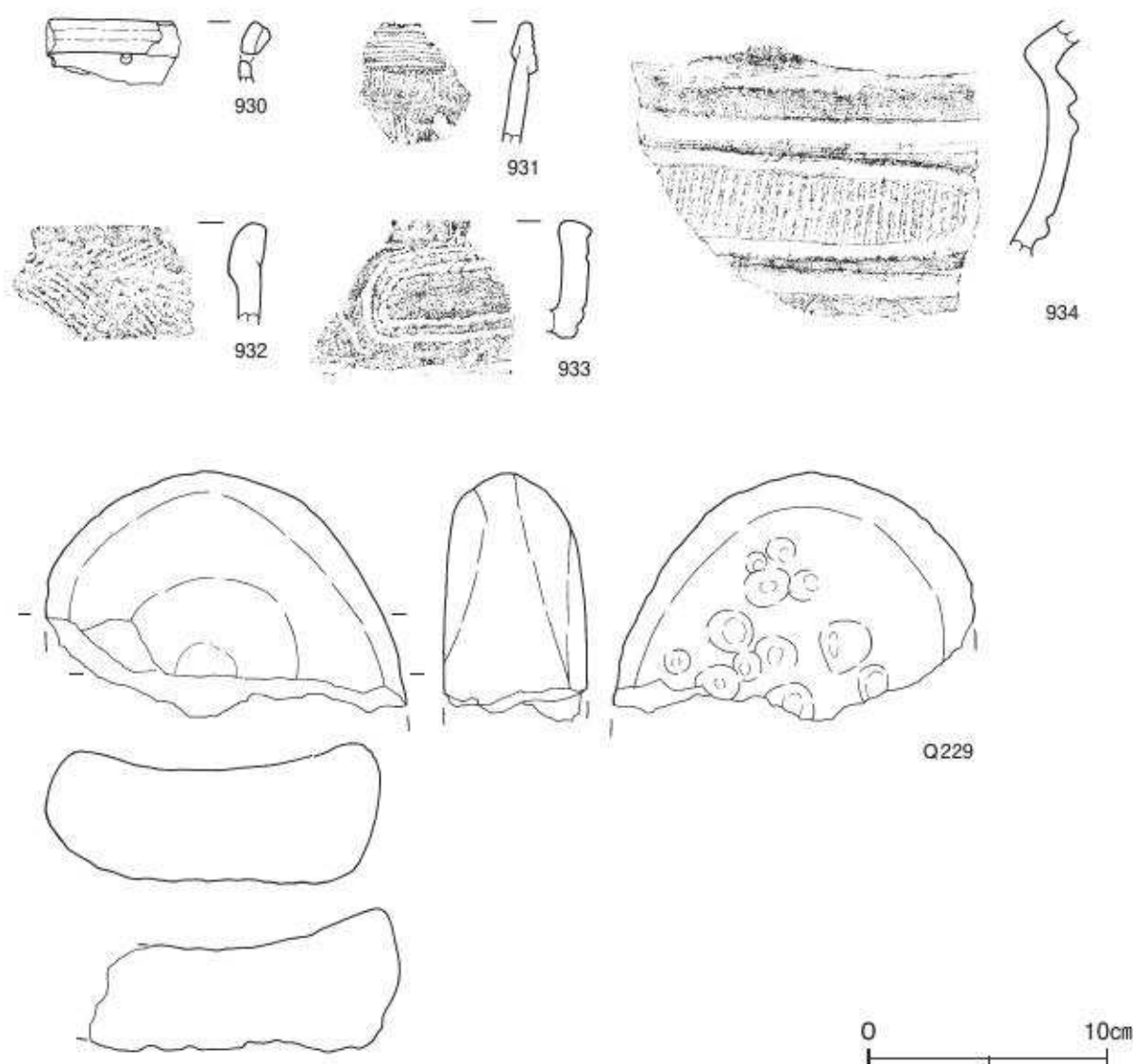
第 317 号土坑（第 342・343 図 PL58）

位置 調査区南部中央の D 3 b6 区。標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 318 号土坑に掘り込まれている。



第 342 図 第 317 号土坑実測図



第 343 図 第 317 号土坑出土遺物実測図

規模と形状 径 260～271 m の円形である。底面は平坦で、深さは 121cm である。壁はほぼ直立している。ピット 3 か所。P 1 は西壁際に位置し、深さ 30cm、P 2 は中央部に位置し、深さ 30cm、P 3 は北部に位置し、深さ 15cm である。いずれも位置と形状から、柱穴と考えられる。

覆土 3 層に分層できる。レンズ状の堆積状況から、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子少量
2 黒褐色 ロームブロック微量

- 3 黒褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片 131 点（深鉢 122、浅鉢 8、有孔土器 1）、石器 1 点（石皿）が出土している。934 は覆土下層から出土している。930～933、Q 229 は覆土中から出土している。いずれも埋没過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

第 317 号土坑出土遺物観察表 (第 343 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
930	縄文土器	有孔土器	-	(26)	-	長石・石英・雲母・角閃石	にぶい赤褐色	普通	口径部肥厚 口径下に2か所の穿孔	覆土中	
931	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	口縁部板状の隆帯貼付 隆帯上に横位の条線文 胴部縦位の条線文	覆土中	
932	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	口径部肥厚 口縁部平帯細文LR(横) 胴部同一原体を縦位に施文し羽状構成	覆土中	
933	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	口径部肥厚 隆帯による栴円区画 区画内平帯并管による2本の有節沈線	覆土中	
934	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部くさ字状に外反 外反部横位の磨き 太沈線を芯らせ隆起帯による栴円区画 区画内縦位の地系文	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q229	石皿	(10.4)	15.2	6.0	(980.4)	安山岩	表面皿状に研磨 裏面に凹み模	覆土中	PL180

第 320 号土坑 (第 344 図)

位置 調査区南部中央のD3b9区。標高29mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 径1.94～2.07mの円形である。底面は平坦で、深さは73cmである。壁はほぼ直立している。

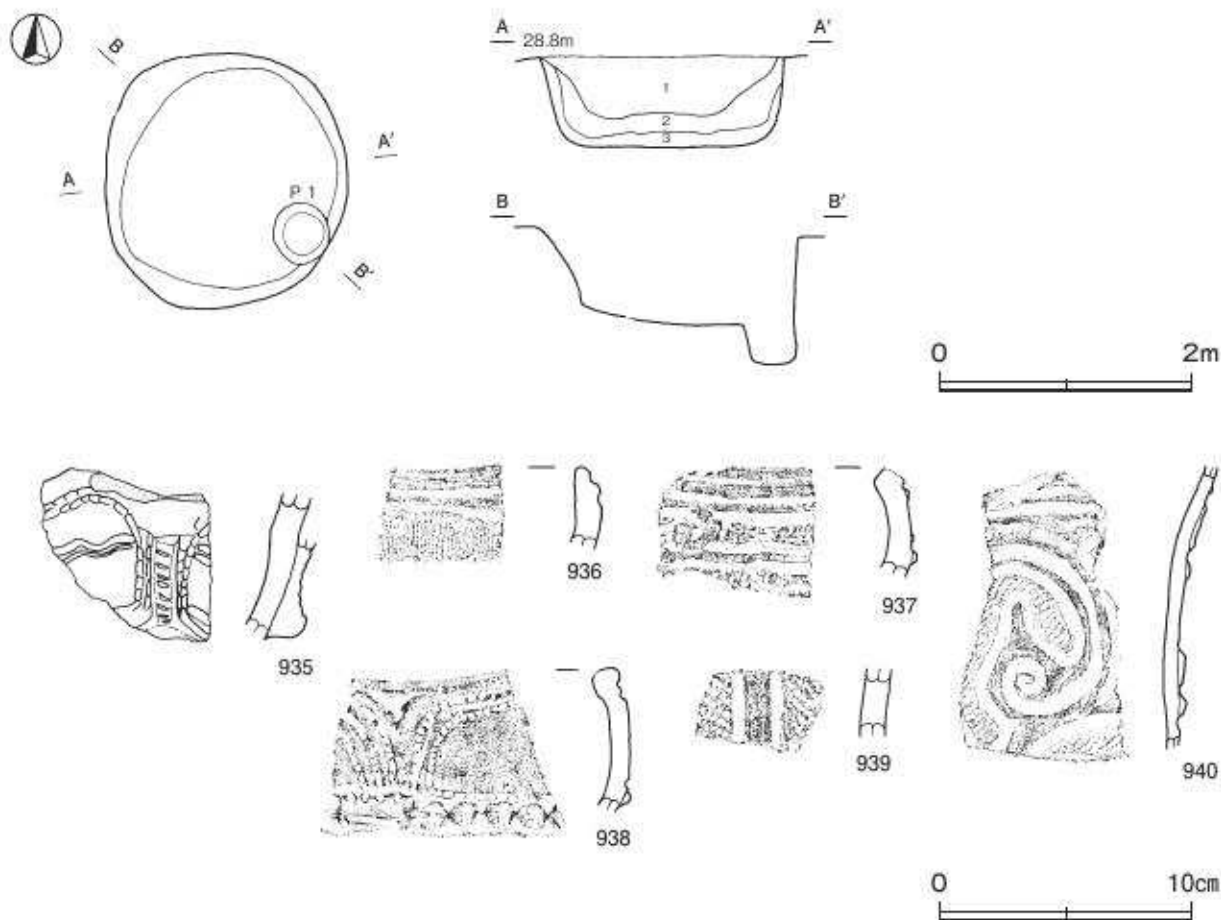
ピット 南東部の壁際に位置しており、径40cmの円形で、深さ30cmである。位置と規模から補助的な貯蔵施設と考えられる。

覆土 3層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ロームブロック微量

- 3 にぶい褐色 ロームブロック少量



第 344 図 第 320 号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片 73 点（深鉢 69、浅鉢 4）、石核 1 点（瑪瑙）が出土している。935～940 は、覆土中から出土している。いずれも埋没過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

第 320 号土坑出土遺物観察表（第 344 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
935	縄文土器	深鉢	-	(6.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	隆帯による区画文、部分的に桶み状の突起、隆帯にのびて 2 本の有節沈線、区内横位の波状沈線	覆土中	
936	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口縁部 2 本の沈線が一途、地文に縦位の捺糸文	覆土中	
937	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色砂子	灰褐色	普通	口唇部内湾さ、地文に単節縄文 LR（横）、隆帯による横位区画、区内内高巻文	覆土中	
938	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	断面三角形の隆帯による V 字状文、有節沈線による横位区画、指頭隆帯が一途	覆土中	
939	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	暗褐色	普通	地文に単節縄文 LR（縦）、2 本の並行沈線が重なり沈線間磨消	覆土中	
940	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	地文に口辺多条縄文 RL（縦・斜）、母線線による高巻文、高巻に刻先文、外・内面丁寧な磨き	覆土中	

第 322 号土坑（第 345～349 図 PL58・101）

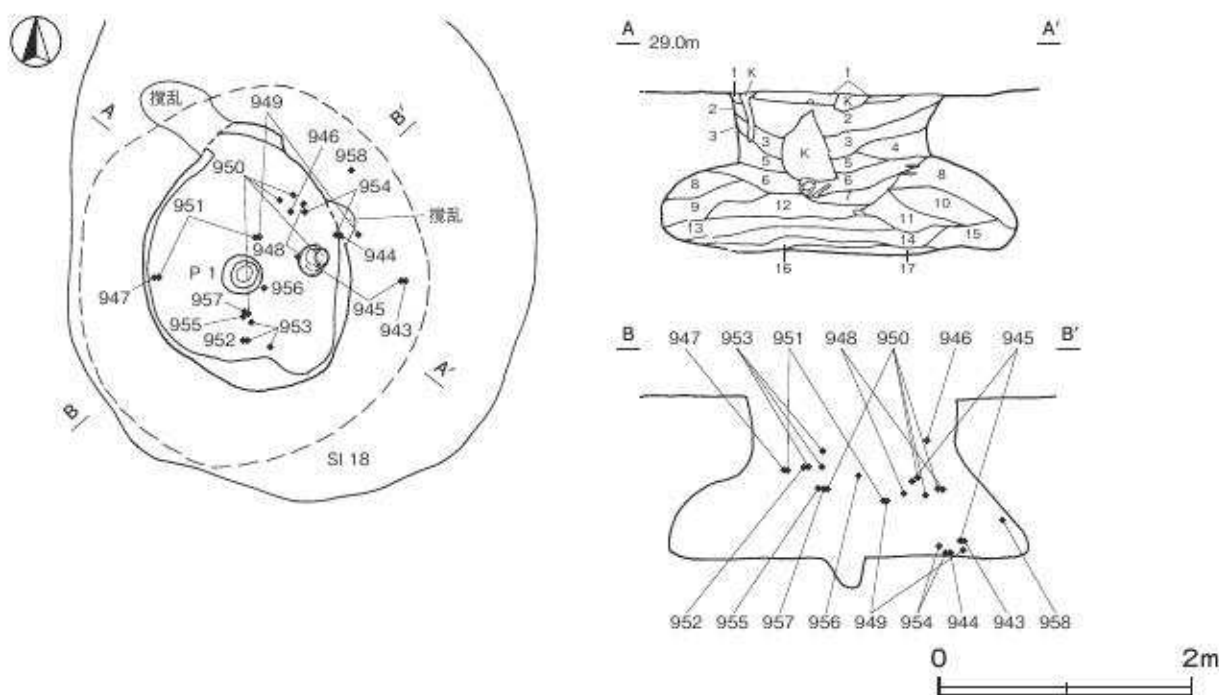
位置 調査区南部の C 2j0 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 18 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

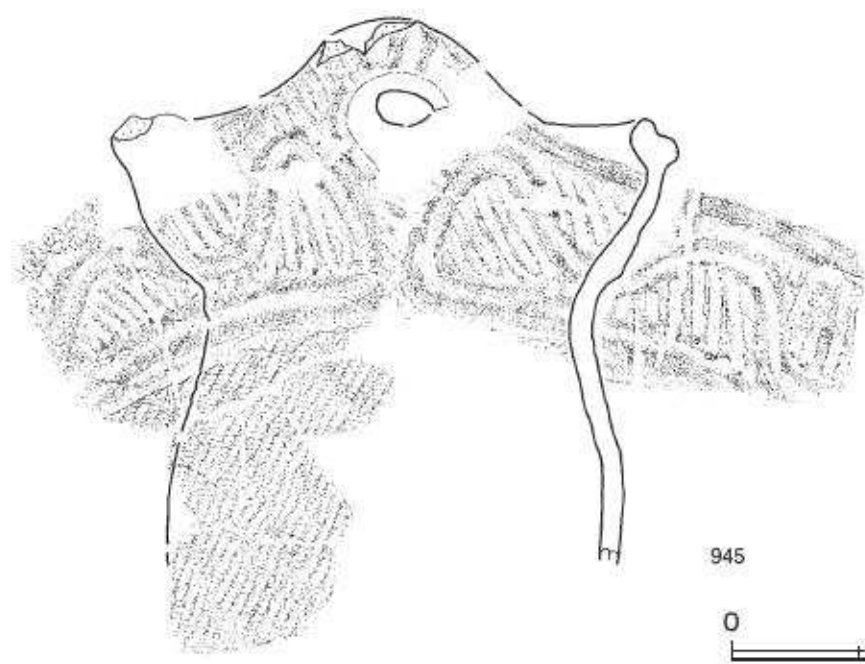
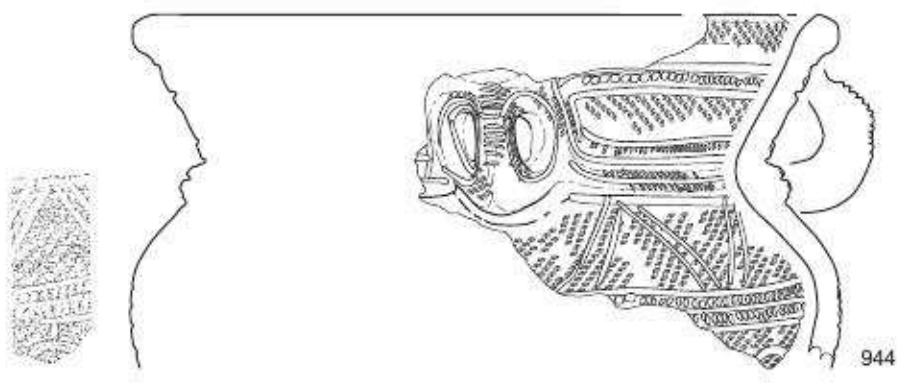
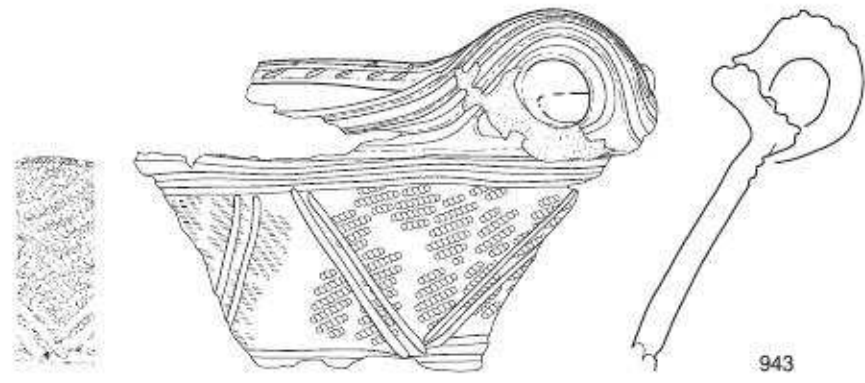
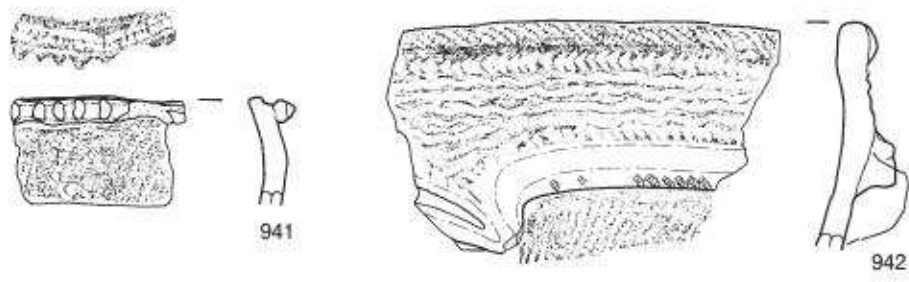
規模と形状 開口部は長径 2.16 m、短径 1.65 m の不整楕円形で、長径方向は N-14°-W である。底面は径 2.82～3.04 m の円形で、底面は平坦である。確認面からの深さは 128 cm である。壁は大きく内彎して、袋状を呈している。

ピット 中央部に位置し、径 30 cm の円形で、深さ 20 cm である。位置と形状から柱穴と考えられる。

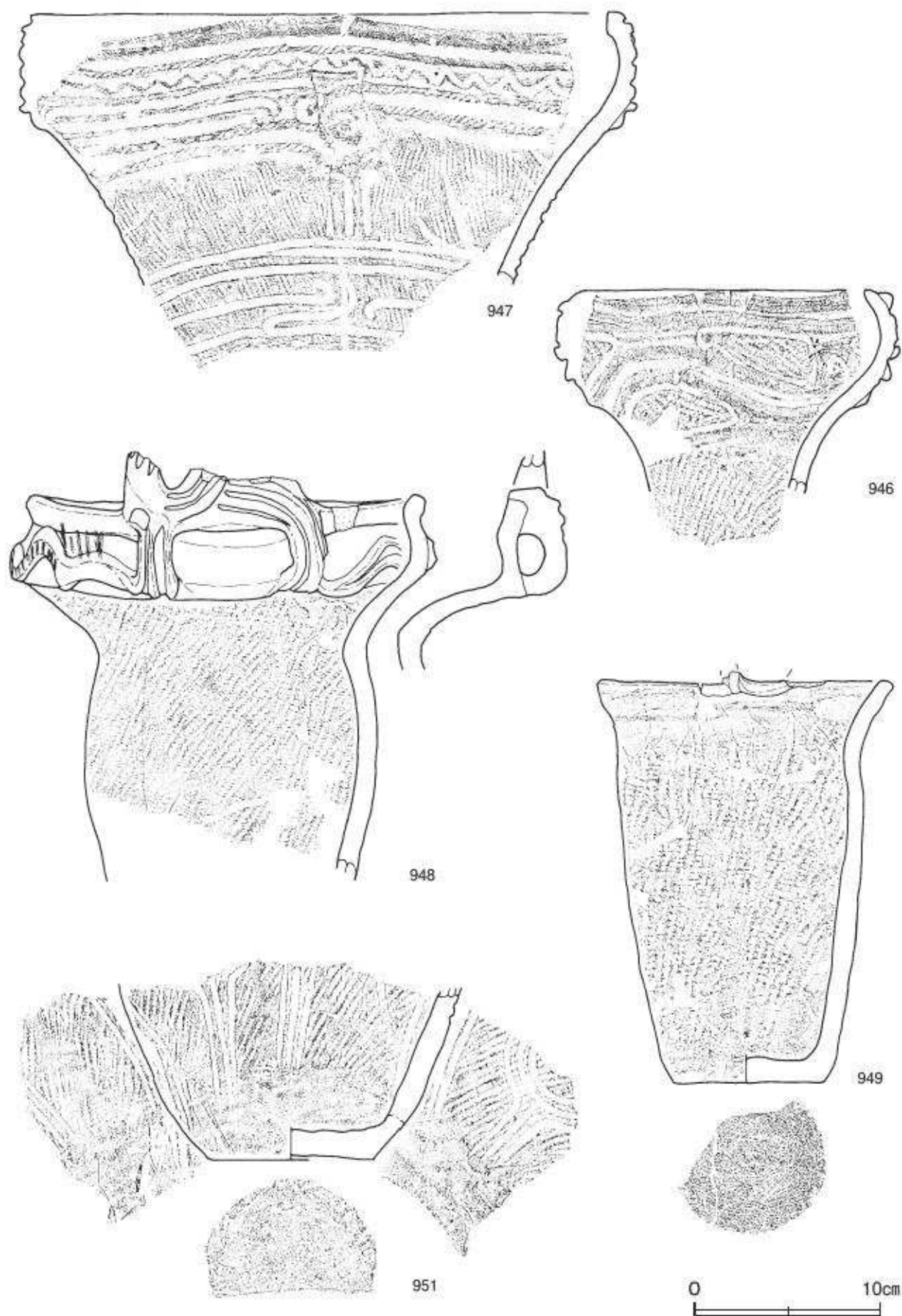
覆土 17 層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。



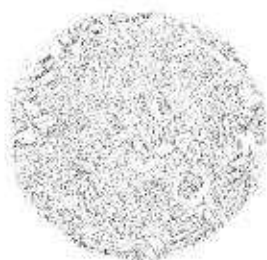
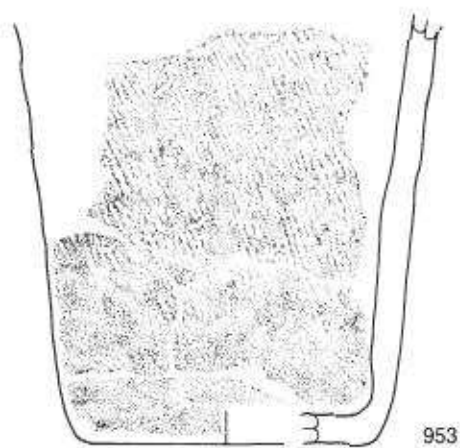
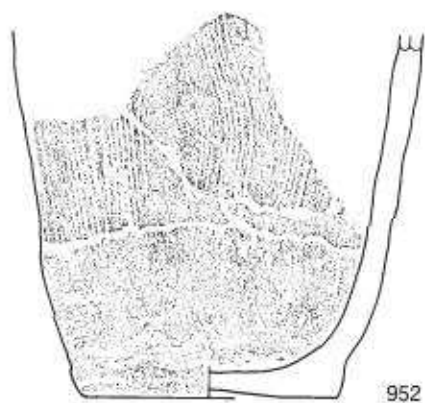
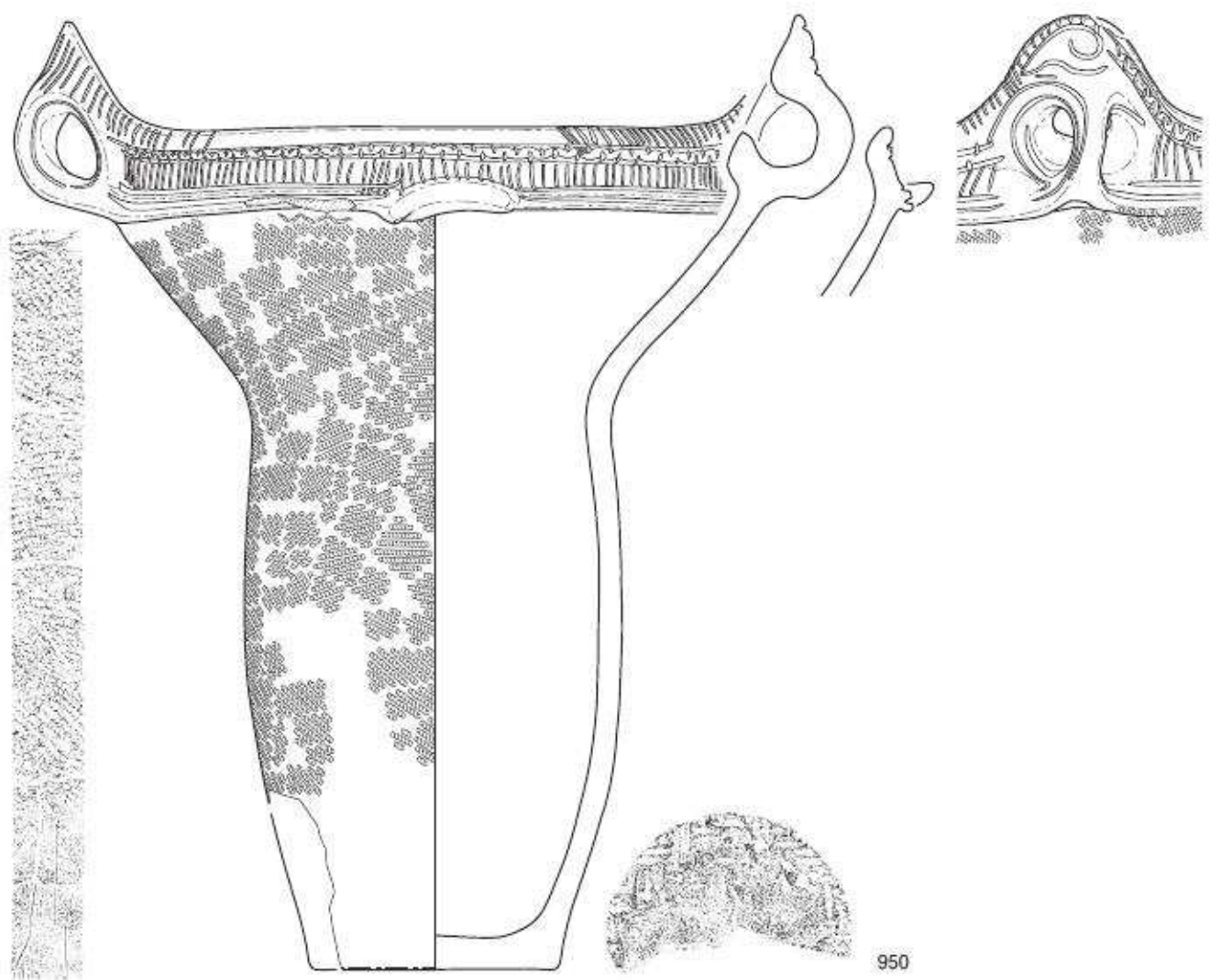
第 345 図 第 322 号土坑実測図



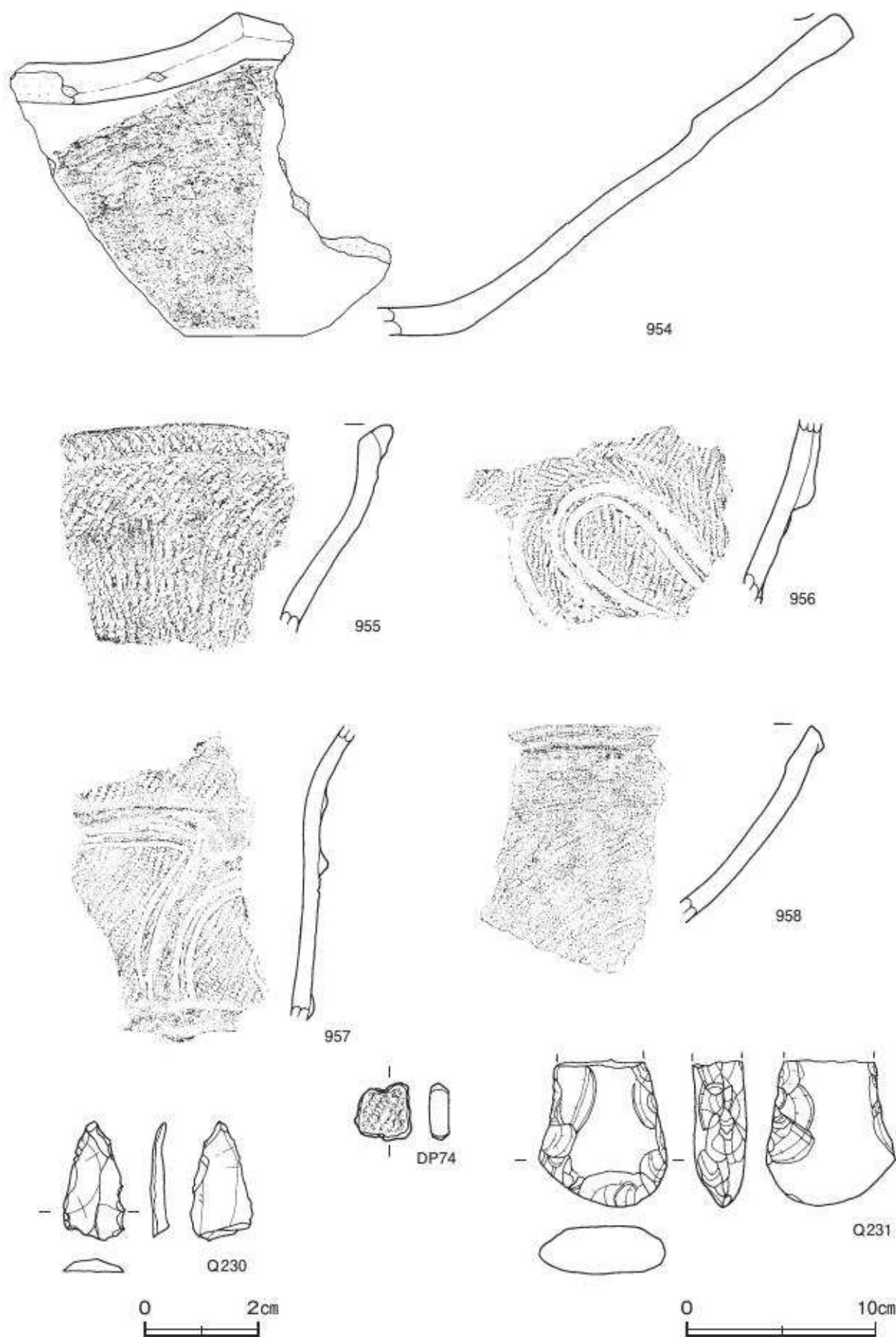
第 346 图 第 322 号土坑出土遗物实测图(1)



第 347 図 第 322 号土坑出土遺物実測図 (2)



第 348 图 第 322 号土坑出土遗物实测图 (3)



第 349 図 第 322 号土坑出土遺物実測図 (4)

土層解説

1	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	10	褐色	ロームブロック多量、炭化物微量
2	暗褐色	ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量	11	暗褐色	ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	12	黒褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
4	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量	13	褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
5	暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量	14	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量
6	黒褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子少量	15	褐色	ロームブロック多量、ローム粒子少量
7	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量	16	褐色	ロームブロック中量
8	暗褐色	ロームブロック多量	17	褐色	ロームブロック多量
9	暗褐色	ロームブロック中量			

遺物出土状況 縄文土器片 345 点（深鉢 340、浅鉢 5）、土製品 1 点（土器片錘）、石器 3 点（鎌 1、打製石斧 2）、剥片 1 点（チャート）、礫 1 点が出土している。944・954 は底面、943 は覆土下層から出土している。949 は覆土中層と底面、945 は覆土中層から下層にかけて出土した破片が接合している。946～948・950～953・955～958 はいずれも覆土中層からまともに出て出土している。950 は中央部から底部を欠いた逆位の状態でも出土し、底部片が南部から出土している。第 6 層まで埋め戻した段階で、一括投棄されたものと考えられる。941・942、DP74、Q 230・Q 231 は覆土中から出土している。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第 322 号土坑出土遺物観察表（第 346～349 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
941	縄文土器	深鉢	-	(44)	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	口唇部隆帯貼付・口唇頂部に有部沈線が一筋 横面に利突文、隆帯直下から単節縄文 RL (縦) を間を削けて施文	覆土中	
942	縄文土器	深鉢	-	(92)	-	長石・石英・雲母・ 黒色粒子・黒炭	にぶい褐色	良好	口唇部隆帯に単節縄文 RL (横) 幅広の隆帯に よる横位の区画、隆帯に沿ってベン先状の利突 区画内横位の蛇行沈線 胴部同一原体 (縦)	覆土中	
943	縄文土器	深鉢	-	(143)	-	長石・石英・雲母・ 黒炭	にぶい青褐色	普通	中空把手 胴部に 3～6 本の沈線文 口縁下に 3 本の沈線が一筋 地文に単節縄文 RL (縦) 2 本の沈線による山形区画	覆土下層	10% PL136
944	縄文土器	深鉢	[26.5]	(140)	-	長石・石英・赤色 粒子	灰黄褐色	普通	地文に縦節縄文 RL (縦) 口縁部 2 本の沈線 による長方形区画 区画に沿って連続利突 口縁下に中空把手、2 本の沈線による山形区画 胴部 2 条の連続爪形文が一筋	底面	10% PL136
945	縄文土器	深鉢	20.4	(21.7)	-	長石・石英	にぶい青褐色	普通	口唇頂部浅い太沈線が一筋 中空の突起 鋭い 背割れ隆帯による蛇行線による区画 区画内 縦・斜の条線文 胴部単節縄文 RL (縦)	覆土中～下層	40% PL136
946	縄文土器	深鉢	[15.0]	(109)	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	口唇頂部に平坦面 口縁部背割れ隆帯による積 S 字区画 地文に単節縄文 RL (横) 胴部同一 原体による縦線文	覆土中層	20%
947	縄文土器	深鉢	[32.0]	(14.7)	-	長石・石英・雲母	灰褐色	良好	口唇部隆帯と沈線による筋管文・交互利突によ る波状文 隆帯上に無節縄文 L (横) 胴部隆 帯文 (縦) 沈線により縦・横・クランク状文	覆土中層	20% PL136
948	縄文土器	深鉢	20.9	(23.3)	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	積門区画の中空の把手 背割れ隆帯による波状 文が一筋 一部に櫛歯状のキザミ目 胴部単節 縄文 RL (縦)	覆土中層	60% PL136
949	縄文土器	深鉢	15.1	21.9	8.1	長石・石英・雲母・ 赤色粒子	にぶい褐色	普通	口唇部肥厚 口縁部無文 中空の把手取 口縁 直下から単節縄文 RL (縦) を全面に施文	覆土中層・底面	95% PL136
950	縄文土器	深鉢	25.2	41.3	10.5	長石・石英・雲母	褐色	普通	口唇部キザミ目 口縁部交互利突文と 2 本の沈 線が一筋 区画内条線文 把手間舌状の突起 胴部単節縄文 LR (縦・斜) 底面網代痕	覆土中層	80% PL136
951	縄文土器	深鉢	-	(95)	9.1	長石・石英・黒色 粒子	褐色	良好	地文に単節縄文 RL (縦) 3 本の沈線により筋 管文・円文を描画 下部部積方向のナデ	覆土中層	20%
952	縄文土器	深鉢	-	(145)	10.0	長石・石英・雲母	褐色	普通	櫛歯状工具による縦位の条線文 底面網代痕	覆土中層	20%
953	縄文土器	深鉢	-	(17.1)	[11.4]	長石・石英・雲母	褐色	普通	地文に浅い単節縄文 LR (横) を施文 下部部 無文 底面網代痕	覆土中層	10%
954	縄文土器	浅鉢	-	17.3	[9.4]	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	口唇部肥厚 外・内面横方向の磨き 胴下手縁 方向の磨き	底面	15%
955	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口唇内側に浅い口縁に浅い沈線が一筋 口縁上 部単節縄文 RL (横) 口縁下部縦位に施文し羽 状構成 胴部斜施文	覆土中層	
956	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	肉厚の隆帯による積門区画 隆帯に沿って太沈線 全面に 0 段多糸縄文 RL をランダムに施文	覆土中層	
957	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	地文に単節縄文 RL (縦) 櫛歯状隆帯による区 画文 隆帯に沿って 2 本の沈線を磨加	覆土中層	
958	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	口縁内側に鋭い段 口唇部肥厚 外・内面斜位 の丁寧な磨き	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP74	土器片錘	30	30	11	10.9	長石・石英・雲母	明褐色	胴部片 両面にキザミ目 片側縁を研磨	覆土中	未成品。

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 230	鎌	21	10	25	0.5	チャート	無刃 肩縁部押圧剥離	覆土中	
Q 231	打製石斧	(7.8)	6.8	2.6	(205.3)	砂岩	梨形 表裏に自然面 両側縁敲打 刃部は片面を敲打 基部欠損	覆土中	

第 323 号土坑 (第 350 図)

位置 調査区南部中央のD 3 a7 区。標高 29 mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 径 2.04 ~ 2.16 mの不整円形で、底面は中央部から南東部にかけて緩い段が見られる。深さは 58 ~ 65cmである。壁は南部がほぼ直立しており、北西部が外傾している。

ピット 2か所。P 1は中央部、P 2は南東壁際に位置しており、深さ 50・40cmである。いずれも位置と形状から柱穴と考えられる。

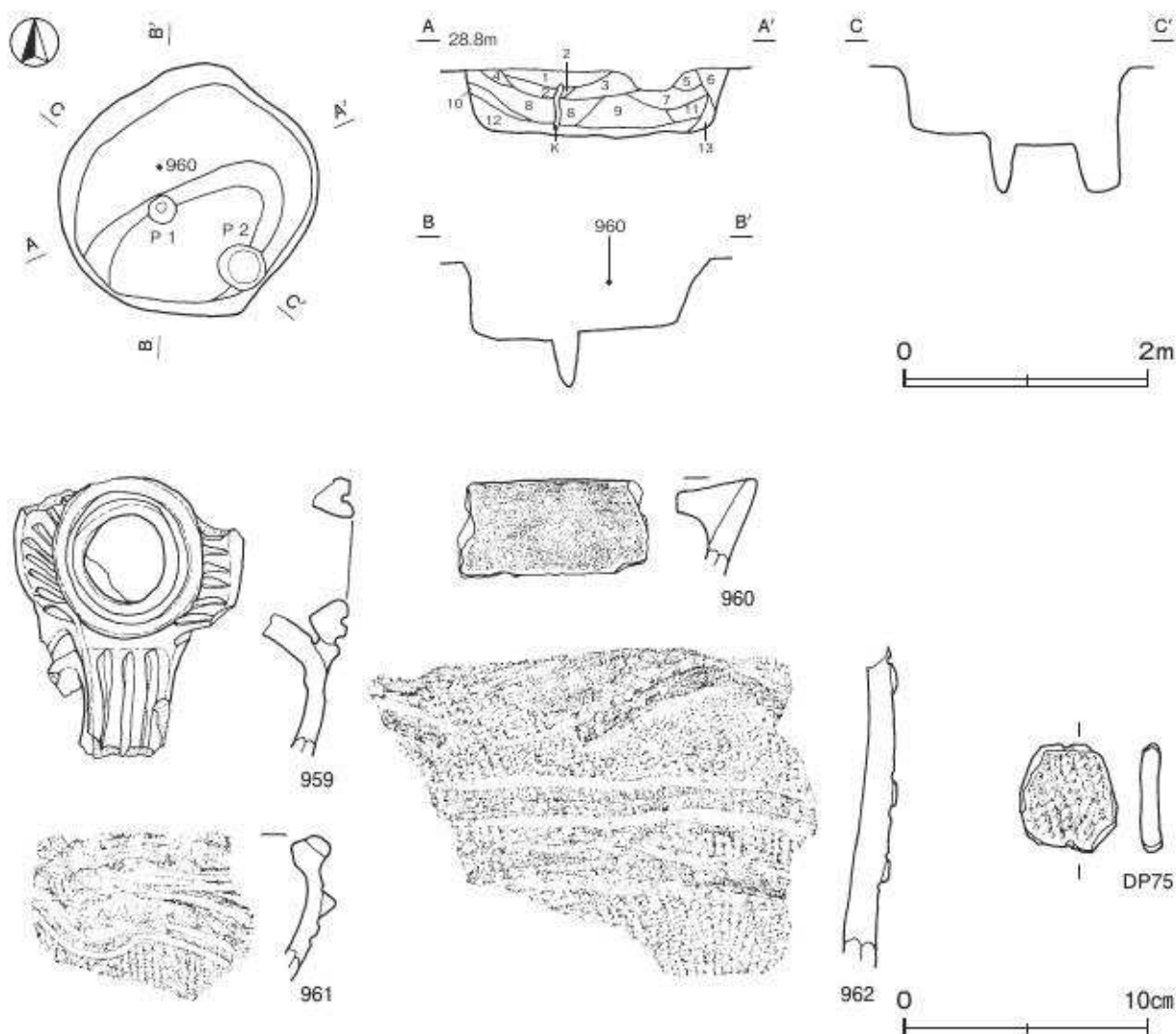
覆土 13層に分層できる。ロームブロックや焼土ブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1	黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	8	黒褐色	ロームブロック少量
2	黒褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量	9	暗褐色	ロームブロック中量
3	黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	10	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
4	黒褐色	ローム粒子微量	11	黒褐色	ロームブロック微量
5	暗褐色	ローム粒子微量	12	黒褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量
6	褐色	ロームブロック中量	13	暗褐色	ロームブロック微量
7	黒褐色	ローム粒子少量			

遺物出土状況 縄文土器片 72 点 (深鉢 67, 浅鉢 5), 土製品 1 点 (土器片錘), 剥片 1 点 (石英) が出土している。

960 は覆土上層から、959・961・962, DP75 は覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。



第 350 図 第 323 号土坑・出土遺物実測図

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第323号土坑出土遺物観察表(第350図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
959	縄文土器	深鉢	-	(115)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	中空の把手 把手に沿って沈線による円文・直線文を描画	覆土中	
960	縄文土器	浅鉢	-	(40)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	口唇頂部に平坦面 外・内面横方向のナデ	覆土上層	
961	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・黒色粒子	明褐色	普通	口唇部肥厚 内側に段 胎文に単部縄文RL(斜)隆帯により文様描画 隆帯に沿って沈線を附加	覆土中	
962	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	胎文に単部縄文LR(縦・斜) 2本の斜い隆帯が一端 横位の能行隆帯を巡らす	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP75	土器片鏃	4.5	4.0	0.9	19.5	長石・石英・赤色粒子	橙	側部片 両端にキザミ目 一部を粗雑に研磨	覆土中	未成品

第325号土坑 (第351～353図)

位置 調査区西部C 2 g6区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

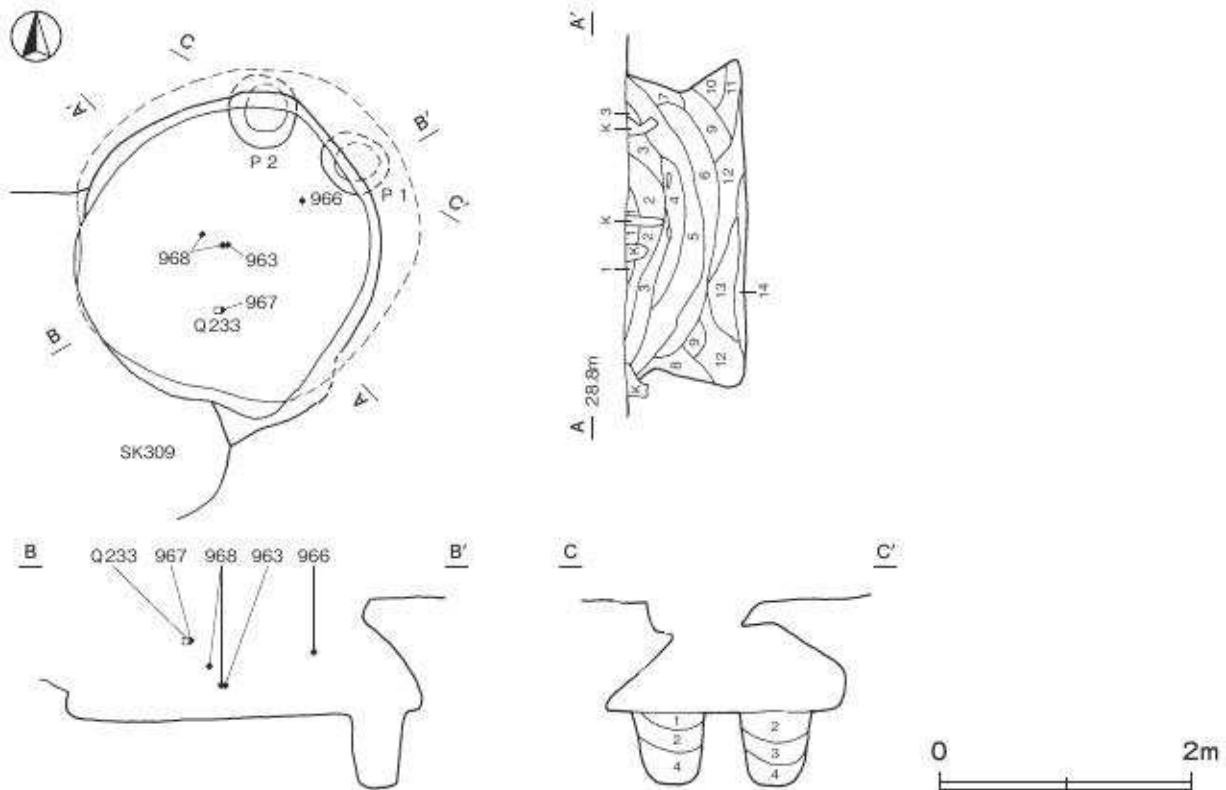
重複関係 第309号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 開口部は径2.43～2.61mの円形である。底面は径2.62～2.81mの円形で、平坦である。確認面からの深さは95cmである。壁は底面から強く内彎して、袋状を呈し、上位は外傾している。

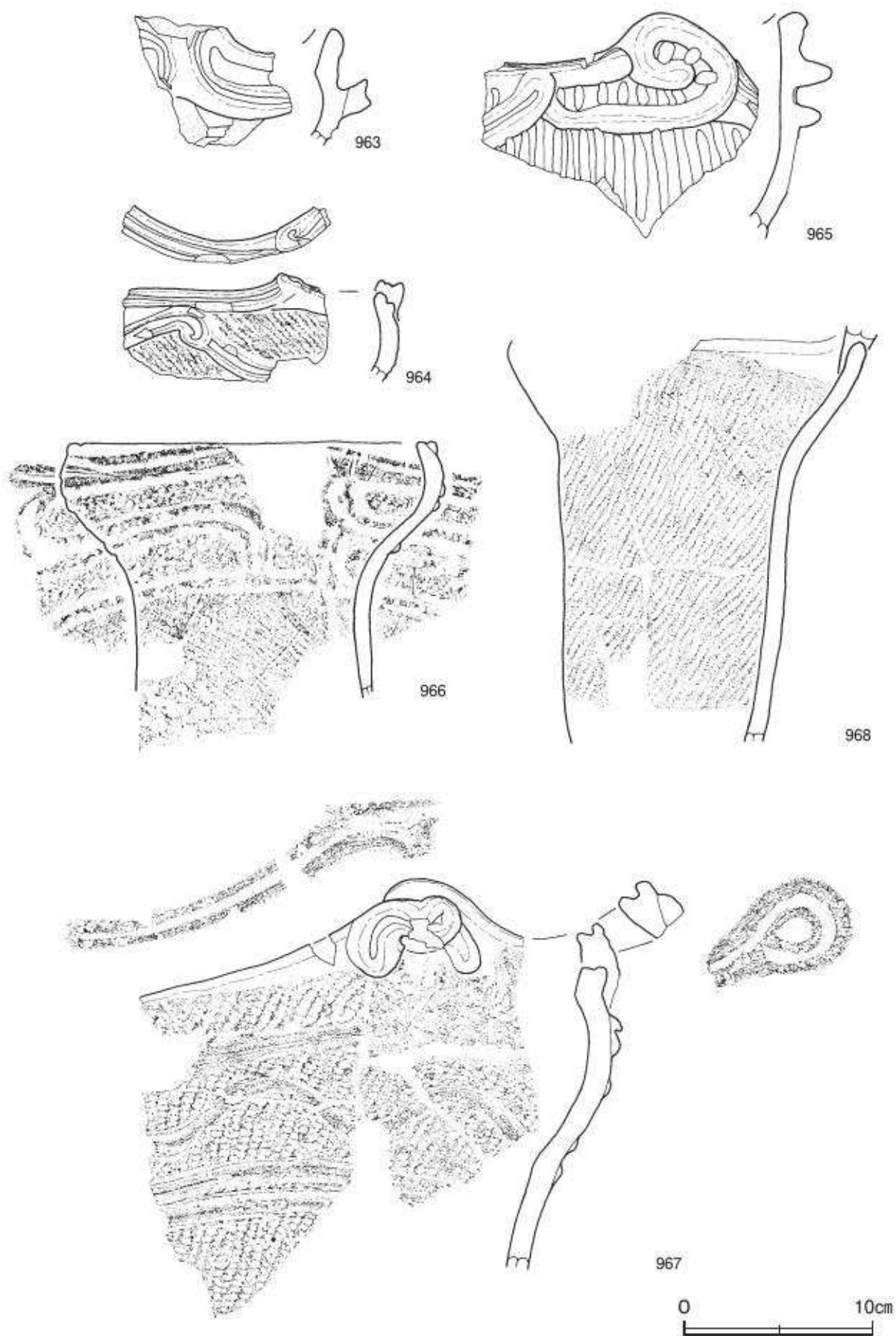
ピット 2か所。P1は北東壁際、P2は北壁際に位置し、深さは58・56cmである。位置と形状から、補助的な貯蔵施設と考えられる。

ピット土層解説

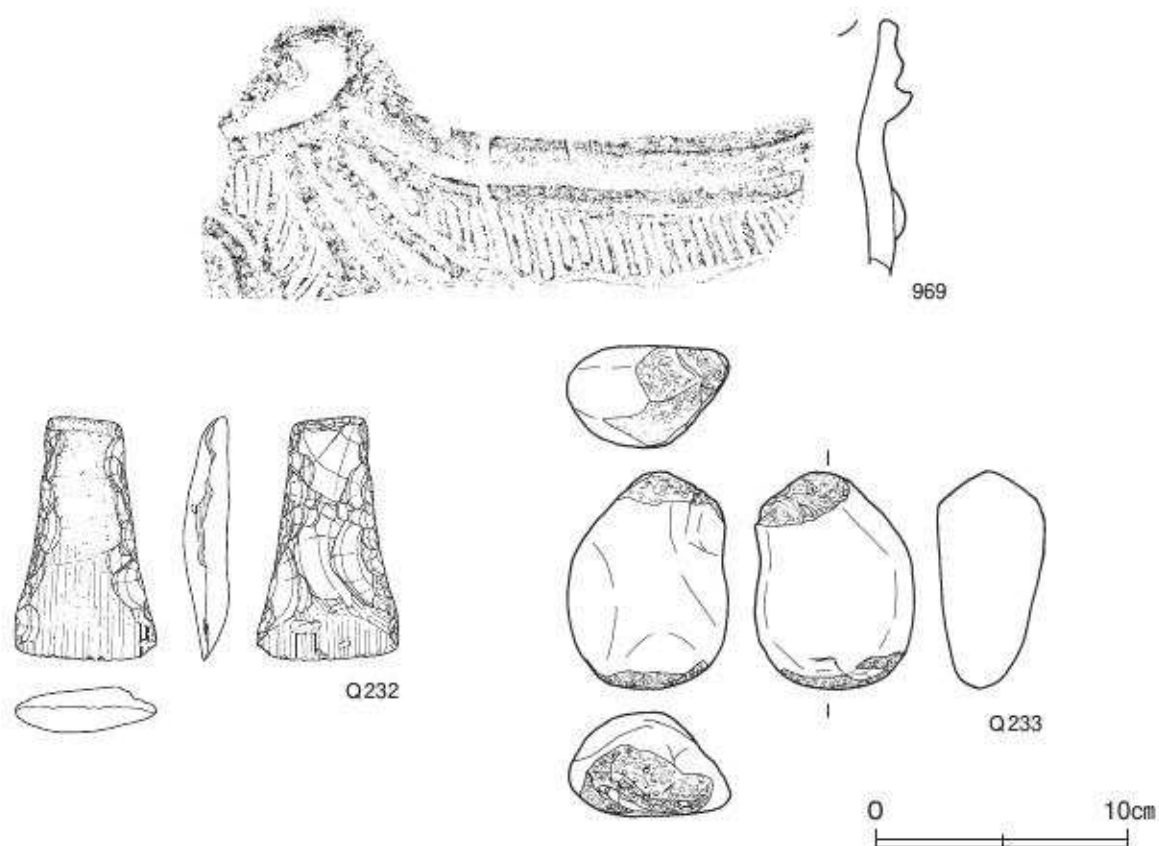
- 1 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量、炭化物微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量
- 4 褐色 ロームブロック多量



第351図 第325号土坑実測図



第 352 図 第 325 号土坑出土遺物実測図(1)



第353図 第325号土坑出土遺物実測図(2)

覆土 14層に分層できる。第6～14層はロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。その後、第1～5層が自然堆積したものと考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------|--------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 8 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量 | 9 黒褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化物・焼土粒子微量 | 10 褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 11 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子・焼土粒子少量 | 12 褐色 | ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子微量 |
| 6 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子微量 | 13 褐色 | ロームブロック多量、炭化物・焼土粒子微量 |
| 7 褐色 | ロームブロック中量、炭化物微量 | 14 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 |

遺物出土状況 縄文土器片186点(深鉢170, 浅鉢16)。石器2点(打製石斧, 敲砥石)が出土している。963・966～968, Q233は覆土中層から, 964・965・969, Q232は覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から, 袋状の貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。

第325号土坑出土遺物観察表(第352・353図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
963	縄文土器	深鉢	-	(71)	-	長石・石英・雲母・細砂	明赤褐	普通	口縁内側に段 隆帯による把手 隆帯上に太沈線 把手下部に2本の並行沈線がある	覆土中層	
964	縄文土器	深鉢	-	(57)	-	長石・石英	明赤褐	普通	口唇部沈線が一部 肩部に溝巻状突起 束文に 横筋細文R(横) 並行隆帯による蛇行線 隆帯間に筋	覆土中	
965	縄文土器	深鉢	-	(120)	-	長石・石英	灰褐	普通	口唇頂部に太沈線 隆帯による溝巻文 棒状工具による縦位の斜突・太沈線	覆土中	
966	縄文土器	深鉢	[19.6]	(136)	-	長石・石英・雲母・細砂	におい赤褐	普通	口唇部に隆帯を一部だけ口唇頂部に平坦面 並行隆帯によるクランク文 口唇部先端縄文LR(横) 胴部は同一原体による縦筋文	覆土中層	20% PL137 外面二次焼成

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
967	縄文土器	深鉢	-	(20.7)	-	長石・石英・雲母	灰褐色	良好	口唇上部に沈線が一帯、中空の把手部付。背側に隆帯及び指輪状隆帯により横線・縦行線を描画。胎土に卑部縄文RL(縦)	覆土中層	10% PL137
968	縄文土器	深鉢	-	(22.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	口唇部外側を、内面に段。口径直下から卑部縄文RL(縦)を全面施文	覆土中層	70% PL137
969	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・燧石	橙	普通	口唇部肉厚の隆帯部付。指輪による幅広の凹線を高らし渦巻状の突起。隆帯による弧状区画区画内斜位の沈線	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 232	打製石部	96.5	56.0	18.1	99.7	砂岩	新形 両側縁微細な鉾打調整 刃部は表裏を研磨 末広がりが	覆土中	PL166
Q 233	敲砥石	8.6	6.3	4.1	300.4	石英	両端部微細な鉾打痕と多方向からの砥面により稜をもつ	覆土中層	PL173

第331号土坑 (第354～356図 PL58)

位置 調査区北部のC 3d4区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

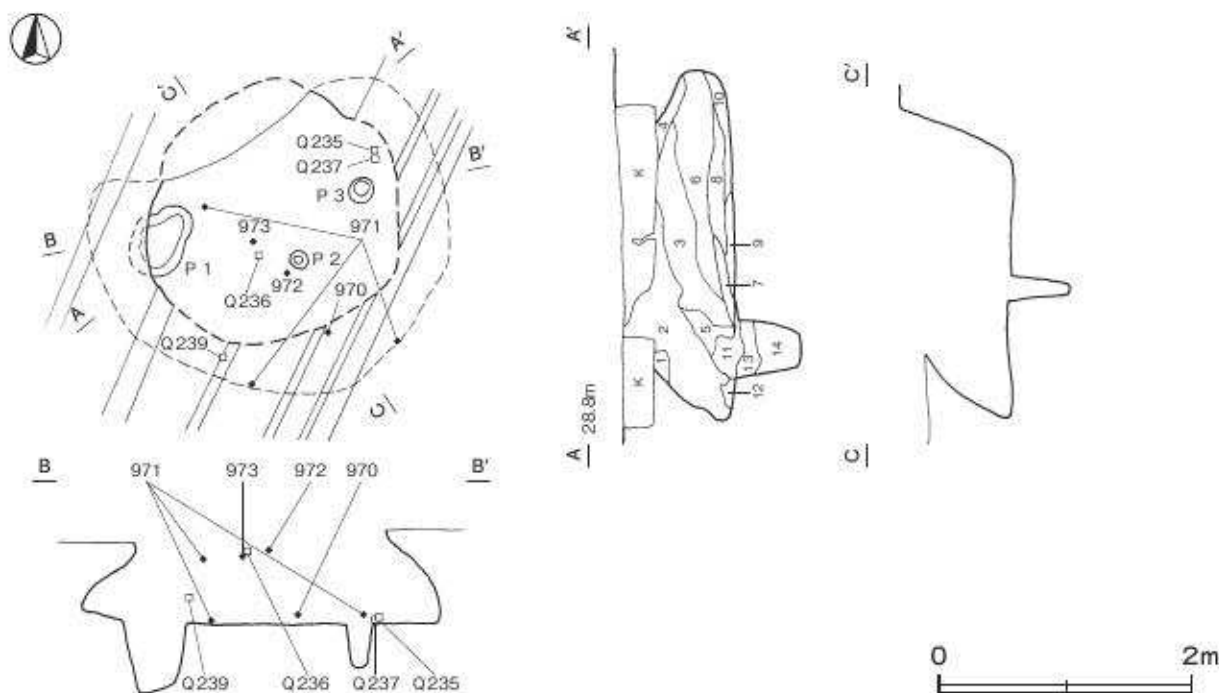
規模と形状 開口部は径1.97～2.12mの円形である。底面は長径2.85m、短径2.20mの楕円形で、平坦である。確認面からの深さは90cmである。壁は底面から強く内彎して、袋状を呈している。

ピット 3か所。P1は西壁寄りに位置し、長径60cm、短径46cmの不整楕円形で、深さは58cmである。P2はほぼ中央部に位置し、径18cmの円形で、深さは48cmである。P3は北東部に位置し、径20cmの円形で、深さは38cmである。P1は規模から考えて、補助的な貯蔵施設、P2・P3は柱穴と考えられる。

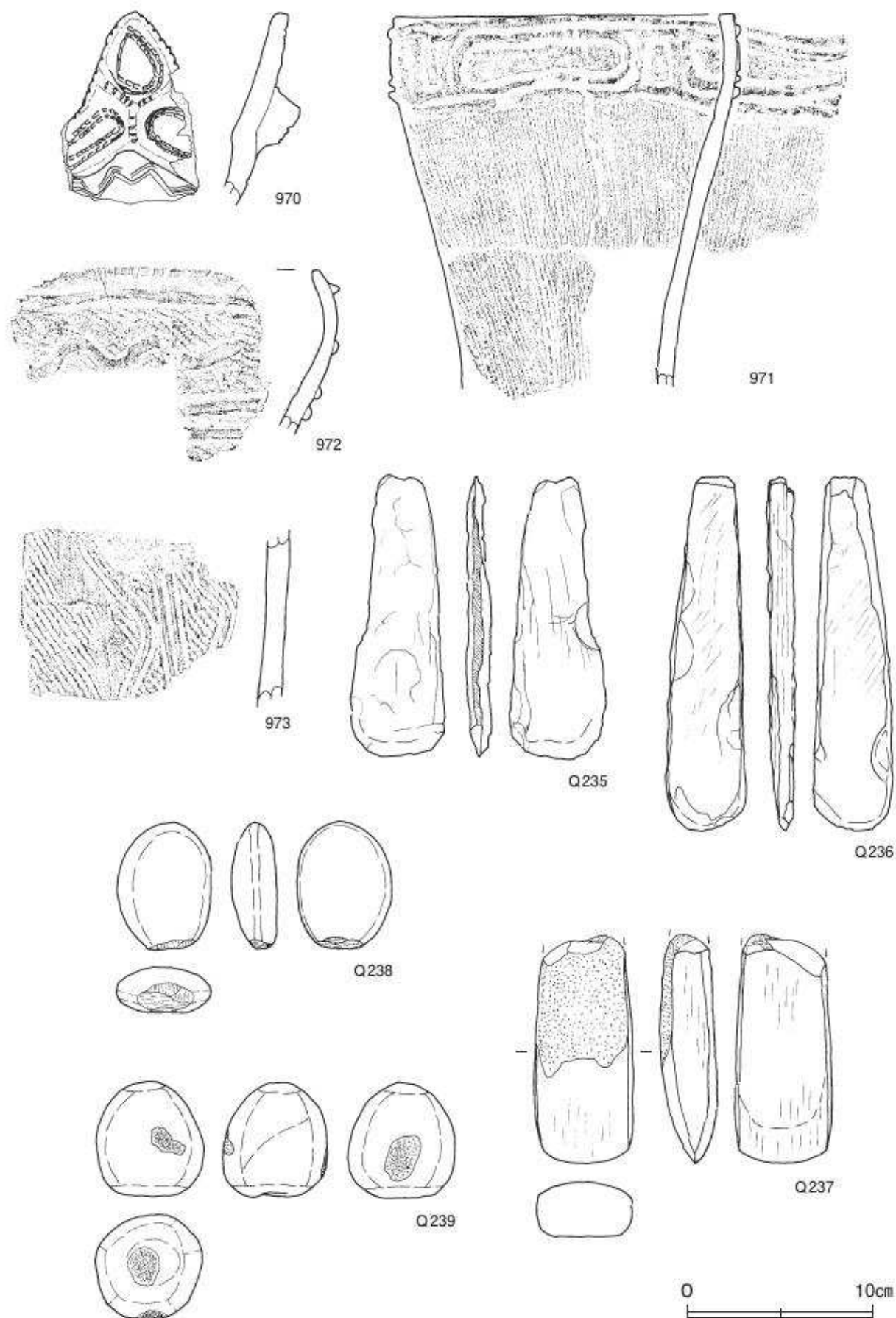
覆土 12層に分層できる。各層にロームブロックや鹿沼バミスが含まれていることから、埋め戻されている。第13・14層は、P1の覆土である。

土層解説

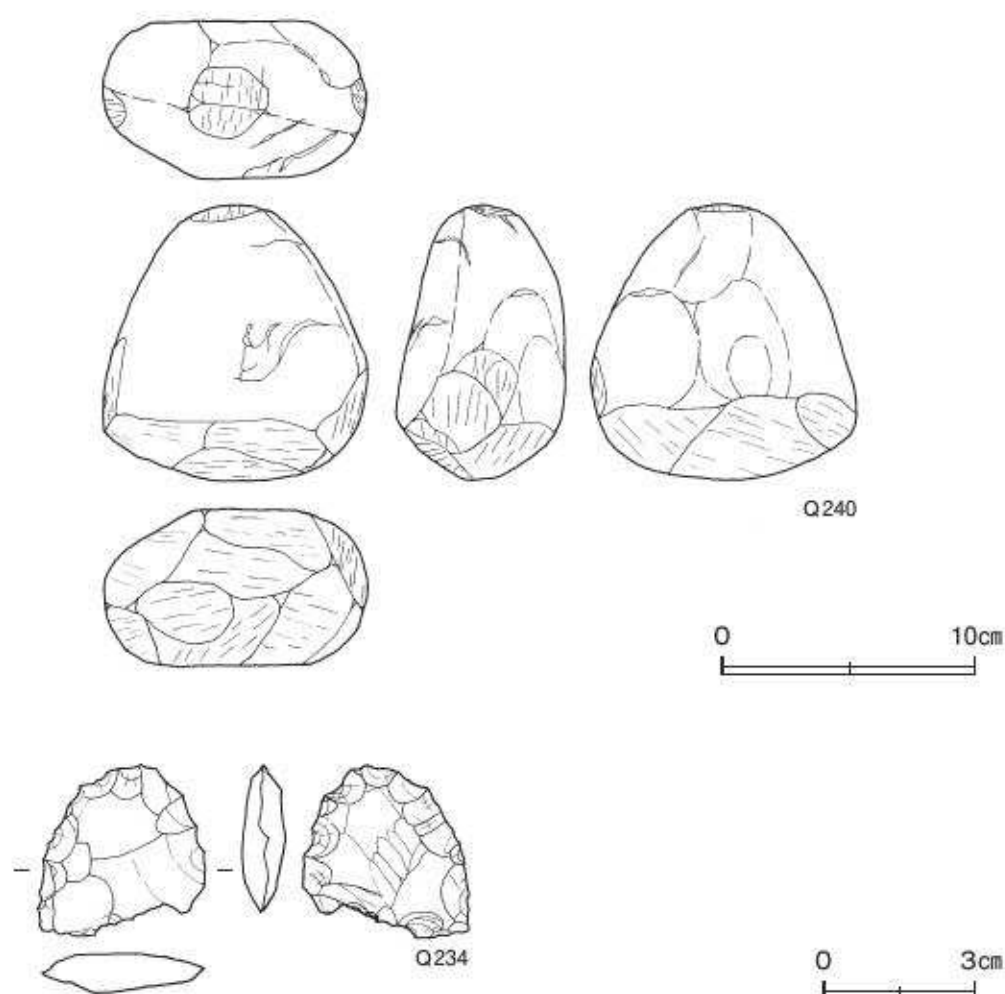
- | | | | |
|-------|-------------------|-----------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量 | 8 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量 | 9 黒褐色 | ロームブロック・鹿沼バミス少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック微量 | 10 暗褐色 | 鹿沼バミス少量、ロームブロック微量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子少量 | 11 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子多量 | 12 にぶい赤褐色 | ロームブロック中量 |
| 6 暗褐色 | 鹿沼バミス多量、ロームブロック少量 | 13 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 7 黒褐色 | ロームブロック微量 | 14 にぶい赤褐色 | ロームブロック中量 |



第354図 第331号土坑実測図



第 355 图 第 331 号土坑出土遗物实测图(1)



第 356 図 第 331 号土坑出土遺物実測図 (2)

遺物出土状況 縄文土器片 373 点 (深鉢 372, 浅鉢 1), 石器 9 点 (スクレイパー 1, 打製石斧 2, 磨製石斧 1, 磨石 1, 敲砥石 3, 不明 1) が出土している。970, Q 235・Q 237 は底面から, 971 は覆土中層と底面から出土した破片が接合している。Q 239 は覆土下層から, 972・973, Q 236 は覆土上層から, Q 234・Q 238・Q 240 は覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。

第 331 号土坑出土遺物観察表 (第 355・356 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
970	縄文土器	深鉢	-	(10.4)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	断面三角形の唇帯により文様描画。唇帯上に掘み状の突起。唇帯上にキザミ目。半截竹管による有筋沈線。縦位の罫線状文。	底面	
971	縄文土器	深鉢	[18.2]	(20.0)	-	長石・石英・雲母	におい赤褐色	普通	口唇部半凹。口縁部唇帯と沈線による横間及び方形の区画。区画内無文。胴部歯状工具による縦位の条線文。	覆土中層・底面	30% PL137
972	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	口唇部無文。地文に単筋縄文 LR (縦)。唇帯を一周させ口縁部区画。区画内蛇行隆帯が巡る。	覆土上層	
973	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・黒色粒子	黒褐色	普通	地文に無筋縄文 L (縦)。半截竹管による縦位の並行沈線・蛇行沈線が重下。	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 234	スレバー	34	3.3	0.8	9.1	石英斑岩	周縁を表面から押圧剥離	覆土中	
Q 235	打製石斧	15.2	5.1	1.3	119.9	ホルンフェルス	撥形 片側縁に研磨痕 刃部は片面を敲打	底面	PL164
Q 236	打製石斧	18.9	4.2	1.5	211.1	角閃岩	撥形 側縁部に研磨痕 刃部は表面を研磨 使用痕 ハマグリ刃	覆土上層	PL164
Q 237	磨製石斧	(12.4)	5.3	3.1	(325.6)	砂岩	逆角式 刃部は表裏から研ぎ出す 平刃 基部欠損 片面基部裏りに敲打痕	底面	PL167 再加工品。
Q 238	敲砥石	6.8	5.1	2.4	127.1	石英	円縁の片端部に微細な敲打痕と多方向からの砥面をもつ	覆土中	PL173
Q 239	敲砥石	6.2	5.9	5.7	278.7	花崗岩	円縁の周縁部に多方向からの砥面をもつ 片面に微細な敲打痕	覆土下層	PL173
Q 240	敲砥石	11.0	10.5	6.7	979.5	石英	楕円縁の周縁部に多方向からの砥面により稜をもつ	覆土中	PL173

第 332 号土坑 (第 357 図 PL59)

位置 調査区北部中央 C 3 a6 区、標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 3 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 径 1.10 m ほどの不整形円で、底面は平坦である。深さは 50 cm である。壁は、ほぼ直立している。

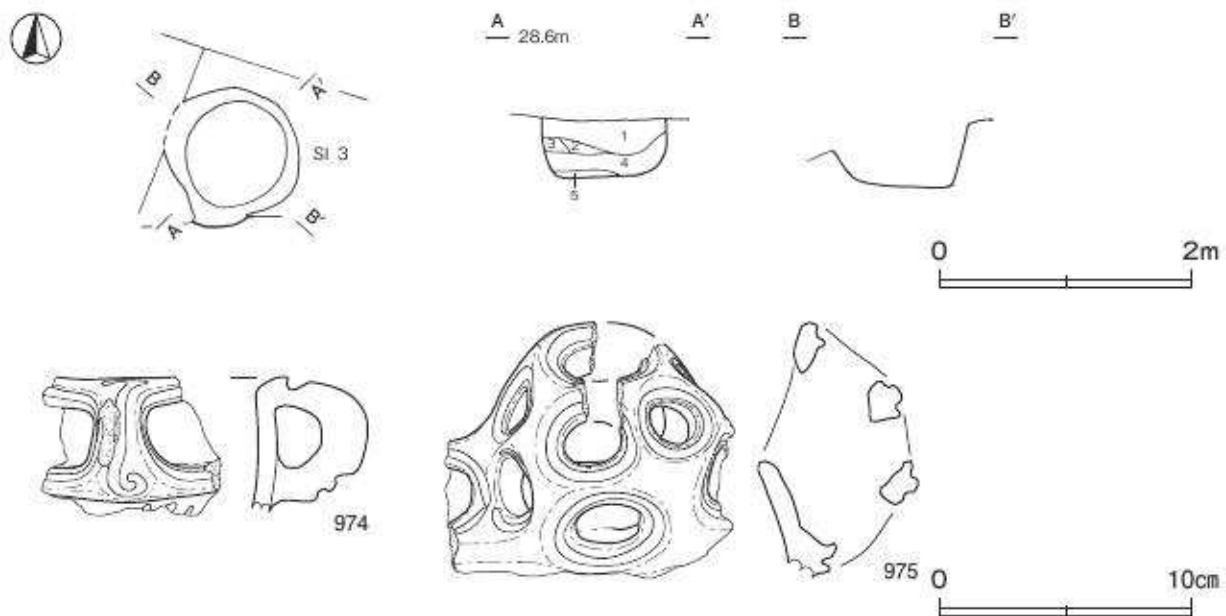
覆土 5 層に分層できる。各層にロームや鹿沼バミスのブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|----------|-----------------------|----------|----------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子多量、炭化粒子微量 | 4 におい黄褐色 | ロームブロック・鹿沼バミスブロック中量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量、鹿沼バミスブロック少量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 におい黄褐色 | ロームブロック・鹿沼バミスブロック少量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 29 点 (深鉢) が出土している。974・975 は覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第 357 図 第 332 号土坑・出土遺物実測図

第 332 号土坑出土遺物観察表 (第 357 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
974	陶文土器	深鉢	-	(5.5)	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい橙	普通	中央の把手・隆帯に沿って沈線文・裏手文	覆土中	PL137
975	陶文土器	深鉢	-	(10.1)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	8か所の円形の穿孔・穿孔に沿って沈線	覆土中	PL137

第 333 号土坑 (第 358・359 図 PL59)

位置 調査区中央部 C 3 e4 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 576 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 2.46 m、短径 2.23 m の楕円形で、長径方向は $N-3^{\circ}-E$ である。底面は平坦で、深さは 60 cm である。壁は外傾している。

ピット 4 か所。P 1 は北壁際に位置し、径 50 cm の円形で、深さ 60 cm である。P 2 は北東壁際に位置し、長径 58 cm、短径 48 cm の楕円形で、深さ 50 cm である。P 3 は南西壁寄りに位置し、長径 54 cm、短径 50 cm の楕円形で、深さは 46 cm である。P 4 は中央部に位置し、径 30 cm の円形で、深さは 40 cm である。P 1～P 3 は位置と規模から補助的な貯蔵施設、P 4 は柱穴と考えられる。

P 1 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量

- 3 黒褐色 ローム粒子・鹿沼バミス粒子少量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量

P 2 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量

- 4 黒褐色 ロームブロック少量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量

P 3 土層解説

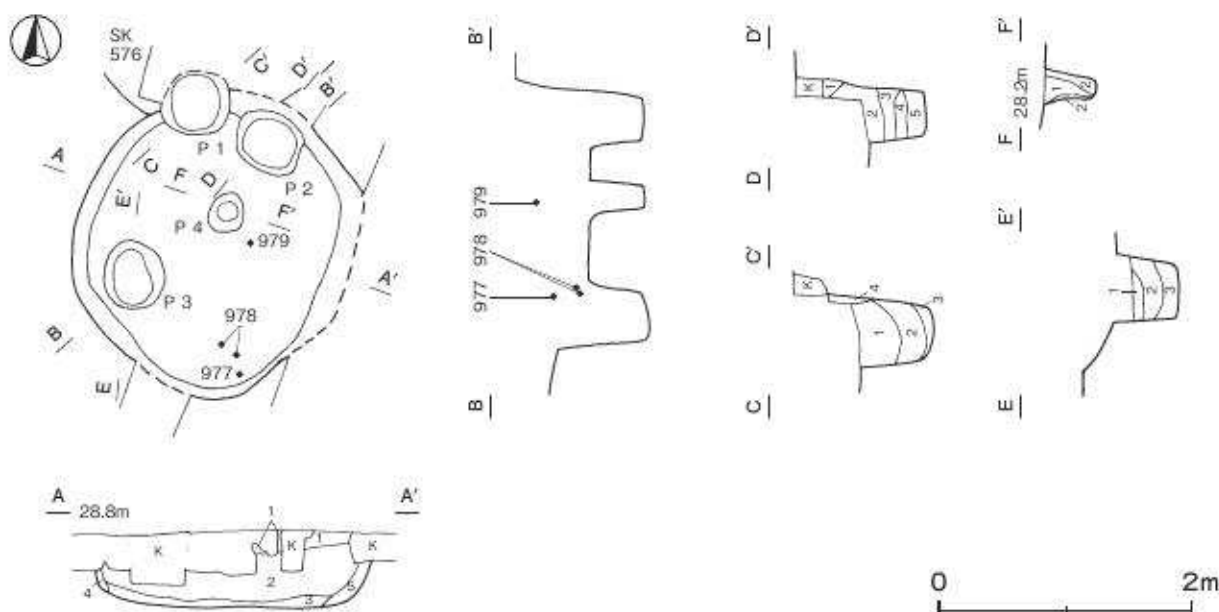
- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量

- 3 黒褐色 ロームブロック微量

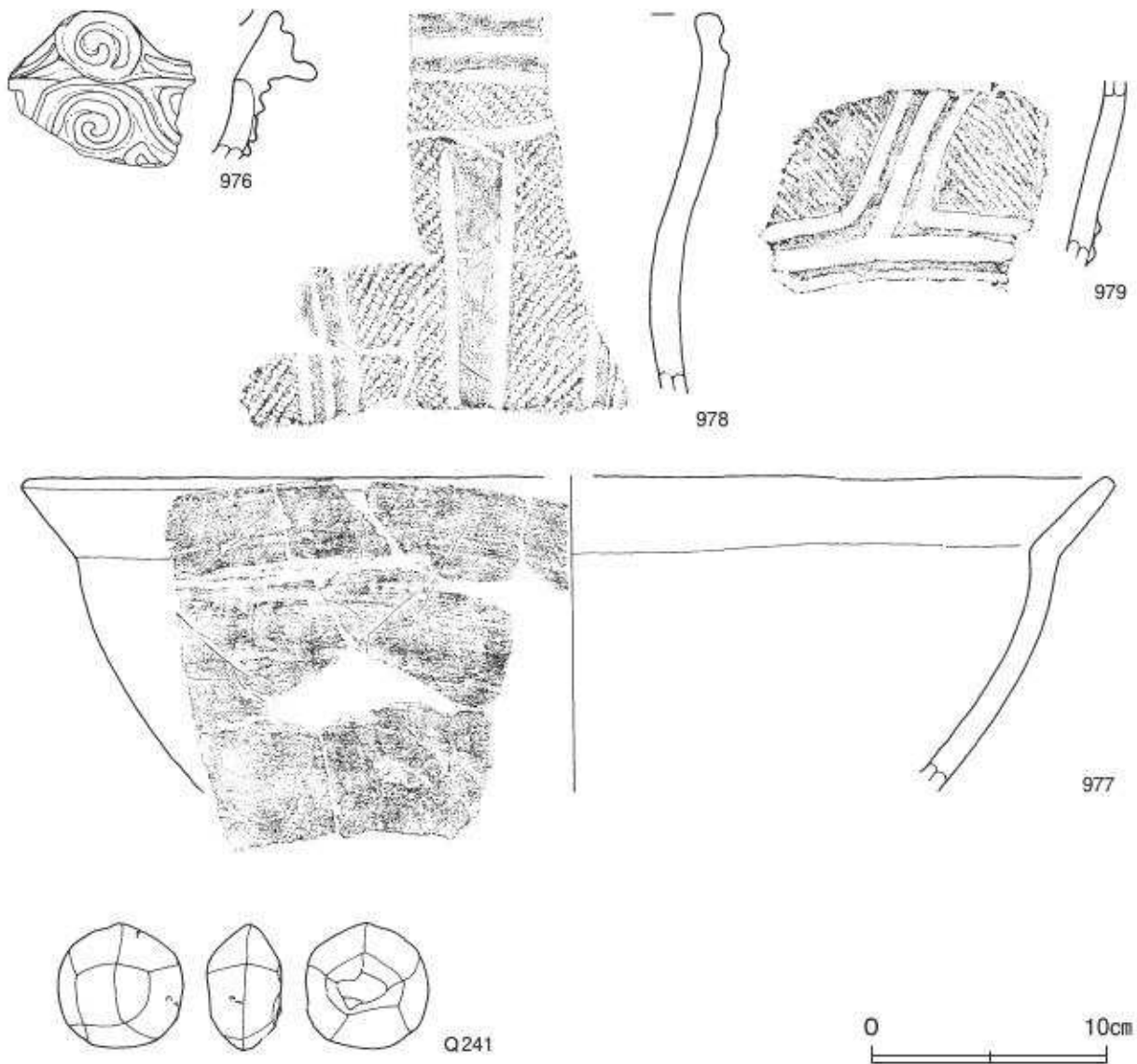
P 4 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

- 2 暗褐色 ロームブロック少量



第 358 図 第 333 号土坑実測図



第359図 第333号土坑出土遺物実測図

覆土 5層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況から、自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|-------|---------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量 | 4 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子中量、焼土粒子少量 | 5 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 203点（深鉢202、浅鉢1）、石器2点（敲砥石、砥石）、剥片1点（瑪瑙）が出土している。978は覆土下層から、977・979はいずれも覆土中層から、976、Q241は覆土中から出土している。いずれも埋没過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、ピットを有する貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

第333号土坑出土遺物観察表(第359図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
976	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口唇頂部に渦巻状突起 口縁部沈線による渦巻文	覆土中	
977	縄文土器	浅鉢	[45.8]	[13.4]	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口縁部くの字状に外反 外・内面ナデ 胴部外・内面横方向の磨き	覆土中層	10%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
978	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色 粒子	橙	普通	口唇部黒文、太沈線を隠らせ箱凹区画、区画内 単部純文R1(横)、胴部は同一単体(縦)を地 文し羽状構成、2-3本の並行沈線を垂下、沈 線間彫削	覆土下層	PL137
979	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	青銅器隆帯による文様区画、区画内無部純文R (横)、隆帯に沿って太沈線を附加	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q241	敲砥石	5.4	5.3	3.2	119.5	チャート	円盤の両縁部に多方向からの砥面により稜をもつ	覆土中	PL173

第336号土坑 (第360・361図 PL59)

位置 調査区北部中央C3b4区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第729号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は長径2.24m、短径2.07mの不整楕円形で、長径方向はN-51°-Eである。底面は径2.58-2.68mの円形で、ほぼ平坦である。確認面からの深さは96cmである。壁は南側が内傾し、その他が底面から強く内彎して、袋状を呈している。

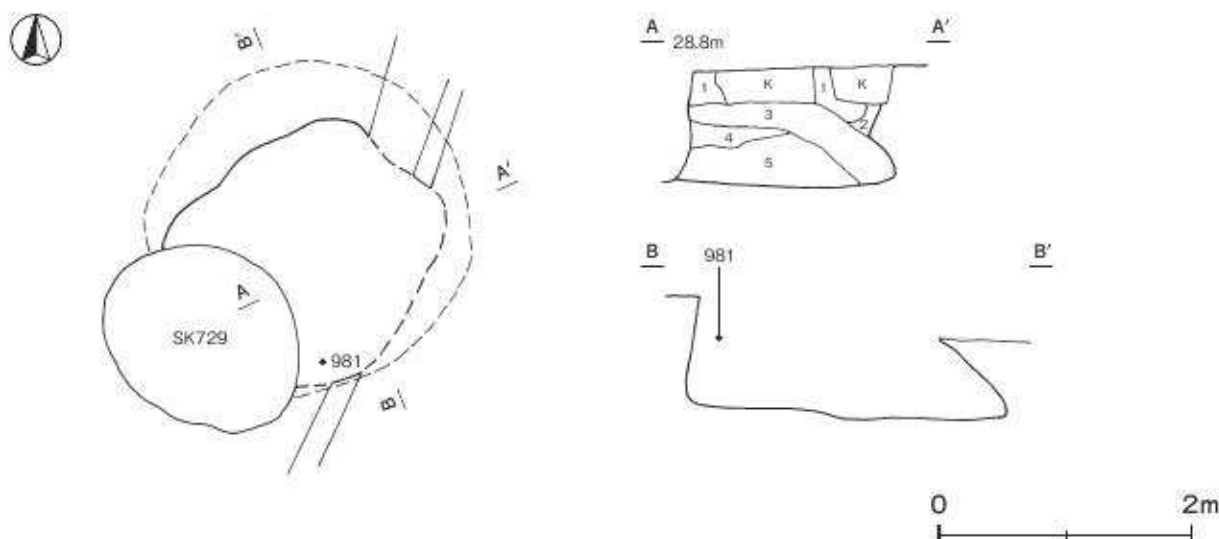
覆土 5層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

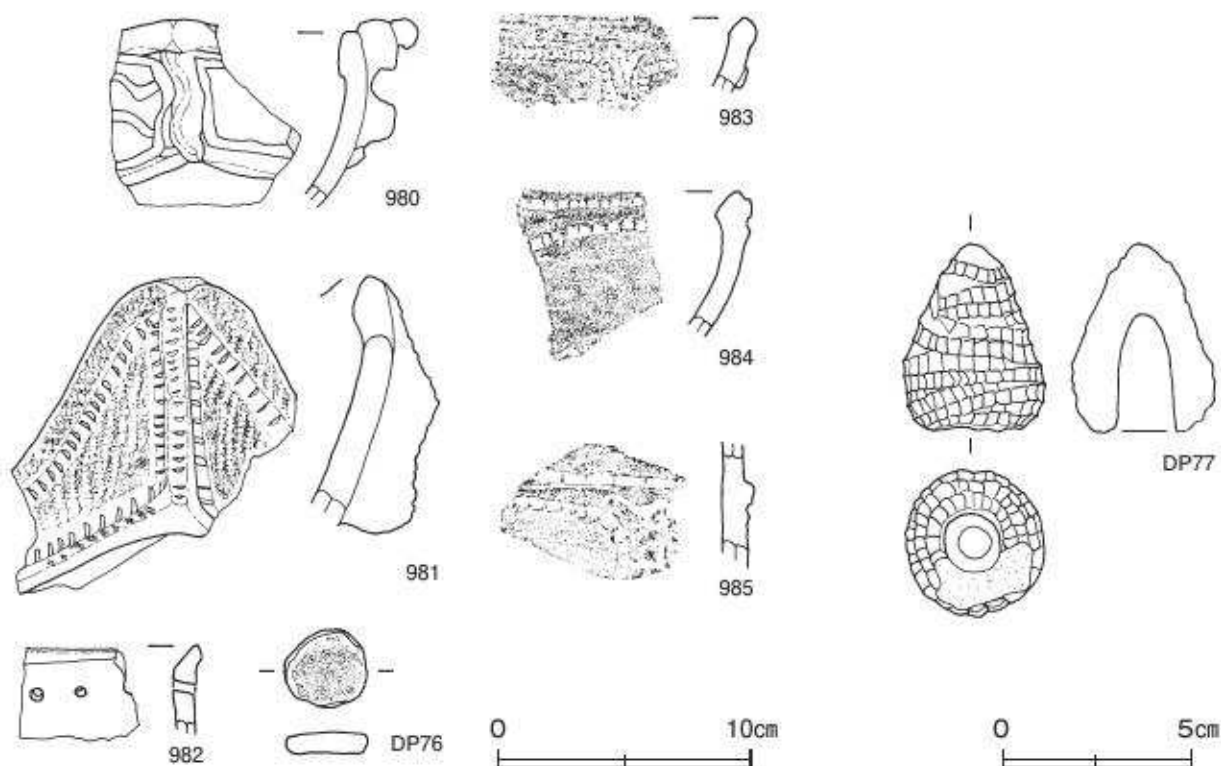
- | | |
|------------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量 | 4 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量 | 5 暗褐色 ロームブロック多量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 | |

遺物出土状況 縄文土器片440点(深鉢427, 浅鉢13)、土製品2点(土器片円盤, 不明土製品)、石核1点(石英)が出土している。981は覆土上層から、980・982-985, DP76・DP77は覆土中からそれぞれ出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第360図 第336号土坑実測図



第361図 第336号土坑出土遺物実測図

第336号土坑出土遺物観察表 (第361図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
980	縄文土器	深鉢	-	(7.5)	-	長石・石英	褐色	普通	口唇部三角形の突起。鱗状の隆帯による区画文。区画内及び隆帯に沿って沈線。	覆土中	
981	縄文土器	深鉢	-	(12.5)	-	長石・石英・雲母	黒	普通	波状口縁。口唇部肥厚。鱗状の隆帯による区画文。隆帯上及び隆帯に沿ってキザミ目。地文に準節縄文RL(横・斜)。	覆土上層	
982	縄文土器	深鉢	-	(3.7)	-	長石・石英・角閃石	褐色	良好	口唇内面内割き。口唇部肥厚。口縁部線状工具による穿孔。	覆土中	
983	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	口縁部V字状の隆帯貼付。隆帯に沿って1本の有節沈線。	覆土中	
984	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	口唇部内割き。口縁上部に2本の有節沈線。	覆土中	
985	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	赤褐色	普通	断面三角形の隆帯により区画文。隆帯上に一部挿み状の突起。隆帯に沿って1本の有節沈線。	覆土中	
DP76	土器片	丸蓋	3.0	3.3	0.8	122	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい赤褐色	刷部片。黒線部研磨。	覆土中	
DP77	木製土製品		5.0	3.8	3.8	(47.0)	長石・石英・雲母	赤褐色	有節沈線が周囲。中央部指頭による凹み。松笠形。	覆土中	PL160

第338号土坑 (第362・363図 PL60)

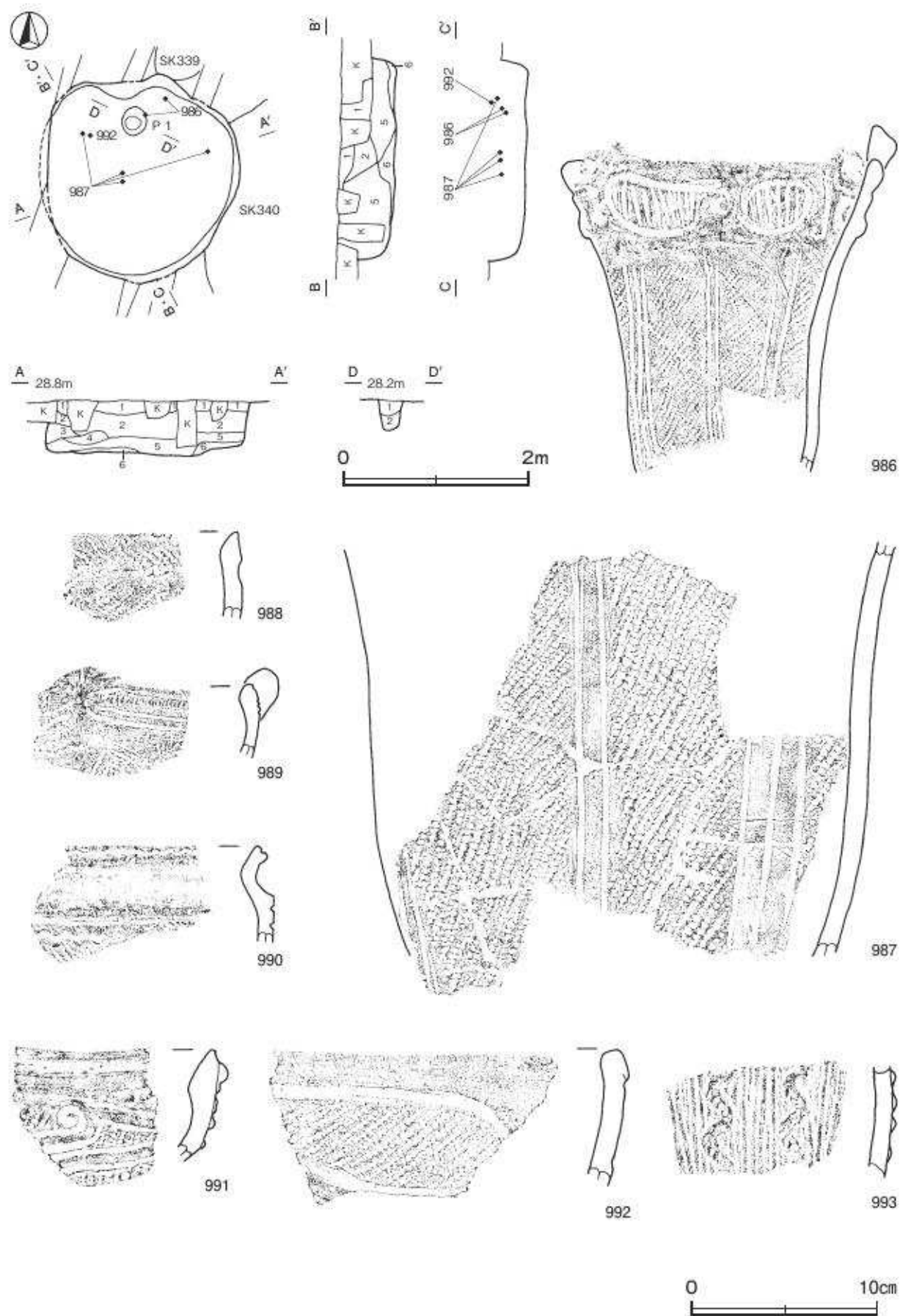
位置 調査区北部中央のC3c5区。標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第340号土坑を掘り込んでいる。第339号土坑との新旧関係は不明である。

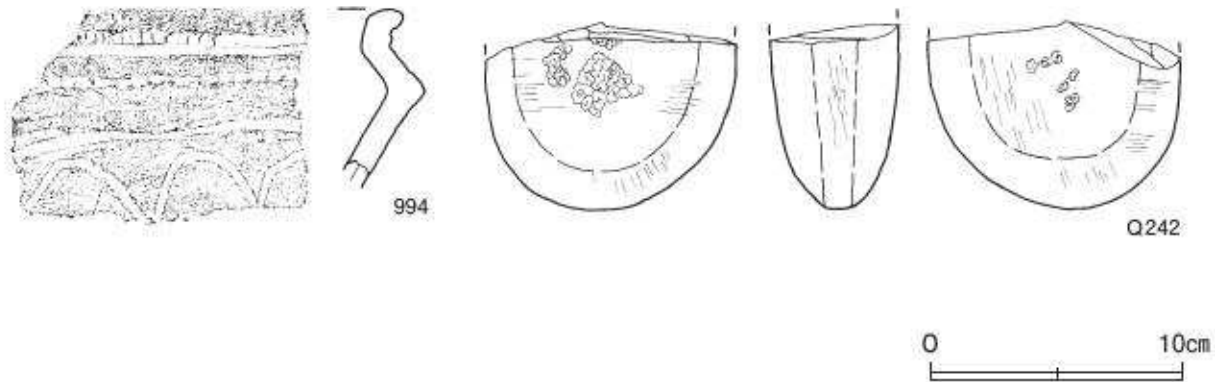
規模と形状 径2.10～2.25mの不整形円形である。底面は平坦で、深さは58cmである。壁はほぼ直立している。

ピット 北部に位置し、径28cmの円形で、深さは36cmである。規模と形状から柱穴と考えられる。

覆土 6層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。



第 362 图 第 338 号土坑·出土遺物実測図



第363図 第338号土坑出土遺物実測図

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子少量 | 5 黒褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量 | 6 暗褐色 | ロームブロック微量 |

遺物出土状況 縄文土器片166点（深鉢）、石器1点（敲石）が出土している。986・987・992は覆土中層から、988～991・993・994、Q242は覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。
所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

第338号土坑出土遺物観察表(第363図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
986	縄文土器	深鉢	[16.2]	(18.7)	-	長石・石英・雲母	赤褐色	普通	口縁上部に高巻突起、口縁部低い部分により楕円区画・渦巻文、区画内縦位の条線文、胴部は単節縄文RL(縦)、2-3本の並行沈線が垂下沈線間磨消	覆土中層	30% PL137
987	縄文土器	深鉢	-	(22.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	地文に単節縄文RL(縦)、2本の並行沈線を垂下沈線間磨消	覆土中層	20% PL137
988	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口唇内側に段、口縁部指頭による凹線を一帯、口縁上部単節縄文RL(横)、凹線下新形縄文(縦)	覆土中	
989	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	口縁内側に段、握み状の突起、口縁上部に縦位の爪形文、手載竹管による横線文	覆土中	
990	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・黒色砂子	にぶい褐色	普通	口唇部外反、口唇頂部に波状沈線が一帯、胴部横位の有節沈線と波状沈線が巡る、地文に無節縄文R(横)	覆土中	
991	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	口唇内側に段、口縁部隆帯が一帯、地文に単節縄文LR(横)、隆帯による渦巻文を描画	覆土中	
992	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・細砂	灰褐色	普通	口唇部厚、太沈線による楕円区画、区画内単節縄文RL(縦)	覆土中層	
993	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	手載竹管による縦位の条線文、縦位の蛇行隆帯が垂下	覆土中	内面煤付着
994	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口唇部S字状に外反、横位の有節沈線と沈線が一帯、逆U字状文を連続して描画	覆土中	

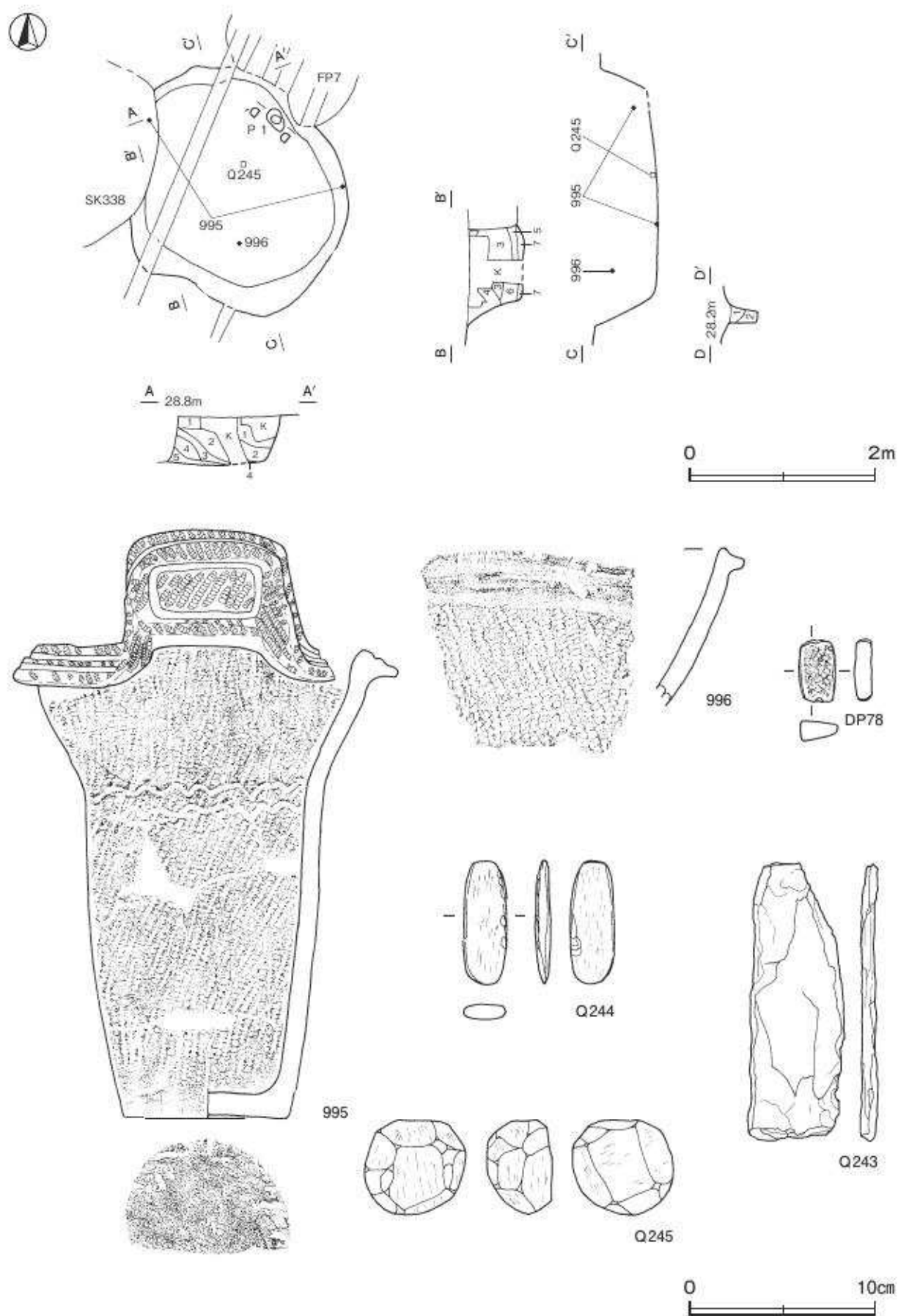
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q242	敲石	(7.5)	10.0	5.1	(498.2)	砂岩	表表面に微細な敲打痕、周縁部磨削	覆土中	

第340号土坑(第364図 PL60)

位置 調査区北部中央C3c5区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第338号土坑に掘り込まれている。第7号炉跡との新旧関係は不明である。

規模と形状 長径2.80m、短径2.41mの楕円形で、長径方向はN-18°-Wである。底面は平坦で、深さは62cmである。壁は外傾している。



第 364 図 第 340 号土坑・出土遺物実測図

ピット 北東壁際に位置し、長径24cm、短径12cmの楕円形で、深さ30cmである。形状から柱穴と考えられる。

ピット土層解説

- | | | | |
|-------|---------|-------|---------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量 | 2 黒褐色 | ローム粒子微量 |
|-------|---------|-------|---------|

覆土 7層に分層できる。多くの層にロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 6 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量 | 7 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子少量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片87点(深鉢86、浅鉢1)、土製品1点(土器片鏟)、石器3点(打製石斧、磨製石斧、敲砥石)、石核1点(瑪瑙)が出土している。995は、東・西壁際の覆土下層と底面から出土した破片が接合している。Q 245は中央部の底面、996は覆土上層、DP78、Q 243・Q 244は覆土中からそれぞれ出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第340号土坑出土遺物観察表(第364図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
995	縄文土器	深鉢	17.6	32.0	8.8	長石・石英・雲母・黒色粒子	明赤褐	普通	口径顶部斜位の平坦面・取手2本の沈線が二重。踵状の隆帯。平坦面・把手部・隆帯上に単筋縄文RL(横)。口径直下(斜)・頸部は2本の航行沈線がある。	覆土下層・底面	90% PL138
996	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	明赤褐	普通	口径部厚。頂部に凹線が一重。底面に単筋縄文RL(横)。	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP78	土器片鏟	3.3	2.0	1.1	8.7	長石・雲母	にぶい褐	口縁部片。口縁を軸線にし、両側にキザミ目。周縁部を丁寧に研磨。	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 243	打製石斧	15.1	4.8	0.9	108.7	角閃岩	脱形 縦長の割片。素材。	覆土中	PL164
Q 244	磨製石斧	6.7	2.4	0.8	24.1	角閃岩	極小型 全面研磨。周縁部に弱い稜。刃部は表裏から研ぎ出す。	覆土中	PL170
Q 245	敲砥石	5.5	5.2	3.6	221.9	砂岩	円縁の周縁部に多方向からの底面により稜をもつ。	底面	PL173

第342号土坑(第365・366図)

位置 調査区西部のC 2c7区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

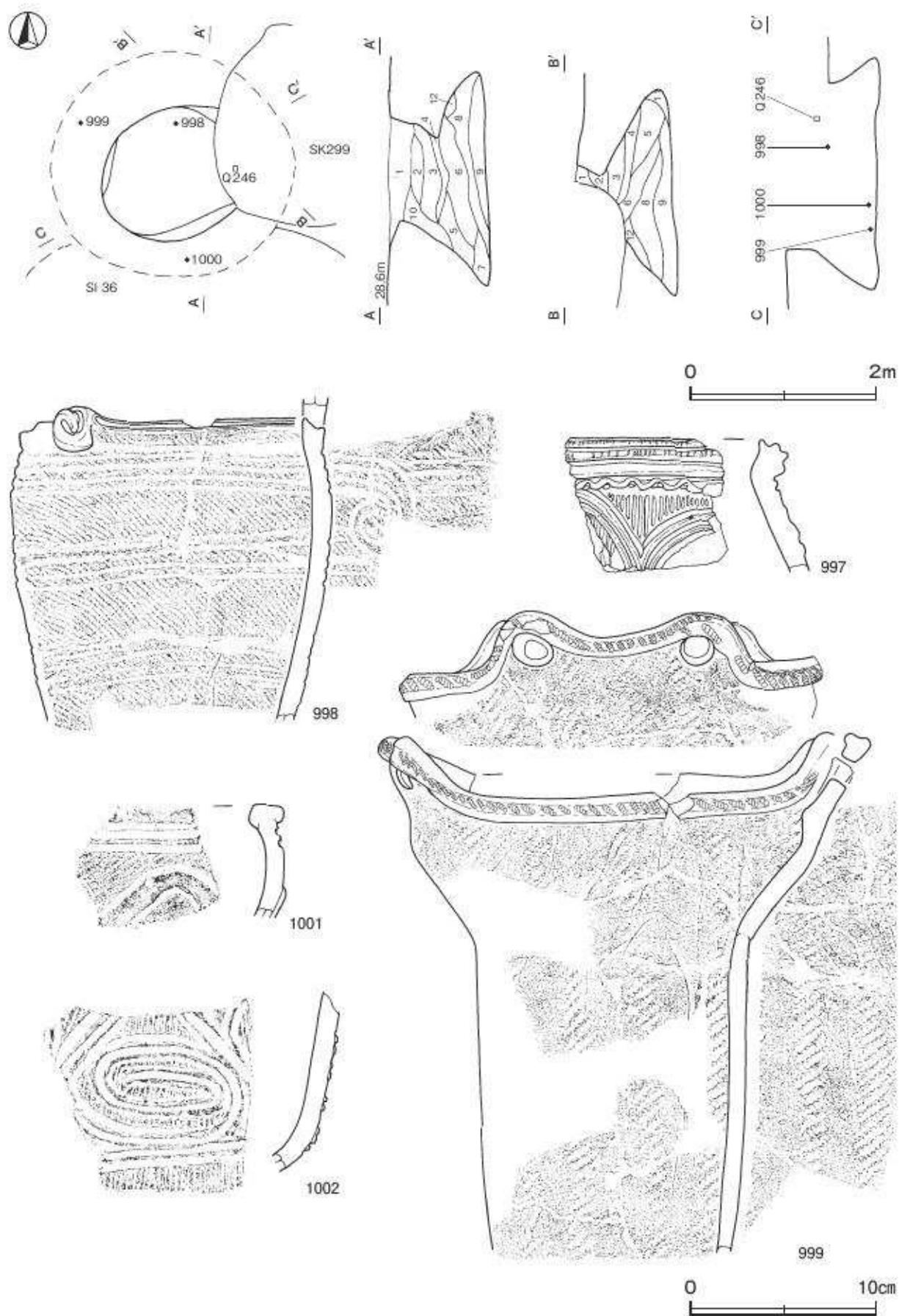
重複関係 第36号竪穴建物跡を掘り込み、第299号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北東部を第299号土坑に掘り込まれており、開口部は長径が1.65mしか確認できなかった。短径は1.43mで、楕円形と推定でき、長径方向はN-71°-Eである。底面は径2.48~2.60mの円形で、平坦である。確認面からの深さは104cmである。壁は底面から強く内彎して、袋状を呈し、上位は外傾している。

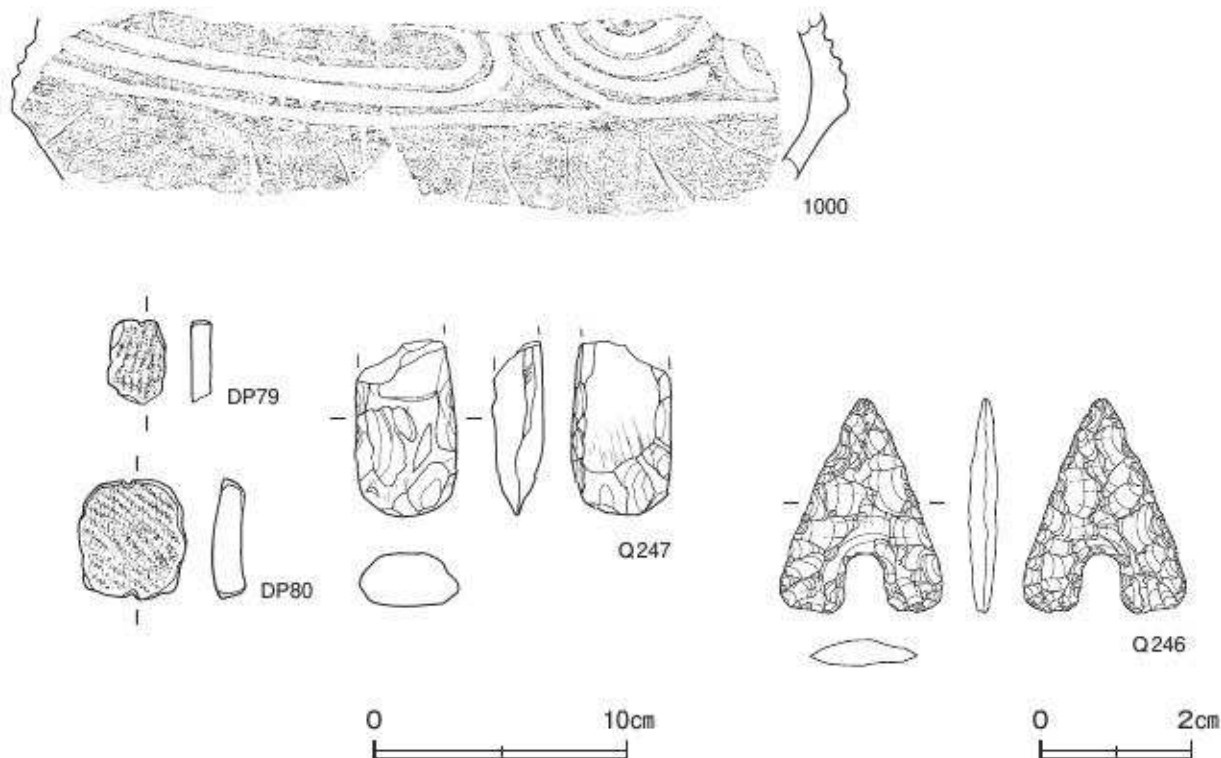
覆土 12層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|--------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 | 7 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量 | 8 黒褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量 |
| 3 黒褐色 | 炭化粒子中量、ロームブロック・焼土粒子少量 | 9 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子多量、炭化粒子微量 | 11 褐色 | ロームブロック多量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子微量 | 12 暗褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量 |



第 365 图 第 342 号土坑・出土遺物実測図



第366図 第342号土坑出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片168点(深鉢167, 浅鉢1), 土製品2点(土器片鏟), 石器6点(鏃1, 打製石斧1, 磨製石斧2, 磨石1, 敲石1), 剥片1点(ホルンフェルス)が出土している。999は西壁際, 1000は南壁際の底面から破片が散乱した状態で出土している。998, Q 246は中央部の覆土中層, 997・1001・1002, DP79・DP80, Q 247は覆土中からそれぞれ出土しており, いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。

第342号土坑出土遺物観察表(第365・366図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
997	縄文土器	深鉢	-	(7.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	口唇頂部に背割れ隆帯が一周, 隆帯にキザミ目地文に縦位の熱糸文。文互刺突による蛇行沈線。風線文を描画	覆土中	
998	縄文土器	深鉢	[14.4]	(17.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	口唇頂部に太沈線が一周, 渦巻状の隆帯。口唇直下から基部縄文L(横)を断面施文。平截竹管による横線文・渦巻文	覆土中層	25% PL138
999	縄文土器	深鉢	24.8	(28.3)	-	長石・石英・雲母・細砂・赤色粘土	にぶい褐色	普通	4單位の身孔突起。口縁部には隆帯を一周, 隆帯上に単節縄文RL(横)。口縁直下から同一原体による側を削りつけた縦施文	底面	50% PL138
1000	縄文土器	浅鉢	-	(6.6)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	沈線による楕円・同心円文。外・内面横方向のナデ	底面	10% PL138
1001	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口唇部厚。口唇部平坦。基文に単節縄文LR(横)。口縁部横位の並行沈線。若い蛇行隆帯に沿って沈線を付加	覆土中	
1002	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	地文に縦位の熱糸文。背割れ隆帯による横線・斜線・渦巻文を描画	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP79	土器片鏟	3.4	2.3	0.8	8.1	長石・石英・雲母	褐色	側部片 一端にキザミ目 片側縁研磨	覆土中	
DP80	土器片鏟	4.8	4.2	1.3	27.1	長石・雲母・赤色粘土	にぶい橙	側部片 両端にキザミ目 両縁部粗雑に研磨	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 246	鏃	2.9	2.2	3.9	1.8	チャート	基部中央は深く彎入	覆土中層	PL161
Q 247	打製石斧	(6.9)	4.0	2.1	(81.5)	ホルンフェルス	撥形 片面に自然面 側縁部・刃部敲打後研磨 基部欠損	覆土中	

第 343 号土坑 (第 367 図 PL32)

位置 調査区西部 C 2 c6 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 101 号土坑を掘り込んでいる。第 360 号土坑との新旧関係は不明である。

規模と形状 開口部は、長径 1.97 m、短径 1.65 m の楕円形で、長径方向は N-76°-E である。底面は長径 1.78 m、短径 1.52 m の楕円形で、平坦である。確認面からの深さは 85 cm である。壁は北部がやや内彎し、その他が底部から丸みを帯びて、ほぼ直立している。

ピット 2 か所。P 1・P 2 は、深さ 68・40 cm で、中央部や壁際に位置していることから、柱穴と考えられる。

覆土 5 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第 6・7 層は、P 1 の覆土である。

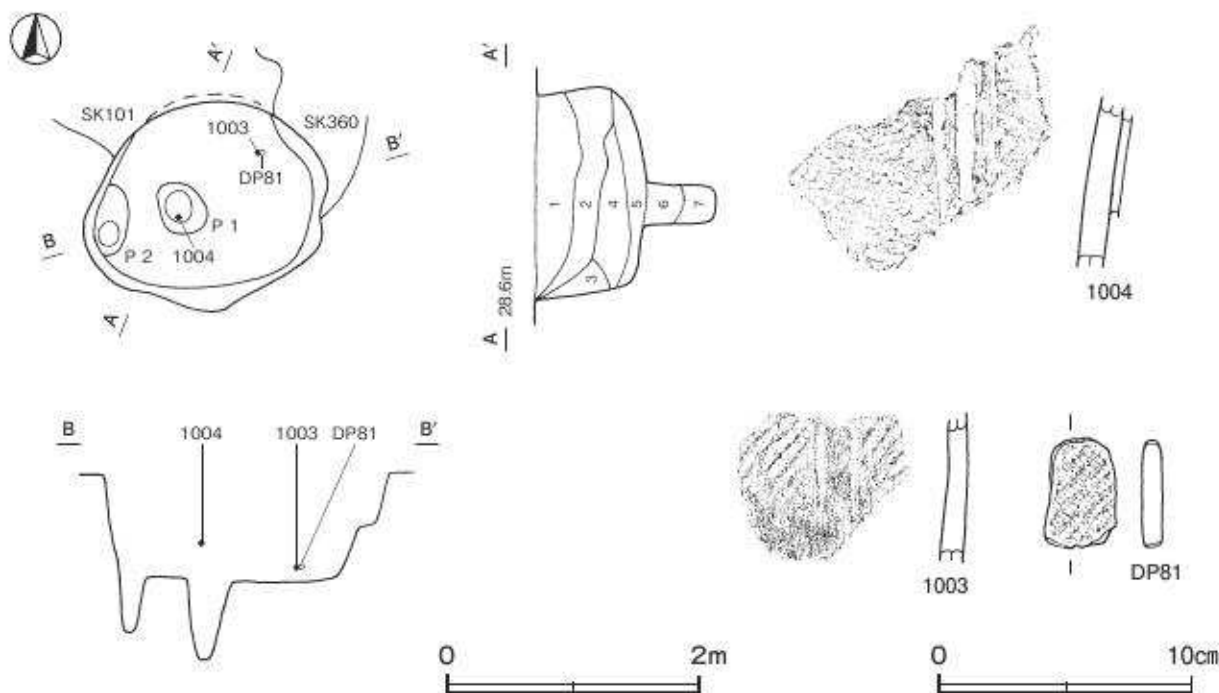
土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子少量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量、ロームブロック微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 63 点 (深鉢 61、浅鉢 2)、土製品 1 点 (土器片鏝)、剥片 1 点 (瑪瑙) が出土している。

1003、DP81 は北東部の底面から、1004 は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。



第 367 図 第 343 号土坑・出土遺物実測図

第 343 号土坑出土遺物観察表 (第 367 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1003	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	地文に稀密縄文 LR (縦) 並行沈線が垂下 沈線間磨滑	底面	
1004	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・ 黒色粒子	明赤褐色	普通	地文に半節縄文 LR (縦) 背割れ隆帯が垂下	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP81	土器片鉢	4.3	2.9	0.8	138	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	胴部片 両端にキザミ目 胴縁部粗雑に研磨	底面	

第345号土坑（第368図 PL60）

位置 調査区北西部のB24区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第211・347号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径2.51m、短径1.87mの楕円形で、長径方向はN-13°-Eである。底面は平坦で、深さは45cmである。壁は外傾している。

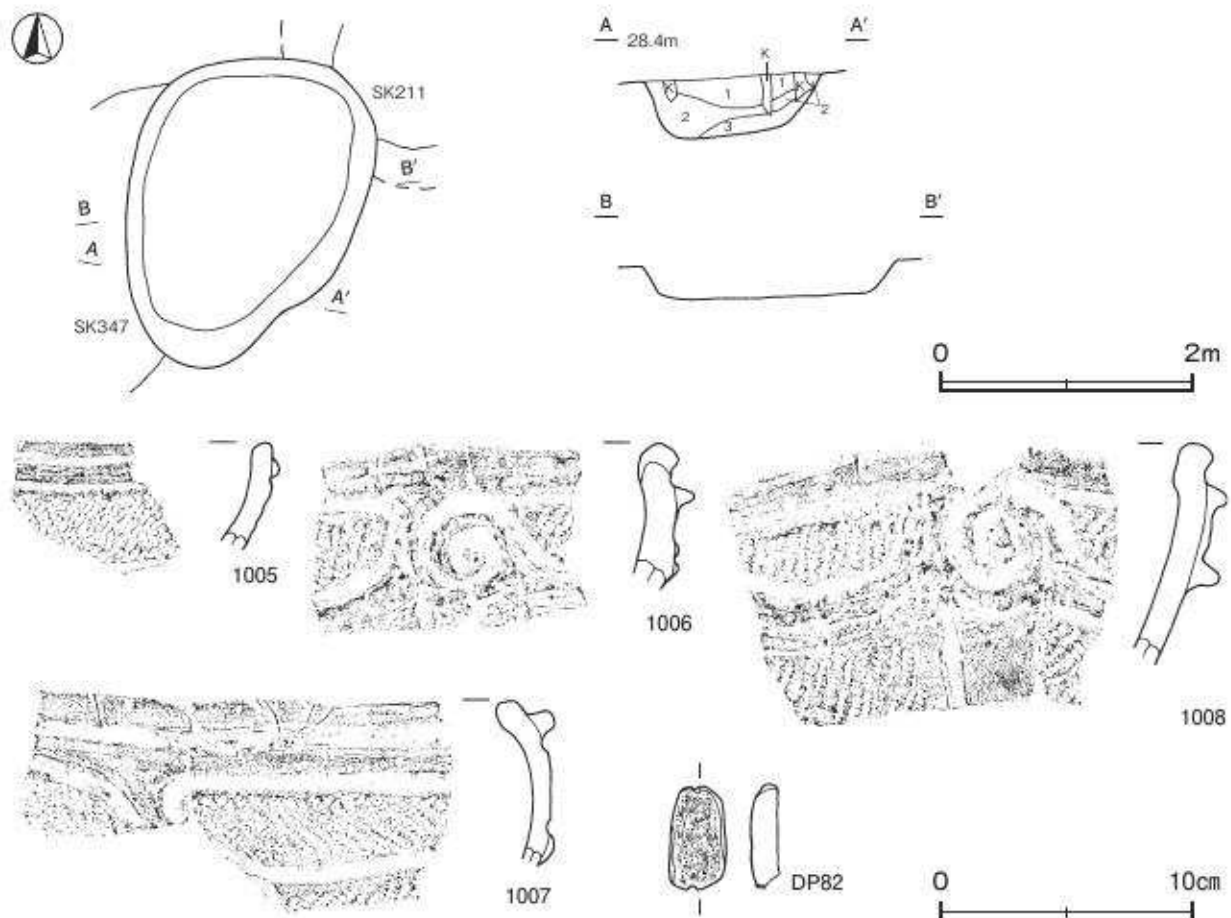
覆土 3層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子・焼土粒子微量
 2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子中量、焼土ブロック微量

遺物出土状況 縄文土器片95点（深鉢）、土製品1点（土器片鉢）が出土している。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。



第368図 第345号土坑・出土遺物実測図

第345号土坑出土遺物観察表(第368図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1005	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	口径内面内側、地文に単節縄文RL(横) 背割れ隆帯が一部	覆土中	
1006	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	隆帯による栴門区画と渦巻文 隆帯に沿って沈線を加え、地文に単節縄文LR(横)	覆土中	
1007	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	口径上部に木沈線が一部、地文に単節縄文RL(横) 沈線による栴門区画	覆土中	PL138
1008	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	隆帯による栴門区画・渦巻文、区画内及び側部単節縄文RL(縦) 渦巻文から並行沈線が垂下沈線四角溝	覆土中	PL138

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP82	土器片縁	4.1	2.3	1.0	(12.1)	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰褐色	胴部片 両端にキザミ目 肩縁部粗雑に研磨	覆土中	

第346号土坑(第369・370図 PL61)

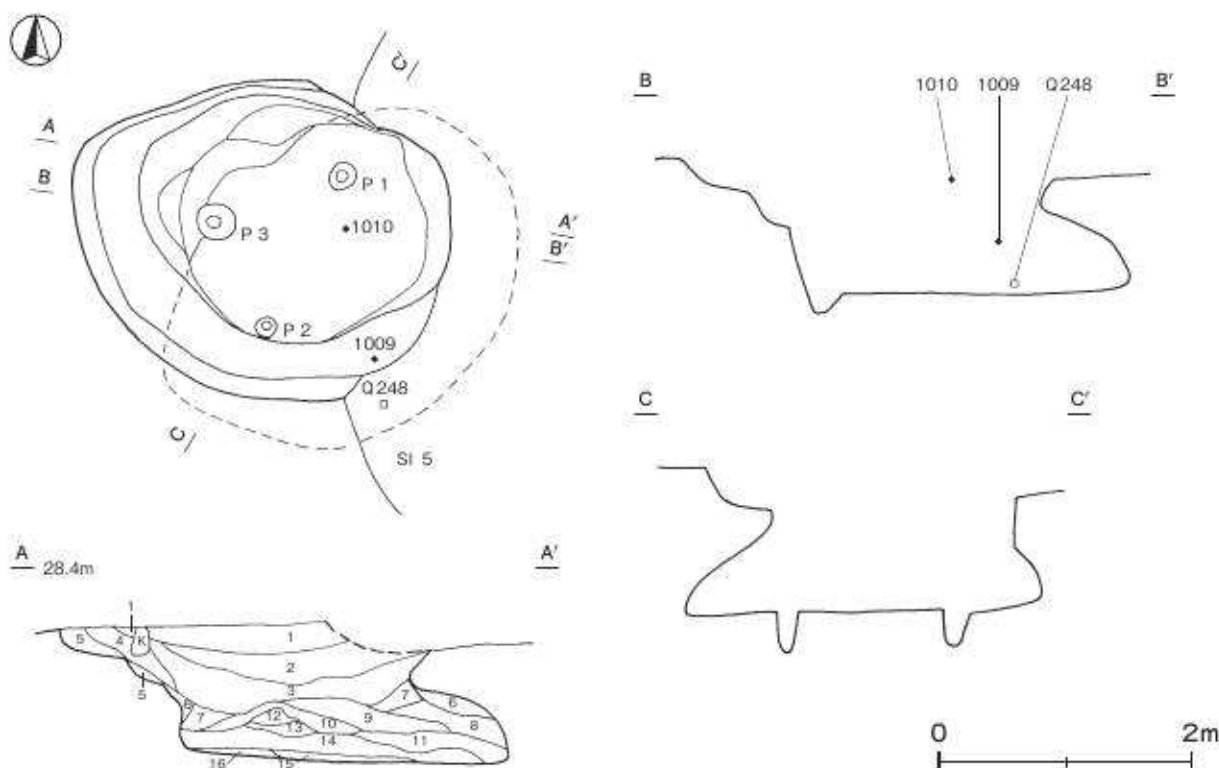
位置 調査区西部のC2a4区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第5号竪穴建物に掘り込まれている。

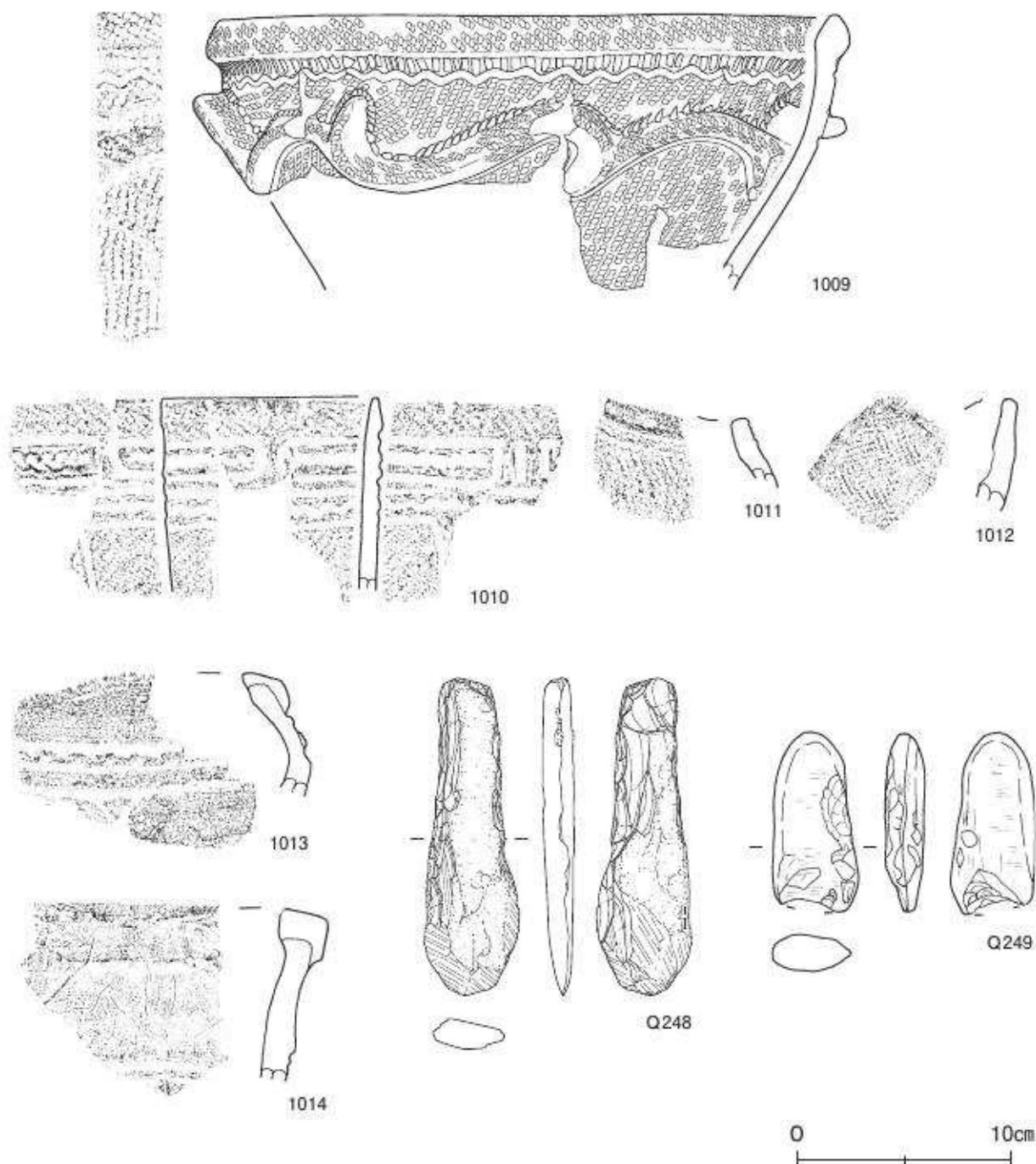
規模と形状 開口部は長径3.05m、短径2.57mの不整楕円形で、長径方向はN-77°-Wである。底面は長径3.03m、短径2.40mの楕円形で、平坦である。確認面からの深さは115cmである。壁は西部が外傾しており、その他が大きく内彎して、袋状を呈している。

ピット 3か所。P1は北東部に位置し、径20cmの円形で、深さ26cmである。P2は南部に位置し、径14cmの円形で、深さは30cmである。P3は西壁際に位置し、径30cmの円形で、深さは15cmである。

覆土 16層に分層できる。第1～5層は、周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。第6～16層は、各層にロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。



第369図 第346号土坑実測図



第370図 第346号土坑出土遺物実測図

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量	9	暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量
2	黒褐色	ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子少量	10	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子中量、焼土ブロック微量
3	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子中量、炭化粒子少量	11	褐色	ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子微量
4	暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量	12	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック中量、炭化粒子少量
5	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量	13	暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子微量
6	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量	14	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子少量、炭化物微量
7	暗褐色	ロームブロック少量、炭化物・ローム粒子微量	15	褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
8	暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量	16	褐色	ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片 195点(深鉢), 石器5点(磨製石斧3, 打製石斧2), 石製品1点(不明), 剥片3点(瑪瑙2, チャート1)が出土している。Q 248は南東壁際の底面, 1009は南東部の覆土中層から出土しており, 埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。1010は中央部の覆土上層, 1011~1014, Q 249は覆土中から

それぞれ出土しており、埋没する課程で投棄あるいは流れ込んだものと考えられる。

所見 規模と形状から、ピットを有する貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第346号土坑出土遺物観察表（第370図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1009	陶文土器	深鉢	[29.0]	(12.9)	-	長石・石英・雲母・黒色塵点	橙	普通	口唇部肥厚。肥厚部に単節縄文RL（縦）肥厚部に沿ってキヤタヒラ文が一道。腹状の隆帯による変形S字状文。隆帯に沿ってパン先状の刺突	覆土中層	20% PL138
1010	陶文土器	深鉢	10.0	(9.1)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁上部に段多葉縄文RL（横）が一道。横橋円区画。区画内波状沈線。頸部を横位の波状沈線が一道。沈線が垂下。胴部は同一原体（縦）	覆土上層	30% PL138
1011	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口縁内側に段。口縁上部無文。2本の有節沈線が一道。地文に単節縄文LR（縦）	覆土中	
1012	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	波状口縁。地文に単節縄文RLを縦・横に施文し。格子状に縄文を施文	覆土中	
1013	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口唇部肥厚。口縁上部に交互刺突文。太沈線による区画文	覆土中	
1014	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒	普通	口唇頂部に平坦面。口縁部無文。2本の沈線文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 248	打製石斧	14.8	4.5	1.5	112.1	粘板岩	楔形。肩縁部敲打調整。刃部は表裏とも斜方向に研磨	底面	PL164
Q 249	打製石斧	8.5	4.0	1.8	(88.2)	石英珪岩	楔形。肩平な自然産の片。肩縁部敲打調整。刃部欠損	覆土中	PL164

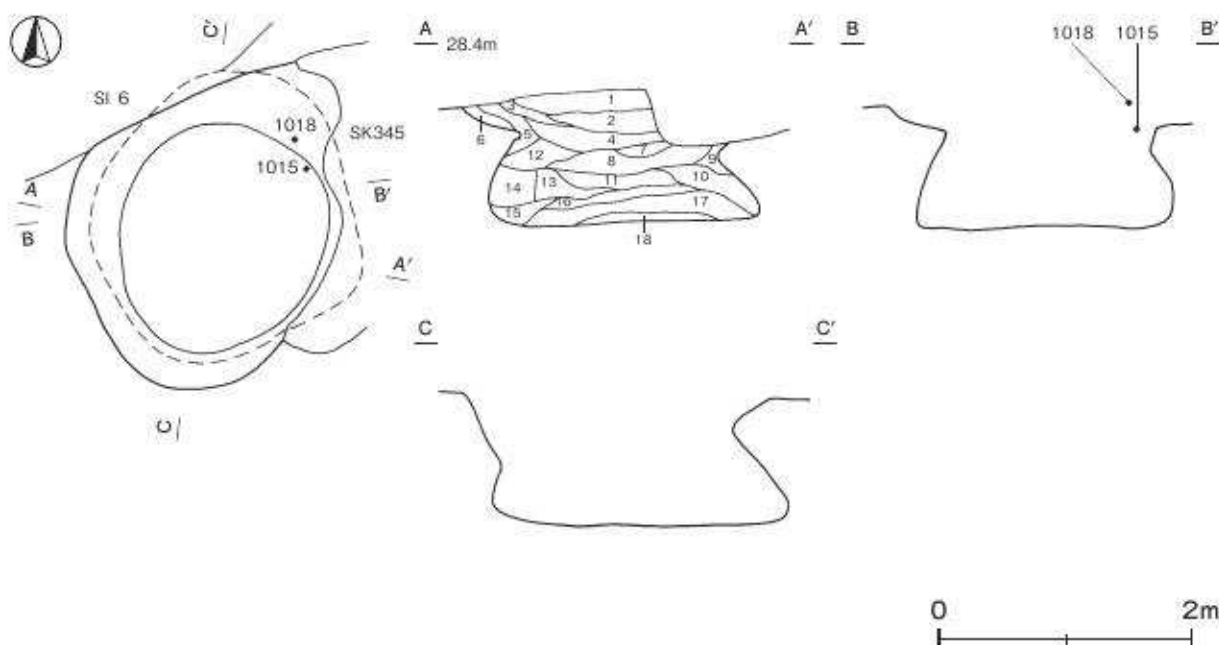
第347号土坑（第371・372図 PL61）

位置 調査区北西部のB 2j4区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

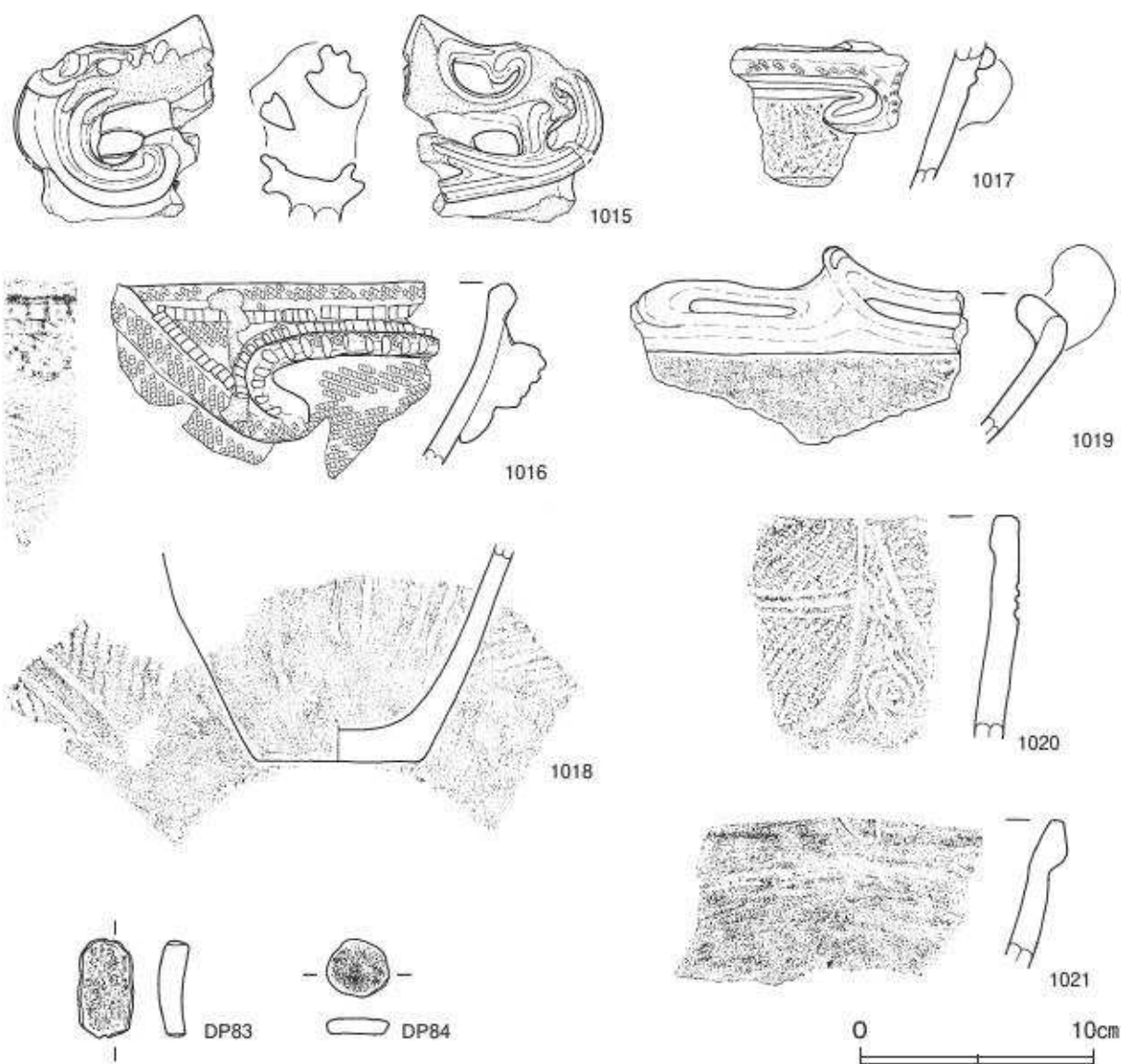
重複関係 第6号竪穴建物跡を掘り込み、第345号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は長径2.60m、短径2.10mの不整楕円形で、長径方向はN-19°-Eである。底面は径2.17~2.36mの円形で、平坦である。確認面からの深さは101cmで、壁は内彎して、袋状を呈している。

覆土 18層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。



第371図 第347号土坑実測図



第 372 図 第 347 号土坑出土遺物実測図

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土ブロック微量	10	暗褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
2	暗褐色	焼土粒子・炭化粒子中量, ロームブロック少量	11	黒褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物微量
3	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	12	暗褐色	ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量
4	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子中量, 焼土ブロック微量	13	褐色	ロームブロック中量, 炭化物・焼土粒子微量
5	暗褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子微量	14	褐色	ロームブロック多量, 炭化物微量
6	暗褐色	ロームブロック中量	15	暗褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量
7	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子中量	16	暗褐色	ロームブロック多量, 炭化物微量
8	黒褐色	ロームブロック・炭化物中量, 焼土ブロック少量	17	褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
9	褐色	ロームブロック中量	18	褐色	ロームブロック多量, 炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片 253 点 (深鉢 250, 浅鉢 3), 土製品 2 点 (土器片錘, 土器片円盤), 石製品 1 点 (石棒), 石核 1 点 (瑪瑙) が出土している。1015・1018 は北東部の覆土上層, 1016・1017・1019～1021, DP83・DP84 は覆土中からそれぞれ出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。

第 347 号土坑出土遺物観察表 (第 372 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1015	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・ 磁礫・赤色粒子	にぶい・橙	普通	中空の把手。背割れ隆帯による文様描画。把手に蔵手状沈線	覆土上層	PL138
1016	縄文土器	深鉢	-	(8.5)	-	長石・石英・雲母・ 赤色粒子	明褐色	普通	口縁部隆帯による横位の文様区画。隆帯上にキザミ目。隆帯に沿ってキヤタビラ文。隆帯上及び胎文に黒筋縄文RL(横)	覆土中	PL138
1017	縄文土器	深鉢	-	(6.3)	-	長石・石英・雲母	暗褐色	普通	隆帯の隆帯による渦巻文。隆帯に沿って2本の沈線。隆帯及び胎文黒筋縄文RL(ランダム)	覆土中	
1018	縄文土器	深鉢	-	(9.4)	7.0	長石・石英・雲母	にぶい・橙	普通	胎文に黒筋縄文RL(縦)。2本の並行沈線が垂下沈線同形。胴下半部ナデ	覆土上層	10%
1019	縄文土器	深鉢	-	(8.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい・橙	普通	口唇部に瘤み状の突起。突起部から探頭による太沈線。口唇部赤彩痕。外・内面横方向の磨き	覆土中	
1020	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒	普通	口縁部から口腹多葉縄文RL(縦)。半截竹管による横線・渦巻文・波状文を描画。口唇内側に凹みが一高	覆土中	
1021	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	暗褐色	普通	口唇部肥厚。太沈線が一高させ口縁部を区画外・内面横方向のナデ	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP83	土器片鉢	4.2	2.3	1.2	13.3	長石・石英・雲母	明赤褐色	胴部片 両端にキザミ目 肩縁部粗雑に研磨	覆土中	
DP84	土器片円盤	2.4	2.7	0.6	5.4	長石・石英・赤色 粒子	にぶい・赤褐色	胴部片 肩縁部を丁寧に研磨	覆土中	

第 348 号土坑 (第 373・374 図)

位置 調査区西部のC2c8区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第4号堅穴建物跡、第381号土坑を掘り込み、第382号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 径2.07～2.10mの円形である。底面はやや凹凸があり、深さは35～46cmで、壁は外傾している。ピット 南西壁際に位置し、径58cmほどの円形で、深さは44cmである。規模と形状から、補助的な貯蔵施設と考えられる。

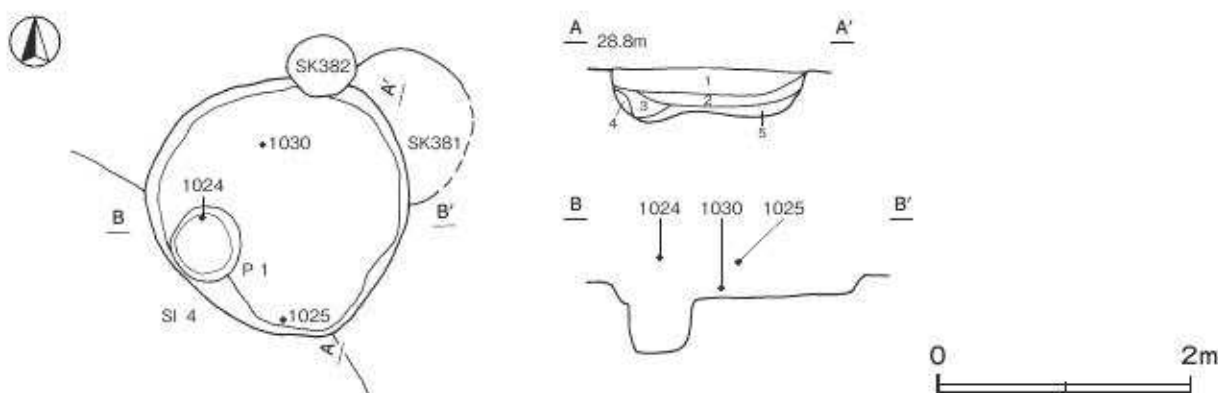
覆土 5層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

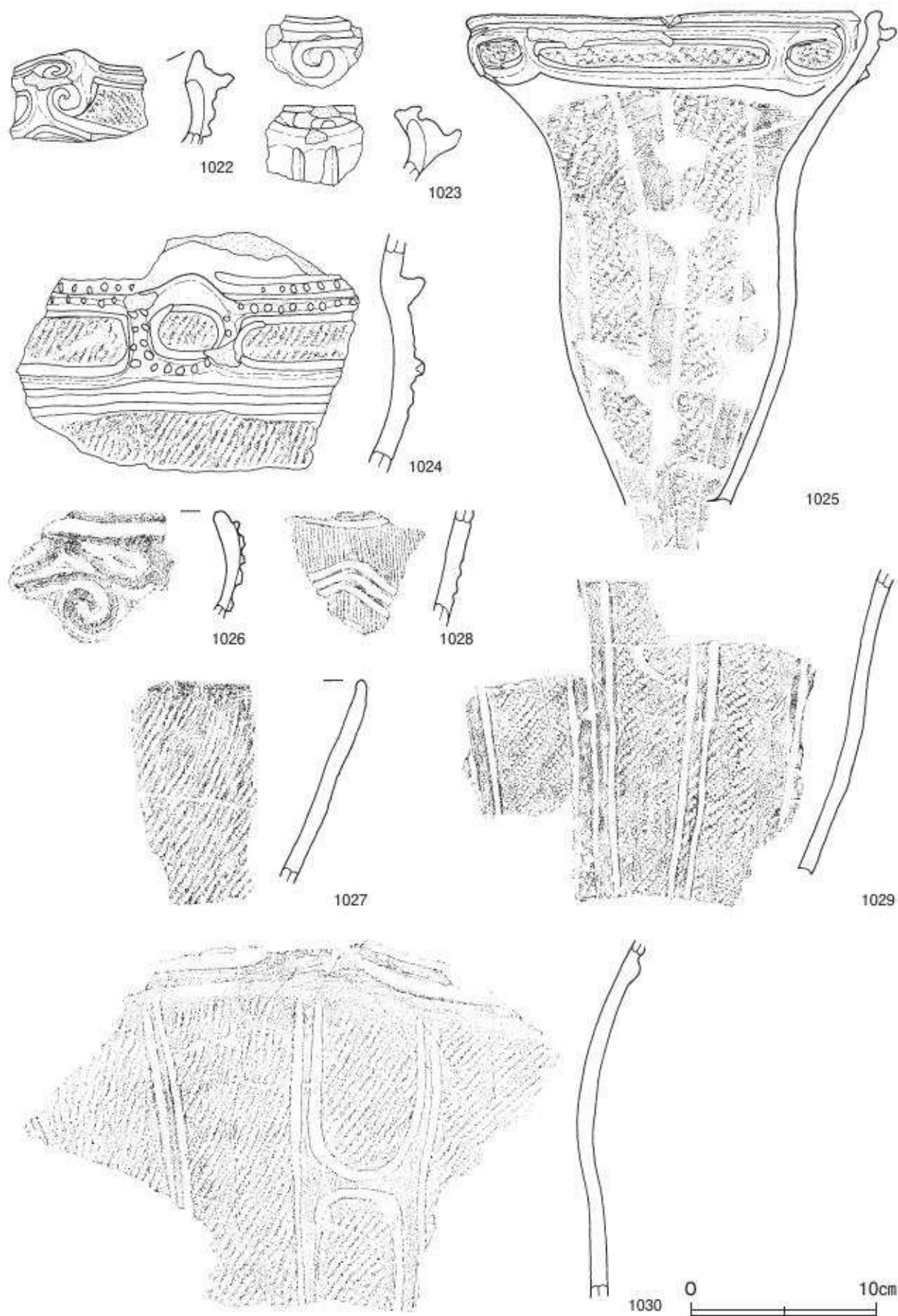
- | | | | |
|--------|---------------------|---------|--------------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 4 褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子微量 | 5 にぶい褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片344点(深鉢337, 浅鉢7)が出土している。1030は北部の底面, 1024は西部, 1025は南壁際の覆土上層から、いずれも破片が散乱した状態で出土している。1022・1023・1026～1029は覆土中から出土している。いずれも埋没過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。



第 373 図 第 348 号土坑実測図



第 374 图 第 348 号土坑出土遗物实测图

第 348 号土坑出土遺物観察表 (第 374 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1022	縄文土器	深鉢	-	(5.0)	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	口縁部隆帯及び沈線による2方向の高巻文・方形区画・区画内単節縄文RL(縦)	覆土中	
1023	縄文土器	深鉢	-	(4.4)	-	長石・石英	褐色	普通	口唇田部に高巻文・渦巻文から2条の隆帯が垂下	覆土中	
1024	縄文土器	深鉢	-	(12.9)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	胴部に隆帯による円・楕円区画・一部に樹木状の突起・蓋笠上に刻突・地文に0段多条縄文RL(縦)	覆土上層	PL139
1025	縄文土器	深鉢	[22.5]	(26.9)	-	長石・石英・磁礫	褐色	普通	口縁部隆帯による楕円区画・渦巻文・区画内単節縄文RL(縦)・胴部同一単位(縦)・口縁直下から散消縄文が垂下	覆土上層	50% PL139
1026	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	明褐色	普通	口縁部内背・太沈線により高巻文・区画文を描画・内面横方向の磨き	覆土中	
1027	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	口縁部内背・口縁上部にわずかに無文帯を置き、無節縄文R(縦)を全面に施文	覆土中	
1028	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	地文に縦位の無文帯・3本の並行沈線による連続渦状文	覆土中	
1029	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	地文に単節縄文RL(縦)・2-3本の並行沈線による垂下・沈線間磨消	覆土中	PL139
1030	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	地文に単節縄文RL(縦)・2本の沈線が垂下・沈線間貝状の磨消	底面	PL139

第 349 号土坑 (第 375・376 図)

位置 調査区西部のC2c9区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第4号竪穴建物跡を掘り込み、第734号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径2.25m、短径1.89mの楕円形で、北東部に長さ25cm、幅60cmほどの張り出し部がある。長径方向はN-69°-Eである。底面は平坦で、深さは76cmである。壁はほぼ直立している。

ピット 南東部に位置し、径40cmほどの円形で、深さは39cmである。規模と形状から、補助的な貯蔵施設と考えられる。

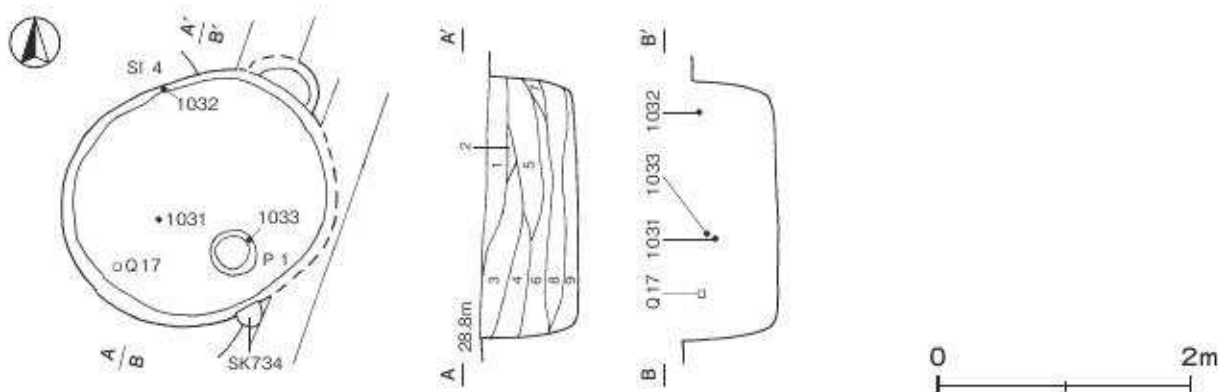
覆土 9層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

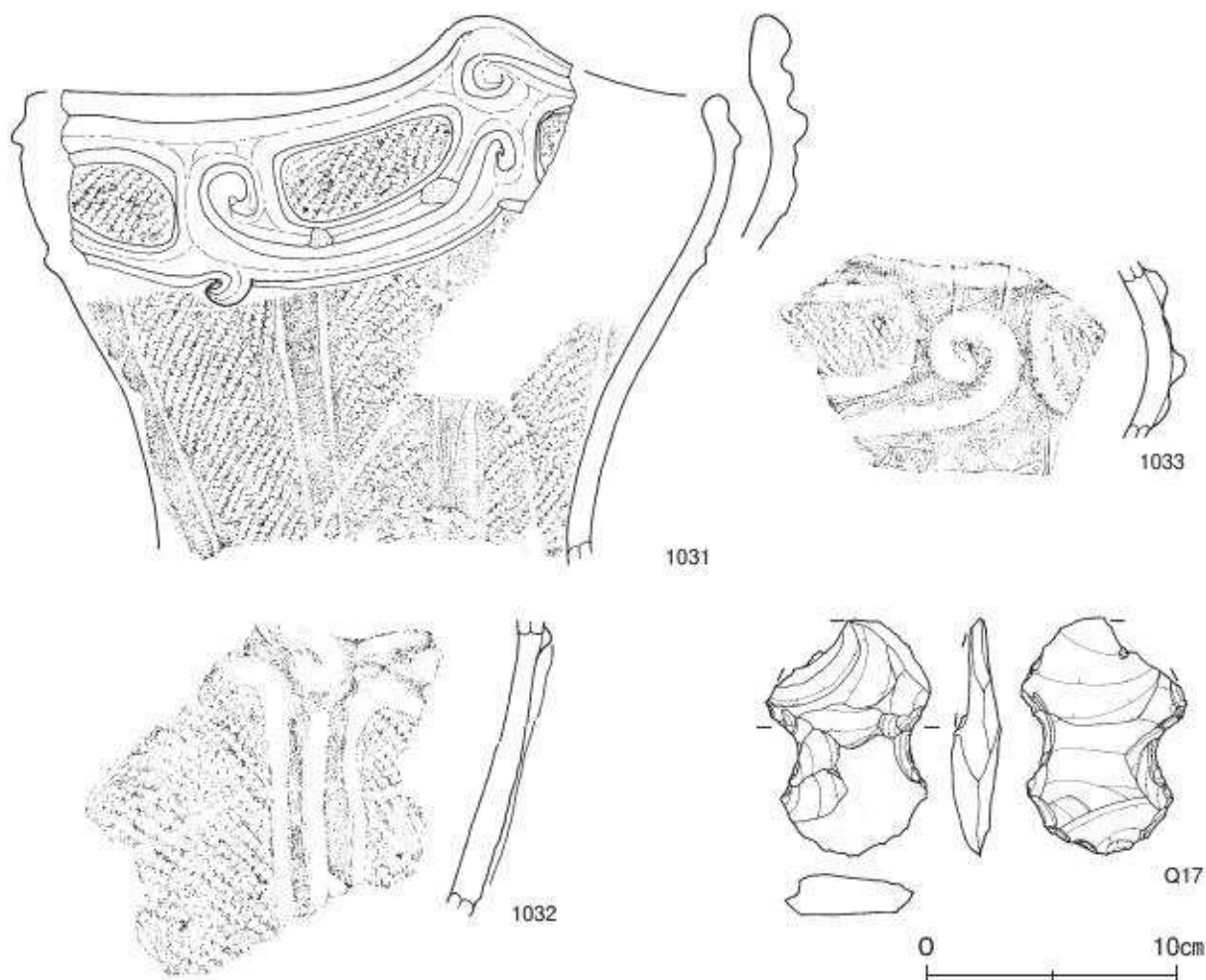
- | | | | |
|--------|---------------------|----------|------------------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子少量 | 7 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 8 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 4 褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子少量 | 9 にぶい黄褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 5 褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片115点(深鉢)、石器3点(打製石斧、磨石、敲石)、剥片1点(チャート)が出土している。1031・1033は中央部、1032は北壁際、Q17は南西部の覆土上層から、散乱した状態で出土している。いずれも埋没過程で投棄あるいは流れ込んだものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。



第 375 図 第 349 号土坑実測図



第376図 第349号土坑出土遺物実測図

第349号土坑出土遺物観察表(第376図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1031	縄文土器	深鉢	[27.5]	(22.1)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にがい黄橙	普通	口縁部縁帯による栴形区画と渦巻文。縁帯に沿って横位の沈線。区画内単節縄文RL(縦)。胴部同一部体(縦)2本の沈線を垂下。沈線別磨消	覆土上層	30% PL139
1032	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明褐色	普通	地文に栴形縄文LRL(縦)。低い縁帯と太沈線による区画文・渦巻文	覆土上層	
1033	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色(外)・黒(内)	普通	太沈線による渦巻文・栴形区画。区画内単節縄文RL(横)	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q17	打製石斧	94	6.6	20	(88.7)	ホルンフェルス	分銅形 片面に自然面 挟り部・刃部は表裏を敲打 片刃部欠損	覆土上層	PL162

第350号土坑 (第377図)

位置 調査区西部のC2a5区。標高28mほどの台地平坦部に位置している。

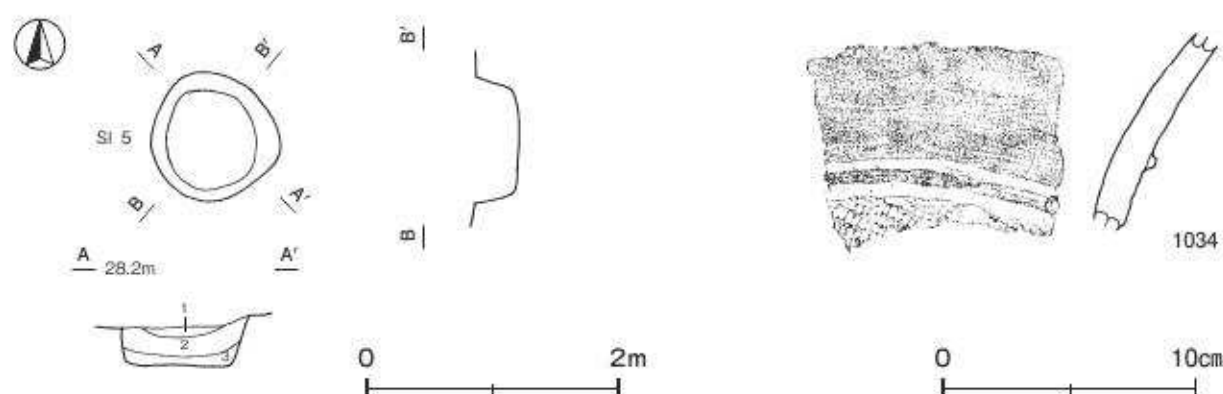
重複関係 第5号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 径1.00～1.02mの円形である。底面は平坦で、深さは35cmである。壁は外傾している。

覆土 3層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 3 暗褐色 ローム粒子中量、炭化物少量、焼土粒子微量
 2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量



第377図 第350号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片 11点（深鉢）が出土している。1034は覆土中から出土しており、埋没過程で投棄あるいは混入したものと考えられる。

所見 規模と形状から、小型の貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

第350号土坑出土遺物観察表（第377図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1034	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐色	普通	頸部無文帯、2本の沈線が一巡し頸部を区画し、 部は単線縄文RL（横）	覆土中	

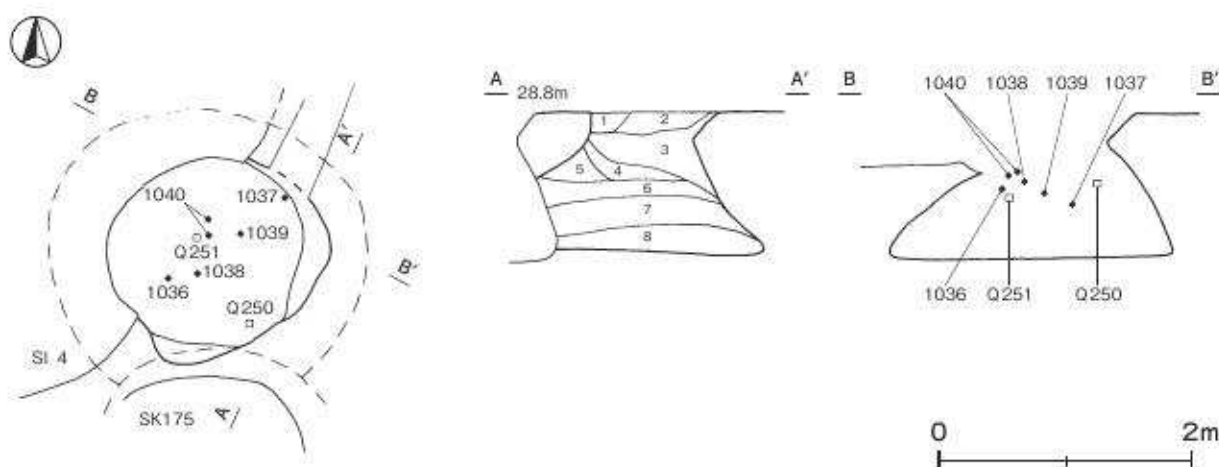
第354号土坑（第378・379図）

位置 調査区西部中央のC 2d9区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

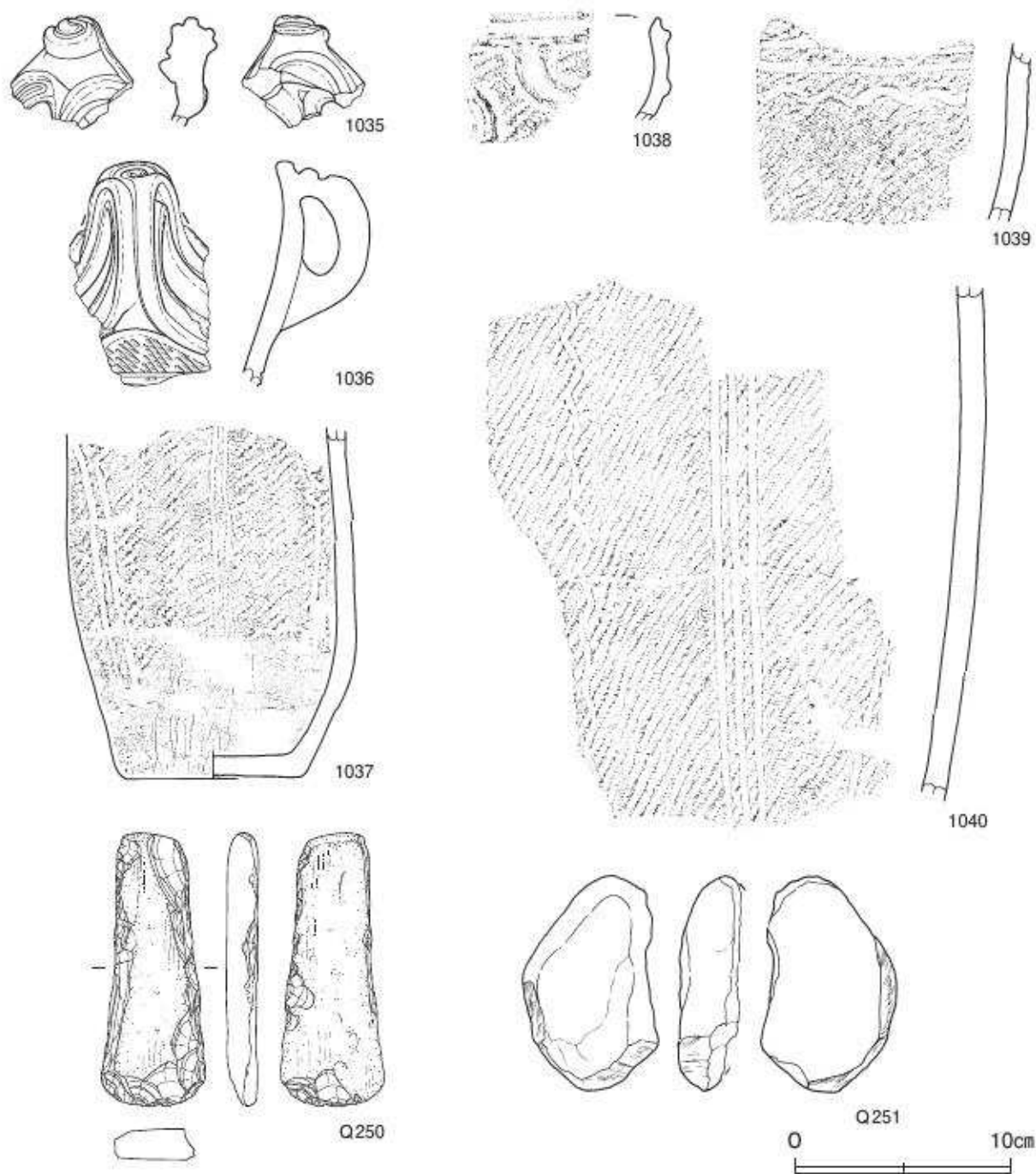
重複関係 第4号竪穴建物、第175号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は径1.73～1.81mの円形である。底面は径2.40～2.55mの円形で、平坦である。確認面からの深さは115cmである。壁は大きく内傾して、袋状を呈している。

覆土 8層に分層できる。ロームブロック、炭化粒子、焼土粒子が含まれている土層が、水平に堆積していることから、埋め戻されている。



第378図 第354号土坑実測図



第379図 第354号土坑出土遺物実測図

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量 | 5 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 8 褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片73点（深鉢70、浅鉢3）、石器2点（打製石斧、敲砥石）、剥片1点（瑪瑙）が出土している。1036～1040、Q250・Q251は、覆土中層からまとめて出土している。ある程度埋め戻された段階で、一括投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、袋状を呈する貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第354号土坑出土遺物観察表(第379図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1035	縄文土器	深鉢	-	(5.2)	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	中空の把手。頂部に渦巻文。外・内面とも沈線による文様描画。	覆土中	
1036	縄文土器	深鉢	-	(10.4)	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	中空の把手。把手に沿って太沈線による縦手状文。青銅製帯による文様描画。把手下部無銘縄文(1線)。	覆土中層	PL139
1037	縄文土器	深鉢	-	(16.3)	8.2	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	地文に單節縄文RL(縦) 2本の並行沈線が垂下。下部傾斜方向の筋。	覆土中層	30%
1038	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	地文に單節縄文RL(縦) 1線。口縁上部に沈線が一巡。赤銅製帯による文様描画。口唇内側外筋。	覆土中層	
1039	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	地文に0段多条縄文RL(縦) 傾位の並行沈線と蛇行沈線が一巡。	覆土中層	
1040	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	地文に0段多条縄文RL(縦) 3本の並行沈線と1本の蛇行沈線が垂下。内面縦方向の筋。	覆土中層	PL139

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 250	打製石斧	127	4.8	1.5	1345	石英片岩	撥形。両側縁敲打調整。刃部は表裏を敲打。	覆土中層	PL164
Q 251	敲破石	100	6.3	(2.8)	(26.9)	チャート	楕円形の周縁部に多方向からの敲面により稜をもつ。	覆土中層	PL173

第355号土坑(第380～383図 PL101)

位置 調査区西部中央のC 2c8区。標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第300号土坑を掘り込み、第4号堅穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は長径1.97m、短径1.69mの楕円形で、長径方向はN-33°-Wである。底面は径2.16～2.23mの円形で、平坦である。確認面からの深さは94cmで、壁は内彎して、袋状を呈している。

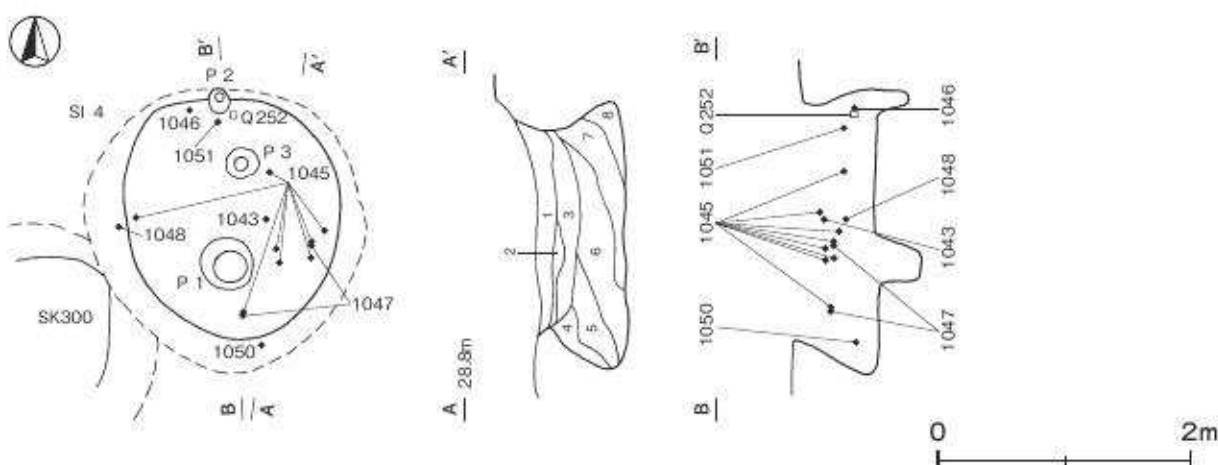
ピット 3か所。P1は径40cmの円形で、深さ36cm、P2は径18cmの円形で、深さ30cm、P3は径25cmの円形で、深さ8cmである。いずれも形状から柱穴と考えられる。

覆土 8層に分層できる。各層にロームブロックや炭化粒子が多く含まれていることから、埋め戻されている。

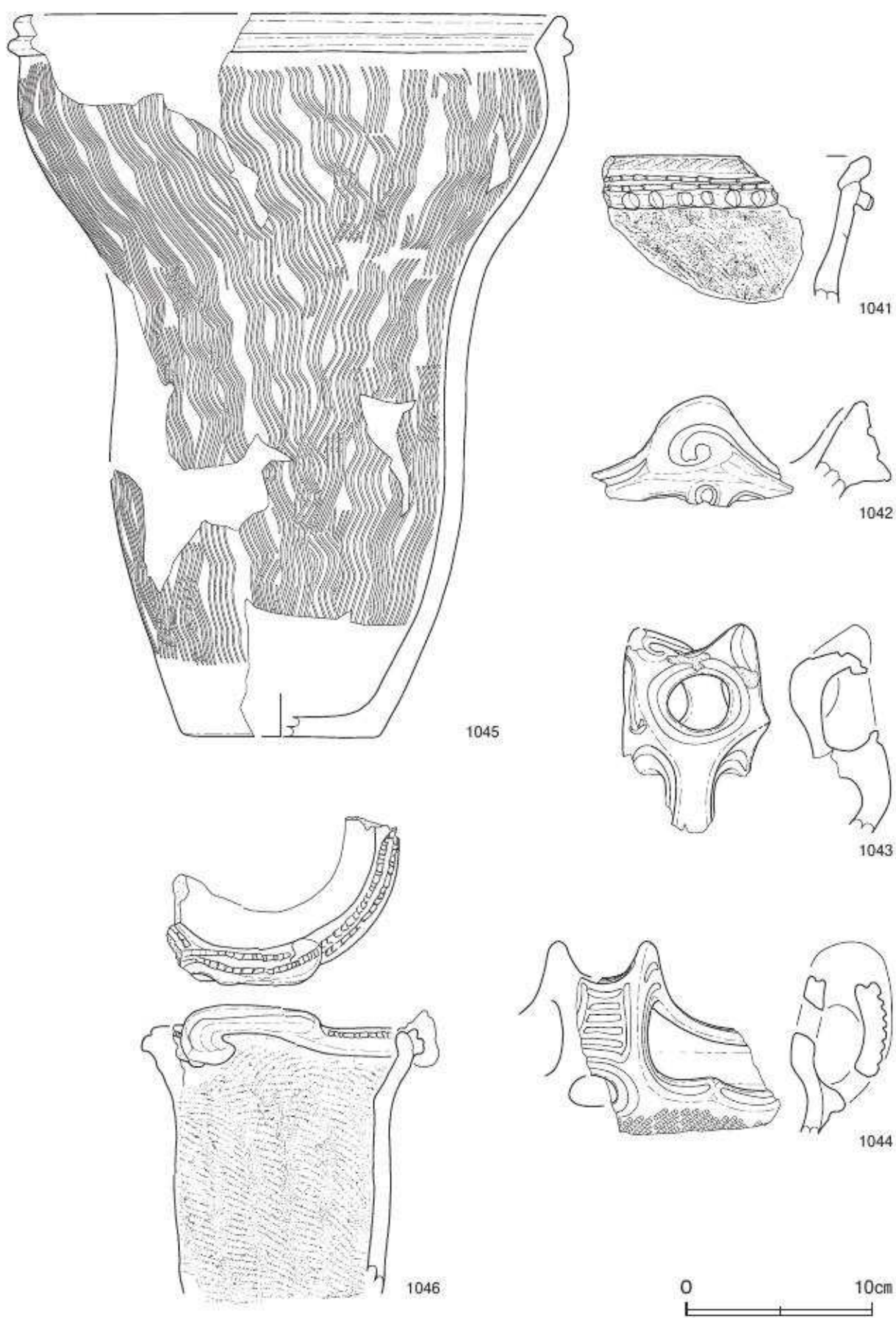
土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|----------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量 | 6 にぶい黄褐色 | ロームブロック多量、炭化物中量 |
| 3 黒褐色 | 炭化粒子多量、ロームブロック中量、焼土粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化物少量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック多量 | 8 褐色 | ロームブロック多量 |

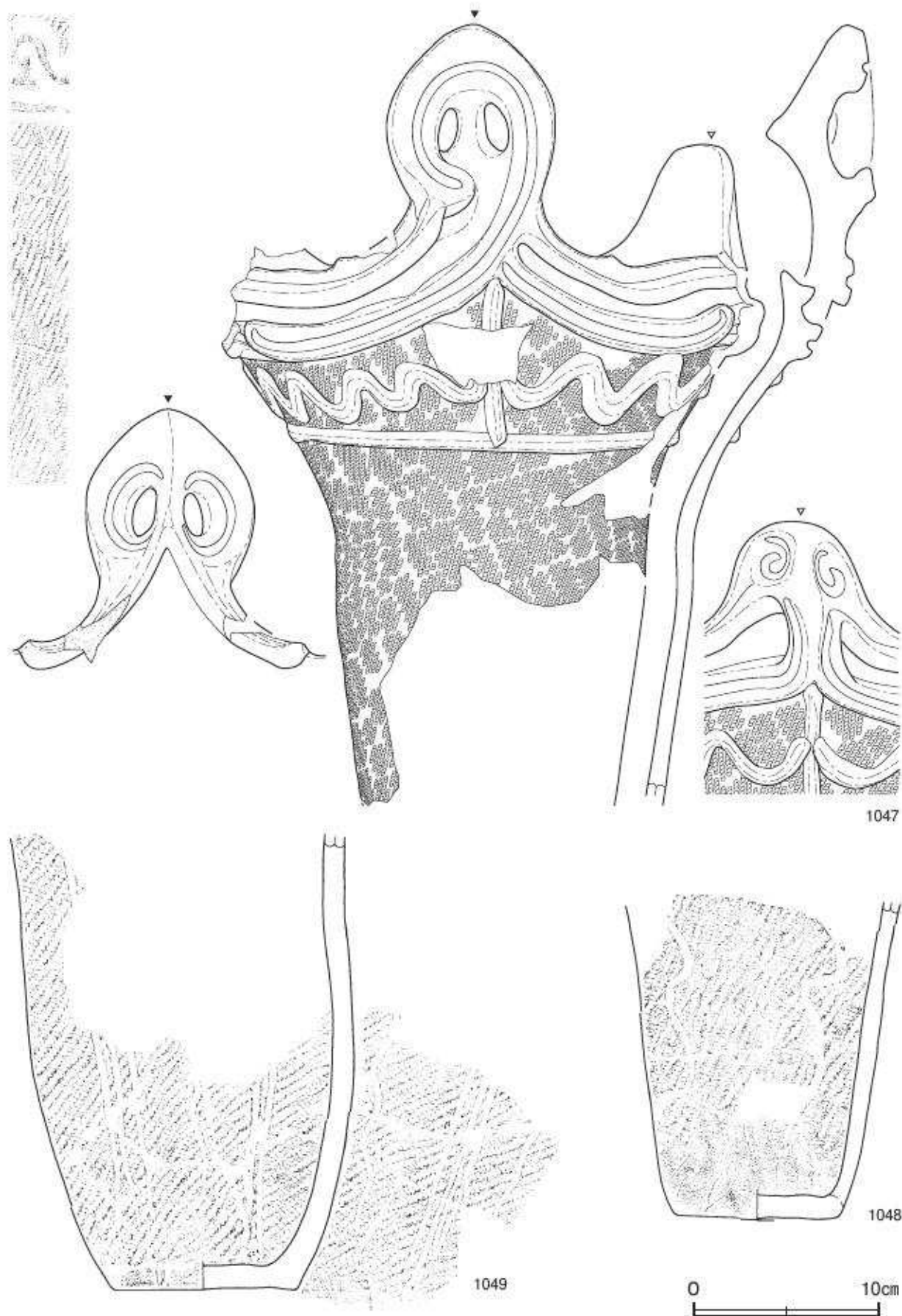
遺物出土状況 縄文土器片74点(深鉢72、浅鉢2)、石器1点(打製石斧)が出土している。1046・1050、Q 252は覆土下層から、1043・1047・1048・1051は覆土中層からそれぞれ出土している。1045は、南東部の覆土中層を中心に破片が散乱した状態で出土している。埋め戻す過程で一括投棄されたものと考えられる。



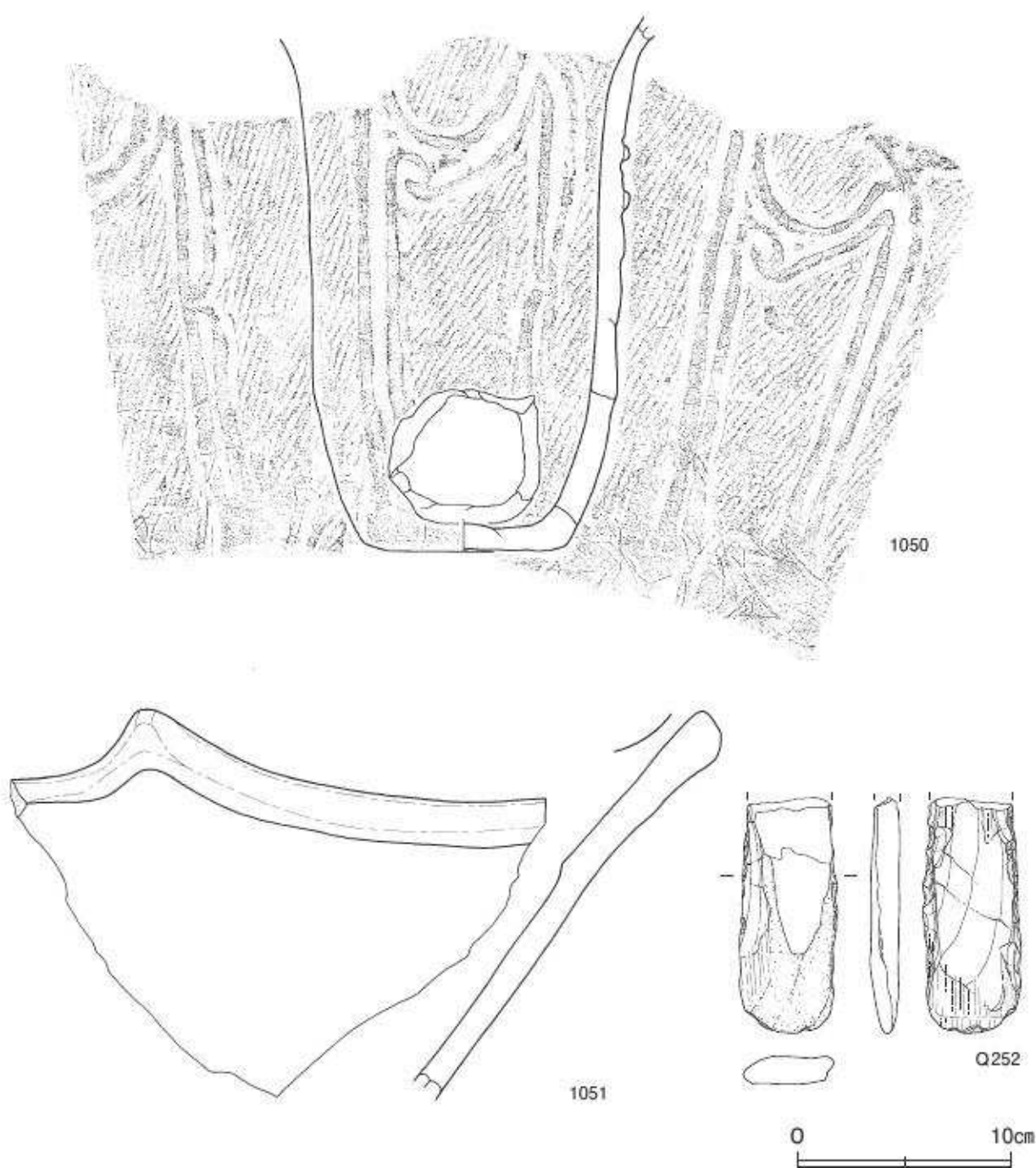
第380図 第355号土坑実測図



第 381 图 第 355 号土坑出土遗物实测图(1)



第 382 図 第 355 号土坑出土遺物実測図(2)



第 383 図 第 355 号土坑出土遺物実測図 (3)

所見 規模と形状から、柱穴と考えられるピットを有する袋状の貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第 355 号土坑出土遺物観察表 (第 381 ~ 383 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1041	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	暗赤褐色	良好	口唇部肥厚。胎厚部に黒塗縄文1(横)2本の有面沈線が一巡させ利突隆帯が巡る。胴部は同一原体を割開き開けて縦施文	覆土中	
1042	縄文土器	浅鉢	-	(5.9)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	波頂部に沈線による渦巻文。口唇に沿って太沈線が巡る。外・内面丁寧な磨き	覆土中	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1043	縄文土器	深鉢	-	(11.3)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	穿孔把手。5か所の穿孔。穿孔に沿って太沈線。穿孔間に縦手状文	覆土中層	PL140
1044	縄文土器	深鉢	-	(10.4)	-	長石・石英・雲母	橙	良好	4か所穿孔の中空把手。穿孔に沿って太沈線。把手中央部横位の沈線。地文に早稲縄文 RL (縦)	覆土中	PL140
1045	縄文土器	深鉢	[29.5]	39.2	10.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口唇部でくの字状に外反。口縁部内側。口縁部を隆帯で区画。地文に縄状伏工具による波状文が垂下	覆土中層	70% PL140
1046	縄文土器	深鉢	[14.2]	(15.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口唇部隆帯貼付による変形横S字状文。口唇頂部及び内面に有部沈線が走る。口唇直下から0段多糸縄文 LR (縦)。手開閉を閉けて施文	覆土下層	30%
1047	縄文土器	深鉢	26.4	(42.2)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	3か所穿孔の中空把手。把手に沿って太沈線。把手下部から背割れ隆帯を立ちせ。中間で横み上げる。地文に早稲縄文 RL (縦)。蛇行隆帯が走る	覆土中層	50% PL140
1048	縄文土器	深鉢	-	(17.1)	8.8	長石・石英・雲母	橙	普通	地文に0段多糸縄文 RL (縦)。蛇行沈線が垂下。胴部下端横方向の磨き。底面丁寧な磨き	覆土中層	30%
1049	縄文土器	深鉢	-	(24.7)	[9.8]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	地文に早稲縄文 RL (縦)。2本の並行沈線が垂下。3本の並行沈線と蛇行沈線が垂下	覆土中	30% PL140
1050	縄文土器	深鉢	-	(25.1)	9.5	長石・石英・雲母・黒色粒子・磁礫	にぶい橙	良好	地文に早稲縄文 RL (縦)。2本の並行隆帯による縦位の区画文。下部部に径8cmほどの外縁からの穿孔	覆土下層	60% PL140
1051	縄文土器	浅鉢	-	(18.3)	-	長石・石英・雲母・黒色粒子・磁礫	にぶい橙	良好	波状口縁。口縁部外・内面赤彩装。外・内面ともに丁寧な磨き	覆土中層	20% PL140

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 252	打製石斧	(11.1)	4.6	1.4	(17.2)	角閃岩	楔形。両側縁微細な彫削調整。一部は片面に自然面を残し、片面を研磨。基部欠損	覆土下層	PL164

第 358 号土坑 (第 384 図)

位置 調査区西部の C 2c8 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 4 号堅穴建物、第 212 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南部を第 4 号堅穴建物に掘り込まれているため、南北径は 0.70 m、東西径は 1.68 m しか確認できなかった。円形または楕円形と考えられ、長径方向は N - 60° - W である。底面は平坦で、深さは 50cm である。壁はほぼ直立している。

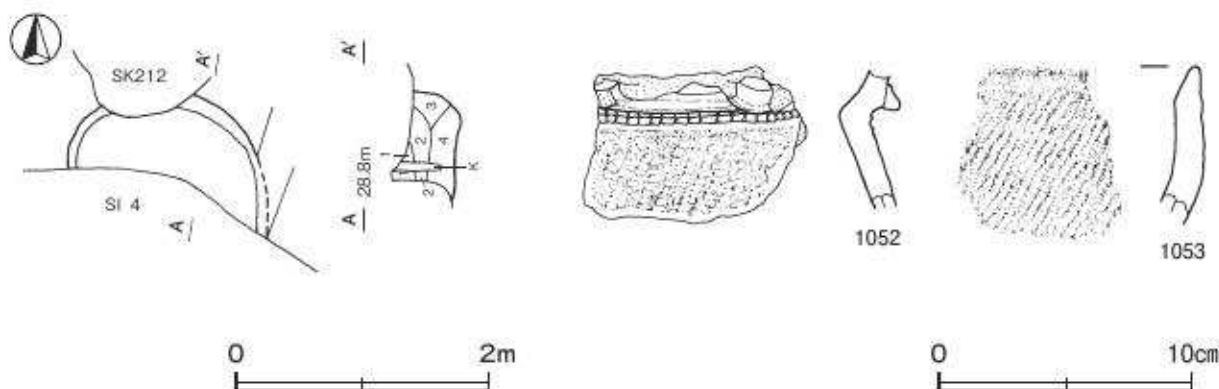
覆土 4 層に分層できる。ロームブロック、炭化粒子、焼土粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 | 3 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片 59 点 (深鉢 54、浅鉢 5)、剥片 1 点 (瑪瑙) が、覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第 384 図 第 358 号土坑・出土遺物実測図

第 358 号土坑出土遺物観察表 (第 384 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1052	縄文土器	深鉢	-	(61)	-	長石・石英・雲母	明褐色	良好	胴部くの字状に外反。隆帯により文様描画。隆帯下に有部沈線が通る。地文に単節縄文(RL(縦))	覆土中	
1053	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口唇内側内面を「口唇部横ナデ」。地文に単節縄文RL(縦)	覆土中	

第 359 号土坑 (第 385 図 PL55)

位置 調査区西部の C 2e3 区、標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 302 号土坑を掘り込み、第 384・399 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 複数の土坑と重複しているため、東西径は 1.66 m、南北径は 1.40 m しか確認できなかった。円形または楕円形と推定できる。底面は平坦で、深さは 38cm である。壁はほぼ直立している。

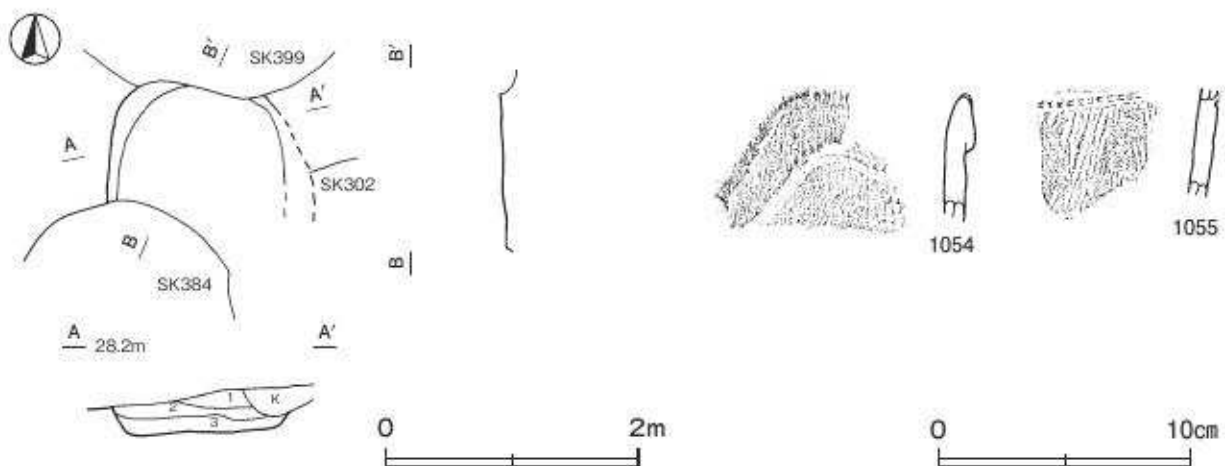
覆土 3 層に分層できる。各層にロームブロックや炭化粒子、焼土粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片 15 点 (深鉢) が出土している。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第 385 図 第 359 号土坑・出土遺物実測図

第 359 号土坑出土遺物観察表 (第 385 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1054	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	液状口縁。板状の隆帯部付。隆帯に沿って有部沈線。隆帯上に縦位の条線文。区内内側面状土具による波状文が垂下	覆土中	
1055	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	有部沈線が一巡。まばらな赤糸文を斜位に施文	覆土中	

第 364 号土坑 (第 386 図 PL62)

位置 調査区北部中央の C 3 c6 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 開口部は長径 2.78 m, 短径 1.83 m の楕円形で, 長径方向は N-32°-W である。底面は長径 2.50 m, 短径 1.84 m の楕円形で, 平坦である。確認面からの深さは 66 cm である。壁は東部が内彎して, 袋状を呈し, その他は下部がやや丸みを帯びて直立している。

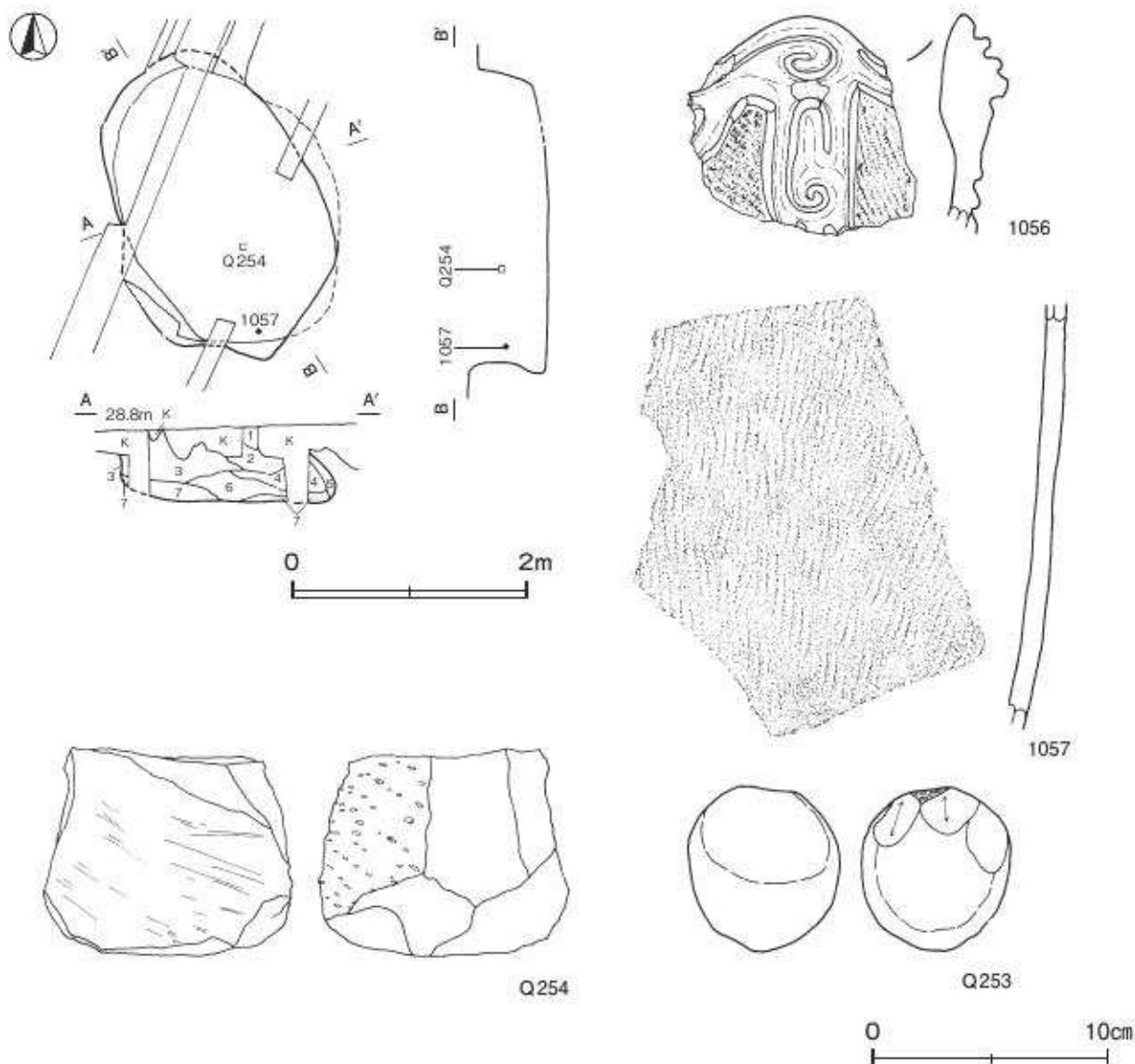
覆土 7層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子中量	5 暗褐色	ロームブロック少量
2 黒褐色	ローム粒子少量	6 黒褐色	ロームブロック少量
3 褐色	ローム粒子中量	7 暗褐色	ローム粒子少量
4 黒褐色	ローム粒子中量		

遺物出土状況 縄文土器片 126 点 (深鉢 125, 浅鉢 1), 石器 3 点 (磨石, 敲砥石, 砥石), 剥片 2 点 (石英, 泥岩) が出土している。1057, Q 254 は覆土中層, 1056, Q 253 は覆土中からそれぞれ出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から, 袋状を呈する貯蔵穴と考えられる。出土土器から中期後葉と考えられる。



第 386 図 第 364 号土坑・出土遺物実測図

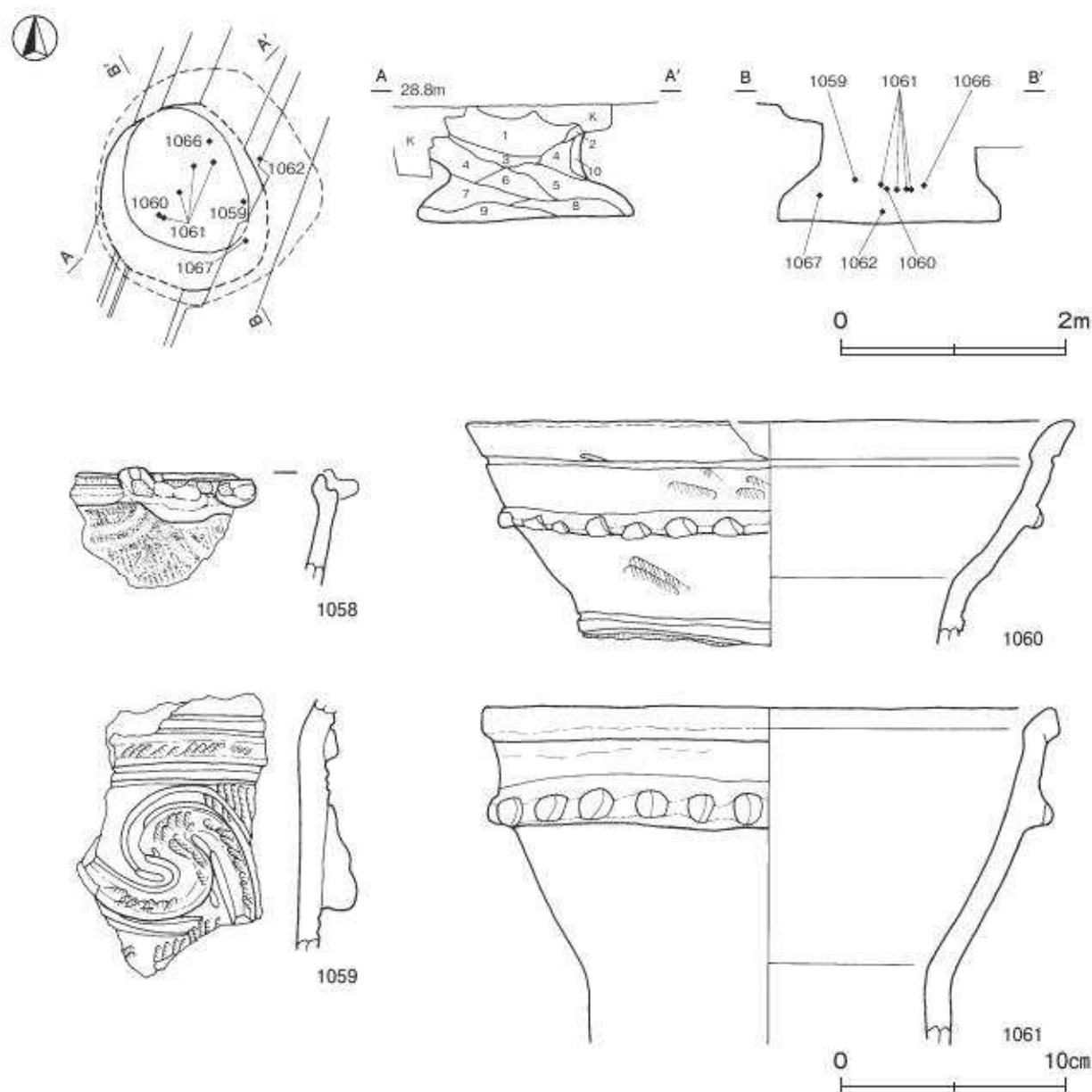
第 364 号土坑出土遺物観察表 (第 386 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1056	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	にじみ青褐色	普通	波頭部に渦巻文、波頭部から垂下する隆帯に縦位の渦巻文、地文に早期縄文LR(縦)	覆土中	
1057	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	地文に早期縄文LR(斜)を間隔を開けて施文	覆土中層	

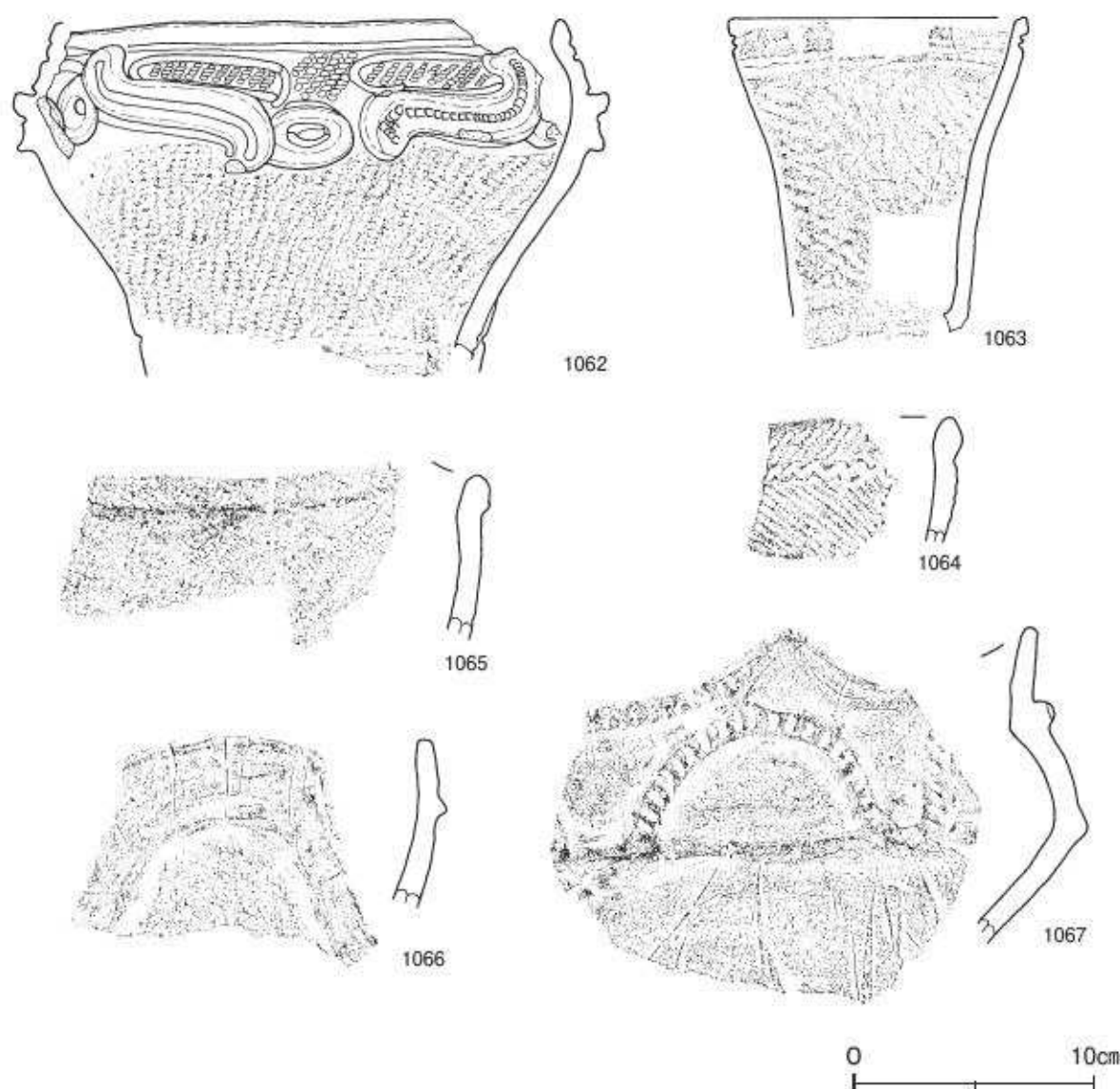
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 253	燧石	71	64	4.8	2934	石英斑岩	円縁の周縁部に微細な敲打痕・砥面をもつ	覆土中	PL173
Q 254	砥石	(8.9)	(10.7)	(4.9)	(6680)	安山岩	片面に砥面 片側縁あばた状の敲打痕	覆土中層	

第 366 号土坑 (第 387・388 図 PL63)

位置 調査区北部中央の C 3c6 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。



第 387 図 第 366 号土坑・出土遺物実測図



第388図 第366号土坑出土遺物実測図

規模と形状 開口部は長径1.66m、短径1.42mの楕円形で、長径方向はN-21°-Wである。底面は径2.00～2.13mの円形で、平坦である。確認面からの深さは102cmで、壁は内彎して、袋状を呈している。

覆土 10層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|--------|----------------|--------|----------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子微量 | 6 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量 | 7 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量 | 8 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 極暗褐色 | ロームブロック微量 | 9 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子微量 | 10 暗褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 縄文土器片325点(深鉢286,浅鉢38,コップ形土器1),石器1点(磨石),石核1点(チャート),剥片1点(チャート)が出土している。1062・1067は覆土下層から,1059～1061・1066は第5・6層に該当する覆土中層から出土している。いずれも埋め戻す過程で一括投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、袋状を呈する貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第 366 号土坑出土遺物観察表 (第 387・388 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1058	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・細砂	灰褐色	普通	隆帯突起に指頭による片契文。一部に有部沈線。地文に早期縄文LR(縦)・浅い沈線による2条の延線文。	覆土中	
1059	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・黒色粒子・赤色粒子	明赤褐色	良好	蒲葺状隆帯により支線描画。隆帯に沿って半軌竹管による沈線文。隆帯上・地文に無節縄文L(横・斜)。	覆土中層	
1060	縄文土器	深鉢	[26.8]	(10.0)	-	長石・石英	明赤褐色	普通	口唇部外反。口縁に1本の沈線と指頭仕積の隆帯が1周。部分的に無節縄文R(縦)頸部に2本の並行沈線が走る。外面横方向の磨き。	覆土中層	20%
1061	縄文土器	深鉢	[25.2]	(15.0)	-	長石・石英・雲母・細砂	にぶい橙	普通	無文。口唇部肥厚。幅広い利突隆帯が1周。口縁部横方向のナデ。胴部縦方向のナデ。	覆土中層	20% PL139
1062	縄文土器	深鉢	[21.0]	(15.0)	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	灰褐色	普通	口縁上部沈線が1周。管筒状隆帯による横S字状文。一部S字隆帯に有部沈線。S字隆帯間に楕円文。地文に早期縄文LR(横)。胴部縦位の隆帯貼付。隆帯間に横位の3本の沈線が走る。	覆土下層	25% PL139
1063	縄文土器	コップ形土器	[12.5]	(4.1)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部無文。半軌竹管による並行沈線が1周。地文に無節縄文L(縦)。	覆土中	25%
1064	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口唇部肥厚。肥厚部に0段多糸縄文LR(横)流状沈線が1周。胴部は同一原体による縦施文。	覆土中	
1065	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	口唇部肥厚。肥厚部に早期縄文RL(横)肥厚部下指頭によるナデ。胴部は同一原体による縦施文。	覆土中	
1066	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	板状把手。口縁に沿って隆帯貼付。外・内面多方向の磨き。	覆土中層	
1067	縄文土器	浅鉢	-	(13.2)	-	長石・石英・雲母・黒色粒子・細砂	にぶい黄褐色	良好	波状口縁。頂部はやや外反。頂部くの字状に内壁。隆帯を1周させ。口縁部半円状の利突隆帯外・内面横方向のナデ。	覆土下層	10% PL139

第 367 号土坑 (第 389 図 PL62)

位置 調査区北部中央のC3c6区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 径1.64～1.70mのほぼ円形である。底面は平坦で、深さは68cmである。壁は、ほぼ直立している。

覆土 7層に分層できる。ロームブロック、炭化粒子、焼土粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

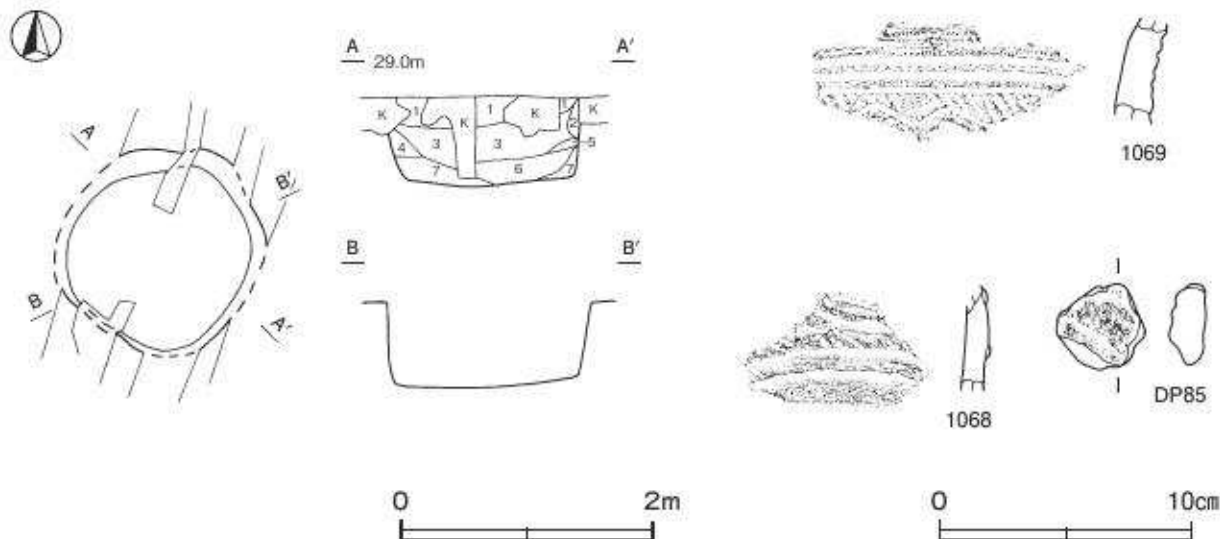
土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 褐色 | ロームブロック微量 | 5 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子中量 | 7 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片34点(深鉢)、土製品1点(土器片錘)、石製品1点(石棒)が出土している。

1068・1069、DP85は覆土中から出土しており、いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第 389 図 第 367 号土坑・出土遺物実測図

第 367 号土坑出土遺物観察表 (第 389 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1068	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色 粒子・黒色粒子	にぶい褐色	普通	地文に単節縄文LR(縦)隆帯による文様結核	覆土中	
1069	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・ 赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	地文に無節縄文L(縦)半截竹管による4本の 並行沈線と蛇行沈線が一道	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP85	土器片鏝	3.4	3.5	1.4	15.0	長石・石英	灰褐色	側部片 両端部にキザミ目	覆土中	

第 368 号土坑 (第 390 ~ 392 図 PL63)

位置 調査区中央部のC3f4区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 開口部は長径1.65m、短径1.41mの楕円形で、長径方向はN-50°-Eである。底面は径1.75~1.87mの円形で、平坦である。確認面からの深さは67cmで、壁は内彎して、袋状を呈している。

ピット 南東壁際に位置し、径30cmの円形で、深さは20cmである。補助的な貯蔵施設と考えられる。

ピット土層解説

1 黒褐色 ローム粒子少量

2 暗褐色 ロームブロック少量

覆土 11層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子少量

7 黒褐色 ロームブロック少量

2 にぶい黄褐色 ロームブロック微量

8 黒褐色 ロームブロック中量

3 黒褐色 ローム粒子中量

9 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

4 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

10 黒褐色 ローム粒子微量

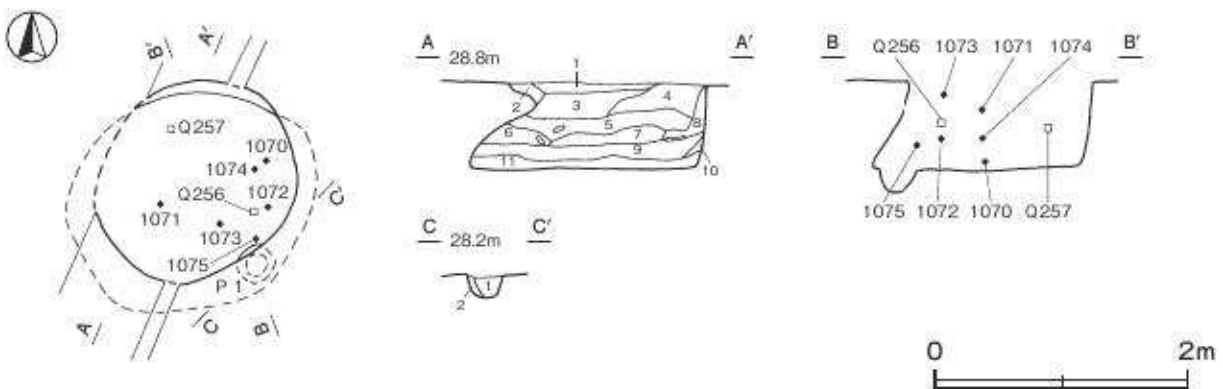
5 暗褐色 ロームブロック中量

11 暗褐色 ロームブロック少量

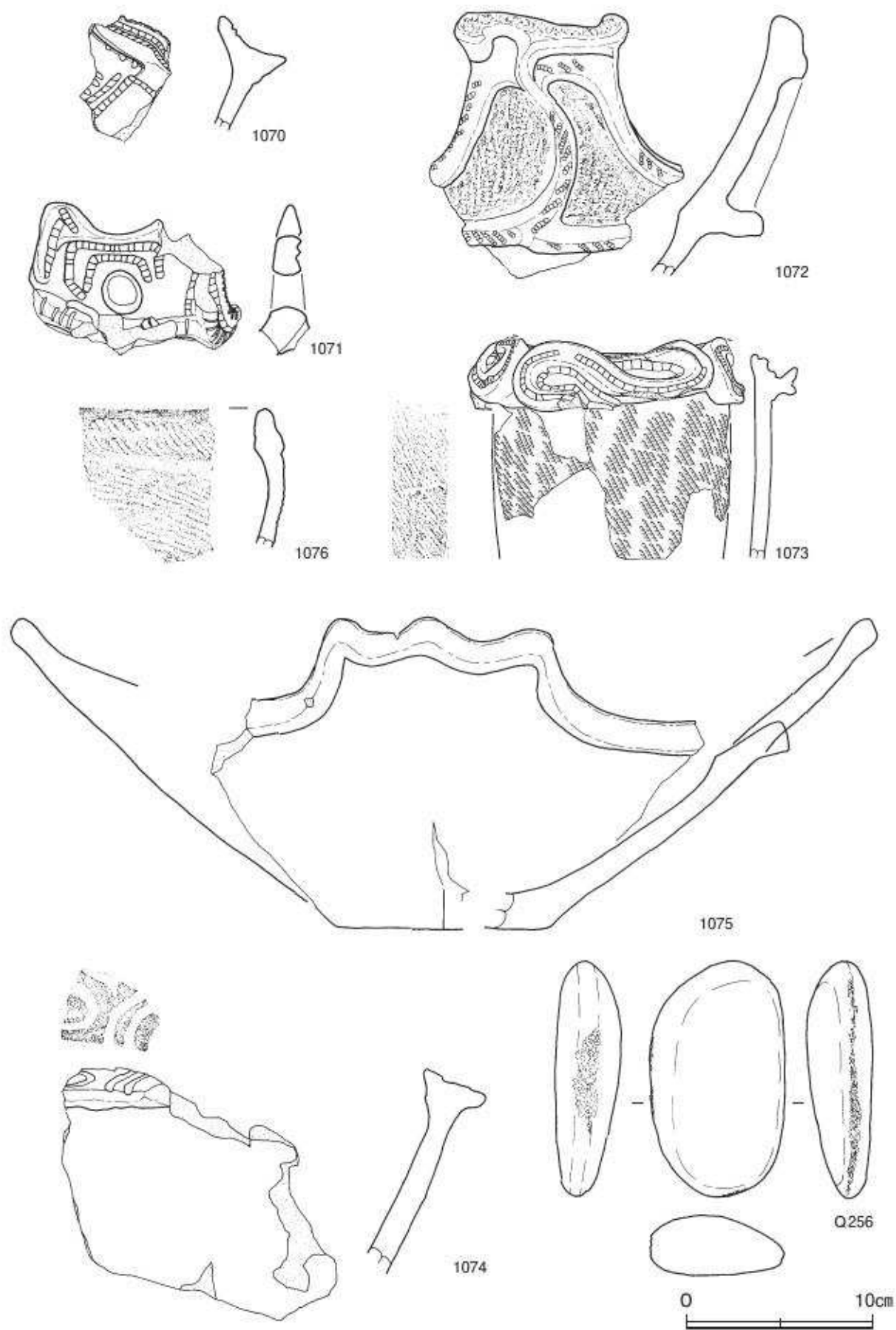
6 極暗褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 縄文土器片 92点 (深鉢 89, 浅鉢 3), 石器 3点 (磨製石斧未成品 1, 砥石 2), 石製品 1点 (石剣), 加工痕のある剥片 1点 (瑪瑙), 剥片 2点 (石英) が出土している。1070 は北東部の底面から, 1072・1074・1075, Q256・Q257 は覆土中層から, 1071・1073 は覆土上層から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

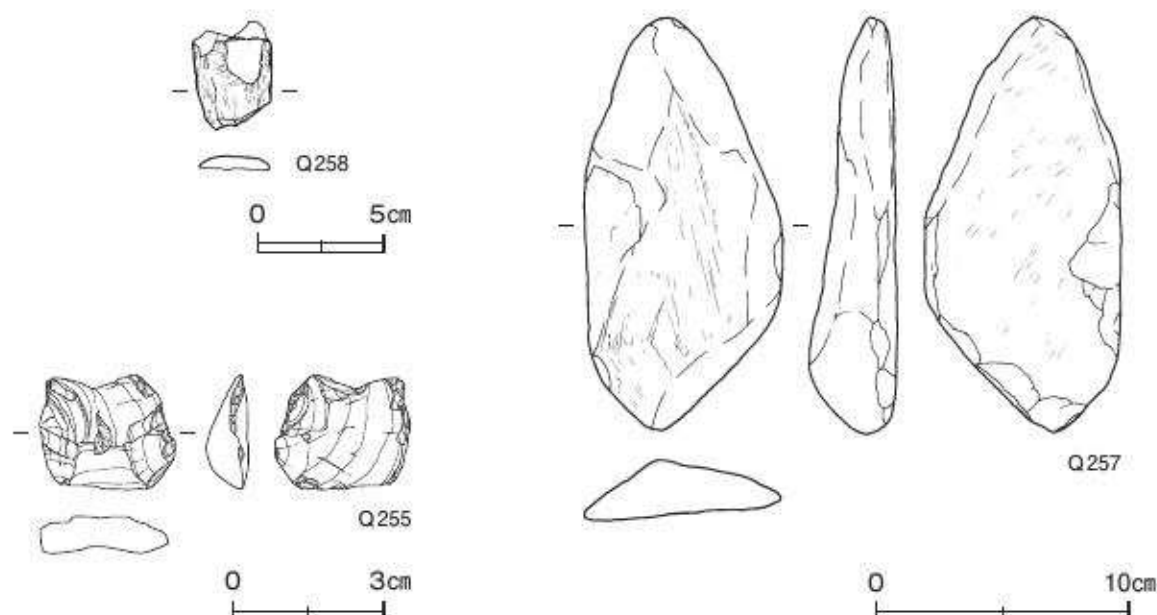
所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第 390 図 第 368 号土坑実測図



第 391 图 第 368 号土坑出土遗物实测图(1)



第392図 第368号土坑出土遺物実測図(2)

第368号土坑出土遺物観察表(第391・392図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1070	縄文土器	深鉢	-	(6.7)	-	長石・石英・雲母	褐	普通	扇状の把手。2本の有節沈線を施らず。把手周縁刻突文。	底面	
1071	縄文土器	深鉢	-	(8.1)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰褐	普通	中空の把手。扇状隆帯にキザミ目。隆帯に沿って1-2本の有節沈線。	覆土上層	
1072	縄文土器	深鉢	-	(13.8)	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	大型扇状把手。把手頂部は横S字状。扇状隆帯による文様積層。隆帯に沿って折衝によるナゲ。把手頂部。区画内単節縄文乳(縦・斜)。	覆土中層	PL141
1073	縄文土器	深鉢	[13.6]	(11.9)	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい橙	普通	口唇頂部に沈線が一筋。横S字状文が施る隆帯中央及び隆帯に沿って有節沈線を施す。区画内単節縄文乳(縦)。	覆土上層	20% PL141
1074	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口唇頂部に太沈線による横門文・弧線文。外面斜・横方向のナゲ。内面横方向の磨き。	覆土中層	
1075	縄文土器	浅鉢	[45.6]	16.7	[11.4]	長石・石英・雲母・赤色粒子・細礫	にぶい褐	良好	内面二段。波状口縁。波頂部山形。口唇部断面三角形の隆帯貼付。外面横方向の磨き。内面横方向のナゲ。口唇部外・内面に赤彩痕。	覆土中層	30% PL141
1076	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口唇部肥厚。肥厚部に単節縄文乳(横)肥厚部下に沈線が一筋。横部同一部体(縦)。	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 255	加工痕のある割片	2.3	2.8	0.9	5.4	瑪瑙	横長の割片を用いて片割線押圧調整	覆土中	
Q 256	磨製石斧未成品	12.7	7.3	3.5	476.9	石英燧岩	両側縁に微細な敲打痕	覆土中層	PL171 抜熱
Q 257	砥石	16.3	7.8	3.4	411.9	砂岩	表面に曲面的。裏面及び側縁部に平坦な砥面	覆土中層	
Q 258	石剣	(4.3)	(3.1)	(0.5)	(9.0)	泥岩	縦位の研磨痕。全周欠損	覆土中	

第369号土坑(第393図 PL63)

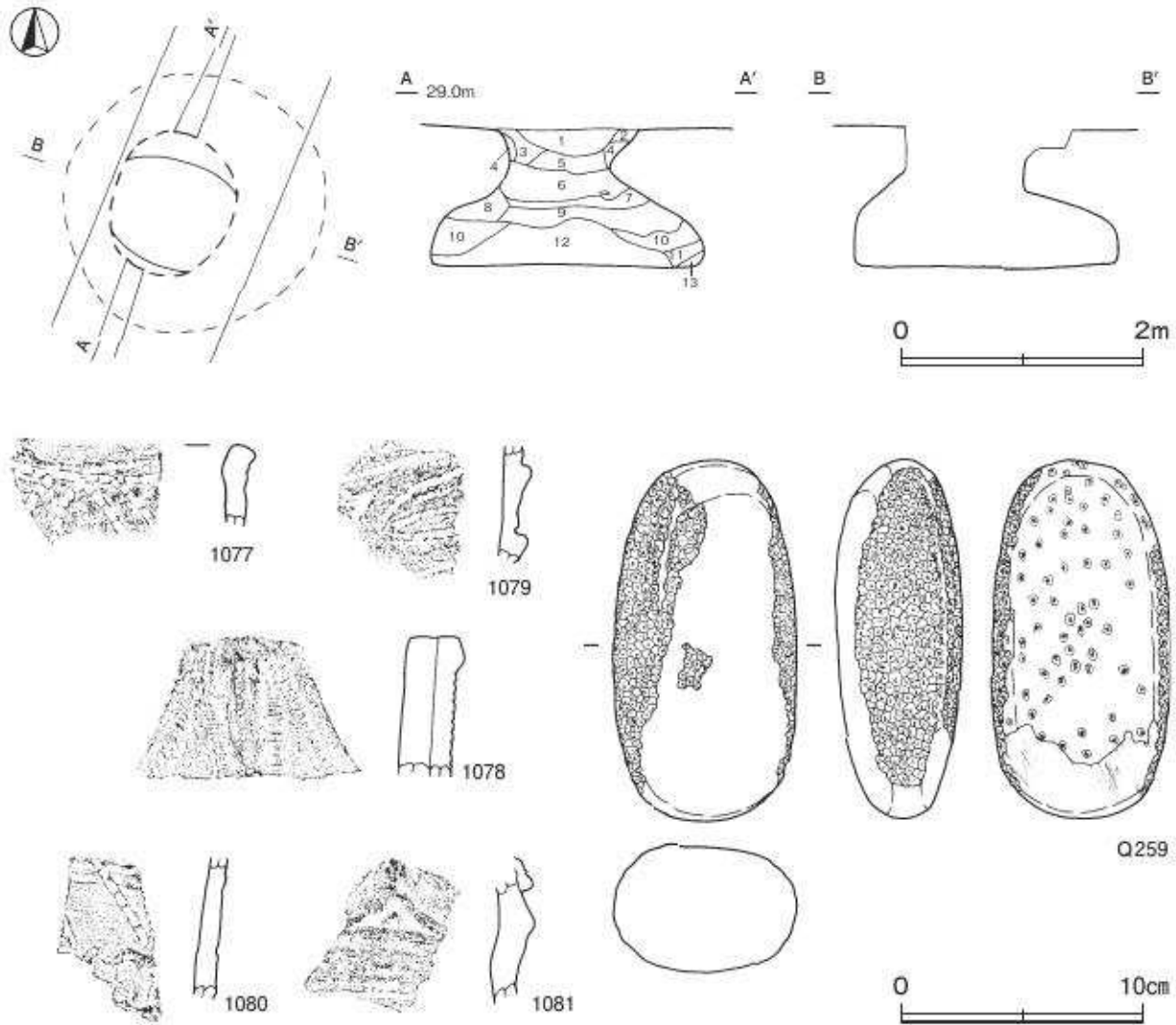
位置 調査区北部中央のC 3 d6区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 開口部は長径1.18m、短径0.98mの楕円形と推定でき、長径方向はN-21°-Wである。底面は径2.15mほどの円形で、平坦である。確認面からの深さは114cmである。壁は内灣して、袋状を呈している。

覆土 13層に分層できる。不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子多量、炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子微量 | 6 黒褐色 | ローム粒子中量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量 | 8 黒褐色 | ローム粒子少量 |



第393図 第369号土坑・出土遺物実測図

9 黒色 ローム粒子少量
 10 褐色 ロームブロック少量
 11 黒褐色 ロームブロック少量

12 濃い黒褐色 ロームブロック少量
 13 黒褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片72点(深鉢), 石器2点(磨製石斧未成品, 磨石), 石核1点(瑪瑙), 剥片2点(ホルンフェルス, 瑪瑙)が出土している。1077~1081, Q259は覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から, 袋状を呈する貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期前葉と考えられる。

第369号土坑出土遺物観察表(第393図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1077	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	口唇部肥厚 頂部平坦 有筋沈線による横線・弧線文	覆土中	
1078	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	濃い赤褐色	良好	板状把手 把手中央から隆帯が垂下 唇部肥厚 隆帯上及び隆帯に沿って爪形文	覆土中	
1079	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・黒色粒子	褐色	普通	溝状隆帯による横位の柵目区画 区画内右筋沈線	覆土中	
1080	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	濃い赤褐色	普通	2本の波状沈線を高らせ沈線間に幅広い爪形文斜位の有筋沈線	覆土中	
1081	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	濃い褐色	普通	隆帯により文様描画 横位の沈線が1筋 外・内面横方向のナデ	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 259	磨製石斧 未成品	15.0	7.2	5.3	950.4	安山岩	表裏に研磨痕 両側縁に微細な敲打痕	埋土中	PL171 磨石・ 磨石の再利用

第370号土坑（第394図 PL64）

位置 調査区北部中央のC 3 e6区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

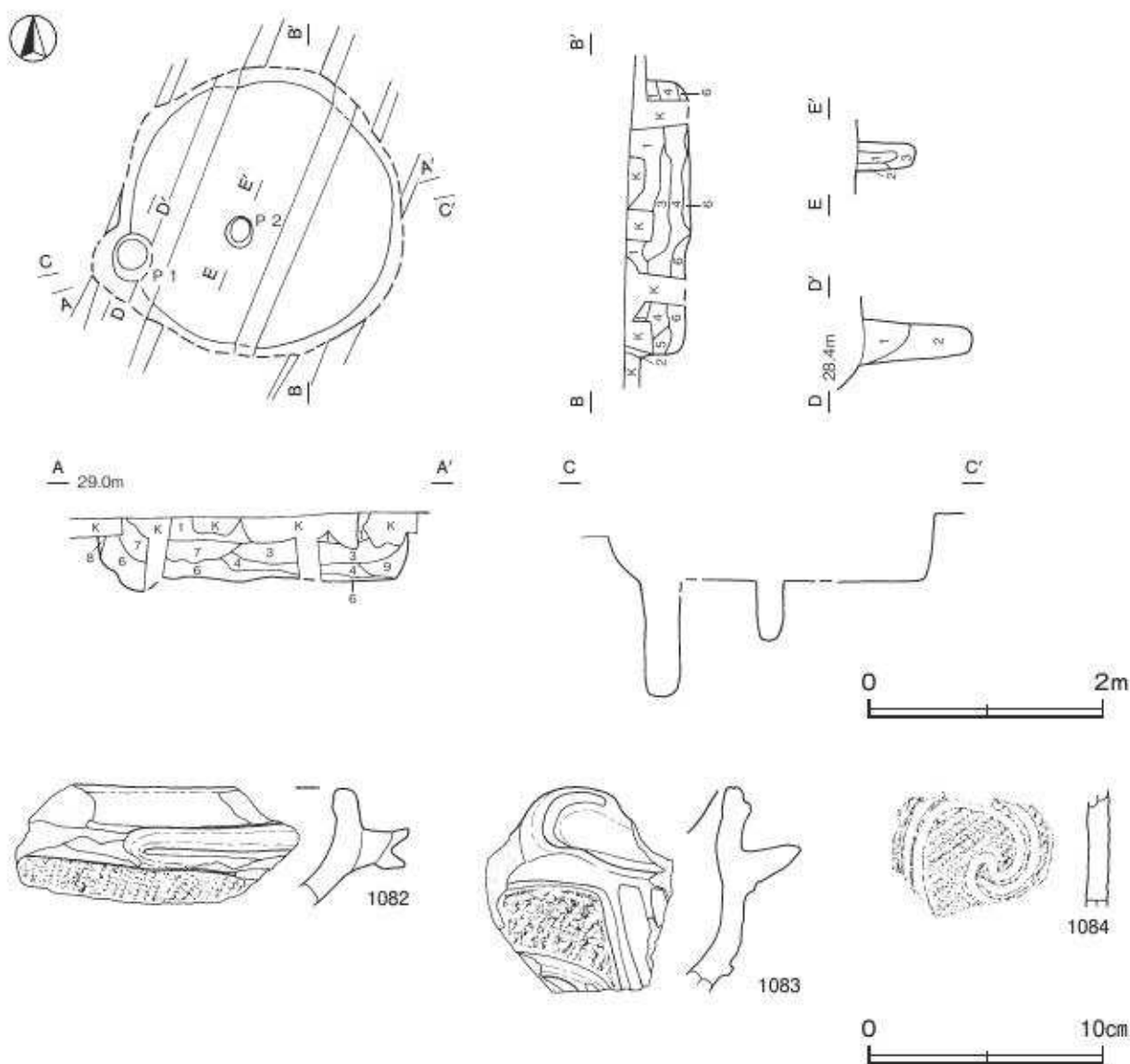
規模と形状 径2.50mほどの円形である。底面は平坦で、深さは60cmである。壁はほぼ直立している。

ピット 2か所。P1は南西側の壁面に位置し、径23cmの円形で、深さは100cmである。P2はほぼ中央に位置し、径20cmの円形で、深さ50cmである。規模と形状からいずれも柱穴と考えられる。第1～3層は、柱抜き取り後の埋土である。

ピット土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量

- 3 黒褐色 ロームブロック中量



第394図 第370号土坑・出土遺物実測図

覆土 9層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が含まれており、不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量 | 7 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子中量 | 8 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量 | 9 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック中量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 200 点（深鉢 198、浅鉢 2）、石器 1 点（砥石）、剥片 2 点（瑪瑙、チャート）が出土している。1082～1084 は覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

第 370 号土坑出土遺物観察表（第 394 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1082	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい橙	良好	洋器状口縁、胎状の隆帯による突起、隆帯中央部に太沈線を通らす。地文に単節縄文 LR（横）	覆土中	
1083	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・黒色粒子・赤色粒子	橙	良好	波状口縁、口等田部指面による凹みがある。腹面部に太沈線による C 字状文、隆帯による文様区画隆帯に沿って沈線、区画内単節縄文 RL（縦）	覆土中	
1084	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	地文に複節縄文 RLR（縦）2本の並行沈線による渦巻文	覆土中	

第 371 号土坑（第 395・396 図 PL64）

位置 調査区中央部の C 3 e5 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 414 号土坑に掘り込まれている。

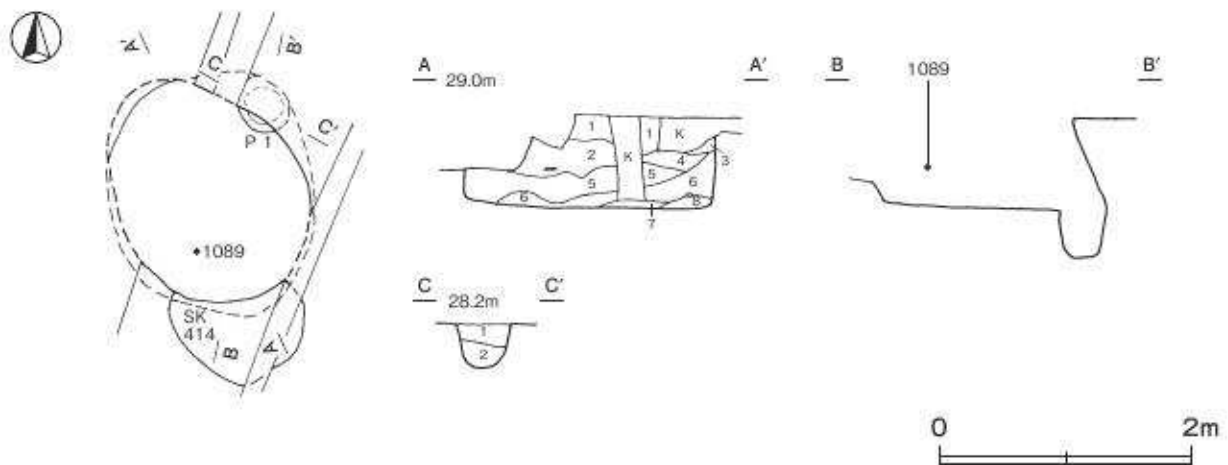
規模と形状 開口部は長径 1.89 m、短径 1.46 m の楕円形で、長径方向は N - 28° - W である。底面は長径 1.94 m、短径 1.63 m の楕円形で、平坦である。確認面からの深さは 72 cm で、壁は内傾して、袋状を呈している。

ピット 北壁際に位置し、径 40 cm の円形で、深さ 40 cm である。規模と形状から補助的な貯蔵施設と考えられる。

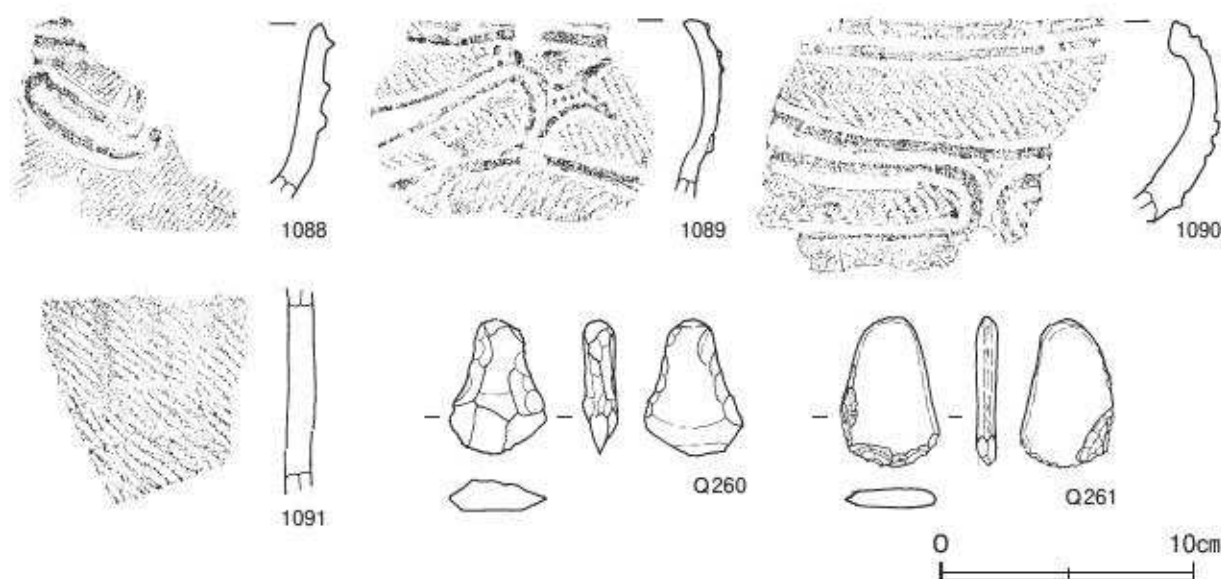
ピット土層解説

- | | | | |
|----------|--------------|---------|--------------|
| 1 にぶい赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 2 にぶい褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 |
|----------|--------------|---------|--------------|

覆土 8層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。



第 395 図 第 371 号土坑実測図



第396図 第371号土坑出土遺物実測図

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック、炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量 | 8 黒褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 縄文土器片 328点（深鉢 327, 浅鉢 1）、石器 2点（打製石斧、磨製石斧）、石核 1点（瑪瑙）、剥片 2点（瑪瑙、チャート）が出土している。1089 は覆土中層から、1088・1090・1091、Q 260・Q 261 は覆土中からそれぞれ出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第371号土坑出土遺物観察表（第396図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1088	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・磁鉄	灰褐色	普通	地文に単節縄文 RL（縦）を間隔を開けて施文。昏剥れ隆帯による文様括弧。内面横方向の磨き	覆土中	
1089	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	地文に無節縄文 L（縦）細隆帯による区画文、刷 S 字状文。一部に剣先文	覆土中層	
1090	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子・磁鉄	にぶい橙	普通	口縁上部に半截竹管による並行沈線が一巡。地文に単節縄文 RL（横）隆帯による楕円区画	覆土中	
1091	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	地文に無節縄文 L（縦）	覆土中	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
Q 260	打製石斧	5.4	3.9	1.4	27.8	黒色安山岩	撥形	割縁部表裏より敲打 刃部は片面を敲打	覆土中	PL163 旧石器。	
Q 261	磨製石斧	5.9	3.8	0.9	28.0	角閃岩	小型	扁平な自然産の片端部敲打調整 割縁部研磨 刃部欠損	覆土中	PL169	

第377号土坑（第397図 PL64）

位置 調査区北部中央の C 3 d8 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 径 1.43 ~ 1.50 m の不整円形と推定できる。底面は皿状で、深さ 31cm である。壁は北西部がほぼ直立しており、南東部が階段状に立ち上がっている。

覆土 5層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

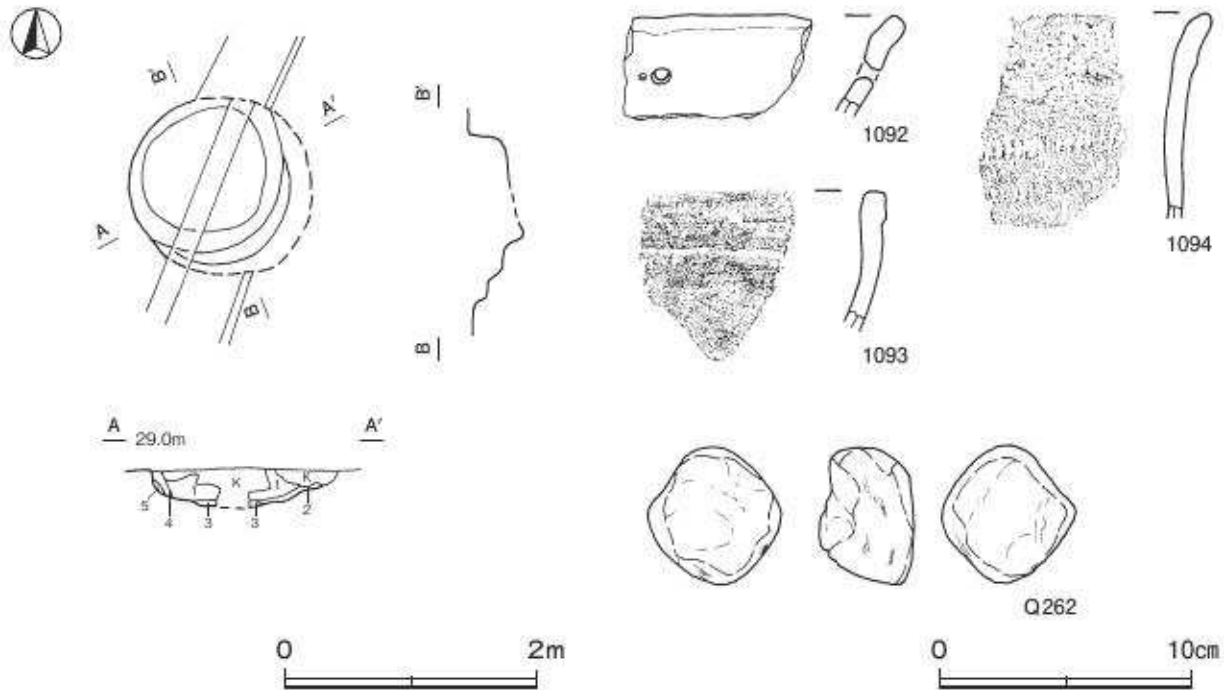
土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
 2 黒褐色 ロームブロック微量
 3 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量

- 4 暗褐色 ロームブロック少量
 5 にぶい黄褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片 104 点（深鉢 103、浅鉢 1）、石器 2 点（スクレイパー、敲砥石）、石核 1 点（石英）、剥片 1 点（瑪瑙）が出土している。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第 397 図 第 377 号土坑・出土遺物実測図

第 377 号土坑出土遺物観察表（第 397 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1092	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・細砂	明赤褐	普通	口縁内側に段・外・内面横方向の磨き・2か所の補修孔あり	覆土中	
1093	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・細砂	暗褐	普通	口唇部薄い板状の隆帯貼付・口唇部高頸状・外・内面横方向の磨き	覆土中	
1094	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・細砂	にぶい黄褐	普通	口唇部外反・2条の爪形文が遡る	覆土中	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
Q 262	敲砥石	5.5	5.3	3.8	132.5	チャート	円縁の周縁部に多方向からの砥面により稜をもつ		覆土中	PL173	

第 379 号土坑（第 398 図）

位置 調査区北部中央の C 3c7 区。標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 412 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 1.58 m、短径 1.30 m の楕円形で、長径方向は N - 45° - E である。底面は平坦である。深さは 37cm で、壁は外傾している。

ピット 2か所。P1は南西壁際に位置し、長径35cm、短径22cmの楕円形で、深さは20cmである。P2は中央部に位置し、径30cmの円形で、深さは18cmである。いずれも位置と形状から柱穴と考えられる。

ピット土層解説

1 黒褐色 ローム粒子多量、炭化粒子少量

2 暗褐色 ロームブロック微量

覆土 4層に分層できる。周囲から流入している堆積状況から、自然堆積と考えられる。第5層は、P2の覆土である。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子多量、炭化粒子少量

4 黒褐色 ロームブロック微量

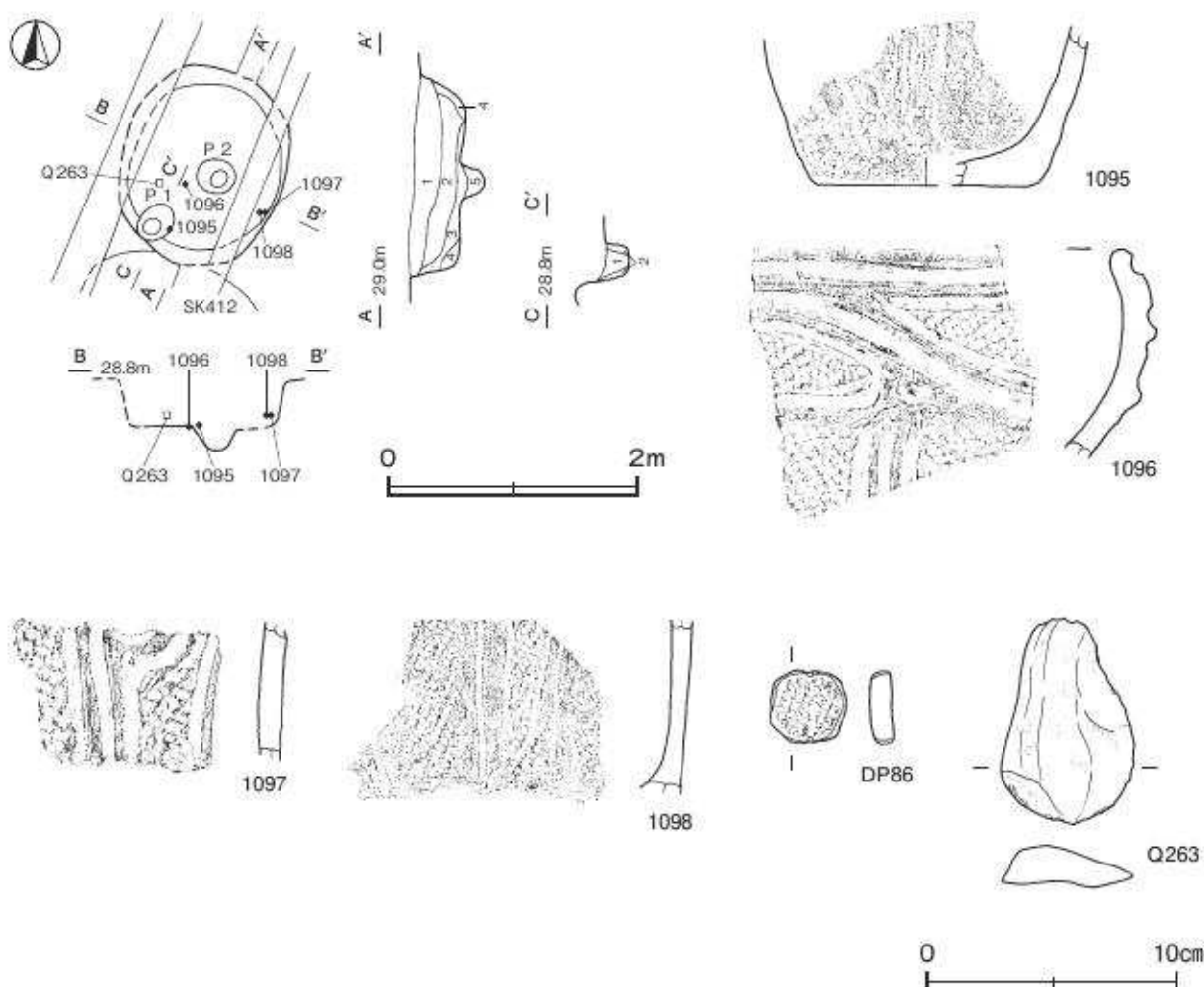
2 黒褐色 ローム粒子多量

5 暗褐色 ロームブロック少量

3 黒褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片144点(深鉢139, 浅鉢5), 土製品1点(土器片錘), 石器1点(砥石), 石核1点(瑪瑙), 剥片2点(石英, 頁岩)が出土している。1095・1096は底面, 1097・1098, Q263は覆土下層, DP86は覆土中からそれぞれ出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。



第398図 第379号土坑・出土遺物実測図

第 379 号土坑出土遺物観察表 (第 398 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1095	縄文土器	深鉢	-	(6.5)	[8.6]	長石・石英・雲母・細砂	褐色	普通	縦位の燃茶文 下部横方向のナデ 底面丁寧な磨き	底面	10%
1096	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	口唇部太沈線が一部 隆帯による区画文 区内半面縄文LR(横) 胴部は同一原体による縦筋文 3本の沈線を垂下 沈線間磨消	底面	
1097	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	地文に半面縄文RL(縦) 3本の沈線を垂下 沈線間磨消	覆土下層	
1098	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	地文に半面縄文RL(縦) 2本の浅い沈線を垂下 沈線間磨消	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP86	土器片鏝	29	3.1	0.9	11.3	長石・石英・雲母	褐色	胴部片 両端にキザミ目 肩縁部研磨	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 263	砥石	83	54	16	71.5	砂岩	片面に自然面 多方向からの砥面をもつ 部分的に曲面状の砥面	覆土下層	

第 380 号土坑 (第 399 図 PL65)

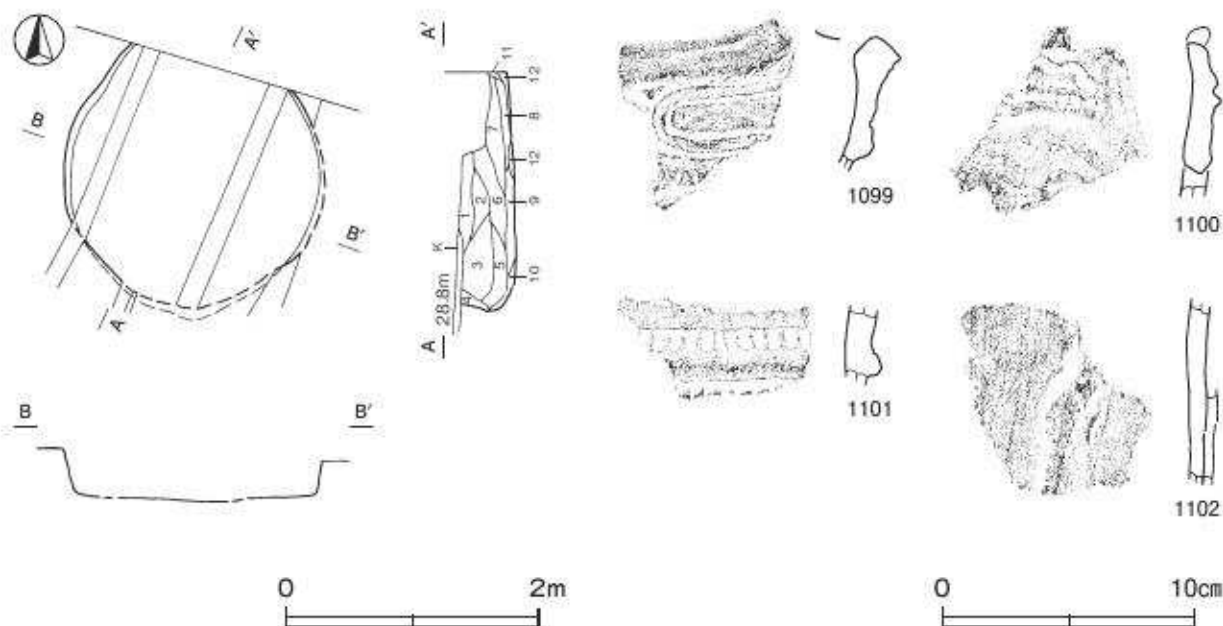
位置 調査区北部中央の C 3c0 区。標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 北部が調査区域外へ延びているが、開口部は径 2.08 ~ 2.20 m の円形と推定できる。底面は、径 1.96 ~ 2.08 m の円形と推定でき、平坦である。確認面からの深さは 43cm で、南壁はやや内彎して、袋状を呈し、その他はほぼ直立している。

覆土 12 層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-----------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 7 褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子多量、炭化粒子微量 | 8 黒褐色 | ローム粒子中量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子多量、炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 9 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子少量 | 10 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子中量 | 11 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 6 黒褐色 | ローム粒子多量 | 12 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量 |



第 399 図 第 380 号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片 134 点（深鉢 133, 浅鉢 1）、石器 2 点（敲石、砥石）、石核 1 点（瑪瑙）が出土している。1099～1102 は覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期前葉と考えられる。

第 380 号土坑出土遺物観察表（第 399 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1099	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・磁礫	黒褐色	普通	波状口縁。内側に段。口唇部断面三角形の隆帯がある。隆帯上にキザミ目。箱門区前内 2 本の有筋沈線。	覆土中	
1100	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・磁礫	暗褐色	普通	板状把手。頂部に凹み。中央部に 2 か所の円形穿孔。隆帯上に有筋沈線。	覆土中	
1101	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・磁礫	灰褐色	普通	蒲葺状隆帯が一高。隆帯に沿って幅広の有筋沈線。	覆土中	
1102	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・磁礫	にぶい赤褐色	普通	蒲葺状の蛇行隆帯が垂下。外面縦方向のナデ。	覆土中	

第 383 号土坑（第 400 図）

位置 調査区北西部の C 2 a5 区。標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 5 号竪穴建物跡を掘り込み、第 395 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 径 1.82～1.94 m のほぼ円形である。底面は平坦で、深さは 68cm である。壁はほぼ直立している。

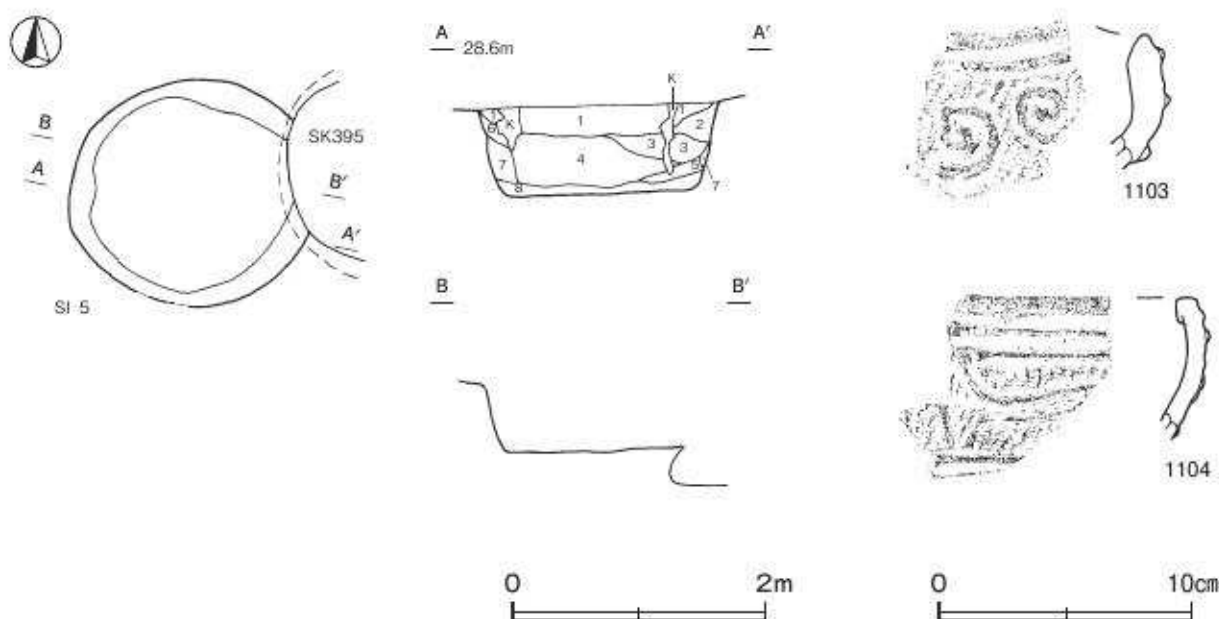
覆土 8 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれており、不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 4 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量 |

遺物出土状況 縄文土器片 75 点（深鉢 72, 浅鉢 3）、剥片 1 点（瑪瑙）が出土している。1103・1104 は覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第 400 図 第 383 号土坑・出土遺物実測図

第 383 号土坑出土遺物観察表 (第 400 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1103	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・細砂	にぶい橙	普通	口縁上部に隆帯が一周。地文に単節縄文RL (縦) 隆帯による渦巻文貼付	覆土中	
1104	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口唇内側に粘土貼付による段。地文に単節縄文RL (縦) 2条の隆帯により文様描画	覆土中	

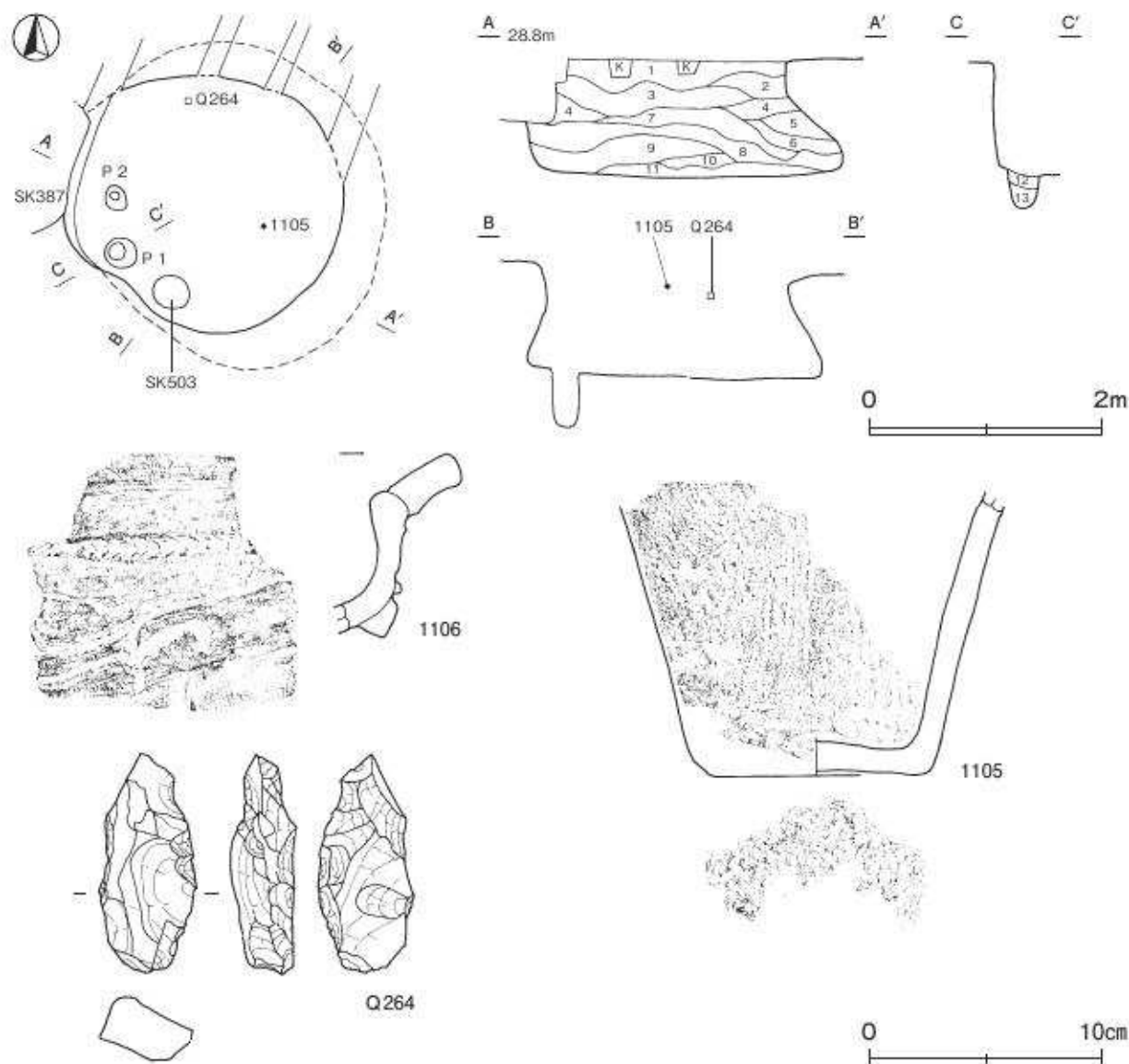
第 386 号土坑 (第 401 図)

位置 調査区西部の C 2 d0 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 387・503 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は長径 2.43 m、短径 2.15 m の楕円形で、長径方向は N - 63° - W である。底面は径 2.50 ~ 2.65 m の円形で、平坦である。確認面からの深さは 98 cm で、壁は内彎して、袋状を呈している。

ピット 2 か所。P 1 は、南西部に位置し、径 30 cm の円形で、深さ 30 cm である。位置と形状から柱穴と考えられる。P 2 は西部に位置し、径 20 cm の円形で、浅い凹み状を呈している。性格は不明である。



第 401 図 第 386 号土坑・出土遺物実測図

覆土 11層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。第12・13層は、P1の覆土である。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量	8	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土ブロック微量
2	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	9	褐色	ロームブロック多量
3	黒褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量	10	黒褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
4	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量	11	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
5	暗褐色	ロームブロック中量	12	褐色	ローム粒子中量
6	暗褐色	ロームブロック中量、炭化物微量	13	褐色	ローム粒子多量
7	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量			

遺物出土状況 縄文土器片 231点（深鉢230、浅鉢1）、石器1点（打製石斧）、石核1点（粘板岩）、剥片2点（石英、チャート）が出土している。1105、Q264は覆土上層から、1106は覆土中から出土している。ある程度埋め戻された段階で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、柱穴と考えられるピットを有する袋状の貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第386号土坑出土遺物観察表（第401図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1105	縄文土器	深鉢	-	(123)	9.5	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	表文に無節縄文L（斜・縦）下縁部横方向のナデ	覆土上層	20%
1106	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	黒褐色	普通	口縁部くの字状に外反、外反部へん充状の剥突が一巡、幅広の隆帯貼付、隆帯に流線で渦巻文外面横方向の磨き	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q264	石核	9.5	4.2	2.9	108.4	粘板岩	周縁部を敲打	覆土上層	未成品。

第387号土坑（第402・403図）

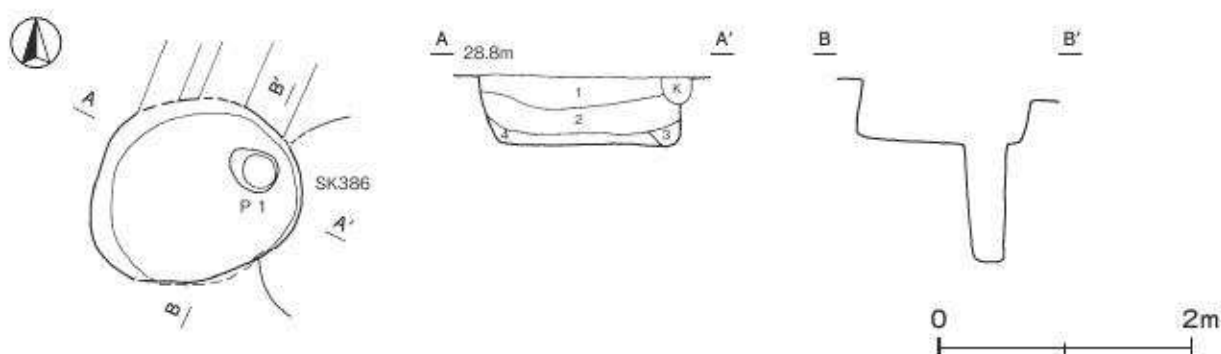
位置 調査区西部のC2d9区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第386号土坑を掘り込んでいる。

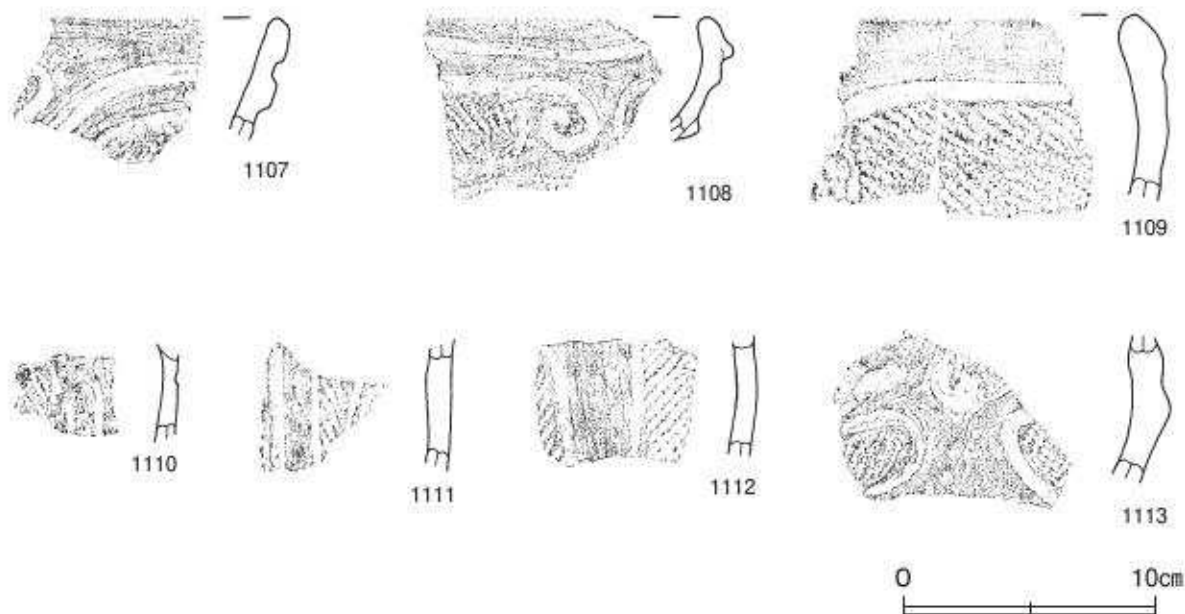
規模と形状 開口部は長径1.66m、短径1.44mの楕円形で、長径方向はN-62°-Eである。底面は平坦で、深さは52cmである。壁は南部がやや内傾しており、その他はほぼ直立している。

ピット 北東壁寄りに位置し、径30cmの円形で、深さ95cmである。

覆土 4層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。



第402図 第387号土坑実測図



第 403 図 第 387 号土坑出土遺物実測図

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
 2 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
 3 暗褐色 ロームブロック少量
 4 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片 67 点（深鉢）、石器 1 点（磨製石斧）が出土している。1107～1113 は覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

第 387 号土坑出土遺物観察表（第 403 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1107	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	矩太の沈線により文様描画	覆土中	
1108	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	口唇部内縁・頂部に沈線が一高。沈線による渦巻文。区内単節縄文 LR（縦）	覆土中	
1109	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい桃	良好	口唇部肥厚。肥厚部無文。地文に単節縄文 RL（横）。太沈線による楕円区画	覆土中	
1110	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	地文に単節縄文 LR（縦）。沈線による縦位の楕円区画。区画外磨治	覆土中	
1111	縄文土器	深鉢	-	-	-	石英・雲母	にぶい橙	良好	地文に単節縄文 LR（縦）。2本の並行沈線が基下沈線同磨治	覆土中	
1112	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい橙	良好	地文に単節縄文 RL（縦）間隔を開けた沈線が垂下。沈線同磨治	覆土中	
1113	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	洗状口径。太沈線による渦巻文・楕円区画。区内単節縄文 RL（縦）	覆土中	

第 388 号土坑（第 404 図）

位置 調査区西部の C 2c0 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

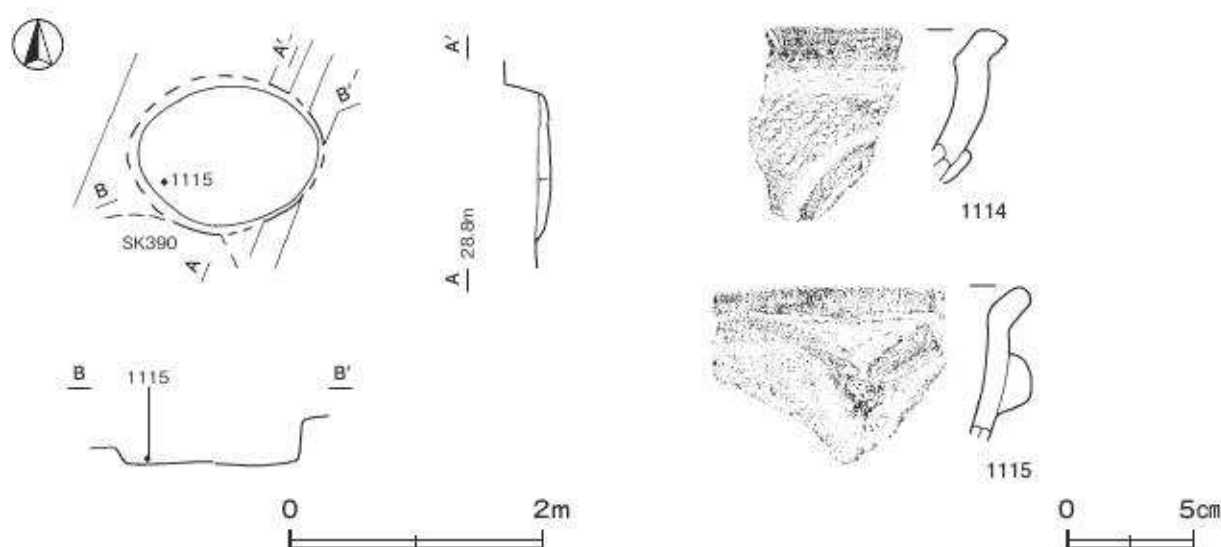
重複関係 第 390 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 1.55 m、短径 1.26 m の楕円形で、長径方向は N - 74° - E である。底面はほぼ平坦で、深さは 35cm である。壁はほぼ直立している。

覆土 層厚が薄いため、堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 褐色 ロームブロック・焼土粒子少量



第404図 第388号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片7点(深鉢)、剥片1点(粘板岩)が出土している。1115は南西部の底面、1114は覆土中からそれぞれ出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第388号土坑出土遺物観察表(第404図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1114	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・磁鉄	明赤褐	普通	口唇部内削ぎ、頂部は字状、地文に単節縄文RL(縦) 隆帯貼付により文様描画	覆土中	
1115	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・磁鉄	明赤褐	普通	縄文貼付、口唇部くの字状に外反、隆帯をV字状に	底面	

第390号土坑(第405図 PL65)

位置 調査区西部のC2d9区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第389号土坑を掘り込み、第388号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 径1.63～1.75mのほぼ円形で、底面は皿状である。深さは32cmで、壁はほぼ直立している。

ピット 2か所。P1は長径40cm、短径32cmの楕円形で、深さ114cmである。規模と配置から柱穴と考えられる。

P2は長径70cm、短径58cmの楕円形で、深さ50cmである。補助的な貯蔵施設と考えられる。

P1土層解説

- 1 褐色、ロームブロック少量
- 2 黒褐色、ロームブロック少量

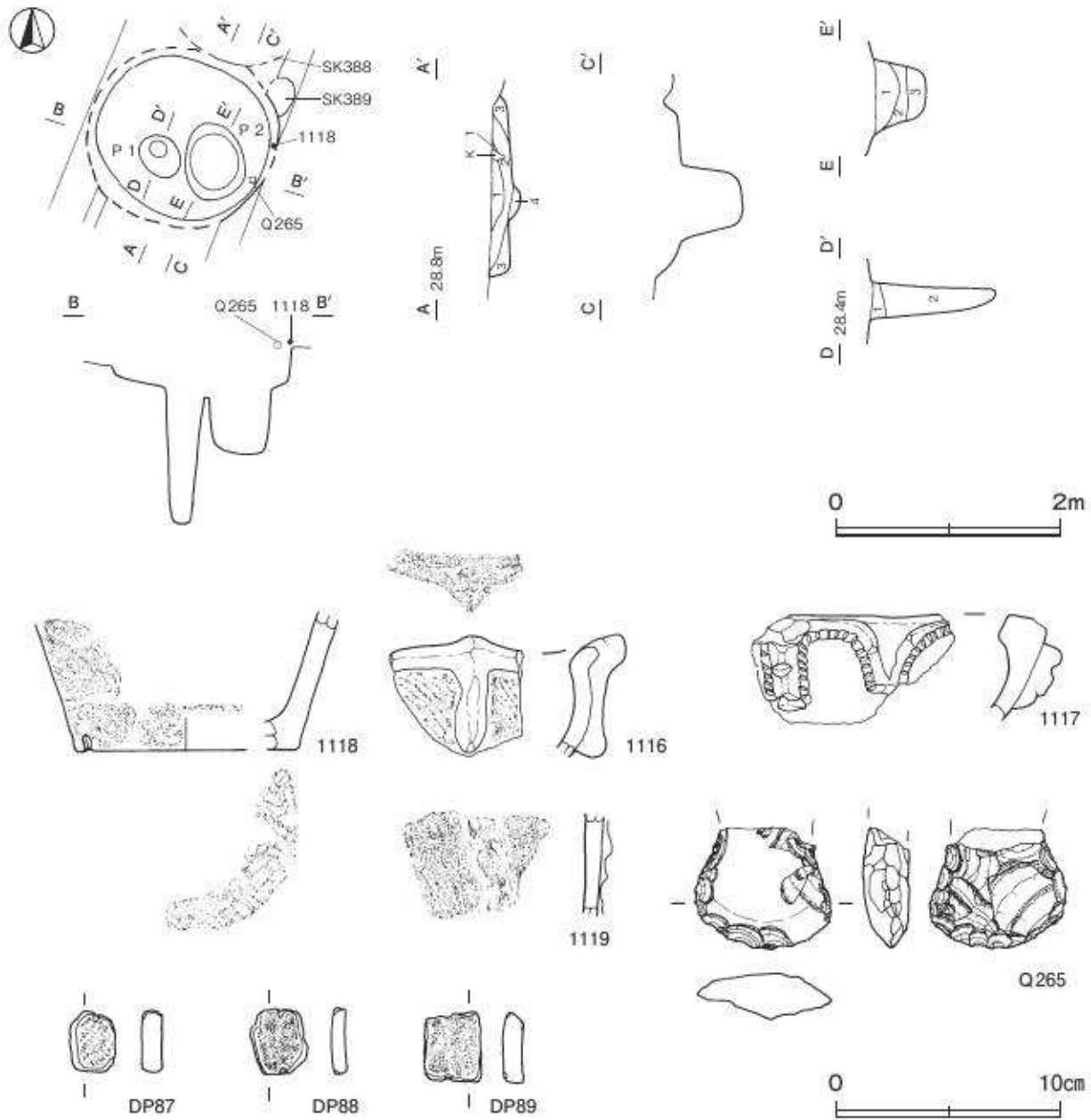
P2土層解説

- 1 黒褐色、ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色、ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色、ロームブロック少量

覆土 4層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色、炭化粒子少量
- 2 暗褐色、焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 暗褐色、ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 4 暗褐色、ロームブロック少量



第405図 第390号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片131点（深鉢127，浅鉢4），土製品3点（土器片錘），石器3点（打製石斧，磨石，敲石），石核1点（瑪瑙）が出土している。1118，Q265は覆土上層から，1116・1117・1119，DP87～DP89は覆土中から出土している。いずれも埋没過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から，貯蔵穴と考えられる。時期は，出土土器から中期前葉と考えられる。

第390号土坑出土遺物観察表（第405図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1116	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色 粘土	にぶい赤褐色	良好	口唇部に突起。頂部から両端を積み上げた陸帯が垂下。地文に無節縄文し（縦）内面横方向の磨き	覆土中	
1117	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口唇部平坦。縦長の断面三角形の積み状陸帯帯付。陸帯による半楕円区画。陸帯に沿って有節縄文を施文	覆土中	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1118	陶文土器	深鉢	-	(62)	[10.0]	長石・石英	明赤褐	普通	無文 外・内面横方向のナデ 底部網代痕	覆土上層	
1119	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色 粘土・黒色粘土	黒褐	普通	無文 隆帯が垂下 隆帯上に指頭による圧痕文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP87	土器片鉢	27	2.0	0.9	7.1	長石・石英・雲母・ 繊維	褐灰色	胴部片 一端にキザミ目 唇縁部研磨	覆土中	未成品。
DP88	土器片鉢	3.0	2.6	0.6	5.5	雲母	にぶい赤褐	胴部片 両端にキザミ目 唇縁部粗雑に研磨	覆土中	
DP89	土器片鉢	3.1	2.6	0.9	9.7	長石・雲母	灰褐	胴部片 両端に浅いキザミ目	覆土中	未成品。

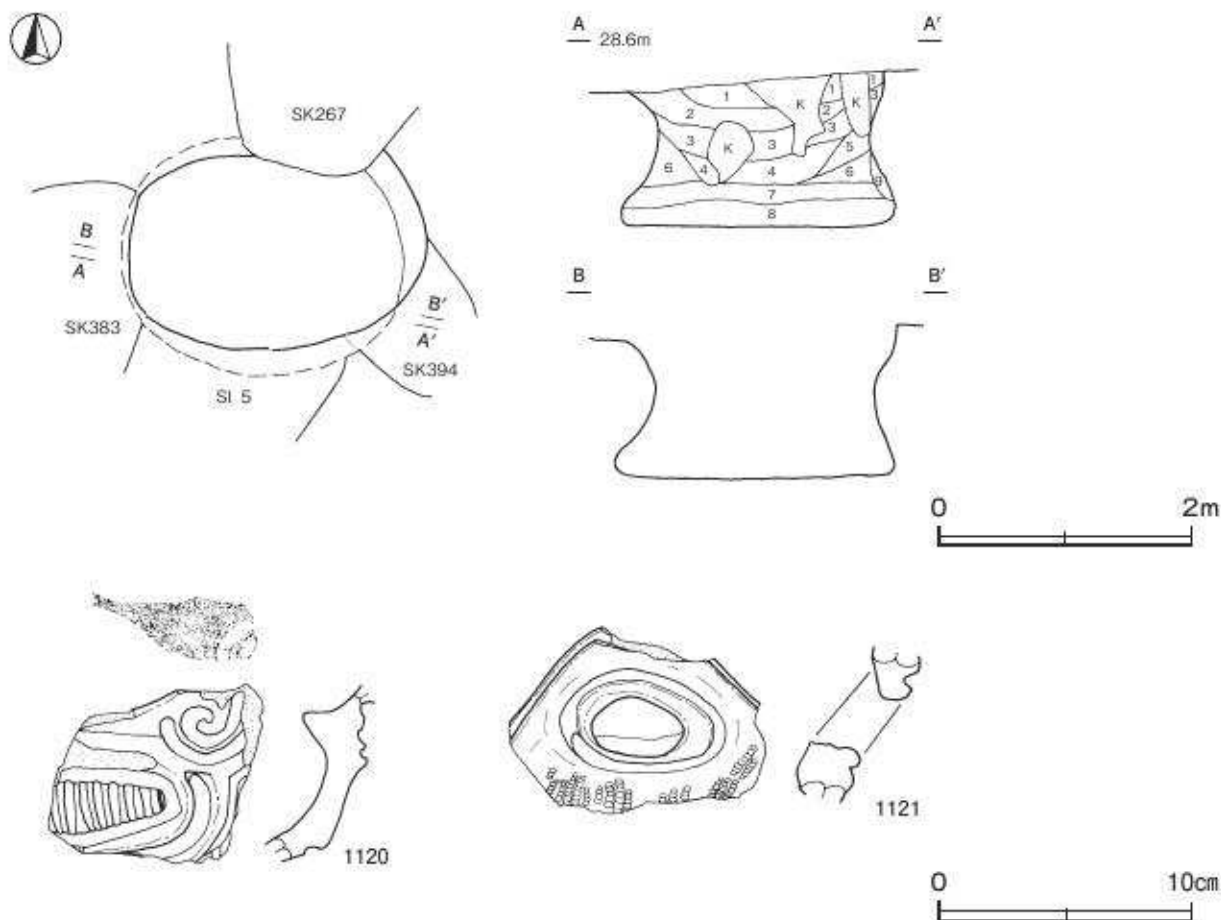
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q265	打製石斧	(5.5)	6.2	2.0	(793)	ホルンフェルス	分銅形 片側に自然面 唇縁部表裏を敲打 片方部欠損	覆土上層	

第395号土坑 (第406図 PL65)

位置 調査区北西部のC2a5区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第5号竪穴建物跡、第383・394号土坑を掘り込み、第267号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は長径2.40m、短径1.55mの楕円形で、長径方向はN-86°-Eである。底面は長径2.25m、短径1.90mの楕円形で、ほぼ平坦である。確認面からの深さは122cmである。壁は内彎して、袋状を呈している。



第406図 第395号土坑・出土遺物実測図

覆土 9層に分層できる。各層に多量のロームブロックや炭化粒子、焼土粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	6 暗褐色	ローム粒子多量、炭化粒子少量、焼土ブロック微量
2 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量	7 褐色	ローム粒子多量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子中量、焼土粒子少量	8 褐色	ロームブロック多量、炭化粒子少量
4 黒褐色	ローム粒子多量、炭化物中量、焼土粒子微量	9 褐色	ロームブロック多量
5 暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量		

遺物出土状況 縄文土器片 86 点（深鉢）、石器 1 点（磨石）、剥片 1 点（チャート）が出土している。1120、1121 は覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、袋状を呈する貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第 395 号土坑出土遺物観察表（第 406 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1120	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母・細砂	灰褐色	普通	波状口縁 波頂部に渦巻文、鼓い隆部と太沈線による区画、区画内縦位の太沈線で光景	覆土中	
1121	縄文土器	深鉢	—	(75)	—	長石・石英	暗赤褐色	普通	波状口縁 波頂部中央に穿孔、頂部及び穿孔に沿って太沈線を施らす。地文に単節縄文(LR)(横)	覆土中	

第 398 号土坑（第 407・408 図）

位置 調査区西部の C 2 d4 区、標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 396・641 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は東部と西部が第 396・641 号土坑に掘り込まれているため、南北径 1.82 m で、東西径は 1.45 m しか確認できなかった。円形または楕円形と推定できる。底面は径 2.10～2.20 m の円形で、平坦である。確認面からの深さは 120cm で、壁は内彎して、袋状を呈している。

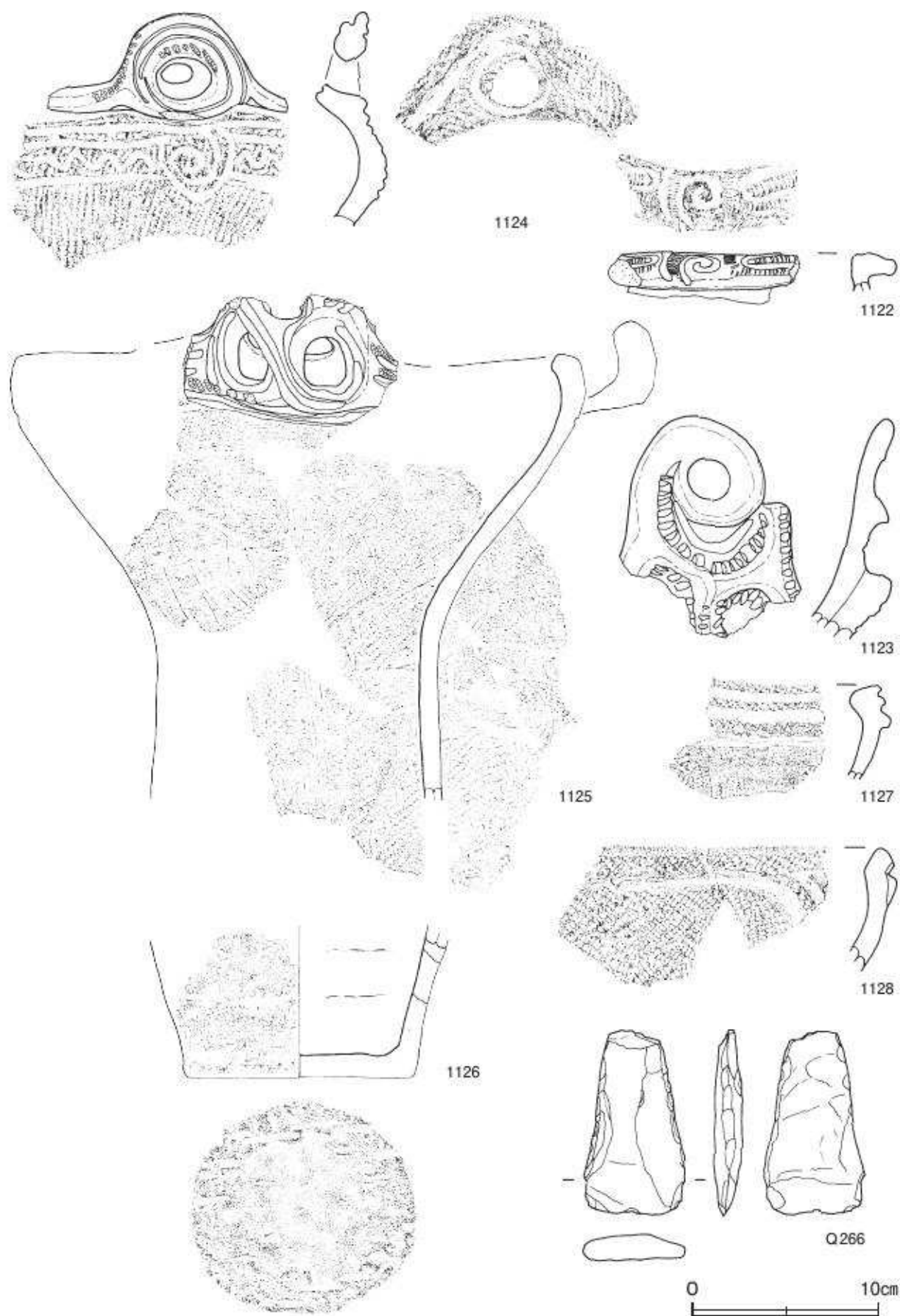
覆土 16層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量	9 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子少量、炭化物微量
2 暗赤褐色	焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化粒子少量	10 褐色	ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子少量
3 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量	11 褐色	ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量
4 暗褐色	ローム粒子多量、炭化粒子少量、焼土粒子微量	12 褐色	ロームブロック多量、炭化粒子微量
5 暗褐色	ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量	13 褐色	ローム粒子多量、焼土粒子中量、炭化粒子微量
6 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量	14 褐色	ローム粒子多量、炭化粒子微量
7 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量	15 暗褐色	ローム粒子多量、炭化粒子微量
8 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量	16 褐色	ロームブロック多量



第 407 図 第 398 号土坑実測図



第 408 図 第 398 号土坑出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片 55 点（深鉢 54，浅鉢 1），石器 2 点（打製石斧，磨石）が出土している。1123～1126，Q 266 は，いずれも覆土上層から出土している。ある程度埋め戻された段階で，一括投棄されたものと考えられる。1122・1127・1128 は，覆土中から出土している。

所見 規模と形状から，袋状を呈する貯蔵穴と考えられる。時期は，出土土器から中期中葉と考えられる。

第 398 号土坑出土遺物観察表（第 408 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1122	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・細砂	にぶい赤褐色	普通	口唇部靴状に隆帯を施し平頂面を作出。平坦面に太沈線による楕円区画と渦巻文。区画に沿って爪形文を施文	覆土中	
1123	縄文土器	深鉢	-	(120)	-	長石・石英・雲母・黒色粒子・細砂	にぶい橙	良好	板状把手。膝状の隆帯による渦巻文。隆帯に沿って幅広の右面沈線	覆土上層	
1124	縄文土器	深鉢	-	(126)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・黒色粒子	にぶい黄褐色	良好	穿孔の把手。把手外・内面穿孔に沿って1～2本の沈線。口唇頂部半紐。把手をはさみ単筋渦文 RL (横) と沈線。把手下に楕円の沈線と波状文・渦巻文。脚支は同一原体による縦施文	覆土上層	10% PL141
1125	縄文土器	深鉢	[28.0]	(27.3)	-	長石・石英・雲母・細砂	にぶい赤褐色	良好	中空把手。把手部に3方向からの穿孔。穿孔に沿って1～2本の沈線。口縁部3本の沈線を並らし沈線上に単面縄文 RL (横)。脚部は結節縄文 RL (縦) を間隔を附けて施文	覆土上層	20% PL141
1126	縄文土器	深鉢	-	(8.3)	120	長石・石英・雲母	橙	普通	無文。外面横方向のナデ。内面縦方向のナデ。底面に網代痕	覆土上層	10%
1127	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・黒色粒子・細砂	明赤褐色	良好	口唇部内側。3条の隆帯が露る。器唇上に単面縄文 RL (横)。胴部同一原体をまばらに斜施文	覆土中	
1128	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・黒色粒子	にぶい赤褐色	良好	口唇部肥厚。肥厚部からV字状隆帯部行。肥厚部・隆帯上単面縄文 RL (横)。肥厚部下(縦)で羽状構成	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 266	打製石斧	10.1	5.5	1.6	106.6	粘板岩	扇形。周縁部微細な鋭打調整。刃部は表裏から研磨。使用痕	覆土上層	PL165 披紋

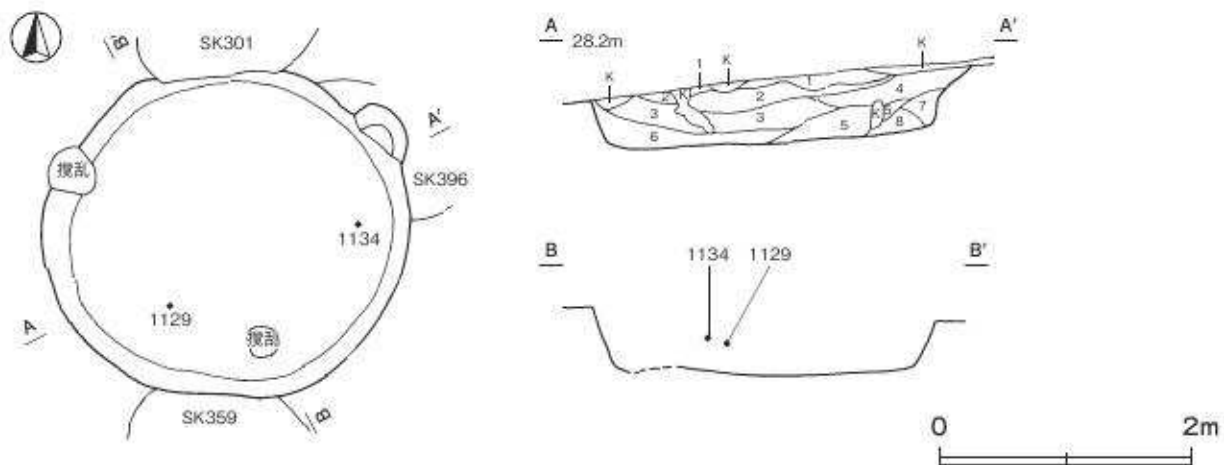
第 399 号土坑（第 409・410 図 PL66）

位置 調査区西部の C 2 d3 区，標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。

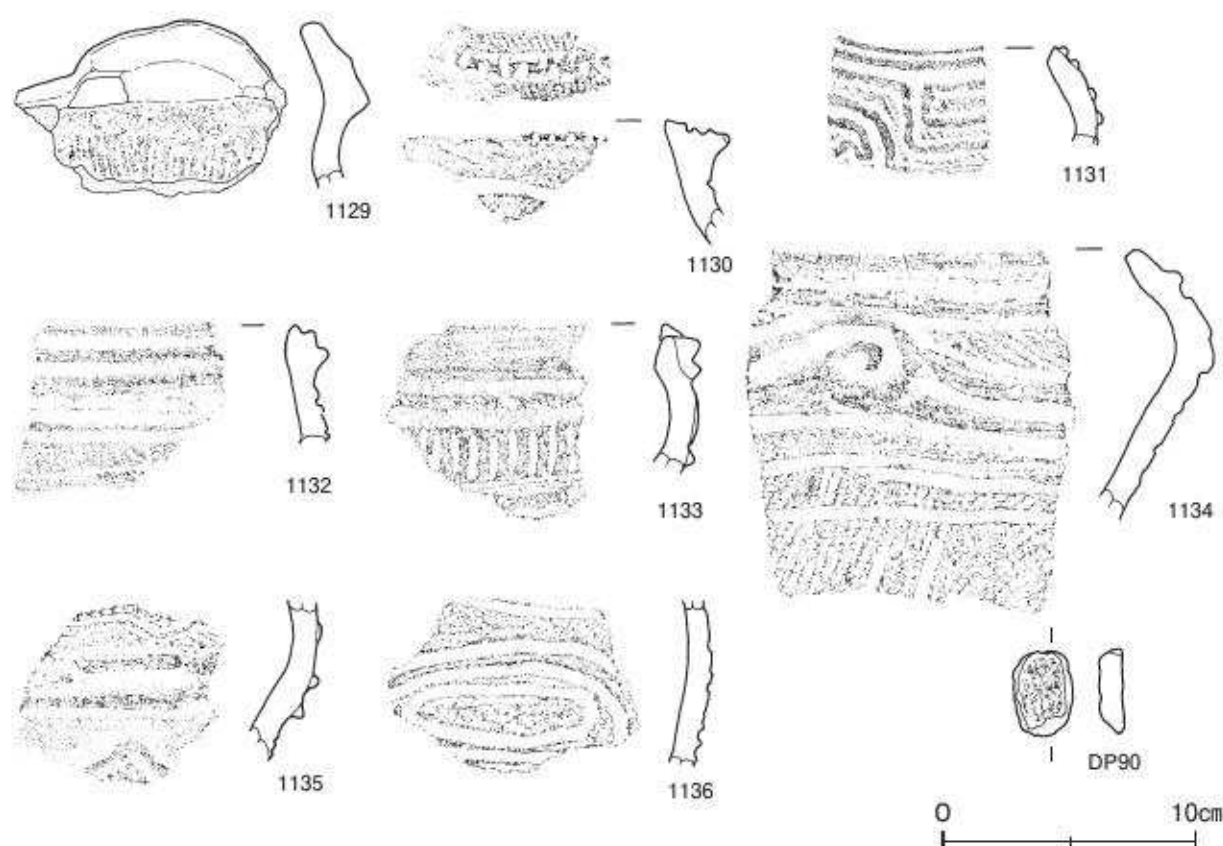
重複関係 第 359・396 号土坑を掘り込み，第 301 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 径 2.67～2.92 m の円形で，北東部に幅 55cm，奥行 25cm ほどの張り出し部がある。底面はほぼ平坦で，深さは 52cm である。壁は外傾している。

覆土 8 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれており，不規則な堆積状況から，埋め戻されている。



第 409 図 第 399 号土坑実測図



第 410 図 第 399 号土坑出土遺物実測図

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|-------|-----------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量 | 5 暗褐色 | ローム粒子多量, 炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量 | 6 暗褐色 | ロームブロック多量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子多量 | 8 暗褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 縄文土器片 239 点 (深鉢 233, 浅鉢 6), 土製品 1 点 (土器片錘), 剥片 4 点 (チャート 1, 砂岩 2, 粘板岩 1) が出土している。1129・1134 は覆土中層から, 1130～1133・1135・1136, DP90 は覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。

第 399 号土坑出土遺物観察表 (第 410 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1129	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・磁礫	にぶい赤褐色	普通	波状口縁, 波頂部内彎, 口径頂部平坦, 地文に半級竹管による縦位の条線文	覆土中層	
1130	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい橙	良好	口径頂部平坦, 平底面に単節縄文 LR (縦), 口径端部棒状工具による刺突, 並行沈線を高らせ交互刺突による波状文	覆土中	
1131	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	口径部内削き, 口径頂部に磁礫網が一巡, 地文に単節縄文 LR (縦), 細隆帯による区画文	覆土中	
1132	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	背割れ隆帯が一巡, 地文に単節縄文 RL (横) 縦位の沈線が高る	覆土中	
1133	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	灰黄褐色	普通	口径内側に段, 頂部平坦, 横位の並行沈線を高らせ支線を区画, 区画内縦位の沈線を充填	覆土中	
1134	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・磁礫	にぶい赤褐色	普通	口径部内彎, 隆帯による区画文・渦巻文, 区画内単節縄文 RL (横), 頸部は横位の沈線を数条高らし区画, 胴部は同一原体による縦條文	覆土中層	PL141
1135	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	隆帯により横位の文様描画, 地文に単節縄文 RL (横) 半級竹管による蛇行沈線が高る	覆土中	
1136	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子・黒色粒子	にぶい黄褐色	普通	地文に単節縄文 LR (縦) を浅く描き, 沈線による横條凹文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP90	土器片簞	34	23	10	95	長石・石英・雲母	暗褐	側面片 一端にキザミ目 片側縁を粗雑に研磨	覆土中	未成品。

第401号土坑（第411～413図）

位置 調査区北部中央のC4c1区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第481号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 北部が調査区域外へ伸びているため、開口部は東西径が2.29m、南北径が1.62mしか確認できなかった。円形または楕円形と推定できる。底面は、東西径が2.15m、南北径が1.59mしか確認できなかった。円形または楕円形と推定でき、平坦である。確認面からの深さは85cmである。壁は内彎して、袋状を呈している。
ピット 3か所。南西部に集中している。いずれも径30cm程度の円形で、深さはP1が32cm、P2・P3が8cm・10cmである。補助的な貯蔵施設と考えられる。

ピット土層解説

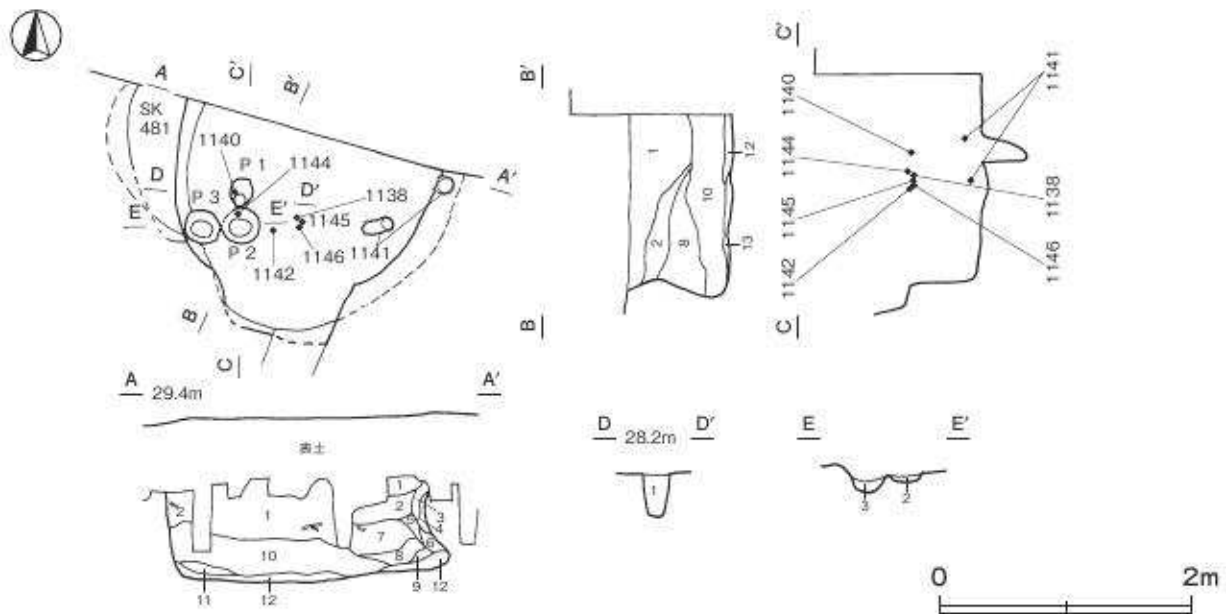
- | | |
|-----------------|---------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック中量 | 3 暗褐色 ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量 | |

覆土 13層に分層できる。ロームブロックや焼土粒子、炭化粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

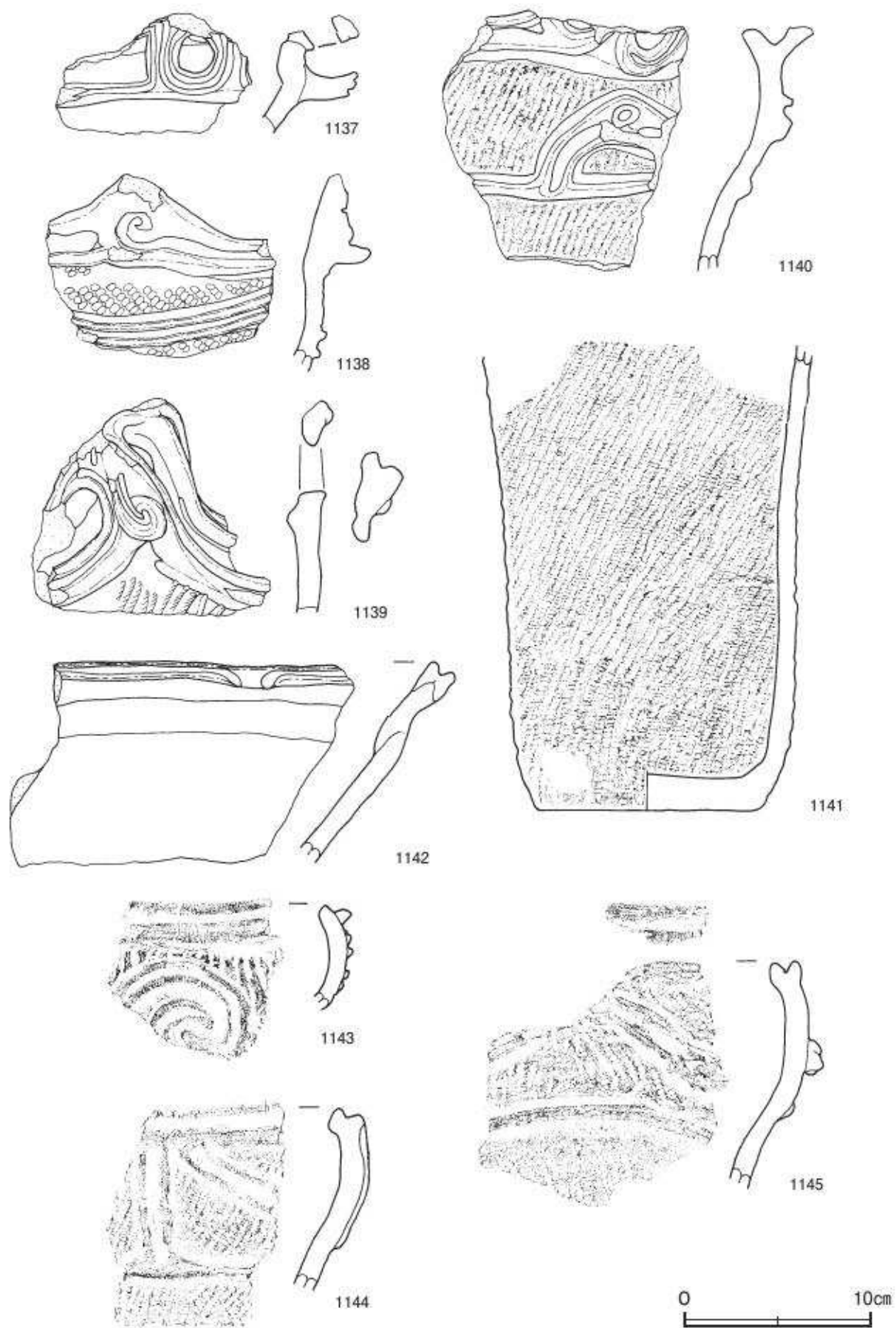
土層解説

- | | |
|----------------------|-------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量 | 8 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子中量 | 9 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 3 濃い黒褐色 ローム粒子少量 | 10 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 4 褐色 ローム粒子少量 | 11 暗褐色 ロームブロック微量 |
| 5 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量 | 12 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 6 暗褐色 ローム粒子微量 | 13 黒褐色 ロームブロック微量 |
| 7 黒褐色 ローム粒子微量 | |

遺物出土状況 縄文土器片178点（深鉢163、浅鉢15）が出土している。1141は覆土下層から散乱して出土した破片が接合している。1138～1140・1142・1144～1146は、覆土上層から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。



第411図 第401号土坑実測図



第 412 图 第 401 号土坑出土遺物実測图 (1)



第 413 図 第 401 号土坑出土遺物実測図 (2)

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第 401 号土坑出土遺物観察表 (第 412・413 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1137	縄文土器	深鉢	-	(65)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・細砂	黒褐色	良好	穿孔に沿って2-3本の沈線が走る	覆土中	
1138	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	液頂部下に渦巻文。蛇状の隆帯を貼付。隆帯上に沈線をはらす。地文に単節縄文RL(横)2条の隆帯が走る	覆土上層	
1139	縄文土器	深鉢	-	(118)	-	長石・石英・雲母・細砂	黒褐色	良好	穿孔に沿って太沈線が走る。地文に無節縄文L(横)	覆土上層	
1140	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐色	普通	中空の把手貼付。地文に単節縄文RL(縦)・渦巻状隆帯を1走る。口縁部を区画。口縁部付近に隆帯による文様描画	覆土上層	
1141	縄文土器	深鉢	-	(249)	11.8	長石・石英・雲母	橙	普通	全面に0段多条縄文RL(縦)底面丁寧な磨き	覆土下層	30%、PL141
1142	縄文土器	浅鉢	-	(109)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・黒色粒子	灰褐色	普通	口唇頂部に沈線が1高。外・内面横方向の磨き	覆土上層	
1143	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・細砂	暗褐色	普通	口唇部隆帯が1高。口唇頂部に太沈線。背割れ隆帯による渦巻文。区画内縦位の沈線	覆土中	
1144	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・細砂	にがい赤褐色	普通	口唇頂部に沈線が1高。地文に附加条縄文(縦)2条の隆帯による文様区画	覆土上層	
1145	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・細砂	にがい赤褐色	普通	口唇頂部に沈線が1高。単節縄文RL(横)を施し。隆帯による文様区画	覆土上層	
1146	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口唇上部に沈線が1高。区画内単節縄文RL(横)隆帯による渦巻文・区画文。頸部無文帯	覆土上層	

第 404 号土坑 (第 414・415 図)

位置 調査区中央部のD 3a9 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 405 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は径 1.28 ~ 1.32 m の円形である。底面は、長径 2.66 m、短径 2.30 m の楕円形で、平坦である。

確認面からの深さは 120cm である。壁は大きく内傾して、袋状を呈している。

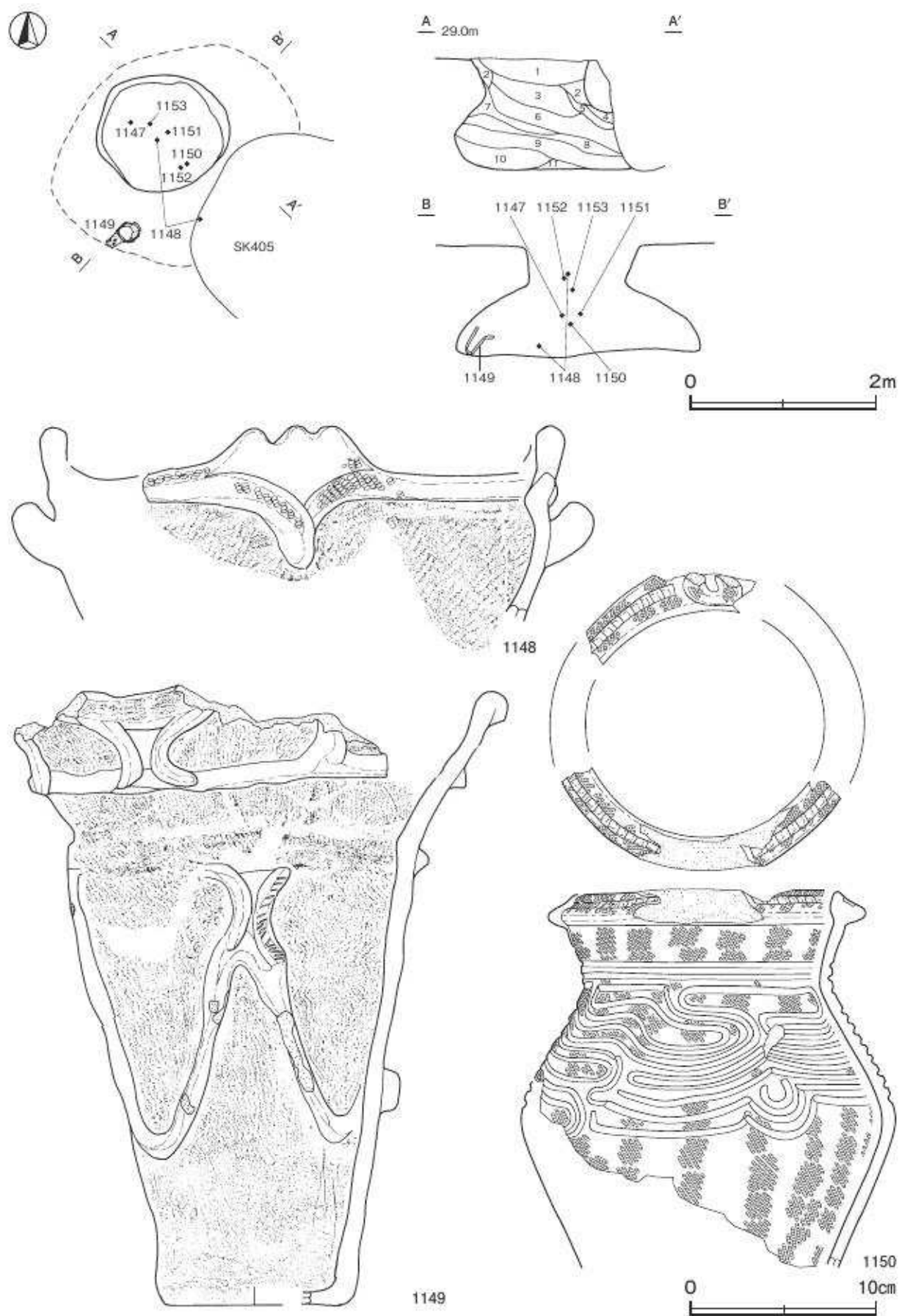
覆土 11 層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

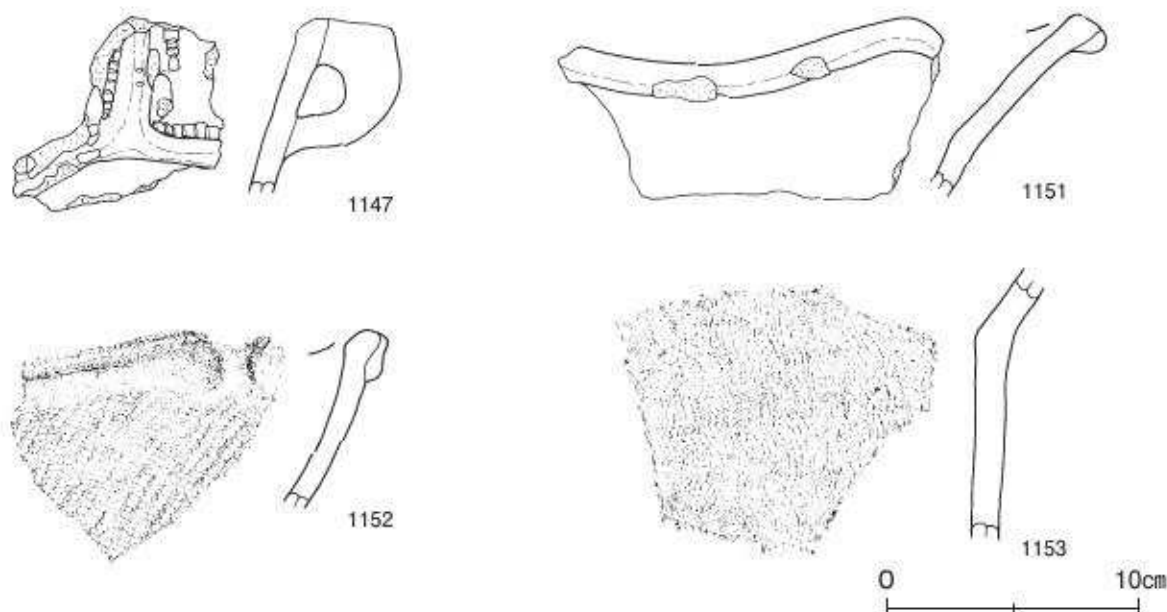
1 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土ブロック微量	7 暗褐色	ロームブロック多量、焼土粒子少量
2 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	8 暗褐色	ロームブロック中量、炭化物少量、焼土粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量	9 褐色	ロームブロック多量、炭化物少量
4 暗褐色	ロームブロック多量	10 褐色	ロームブロック多量
5 褐色	ロームブロック多量、炭化粒子微量	11 暗褐色	ロームブロック多量、炭化粒子微量
6 暗褐色	ローム粒子多量、炭化粒子中量、焼土ブロック微量		

遺物出土状況 縄文土器片 135 点 (深鉢 126、浅鉢 8、壺 1)、剥片 4 点 (瑪瑙 3、石英 1)、石核 1 点 (瑪瑙) が出土している。1149 は南壁際底面から正位の状態で出土している。1148 は覆土上層と下層から出土した土器が接合している。1147・1150・1151 は覆土中層から、1152・1153 は覆土上層から出土している。1149 は放置されたものと考えられる。それ以外は、埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、袋状を呈する貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第 414 図 第 404 号土坑・出土遺物実測図



第 415 図 第 404 号土坑出土遺物実測図

第 404 号土坑出土遺物観察表 (第 414・415 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1147	縄文土器	深鉢	-	(7.6)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	褐灰	普通	中空の把手。把手部周縁及び隆帯に沿って有面沈線	覆土中層	外・内面割落痕
1148	縄文土器	深鉢	[22.6]	(11.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	波状口縁。波状部にミザミ目。V字状の隆帯。唇付交点部縮み上げ。隆帯上単節縄文 LR (横) 胴部同一原体 (縦)	覆土上・下層	10% PL142
1149	縄文土器	深鉢	-	33.2	[9.4]	長石・石英・雲母・細礫	にぶい褐色	普通	波状口縁。上縁部隆帯による X 字状文。頸部を区画し、胴部隆帯による V 字区画。区画上部で X 字状に交差。隆帯上及び区画内橋状工具による縦位の波状文。胴部下端部方向のナデ	底面	70% PL142
1150	縄文土器	壺	[16.5]	(20.4)	-	長石・石英	灰褐色	普通	口唇頸部隆帯唇付による変形。単節縄文 LR (横) 部分的に有面沈線。地文に同一原体 (縦) 胴部沈線による横位の波状文	覆土中層	60% PL142 二次焼成が著しい
1151	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子・細礫	明赤褐色	良好	波状口縁。口唇頂部字道で肥厚。内側に深い段外・内面横方向の摺り	覆土中層	
1152	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口唇内側に段。口唇部外反。X 字状に隆帯唇付。地文に単節縄文 LR (横)	覆土上層	
1153	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・黒色粒子	黒褐色	普通	頸部くの字状に外反。12 本単位の橋状工具による縦位の波状文	覆土上層	

第 405 号土坑 (第 416 図 PL67)

位置 調査区中央部の D 3 a0 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 404 号土坑を掘り込んでいる。

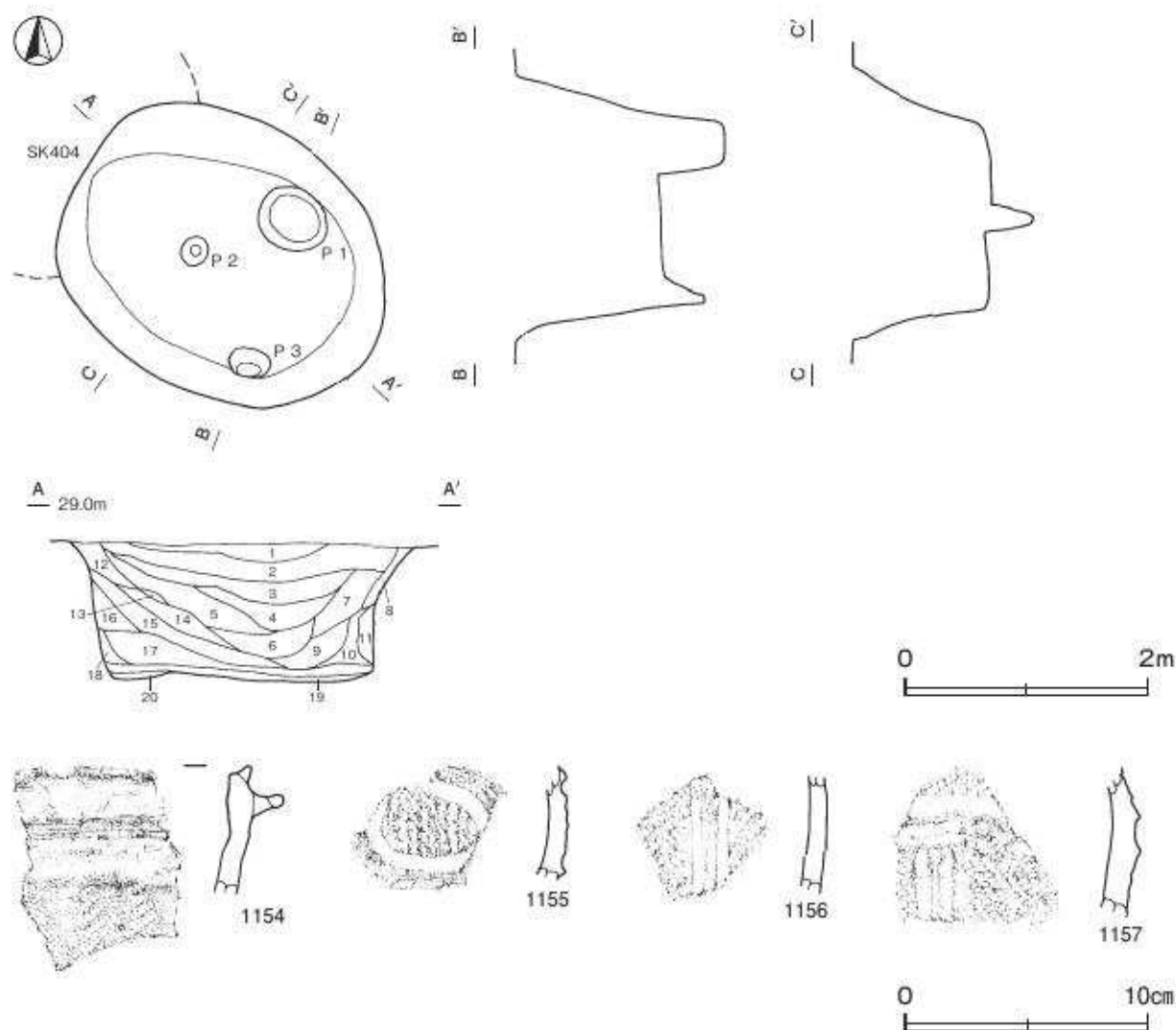
規模と形状 長径 2.80 m、短径 2.27 m の楕円形で、長径方向は N - 56° - W である。底面は平坦で、深さは 120cm である。壁は外傾している。

ピット 3 か所。P 1 は北東壁際に位置し、長径 60cm、短径 50cm の楕円形で、深さは 50cm である。P 2 は中央に位置し、径 22cm の円形で、深さは 38cm である。P 3 は、南壁際に位置し、長径 34cm、短径 20cm の楕円形で、深さは 38cm である。大きさから、P 1 は補助的な貯蔵施設、P 2・P 3 は柱穴と考えられる。

覆土 20 層に分層できる。ロームブロック、炭化粒子、焼土粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子多量、炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック中量 |



第416図 第405号土坑・出土遺物実測図

9	暗褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子微量	15	黒褐色	ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化物微量
10	褐色	ローム粒子多量	16	褐色	ロームブロック多量
11	褐色	ロームブロック中量	17	暗褐色	ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化物微量
12	暗褐色	ローム粒子少量, 炭化物微量	18	暗褐色	ロームブロック多量
13	褐色	ロームブロック少量, 炭化物微量	19	暗褐色	ロームブロック少量, 炭化物微量
14	暗褐色	ロームブロック多量, 炭化物微量	20	暗褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片 50点(深鉢47, 浅鉢3)が出土している。1154～1157は、覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

第405号土坑出土遺物観察表(第416図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1154	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口唇沿部に浅い沈線が一巡。肚状の隆帯を巡らし、単線縄文RL(縦)を間隔を開けて施文	覆土中	
1155	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	良好	隆帯と太沈線により栞門区画(区画内縦位の惣糸文を施文)	覆土中	
1156	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	束文に単部縄文RL(縦)2本の沈線を重下沈線間啓消	覆土中	
1157	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明褐色	普通	胴部の肩突隆帯で口縁部を区画し単部縄文LR(横)栞部同一原体による縦糸文(並行沈線を重下沈線間啓消)	覆土中	

第409号土坑（第417図 PL67）

位置 調査区北西部のC 2a7区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第195・260号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 耕作による攪乱を受けているが、開口部は径1.27～1.30mの円形と推定できる。底面は長径1.48m、短径1.16mの楕円形で、平坦である。確認面からの深さは42cmで、南壁は緩やかに内彎して、袋状を呈している。

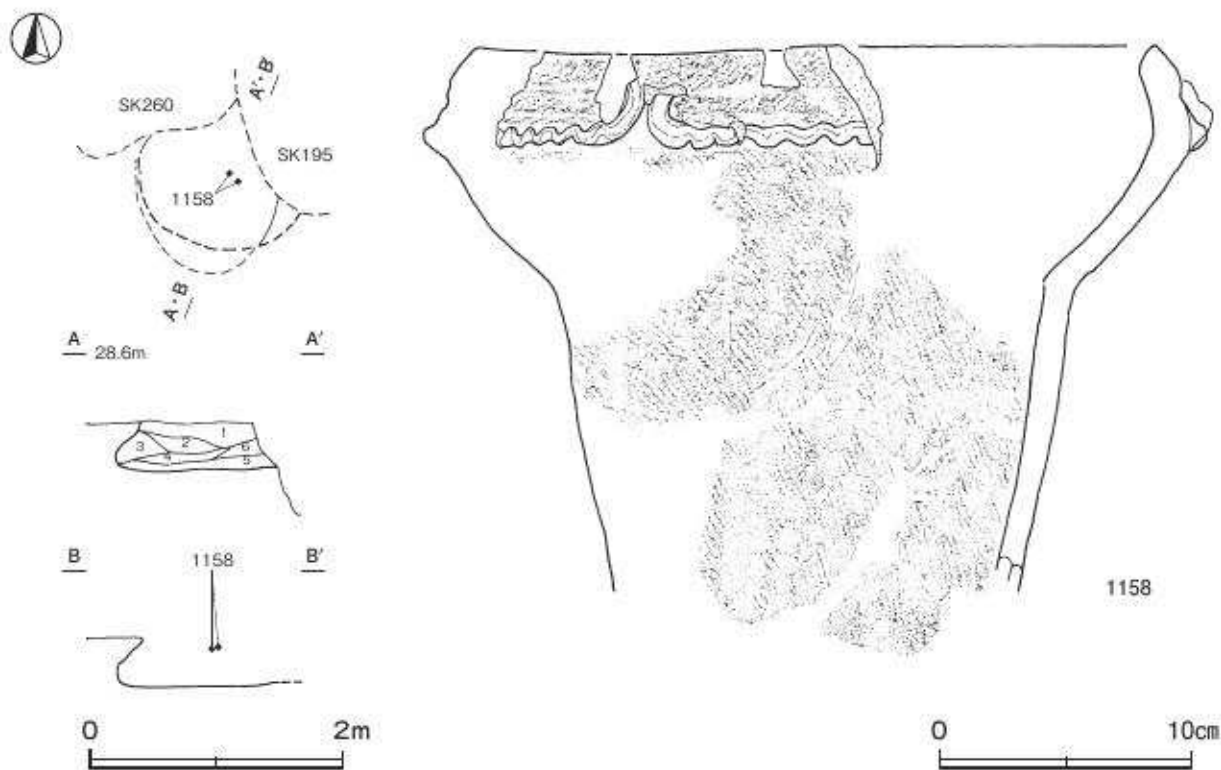
覆土 6層に分層できる。ロームブロック、炭化粒子、焼土粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化物微量 |

遺物出土状況 縄文土器片4点（深鉢）が出土している。1158は、覆土上層からまとまって出土したものが接合している。第2～6層まで埋め戻した段階で、一括投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、袋状を呈する貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第417図 第409号土坑・出土遺物実測図

第409号土坑出土遺物観察表（第417図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1158	縄文土器	深鉢	[27.0]	[21.6]	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	黒褐色	普通	総行隆帯が一端、一部X字状に区画。口縁部単部縄文L.B（横） 胴部は同一器体を開けて縦縄文	覆土上層	10% PL141

第414号土坑（第418図）

位置 調査区中央部のC 3f5区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第371号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 径1.06mの円形で、底面は平坦である。深さは46cmで、壁は外傾している。

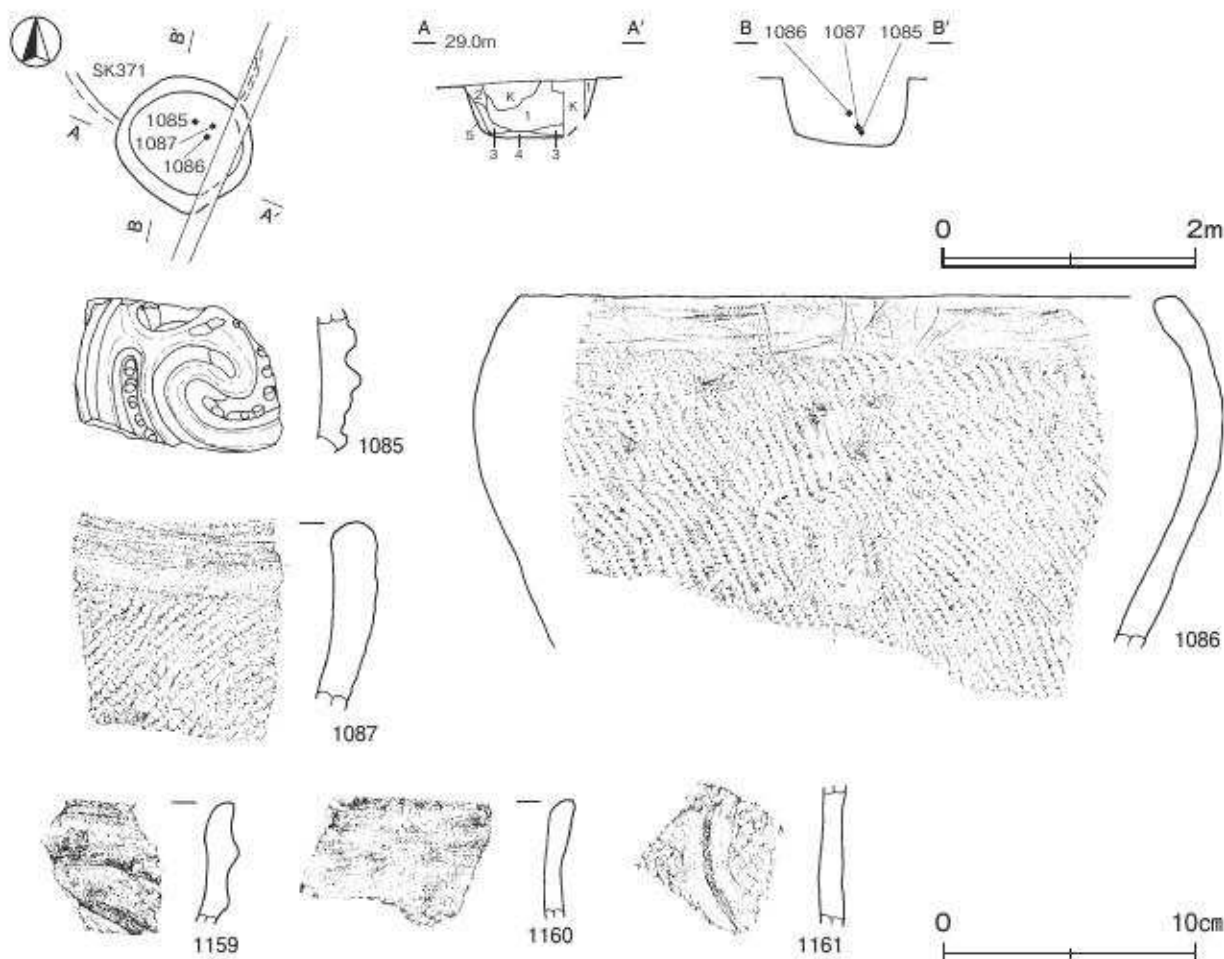
覆土 5層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|----------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子微量 | 5 にぶい黄褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片59点（深鉢）、剥片2点（チャート）が出土している。1085～1087は、覆土中層からまとまって出土しており、埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。



第418図 第414号土坑・出土遺物実測図

第414号土坑出土遺物観察表（第418図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1085	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	良好	器帯により文様描画 隆帯に沿って太沈線 区内の一部に刺突列	覆土中層	
1086	縄文土器	深鉢	[26.0]	(14.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	口縁部内側 口縁部横方向の磨き 継文に0段多条縄文RL(縦)	覆土中層	15%
1087	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい橙	良好	口縁部肥厚 口縁部無文 直下に浅い太沈線が1筋 地文に単筋縄文RL(縦)	覆土中層	
1159	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	隆帯による文様描画 隆帯間磨き	覆土中	
1160	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	口縁部外反 外・内面横方向の磨き	覆土中	
1161	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	地文に無筋縄文RL(縦) 隆帯に沿ってナデ	覆土中	

第415号土坑（第419図 PL68）

位置 調査区中央部のC37区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 径2.24～2.29mの円形で、底面は平坦である。深さは60cmである。壁は外傾している。

ピット 3か所。P1は径30cmの円形で、深さは60cmである。中央部に位置していることから、柱穴と考えられる。P2・P3は、径30cmほどの円形で、深さ15cm・20cmである。性格は不明である。

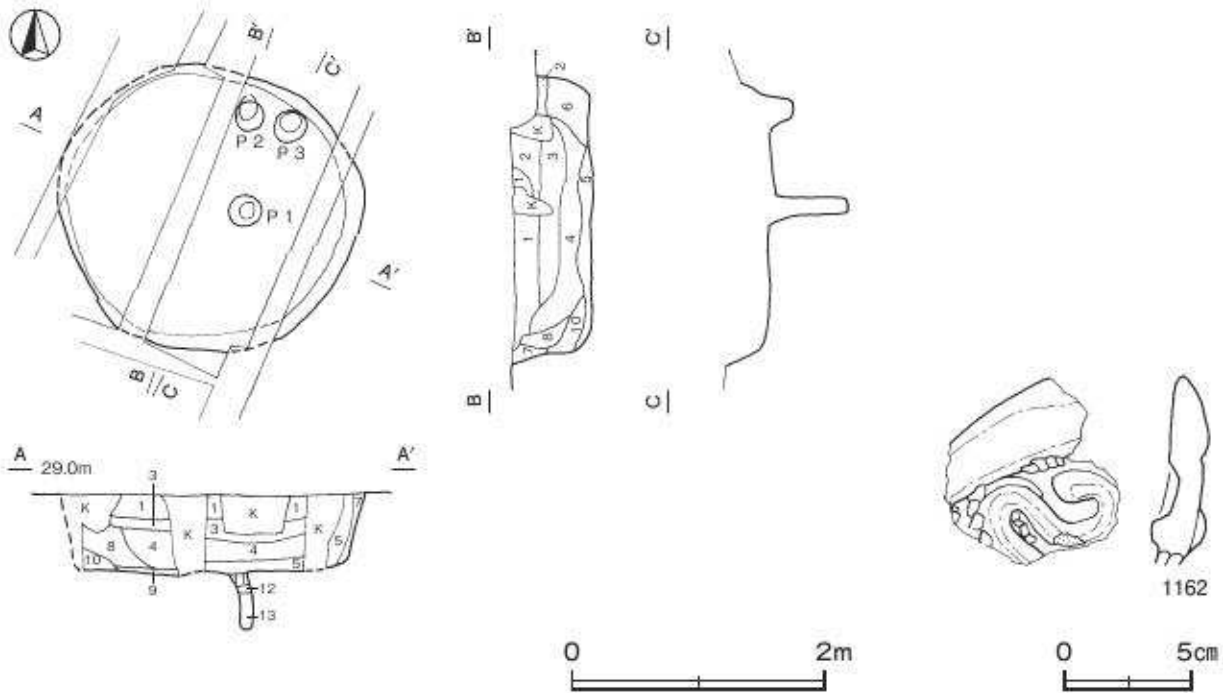
覆土 10層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が含まれていることから、埋め戻されている。第11～13層は、P1の覆土である。

土層解説

- | | | | |
|--------|------------------|---------|-----------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子中量 | 8 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量 | 9 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 10 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック中量 | 11 極暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子微量 | 12 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 6 黒褐色 | ローム粒子中量 | 13 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片191点（深鉢190、浅鉢1）、剥片2点（瑪瑙、石英）、石核2点（瑪瑙）が出土している。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第419図 第415号土坑・出土遺物実測図

第415号土坑出土遺物観察表（第419図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1162	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	灰黄褐	良好	把手周縁部縄文・横帯による横S字状文・把手内側に凹み	覆土中	

第 424 号土坑 (第 420 図 PL68)

位置 調査区南東部の D 4 e3 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 428 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 径 1.40 ~ 1.50 m の円形である。底面は平坦で、深さは 65cm である。壁はほぼ直立している。

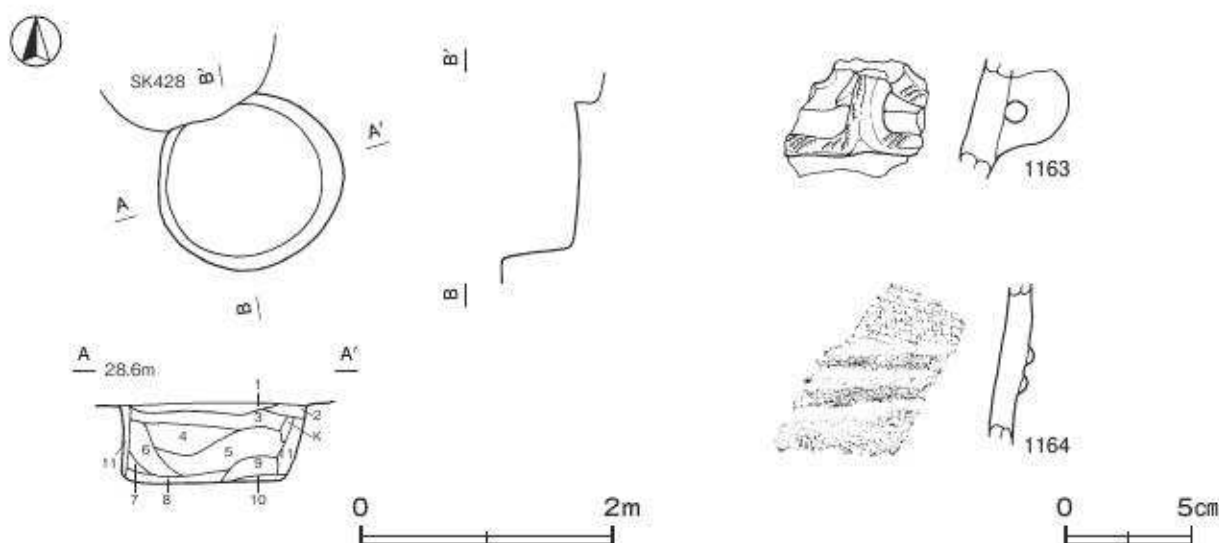
覆土 11 層に分層できる。ロームブロック、炭化粒子、焼土粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	7 暗褐色	ロームブロック少量
2 暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量	8 暗褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子多量, 炭化粒子微量	9 暗褐色	ロームブロック・炭化物中量
4 暗褐色	ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量	10 褐色	ローム粒子多量
5 暗褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量	11 褐色	ロームブロック多量
6 暗褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子少量		

遺物出土状況 縄文土器片 21 点 (深鉢) が出土している。1163・1164 は、覆土中から出土している。埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第 420 図 第 424 号土坑・出土遺物実測図

第 424 号土坑出土遺物観察表 (第 420 図)

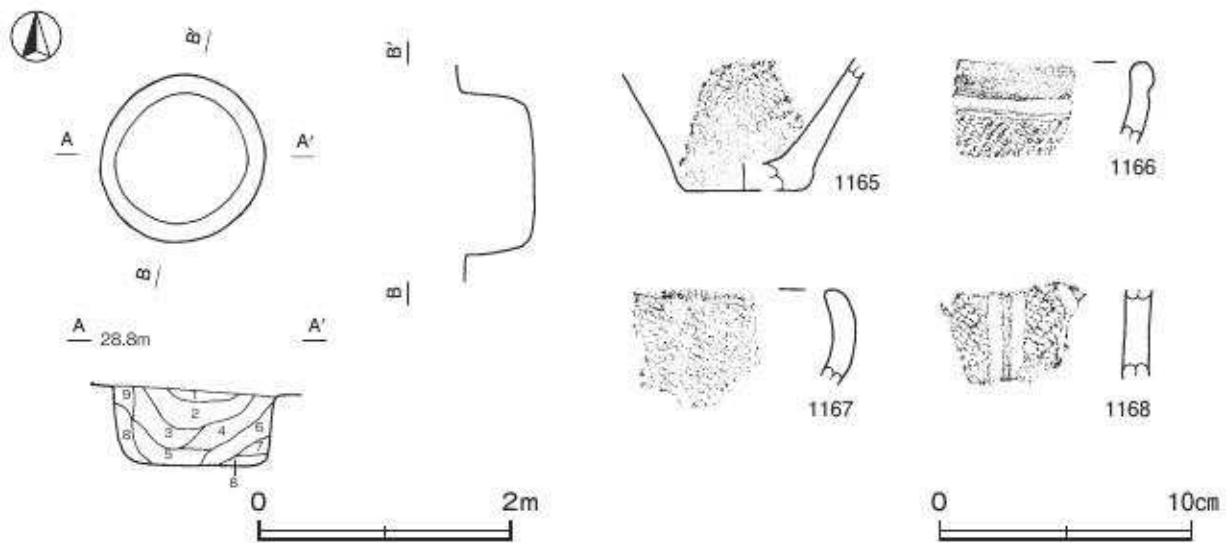
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1163	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・磁鉄	にぶい赤褐色	普通	把手側面に無節縄文 L (横)	覆土中	
1164	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰褐色	普通	地文に 0 段多条縄文 RL (斜) 2 条の蒲鉾状隆帯が巡る	覆土中	

第 425 号土坑 (第 421 図 PL68)

位置 調査区南東部の D 4 d3 区の区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 径 1.26 ~ 1.38 m の円形である。底面は平坦で、深さは 58cm である。壁はほぼ直立している。

覆土 9 層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれており、焼土粒子や炭化粒子が混入していることから、埋め戻されている。



第 421 図 第 425 号土坑・出土遺物実測図

土層解説

- | | |
|------------------------------|-------------------------|
| 1 黒褐色 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土粒子少量 | 6 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子中量, 焼土粒子少量 | 7 暗褐色 ロームブロック多量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 | 8 褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子微量 |
| 4 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 9 褐色 ロームブロック多量 |
| 5 暗褐色 ローム粒子多量 | |

遺物出土状況 縄文土器片 64 点（深鉢）が出土している。1165～1168 は、覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

第 425 号土坑出土遺物観察表（第 421 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1165	縄文土器	深鉢	-	(52)	[4.4]	長石・石英・雲母・細砂	赤褐色	普通	地文に早筈縄文 RL (縦) 下部斜方向のナデ底面細代痕	覆土中	
1166	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	普通	口縁部太沈線が一巡 0 段多条縄文 RL (縦)	覆土中	
1167	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	地文に早筈縄文 RL (横)	覆土中	
1168	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・細砂	灰褐色	普通	地文に早筈縄文 RL (縦) 2 本の太沈線が垂下	覆土中	

第 426 号土坑（第 422 図 PL69）

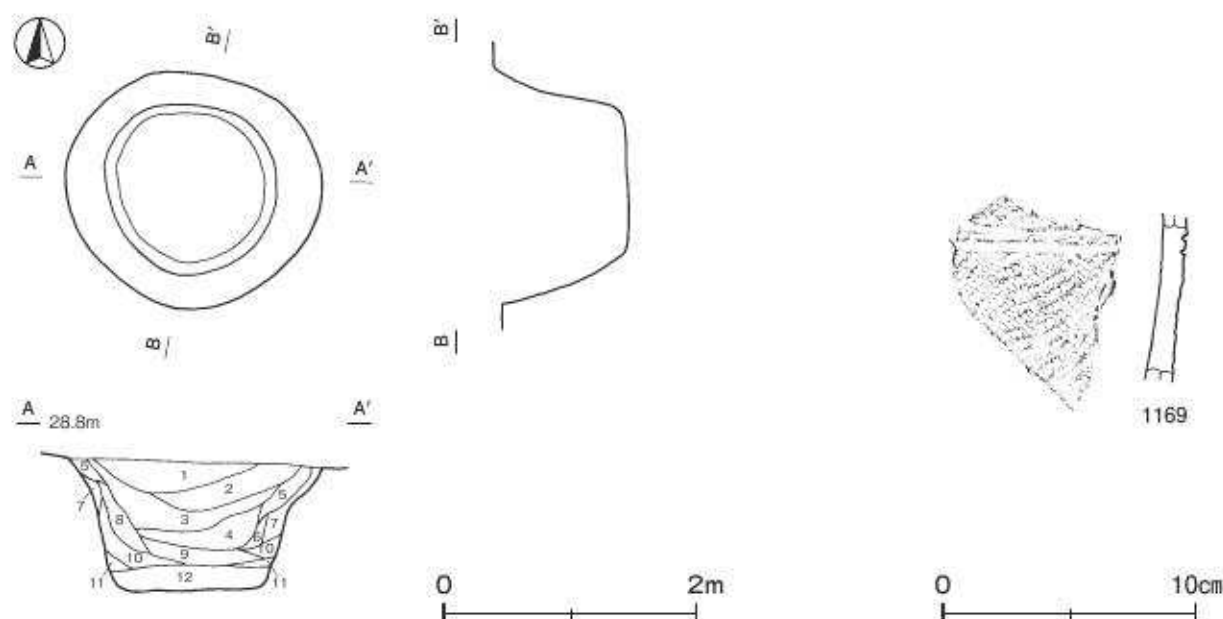
位置 調査区南東部の D 4 d2 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 径 1.86～2.02 m の円形で、底面は平坦である。深さは 98cm で、壁は底面から外傾して、中位から緩やかに傾斜している。

覆土 12 層に分層できる。ロームブロック、炭化粒子、焼土粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|------------------------------|-------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 7 褐色 ロームブロック多量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土ブロック・炭化物微量 | 8 暗褐色 ローム粒子多量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 9 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子微量 | 11 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 6 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子微量 | 12 暗褐色 ローム粒子中量 |



第 422 図 第 426 号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片 26 点（深鉢）が出土している。1169 は、覆土中から出土している。埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期と考えられるが、詳細は不明である。

第 426 号土坑出土遺物観察表（第 422 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1169	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	基文に単節縄文 RL（縦）平截竹管による横位の流線が走る	覆土中	

第 428 号土坑（第 423 図）

位置 調査区南東部の D 4 e3 区、標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 424 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 径 1.56 ~ 1.58 m の円形で、底面は平坦である。深さは 78cm で、壁は直立している。

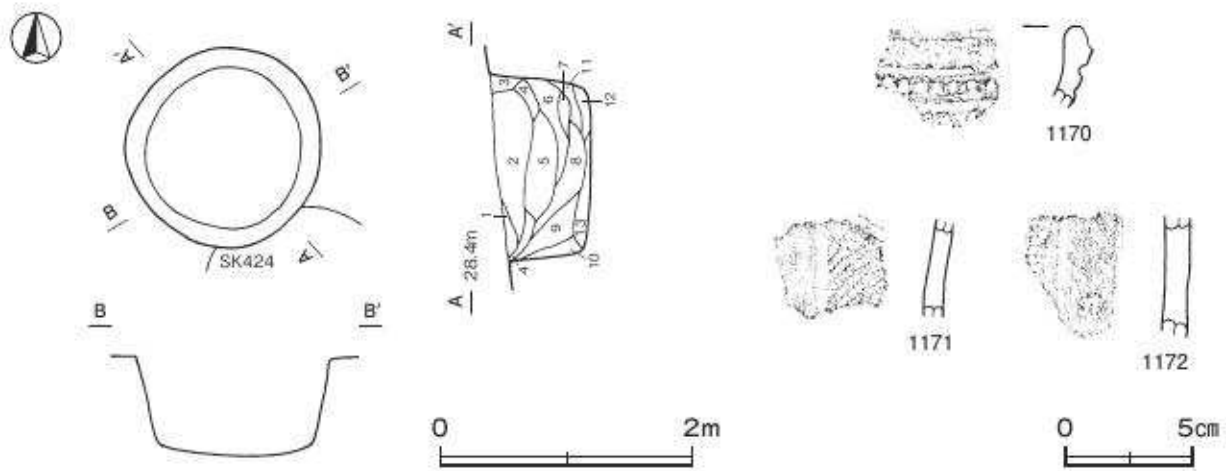
覆土 13 層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量	8 暗褐色	ロームブロック中量
2 黒褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量	9 暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
3 褐色	ローム粒子多量	10 褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
4 暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量	11 褐色	ロームブロック多量
5 黒褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量	12 黒褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量
6 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	13 暗褐色	ローム粒子多量
7 暗褐色	ロームブロック少量		

遺物出土状況 縄文土器片 61 点（深鉢）、石核 1 点（瑪瑙）が出土している。1170 ~ 1172 は、覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第 423 図 第 428 号土坑・出土遺物実測図

第 428 号土坑出土遺物観察表 (第 423 図)

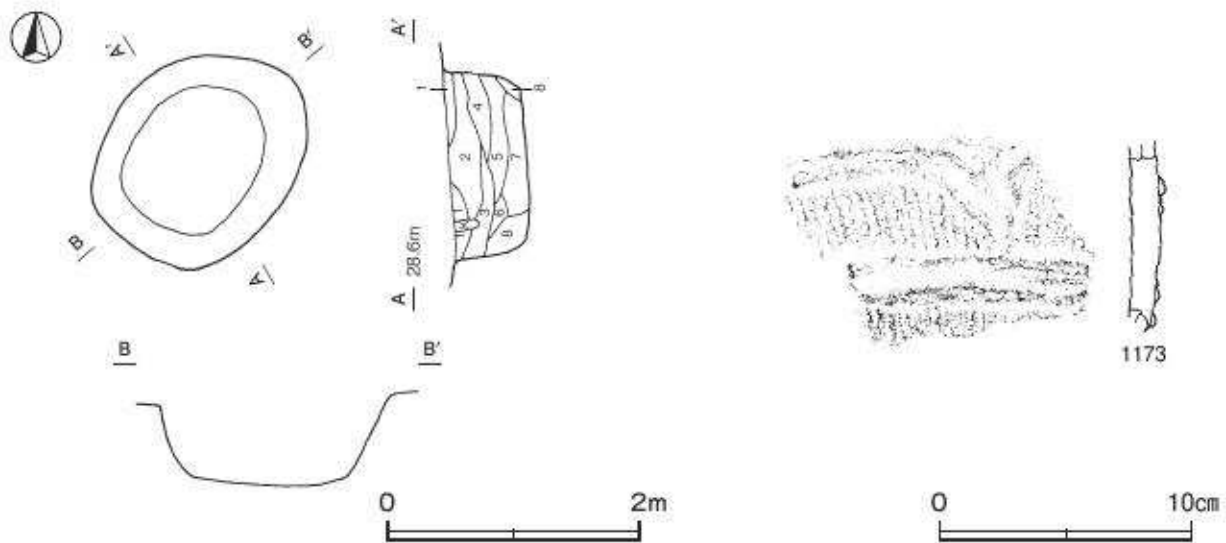
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1170	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色 粘土・細砂	浅黄橙	普通	並行沈線が一部、沈線間に円形刺突がある。地 文に縦位の熱糸文	覆土中	口唇部剥落
1171	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・ 細砂	橙	普通	地文に早稲縄文 RL (縦) 沈線を垂下、沈線間 磨消	覆土中	
1172	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	地文に早稲縄文 RL (横) 2本の沈線を垂下 沈線間磨消	覆土中	

第 432 号土坑 (第 424 図)

位置 調査区南東部の D 4 e1 区、標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 1.82 m、短径 1.53 m の楕円形で、長径方向は N - 48° - E である。底面は平坦で、深さは 70cm である。壁は外傾している。

覆土 8 層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が多く含まれていることから、埋め戻されている。



第 424 図 第 432 号土坑・出土遺物実測図

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------|-------|-----------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子多量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 褐色 | ローム粒子多量 |
| 3 褐色 | ロームブロック中量 | 7 暗褐色 | ローム粒子多量, 炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 8 褐色 | ロームブロック多量 |

遺物出土状況 縄文土器片4点(深鉢)が出土している。1173は覆土中から出土している。埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

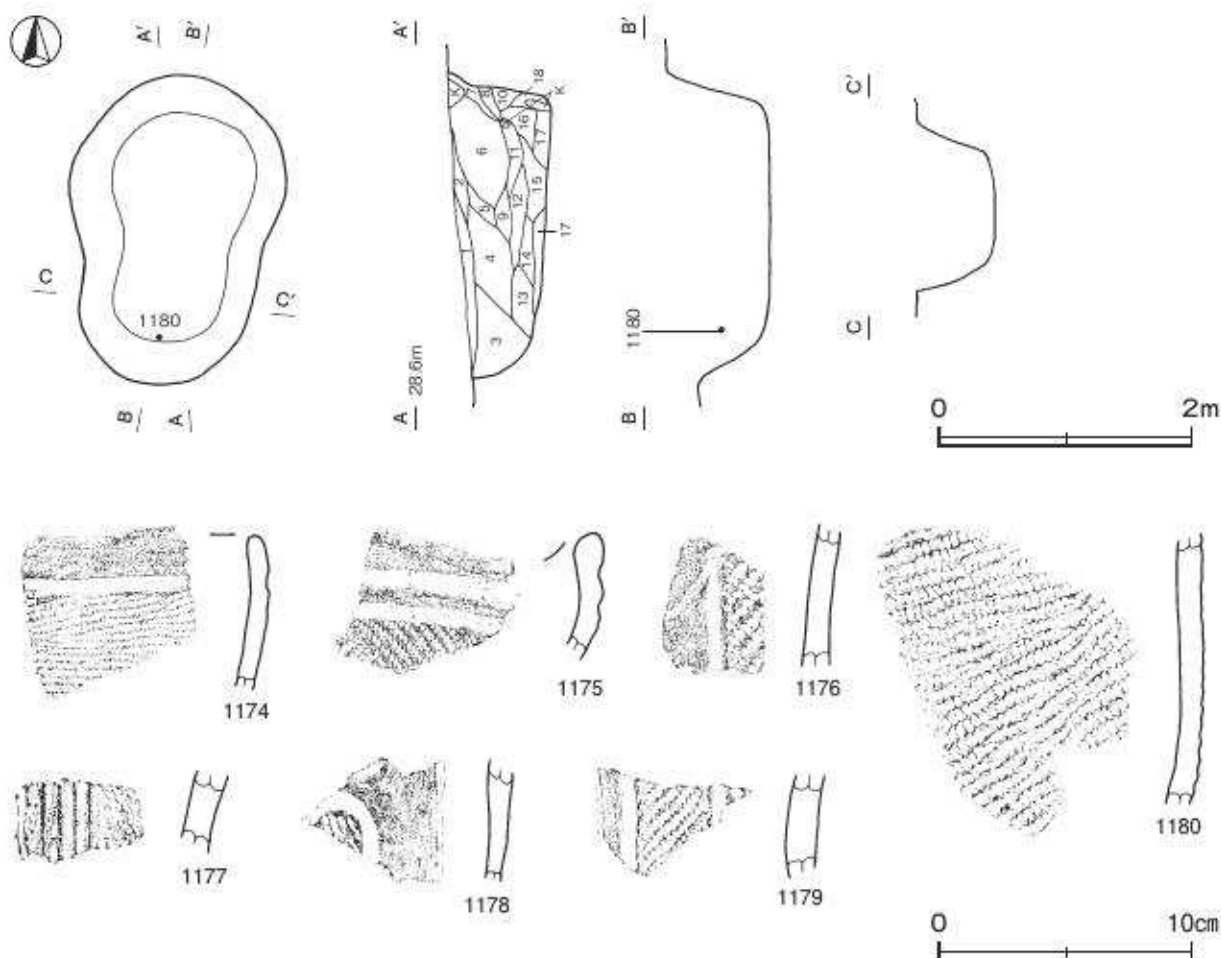
第432号土坑出土遺物観察表(第424図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1173	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・磁鉄	黒褐色	普通	0段多条縄文RL(斜)を施文し、2条の隆帯により区画。区画内2条の隆帯による風線文	覆土中	

第434号土坑(第425図 PL69)

位置 調査区南東部のD4e1区。標高28mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径2.44m、短径1.70mの不整楕円形で、長径方向はN-5°-Eである。底面は平坦で、深さは78cmである。壁は外傾している。



第425図 第434号土坑・出土遺物実測図

覆土 18層に分層できる。各層にロームブロックが混入しており、不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	10	褐色	ローム粒子多量、炭化粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子少量	11	褐色	ローム粒子多量
3	暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	12	褐色	ロームブロック多量
4	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	13	暗褐色	ローム粒子中量
5	暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量	14	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量
6	黒褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量	15	暗褐色	ローム粒子多量
7	暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量	16	暗褐色	ロームブロック中量
8	黒暗褐色	ローム粒子中量	17	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
9	暗褐色	ローム粒子多量、炭化粒子微量	18	褐色	ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片 119 点（深鉢）が出土している。1180 は覆土中層、1174 ～ 1179 は覆土中からそれぞれ出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

第 434 号土坑出土遺物観察表（第 425 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1174	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	地文に一段多条縄文 RL (斜) 浅い太沈線が走る口縁部無文	覆土中	
1175	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	褐	普通	地文に二段多条縄文 RL (横) 口唇部縁く外反浅い太沈線による区画文	覆土中	
1176	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	地文に単節縄文 RL (縦) 2本の太沈線を垂下沈線間磨治	覆土中	
1177	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	地文に単節縄文 RL (縦) 3本の太沈線を垂下沈線間磨治	覆土中	
1178	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	地文に無節縄文 L (縦) 太沈線により文様区画	覆土中	
1179	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石	にぶい黄褐	普通	地文に二段多条縄文 RL (縦) 2本の太沈線を垂下 沈線間磨治	覆土中	
1180	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	地文に単節縄文 LR (横) 内面横方向のナデ	覆土中層	

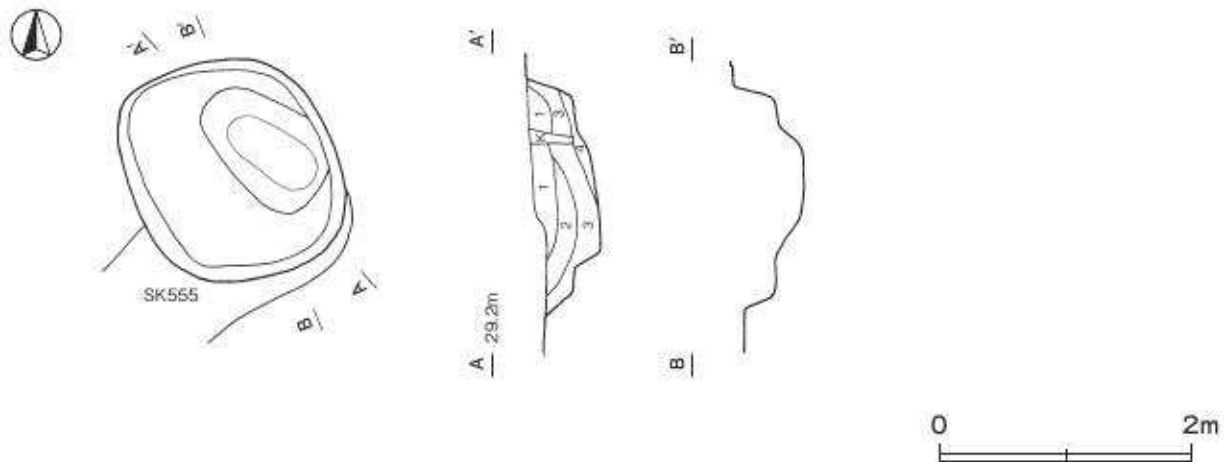
第 440 号土坑（第 426・427 図）

位置 調査区東部の C 4 i2 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

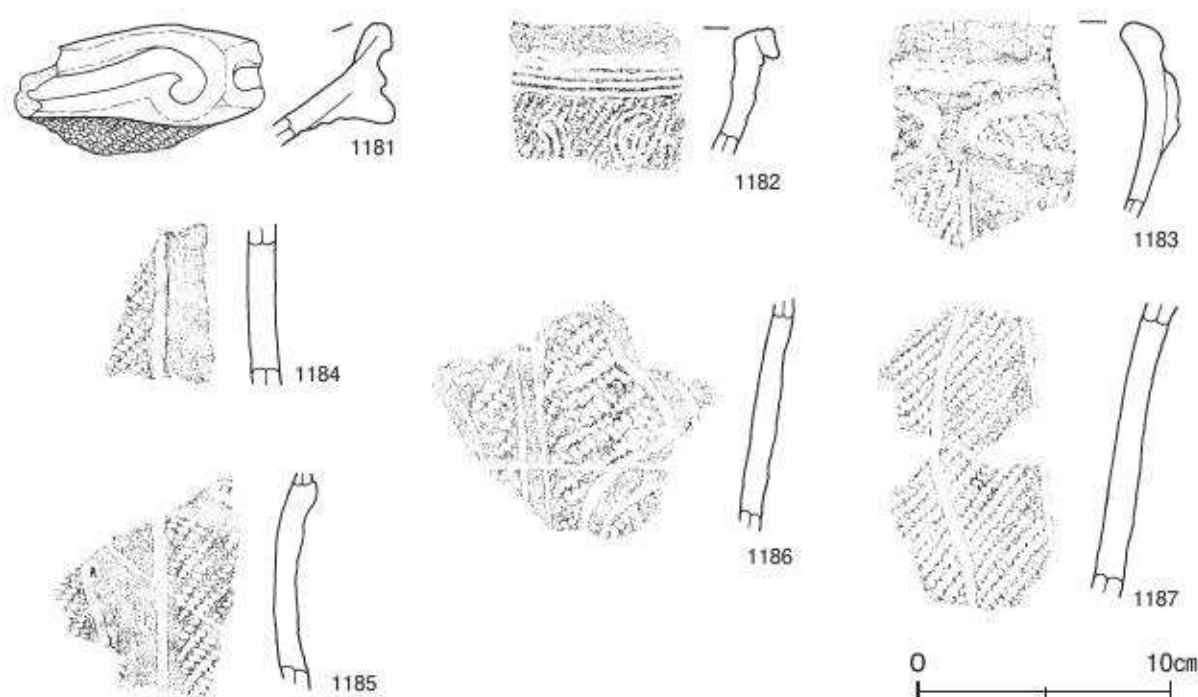
重複関係 第 555 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 一辺 1.65 ～ 1.70 m の隅丸方形で、主軸方向は N - 22° - W である。底面は平坦で、北東部に浅い掘り込みを有している。深さは 50cm で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 4層に分層できる。黒褐色土が周囲から流入している堆積状況から、自然堆積である。



第 426 図 第 440 号土坑実測図



第 427 図 第 440 号土坑出土遺物実測図

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
2 黒褐色 ローム粒子微量
3 黒褐色 ロームブロック微量
4 褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片 104 点 (深鉢 103, 浅鉢 1), 石核 1 点 (瑪瑙), 剥片 1 点 (石英), 軽石 1 点, 礫 1 点 (瑪瑙) が出土している。1181 ~ 1187 は, 覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から, 補助的な貯蔵施設をもつ貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期後葉と考えられる。

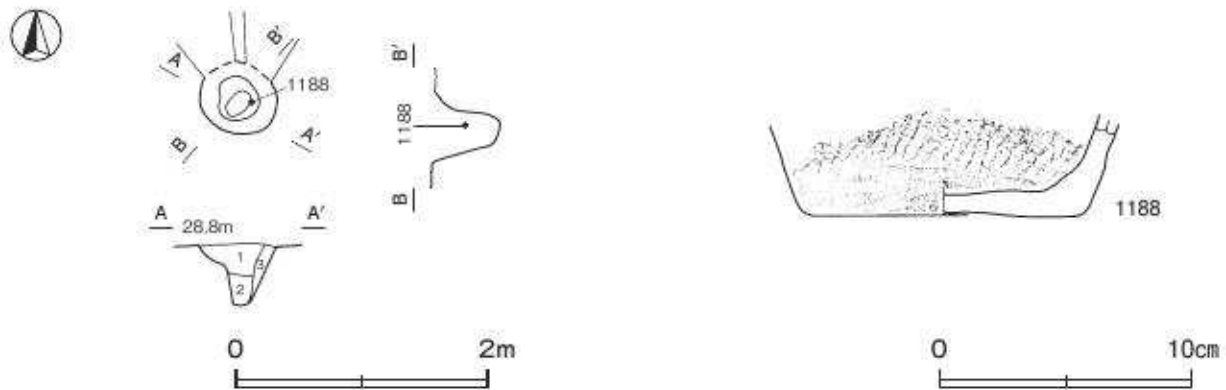
第 440 号土坑出土遺物観察表 (第 427 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1181	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい粉	普通	口唇部直立。太沈線による渦巻文。胴部は単節縄文 LR (横)	覆土中	
1182	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい粉	普通	口唇部平坦。地文に単節縄文 LR (横) 口縁直下半截竹管による 3 本の沈線を確認、縦位の渦巻文を描画	覆土中	
1183	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい粉	普通	口唇部太沈線が一端。陰帯と沈線による稀門区画区内単節縄文 RL (横) 胴部は縦軸文。間隔を明け沈線を垂下。沈線間磨消	覆土中	
1184	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤粉	普通	地文に単節縄文 RL (縦) 太沈線を垂下。沈線間磨消	覆土中	
1185	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	粉	普通	低い陰帯が一端。2本の沈線が垂下。沈線間磨消。地文に単節縄文 RL (縦)	覆土中	
1186	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰濁	普通	地文に単節縄文 RL (縦) 2本の沈線による平行線・蛇行線が垂下。沈線間磨消	覆土中	
1187	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい粉	普通	地文に単節縄文 RL (縦) 沈線による直線文・蛇行線文が垂下	覆土中	

第 442 号土坑 (第 428 図)

位置 調査区中央部の C 3 f3 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 径 0.60 m ほどの円形である。底面は皿状を呈し, 深さは 55cm である。壁は外傾している。



第428図 第442号土坑・出土遺物実測図

覆土 3層に分層できる。第1・2層は柱抜き取り後の埋土と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片6点(深鉢)が出土している。1188は覆土中層から出土している。埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、柱穴と考えられる。時期は、出土土器から中期と考えられるが、詳細は不明である。

第442号土坑出土遺物観察表(第428図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1188	縄文土器	深鉢	-	(40)	[106]	長石・石英・雲母	橙	普通	地文に0段多糸縄文RL(縦)下部部横方向のナデ 底面丁草なナデ	覆土中層	

第443号土坑(第429図 PL70)

位置 調査区東部のD4b3区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 開口部は径1.56~1.61mの円形である。底面は径1.45mほどの円形で、平坦である。確認面からの深さは87cmである。壁は緩やかに内彎し、弱い袋状を呈する。

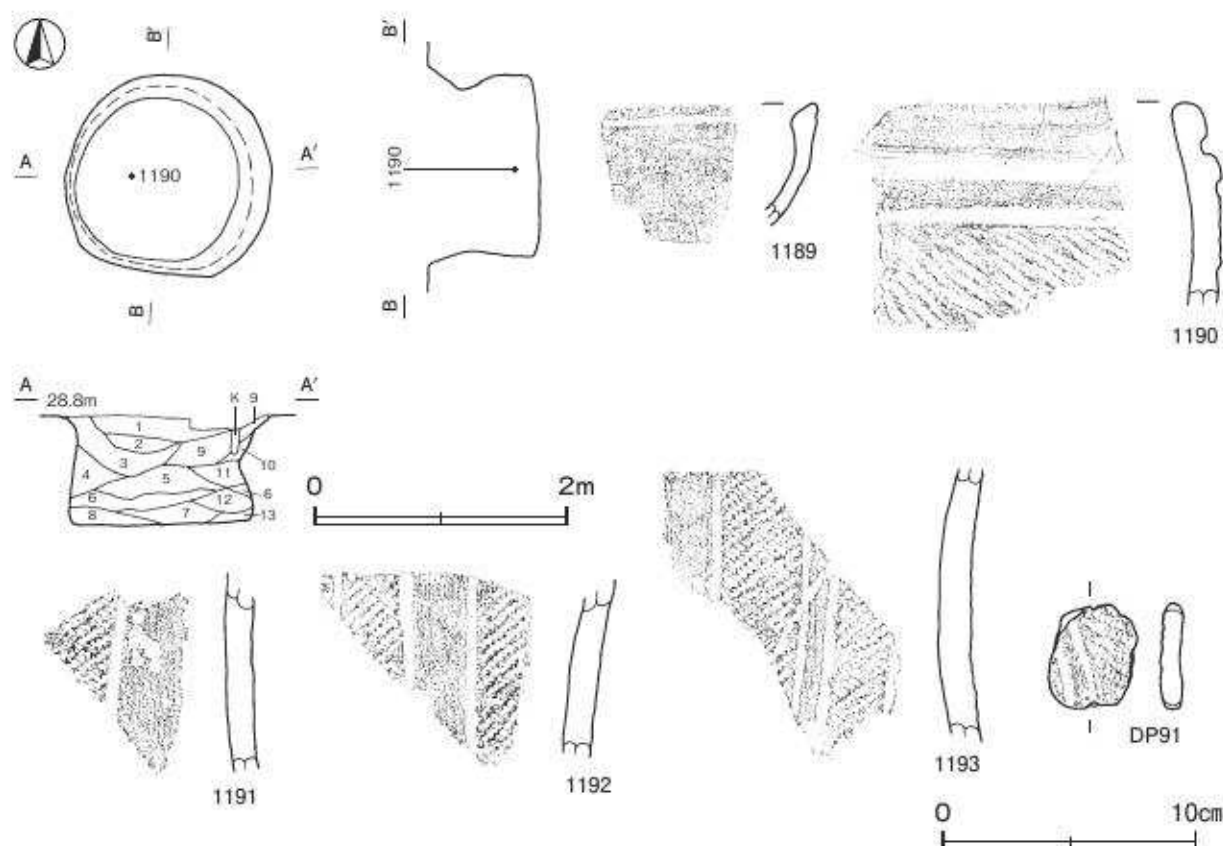
覆土 13層に分層できる。不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|--------|------------------|--------|----------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック微量 | 8 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子微量 | 9 極暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 3 極暗褐色 | ロームブロック微量 | 10 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 11 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 12 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 6 極暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 13 褐色 | ロームブロック微量 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片43点(深鉢),土製品1点(土器片錘),剥片1点(瑪瑙)が出土している。1190は、覆土下層から出土している。1189・1191~1193, DP91は、覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、袋状を呈する貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。



第 429 図 第 443 号土坑・出土遺物実測図

第 443 号土坑出土遺物観察表 (第 429 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1189	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部1本の沈線を高らし区画。外・内面横方向の磨き	覆土中	
1190	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	口縁部無文。低い笠帯と太沈線により文様区画。地文に単節縄文 RL (縦)	覆土下層	
1191	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	地文に単節縄文 RL (縦) 2本の沈線を垂下沈線間磨消	覆土中	
1192	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	地文に単節縄文 RL (縦) 2本の沈線を垂下沈線間磨消	覆土中	
1193	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	地文に単節縄文 RL (縦) 2本の沈線を垂下沈線間磨消	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP91	土器片鉢	4.2	3.5	0.9	16.5	長石・石英	灰褐色	胴部片 胴縁部粗雑に研磨 両端にキザミ目	覆土中	

第 444 号土坑 (第 430 図)

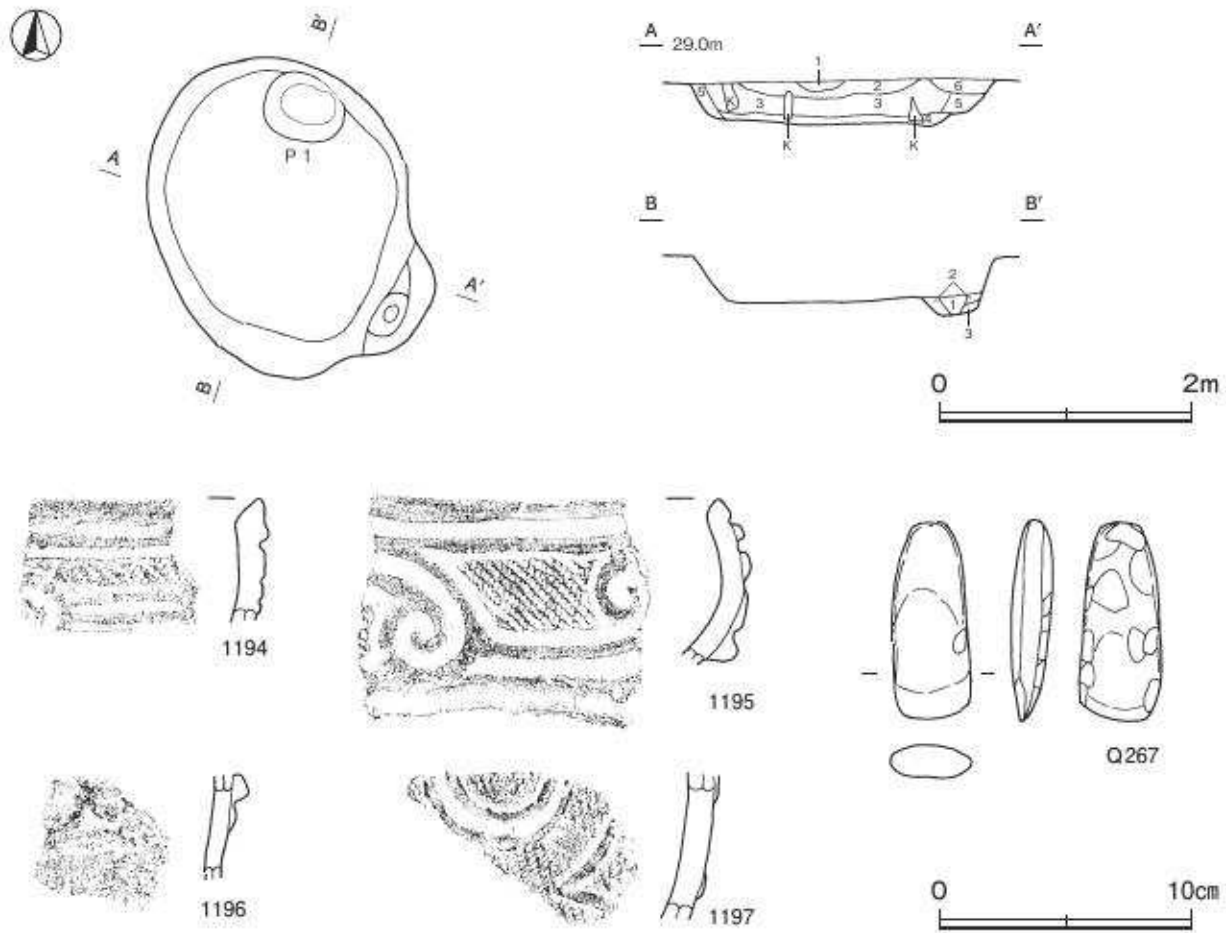
位置 調査区中央部の C 3 j8 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 2.60 m、短径 2.18 m の不整楕円形で、長径方向は N - 48° - W である。底面は平坦で、深さは 38cm である。壁は緩やかに傾斜している。

ピット 北壁際に位置し、長径 60cm、短径 50cm の楕円形で、深さは 14cm である。第 1・2 層から小礫がまとまって出土している。特殊な貯蔵形態を示している可能性があるが、詳細は不明である。

ピット土層解説

- 1 黒褐色 小礫 (径 0.5 ~ 3cm) 多量、ロームブロック少量 3 暗褐色 ロームブロック中量
 2 黒褐色 小礫 (径 0.5 ~ 3cm) 多量、ロームブロック中量



第430図 第444号土坑・出土遺物実測図

覆土 6層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|-------|--------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片72点(深鉢)、石器1点(磨製石斧)、石核1点(瑪瑙)が出土している。1194～1197、Q267は覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

第444号土坑出土遺物観察表(第430図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考	
1194	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口唇部低い隆帯が一部、隆帯に沿って浅線。地文に単節縄文RL(横)低い隆帯と沈線による凹文・柳門区歯文	覆土中		
1195	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	口縁上部に太沈線が一部、隆帯と沈線による区歯文・渦巻文。区内単節縄文RL(横)頸部無文帯	覆土中		
1196	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	隆帯による柄み状の貼付	覆土中		
1197	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	地文に単節縄文RL(横)隆帯による二重凹文・斜先文	覆土中		
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考	
Q267	磨製石斧	7.9	3.2	1.6	66.4	緑色岩	小型	全面研磨	両側縁に稜	刃部は表裏から研ぎ出す	覆土中	PL169

第451号土坑（第431図 PL71）

位置 調査区南東部のD4c3区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第1号陥し穴を掘り込んでいる。

規模と形状 開口部は長径1.72m、短径1.20mの不整楕円形で、長径方向はN-0°である。底面は長径1.58m、短径1.27mの楕円形で、平坦である。確認面からの深さは100cmである。壁は底面から緩やかに内彎して、袋状を呈している。

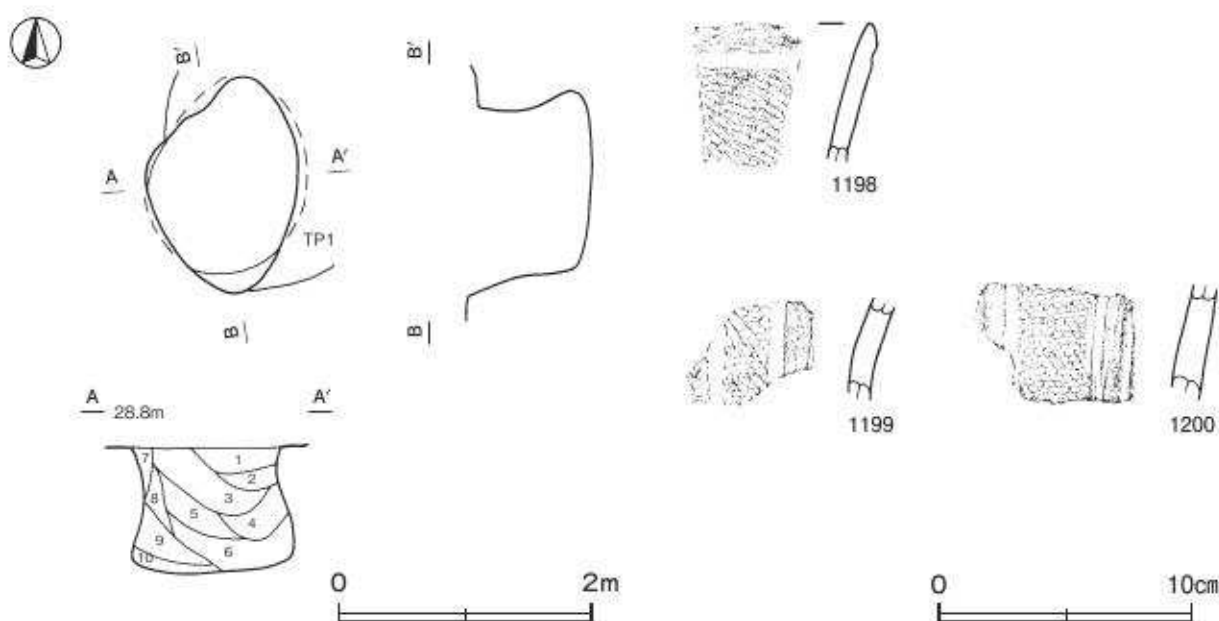
覆土 10層に分層できる。各層にローム粒子や炭化粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子中量、炭化物微量	6	褐色	ロームブロック中量、炭化物微量
2	暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量	7	暗褐色	ローム粒子中量
3	暗褐色	ローム粒子多量、炭化物微量	8	暗褐色	ローム粒子多量
4	暗褐色	ロームブロック中量、炭化物微量	9	黒褐色	ローム粒子少量
5	黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	10	暗褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片195点（深鉢194、浅鉢1）、石器1点（打製石斧）が出土している。1198～1200は、覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。



第431図 第451号土坑・出土遺物実測図

第451号土坑出土遺物観察表（第431図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1198	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色 粒子	黒褐色	普通	口径頂部に浅い刻窓（口縁部無文）浅い沈線が 一部 地文に0段多条縄文LR（斜）	覆土中	
1199	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	地文に単節縄文LR（縦）太沈線が垂下 沈線 間筋消	覆土中	
1200	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	地文に1段多条縄文LR（縦）太沈線が垂下 沈線間筋消	覆土中	

第455号土坑（第432図）

位置 調査区東部のC4j2区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第477・521号土坑を掘り込み、第457号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.68m、短径1.32mの楕円形で、長径方向はN-31°-Eである。底面は平坦で、深さは11cmである。壁は緩やかに傾斜している。

ピット 東壁際に位置し、径20cmの円形で、深さは10cmである。形状から柱穴と考えられる。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

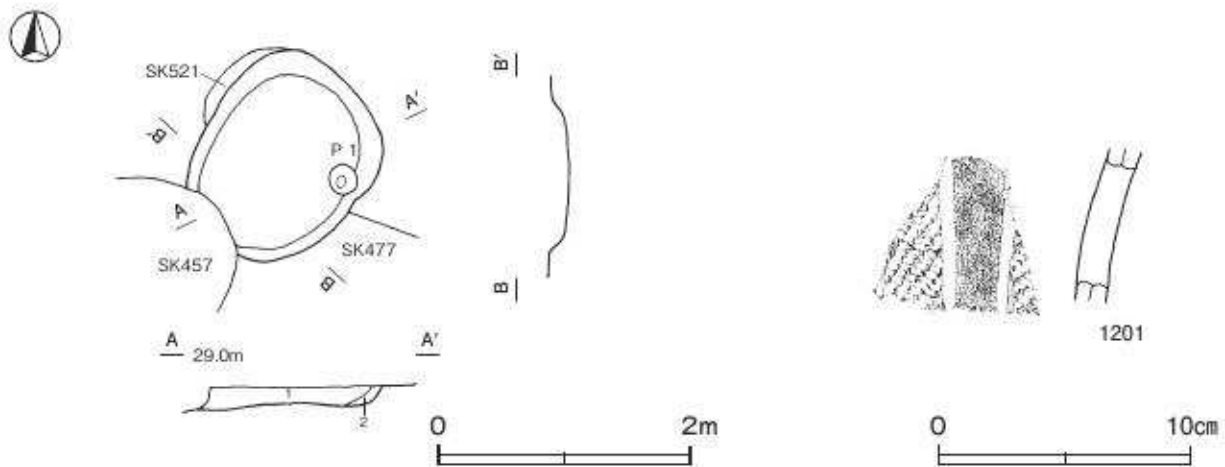
土層解説

1 暗褐色 ローム粒子少量

2 暗褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片9点（深鉢6、浅鉢3）が出土している。1201は、覆土中から出土していることから、埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、柱穴と考えられるピットを有する貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。



第432図 第455号土坑・出土遺物実測図

第455号土坑出土遺物観察表（第432図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	粘土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1201	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒母・赤色粒子	にぶい褐色	普通	地文に草筋縄文RL（縦）2本の沈線が垂下沈線即磨消	覆土中	

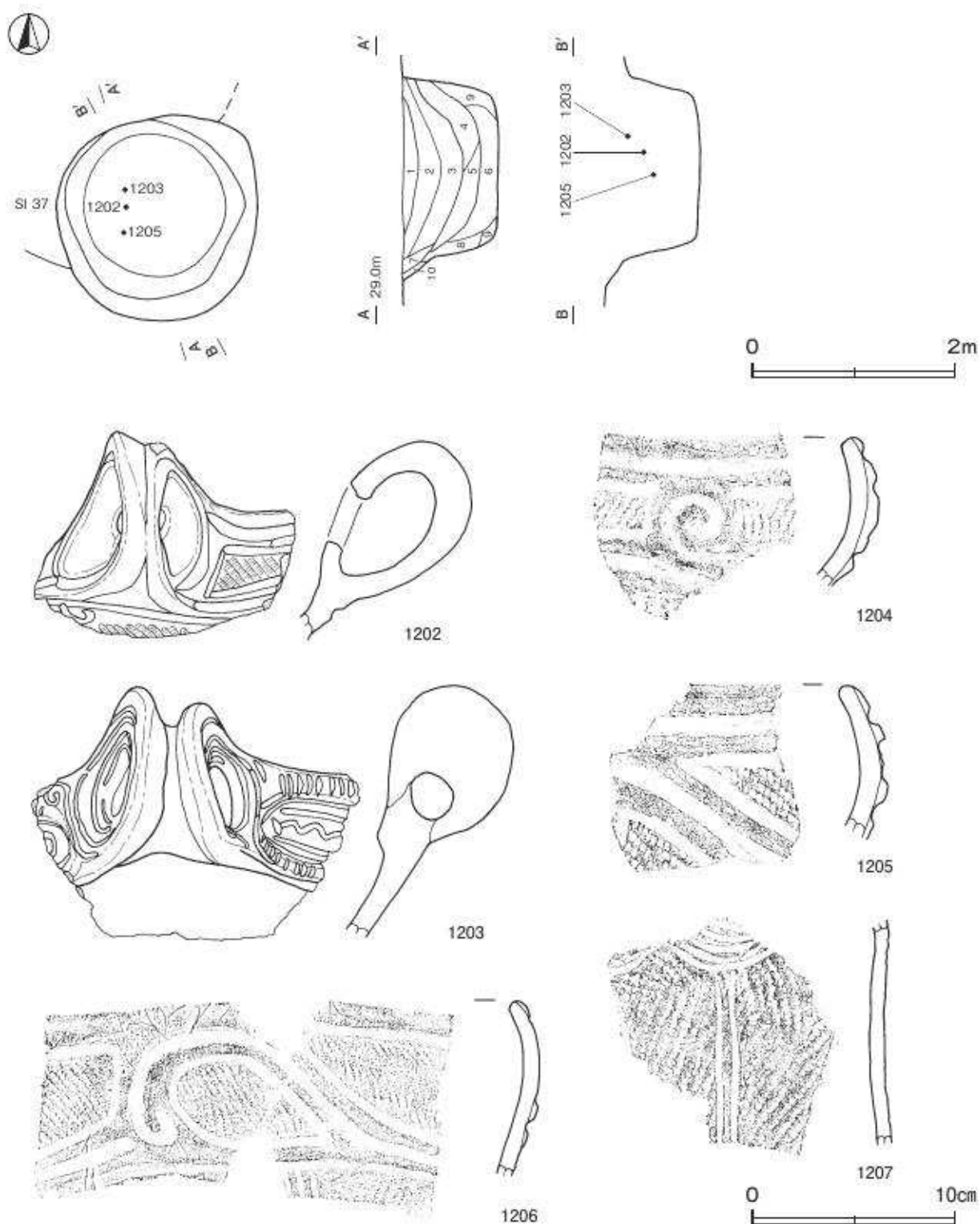
第456号土坑（第433図 PL71）

位置 調査区中央部のC3j0区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第37号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 径2.03～2.22mの円形で、底面は平坦である。深さは93cmで、壁は外傾している。

覆土 10層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が多く、炭化物や焼土粒子が含まれていることから、埋め戻されている。



第 433 図 第 456 号土坑・出土遺物実測図

土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------------|--------|----------------------|
| 1 暗 褐色 | ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量 | 6 暗 褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗 褐色 | ロームブロック多量, 焼土粒子ブロック・炭化粒子微量 | 7 暗 褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 暗 褐色 | ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 暗 褐色 | ロームブロック多量 |
| 4 黒 褐色 | ロームブロック中量, 炭化物微量 | 9 暗 褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 5 暗 褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 | 10 褐 色 | ロームブロック多量 |

遺物出土状況 縄文土器片 139 点（深鉢 137、浅鉢 2）が出土している。1202・1205 は覆土中層から、1203 は覆土上層から出土している。1204・1206・1207 は、覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

第 456 号土坑出土遺物観察表（第 433 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1202	縄文土器	深鉢	-	(10.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	把手周縁に 1 本の沈線。沈線による横位の区画。把手下部に沈線。一部に嵌手文。区画内及び地文は無節縄文 L（縦）。	覆土中層	PL141
1203	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい橙	良好	2 本の隆帯による中央の把手。把手周縁多重沈線による渦巻文。把手に沿ってキザミ目のある隆帯。沈線による横位の区画。区画内蛇行沈線。頸部無文帯。	覆土上層	PL141
1204	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁上部に太沈線。隆帯と沈線による渦巻区画。区画内単節縄文 RL（縦）。	覆土中	
1205	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁上部に太沈線。隆帯と太沈線による区画。区画内単節縄文 RL（縦）。	覆土中層	
1206	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	低い隆帯による渦巻区画。隆帯に沿って沈線を付加。区画内単節縄文 RL（縦）（頸部）（縦）。3 本の沈線が垂下。沈線間磨消。	覆土中	PL141
1207	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	地文に単節縄文 RL（斜・縦）。沈線による重環文から 2 本の沈線が垂下。	覆土中	

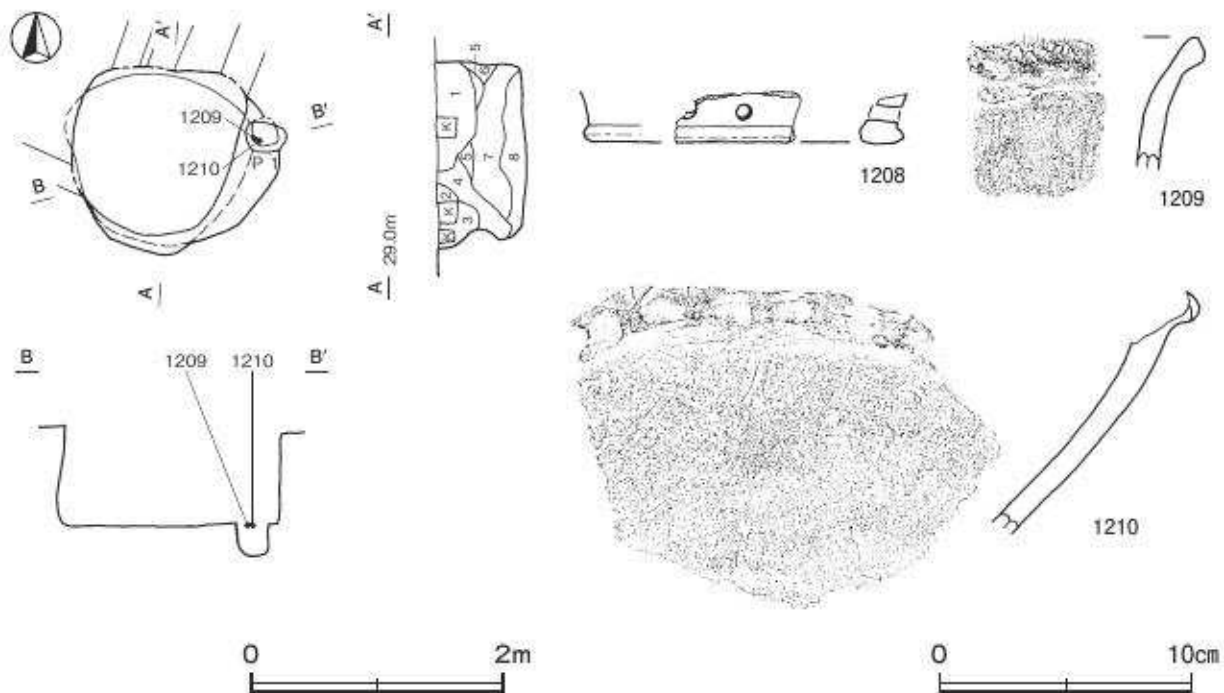
第 464 号土坑（第 434 図 PL72）

位置 調査区西部の C 3e1 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 開口部は長径 1.65 m、短径 1.50 m の楕円形で、長径方向は N - 80° - W である。底面は長径 1.50 m、短径 1.34 m の楕円形で、平坦である。確認面からの深さは 75cm である。壁は緩やかに内彎している。

ピット 東壁際に位置し、径 30cm ほどの円形で、深さは 28cm である。形状から柱穴と考えられる。

覆土 8 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。



第 434 図 第 464 号土坑・出土遺物実測図

土層解説

1	黒褐色	ロームブロック少量	5	黒褐色	ロームブロック中量
2	褐色	ローム粒子中量	6	褐色	ロームブロック少量
3	黒褐色	ローム粒子少量	7	褐色	ロームブロック多量
4	暗褐色	ロームブロック少量	8	褐色	ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片 69 点（深鉢 63, 浅鉢 5, 器台 1）, 剥片 1 点（瑪瑙）が出土している。1209・1210 は、P 1 の覆土上層から出土している。1208 は、覆土中から出土している。埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、柱穴と考えられるピットを有する貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第 464 号土坑出土遺物観察表（第 434 図）

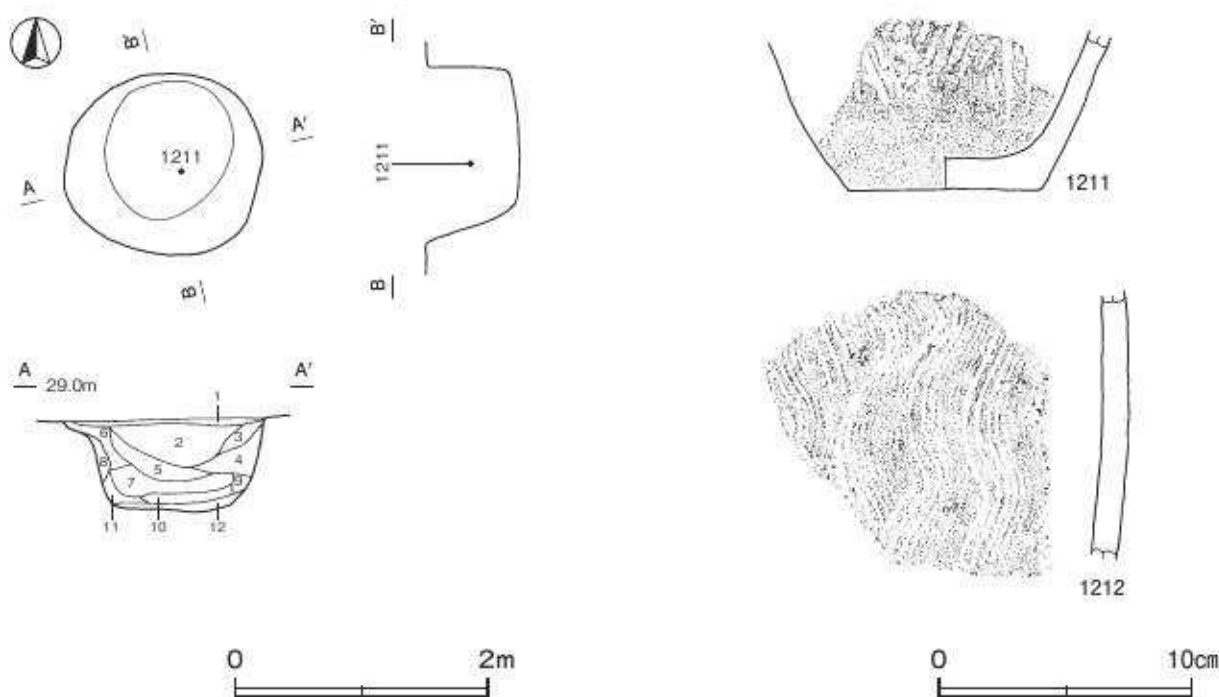
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1208	縄文土器	器台	-	120	[126]	長石・石英・雲母	褐灰	普通	側縁に穿孔。底面は円形で中空	覆土中	
1209	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口唇外反部に草部縄文RL（横） 胴部は縦方向のナデ	P 1 覆土上層	
1210	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口唇外反部に指頭による圧痕 外面斜方向のナデ 内面横方向のナデ	P 1 覆土上層	PL141

第 467 号土坑（第 435 図）

位置 調査区中央部の C 3 i5 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 1.60 m、短径 1.44 m の楕円形で、長径方向は N - 77° - W である。底面は平坦で、深さは 72 cm である。壁は外傾している。

覆土 12 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。



第 435 図 第 467 号土坑・出土遺物実測図

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|--------|----------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子中量 | 8 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 9 褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子少量 | 10 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 11 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 6 黒褐色 | ローム粒子微量 | 12 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片 40 点（深鉢）が出土している。1211 は覆土中層から、1212 は、覆土中から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

第 467 号土坑出土遺物観察表（第 435 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1211	縄文土器	深鉢	-	(6.3)	7.7	長石・石英・雲母	明赤褐色	良好	地文に単節縄文 RL (縦) 2 本単位の沈線が垂下。下端部横方向の磨き。底面は丁寧な磨き	覆土中層	10%
1212	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・磁鉄	にぶい褐色	普通	鱗甲状工具による縦位の蛇行条縄文	覆土中	

第 468 号土坑（第 436 図）

位置 調査区西部の C 2 e0 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 1.48 m、短径 1.08 m の楕円形で、長径方向は N - 24° - W である。底面は凹凸があり、深さは 40cm である。壁は緩やかに傾斜している。

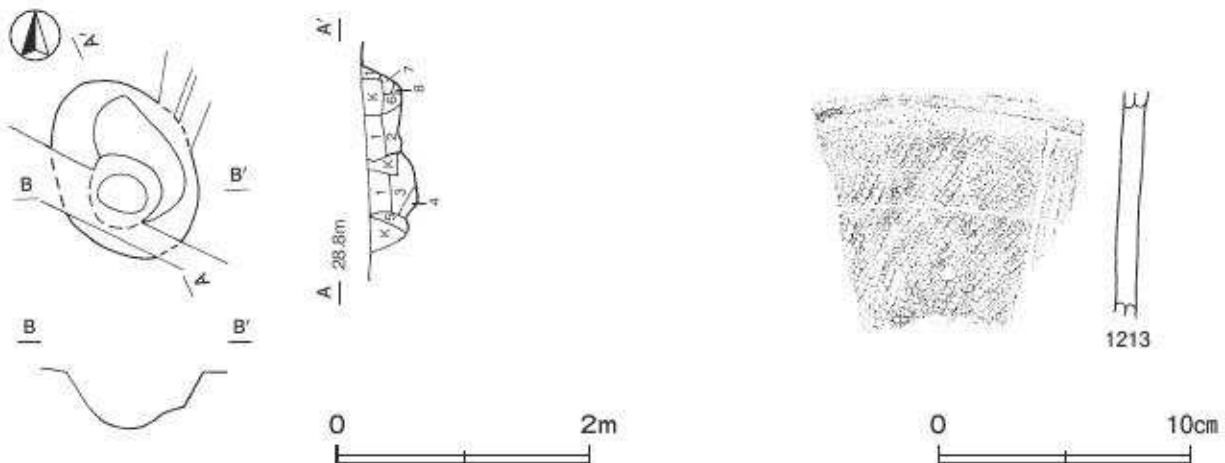
覆土 8 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量 | 7 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量 | 8 黒褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 縄文土器片 13 点（深鉢）、礫 1 点（チャート）が出土している。1213 は、覆土中から出土していることから、埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 性格は不明である。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。



第 436 図 第 468 号土坑・出土遺物実測図

第 468 号土坑出土遺物観察表 (第 436 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1213	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	赤褐色	普通	口縁部鋭い稜帯が一面 (縦) 3本の沈線垂下 地文に草部縄文 RL 沈線間磨消	覆土中	

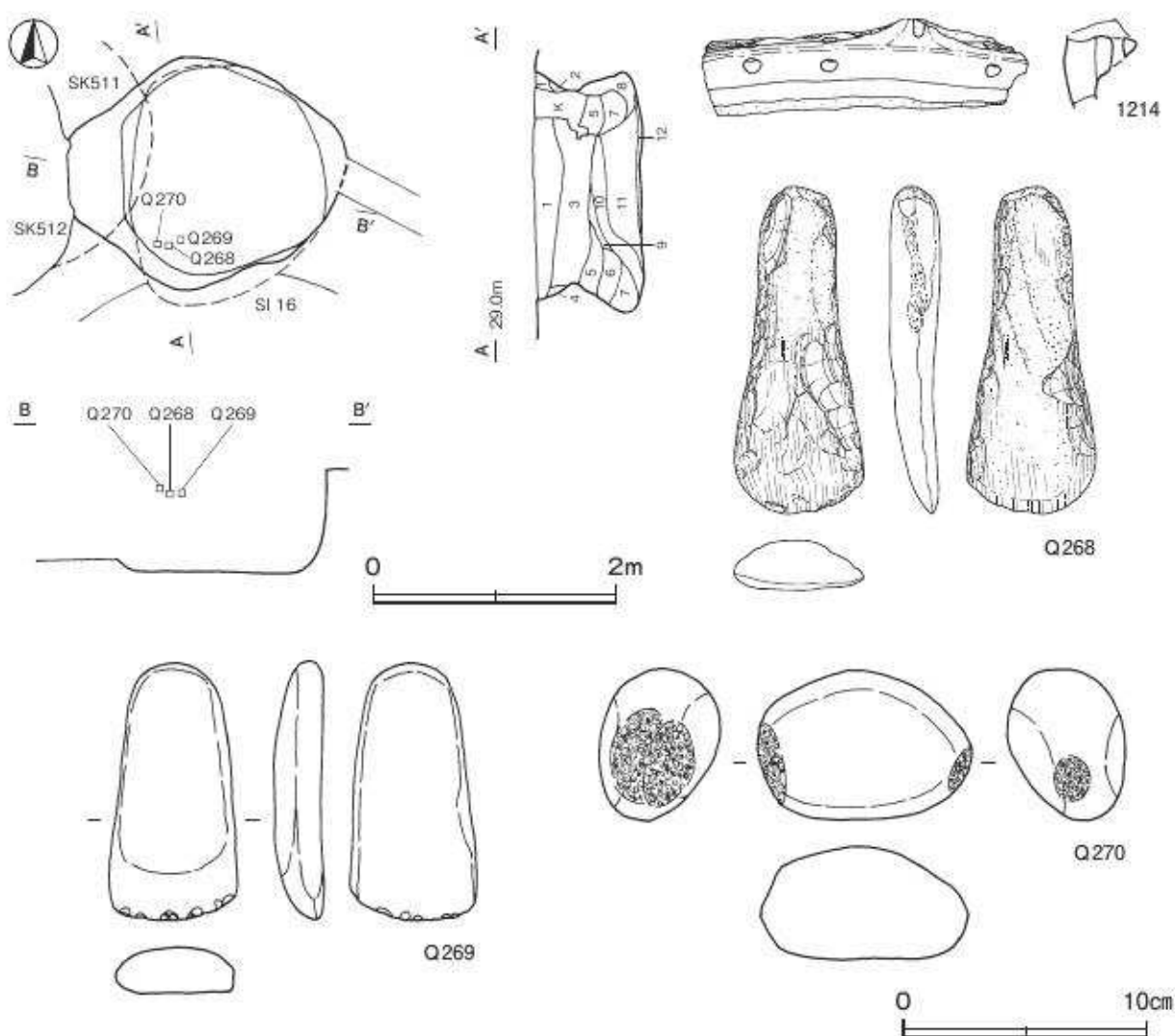
第 474 号土坑 (第 437 図 PL72)

位置 調査区西部の C 3e1 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 16 号竪穴建物跡を掘り込み、第 511・512 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は長径 2.21 m、短径 1.90 m の不整楕円形で、長径方向は N - 86° - E である。底面は長径 1.97 m、短径 1.34 m の楕円形で、平坦である。確認面からの深さは 90 cm である。壁は、東壁がほぼ直立しており、南北壁は内彎して、袋状を呈している。

覆土 12 層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子、炭化粒子が含まれていることから、埋め戻されている。



第 437 図 第 474 号土坑・出土遺物実測図

土層解説

- | | | | |
|----------|---------------------|-----------|------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 にぶい黄褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 | 8 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | 炭化粒子中量、ローム粒子少量 | 9 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 10 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子少量 | 11 にぶい黄褐色 | ロームブロック少量 |
| 6 黒褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 12 にぶい黄褐色 | ローム粒子少量 |

遺物出土状況 縄文土器片 241 点(深鉢 229, 浅鉢 11, 有孔鈔付土器 1), 石器 3 点(打製石斧, 磨製石斧, 敲砥石), 剥片 7 点(チャート 3, 石英 2, 瑪瑙 2) が出土している。Q 268 ~ Q 270 は覆土上層から, 1214 は, 覆土中から出土している。いずれも埋め戻した後の凹みに投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期と考えられるが, 詳細は不明である。

第 474 号土坑出土遺物観察表 (第 437 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1214	縄文土器	有孔鈔付土器	-	(38)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	隆帯を鈔状に穿らせ、隆帯へ垂直に穿孔。	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 268	打製石斧	13.6	5.9	2.1	160.2	石英片岩	新形 両側縁敲打調整 刃部は表裏を研磨 末広がり	覆土上層	PL166
Q 269	磨製石斧	10.6	5.2	2.0	186.6	変質安山岩	新形 表裏及び側縁部研磨 刃部は片面を研ぎ出す	覆土上層	PL168
Q 270	敲砥石	6.3	8.9	4.9	367.4	石英	楕円縁の両端部に微細な敲打痕	覆土上層	PL173

第 491 号土坑 (第 438 図)

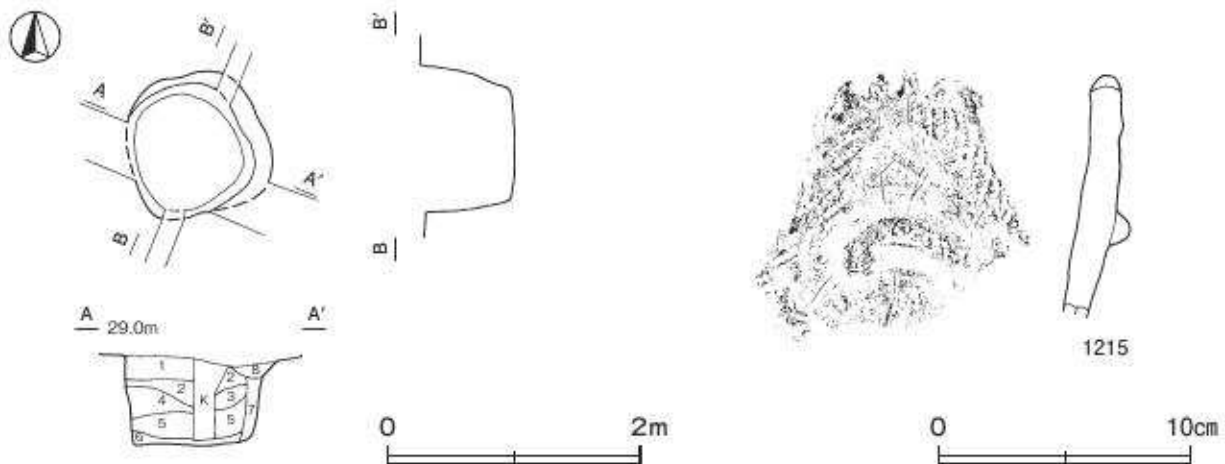
位置 調査区中央部の C 3 g8 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 径 1.22 m ほどの円形で, 底面は平坦である。深さは 72cm である。壁はほぼ直立している。

覆土 8 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子中量 | 5 黒褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 8 黒褐色 | ロームブロック少量 |



第 438 図 第 491 号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片 72点(深鉢), 剥片 1点(安山岩)が出土している。1215は、覆土中から出土している。埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第 491 号土坑出土遺物観察表 (第 438 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1215	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	把手頂部に4か所のモザミ目。把手中央に隆帯による渦巻文。胴縁部・隆帯上に単曲縄文RL(縦・斜)	覆土中	

第 492 号土坑 (第 439 図)

位置 調査区中央部のC3g9区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.12m、短径0.96mの楕円形で、長径方向はN-63°-Eである。底面は平坦で、深さは48cmである。壁は直立している。

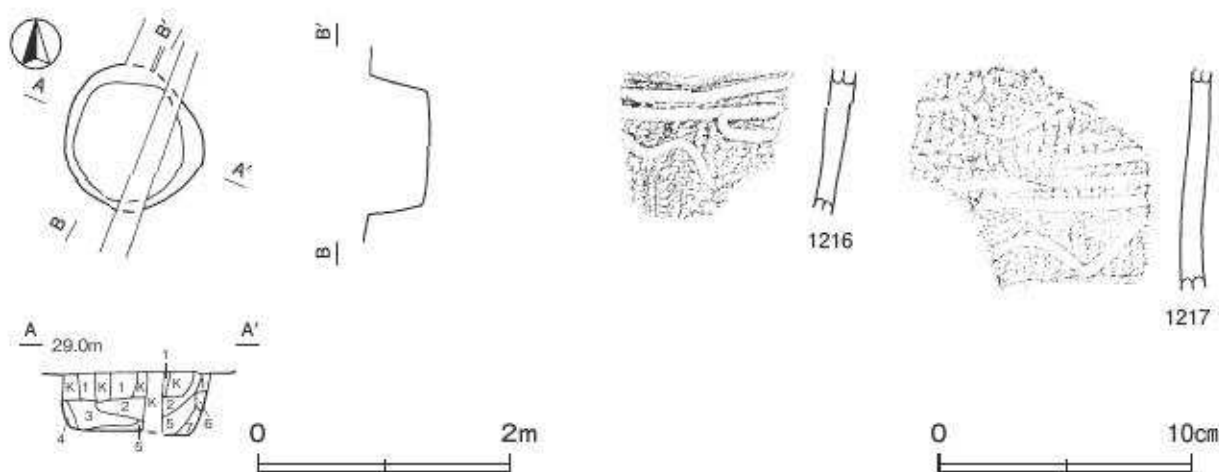
覆土 7層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子少量	5 暗褐色	ロームブロック微量
2 黒褐色	ロームブロック少量	6 暗褐色	ローム粒子少量
3 黒褐色	ローム粒子微量	7 黒褐色	ロームブロック微量
4 暗褐色	ローム粒子微量		

遺物出土状況 縄文土器片 135点(深鉢133, 浅鉢2)が出土している。

所見 規模と形状から、小型の貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第 439 図 第 492 号土坑・出土遺物実測図

第 492 号土坑出土遺物観察表 (第 439 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1216	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐	普通	地文に単曲縄文RL(斜)横位の並行沈線文・蛇行沈線	覆土中	1217と同一個体
1217	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐	普通	地文に単曲縄文RL(斜)横位の並行沈線文・蛇行沈線	覆土中	1216と同一個体

第 499 号土坑 (第 440 図)

位置 調査区中央部の C 3h3 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 1.12 m、短径 0.98 m の楕円形で、長径方向は N - 25° - W である。底面は平坦で、深さは 18cm である。壁は緩やかに傾斜している。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

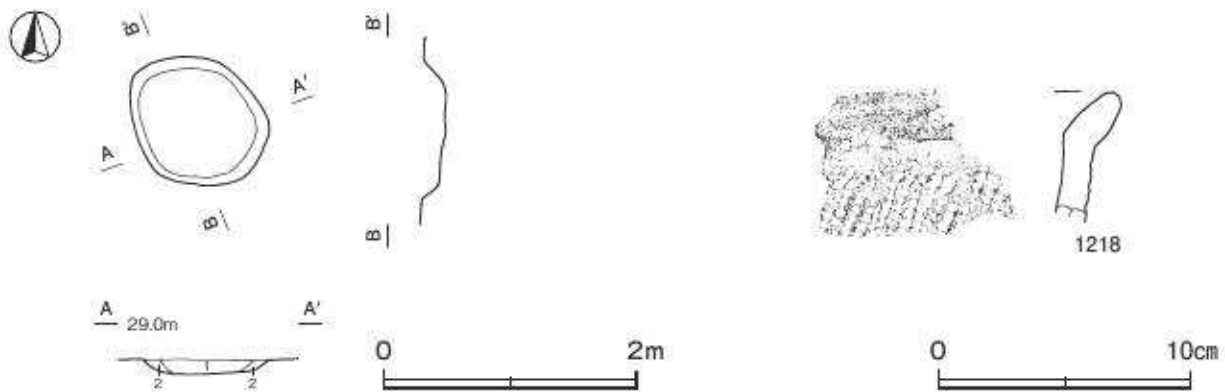
土層解説

1 黒褐色 ローム粒子微量

2 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片 8 点 (深鉢) が出土している。I218 は、覆土中から出土していることから、埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、小型の貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。



第 440 図 第 499 号土坑・出土遺物実測図

第 499 号土坑出土遺物観察表 (第 440 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
I218	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	口縁部無文 口縁直下から単節縄文 RL (縦)	覆土中	

第 500 号土坑 (第 441 図)

位置 調査区中央部の C 3h3 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 1.52 m、短径 1.30 m の楕円形で、長径方向は N - 83° - W である。底面は平坦で、深さは 66cm である。壁はほぼ直立している。

覆土 11層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

7 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

2 黒褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

8 暗褐色 ロームブロック微量

3 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

9 黒褐色 ロームブロック少量

4 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

10 暗褐色 ロームブロック少量

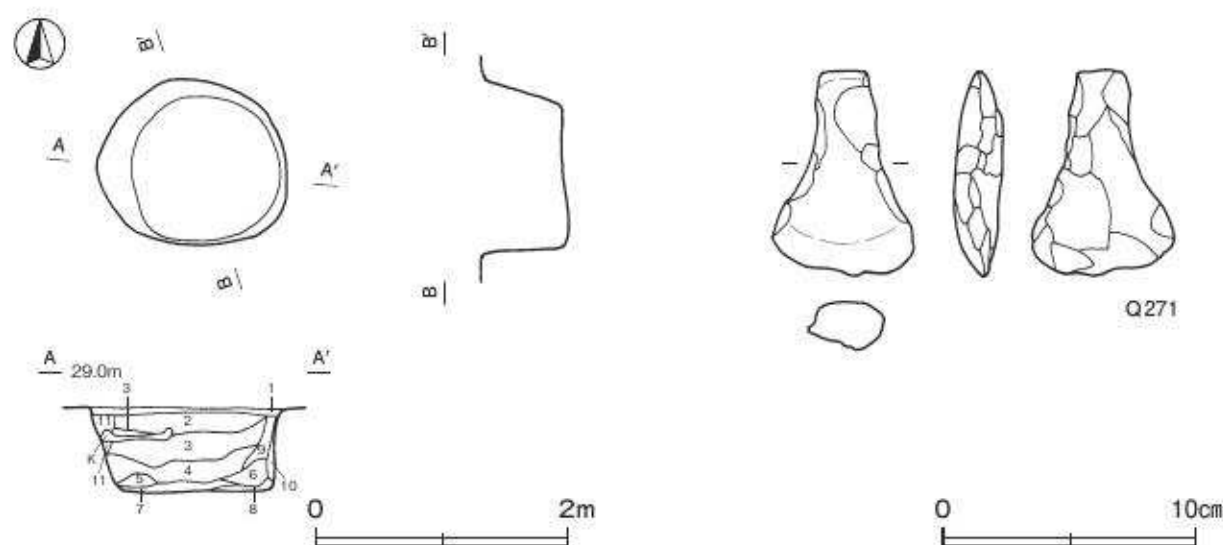
5 黒褐色 ロームブロック微量

11 褐色 ロームブロック少量

6 暗褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 縄文土器片 86 点 (深鉢 85、浅鉢 1)、石器 1 点 (打製石斧)、剥片 1 点 (チャート) が出土している。Q 271 は、覆土中から出土していることから、埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期と考えられるが、詳細は不明である。



第441図 第500号土坑・出土遺物実測図

第500号土坑出土遺物観察表（第441図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q271	打製石斧	8.2	5.7	2.0	74g	頁岩	新形：片面に自然面 柳線部表裏から敲打調整 刃部未出がり	覆土中	PL166

第504号土坑（第442図 PL72）

位置 調査区中央部のC3j4区、標高29mほどの台地中央部に位置している。

規模と形状 径2.12～2.13mの円形である。底面はほぼ平坦で、深さは78cmである。壁はほぼ直立している。

ピット 3か所。P1は西壁際に位置し、長径46cm、短径36cmの楕円形で、深さは46cmである。P2は中央部に位置し、径30cmほどの円形で、深さは52cmである。P3は中央部に位置し、長径50cm、短径42cmの楕円形で、深さは58cmである。P1・P2は、形状から柱穴と考えられる。P3は、形状から補助的な貯蔵施設と考えられる。

覆土 10層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

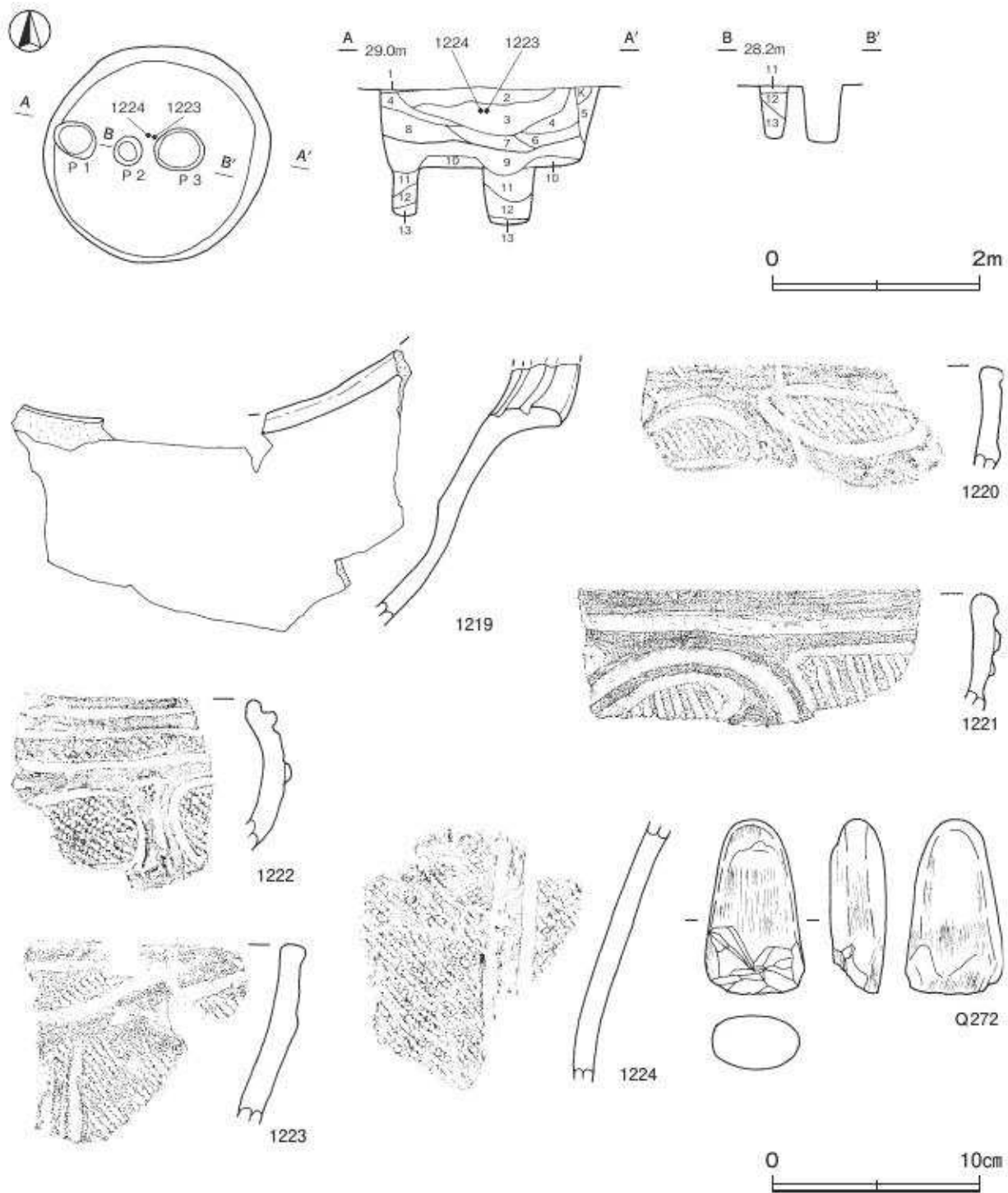
第11～13層はP1～P3の覆土である。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子微量	8 暗褐色	ロームブロック少量
2 黒褐色	ロームブロック微量	9 暗褐色	ロームブロック中量
3 黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	10 黒褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック微量
4 黒褐色	ロームブロック少量	11 黒褐色	ロームブロック中量
5 暗褐色	ロームブロック微量	12 黒褐色	ローム粒子少量
6 黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	13 黒褐色	ローム粒子中量
7 黒褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量		

遺物出土状況 縄文土器片151点（深鉢143、浅鉢8）、石器1点（打製石斧）、剥片2点（チャート、石英）が、覆土上層から中層にかけて散乱した状態で出土している。1223・1224は、破片で覆土上層から出土しており、ある程度埋まってから埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。



第442図 第504号土坑・出土遺物実測図

第504号土坑出土遺物観察表(第442図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1219	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色 粘土・細砂	にぶい橙	普通	口縁部2本の周回する沈線文 外面磨き 内面稚	覆土中	
1220	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色 粘土	にぶい橙	普通	口縁に沿って唇帯斯付 地文に単節縄文 RL (横) 太沈線による格内区画文	覆土中	
1221	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	太沈線を伴う唇帯による区画文 区画内斜位の 沈線文充填	覆土中	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1222	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色 粒子・磁鉄	にふい黄褐色	普通	地文に単部縄文 RL (横) 沈線に伴う隆帯による楕円形区画文	覆土中	
1223	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色 粒子	にふい黄褐色	普通	地文に単部縄文 RL (横) 沈線に伴う隆帯による楕円形区画文 胴部2本の沈線による壘垂文	覆土上層	
1224	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色 粒子	橙	普通	地文に単部縄文 LR (縦) 2本の太沈線間磨消壘垂文	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 272	打製石斧	8.5	4.8	2.7	147	石英片岩	楔形 刃部は自然礫の端部を片側から敲打	覆土中	PL165

第 509 号土坑 (第 443 図)

位置 調査区南部の C 3j1 区、標高 29 m ほどの台地縁辺部に位置している。

規模と形状 径 0.79 ~ 0.84 m の円形で、底面は平坦である。深さは 20cm で、壁は外傾している。

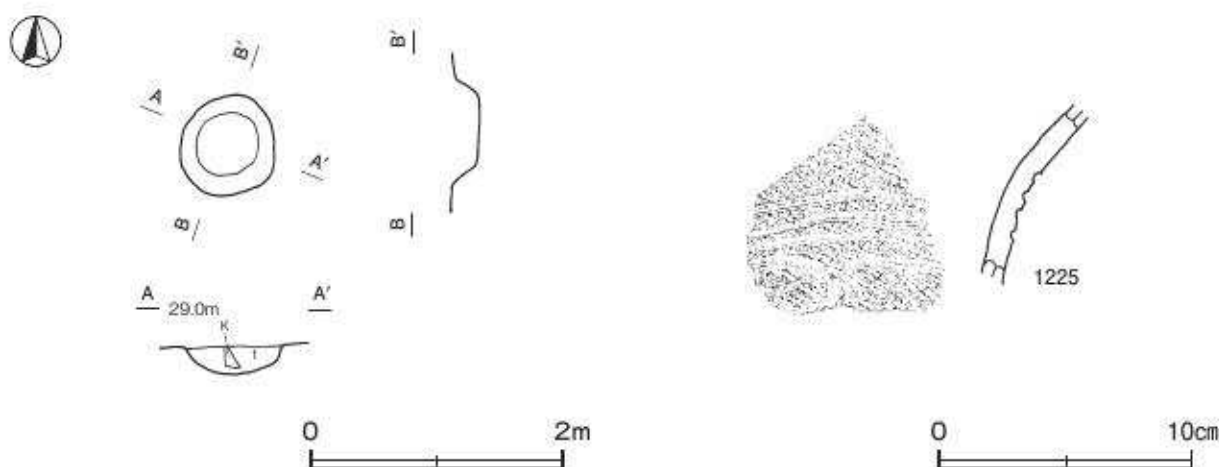
覆土 単一層。黒褐色土が堆積していることから、自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片 1 点 (深鉢) が覆土中から出土している。

所見 性格は不明である。時期は、出土土器から中期と考えられるが、詳細は不明である。



第 443 図 第 509 号土坑・出土遺物実測図

第 509 号土坑出土遺物観察表 (第 443 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1225	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・磁鉄	黒褐色	普通	地文に単部縄文 RL (横) 3本の沈線が周囲胴部縄文上に沈線による壘垂文	覆土中	

第 511 号土坑 (第 444・445 図 PL73)

位置 調査区西部の C 2e0 区、標高 29 m ほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第 474 号土坑を掘り込み、第 512 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は長径 1.54 m、短径 1.38 m の楕円形で、長径方向は N - 13° - W である。底面は径 2.04 ~ 2.10 m の不整形円で、ほぼ平坦である。確認面からの深さは 78 cm で、壁は西部はほぼ直立し、東部は内傾して袋状を呈している。

ピット 2 か所。P 1 は深さ 40 cm で、形状から柱穴と考えられる。P 2 は深さ 30 cm で、位置と形状から補助的な貯蔵施設と考えられる。

ピット土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量

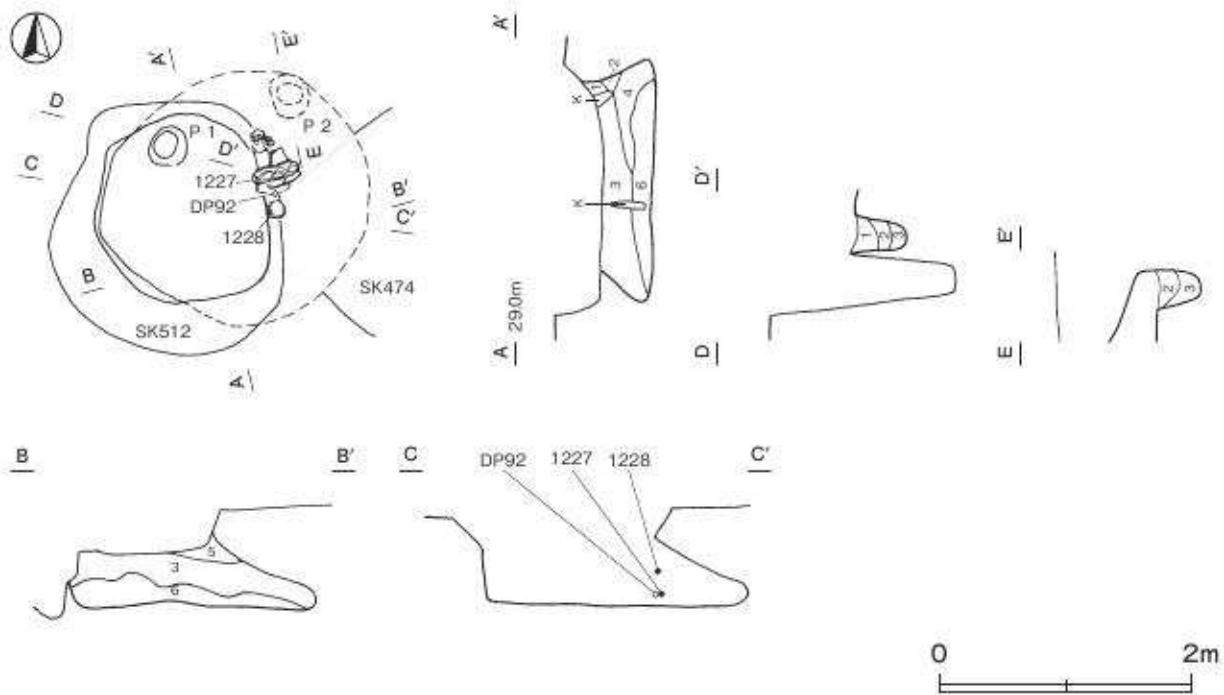
覆土 6 層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック微量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量
- 6 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片 91 点（深鉢）、土製品 1 点（土器片錘）が出土している。1227 は覆土下層から上半部が横位で出土していることから、ある程度埋め戻された段階で投棄されたものである。1228 は覆土中層、DP92 は覆土下層からそれぞれ出土しており、埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

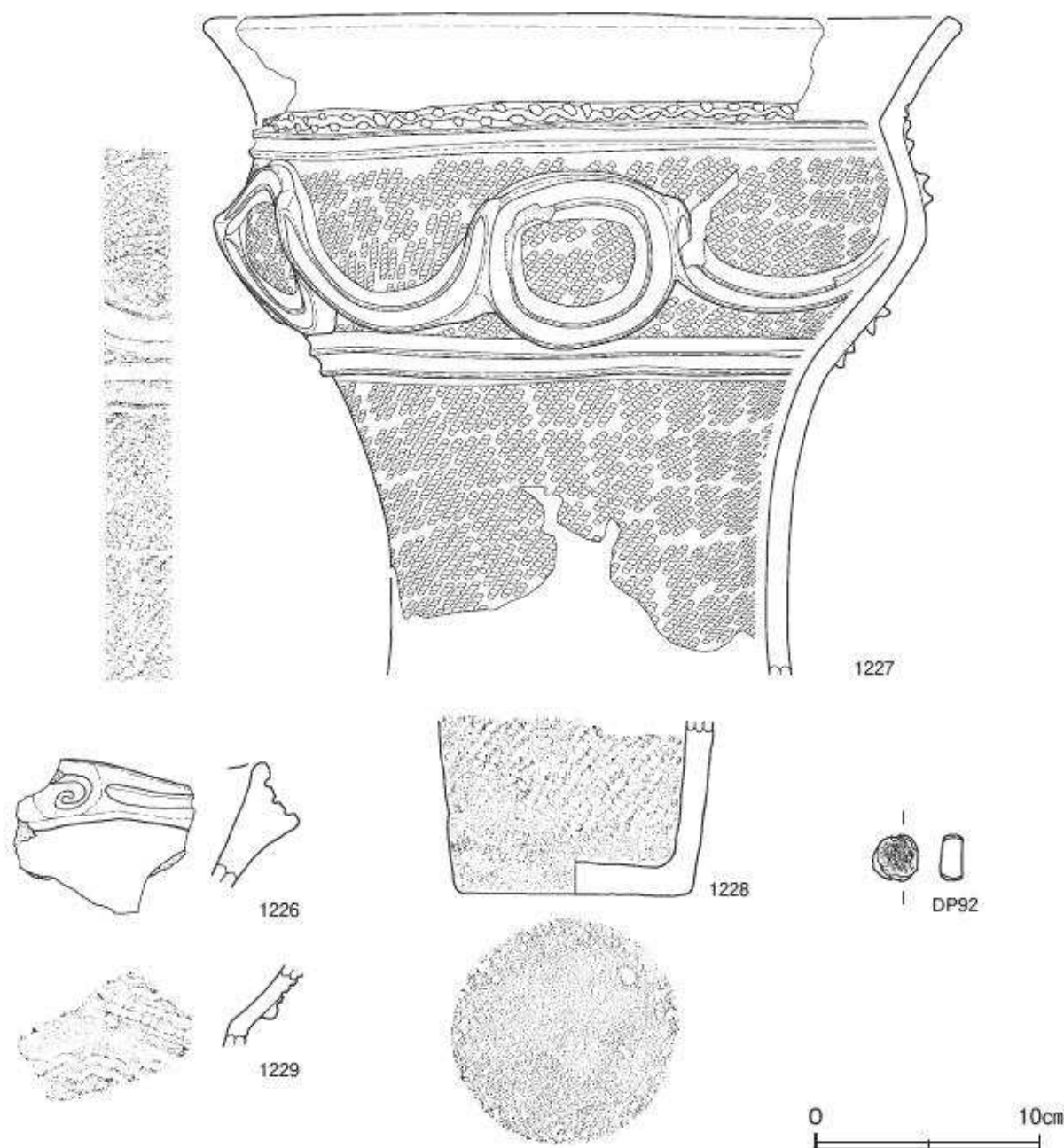
所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第 444 図 第 511 号土坑実測図

第 511 号土坑出土遺物観察表（第 445 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1226	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄帯	普通	波頂部渦巻文 口唇部太沈線文 口縁部横文	覆土中	
1227	縄文土器	深鉢	33.4	(29.6)	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	交互刺突文と沈線を作る隆帯で口縁部文様帯を区画、背割れ跡等による楕円形文と弧状文 胴部単節縄文 RL (縦) 施文	覆土下層	60% PL142
1228	縄文土器	深鉢	-	(7.8)	10.2	長石・石英・雲母	橙	普通	単節縄文 RL (縦) 施文 底面周縁に刺代痕	覆土中層	10% 内面煤付着
1229	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	隆帯に沿って 2 本の有節沈線文 胴部 2 本同一施文器具による波状文	覆土中	



第 445 図 第 511 号土坑出土遺物実測図

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP92	土器片鏝	2.0	2.0	1.0	4.9	長石・石英	にぶい橙	周縁部研磨、両端にキザミ目	覆土下層	

第 512 号土坑 (第 446 図 PL74)

位置 調査区西部の C 2e0 区、標高 29 m ほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第 474・511 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 径 2.01 ~ 2.13 m の不整形円形で、底面はほぼ平坦である。深さは 31cm で、壁は外傾している。

ピット 3 か所。P 1 は南壁際、P 2 は南西壁際、P 3 は北西壁際に位置し、深さは 45cm・122cm・121cm である。いずれも、形状から柱穴と考えられる。

ピット土層解説 (P1・P3)

- 1 黒褐色 ローム粒子中量
2 黒褐色 ロームブロック少量

- 3 暗褐色 ロームブロック少量

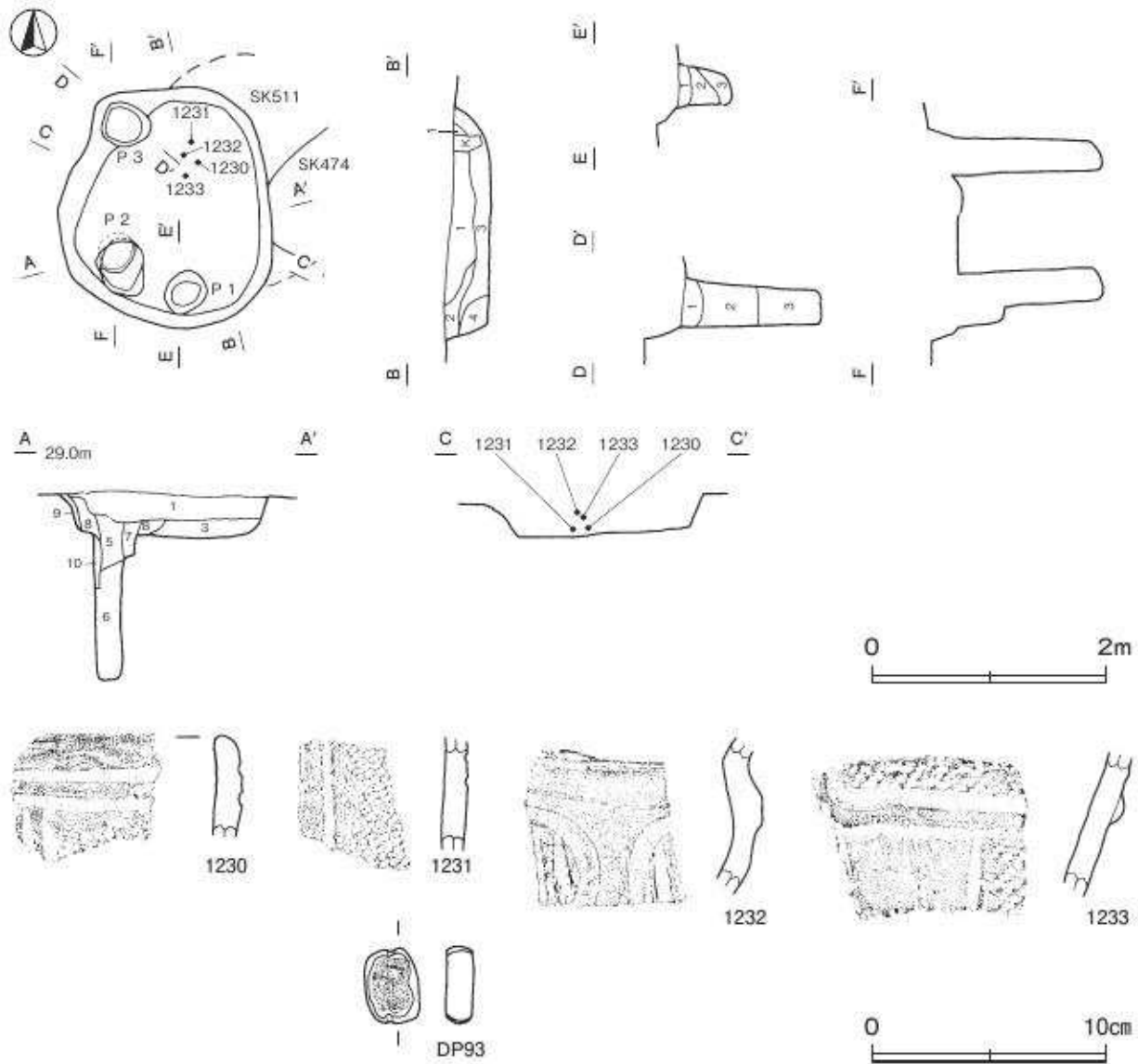
覆土 4層に分層できる。第1層は、黒褐色土がレンズ状に堆積していることから、自然堆積である。第2～4層はローム粒子や炭化粒子が含まれていることから埋め戻されている。第5～10層はP2の覆土で、第5・6層は柱痕跡、第7～10層は掘方への埋土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|--------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量 | 7 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 | 8 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 褐色 | ローム粒子中量 | 9 褐色 | ロームブロック中量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 10 暗褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 縄文土器片 57点 (深鉢54, 浅鉢3)。土製品1点 (土器片錘)、剥片1点 (砂岩) が中央部の覆土中層を中心に出土している。1230・1231は破片で覆土下層から、1232・1233は破片で覆土中層からそれぞれ出土し、流れ込んだか投棄されたものと思われる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。



第446図 第512号土坑・出土遺物実測図

第512号土坑出土遺物観察表(第446図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1230	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	口縁に沿って2本の太沈線文周回・胴部単節縄文LR(縦)・2本の沈線による垂文	覆土下層	
1231	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	胎文に単節縄文LR(縦)・沈線が垂下・沈線間磨滑	覆土下層	
1232	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	太沈線を伴う隆帯区画文・区画内沈線文で充填	覆土中層	
1233	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	隆帯による区画文・区画内単節縄文LR(横)・胴部(縦)・幅広い磨滑垂文	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP93	土器片鏝	3.3	2.3	1.2	11.0	長石・石英・細礫	にぶい橙	周縁部磨滑・両端にキザミ目	覆土下層	

第513号土坑(第447・448図 PL74)

位置 調査区東部のC4j5区、標高29mほどの台地縁辺部に位置している。

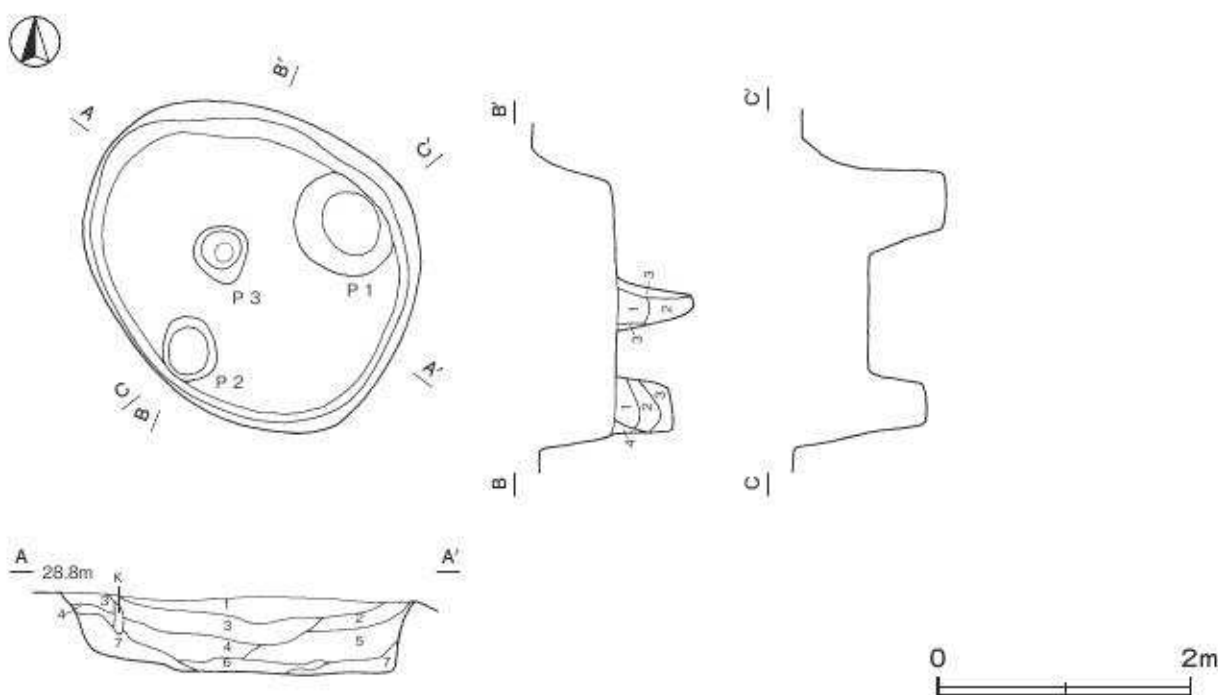
規模と形状 長径280m、短径241mの楕円形で、長径方向はN-53°-Wである。底面はほぼ平坦で、深さは56cmである。壁はほぼ直立している。

ピット 3か所。P1は北東壁際に位置し、長径85cm、短径66cmの楕円形で、深さは61cmである。P2は南西壁際に位置し、長径52cm、短径44cmの楕円形で、深さは46cmである。P3は中央部に位置し、長径48cm、短径44cmの円形で、深さは63cmである。P1・P2は、位置や形状から補助的な貯蔵施設と考えられる。P3は、位置や形状から柱穴と考えられる。

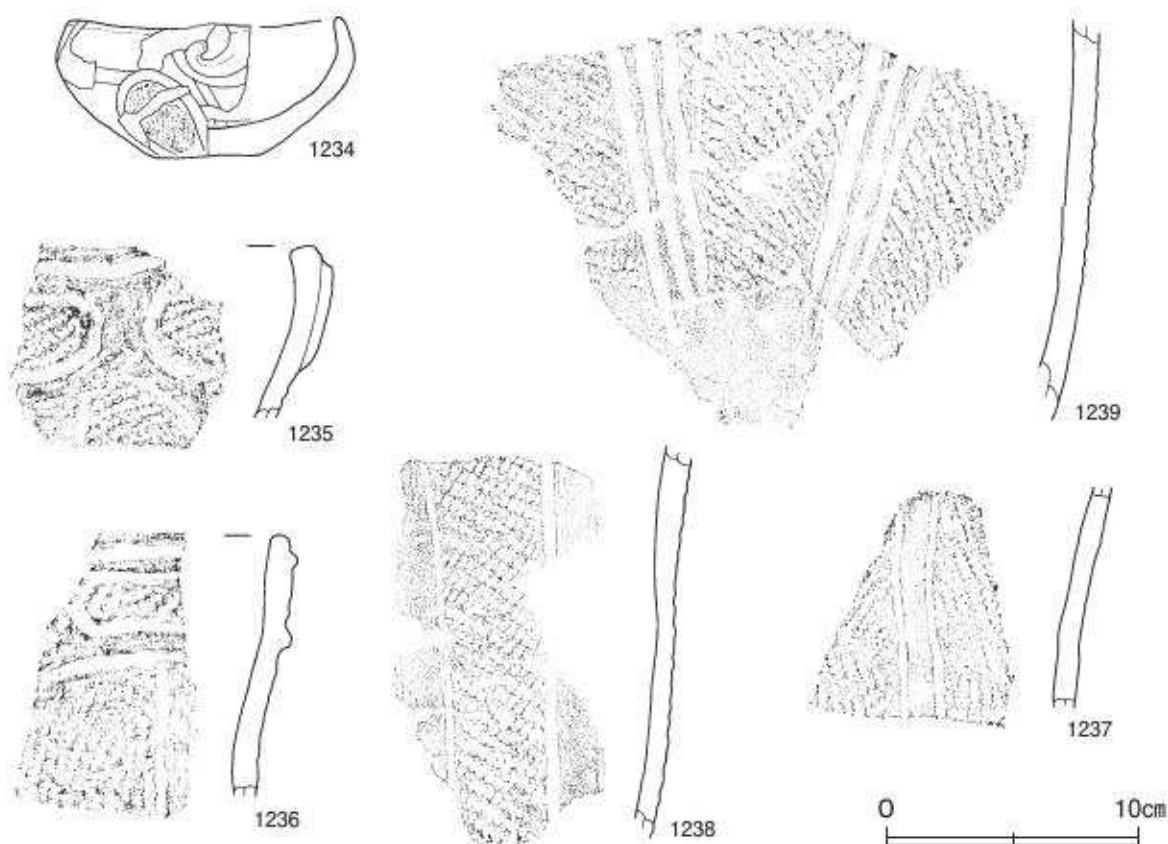
ピット土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック少量 |

覆土 7層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。



第447図 第513号土坑実測図



第 448 図 第 513 号土坑出土遺物実測図

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック、炭化物微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック、炭化物微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 217 点（深鉢 201, 浅鉢 15, 小型浅鉢 1）、石器 1 点（磨石）、剥片 1 点（安山岩）が、覆土全体から散乱した状態で出土している。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

第 513 号土坑出土遺物観察表（第 448 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1234	縄文土器	小型浅鉢	[10.5]	5.5	4.0	長石・石英	黄灰	普通	口縁部渦巻文を伴う隆帯による区間文、胴部太沈線による楕円形区間、区内単節縄文 RL (縦) による充塞縄文	覆土中	40%
1235	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐	普通	胎文は単節縄文 RL (縦)、太沈線を伴う隆帯による楕円形区間	覆土中	
1236	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	におい黄帯	普通	口縁部区間内単節縄文 LR (横)、胴部 (縦) 太沈線を伴う隆帯による楕円形区間文、やや輪状な沈線間帯消垂文	覆土中	
1237	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	におい黄帯	普通	単節縄文 RL (横) を地文とし、一部回転方向を変え、羽状構成、沈線間帯消垂文	覆土中	
1238	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	におい黄帯	普通	0 段多節縄文 LR (縦) を地文とし、太沈線間帯消垂文	覆土中	PL142
1239	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明黄褐	普通	複数縄文 LRL (縦) 3 本の沈線による懸垂文、沈線間帯消	覆土中	PL142

第 517 号土坑 (第 449 図 PL74)

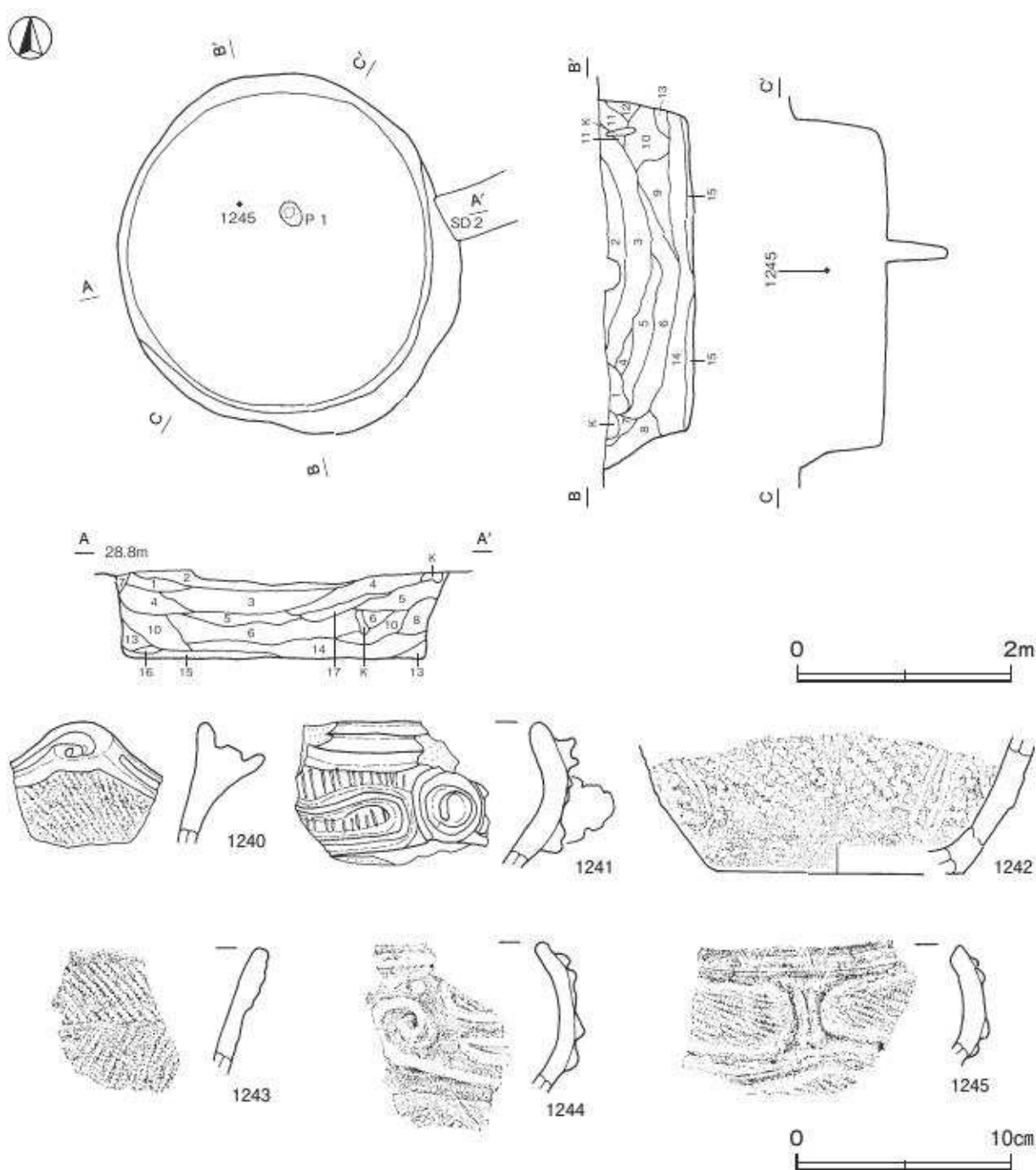
位置 調査区中央部の D 3 a7 区、標高 29 m ほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第 2 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長径 3.44 m、短径 3.07 m の楕円形で、長径方向は N - 28° - W である。底面は平坦で、深さは 79cm である。壁はほぼ直立している。

ピット 中央部に位置し、深さ 59cm である。位置や形状から、柱穴と考えられる。

覆土 17 層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。



第 449 図 第 517 号土坑・出土遺物実測図

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック微量	10	暗褐色	ロームブロック中量
2	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	11	にぶい褐色	ロームブロック少量、炭化物微量
3	黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	12	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
4	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	13	にぶい褐色	ロームブロック少量
5	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	14	褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
6	暗褐色	ロームブロック中量、炭化物微量	15	暗褐色	ロームブロック少量、炭化物微量
7	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	16	褐色	ロームブロック多量
8	暗褐色	ロームブロック少量	17	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
9	褐色	ロームブロック中量			

遺物出土状況 縄文土器片 426 点（深鉢 411、浅鉢 15）、石器 1 点（磨石）、剥片 1 点（石英）が、覆土全体から散乱した状態で出土している。1245 は覆土中層から出土しており、埋土とともに投棄されたものである。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

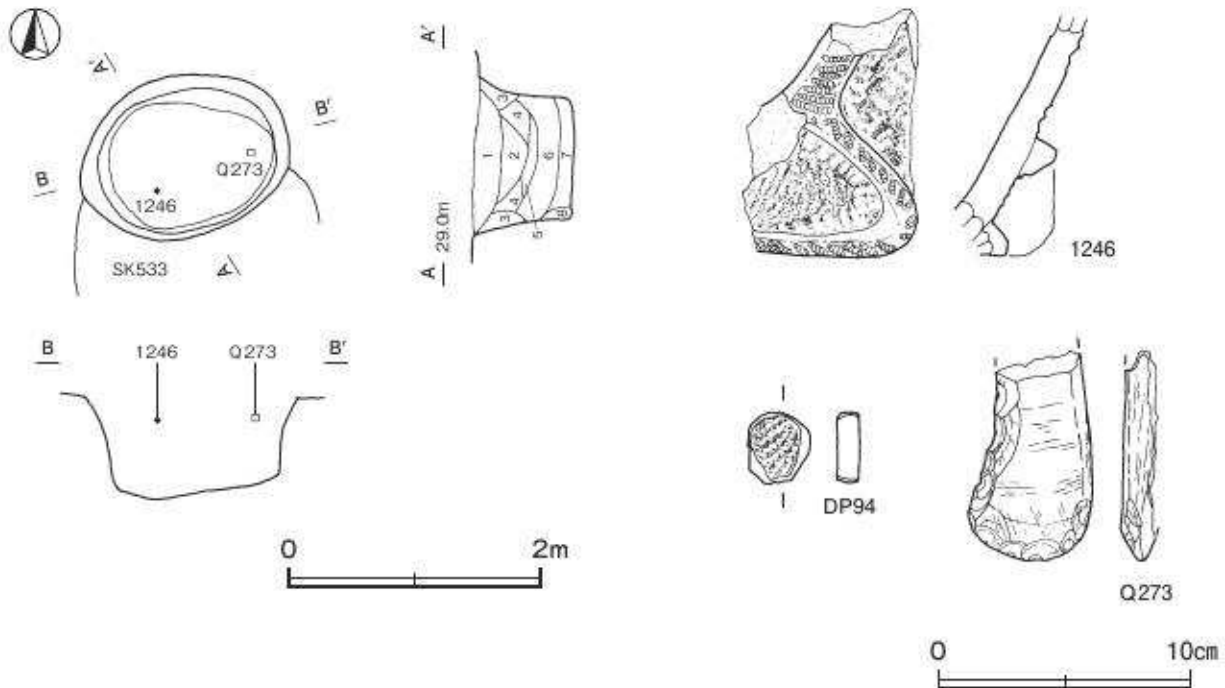
第 517 号土坑出土遺物観察表（第 449 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1240	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	口唇部沈線文、液頂部渦巻文、単節縄文 L.R. (縦) 施文	覆土中	
1241	縄文土器	深鉢	-	(6.6)	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	唇部突起、背割れ縁帯による区画文、区画内ケラック文、条線文光地	覆土中	
1242	縄文土器	深鉢	-	11.6	(5.9)	長石・石英・雲母・赤色粒子・磁鉄	明褐色	普通	複節縄文 L.R. (縦) を地文とし、3 本単位の沈線による懸垂文	覆土中	
1243	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	口縁に沿って幅広の隆帯貼付、単節縄文 RL と L.R. 横回転による羽状構成	覆土中	
1244	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	沈線を伴う隆帯による区画文、区画内扇形刺突文・渦巻文	覆土中	
1245	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	0 段多条縄文 RL (横)、沈線を伴う隆帯による楕円形区画文	覆土中層	

第 518 号土坑（第 450 図 PL75）

位置 調査区中央部の C 3.8 区、標高 29 m ほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第 533 号土坑を掘り込んでいる。



第 450 図 第 518 号土坑・出土遺物実測図

規模と形状 長径1.70 m、短径1.28 mの楕円形で、長径方向はN-71°-Eである。底面はほぼ平坦である。深さは78cmで、壁は直立している。

覆土 8層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量	6 暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック少量、炭化物微量
2 黒褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量	7 暗褐色	ロームブロック中量
3 暗褐色	ロームブロック多量、炭化物微量	8 暗褐色	ロームブロック多量
4 暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量		
5 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック中量、炭化物微量		

遺物出土状況 縄文土器片157点（深鉢154、浅鉢3）、土製品1点（土器片錘）、石器1点（磨製石斧）が、覆土中層から上層にかけて、散乱した状態で出土している。1246とQ 273はそれぞれ覆土上層から出土しており、流れ込んだか投棄されたものと思われる。

所見 規模や形状から、貯蔵穴と思われる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第518号土坑出土遺物観察表（第450図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1246	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	暗褐色	普通	等帯土及び区画内に単部縄文RL（横・縦） 窪みに沿って連続点線文	覆土上層	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴		出土位置	備考
DP94	土器片錘	2.8	2.5	0.9	8.3	長石・石英	にぶい赤褐色	周縁部研磨 両端にキザミ目		覆土中	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
Q 273	磨製石斧	(8.5)	5.0	(1.4)	(82.9)	緑色岩	梨形 裏面割離 表面に研磨痕 片側縁取打 刃部は敲打調整後研ぎ出す 基部欠損		覆土上層		

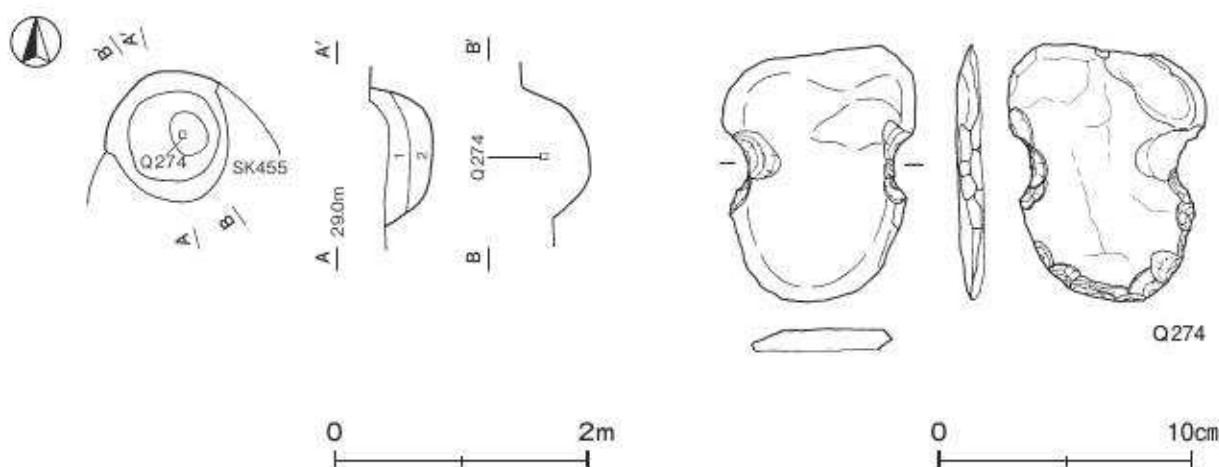
第521号土坑（第451図）

位置 調査区東部のC 4j2区、標高29 mほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第455号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 径1.00～1.05 mの円形で、底面は皿状である。深さは52cmで、壁は外傾している。

覆土 2層に分層できる。北側からの流入が見られる自然堆積である。



第451図 第521号土坑・出土遺物実測図

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量

2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量

遺物出土状況 石器1点（打製石斧）が覆土上層から出土しており、流れ込んだか投棄されたものと思われる。

所見 性格は不明である。時期は中期と考えられるが、詳細は不明である。

第521号土坑出土遺物観察表（第451図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q274	打製石斧	103	77	(11)	(1136)	ホルンフェルス	分銅形 片面に自然面 挟り部は表裏を敲打 刃部は片面を敲打	覆土上層	PL162

第522号土坑（第452図）

位置 調査区東部のD4b8区、標高27mほどの台地縁辺部に位置している。

規模と形状 径0.82mの円形である。底面は平坦である。深さは21cmで、壁は外傾している。

覆土 3層に分層できる。黒褐色土がレンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

土層解説

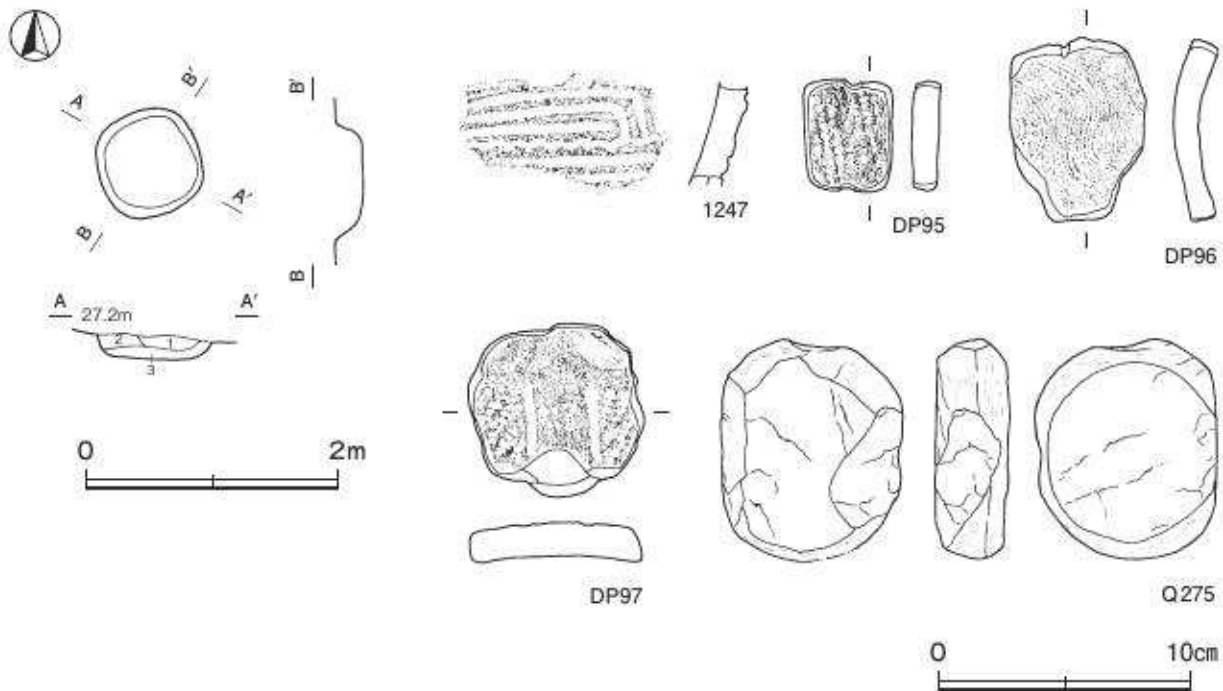
1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

3 黒褐色 ロームブロック微量

2 黒褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片29点（深鉢）、土製品4点（土偶1、土器片鍾2、土器片円盤1）、石器1点（敲砥石）が、覆土中からまばらに出土している。土偶片は、約80m西側に位置する第532号土坑から出土した破片（DP103）と接合している。破碎後、投棄されていたものが、流れ込んだものと思われる。

所見 性格は不明である。時期は出土土器から中期と考えられるが、詳細は不明である。土偶片が、第532号土坑から出土した破片と接合していることから、同時期に開口していたと考えられる。



第452図 第522号土坑・出土遺物実測図

第 522 号土坑出土遺物観察表 (第 452 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1247	陶土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	捺状工具による沈線で矩形文・横走文・流状文	覆土中	

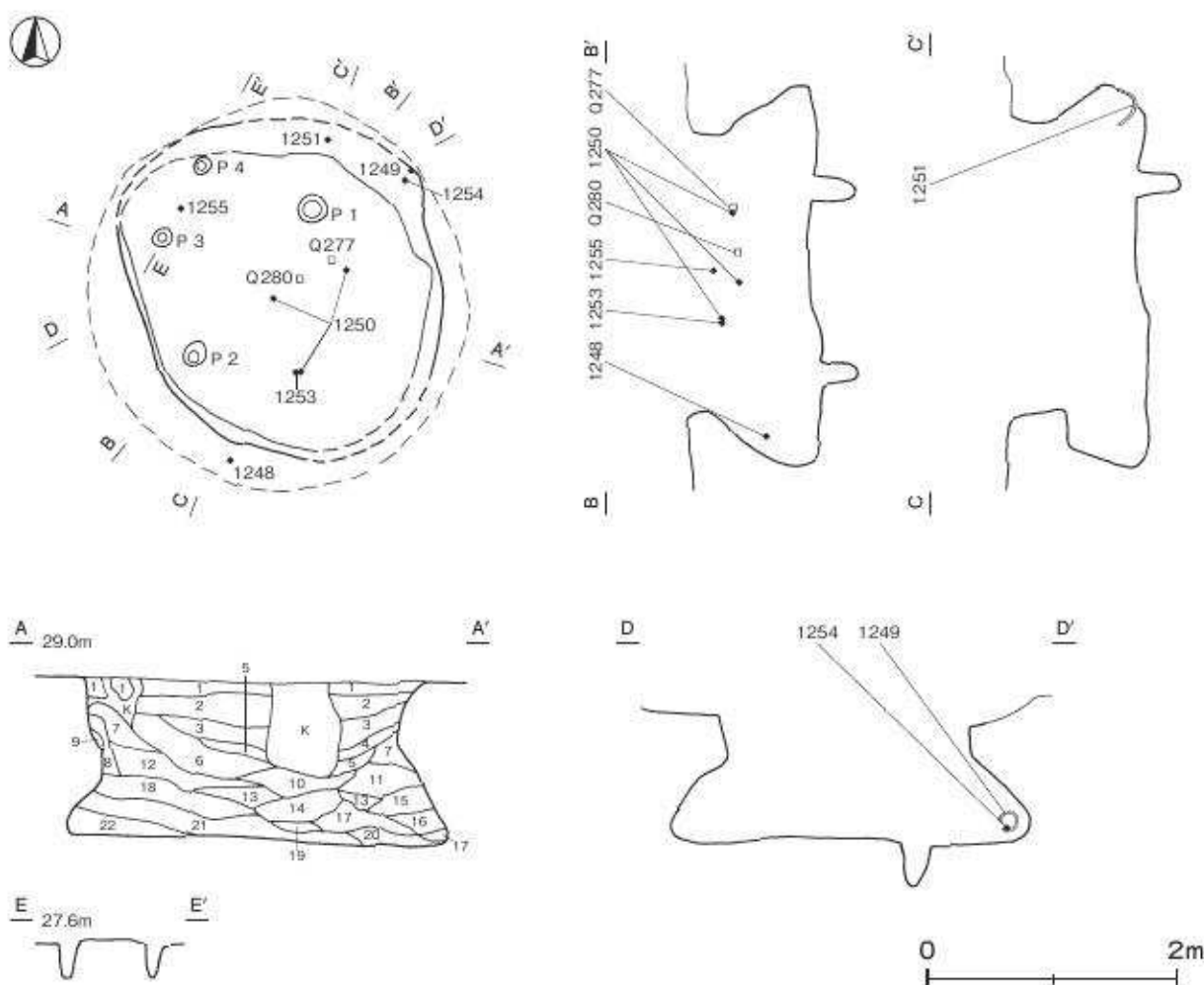
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP95	土器片鉢	4.5	3.6	1.1	26.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐色	周縁部研磨・両端にキザミ目	覆土中	
DP96	土器片鉢	7.2	5.4	1.1	54.4	長石・石英・雲母	明褐色	周縁部研磨・両端にキザミ目	覆土中	
DP97	土器片皿	6.9	7.0	1.7	88.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐色	周縁部研磨	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 275	敲砧石	8.9	7.3	3.0	33.1	チャート	円縁の周縁部に多方向からの断面により稜をもつ	覆土中	PL173

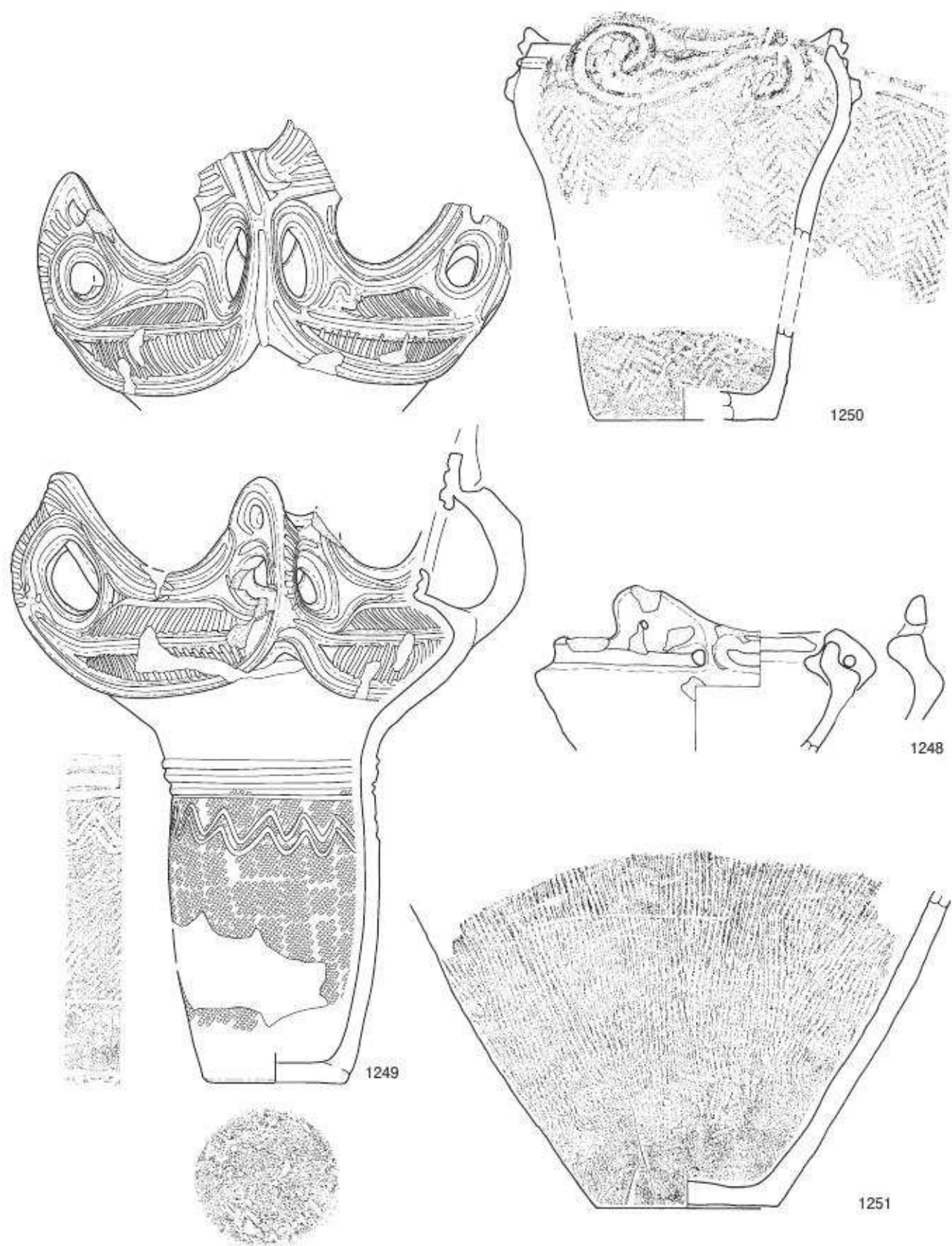
第 532 号土坑 (第 453 ~ 456 図 PL75)

位置 調査区南西部の C 2 j8 区、標高 29 m ほどの台地縁辺部に位置している。

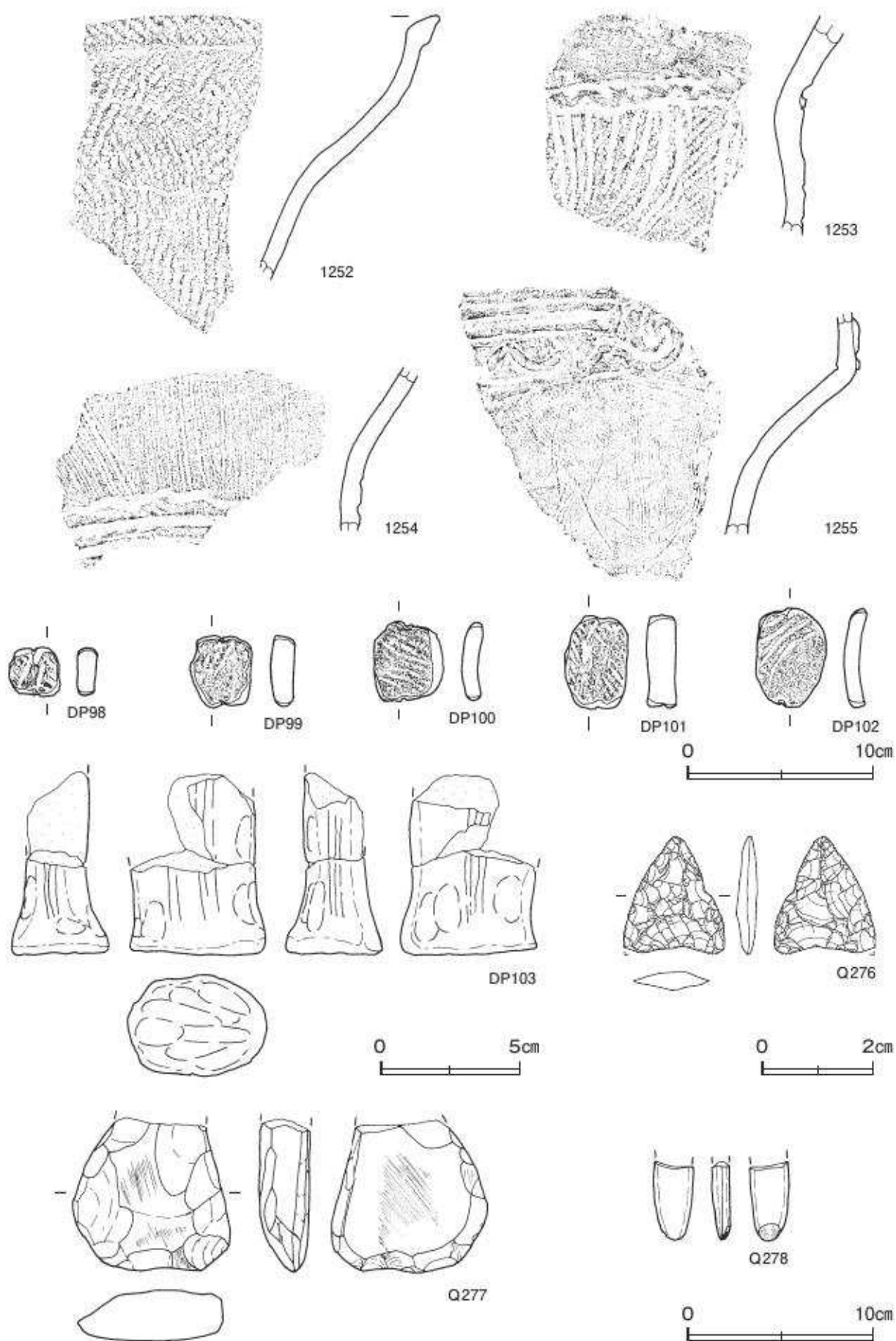
規模と形状 開口部は長径 2.96 m、短径 2.52 m の楕円形で、長径方向は N - 50° - W である。底面は径 3.00 ~ 3.04 m の円形で、ほぼ平坦である。確認面からの深さは 125 cm で、壁は中位まで内傾して袋状を呈し、上位はほぼ直立している。



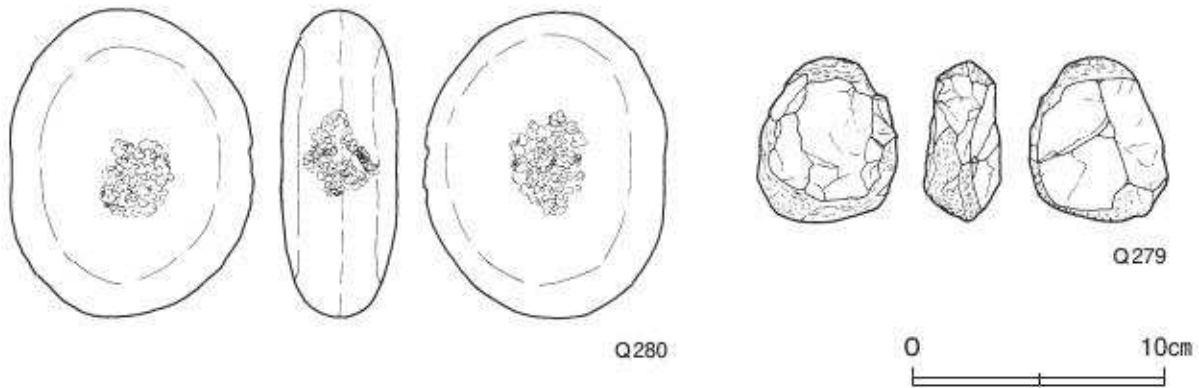
第 453 図 第 532 号土坑実測図



第 454 图 第 532 号土坑出土遗物实测图(1)



第 455 図 第 532 号土坑出土遺物実測図(2)



第456図 第532号土坑出土遺物実測図(3)

ピット 4か所。P1は北部、P2は南西部、P3は北西部、P4は北西壁際に位置し、深さは28～34cmである。P1・P2は、位置や形状から柱穴と考えられる。P3・P4は、性格不明である。

覆土 22層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

1	黒褐色	ローム粒子微量	12	黒褐色	ロームブロック・炭化物少量
2	黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	13	暗褐色	ロームブロック微量
3	黒褐色	ロームブロック少量	14	暗褐色	ロームブロック中量
4	黒褐色	ロームブロック微量	15	にぶい褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
5	黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	16	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
6	黒褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量	17	黒色	ロームブロック微量
7	にぶい褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	18	黒褐色	ローム粒子中量
8	にぶい褐色	ロームブロック少量	19	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
9	褐色	ローム粒子中量	20	暗褐色	ロームブロック少量
10	黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	21	黒褐色	ロームブロック中量
11	黒褐色	ローム粒子少量	22	暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片629点(深鉢599, 浅鉢30), 土製品6点(土偶1, 土器片錘5), 石器5点(鎌, 磨製石斧, 打製石斧, 敲砥石, 凹石), 剥片3点(トトロ石, ホルンフェルス, 安山岩)が, 覆土全体から散乱した状態で出土している。1249はほぼ完形で覆土下層から出土していることから, 下層が埋め戻されてから投棄されたものと思われる。1251・1254・Q279は覆土下層から, 1248・1250・1253, Q277・Q280は覆土中層から, 1255は覆土上層から, それぞれ破片や欠けた状態で出土し, 埋土と一緒に投棄されたものと思われる。土偶片は覆土中から出土し, 埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。覆土中から出土した土偶片は, 約80m東側に位置する第522号土坑出土の破片と接合し, 破碎して投棄されたと考えられる。

第532号土坑出土遺物観察表(第454～456図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1248	縄文土器	浅鉢	[15.2]	(8.5)	—	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	区画交点に眼鏡状把手・口唇部太沈線・外・内面赤彩痕	覆土中層	30% PL143
1249	縄文土器	深鉢	17.3	35.7	7.5	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	4単位の背割れ隆帯による中空把手・背割れ隆帯で文線帯2分割・区画内沈線文で充填・頸部無文帯・胴部を囲回する3本の沈線を伴う隆帯で区画・胴部単面縄文RL(縦)・2本の沈線による連続山形文・底面網代痕	覆土下層	90% PL142
1250	縄文土器	深鉢	[16.8]	[21.4]	[9.8]	長石・石英・黒炭	黒褐色	普通	口縁に沿って背割れ隆帯貼付・背割れ隆帯に上る横S字状文・胴部隆帯の異なる単面縄文による縦回転の羽状構成	覆土中層	30% PL143

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1251	縄文土器	深鉢	-	(17.2)	9.0	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	底位の無文を全面に施文。胴部下位積方向の磨き。底面磨き	覆土下層	30% PL142
1252	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口縁部肥厚。肥厚部に単節縄文(L(横) 刺部(縦))	覆土中	PL143
1253	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・黒色砂子	にぶい赤褐色	普通	胴部と胴部の境界押出された波状隆帯が一部。基文に単節縄文(L(横))。棒状工具による気状文	覆土中層	
1254	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	頸部柄杓状工具及び半截竹管による条線文。太沈線による波状文と並行沈線で胴部と区画	覆土下層	
1255	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色砂子	灰褐色	普通	底文に無節状工具による条線文・波状文。背割れ隆帯による区画。区画内波状文・渦巻文	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP98	土器片鉢	2.6	2.8	1.0	9.2	長石・石英・雲母	灰褐色	周縁部研磨。両端にキザミ目	覆土中	
DP99	土器片鉢	3.9	3.3	1.3	18.6	長石・石英・雲母	にぶい橙	周縁部研磨。両端にキザミ目	覆土中	
DP100	土器片鉢	4.2	3.7	1.1	17.4	長石・石英	にぶい橙	周縁部研磨。両端にキザミ目	覆土中	
DP101	土器片鉢	5.1	3.3	1.5	37.2	長石・石英・雲母・磁石	にぶい赤褐色	周縁部研磨。両端にキザミ目	覆土中	
DP102	土器片鉢	5.3	3.8	1.2	23.1	長石・石英	にぶい赤褐色	周縁部研磨。両端にキザミ目	覆土中	
DP103	土器	(6.7)	(4.9)	(3.6)	(84.6)	長石・石英・雲母	灰褐色	散状。胴部下縁部出し。正面縦位の3本と2本の細沈線垂下。裏面4本1列の細沈線垂下。背縁部3本1列の細沈線垂下。底面指ナデ	覆土中	PL159 SK522と整合

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 276	鏡	21	1.9	0.4	(1.3)	チャート	無条線。表裏面押入割離	覆土中	PL161
Q 277	打製石斧	(8.2)	8.6	2.3	(263.1)	砂岩	分銅形。表裏に自然面。刃部は表裏を敲打。片刃部欠損	覆土中層	磨石の再利用
Q 278	磨製石斧	(4.3)	2.1	1.1	(11.9)	砂岩	斬小型。扁平な自然面を使用し、刃部は片面を研ぎ出す	覆土中	
Q 279	敲砥石	6.1	5.5	3.2	124.0	チャート	円盤の周縁部に多方向からの砥面により核をもつ	覆土下層	PL173
Q 280	凹石	12.2	9.7	4.5	736.5	安山岩	表裏面中央部に敲打による浅い凹み。両側縁中央部に敲打痕。全面磨り調整	覆土中層	PL181

第 536 号土坑 (第 457・458 図 PL76)

位置 調査区西部の C 2 i0 区、標高 29 m ほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第 505 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は径 2.08 ~ 2.25 m のほぼ円形である。底面は径 2.21 ~ 2.33 m の不整形円形で、ほぼ平坦である。確認面からの深さは 103cm で、壁は北部を除いて内彎して、袋状を呈している。

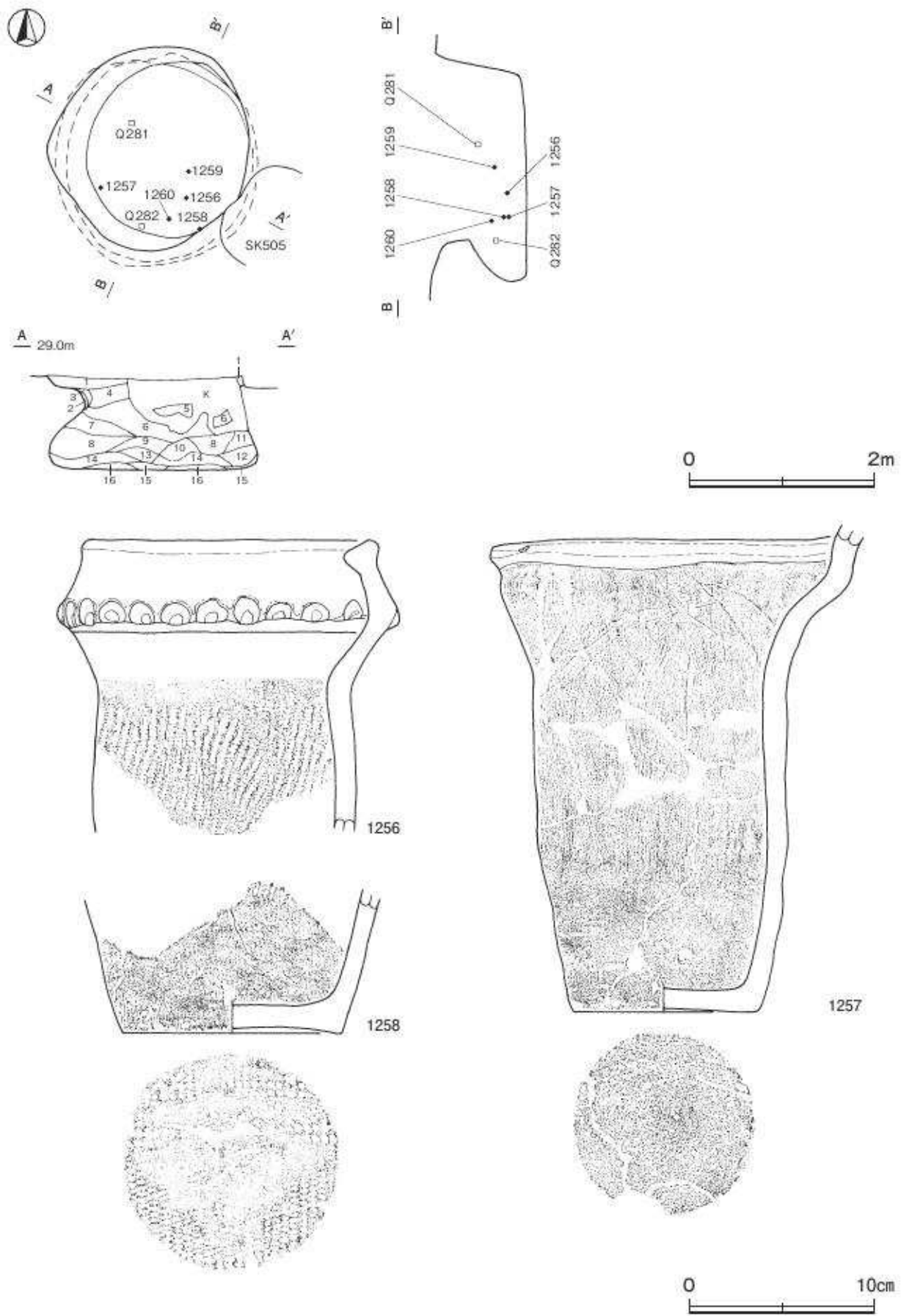
覆土 16 層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

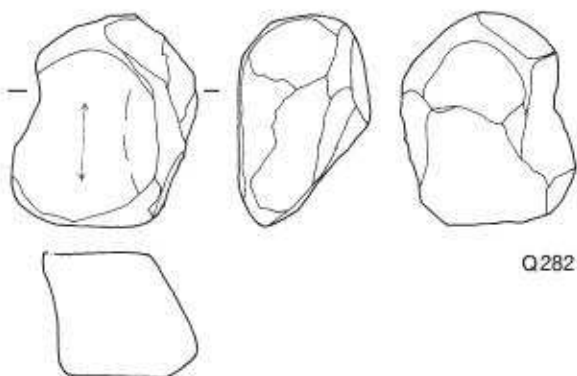
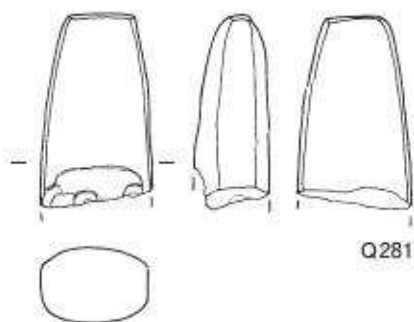
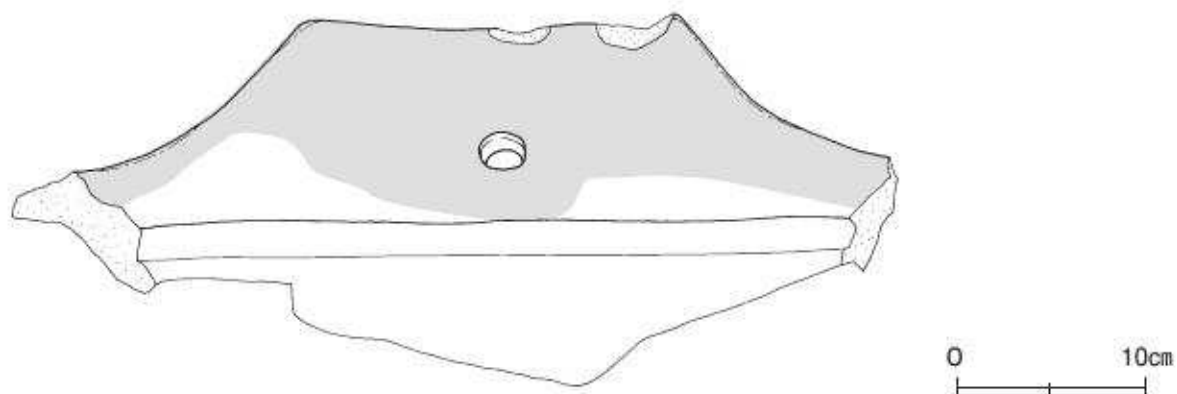
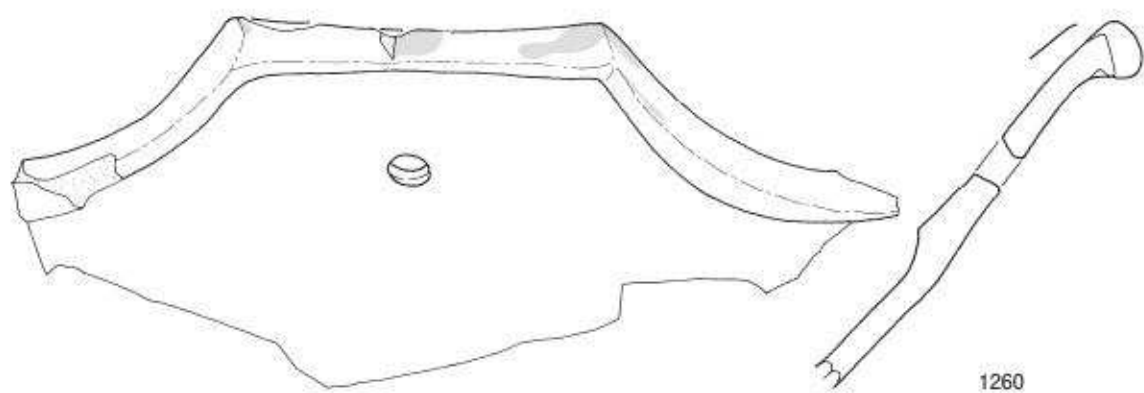
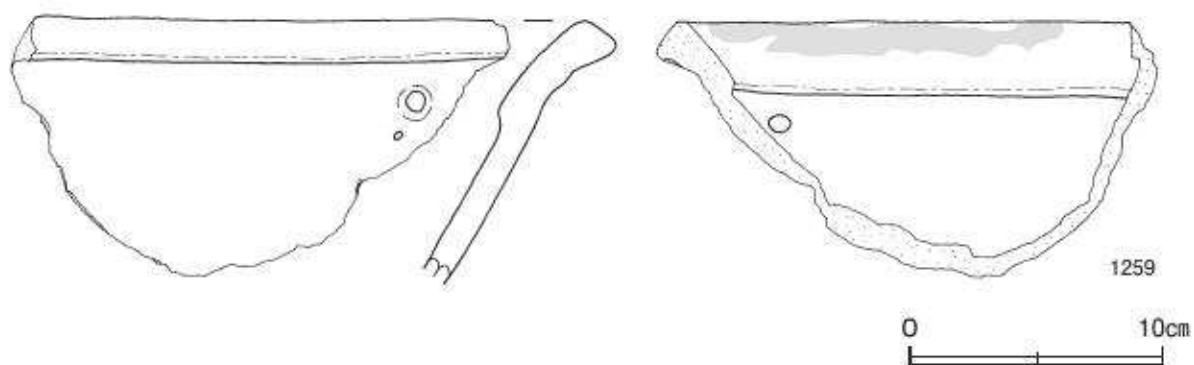
1 黒褐色	ロームブロック少量	9 暗褐色	ロームブロック少量
2 にぶい黄褐色	ローム粒子微量	10 暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子微量	11 黒褐色	ローム粒子微量
4 黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	12 黒褐色	ロームブロック微量
5 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	13 暗褐色	ロームブロック中量
6 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子中量	14 にぶい黄褐色	ロームブロック中量
7 黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	15 にぶい褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
8 黒褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	16 にぶい褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片 182 点 (深鉢 172, 浅鉢 10), 石器 3 点 (磨製石斧, 磨石, 敲砥石) が、覆土中層を中心に散乱した状態で出土している。1257 はほぼ完形で、覆土下層から出土していることから、ある程度埋め戻されてから投棄されたものと思われる。1256・1258 は覆土下層から、1259・1260, Q 281・Q 282 は覆土中層から破片や欠けた状態で出土し、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第457图 第536号土坑·出土遗物实测图



第 458 図 第 536 号土坑出土遺物実測図

第 536 号土坑出土遺物観察表 (第 457・458 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1256	縄文土器	深鉢	15.2	(15.9)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい椀	普通	口縁下部押付隆帯周囲・頸部無文帯・胴部平面縄文 RL 斜回転による緩走縄文	覆土下層	50% PL143
1257	縄文土器	深鉢	19.0	(26.4)	9.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい椀	普通	口縁に 1 単位の突起状・口縁に隆帯貼付・胴部筒筒状工具による緩走波状文	覆土下層	90% PL143
1258	縄文土器	深鉢	-	(7.3)	11.8	長石・石英・雲母	椀	普通	胴部筒筒状工具による条縄文・底面網代模	覆土下層	10%
1259	縄文土器	浅鉢	-	(12.2)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい漬刺	普通	口縁部に穿孔・外・内面磨き・内面に稜	覆土中層	
1260	縄文土器	浅鉢	-	(19.6)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい漬刺	普通	液頂部に穿孔・口唇部肥厚・外・内面磨き	覆土中層	10% PL143
1261	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明黄褐	普通	2 条の骨割れ隆帯による口縁部区画・区画内基文に平面縄文 LR (縦)・骨割れ隆帯による渦巻文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 281	磨製石斧	(7.8)	4.5	3.1	(168.0)	緑色凝灰岩	定角式 全面研磨 刃部欠損	覆土中層	PL167
Q 282	敲砧石	8.4	7.4	5.3	352	砂岩	円縁の両端部に敲打痕 表面及び側縁に砥面をもつ	覆土中層	磨製石斧の再利用

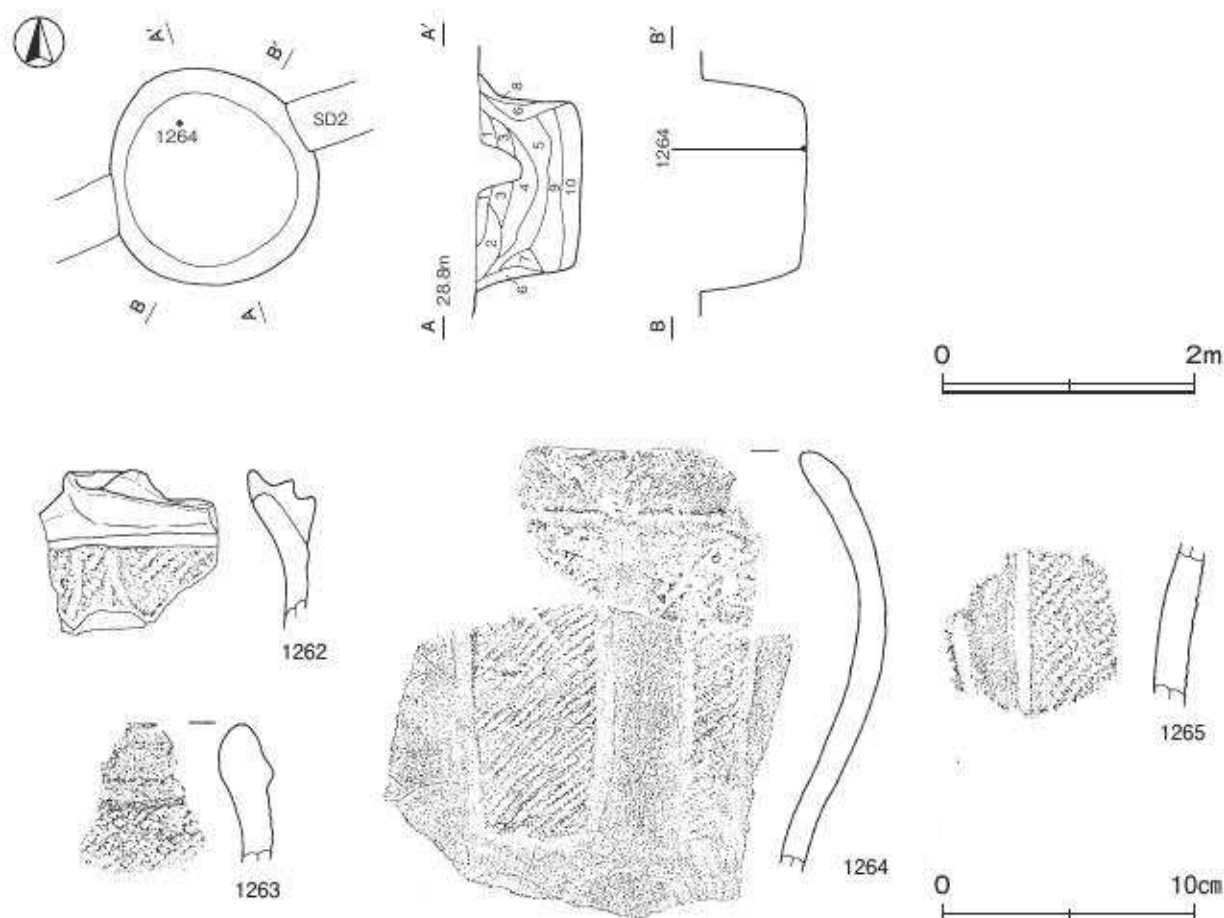
第 537 号土坑 (第 459 図 PL76)

位置 調査区南部の D 3 b3 区、標高 29 m ほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第 2 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 径 1.64 ~ 1.75 m の円形で、底面は平坦である。深さは 78 cm で、壁は直立している。

覆土 10 層に分層できる。黒褐色土がレンズ状に堆積していることから、自然堆積である。



第 459 図 第 537 号土坑・出土遺物実測図

土層解説

1	黒褐色	ロームブロック少量
2	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
3	黒褐色	ローム粒子中量
4	黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
5	黒褐色	ロームブロック微量
6	暗褐色	ロームブロック微量
7	暗褐色	ローム粒子微量
8	褐色	ロームブロック少量
9	黒褐色	ローム粒子微量
10	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片 157 点（深鉢 149、浅鉢 8）、石器 1 点（石皿）が出土している。1264 は北部の覆土下層から、破片が散乱した状態で出土している。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

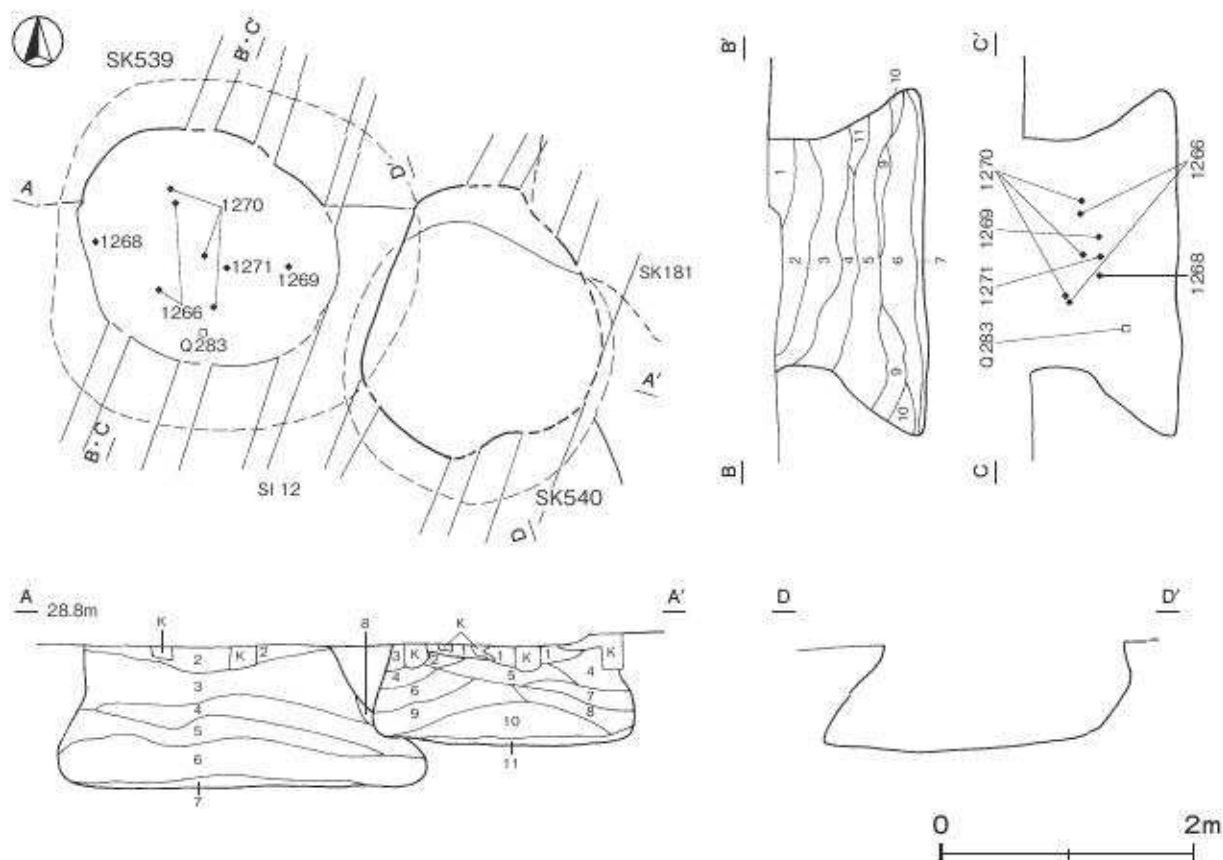
第 537 号土坑出土遺物観察表（第 459 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1262	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	口唇部に西み、口縁に沿って青褐色帯貼付、単節縄文 RL（縦）、沈線による風状文	覆土中	
1263	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	口縁に沿って微隆起線文、口縁下単節縄文 RL（縦）6 文	覆土中	
1264	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	口縁に沿って隆帯部付、箱門杉の太沈線区画文、区画内単節縄文 RL（縦）充填	覆土下層	PL144
1265	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・黒曜	にぶい黄褐色	普通	単節縄文 RL（縦）、太沈線間筋消巻垂文	覆土中	

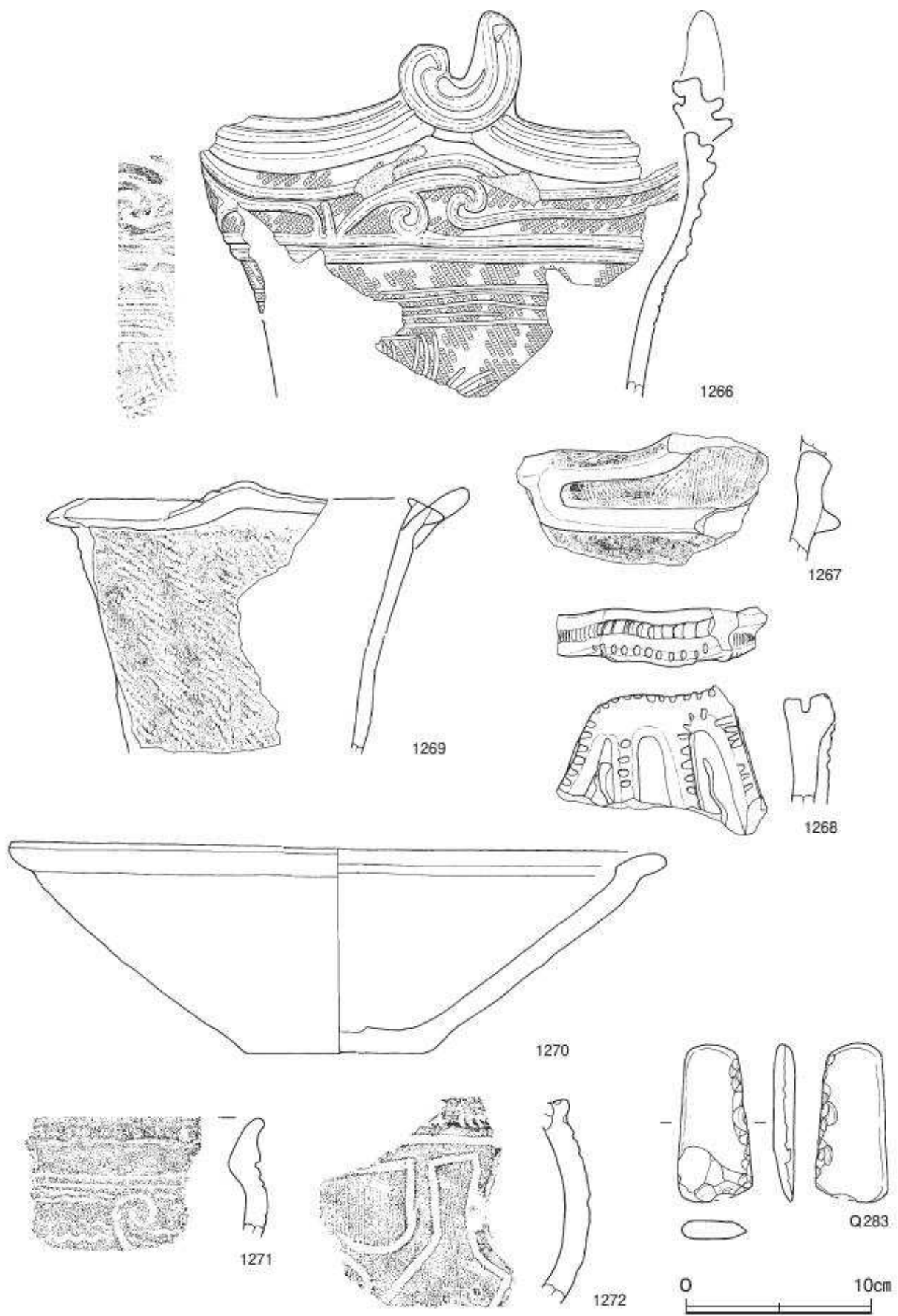
第 539 号土坑（第 460・461 図 PL76）

位置 調査区中央部の C 3e2 区、標高 29 m ほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第 12 号竪穴建物、第 540 号土坑に掘り込まれている。



第 460 図 第 539・540 号土坑実測図



第 461 图 第 539 号土坑出土遗物实测图

規模と形状 開口部は長径 2.10 m、短径 1.73 m の楕円形で、長径方向は N - 52° - W である。底面は径 2.74 ~ 2.86 m の不整形円で、ほぼ平坦である。確認面からの深さは 120cm で、壁は内彎して、袋状を呈している。

覆土 11 層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

1	黒褐色	ローム粒子微量	7	暗褐色	ロームブロック中量、坩沼土ブロック少量
2	黒褐色	ローム粒子中量、炭化種子少量、焼土粒子微量	8	暗褐色	ロームブロック少量
3	黒褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	9	黒褐色	ロームブロック中量、炭化物微量
4	黒褐色	ロームブロック少量	10	黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
5	黒褐色	ロームブロック中量	11	極暗褐色	ロームブロック微量
6	暗褐色	ロームブロック中量			

遺物出土状況 縄文土器片 326 点（深鉢 325、浅鉢 1）、石器 2 点（打製石斧）が、覆土中層を中心に散乱した状態で出土している。1266・1270 は覆土上層から中層にかけて出土しており、離れた位置のものが接合していることから、破碎されたものが投棄されたと考えられる。1268・1269・1271、Q 283 は、破片や欠けた状態で覆土中層から出土しており、埋土と一緒に投棄されたものと考えられる。

所見 規模や形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第 539 号土坑出土遺物観察表（第 461 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1266	縄文土器	深鉢	28.0	(20.4)	-	長石・石英	暗赤褐	普通	口縁に沿って2本の青褐色隆帯一説、口縁部単部補文LR（横）、隆帯による区画文・渦巻文・斜光文、頸部同一形状（縦）5本の横走沈線文	覆土上-中層	30% PL144
1267	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	厚みの隆帯による区画文、区画間飾面破砕工具による条線文で充填	覆土中	
1268	縄文土器	深鉢	-	(8.1)	-	長石・石英・雲母	褐	普通	口唇部連続爪形文、口縁に沿ってキザミ目を有する隆帯文	覆土中層	
1269	縄文土器	深鉢	[17.9]	(14.5)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口唇部に平坦面作出、胴部縦状に単部補文LR（縦）施文	覆土中層	10% PL144
1270	縄文土器	浅鉢	34.7	11.6	9.5	長石・石英・雲母・磁鉄	にぶい赤褐	普通	口唇部は大きく開き平坦面作出、内面に横	覆土上-中層	70% PL144 外面煤片着
1271	縄文土器	深鉢	-	(6.4)	-	長石・石英・雲母・磁鉄	にぶい褐	普通	口縁部沈線による横走文・波状文・渦巻文	覆土中層	
1272	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	口縁に沿う隆帯下に連続爪形文、口縁部ヘラ状工具による条線土に沈線による曲線文	覆土中	PL144

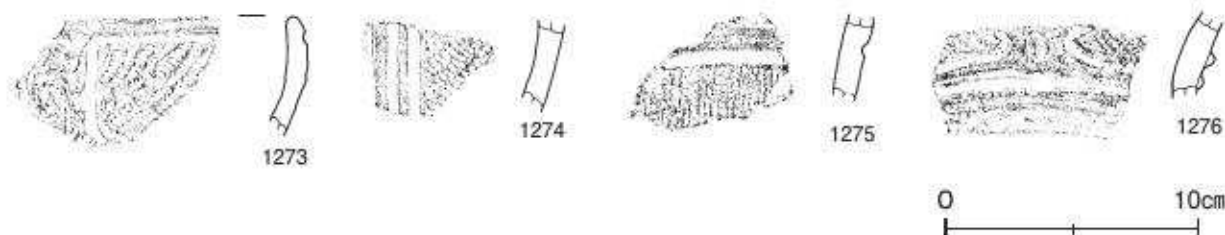
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 283	打製石斧	8.6	4.1	1.1	(60.3)	菱貫安山岩	撥形、表裏に自然面、片側縁敲打調整、刃部は片面を敲打	覆土中層	PL165

第 540 号土坑（第 460・462 図 PL77）

位置 調査区中央部の C 3e3 区、標高 29 m ほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第 12 号竪穴建物跡、第 181・539 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 開口部は径 1.78 ~ 1.92 m の不整形円形である。底面は径 2.10 ~ 2.52 m の不整形円形で、ほぼ平坦である。確認面からの深さは 85cm で、壁は北東部が外傾し、その他は内彎して、袋状を呈している。



第 462 図 第 540 号土坑出土遺物実測図

覆土 11層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|--------|----------------|--------|------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量 | 7 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量 | 8 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土粒子少量、ローム粒子微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック微量 | 10 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子少量 | 11 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 42 点（深鉢）、剥片 1 点（チャート）が、覆土中からまばらに出土している。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

第 540 号土坑出土遺物観察表（第 462 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1273	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐色	普通	地文の単節縄文 LR（横）沈線による方形区画文 区画と区画の間沈線による葉字文	覆土中	
1274	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	地文の単節縄文 RL（縦）3本の沈線による彫 治整歪文	覆土中	
1275	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・ 赤色粒子	褐色	普通	地文に縦位の熱赤文・横位の太沈線が一巡	覆土中	
1276	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	赤褐色	普通	地文に単節縄文 LR（縦）沈線を伴う陰帯による 区画文 区画の接点に円形斜交文	覆土中	

第 541 号土坑（第 463・464 図 PL77）

位置 調査区中央部の C 3 区、標高 29 m ほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第 12 号堅穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は径 1.45 ~ 1.47 m の不整形円形である。底面は径 1.75 ~ 1.82 m の不整形円形で、ほぼ平坦である。確認面からの深さは 79cm で、壁は東部を除いて内彎して、袋状を呈している。

覆土 7層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

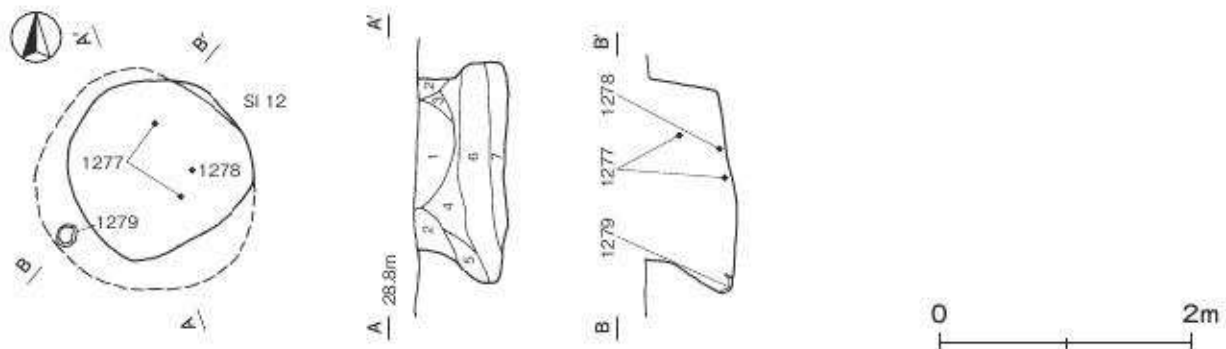
土層解説

- | | | | |
|--------|----------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量 | 5 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土粒子少量、ローム粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | | |

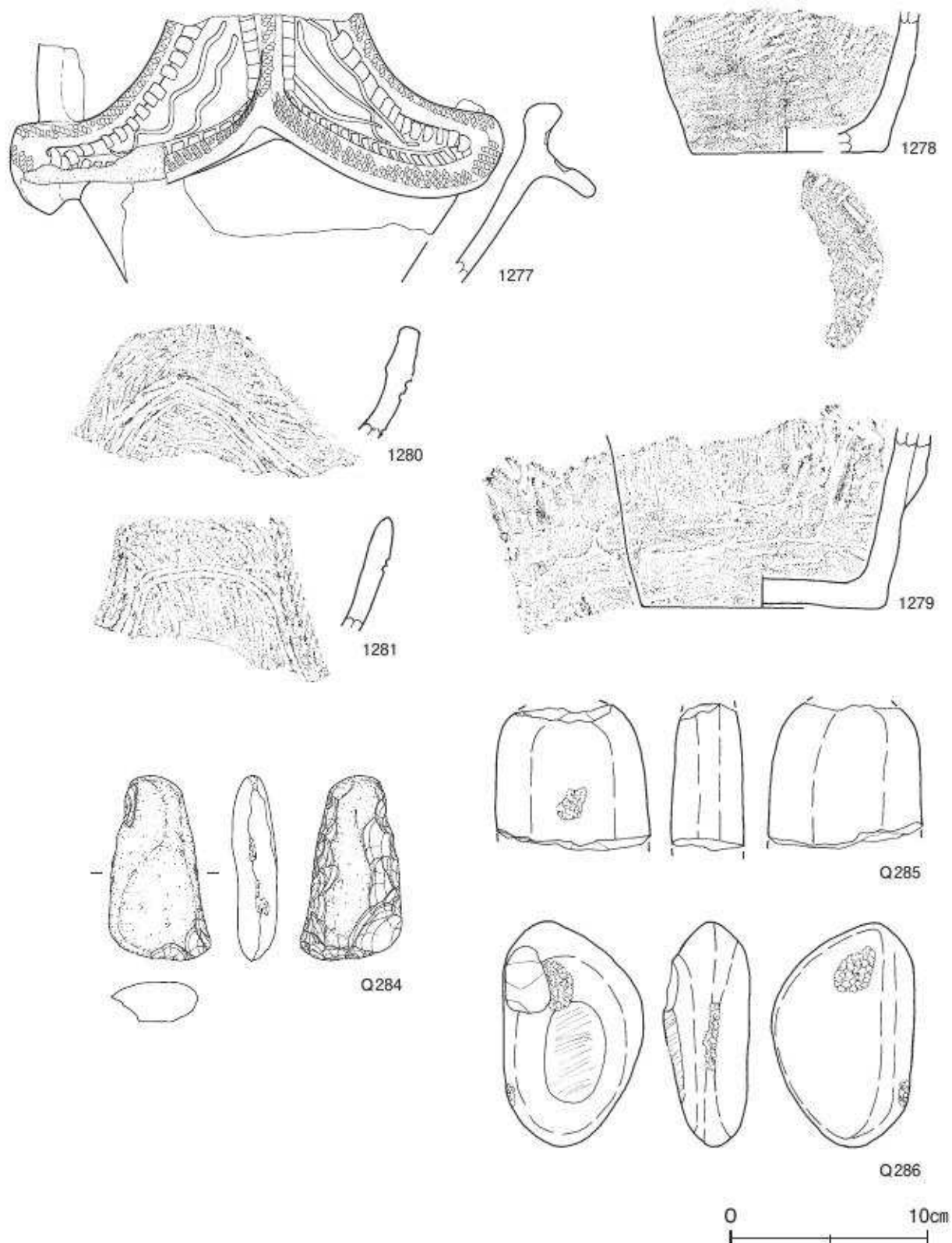
遺物出土状況 縄文土器片 59 点（深鉢）、石器 3 点（打製石斧、磨石、敲石）が、覆土全体からまばらに出土している。1277 は離れた位置から出土したものが接合しており、破碎されたものが投棄されたと思われる。

1278・1279 は破片で覆土下層から出土していることから、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

所見 規模と形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第 463 図 第 541 号土坑実測図



第 464 図 第 541 号土坑出土遺物実測図

第 541 号土坑出土遺物観察表 (第 464 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1277	縄文土器	深鉢	23.0	(13.7)	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	良好	縄文施文の既状隆帯による区間文。隆帯に沿って連続爪形文。区間内沈線による波状文。頸部無文帯	覆土中～下層	30% PL144
1278	縄文土器	深鉢	—	(7.4)	[9.8]	長石・石英・雲母	にぶい赤	普通	施文に0段多条車筋縄文 RL (縦) 施文。胴部下端部磨き。底面網代痕	覆土下層	10%
1279	縄文土器	深鉢	—	(9.3)	12.3	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	樽筒状工具による縦位の条線文上に露鉢状隆帯垂下。底面網代痕	覆土下層	20%
1280	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	赤褐色	普通	口縁に沿って無前縄文 L 施文の隆帯貼付。隆帯に伴って幾本の沈線文	覆土中	
1281	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	口縁に沿って縄文施文の隆帯貼付。隆帯に伴って半截竹管による並行沈線文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 284	打製石斧	9.5	5.2	2.3	1475	緑色岩	變形。自然産の剥離部の片面を敲打。万部は表裏を敲打	覆土中	PL165
Q 285	磨石	(7.5)	7.9	3.7	(363.1)	安山岩	全面磨面。表面に微細な敲打痕。下半部欠損	覆土中	
Q 286	敲石	11.4	7.2	4.4	685	緑色岩	全面磨面。表裏面、側面に微細な敲打痕	覆土中	PL173

第 542 号土坑 (第 465・466 図 PL77)

位置 調査区中央部の C 3 区画。標高 29 m ほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第 12・16 号堅穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 開口部は径 2.43 ~ 2.47 m の不整形円形である。底面は径 2.32 ~ 2.36 m の円形で、ほぼ平坦である。確認面からの深さは 84cm で、壁は北西部がほぼ直立し、その他が内彎して、袋状を呈している。

ピット 2 が所。P 1 は深さ 120cm で、形状から柱穴と考えられる。P 2 は深さ 17cm で、性格不明である。

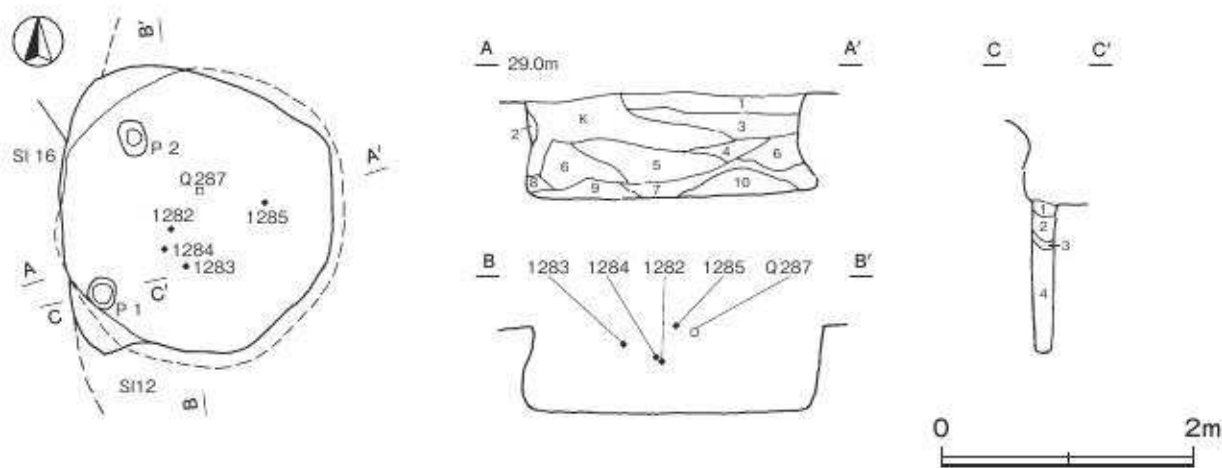
ピット土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量

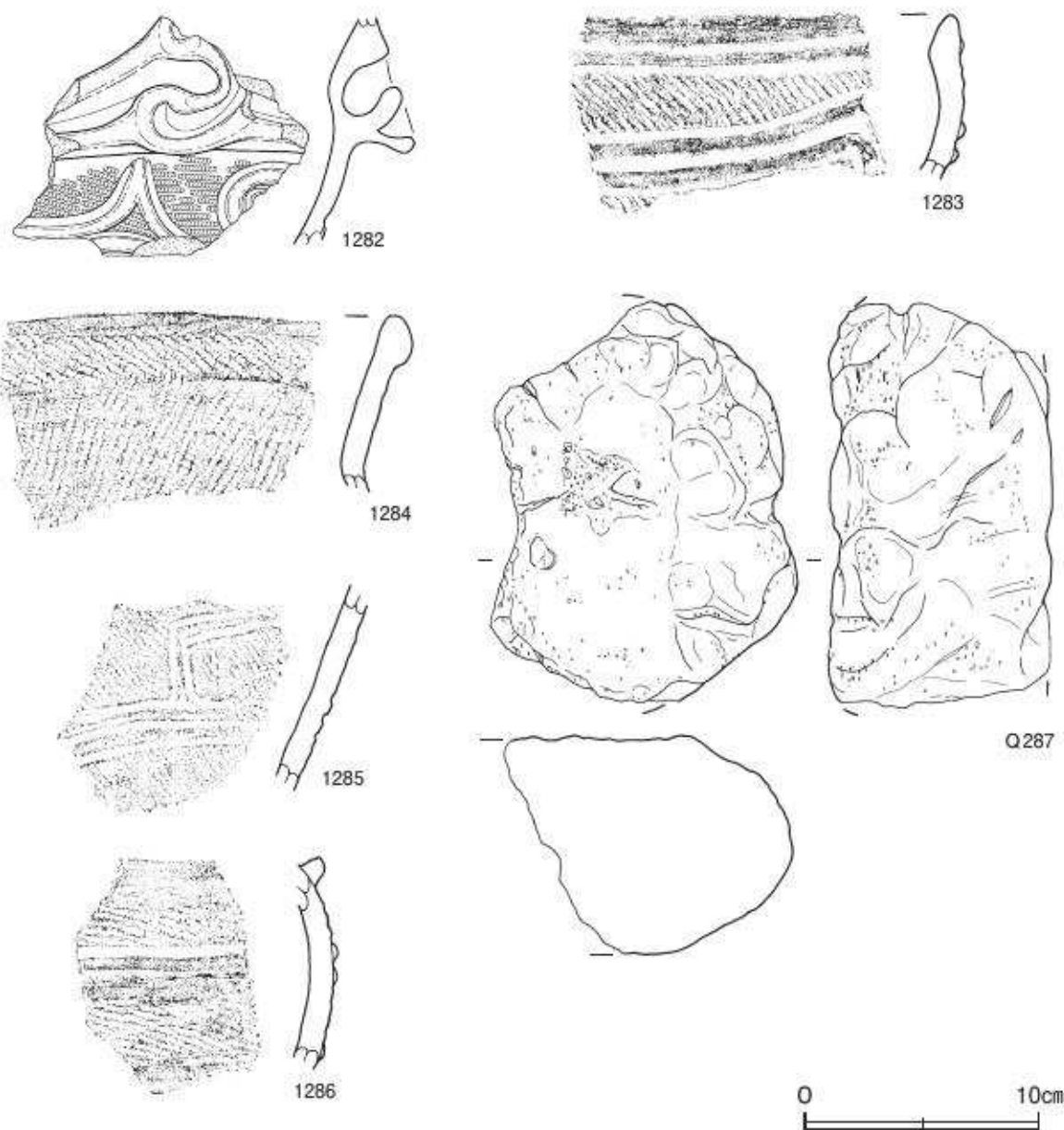
覆土 10 層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ロームブロック中量
- 7 黒褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 8 黒褐色 ロームブロック少量
- 9 黒褐色 ローム粒子少量
- 10 黒褐色 ロームブロック中量



第 465 図 第 542 号土坑実測図



第466図 第542号土坑出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片197点（深鉢）、石器1点（浮子）が、覆土上層から中層にかけて、散乱した状態で出土している。1282～1284は破片で覆土中層から、1285、Q287は破片や欠けた状態で覆土上層から出土しており、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第542号土坑出土遺物観察表（第466図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1282	縄文土器	深鉢	-	(10.3)	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	橙	普通	厚めの隆帯による渦巻文を有する把手。隆帯による区画文。地文に単節縄文LR（斜）。渦巻文。0枚多葉縄文RL（縦）。沈線を持つ隆帯による区画文。区画内沈線を持つ2条の隆帯による弧状文。	覆土中層	PL145
1283	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通		覆土中層	
1284	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	暗褐色	普通	口縁に沿って単節縄文RL（横）施文の隆帯貼付。頸部同一器体（疑）。	覆土中層	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1285	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい青褐色	普通	地文に草節縄文LR(縦) 矩形文 胴部と3本の沈線文で区画	覆土上層	
1286	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい青褐色	普通	地文の草節縄文LR(縦) 沈線を伴う2条の隆帯による区画文 区画内横走文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 287	浮子	(17.1)	(13.2)	9.6	(52.6)	磨石	中央部わずかに凹む 上面・側面に研磨痕	覆土上層	

第 543 号土坑 (第 467 ~ 470 図 PL78)

位置 調査区中央部のC 3 g2 区、標高 29 m ほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第 12 号堅穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は長径 1.80 m、短径 1.59 m の楕円形で、長径方向は N - 76° - W である。底面は長径 2.55 m、短径 1.97 m の楕円形で、ほぼ平坦である。確認面からの深さは 110 cm で、壁は北東部が緩やかに内彎しており、その他が大きく内彎して、袋状を呈している。

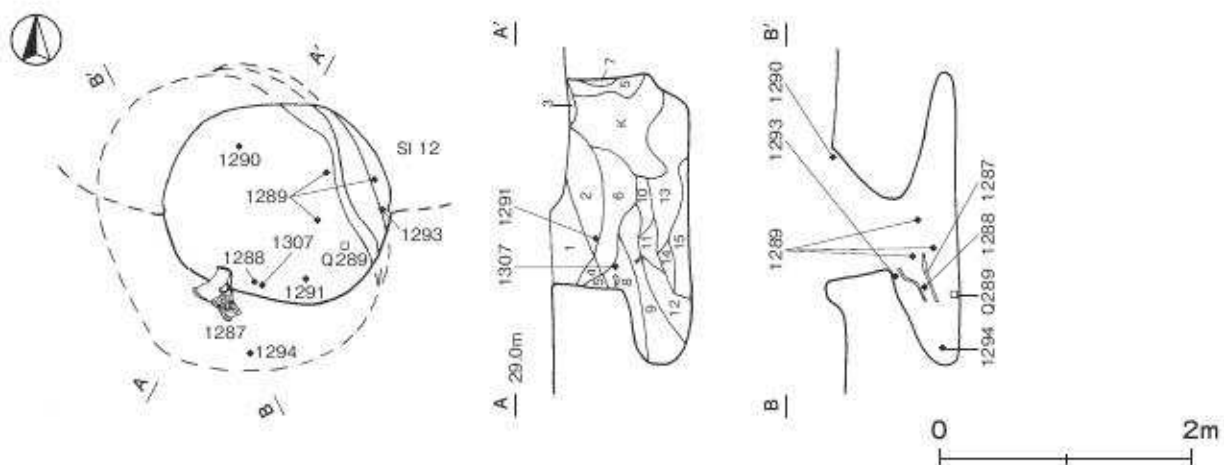
覆土 15 層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

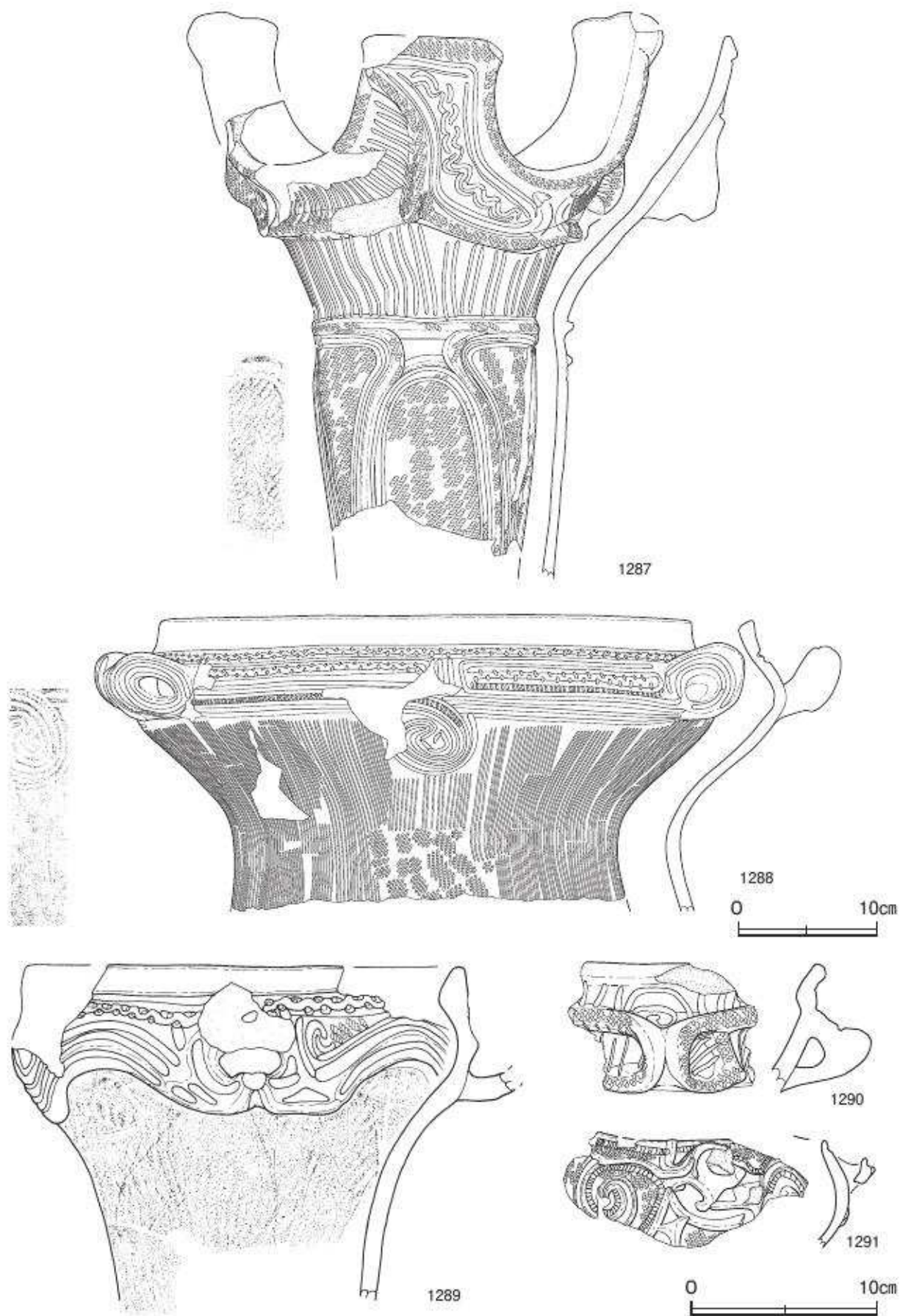
- | | | | |
|----------|------------------|---------|------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック中量 | 9 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量 | 10 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量 | 11 極暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック微量 | 12 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック微量 | 13 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 6 にぶい褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 14 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子微量 |
| 7 にぶい黄褐色 | ロームブロック少量 | 15 黒褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 8 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 316 点 (深鉢 315、小型浅鉢 1)、石器 3 点 (磨製石斧 2、凹石 1) が、全体の各層から散乱した状態で出土している。1287 と 1288 は覆土下層から横位の状態で出土しており、ある程度埋まってから、投棄されたものと思われる。1289 は覆土中層から下層にかけて出土し、離れた位置のものが接合していることから、破碎したものを投棄したと思われる。1294、Q 289 は覆土下層から、1293 は覆土中層から、1290 は覆土上層から、それぞれ破片や欠けた状態で出土し、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

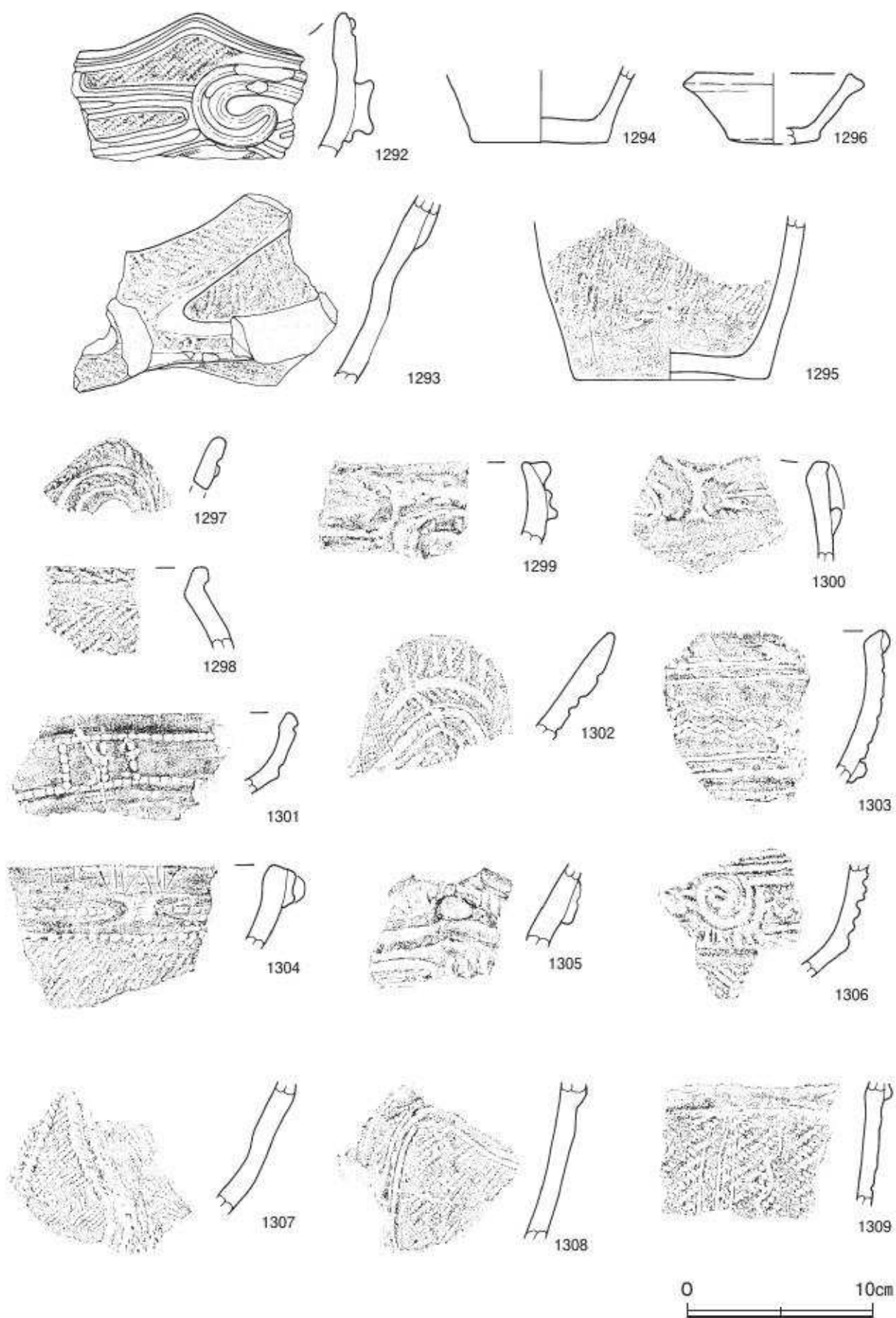
所見 規模と形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



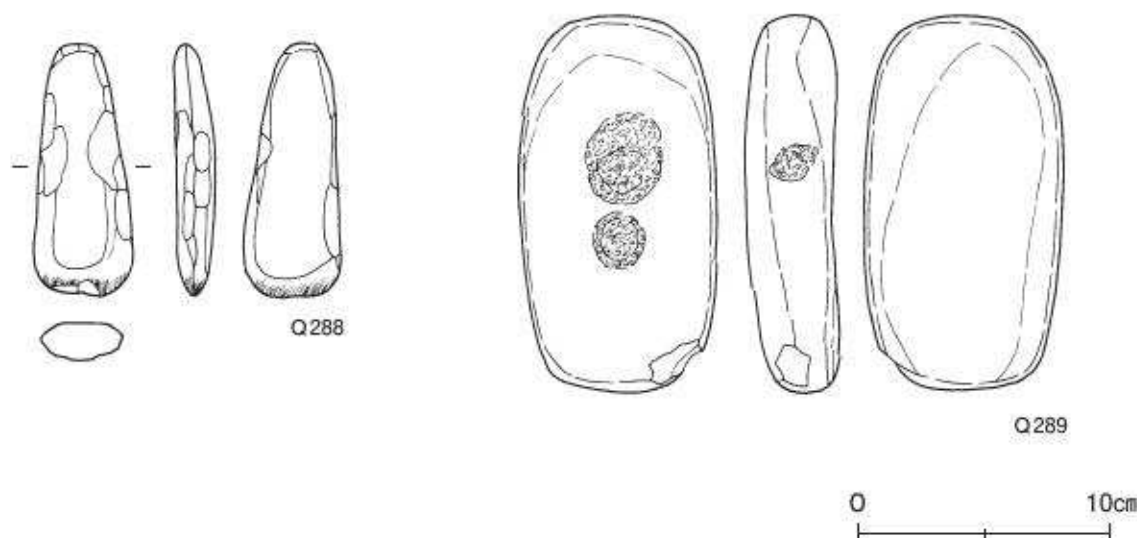
第 467 図 第 543 号土坑実測図



第 468 図 第 543 号土坑出土遺物実測図 (1)



第 469 图 第 543 号土坑出土遗物实测图 (2)



第 470 図 第 543 号土坑出土遺物実測図 (3)

第 543 号土坑出土遺物観察表 (第 468 ~ 470 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1287	縄文土器	深鉢	27.0	(40.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	良好	口縁に沿って0段多条単節縄文RL(横)施文の残存隆帯による区間文・区間内並行沈線文・沈線文を充墳・頸部縦位の沈線文・胴部縄文施文の隆帯による波し字文	覆土下層	90% PL145
1288	縄文土器	深鉢	38.5	(21.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	3単位の膨満状把手・環状部沈線による円文・突起部渦巻文・交互斜突文と沈線による方形区間文・区間内横位の交互斜突文と沈線文を充墳・胴部鉤状工具による条線・一部に単節縄文RL(縦)	覆土下層	50% PL145
1289	縄文土器	深鉢	23.3	(18.1)	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	把手部溝線・口縁に沿って交互斜突文・2本の沈線を伴う背割れ隆帯による波状文・胴部単節縄文RL(斜)施文	覆土中～下層	30% PL145
1290	縄文土器	深鉢	-	(7.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	良好	環状部文の厚みのある隆帯による楕円形区間文・区間内縦位の沈線で充墳	覆土上層	PL145
1291	縄文土器	深鉢	-	(5.8)	-	長石・雲母	にぶい褐色	普通	有節沈線を伴う隆帯による渦巻文	覆土中	PL145
1292	縄文土器	深鉢	-	(8.0)	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	地文の単節縄文RL(縦)上に背割れ隆帯による区間文・区間内背割れ隆帯による渦巻文	覆土中	
1293	縄文土器	深鉢	-	(10.2)	-	長石・石英・雲母・磁鉄	にぶい褐色	普通	太げばねを伴う単節縄文RL(横)施文の厚みのある隆帯による区間文・区間内単節縄文充墳	覆土中層	10%
1294	縄文土器	深鉢	-	(4.3)	7.4	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	下端部及び底面入念な磨き	覆土下層	20%
1295	縄文土器	深鉢	-	(7.8)	10.4	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	単節縄文RL(縦)施文・下縁部横方向的の指によるナゲ・底面網代痕	覆土中	10%
1296	縄文土器	小型浅鉢	[8.3]	3.9	[4.8]	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口唇部外削ぎ状で平坦・外・内面横方向的のナゲ	覆土中	30%
1297	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	暗褐色	普通	底頂部中央に穿孔・口縁に沿って単節縄文RL(横)施文の隆帯貼付	覆土中	
1298	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口唇部平坦・口唇部単節縄文RL(横)横ナゲによる凹線が一筋・胴部凹一原体(縦)	覆土中	
1299	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	口唇部平坦面作出・断面薄錐形の隆帯による楕円形区間文	覆土中	
1300	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	隆帯による楕円形区間文・区間内沈線文・頸部単節縄文L施文	覆土中	
1301	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	隆帯による区間文・隆帯に沿って有節沈線文・3本の縦位の有節沈線文	覆土中	
1302	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	底頂部単節縄文LR(縦)施文の隆帯上にキザミ目・口縁に沿って風状の沈線文	覆土中	
1303	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	隆帯による区間文・区間内半截竹管による平行線文・波状文	覆土中	
1304	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口唇部に平坦面・隆帯による楕円形区間文・区間内有節沈線文・胴部単節縄文L(横)施文	覆土中	
1305	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐色	普通	背割れ隆帯による区間文・区間内沈線文で充墳	覆土中	
1306	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒	普通	沈線による方形区間・区間内渦巻文・波状文・単節縄文LR(縦)施文	覆土中	
1307	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	口縁に沿って単節縄文Lキランダムに施文した隆帯貼付・隆帯に沿って2本の有節沈線施文	覆土中	
1308	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	地文に単節縄文LR(横)断面薄錐形の隆帯に沿って手載竹管による並行沈線	覆土中	
1309	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	胴部と胴部の境界に隆帯貼付・地文の単節縄文RL(縦)上に3本の条線文と並行沈線文が垂下	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 288	磨製石斧	10.1	4.0	1.8	95.9	角閃岩	短楕形 自然稜の両側縁に微細な敲打痕 刃部は表裏から研ぎ出す	覆土中	PL168
Q 289	凹石	15.0	7.9	3.8	712.4	砂岩	全面磨り調整 表面2か所、顔面1か所敲打による凹み痕	覆土下層	PL181

第 544 号土坑 (第 471 図)

位置 調査区中央部の C 3 h3 区, 標高 29 m ほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第 550 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 1.90 m, 短径 1.65 m の楕円形で, 長径方向は N - 34° - W である。底面はほぼ平坦である。深さは 8 cm で, 壁は外傾している。

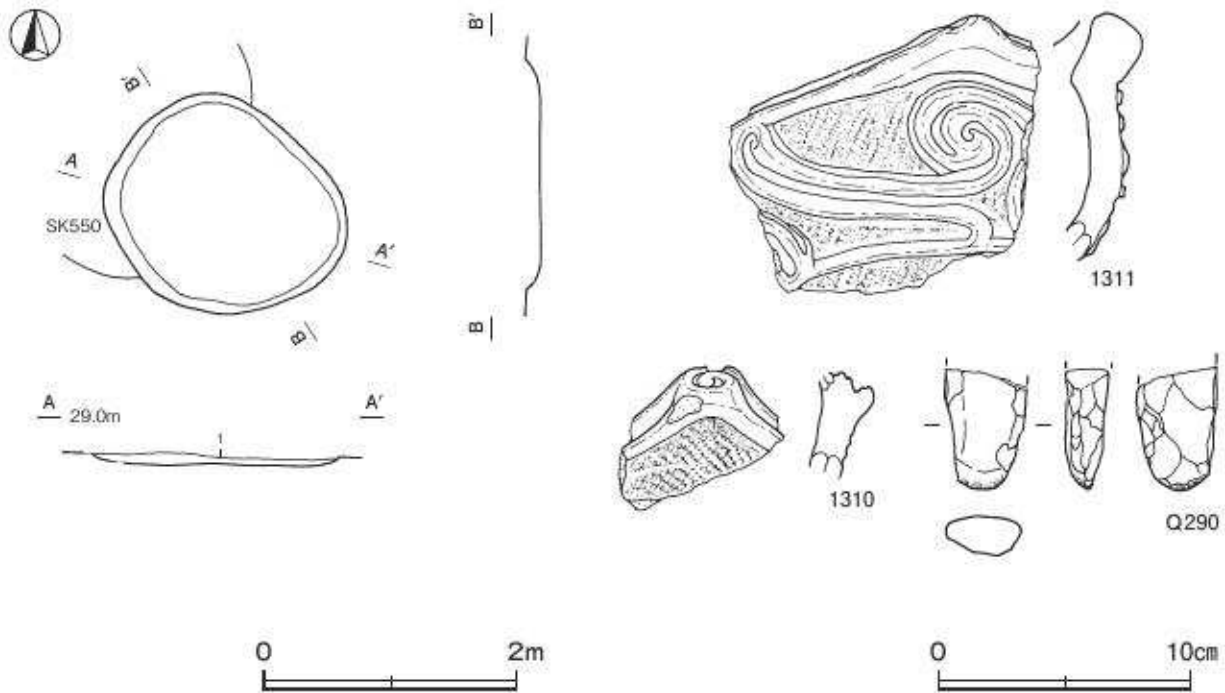
覆土 単一層。黒褐色土が堆積していることから, 自然堆積である。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 縄文土器片 15 点 (深鉢), 石器 1 点 (打製石斧) が, 覆土中からまばらに出土している。

所見 性格は不明である。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。



第 471 図 第 544 号土坑・出土遺物実測図

第 544 号土坑出土遺物観察表 (第 471 図)

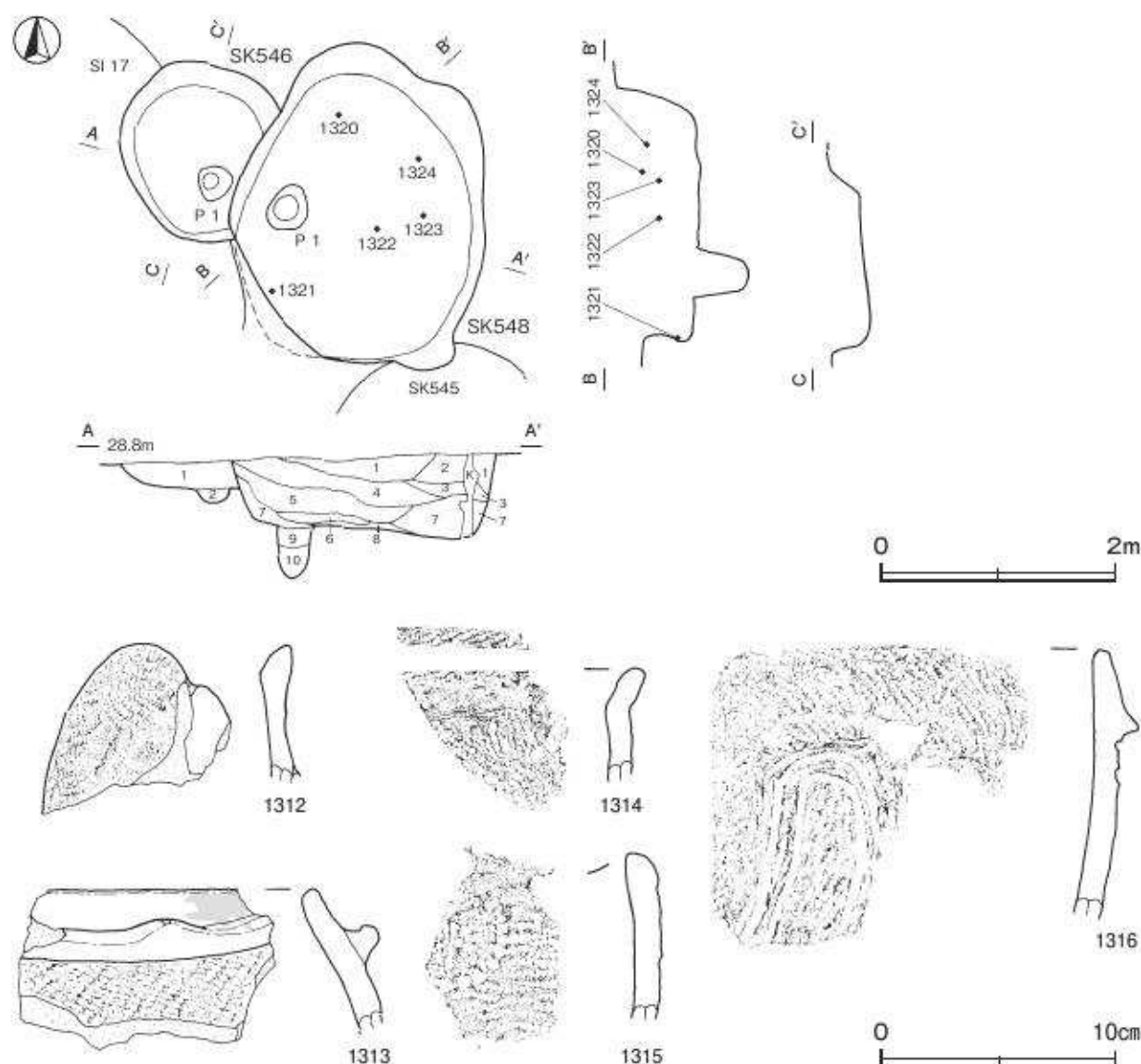
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1310	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	波頂部渦巻文・口唇部に沈線文・口縁に沿って隆帯部付 単節縄文 RL (横) 施文	覆土中	
1311	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母 にぶい縄	黒褐色	普通	単節縄文 RL (縦) 上に隆帯による区間文 区間内沈線を伴う 2 条の隆帯による渦巻文	覆土中	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
Q 290	打製石斧	(49)	3.2	1.8	(36.9)	ホルンフェルス	斲形	片面に自然面	刃縁部敲打調整 基部欠損	覆土中	

第 546 号土坑 (第 472 図 PL78)

位置 調査区中央部の C 3 g1 区, 標高 29 m ほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第 17 号竪穴建物跡を掘り込み, 第 548 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径 1.59 m, 短径 1.40 m の楕円形で, 長径方向は N - 20° - W である。底面はほぼ平坦である。



第472図 第546・548号土坑、第546号土坑出土遺物実測図

深さは22cmで、壁は外傾している。

ピット 中央部の南寄りに位置し、深さは12cmである。形状から柱穴と考えられる。

覆土 2層に分層できる。黒褐色土がレンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック微量

2 黒褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片121点（深鉢）、剥片1点（チャート）が、覆土中から散乱した状態で出土している。

所見 性格は不明である。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第546号土坑出土遺物観察表（第472図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1312	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英-雲母・赤色粒子	にぶい・橙	普通	双峰状の大波状口縁・地文に単節縄文RE(横・縦)	覆土中	
1313	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・赤色粒子	にぶい・黄橙	普通	無文帯下に底状隆帯貼付・隆帯下単節縄文LR(横)施文	覆土中	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1314	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・細砂・赤色粒子	にぶい褐色	普通	口唇部無節縄文L(横) 口縁に沿って隆帯貼付 口縁下単節縄文LR	覆土中	
1315	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・細砂	にぶい褐色	普通	口縁に沿って隆帯貼付 地文に単節縄文RL(縦) 右節沈線による渦巻文	覆土中	
1316	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐色	普通	口縁に沿って単節縄文RL(横) 隆帯の隆帯貼付 隆帯に沿って2本の沈線文	覆土中	

第547号土坑 (第473図)

位置 調査区中央部のC319区、標高29mほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第446号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.80m、短径1.32mの楕円形で、長径方向はN-30°-Wである。底面は、南東方向に緩やかに下降している。深さは37cmで、壁はほぼ直立している。

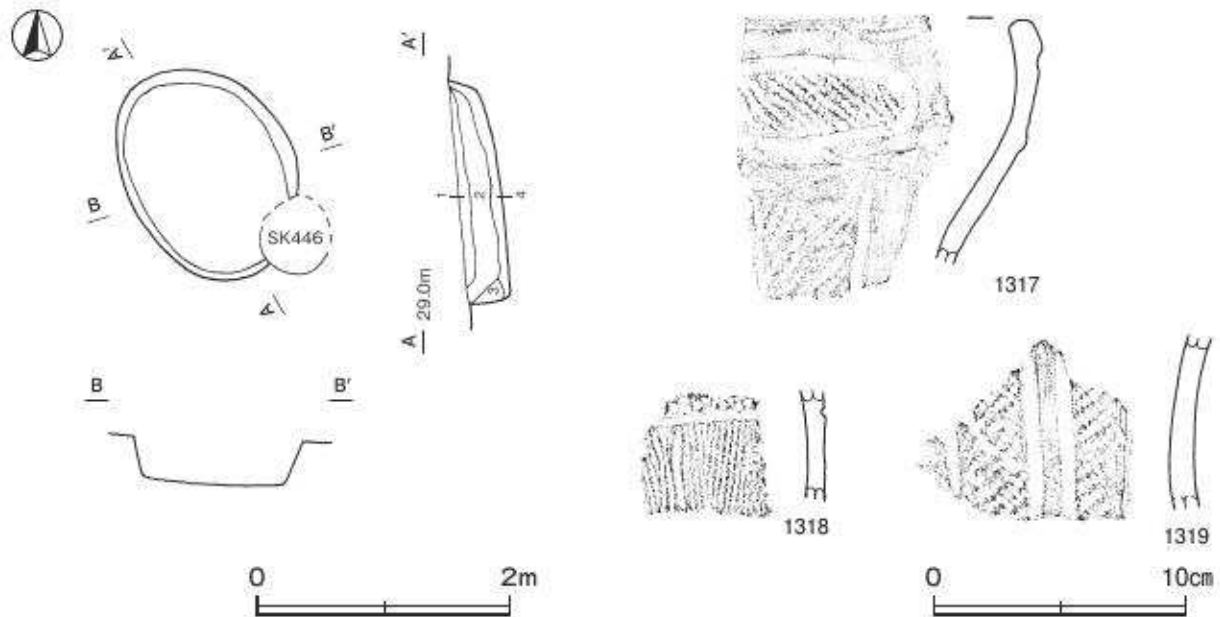
覆土 4層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量 | 3 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量 | 4 褐色 ロームブロック中量 |

遺物出土状況 縄文土器片86点(深鉢)、剥片1点(石英)が、覆土中層を中心に散乱した状態で出土している。

所見 性格は不明である。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。



第473図 第547号土坑・出土遺物実測図

第547号土坑出土遺物観察表 (第473図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1317	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	太沈線を伴う隆帯による楕円形区画文 区画内 単節縄文RL(横) 胴部同一原体(縦) 太沈 線による懸垂文 沈線間密着	覆土中	
1318	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石	にぶい黄褐色	普通	円形刺突文と沈線で胴部と区画 胴部縦走る 懸垂文 沈線による懸垂文	覆土中	
1319	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	0段多条単節縄文RL(縦) 太沈線間密着懸垂文	覆土中	

第 548 号土坑 (第 472・474 図 PL78)

位置 調査区中央部の C 3 h2 区, 標高 29 m ほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第 545・546 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 2.75 m, 短径 2.12 m の不整楕円形で, 長径方向は N-5°-W である。底面はほぼ平坦で, 深さは 72cm である。壁はほぼ直立している。

ピット 中央部から西寄りに位置し, 深さは 46cm である。形状から柱穴と考えられる。

覆土 8 層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから, 埋め戻されている。

第 9・10 層は P 1 の覆土である。

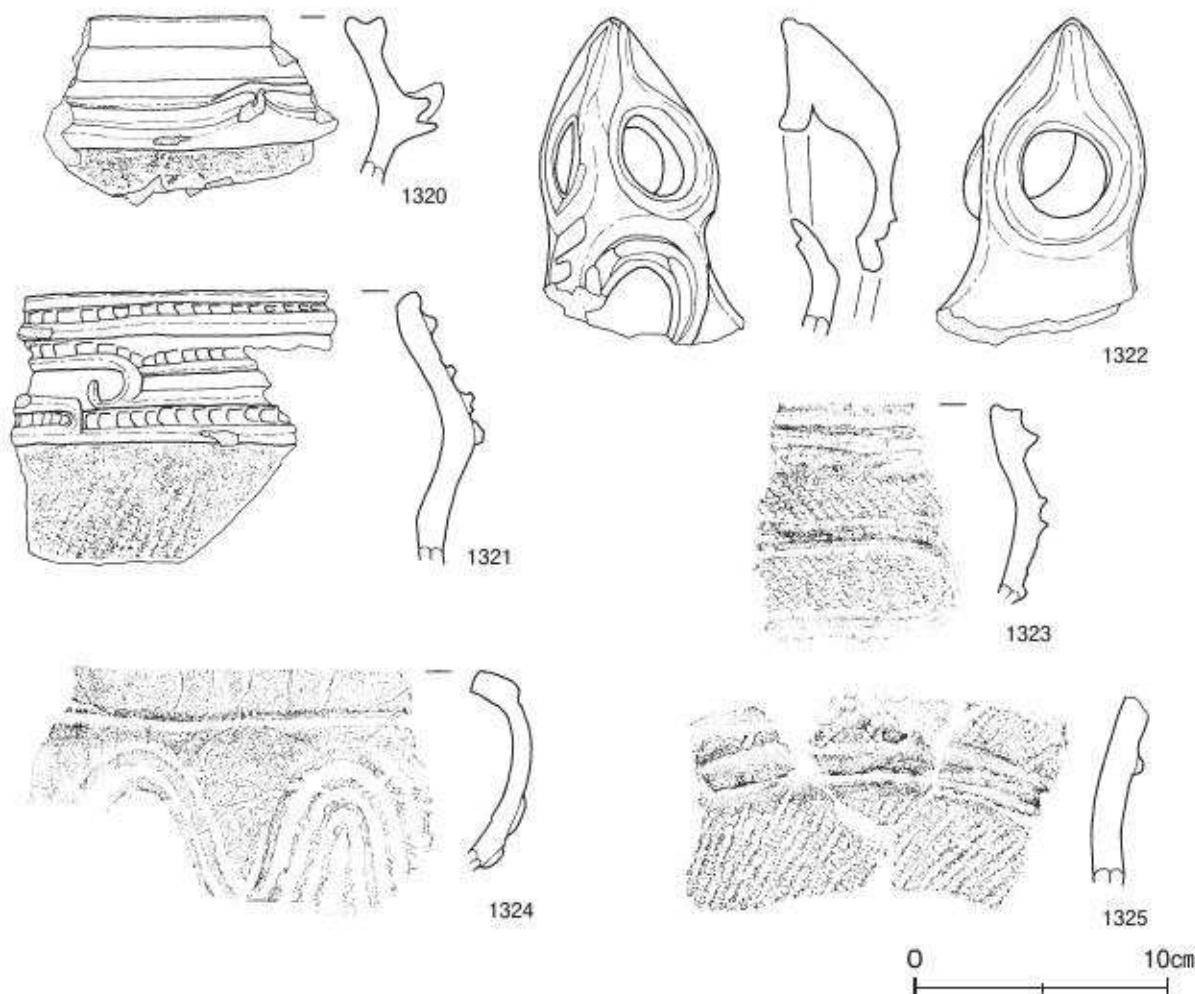
土層解説

1 黒褐色	ローム粒子中量	6 黒褐色	ローム粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック少量	7 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
3 黒褐色	ローム粒子少量	8 暗褐色	ロームブロック少量
4 黒褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量	9 黒褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子微量
5 黒褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量	10 黒褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片 57 点 (深鉢 49, 浅鉢 8) が, 覆土中層を中心に散乱した状態で出土している。

1321 ~ 1324 は覆土中層から, 1320 は覆土上層から, それぞれ破片で出土し, 埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。



第 474 図 第 548 号土坑出土遺物実測図

第 548 号土坑出土遺物観察表 (第 474 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1320	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明赤褐色	普通	口唇部凹み 洋彫状口縁 突起を有する彫状隆帯による区画	覆土上層	
1321	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	有節沈線文を伴う隆帯による口縁部区画 区画内降起線による渦巻文 単節縄文 RL (縦) 施文	覆土中層	PL145
1322	縄文土器	深鉢	-	(129)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	背割れ隆帯による3孔を有する剣先状の中空把手	覆土中層	
1323	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・細砂	にぶい橙	普通	口唇部凹み 背割れ隆帯による区画文 地文の単節縄文 RL (横) 上にクランク文	覆土中層	
1324	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁に沿って隆帯貼付 沈線を伴う重層する隆帯による波状文	覆土中層	PL145
1325	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	頸部と胴部を沈線を伴う隆帯で区画 胴部単節縄文 RL (縦) 施文	覆土中	

第 549 号土坑 (第 475 ~ 477 図 PL78)

位置 調査区中央部の C 3 g1 区、標高 29 m ほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第 16 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 開口部は径 1.65 ~ 1.69 m のほぼ円形である。底面は径 1.95 ~ 1.99 m の不整形円形で、ほぼ平坦である。確認面からの深さは 74cm で、壁は内彎して、袋状を呈している。

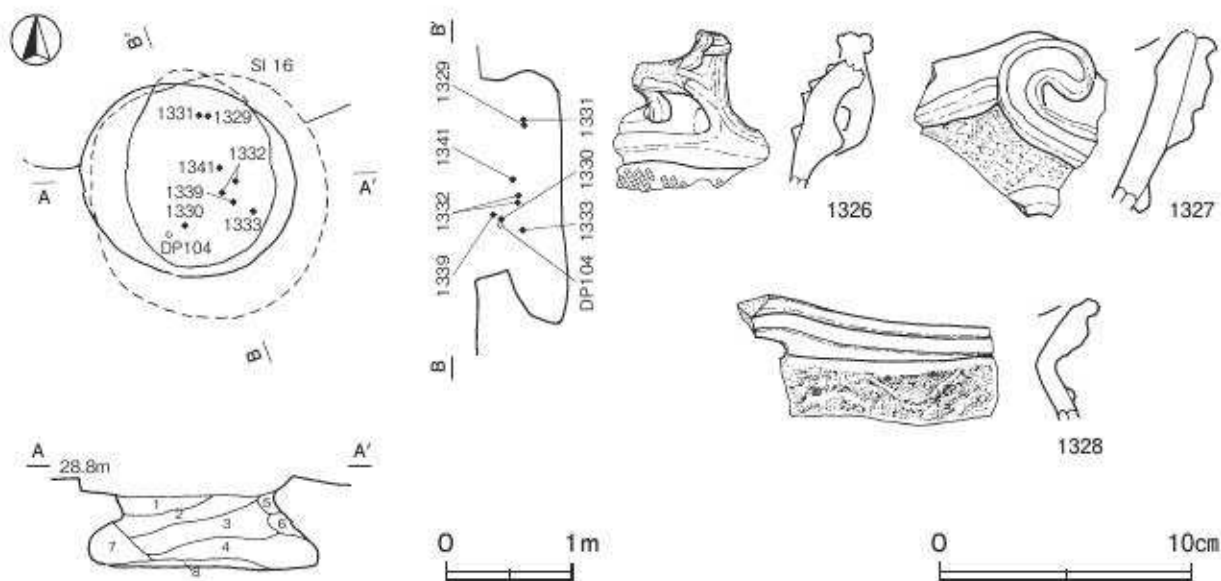
覆土 8 層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

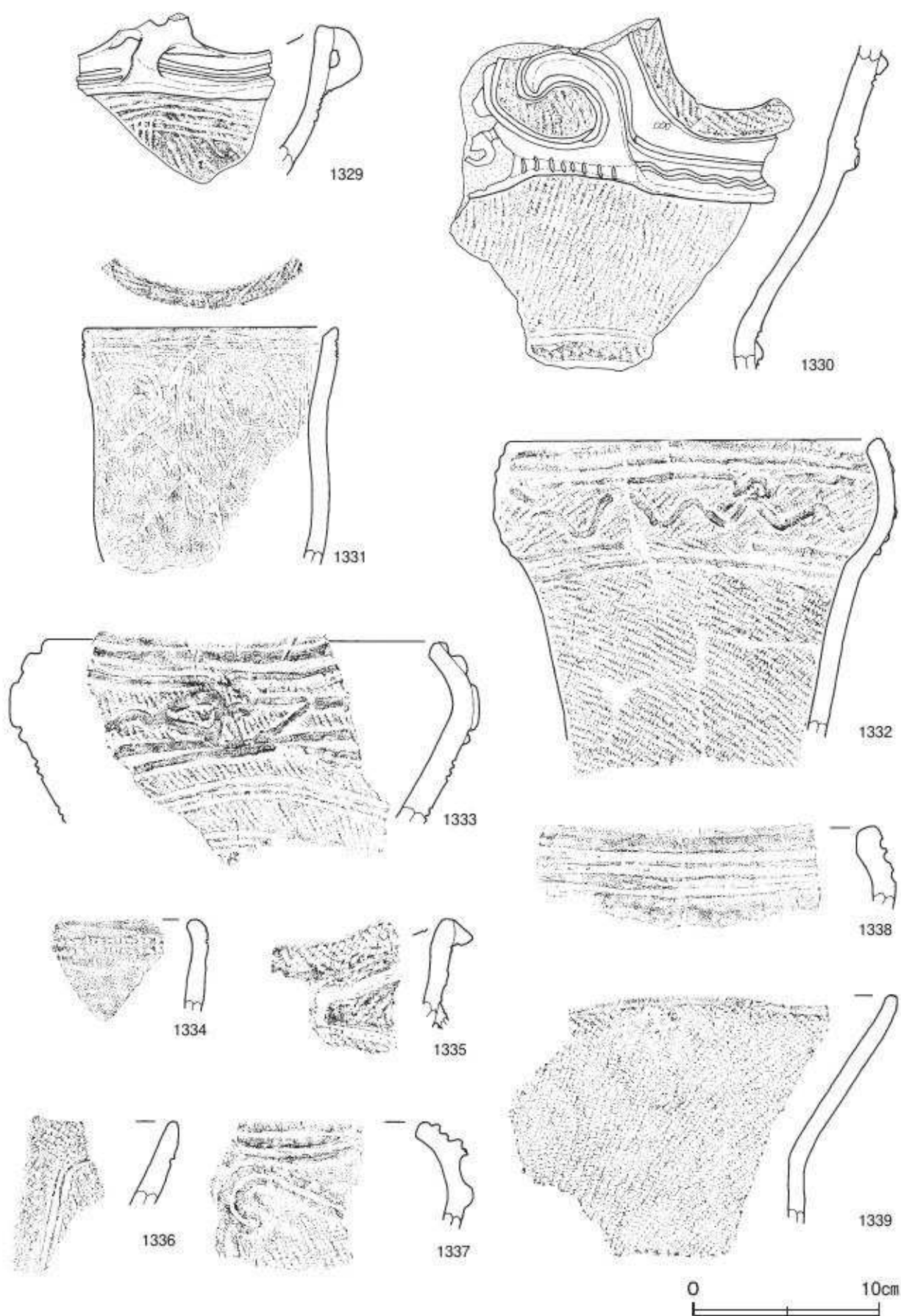
- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック、焼土粒子少量 | 7 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 8 褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片 288 点 (深鉢 286, 浅鉢 2), 土製品 1 点 (土器片錘), 石器 2 点 (磨製石斧, 石皿), 剥片 4 点 (チャート 3, 黒曜石 1) が、覆土中層を中心に散乱した状態で出土している。1329・1331 ~ 1333・1341 は覆土中層から、1330・1339, DP104 は覆土上層から、それぞれ破片で出土し、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

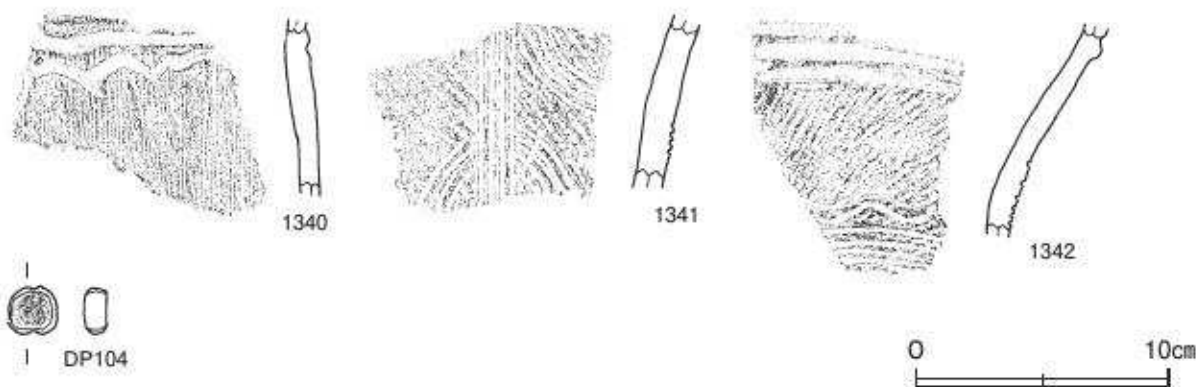
所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第 475 図 第 549 号土坑・出土遺物実測図



第 476 図 第 549 号土坑出土遺物実測図(1)



第 477 図 第 549 号土坑出土遺物実測図 (2)

第 549 号土坑出土遺物観察表 (第 475 ~ 477 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1326	縄文土器	深鉢	-	(64)	-	長石・石英	灰黄褐色	良好	突起頂部渦巻文・口縁に沿って隆帯貼付・内面にも隆帯描出	覆土中	PL144
1327	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	暗赤褐色	普通	頂部背割れ隆帯による渦巻文・単節縄文 RL (横) 施文	覆土中	
1328	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	波頂部に穿孔・口縁に沿って背割れ隆帯一筋・単節縄文 RL (縦) を施文・隆帯による波状文	覆土中	
1329	縄文土器	深鉢	-	(92)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐色	良好	口縁に沿って 2 本の隆帯貼付・隆帯下地文に無節縄文 L (縦)・半截竹管による横・縦の沈線文	覆土中層	
1330	縄文土器	深鉢	-	(19.1)	-	長石・石英・雲母	暗赤褐色	普通	波頂部厚めの隆帯による渦巻文・単節縄文 RL (縦) 施文の厚めの隆帯による区画文・区画に沿って沈線文・胴部同一原体による縄文で胴部と区画	覆土上層	10% PL144
1331	縄文土器	深鉢	[13.5]	(129)	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	口唇部内傾き状・地文に無節縄文 L (縦)・半截竹管による 3 本の縦位区画・区画内同施文・長による渦巻文・重要彩文	覆土中層	20% PL144
1332	縄文土器	深鉢	[20.0]	(16.2)	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	口縁部単節縄文 LR (横)・2 本の隆帯による区画 (区画内隆帯による波状文・胴部同一原体 (縦))	覆土中層	30% PL144
1333	縄文土器	深鉢	[21.4]	(98)	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	地文に無節文・2 本の隆帯による口縁部区画・区画内隆帯による波状文と三角形の文様描出・胴部 3 本組の沈線文刻回	覆土中層	10% PL144
1334	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黄褐色	普通	口縁上部に 2 列の有節沈線文一筋	覆土中	
1335	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口縁に沿って単節縄文 RL (横) 施文の厚めの隆帯貼付・隆帯に沿って有節沈線	覆土中	
1336	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	口縁に沿って単節縄文 RL (横) 施文の隆帯貼付・隆帯に沿って半截竹管による沈線文	覆土中	
1337	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口縁に沿って背割れ隆帯貼付・背割れ隆帯による横 S 字状文・地文に単節縄文 LR (縦)	覆土中	
1338	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	口縁上部 3 本の太沈線一筋・内面に横・外・内面磨き	覆土中	
1339	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	口縁上部単節縄文 RL (横) が一筋・以下同一原体による縦回転で口縁部羽状構成	覆土上層	PL144
1340	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	暗褐色	普通	縦位の条線文を地文とし・横位の蛇行沈線が一筋	覆土中	
1341	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明褐色	普通	地文の単節縄文 LR (縦) 上に半截竹管による 4 条単位の縦線文・弧状文を描出	覆土中層	
1342	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	地文に 0 段多節縄文 RL (縦)・背割れ隆帯一筋・胴部下位半截竹管による蛇行沈線・並行沈線	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP104	土器片鉢	18	20	0.9	4.6	長石・石英・雲母	暗褐色	周縁部研磨・両端にキザミ目	覆土上層	

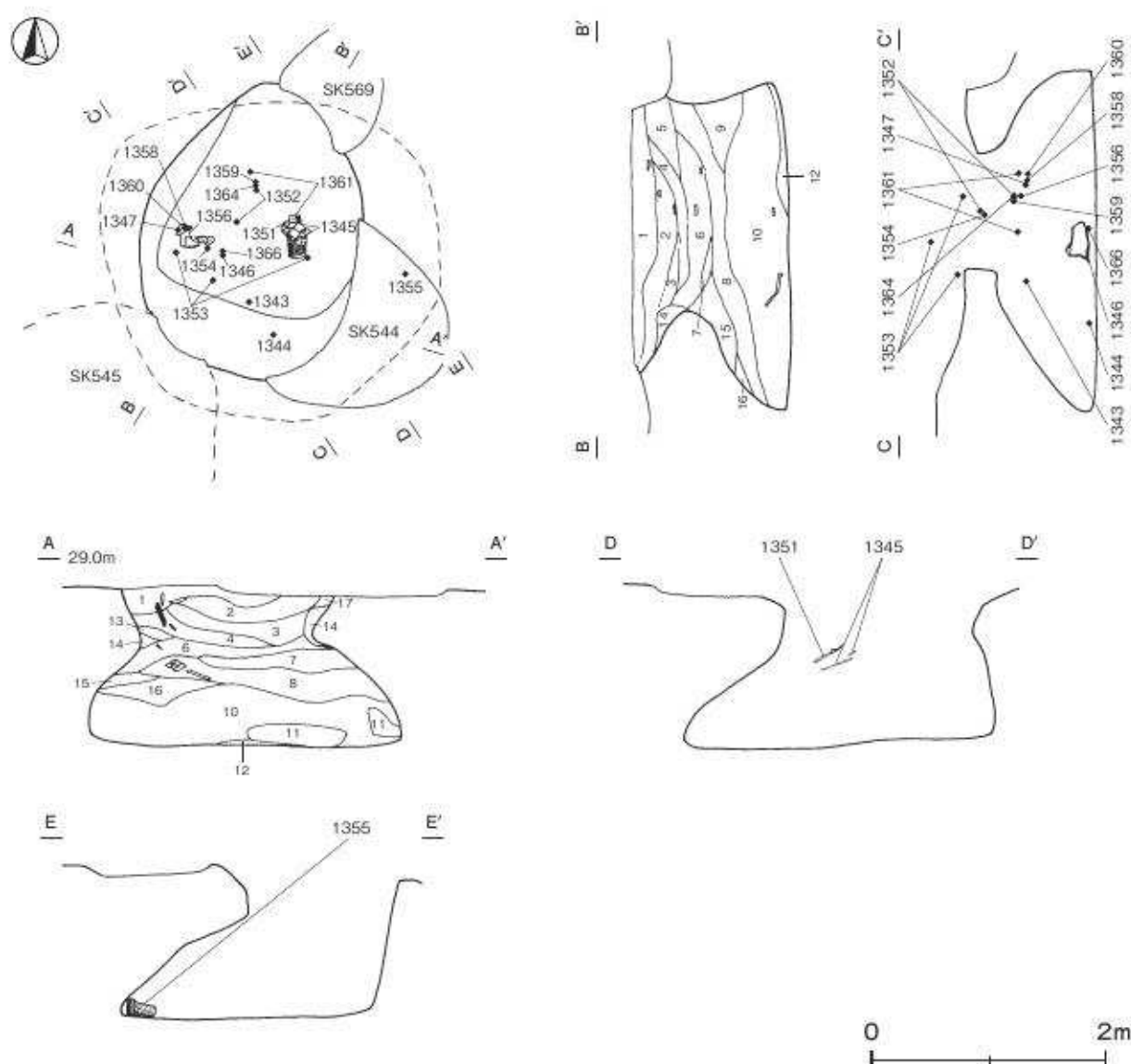
第 550 号土坑 (第 478 ~ 483 図 PL79・102)

位置 調査区中央部の C 3 h2 区、標高 29 m ほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第 544・545・569 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は長径 2.51 m、短径 1.82 m の楕円形で、長径方向は N-9°-E である。底面は径 2.92 ~ 2.98 m の不整形円形で、ほぼ平坦である。確認面からの深さは 136cm で、壁は中位まで内彎して、袋状を呈し、上位は外傾している。

覆土 17 層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。



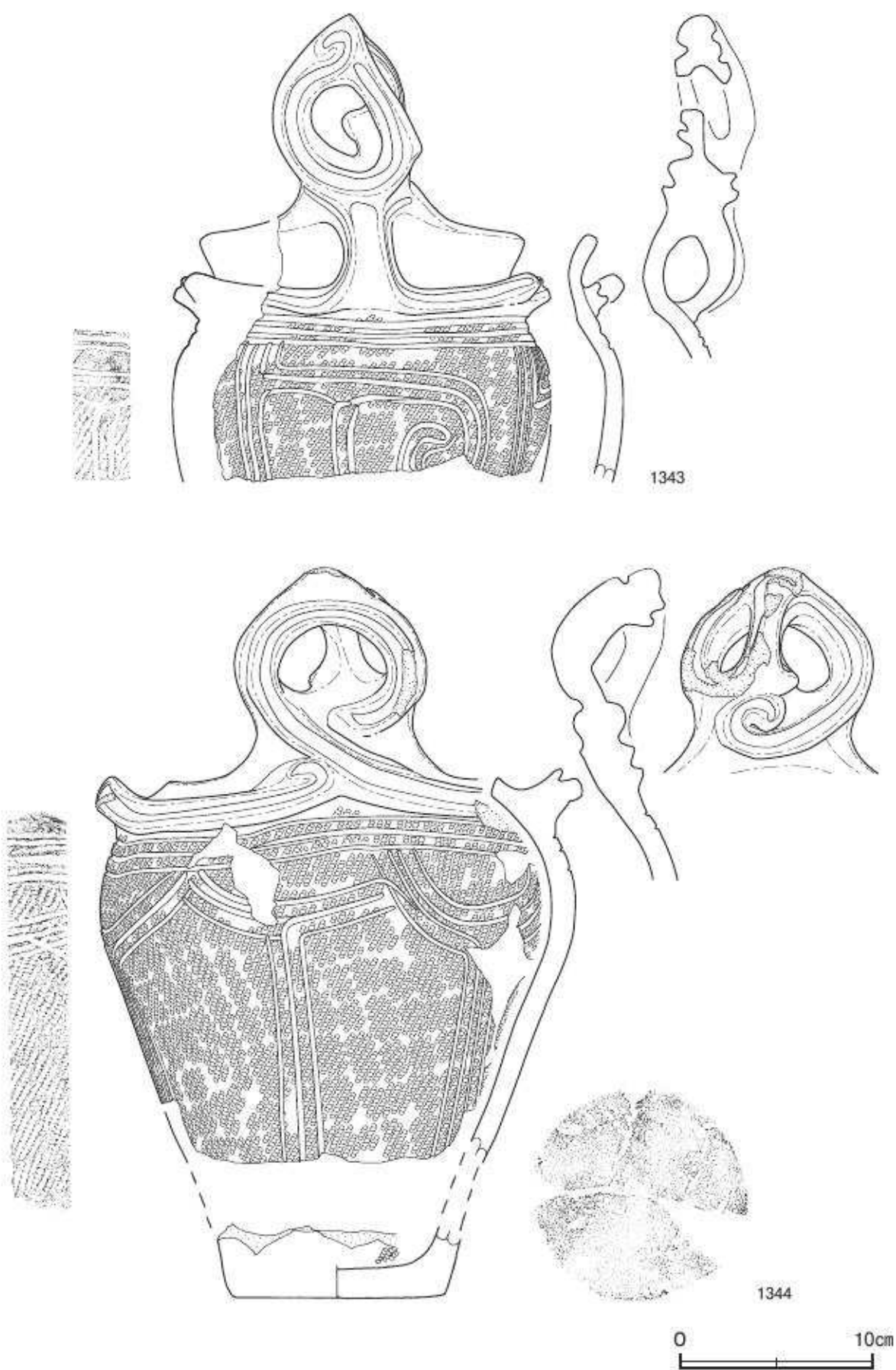
第 478 図 第 550 号土坑実測図

土層解説

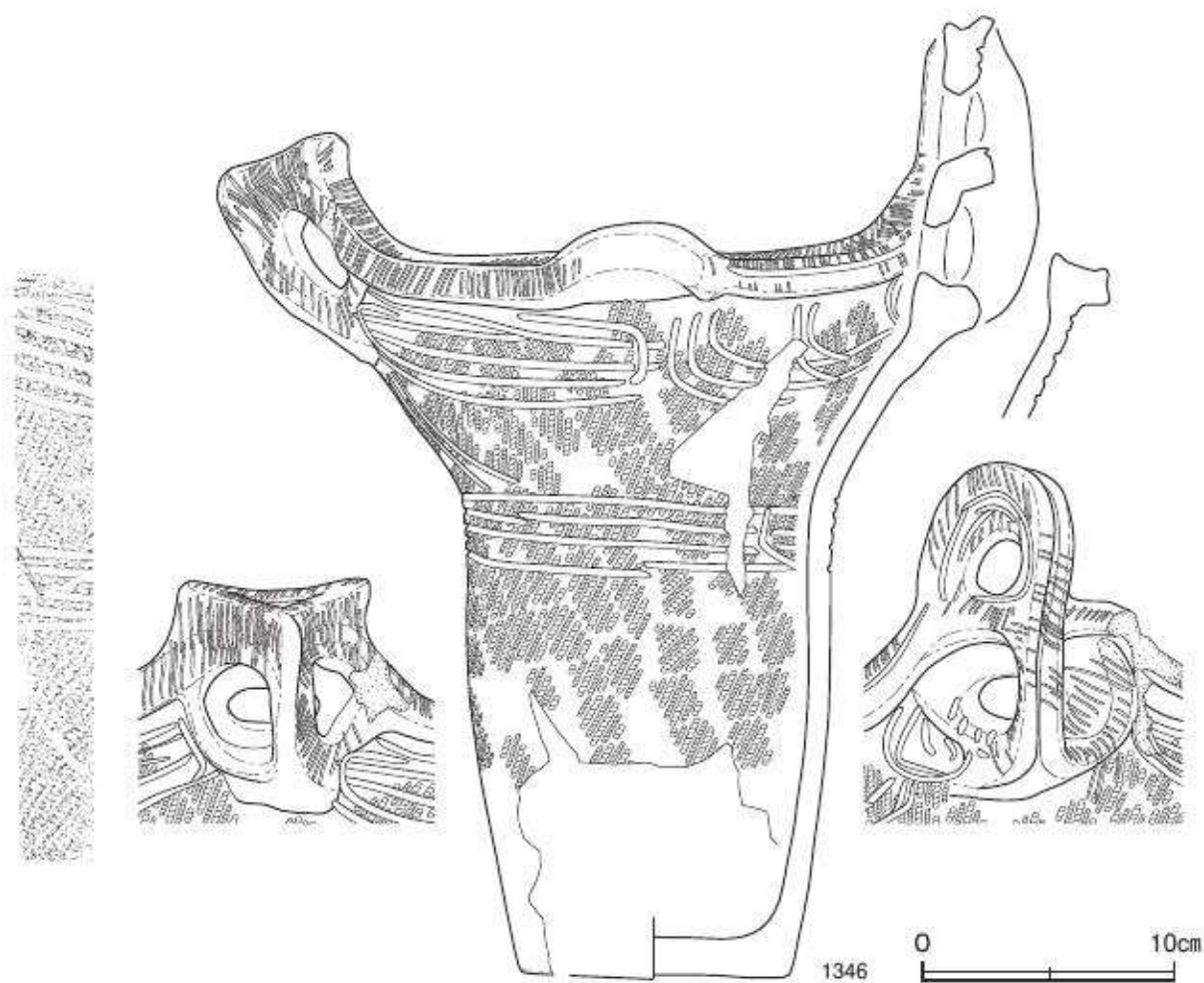
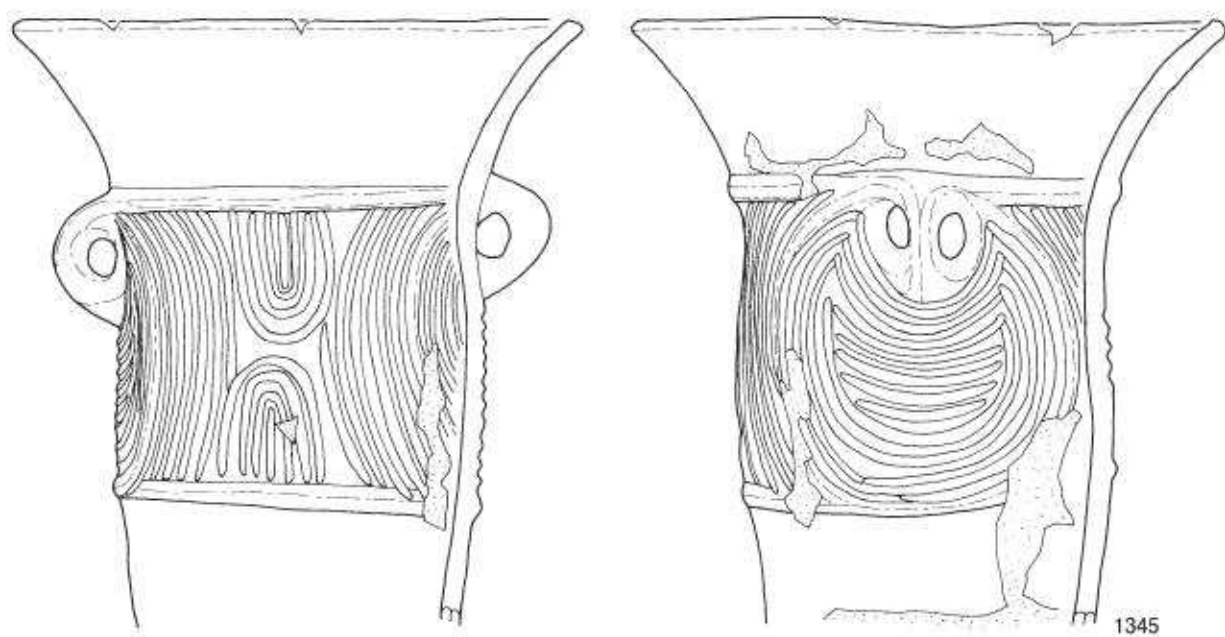
- | | | | |
|----------|-------------------|--------|----------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 10 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 11 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子中量 | 12 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 にぶい褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 13 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 5 にぶい褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 14 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 6 黒褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 15 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 7 にぶい黄褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 16 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 8 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 17 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 9 黒褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 348 点 (深鉢 322, 浅鉢 26), 石器 3 点 (打製石斧, 磨製石斧, 石錘), 加工痕のある剥片 1 点が, 覆土全体に散乱した状態で出土している。1346・1355 はほぼ完形で, 1344 は上半部がほぼ完全な形で, いずれも底面近くから横位の状態で出土しており, 遺棄されたものと思われる。1366 は底面, 1345・1361 は覆土中層, 1352・1353 は覆土上層からそれぞれ出土し, 大型破片や離れた位置のものが接合していることから, 破碎したものを投棄されたと思われる。1366 は底面から, 1343・1347・1351・1356・1358・1360 は覆土中層からそれぞれ破片で出土し, 埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

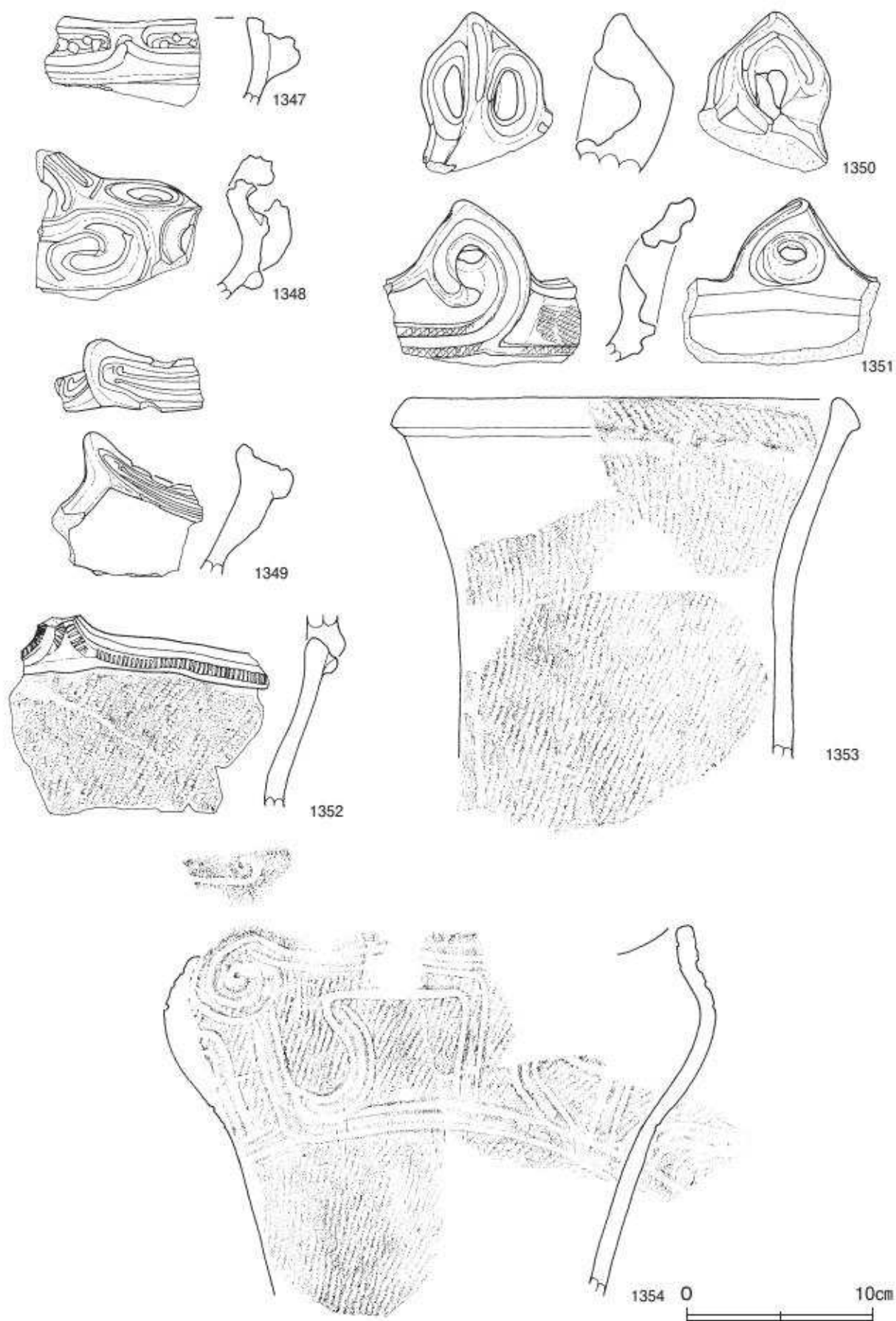
所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。



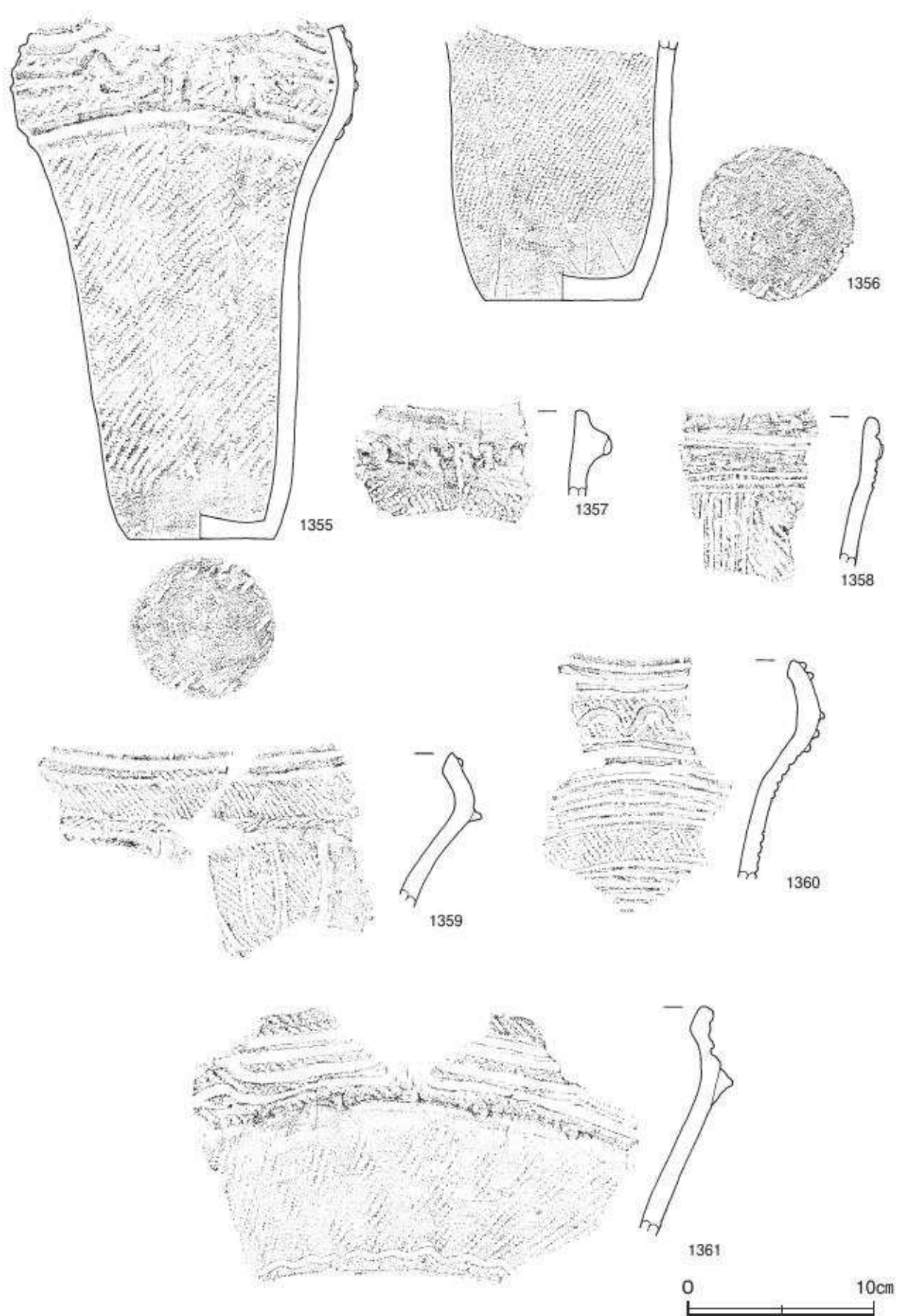
第 479 图 第 550 号土坑出土遗物实测图 (1)



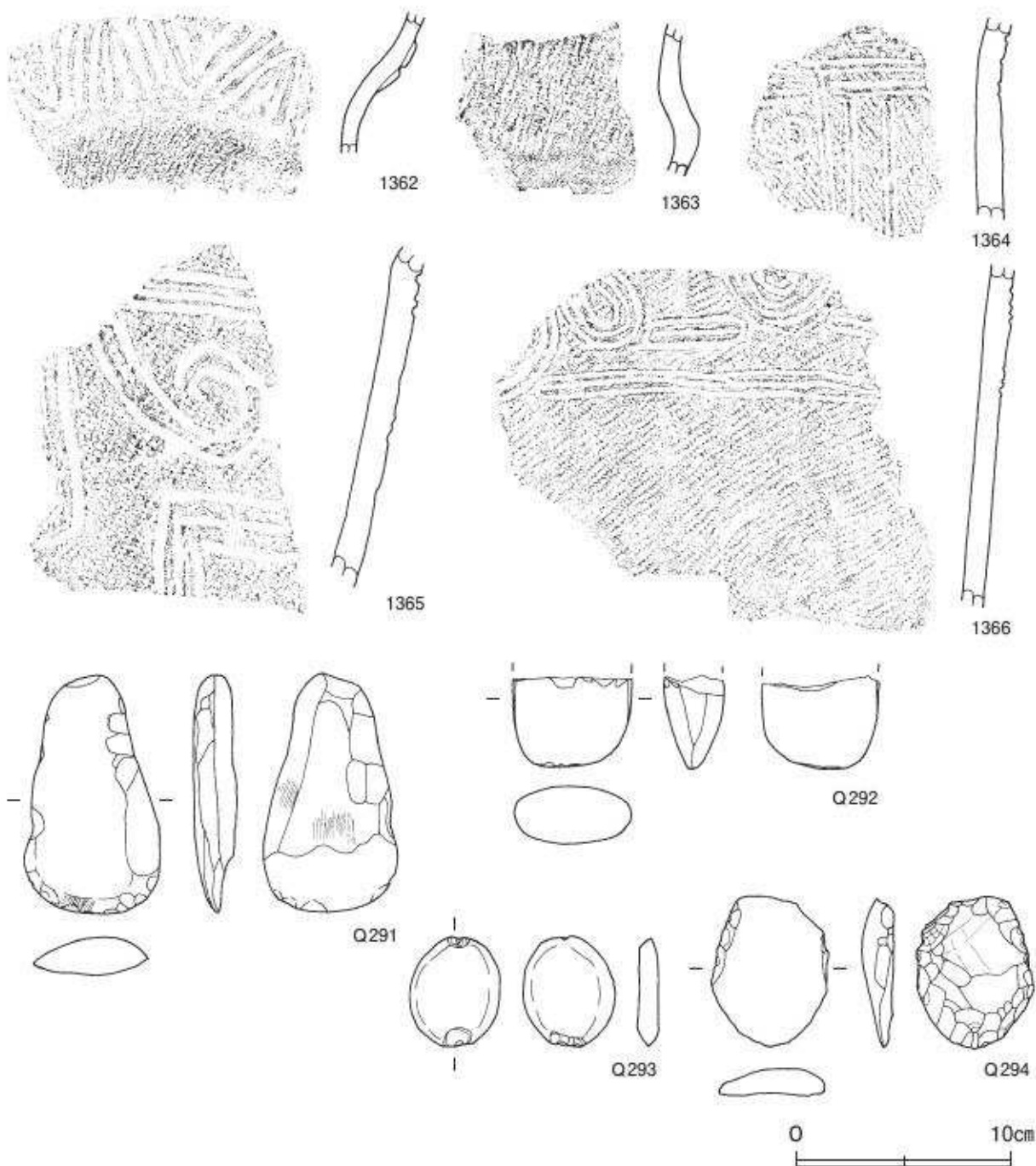
第 480 図 第 550 号土坑出土遺物実測図(2)



第 481 图 第 550 号土坑出土遗物实测图 (3)



第 482 図 第 550 号土坑出土遺物実測図 (4)



第 483 図 第 550 号土坑出土遺物実測図 (5)

第 550 号土坑出土遺物観察表 (第 479 ~ 483 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1343	縄文土器	深鉢	[16.8]	(24.3)	-	長石・石英・雲母・赤色粘土	にぶい橙	普通	口縁下突起を有する蛇状の背割れ隆帯貼付。胴部単節縄文 RL (縦)。3本の沈線による横走文・縦線文・渦巻文。	覆土中層	30% PL146
1344	縄文土器	深鉢	17.5	[38.0]	11.0	長石・石英・赤色粘土・細砂	にぶい橙	普通	3孔を有する背割れ隆帯による中空把手。口縁部強く内凹。口唇部やや幅広く中央部が凹む。背割れ隆帯による蛇状口縁。胎文に単節縄文 RL (縦)。3本単位の沈線による横走文・渦状文・雲垂文。	底面	70% PL146
1345	縄文土器	深鉢	22.8	(24.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口唇部無文。胴部と胴部隆帯で区画。胴部上位に眼線状把手1対。把手から楕円形に隆帯貼付。隆帯に沿って重畳する沈線による楕円形文・渦状文。胴部下位無文。赤彩痕。	覆土中層	70% PL146
1346	縄文土器	深鉢	25.0	38.2	10.5	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口唇部に細美線文。胴部が平皿を三角形状の中空把手と環状把手。厚めの隆帯による蛇状口縁。沈線による楕円形区画文。区画内巻走文と小波状文で充填。胴部と胴部を5本の沈線文で区画。加条縄文 RL (縦) 施文。	底面	80% PL146

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1347	縄文土器	深鉢	-	(4.8)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・磁鉄	にぶい赤褐色	普通	口縁に沿う隆帯と沈線の背割れ隆帯による区画文・区画内文互刺突文	覆土中層	
1348	縄文土器	深鉢	-	(8.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	口縁部背割れ隆帯と沈線による渦巻文	覆土中	
1349	縄文土器	浅鉢	-	(7.6)	-	長石・石英・雲母・磁鉄	にぶい黄褐色	普通	波頂部沈線による波字文・口唇部肥厚・4本の沈線文周縁・胴部に孔	覆土中	
1350	縄文土器	深鉢	-	(8.7)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	背割れ隆帯の頂点が山形を呈する眼縁状把手	覆土中	
1351	縄文土器	深鉢	-	(9.0)	-	長石・石英・赤色粒子	黒褐色	普通	口唇部外割き状で凹み・胴部縄文RL(縦)・底文の背割れ隆帯による環状把手	覆土中層	
1352	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	口唇部に凹み・胴部単節縄文RL(縦)施文	覆土上層	
1353	縄文土器	深鉢	[23.0]	(19.5)	-	長石・石英・雲母・磁鉄	にぶい褐色	普通	口縁に沿って縄文施文の隆帯貼付・全面単節縄文RL(縦)施文	覆土上層	20%
1354	縄文土器	深鉢	[26.6]	(20.0)	-	長石・石英・磁鉄	にぶい黄褐色	普通	波頂部沈線による渦巻文・地文に単節縄文RL(縦)・部分的に磨消されている2本単位の沈線による区画文・区画内逆C字文・クランク文・胴部単節縄文RL(縦)施文	覆土中層	20%
1355	縄文土器	深鉢	16.7	(28.3)	7.8	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	口唇部平坦面作出・2本の隆帯で口縁部区画・区画内2本の隆帯による横走文・波状文・胴部0段多委単節縄文RL(縦)施文・底面網代痕	底面	90% PL146
1356	縄文土器	深鉢	-	(14.0)	8.3	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐色	普通	単節縄文RL(縦)・胴部下位ナデ・底面網代痕	覆土中層	20% 保付着
1357	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	口縁に沿って折衝押圧された厚めの隆帯貼付・単節縄文RLを回転方向を変えて羽状構成	覆土中層	
1358	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	口縁に沿って半截竹管による横走文・地文に単節縄文LR(縦)・同施文具による雙重文	覆土中層	
1359	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	地文に単節縄文LR(横)・背割れ隆帯と縄文施文の隆帯による区画・胴部半截竹管によるU字状の文様模面	覆土中層	
1360	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	2本の隆帯で口縁部を区画・隆帯による波状文・地文に単節縄文LR(横)・6本の沈線文	覆土中層	PL146
1361	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・磁鉄	にぶい褐色	普通	地文に単節縄文RL(横)・施文の隆帯で口縁部区画・区画内隆帯に沿って横走沈線文・胴部(縦)施文	覆土中層	PL146
1362	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・磁鉄	褐色	良好	沈線を伴う隆帯による重層山形文・単節縄文RL(縦)	覆土中	
1363	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	良好	胴部下位無文で彫らむ・単節縄文RL(縦)	覆土中	
1364	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・磁鉄	黒褐色	普通	地文に無節L(縦)・半截竹管による横走文・垂下文・渦巻文	覆土中層	
1365	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐色	普通	地文に単節縄文RL(縦)・2から3本の沈線による横走文・渦巻文・方形文	覆土中	PL147
1366	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	地文に単節縄文RL(縦)・3本の沈線による渦巻文・木葉文	底面	PL147

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 291	打製石斧	11.2	6.3	2.0	154.9	石英燧岩	楔形・表裏に自然面・刃部は片面を敲行後研磨・平刃	覆土中	PL165
Q 292	磨製石斧	(4.2)	5.5	2.8	(86.5)	緑色岩	定角式・胴縁部に稜・基部欠損・刃部は表裏から研ぎ出す平刃・使用痕	覆土中	
Q 293	石鏃	5.1	4.3	1.0	30.8	安山岩	両端部打撃によりキザミ目作出	覆土中	
Q 294	加工痕のある羽片	7.1	5.6	1.5	59.4	石英	1次剥離後・両縁部押圧剥離	覆土中	

第 553 号土坑 (第 484 図 PL79)

位置 調査区南部のD 3b5区、標高 29 mほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第 2 号溝に掘り込まれている。

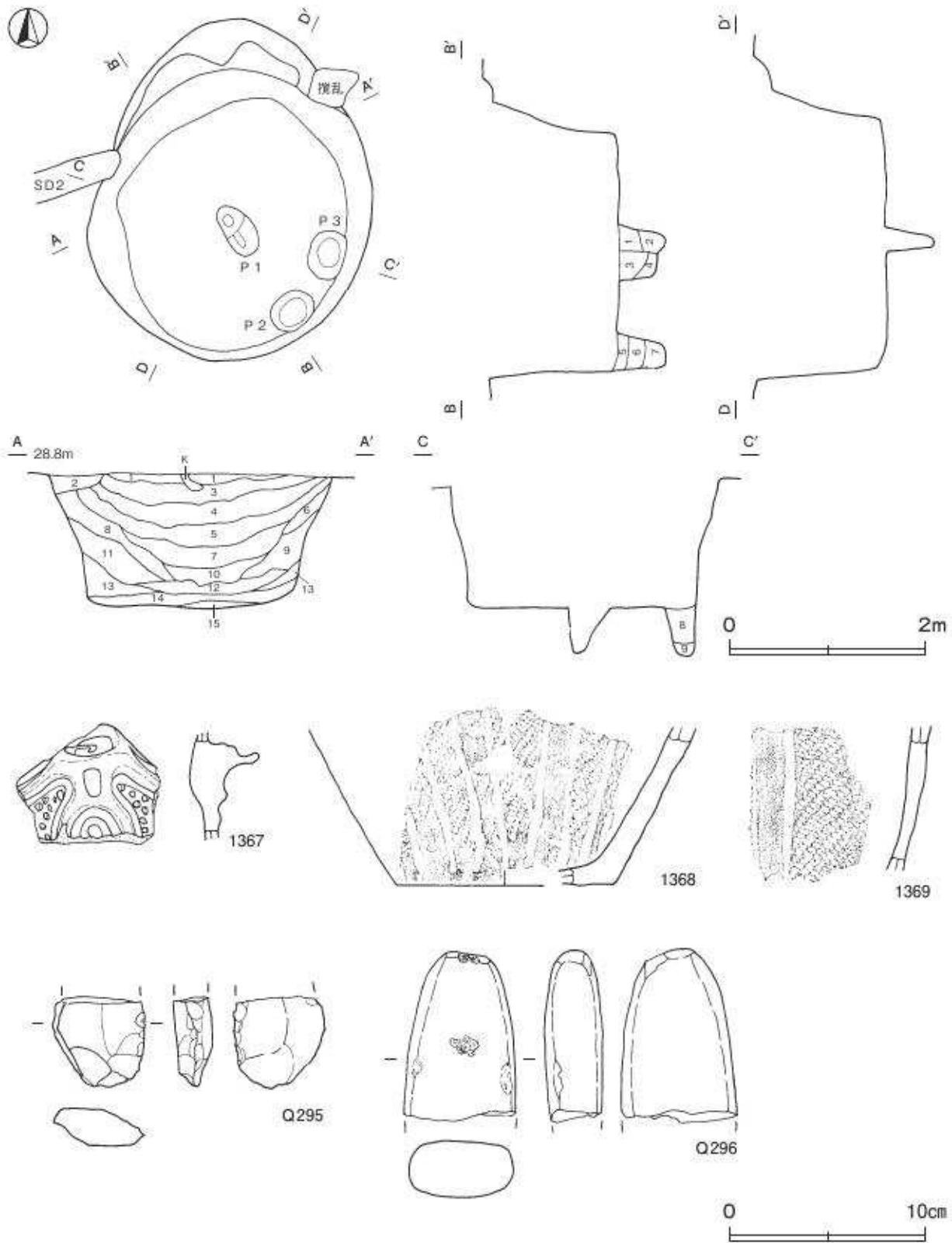
規模と形状 長径 3.49 m、短径 2.84 mの楕円形で、長径方向はN-3°-Eである。底面はほぼ平坦である。深さは 139cmで、壁はほぼ直立している。

ピット 3か所。P 1は中央部、P 2は南東壁際、P 3は東壁際に位置し、深さはそれぞれ 48cm・52cm・49 cmである。いずれも、位置や形状から柱穴と考えられる。

ピット土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|--------|------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量 | 6 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量 | 7 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量 | 8 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 9 極暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック少量 | | |

覆土 15層に分層できる。第 1・3～5層は黒褐色土や暗褐色土がレンズ状に堆積していることから、自然堆積である。第 8～15層はロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。



第484図 第553号土坑・出土遺物実測図

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量 | 7 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量 | 8 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |

- 9 におい褐色 ロームブロック少量
 10 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
 11 褐色 ローム粒子少量
 12 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量
 13 極暗褐色 ロームブロック中量・炭化粒子微量
 14 極暗褐色 ロームブロック少量
 15 暗褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片 231 点（深鉢 218、浅鉢 13）、石器 2 点（打製石斧、磨製石斧未成品）が、覆土全体から散乱した状態で出土している。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

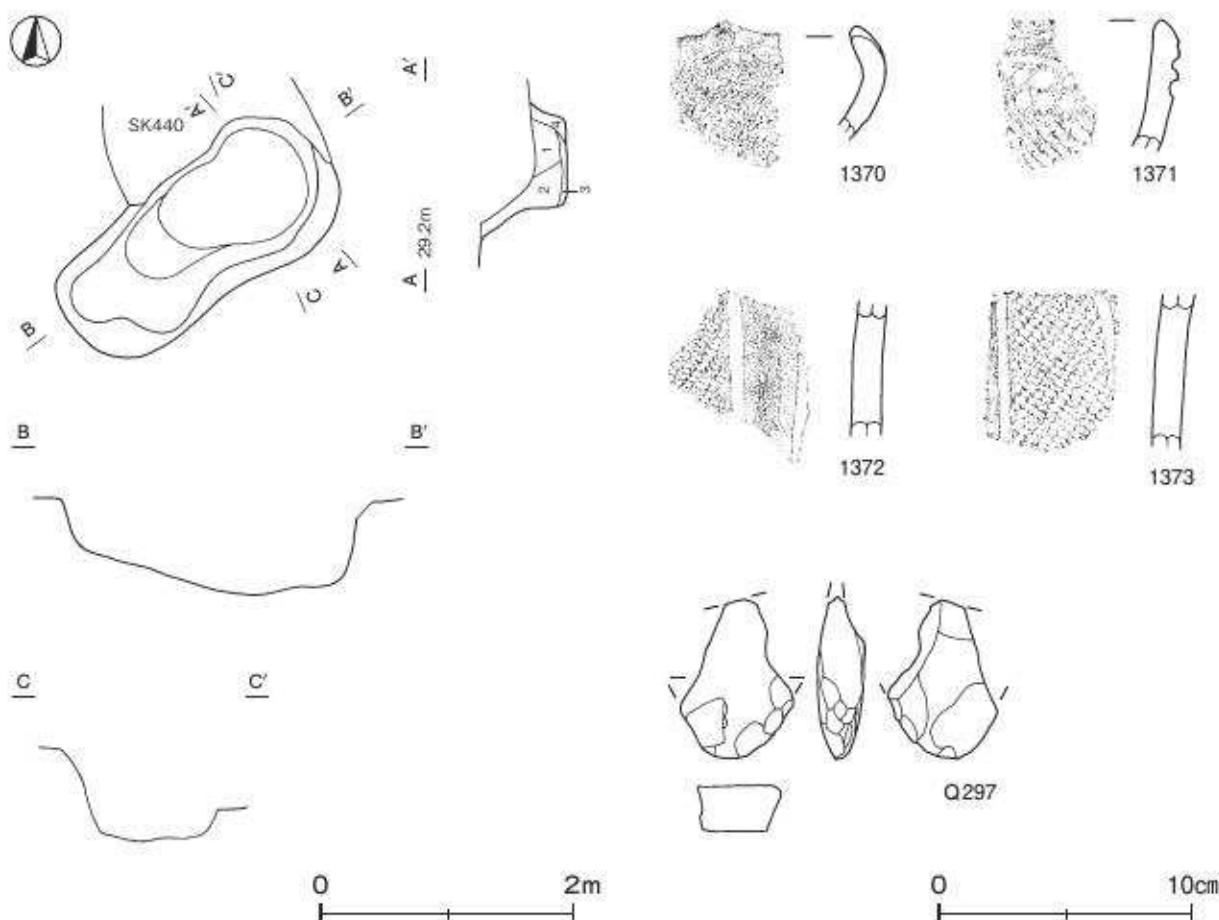
第 553 号土坑出土遺物観察表（第 484 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1367	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	波頂部高卷文、沈線を伴う陸帯による区画内刺突文	覆土中	
1368	縄文土器	深鉢	-	(8.0)	[11.1]	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	胴部太沈線間磨消懸垂文 単部縄文 RL (縦) 横文	覆土中	10%
1369	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	におい橙	普通	腹文に単部縄文 RL (縦) 太沈線間磨消懸垂文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 296	打製石斧	(4.7)	4.7	2.0	(54.4)	ホルンフェルス	撥形 片輪縁に微細な敲打痕 基部欠損	覆土中	
Q 296	磨製石斧未成品	(8.8)	5.8	3.0	(223.2)	砂岩	表裏面研磨 周縁部微細な敲打痕 刃部欠損	覆土中	

第 555 号土坑（第 485 図）

位置 調査区東部の C 4 i2 区、標高 29 m ほどの台地中央部に位置している。



第 485 図 第 555 号土坑・出土遺物実測図

重複関係 第440号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸240m、短軸103mの隅丸長方形で、長軸方向はN-54°-Eである。底面は北東へ緩やかに下降している。深さは34～70cmで、壁はほぼ直立している。

覆土 4層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 3 褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 縄文土器片78点（深鉢）、石器1点（打製石斧）が、覆土中からまばらな状態で出土している。

所見 性格は不明である。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

第555号土坑出土遺物観察表（第485図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1370	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	細い単節縄文RL（縦）を全面に施文	覆土中	
1371	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	口縁に沿って沈線・2列の円形刺突・無節縄文L（縦）施文	覆土中	
1372	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	施文に単節縄文RL（縦）太沈線間断消懸垂文	覆土中	
1373	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	施文に単節縄文RL（縦）太沈線間断消懸垂文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 297	打製石斧	(6.5)	(4.5)	1.9	(54.7)	安山岩	幾形 側縁部欠損 刃部は表裏を縦打 剣先状	覆土中	PL165

第556号土坑（第486図 PL79）

位置 調査区中央部のD3a7区、標高29mほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第14号堅穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 径1.84～1.90mのほぼ円形である。底面は平坦で、深さは68cmである。壁はほぼ直立している。

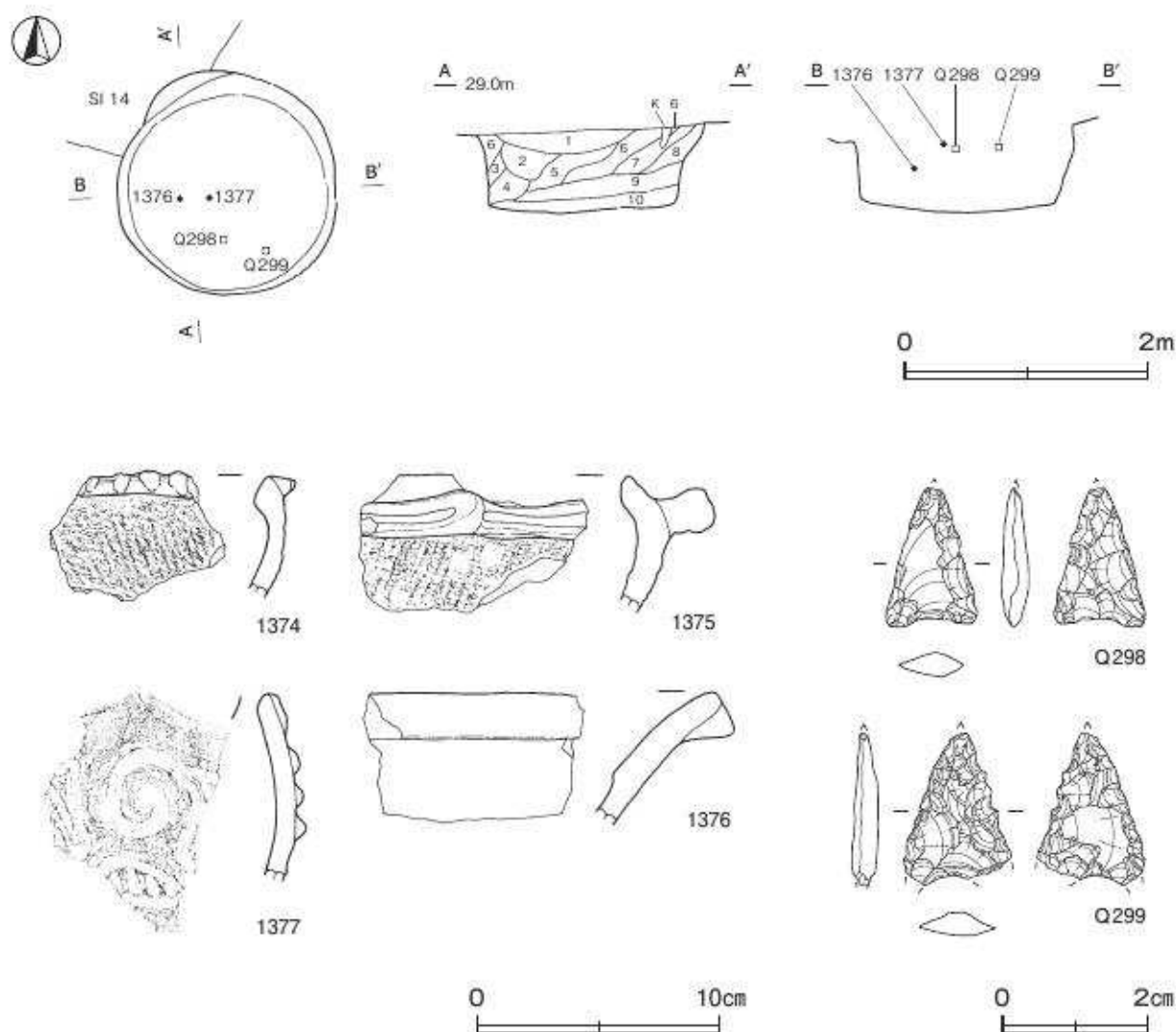
覆土 10層に分層できる。多くの層にロームブロックや炭化物などが含まれ、不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|----------------------|
| 1 黒褐色 | 炭化物中量、ロームブロック・焼土ブロック少量 | 6 褐色 | ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量 | 8 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化物微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック中量、炭化物少量 | 9 褐色 | ロームブロック中量、炭化物少量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化物少量、焼土粒子微量 | 10 褐色 | ロームブロック中量、炭化物微量 |

遺物出土状況 縄文土器片273点（深鉢272、浅鉢1）、石器3点（鎌2、打製石斧1）、剥片3点（チャート2、ホルンフェルス1）が、覆土上層から中層を中心に散乱した状態で出土している。1376は覆土中層から、1377、Q 298・Q 299は覆土上層からそれぞれ出土し、ある程度埋まってから埋土と一緒に投棄されたと思われる。

所見 規模や形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。



第 486 図 第 556 号土坑・出土遺物実測図

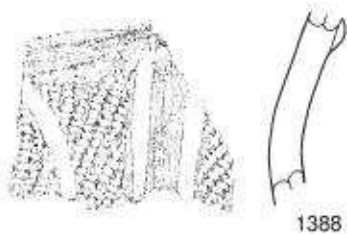
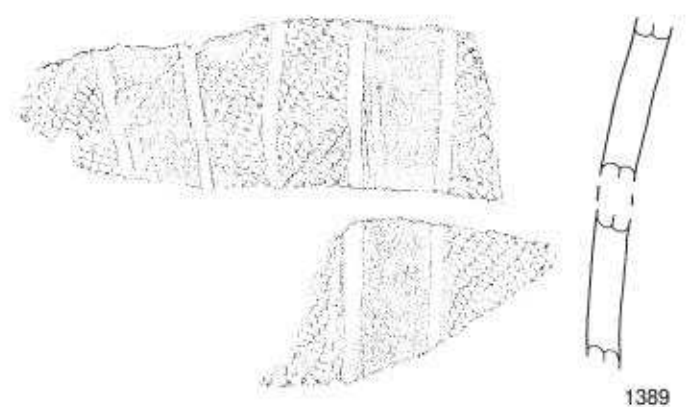
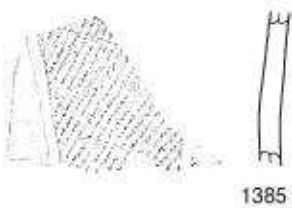
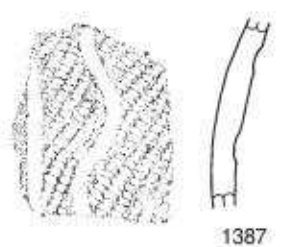
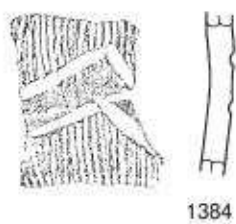
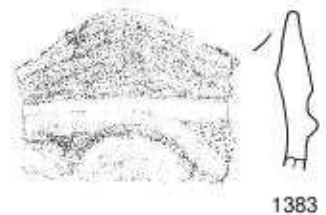
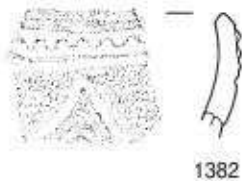
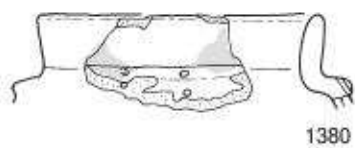
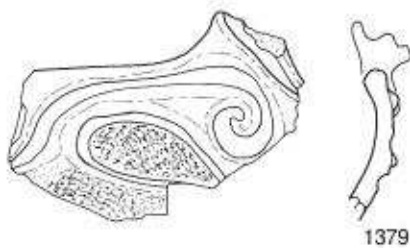
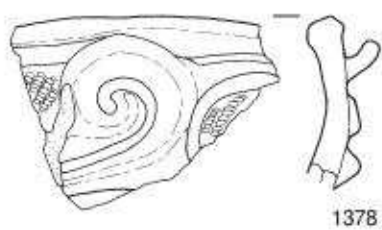
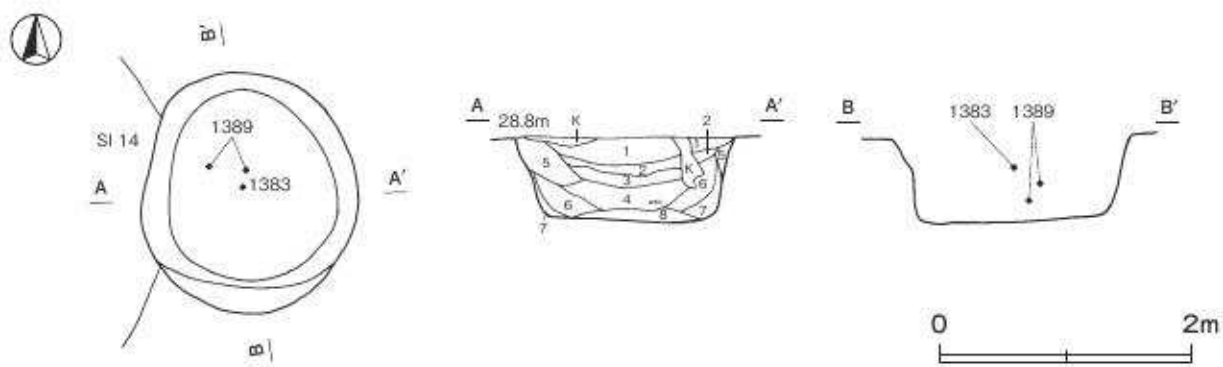
第 556 号土坑出土遺物観察表 (第 486 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1374	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口縁に沿って押し隆起線貼付。0枚多条単節縄文LR(縦)施文	覆土中	
1375	縄文土器	深鉢	-	(5.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口縁に沿って疣状の骨割れ隆起貼付。単節縄文LR(横)施文	覆土中	
1376	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	外・内面磨き。内面に稜	覆土中層	
1377	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母	にぶい黄褐色	普通	波清部渦巻文。沈線に伴う隆帯による区画文。区画内沈線文で充填	覆土上層	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
Q 298	鏃	(1.9)	1.3	0.4	(0.8)	ホルンフェルス	無茎鏃。全面押し剥離。先端部欠損			覆土上層	PL161
Q 299	鏃	(2.1)	(1.5)	0.4	(0.9)	安山岩	無茎鏃。全面押し剥離。先端部・両脚部欠損			覆土上層	PL161

第 557 号土坑 (第 487 図 PL80)

位置 調査区中央部の C 3 i7 区、標高 29 m ほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第 14 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。



第 487 图 第 557 号土坑·出土遗物实测图

規模と形状 長径 1.92 m、短径 1.70 mの楕円形で、長径方向はN - 10° - Wである。底面は平坦で、深さは80cmである。壁はほぼ直立している。

覆土 8層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量	5	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	6	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
3	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量	7	褐色	ロームブロック中量
4	暗褐色	ロームブロック中量、炭化物少量、焼土粒子微量	8	暗褐色	ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片 212点（深鉢 211、有孔罎付土器 1）、石器 1点（磨石）、剥片 1点（チャート）が、覆土中層を中心に散乱した状態で出土している。1389は覆土中層から、1383は覆土上層からそれぞれ出土し、ある程度埋まってから埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

第 557 号土坑出土遺物観察表（第 487 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1378	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい物	普通	底状隆帯貼付。地文に単節縄文LR（横）太沈線を伴う隆帯による楕円形区画（区画間渦巻文）	覆土中	
1379	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	渦巻文をもつ突起。単節縄文LR（横）太沈線を伴う隆起線による区画文（区画内渦巻文）	覆土中	
1380	縄文土器 有孔罎付土器	[11.0]	(3.7)	-	-	長石・石英・雲母	明黄褐色	普通	口縁下部に平坦面。平坦面から斜めに穿孔。	覆土中	
1381	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	単節縄文RL（横）沈線を伴う隆帯による楕円形区画文	覆土中	
1382	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	L1線に沿って交互利突による波状文。地文に熱赤文。沈線間磨消。弧状文	覆土中	
1383	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	単節縄文RL（縦）太沈線を伴う隆起線による区画文	覆土上層	
1384	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	褐色	普通	熱赤文上に太沈線間磨消波状文	覆土中	
1385	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	単節縄文RL（縦）施文。太沈線による懸垂文。沈線間磨消	覆土中	1385と同一個体。
1386	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	単節縄文RL（縦）施文。太沈線による懸垂文。沈線間磨消	覆土中	1385と同一個体。
1387	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	単節縄文RL（縦）施文。太沈線による懸垂文。沈線間磨消	覆土中	
1388	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	口縁部と胴部を隆帯で区画。単節縄文RL（縦）施文。太沈線による懸垂文。沈線間磨消	覆土中	
1389	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・磁鉄	にぶい黄褐色	普通	口縁多条単節縄文RL（縦）施文。太沈線による懸垂文。沈線間磨消	覆土中層	PL147

第 558 号土坑（第 488 図）

位置 調査区中央部のC 3h6区、標高 29 mほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第 14 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 1.62 m、短径 1.44 mの楕円形で、長径方向はN - 84° - Eである。底面は平坦で、深さは52cmである。壁は外傾している。

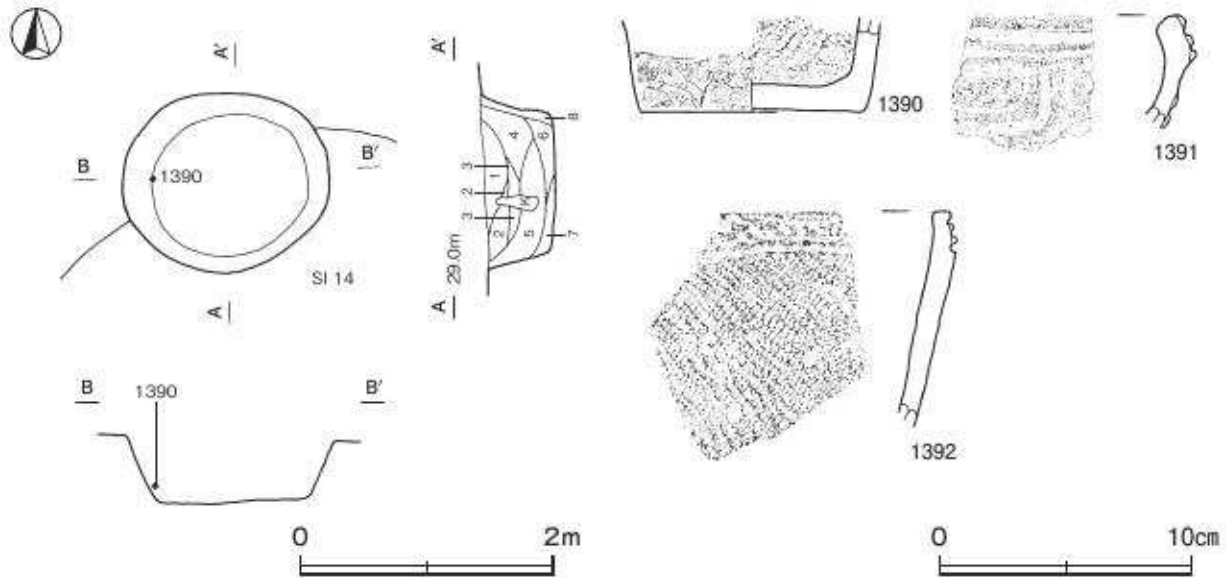
覆土 8層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物微量	5	褐色	ロームブロック中量、炭化物微量
2	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量	6	暗褐色	ロームブロック少量、炭化物微量
3	暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量	7	褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量
4	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	8	褐色	ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片 37点（深鉢）が、覆土中からまばらに出土している。1390は覆土下層から出土し、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

所見 規模や形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第 488 図 第 558 号土坑・出土遺物実測図

第 558 号土坑出土遺物観察表 (第 488 図)

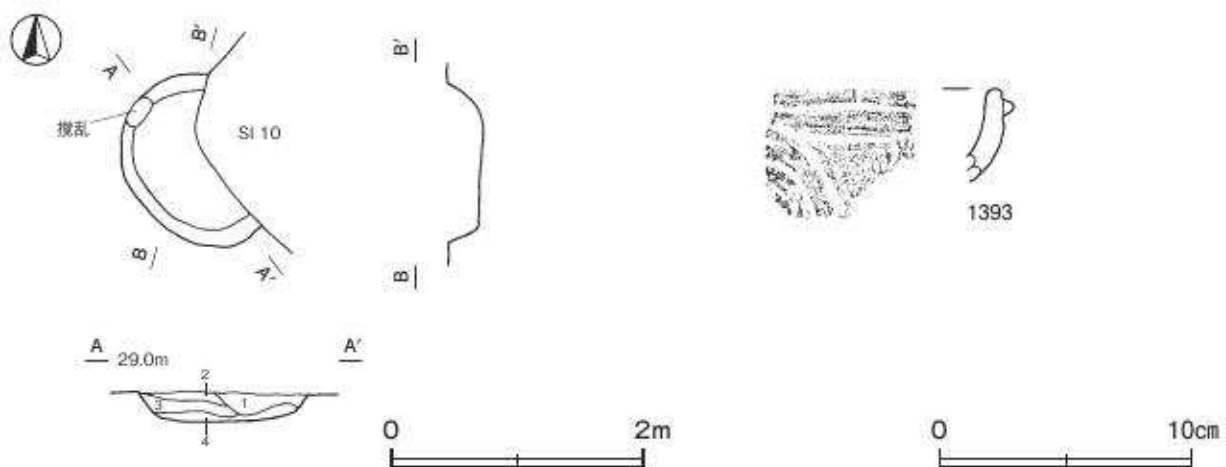
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1390	縄文土器	深鉢	-	(38)	90	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	単節縄文 RL (縦) 下端部指ナデ	覆土下層	10%
1391	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	単節縄文 RL (縦) 2本一組の隆帯によるクラシク文	覆土中	
1392	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙褐色	普通	口縁に沿って交互刺突文 単節縄文 RL (横) 施文	覆土中	

第 559 号土坑 (第 489 図)

位置 調査区東部の C 4 j3 区、標高 29 m ほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第 10 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 東部を第 10 号竪穴建物に掘り込まれているため、南北径は 1.42 m で、東西径は 0.65 m しか確認できなかった。楕円形と推定でき、長径方向は N - 34° - W である。底面は平坦で、深さは 29cm である。壁は外傾している。



第 489 図 第 559 号土坑・出土遺物実測図

覆土 4層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 3 褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 縄文土器片9点（深鉢8，浅鉢1）が、覆土中からまばらに出土している。

所見 性格は不明である。時期は、出土土器から中期と考えられるが、詳細は不明である。

第559号土坑出土遺物観察表（第489図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1393	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	口唇部太直線、地文に縦筋縄文RLR（横） 縁部による区画文	覆土中	

第561号土坑（第490図）

位置 調査区中央部のC4il区、標高29mほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第15号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 開口部は長径1.19m、短径0.96mの楕円形で、長径方向はN-85°-Eである。底面は長径1.86m、短径1.66mの楕円形で、ほぼ平坦である。確認面からの深さは70cmで、壁は中位まで内彎して、袋状を呈し、上位は外傾している。

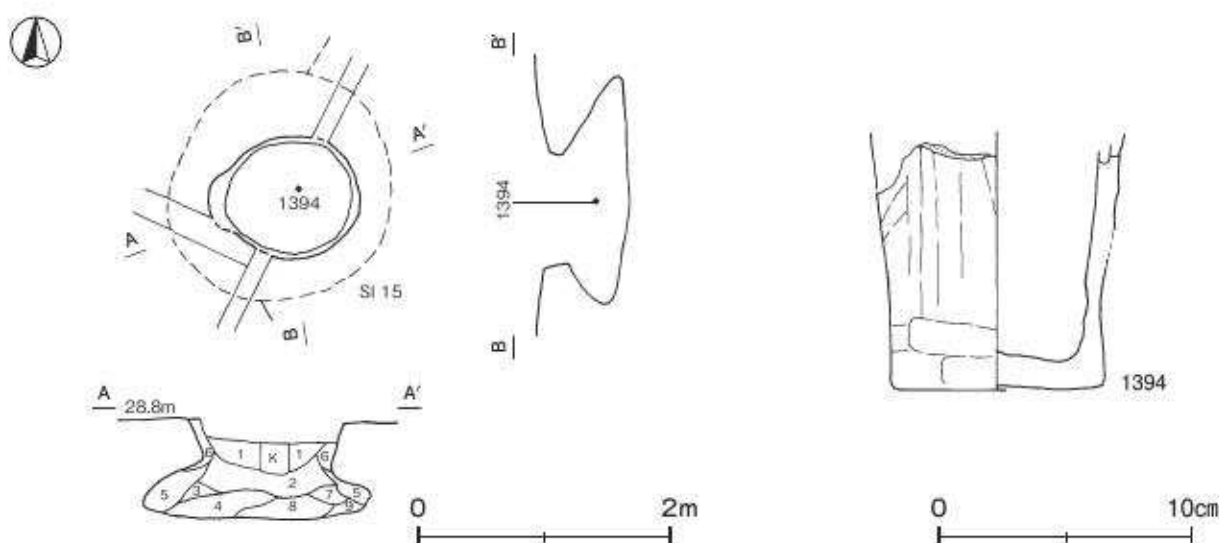
覆土 9層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量 | 6 褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量, 焼土ブロック微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 褐色 | ロームブロック中量, 炭化物少量 | 9 褐色 | ロームブロック中量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片41点（深鉢）、石器1点（磨石）が、覆土中からまばらに出土している。1394は破片で覆土中層から出土し、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

所見 規模や形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、中期と考えられるが、詳細は不明である。



第490図 第561号土坑・出土遺物実測図

第 561 号土坑出土遺物観察表 (第 490 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1394	縄文土器	深鉢	—	(102)	8.6	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	胴部縦方向の指ナデ、下腹部横方向の指ナデ	覆土中層	20%

第 564 号土坑 (第 491 図 PL80)

位置 調査区東部の C 4 i4 区、標高 29 m ほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第 21 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 径 1.62 ~ 1.69 m のほぼ円形である。底面は平坦で、深さは 64 cm である。壁は外傾している。

ピット 径 76 ~ 80 cm の円形で、深さ 26 cm である。形状から、補助的な貯蔵施設と考えられる。

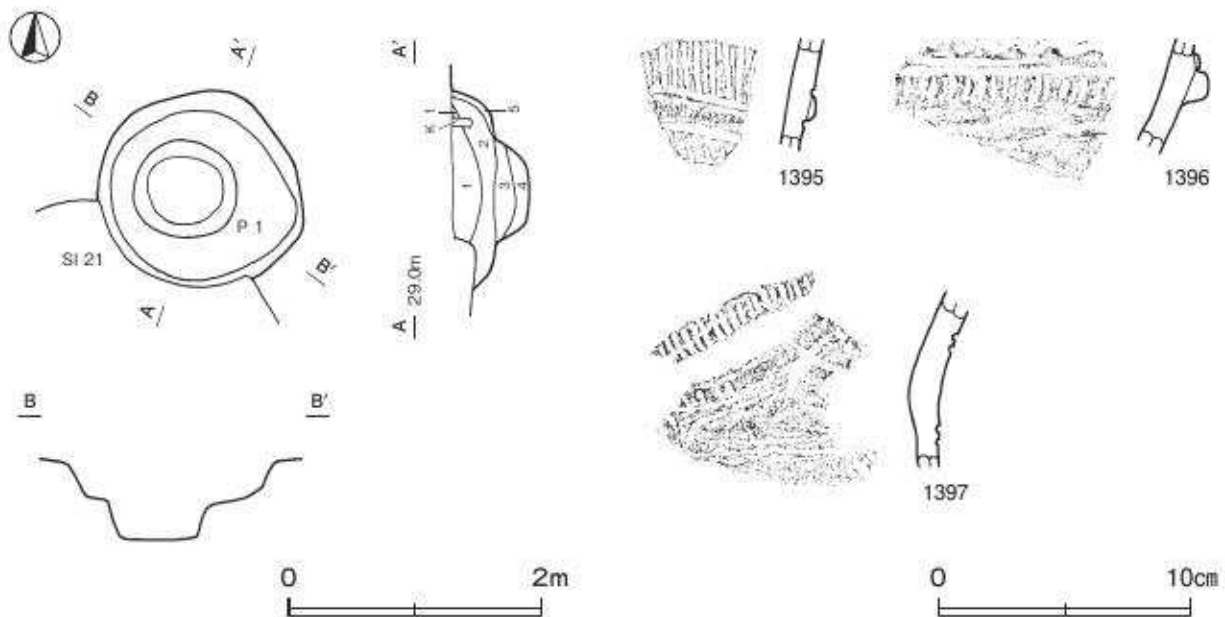
覆土 3 層に分層できる。暗褐色土がレンズ状に堆積していることから、自然堆積である。第 4・5 層は、P 1 の覆土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量 | 5 褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 23 点 (深鉢) が、覆土中からまばらな状態で出土している。

所見 規模や形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第 491 図 第 564 号土坑・出土遺物実測図

第 564 号土坑出土遺物観察表 (第 491 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1395	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	縦位の沈線文 横位のキザミ目をもつ筋線状隆帯貼付	覆土中	
1396	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母・細砂	にぶい橙	普通	隆帯に沿って沈線による変状文・2本の沈線文 横位のキザミ目をもつ筋線状隆帯で割部と区画	覆土中	
1397	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	にぶい赤	普通	2列の有節沈線文を伴う隆帯による区画文	覆土中	

第 567 号土坑 (第 492 図 PL80)

位置 調査区北東部の C 4 e3 区, 標高 29 m ほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第 568・577 号土坑に掘り込まれている。

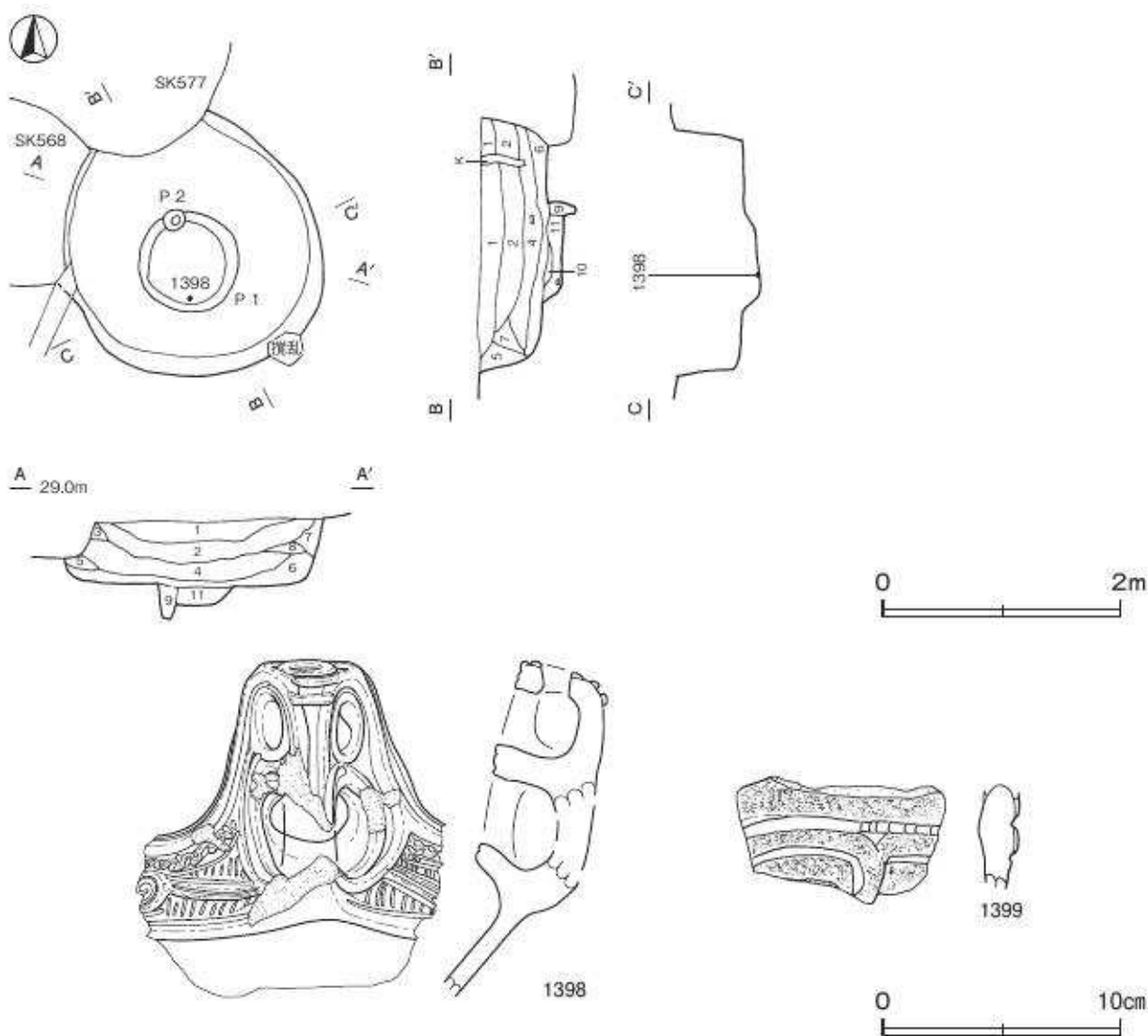
規模と形状 長径 2.33 m, 短径 2.10 m の楕円形で, 長径方向は N - 26° - W である。底面は平坦で, 深さは 58cm である。壁はほぼ直立している。

ピット 2 か所。P 1 は中央部に位置し, 径 86 - 90cm の円形で, 深さは 16cm である。P 2 は P 1 の北壁際に位置し, 深さ 32cm である。P 2 は, P 1 を埋めた後に掘り込まれている。P 1 は, 形状から補助的な貯蔵施設と考えられる。P 2 は, 位置や形状から柱穴と考えられる。

覆土 8 層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれていることから, 埋め戻されている。第 9 層は P 2, 第 10・11 層は P 1 の覆土である

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック少量, 炭化物微量	7	褐色	ロームブロック中量
2	暗褐色	ロームブロック中量, 炭化物微量	8	暗褐色	ロームブロック少量
3	褐色	ロームブロック中量, 炭化物少量	9	暗褐色	ロームブロック多量
4	暗褐色	ロームブロック中量, 炭化物少量	10	暗褐色	ロームブロック中量
5	暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量	11	黒褐色	ロームブロック少量, 炭化物微量
6	暗褐色	ロームブロック中量, 炭化材微量			



第 492 図 第 567 号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片 89 点（深鉢 78、浅鉢 11）、石器 1 点（磨石）が、覆土中からまばらな状態で出土している。1398 は底面から出土していることから、埋め戻す前に投棄されたか、遺棄されたものと思われる。
所見 規模や形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第 567 号土坑出土遺物観察表（第 492 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1398	縄文土器	深鉢	-	(142)	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	首割れ隆帯による口縁部区画、口縁に沿って交互斜交文、区内渦巻文・沈線文で充填	底面	10%、PL147
1399	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	沈線文と角押文を伴う縄文施文の隆帯による区画文、区内単面渦文 RL（横）充填	覆土中	

第 568 号土坑（第 493 図）

位置 調査区北東部の C 4 e3 区、標高 29 m ほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第 567・575・577 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 1.70 m、短径 1.55 m の楕円形で、長径方向は N - 73° - W である。底面は平坦で、深さは 28cm である。壁は外傾している。

ピット 2 か所。P 1 は南西壁際に位置し、長径 66cm、短径 50cm の楕円形で、深さは 60cm である。西側壁は内彎している。P 2 は西壁際に位置し、深さ 16cm である。P 1 は、形状から補助的な貯蔵施設と考えられる。P 2 は、性格不明である。

ピット土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 | 4 褐色 | ロームブロック中量 |

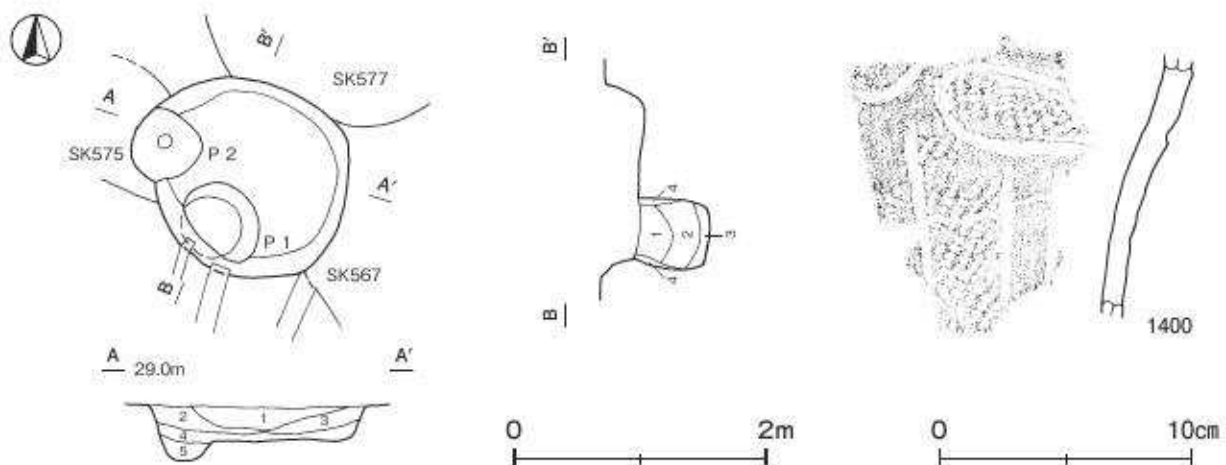
覆土 4 層に分層できる。ロームブロックを含む層が堆積していることから、埋め戻されている。第 5 層は P 2 の覆土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|-----------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化物微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 | 5 褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 褐色 | ロームブロック中量、炭化物少量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 60 点（深鉢 57、浅鉢 3）が、覆土中からまばらな状態で出土している。

所見 規模や形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。



第 493 図 第 568 号土坑・出土遺物実測図

第 568 号土坑出土遺物観察表 (第 493 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1400	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	沈深による楕円彩区画文・区画内草部縄文RL(横)・胴部(縦)・沈線区画の筋消懸垂文	覆土中	

第 574 号土坑 (第 494・495 図 PL81)

位置 調査区西部の C 2h7 区、標高 29 m ほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第 20 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

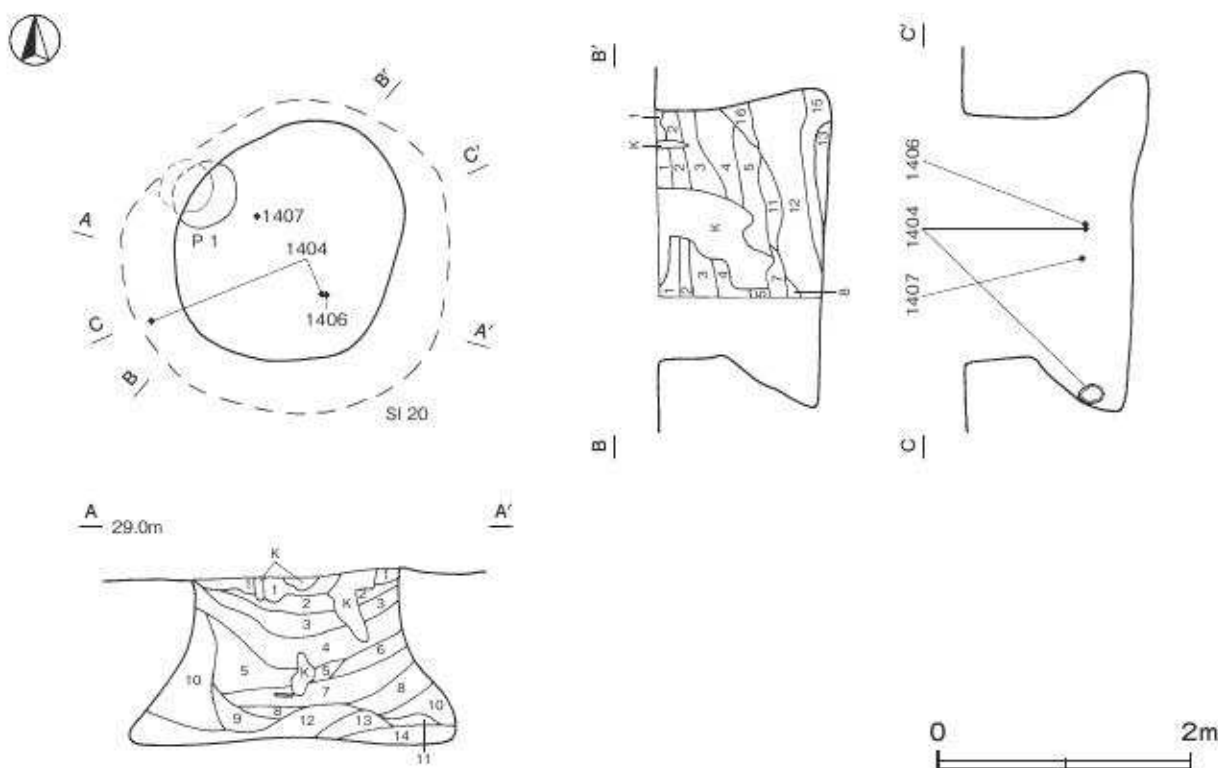
規模と形状 開口部は長径 2.02 m、短径 1.67 m の楕円形で、長径方向は N - 57° - E である。底面は径 2.38 ~ 2.54 m の不整形円で、平坦である。確認面からの深さは 148 cm で、壁は中位まで内彎して、袋状を呈し、上位はほぼ直立している。

ピット 北西壁際に位置し、長径 58 cm、短径 48 cm の楕円形を呈している。深さは 45 cm で、西壁は内彎している。形状から、補助的な貯蔵施設と考えられる。

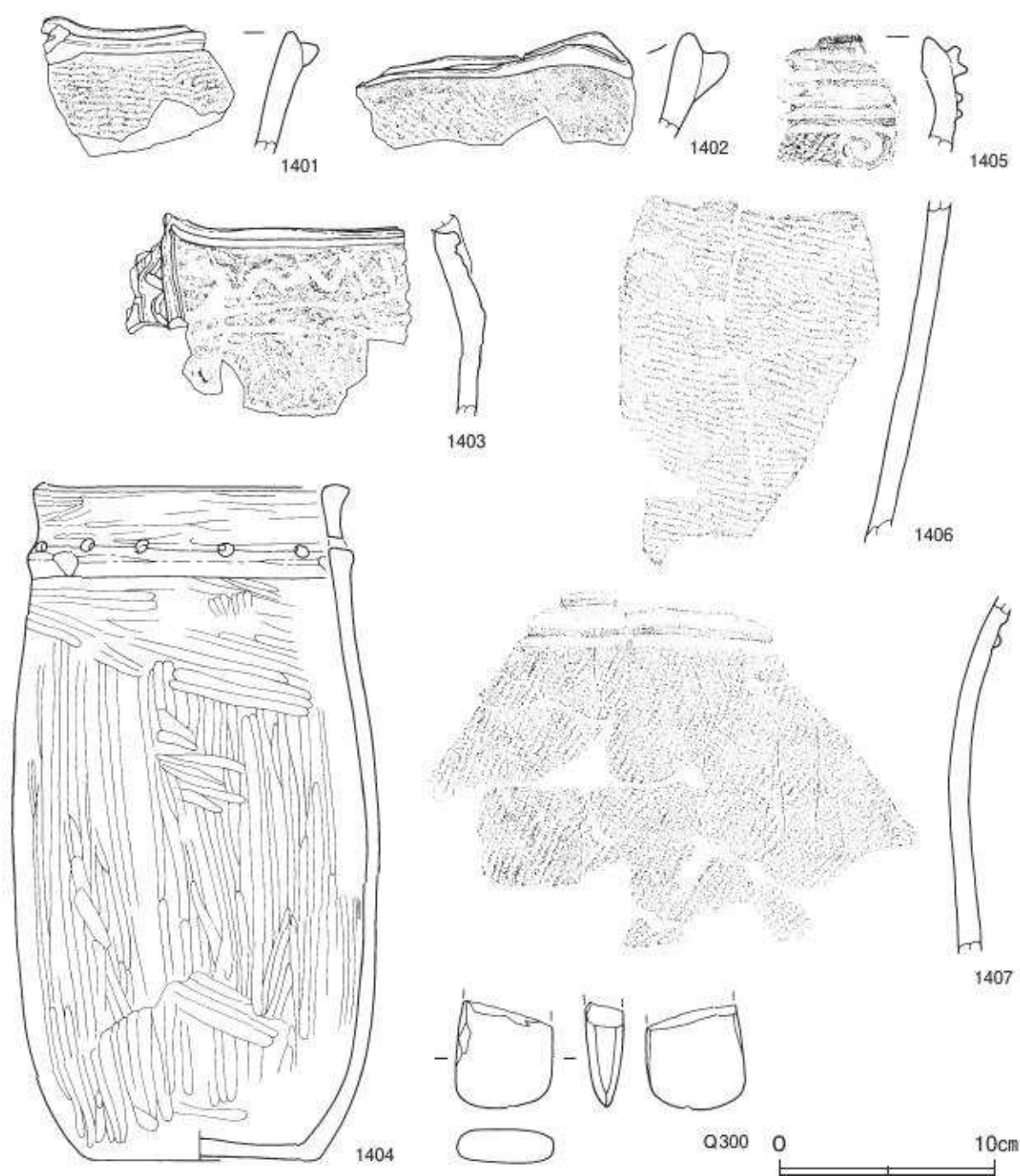
覆土 16 層に分層できる。ロームブロックを含む層などが不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------|-----------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 9 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子微量 | 10 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量 | 11 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック・炭化物微量 | 12 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子少量 | 13 にぶい黄褐色 | ロームブロック少量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック微量 | 14 褐色 | ロームブロック少量 |
| 7 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化物微量 | 15 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 |
| 8 黒褐色 | ロームブロック微量 | 16 暗褐色 | ローム粒子中量 |



第 494 図 第 574 号土坑実測図



第 495 図 第 574 号土坑出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片 146 点（深鉢 142、浅鉢 3、有孔鏝付土器 1）、石器 1 点（磨製石斧）が、覆土中層から下層にかけて散乱した状態で出土している。1404 は覆土中層と下層から出土し、離れた位置のものが接合していることから、破砕したものを投棄したと思われる。1406・1407 は、覆土中層から出土しており、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

所見 規模や形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第 574 号土坑出土遺物観察表 (第 495 図)

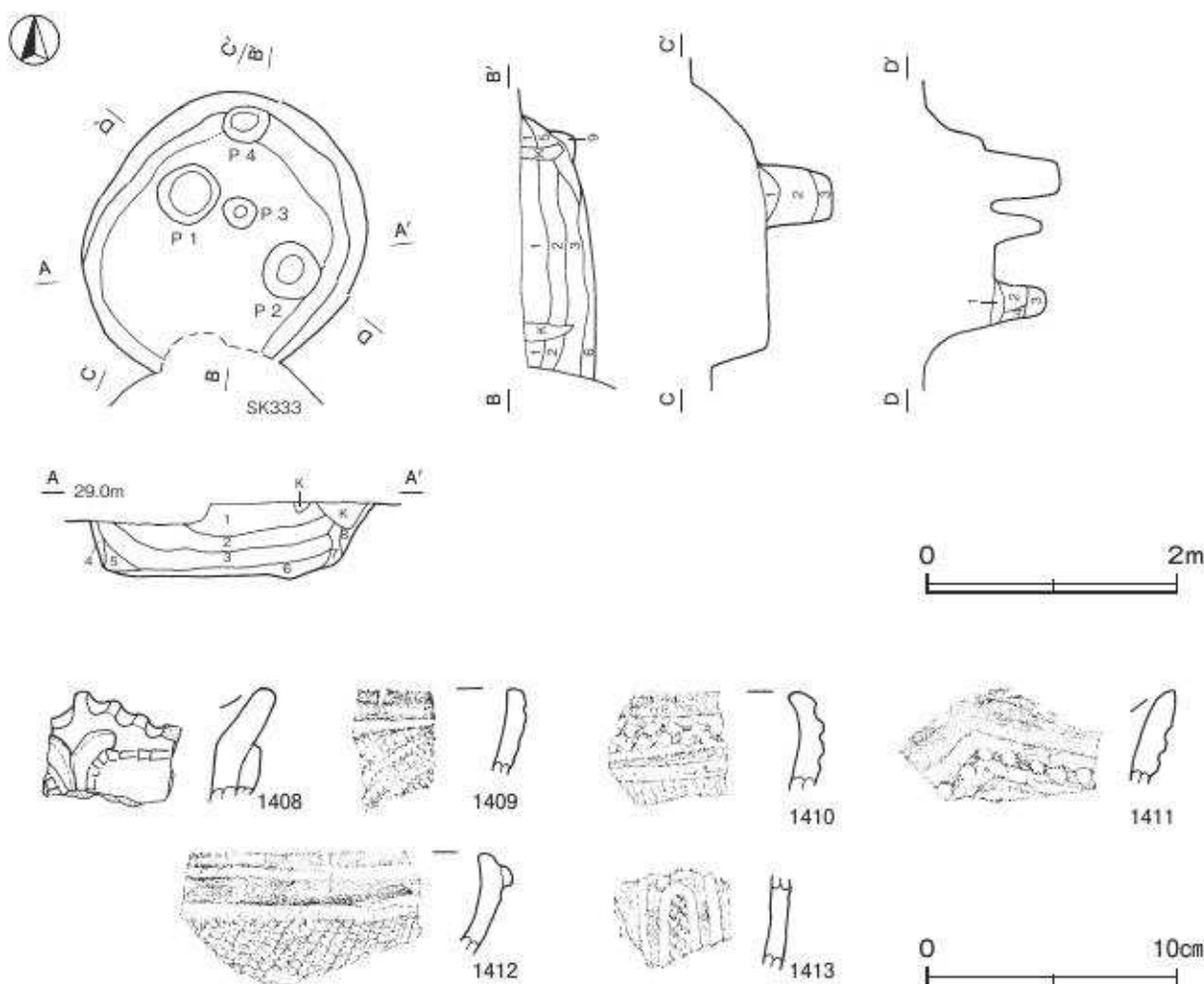
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1401	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	無節縄文 L (縦) 施文	覆土中	1402・1406 と同一個体。
1402	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黄褐色	普通	無節縄文 L (縦) 施文	覆土中	1401・1406 と同一個体。
1403	縄文土器	深鉢	-	(9.5)	-	長石・石英	灰褐色	普通	口縁に沿う隆帯と波頭部から垂下する隆帯による区画文。区画内沈線による波状文	覆土中	10%
1404	縄文土器	有孔器付土器	14.8	31.7	11.0	長石・石英	にぶい褐色	普通	口縁部下に 12 箇所の子孔。口縁部と柄部は隆帯により区画。表面全体に化粧土。外・内面ともに丁寧な磨き。外・内面赤彩痕	覆土中～下層	90% PL147 外面保付着
1405	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	青褐色隆帯による区画文。区画内単節縄文 LR (横) 隆帯による渦巻文	覆土中	
1406	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明褐色	普通	無節縄文 L (縦・斜) 施文	覆土中層	1401・1402 と同一個体。
1407	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・磁礫	灰褐色	普通	2 条の隆帯で柄部と区画。柄部単節縄文 RL (縦) 施文	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 300	磨製石斧	(5.0)	4.6	(1.4)	(53.6)	蛇紋岩	定角式 全面研磨 基部欠損 刃部は表裏から研ぎ出す 平刃	覆土中	PL167

第 576 号土坑 (第 496 図 PL82)

位置 調査区中央部の C 3d4 区。標高 29 m ほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第 333 号土坑に掘り込まれている。



第 496 図 第 576 号土坑・出土遺物実測図

規模と形状 長軸 2.42 m、短軸 2.10 m の隅丸長方形で、長軸方向は N - 35° - E である。底面はほぼ平坦で、深さは 55cm である。壁は外傾している。

ピット 4 か所。P 1 は北西部、P 2 は南東壁際、P 3 は中央部からやや北寄り、P 4 は北コーナー部に位置し、深さは、それぞれ 60cm、46cm、42cm、18cm である。位置や形状から、P 1・P 2 は補助的な貯蔵施設、P 3 は柱穴と考えられる。P 4 は、性格不明である。

ピット土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量 | 4 褐色 | ロームブロック中量 |

覆土 8層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第9層はP 4の覆土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|--------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量 | 6 極暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量 | 7 褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子微量 | 8 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量 | 9 褐色 | ロームブロック中量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 156 点（深鉢）が、覆土全体から散乱した状態で出土している。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

第 576 号土坑出土遺物観察表（第 496 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1408	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明褐色	普通	波頂部に V 字状隆起線貼付。口唇部棒状工具による波状押圧文。隆起線に沿って有筋沈線文	覆土中	
1409	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母	褐色	普通	口縁に沿って沈線文。単節縄文 LR（横）施文	覆土中	
1410	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	口縁に沿って交互刺突による波状文。縦位の燕爪文	覆土中	
1411	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	口縁に沿って並行沈線。沈線間に円形刺突文	覆土中	
1412	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	単節縄文 RL（縦）施文	覆土中	
1413	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	縦位の沈線による楕円形区画。区画内単節縄文 LR（縦）丸型	覆土中	

第 577 号土坑（第 497 ~ 501 図 PL82・103）

位置 調査区北東部の C 4 d3 区、標高 29 m ほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第 567・578 号土坑を掘り込み、第 568 号土坑に掘り込まれている。

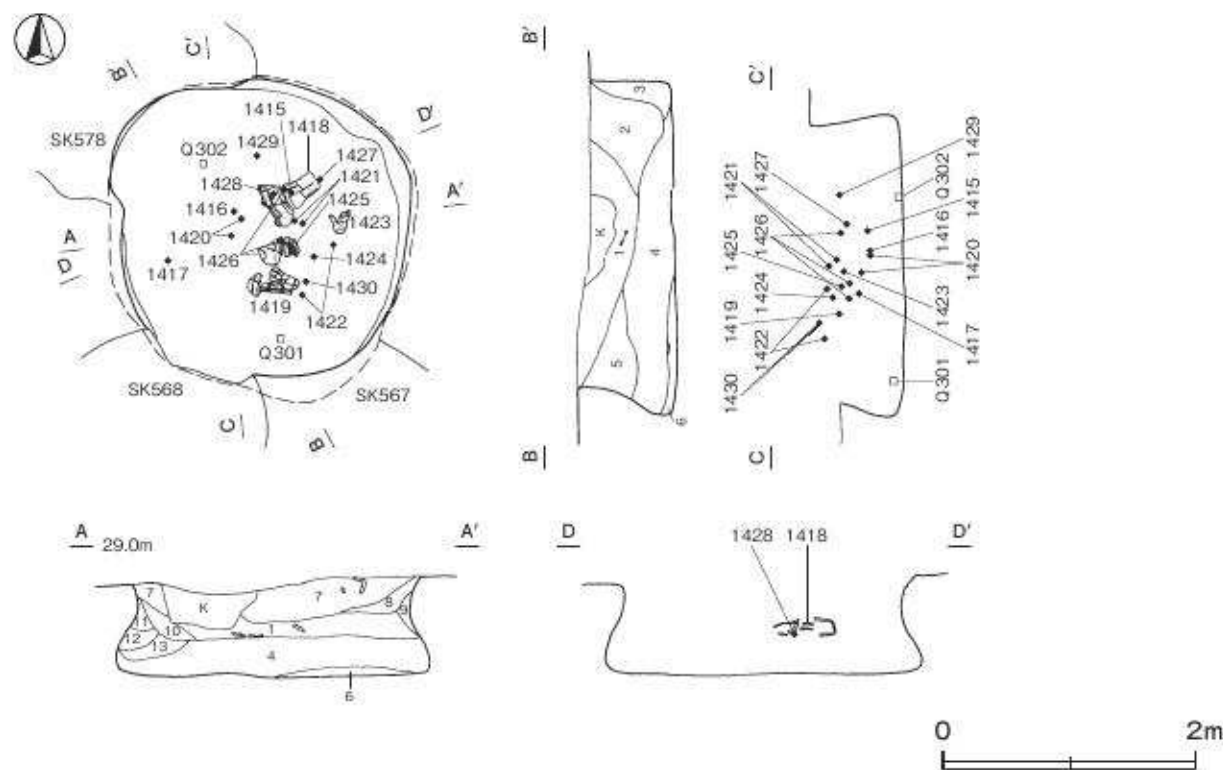
規模と形状 開口部は径 2.40 m ほどの円形である。底面は径 2.58 ~ 2.70 m のほぼ円形で、平坦である。確認面からの深さは 77cm で、壁は中位まで内燻して、袋状を呈し、上位は外傾している。

覆土 13層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|--------|-----------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック・炭化物少量 |
| 3 褐色 | ロームブロック中量 | 10 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化物少量 |
| 4 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 11 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化物微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子微量 | 12 褐色 | ロームブロック多量 |
| 6 褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子微量 | 13 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 357 点（深鉢 329、浅鉢 28）、土製品 2 点（土器片錘、土器片円盤）、石器 4 点（打製石斧、磨製石斧、磨石、敲砥石）が、覆土上層から中層を中心に散乱した状態で出土している。1418 は、ほぼ完形で覆土中層から横位で出土しており、ある程度埋まってから遺棄されたか、投棄されたものと思われる。1426



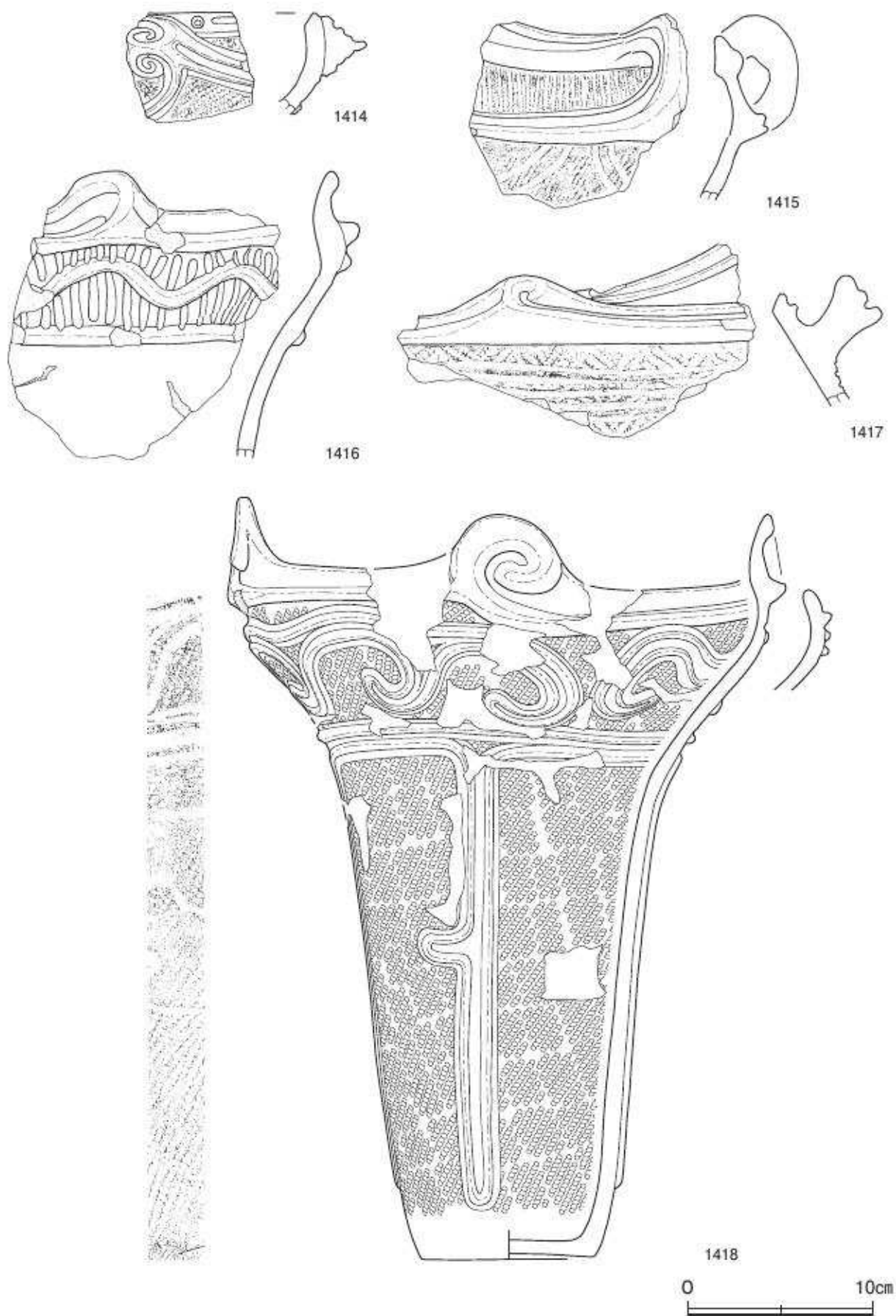
第 497 図 第 577 号土坑実測図

は覆土中層から、1422 は覆土上層からそれぞれ出土している。これらは、離れた位置のものが接合していることから、破碎したものを投棄したと思われる。Q 301・Q 302 は覆土下層から、1415～1417・1420・1427・1428・1431 は覆土中層から、1419・1421・1423～1425・1429・1430 は覆土上層からそれぞれ出土し、埋土と一緒に投棄されたと思われる。

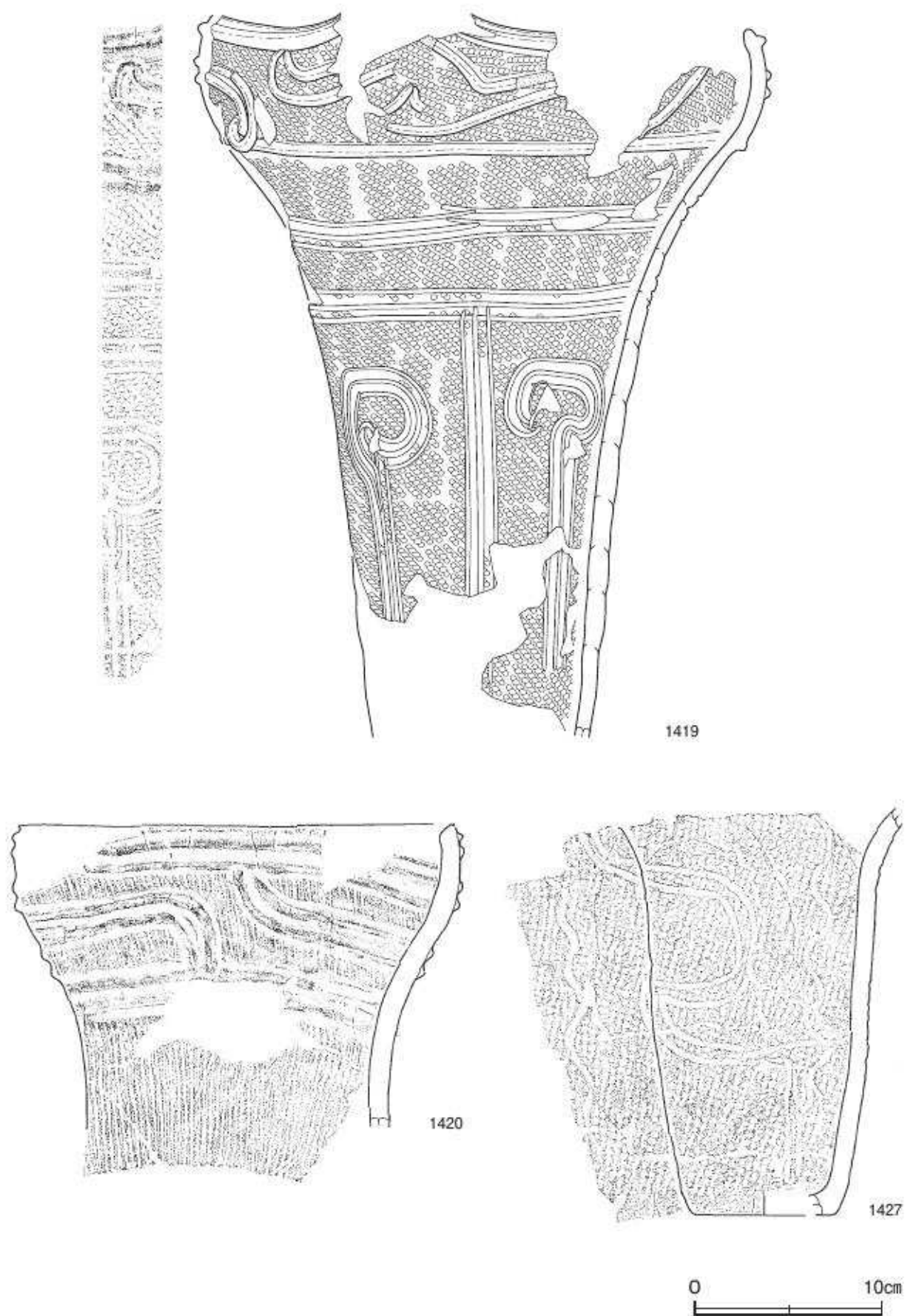
所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第 577 号土坑出土遺物観察表 (第 498～501 図)

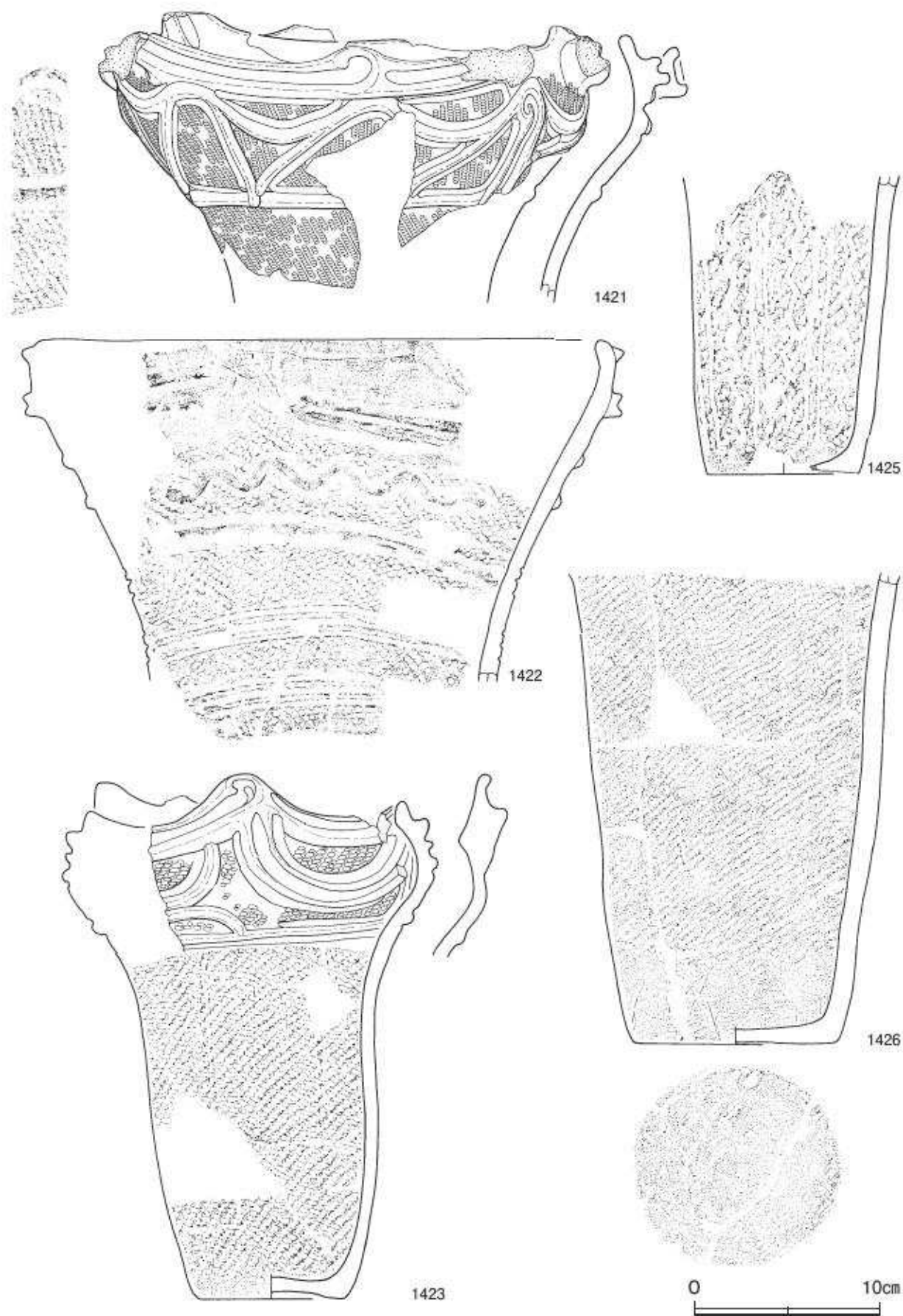
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1414	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明褐色	普通	口唇部は縦一筋、内形刺突文、突起状の隆帯 附付 隆帯上に2方向の渦巻文、単節縄文LR (縦) 背割れ隆帯による区画文	覆土中	
1415	縄文土器	深鉢	-	(10.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	厚みのある背割れ隆帯で口縁部区画、思案状 把手、反面内沈線文で充填、胴部単節縄文RL (縦) 2本の沈線による渦状文	覆土中層	
1416	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	断面扇形形の隆帯で口縁部を区画、区画内同隆帯 による波状文、縦位の沈線文で充填、胴部無文	覆土中層	10% PL147
1417	縄文土器	深鉢	-	(10.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口唇部に沈線一筋、外側波状口縁、頂部に渦巻 文をもつ底状の背割れ隆帯一筋、単節縄文LR の原形圧痕によるV字構成、手載竹管による2 本の並行沈線文	覆土中層	PL147
1418	縄文土器	深鉢	25.0	41.2	9.3	長石・石英・雲母	浅黄褐色	普通	波頂部に渦巻文、口縁に沿う隆帯と2条の隆帯 で口唇部区画、区画内背割れ隆帯による連続渦 巻文、胴部単節縄文RL(縦)、2条の隆帯によ る波上の字状文、底面に縄文原形圧痕文	覆土中層	90% PL148
1419	縄文土器	深鉢	[28.8]	(38.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口縁部沈線を伴う隆帯で区画、区画内2条の隆帯 による渦巻文、波状文、胴部3本組の沈線で区画 0段多条単節縄文LR(縦)、同條文具で区画内 区画内同條文具による底平文、輪積み表	覆土上層	70% PL148
1420	縄文土器	深鉢	[23.2]	(16.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口縁部2条単位の沈線を伴う背割れ隆帯で区画 区画内同隆帯によるクラック文、胴部縦位の熱 赤文刺突文	覆土中層	30% PL147
1421	縄文土器	深鉢	22.5	(15.7)	-	長石・石英・雲母	浅黄褐色	普通	口縁に沿う底状の背割れ隆帯と沈線を伴う隆帯 で口唇部区画、区画内沈線を伴う隆帯による連 続渦状文、波状文、胴部0段多条単節縄文LR (縦) 施文	覆土上層	60% PL148
1422	縄文土器	深鉢	[30.0]	(18.7)	-	長石・石英・雲母	明黄褐色	普通	口縁部断面半円状の隆帯で区画、口縁部上位置 文の縄文を磨消、やや粗のある背割れ隆帯によ る渦状文附付、口縁部下位単節縄文LR(縦) 隆帯による波状文、胴部単節縄文上に3本組の 並行沈線文、同沈線文で胴部と区画、輪積み表	覆土上層	10% PL147



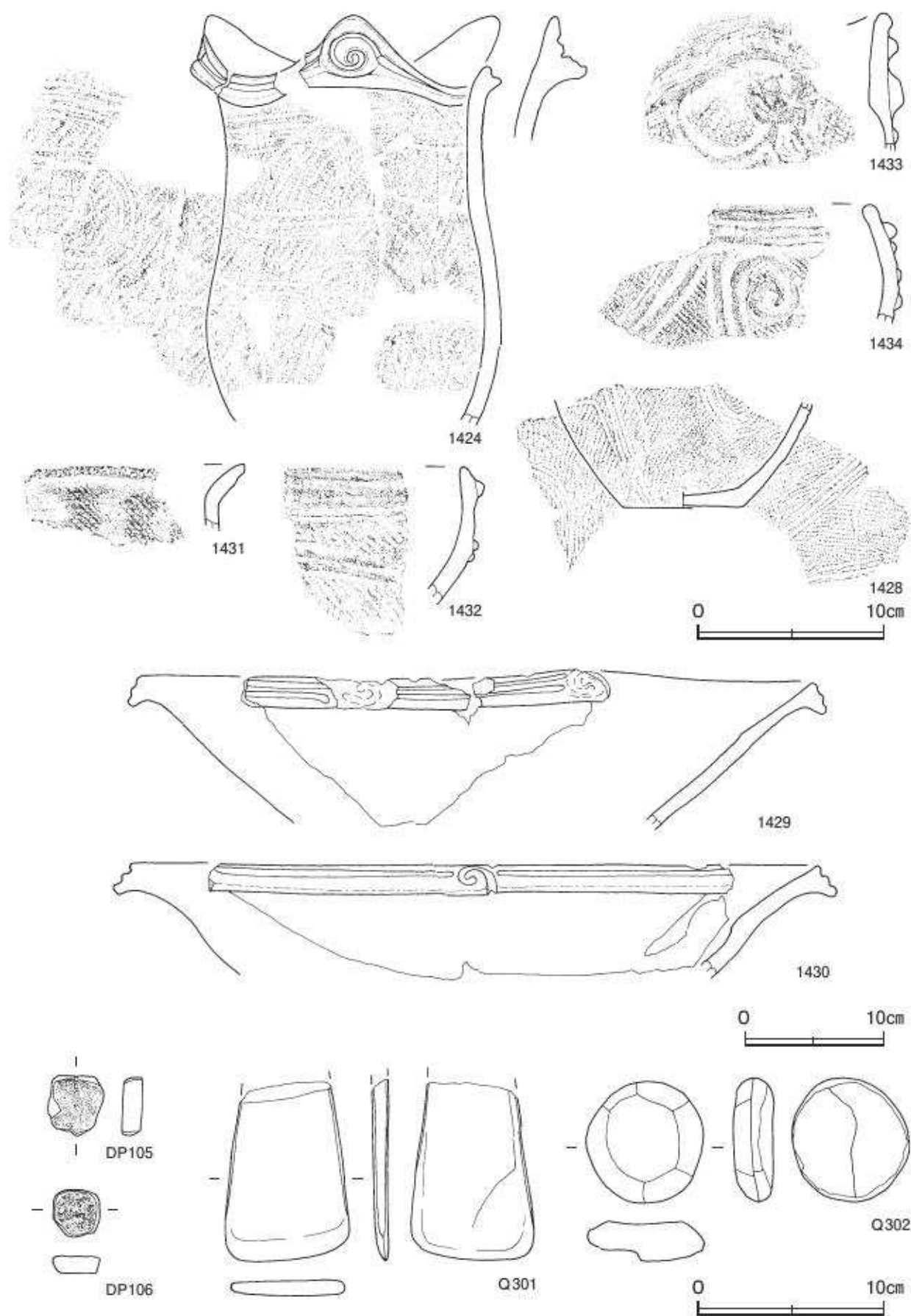
第 498 图 第 577 号土坑出土遗物实测图(1)



第 499 図 第 577 号土坑出土遺物実測図(2)



第 500 图 第 577 号土坑出土遗物实测图 (3)



第 501 図 第 577 号土坑出土遺物実測図 (4)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1423	縄文土器	深鉢	[16.9]	28.5	8.0	長石・石英・雲母	橙	普通	液滴部に渦巻文・口唇部太沈線周囲隆帯で口唇部を区画・区画内太沈線を伴う背割れ隆帯による直状文・胴部0段多条単節縄文LR(縦)施文	覆土上層	80% PL147
1424	縄文土器	深鉢	14.0	(22.2)	-	長石・石英・雲母・御隠	赤褐色	普通	口唇部渦巻文・単節縄文RL(縦)・平截竹筥による横線文・渦巻文・縦線文を挿入	覆土上層	50% PL148
1425	縄文土器	深鉢	-	(16.1)	8.2	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	単節縄文RL(縦)・ほぼ等間隔に2本の非行沈線を垂下・沈線間に総行沈線垂下	覆土上層	40%
1426	縄文土器	深鉢	-	(25.7)	11.0	長石・石英・雲母・御隠	にぶい赤褐色	普通	0段多条単節縄文RL(縦)・下部部横方向のナゲ底面粗い刻代痕	覆土中層	60% PL148
1427	縄文土器	深鉢	-	(22.0)	[7.8]	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	単節縄文LR(斜)・総行沈線垂下・間に平行する沈線によるコの字状文垂下	覆土中層	70% PL148
1428	縄文土器	深鉢	-	(5.7)	6.4	長石・石英・雲母	明褐色	普通	単節縄文LR(縦)・3本単位の沈線による縦線文・円文を挿入・底面丁寧な磨き	覆土中層	10%
1429	縄文土器	浅鉢	[48.2]	(10.7)	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	2本の沈線による平行線文・渦巻文・内面に横外・内面横方向のナゲ	覆土上層	10% 外面保存着
1430	縄文土器	浅鉢	[49.2]	(8.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	1本の太沈線・渦巻文・内面に横外・内面横方向の磨き	覆土上層	20% PL147
1431	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口唇部無節縄文L(縦)・胴部同一原形による間を閉じての編状施文	覆土中層	
1432	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口唇部断面溝状の背割れ隆帯による区画文・無節縄文L(縦)施文	覆土中	
1433	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口縁に沿って太沈線を伴う隆帯による区画文・渦巻文・区画内単節縄文LR(斜)光景	覆土中	
1434	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	単節縄文RL(横)・2本の隆帯による区画文・渦巻文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP105	土器片鉢	32	3.0	1.0	125	長石・石英	にぶい褐色	一端のみ粗雑に研磨・両端にキザミ目	覆土中	
DP106	土器片鉢	26	2.5	0.9	78	長石・石英	明赤褐色	周縁部粗雑に研磨	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 301	打製石斧	(98)	6.7	0.9	(113.3)	角閃岩	板形・表裏面及び周縁部研磨・刃部は表裏を研磨・基部欠損薄型の平刃	覆土下層	
Q 302	敲破石	6.9	6.3	2.3	126.0	チャート	円縁の周縁部に多方向からの砥面により稜をもつ	覆土下層	PL173

第 578 号土坑 (第 502・503 図 PL82)

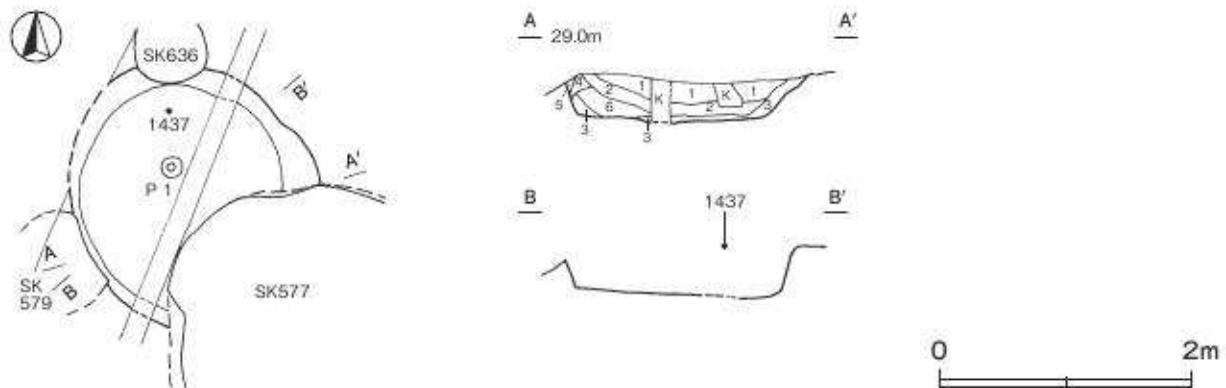
位置 調査区北東部の C 4 d3 区、標高 29 m ほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第 577・579・636 号土坑に掘り込まれている。

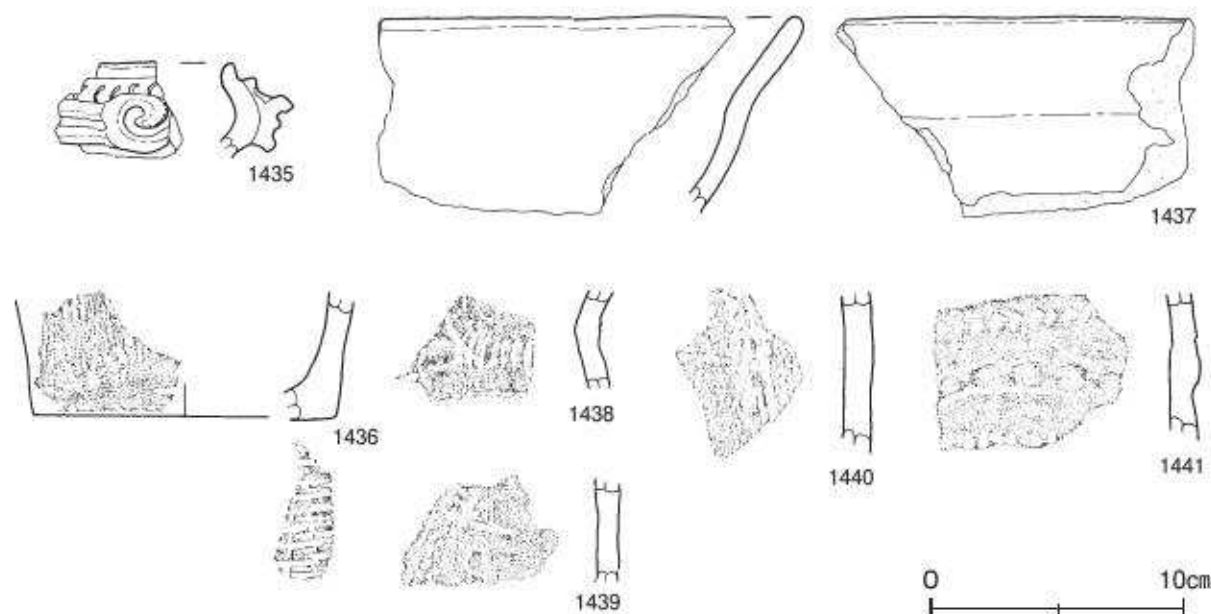
規模と形状 南東部を第 577 号土坑に掘り込まれているため、北東・南西径は 1.84 m で、北西・南東径は 2.00 m しか確認できなかった。長径方向は N - 29° - W で、楕円形と推定できる。底面はほぼ平坦で、深さは 40cm である。壁は外傾している。

ピット 中央部に位置している。深さは 35cm で、壁はほぼ直立している。位置や形状から、柱穴と考えられる。

覆土 6 層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。



第 502 図 第 578 号土坑実測図



第 503 図 第 578 号土坑出土遺物実測図

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 褐色 | ロームブロック中量、炭化物微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片 38 点（深鉢 30、浅鉢 8）が、覆土中からまばらに出土している。1437 は覆土上層から出土し、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期前葉と考えられる。

第 578 号土坑出土遺物観察表（第 503 図）

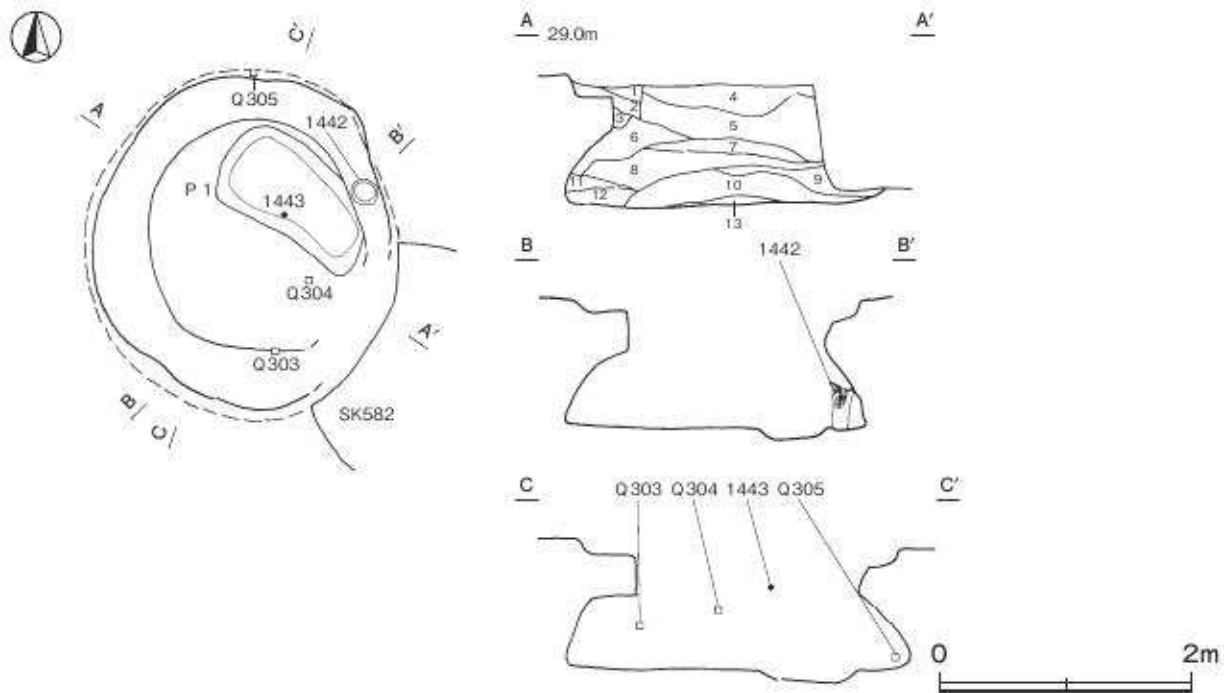
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1435	縄文土器	深鉢	-	(37)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	連続爪形文を伴う背割れ陸帯による渦巻文	覆土中	
1436	縄文土器	深鉢	-	(50)	[12.0]	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	縦走する燃糸文 割下端部横ナデ 底面網代痕	覆土中	
1437	縄文土器	浅鉢	-	(78)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	内彎して立ち上がる。内面に横	覆土上層	外面煤付着
1438	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	押しされた陸起線垂下 横位の連続爪形文	覆土中	
1439	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	キザミ目をもつ斜行陸起線貼付	覆土中	
1440	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色 粒子・磁鉄	にぶい黄褐色	普通	単節縄文 RL（斜）上に陸起線垂下	覆土中	
1441	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黄褐色	普通	押しされた横位の陸起線貼付 陸起線の上下に 連続三角刺突文	覆土中	

第 581 号土坑（第 504・505 図 PL83）

位置 調査区中央部の C 2 f0 区、標高 29 m ほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第 582 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径 2.66 m、短径 2.35 m の楕円形で、長径方向は N-7°-W である。底面は長径 2.77 m、短径 2.50 m の楕円形で、ほぼ平坦である。確認面からの深さは 106 cm で、壁は中位まで内彎して、袋状を呈し、上位はほぼ直立してから外傾している。



第504図 第581号土坑実測図

ピット 北東部に位置し、長軸136cm、短軸72cmの不整形長方形である。深さは10cmで、壁は外傾している。北東壁との間に完形の1442が正位の状態出土していることや形状から、墓坑の可能性がある。

覆土 13層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

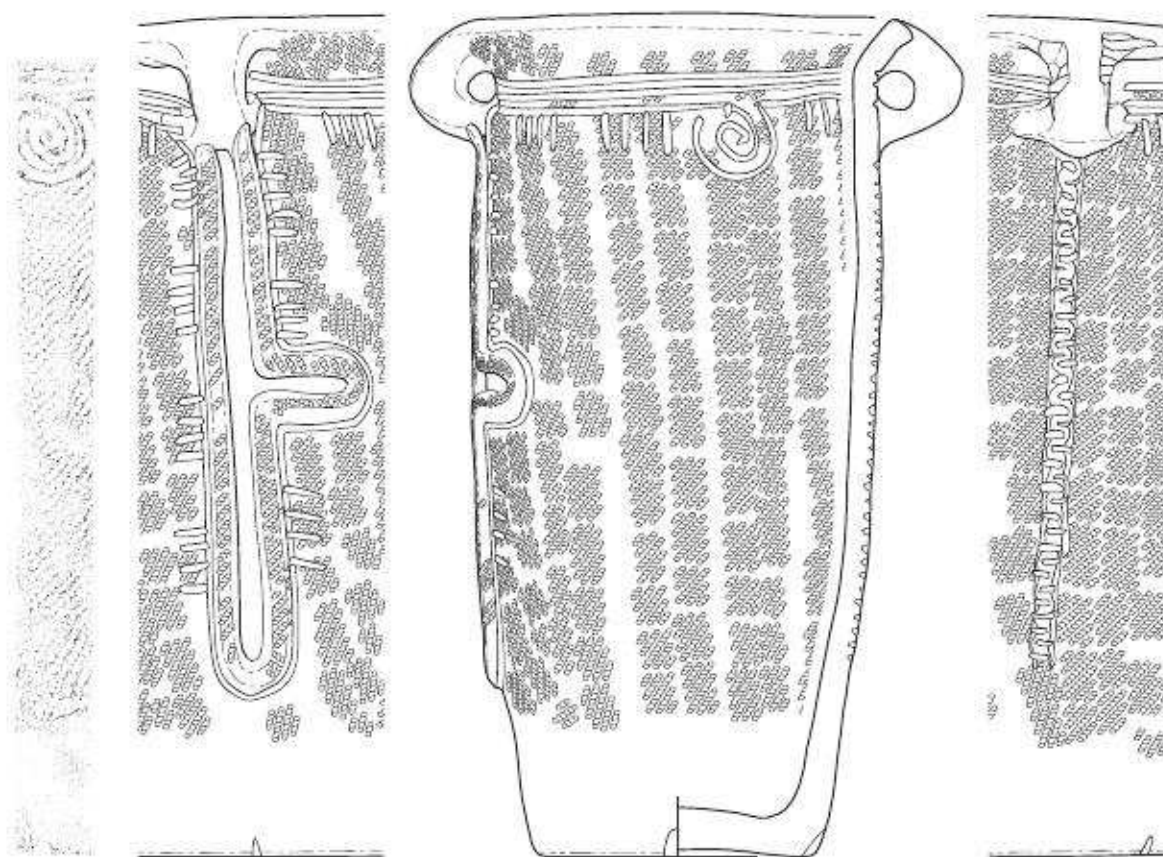
- | | | | |
|-------|----------------|---------|------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子微量 | 8 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック、炭化粒子微量 | 9 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量 | 10 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 | 11 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック、炭化粒子少量 | 12 極黒褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 6 黒褐色 | ローム粒子少量 | 13 黒褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 7 黒褐色 | ローム粒子中量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片477点（深鉢462、浅鉢15）、石器4点（磨製石斧3、敲砥石1）、剥片4点（チャート、石英、安山岩、ホルンフェルス）が、覆土全体に散乱した状態で出土している。1442は北東壁とP1との間の底面から、完形で正位の状態出土している。埋め戻される前に置かれたものと思われる。Q305は覆土下層から、Q303・Q304は覆土中層から、1443は覆土上層から出土し、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

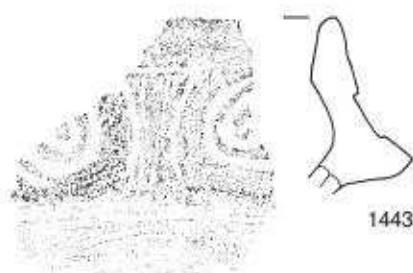
所見 規模と形状から貯蔵穴と考えられる。廃絶後、墓坑として使われた可能性がある。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第581号土坑出土遺物観察表（第505図）

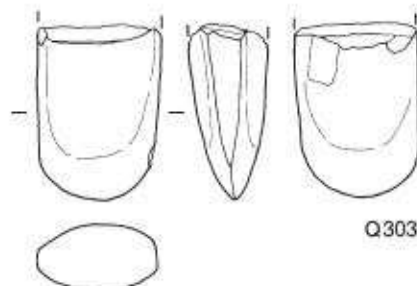
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1442	縄文土器	深鉢	17.4	33.5	11.0	長石・石英・雲母	暗褐	良好	胴部と渦巻文をもつ3本の流線文で区画。区画下断続するキザミ目周回。把手から縄文流線のトの字状帯垂下。隆帯に沿って断続するキザミ目単節渦文RL（縦）を胴部を空けて竊伏に施文。底面網代痕。	底面	95% PL149
1443	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・細砂	明赤褐	普通	縄文流線の隆帯による渦巻文区画内流線を伴う隆帯による渦巻文。区画間刺突文。内面に稜	覆土上層	



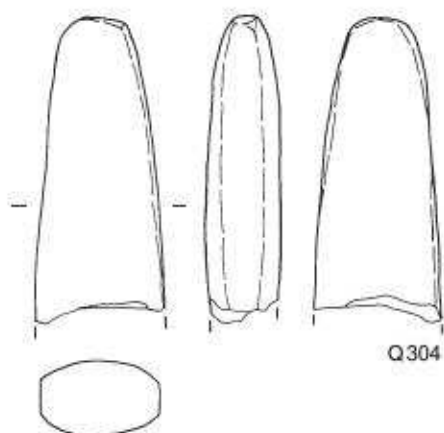
1442



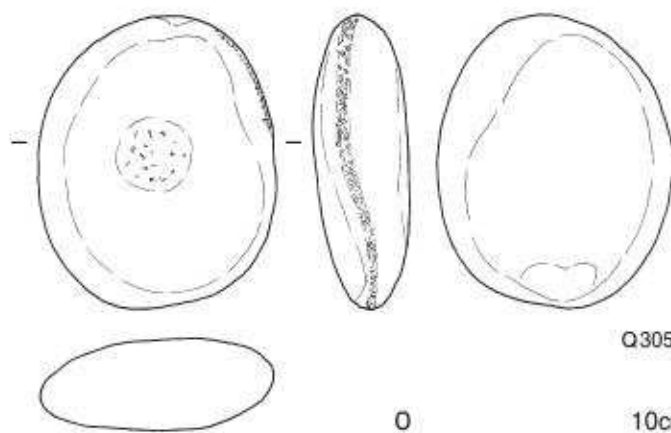
1443



Q303



Q304



Q305



第 505 図 第 581 号土坑出土遺物実測図

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 303	磨製石斧	(6.9)	5.0	3.1	(167.7)	凝灰岩	定角式 アケ方 粗縁に接し、基部欠損 刃部は表裏から研ぎ出す 欠損部研磨痕	覆土中層	
Q 304	磨製石斧	(12.2)	5.2	3.0	(305.4)	安山岩	定角式 全面研磨 刃部欠損	覆土中層	PL167
Q 305	磨製石	11.7	9.5	3.8	587.1	緑色岩	全面磨り調整 粗縁及び片面中央部に微細な磨打痕	覆土下層	PL173

第 582 号土坑 (第 506・507 図 PL83)

位置 調査区中央部の C 2 ㊦ 区、標高 29 m ほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第 581 号土坑を掘り込み、第 13 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は径 1.95 ~ 2.05 m のほぼ円形である。底面は長径 2.44 m、短径 2.08 m の楕円形で、ほぼ平坦である。確認面からの深さは 95cm で、壁は南西部を除いて、内彎して、袋状を呈している。

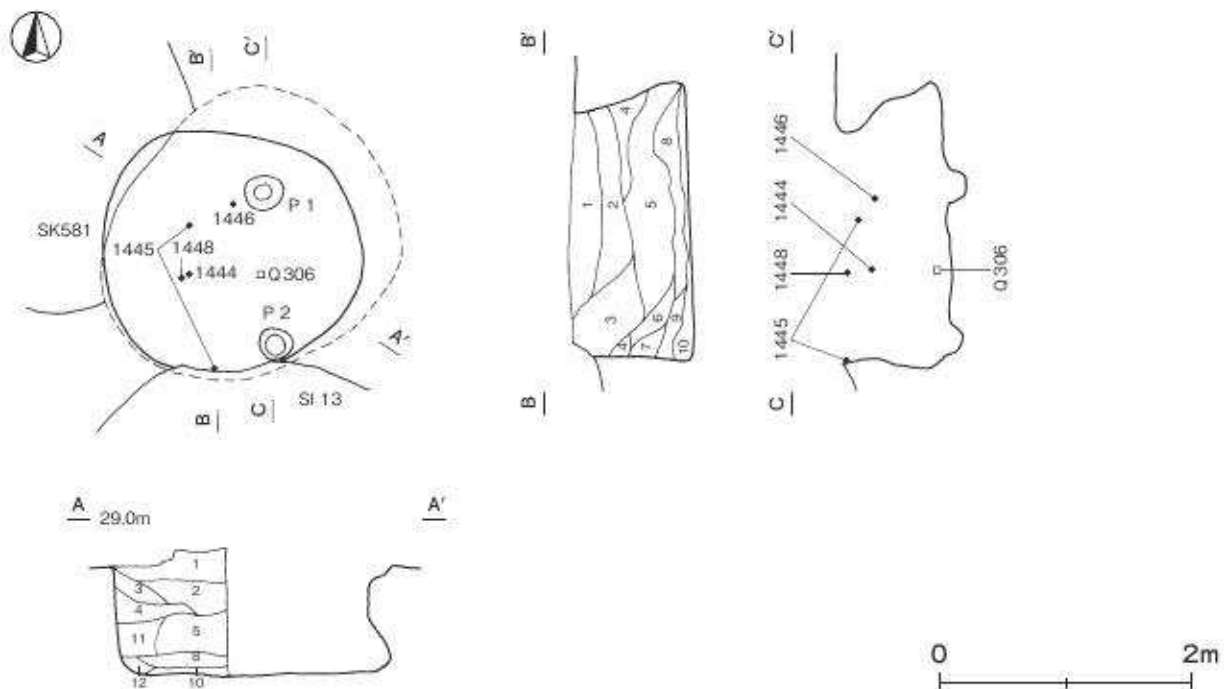
ピット 2 か所。P 1 は中央部から北寄り、P 2 は南東壁際に位置し、深さはそれぞれ、18cm・12cm である。いずれも、位置から柱穴と考えられる。

覆土 12 層に分層できる。第 3 ~ 12 層はロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。第 1・2 層は黒褐色土がレンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

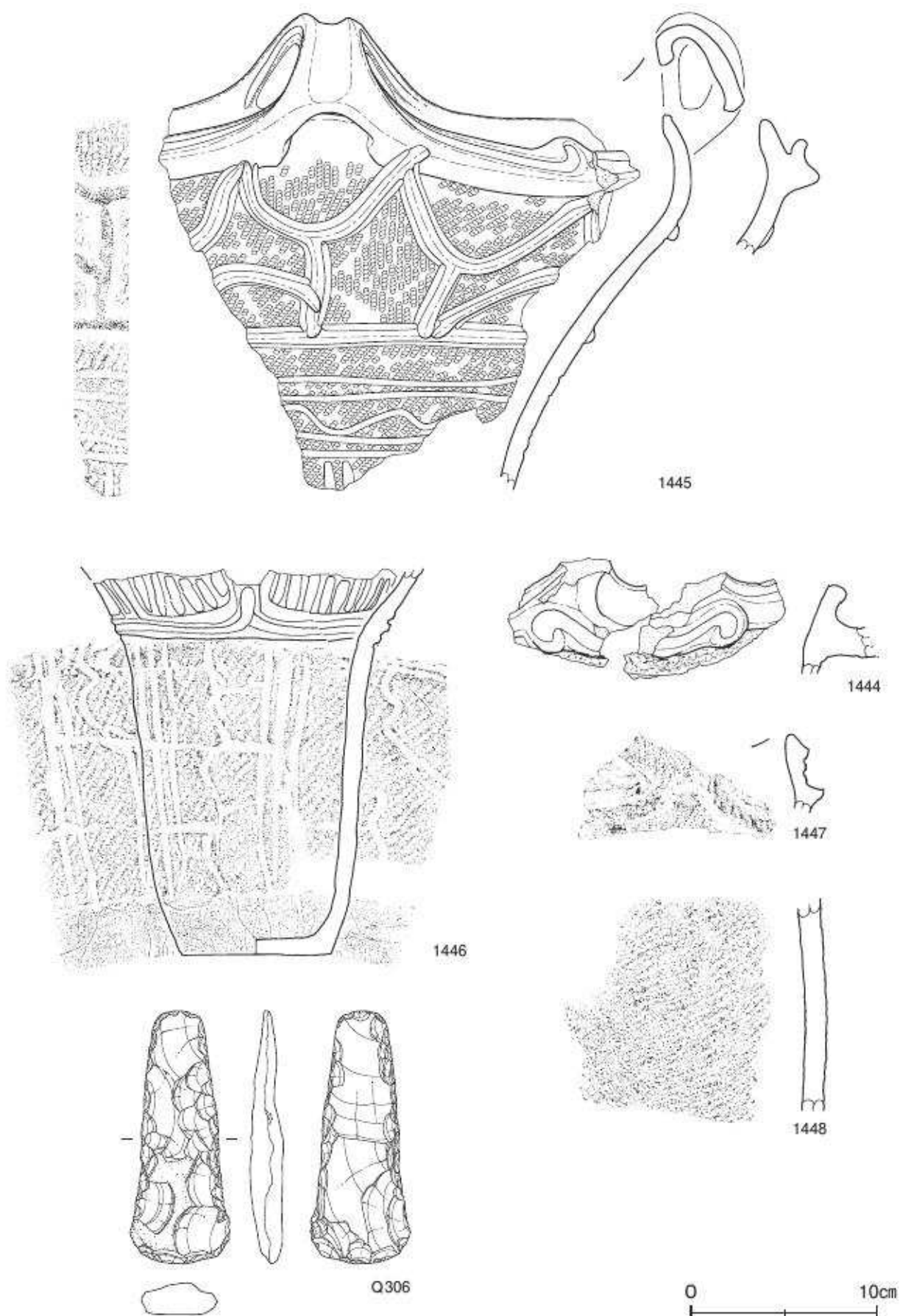
土層解説

- | | | | |
|----------|------------------|--------|-----------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 | 8 黒暗色 | ロームブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 9 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック微量 | 10 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 5 におい黄褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 11 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化物微量 |
| 6 黒褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子微量 | 12 黒褐色 | ローム粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片 201 点 (深鉢 197, 浅鉢 4), 石器 1 点 (打製石斧), 剥片 2 点 (チャート) が、覆土中層を中心に散乱した状態で出土している。1445 は覆土上層から出土し、離れた位置にあるものが接合していることから、破碎したものを投棄したと思われる。Q 306 は覆土下層から、1444・1446・1448 は、覆土



第 506 図 第 582 号土坑実測図



第 507 図 第 582 号土坑出土遺物実測図

上層からそれぞれ出土し、投棄されたか流れ込んだものと思われる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第 582 号土坑出土遺物観察表 (第 507 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1444	縄文土器	深鉢	-	(6.5)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・細塵	灰黄褐色	普通	把手下部太沈線による相対する渦巻文・単面縄文LR(縦)施文	覆土上層	
1445	縄文土器	深鉢	-	(25.7)	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい橙	普通	背割れ隆帯による二重口縁・隆帯で口縁部を区画・区内沈線を伴う隆帯による相対渦状文・底部単節縄文RL(縦)上に太沈線による横走文・沈状文	覆土上層	20% PL149
1446	縄文土器	深鉢	-	(21.1)	8.0	長石・石英・雲母・細塵	明赤褐色	良好	背割れ隆帯による区画文・区内縦位の沈線文で充填(副部単節縄文RL(縦)・沈線による懸垂文・懸垂流状文	覆土上層	90% PL149
1447	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	縄文施文の厚みのある隆帯による区画文・隆帯に沿って沈線文・区内単節縄文RL(縦)で充填	覆土中	
1448	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・細塵	橙	普通	複節縄文RLR(縦)施文	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 306	打製石斧	13.7	5.4	1.8	13.7	ホルンフェルス	磨形 表裏面を微細な敲打調整	覆土下層	PL165

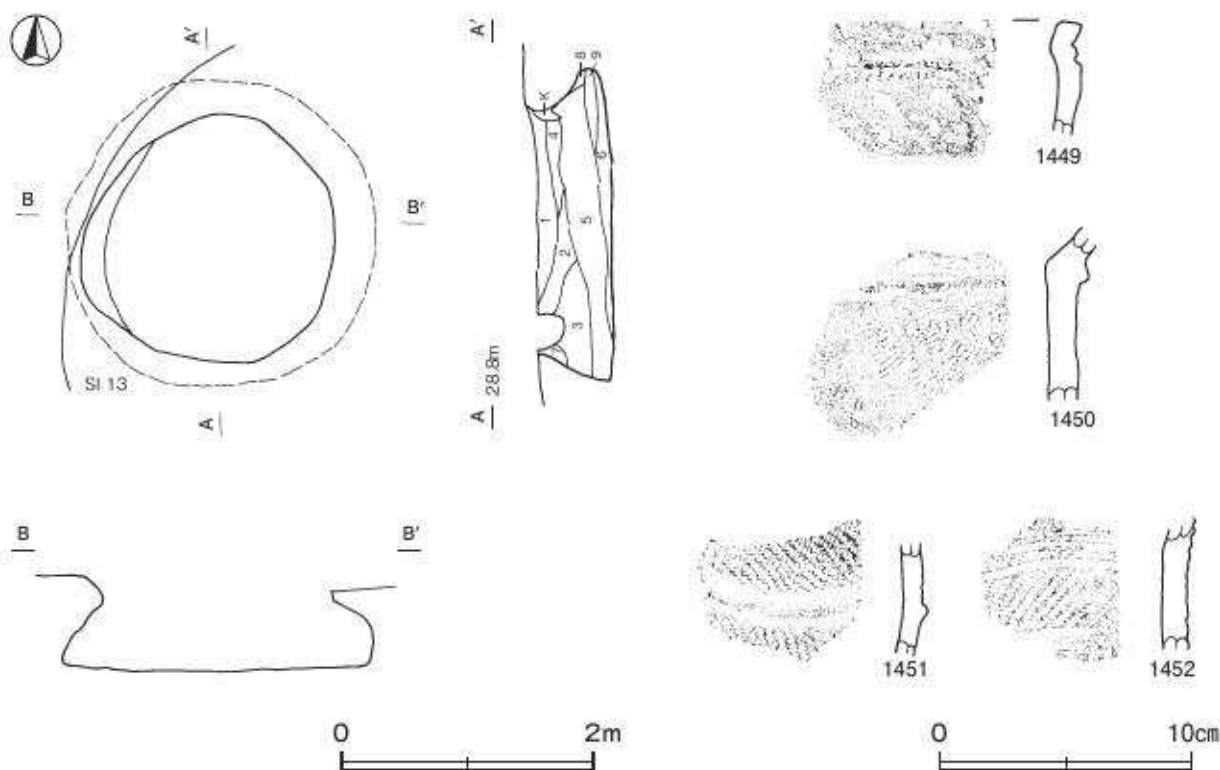
第 583 号土坑 (第 508 図 PL84)

位置 調査区中央部のC 2 g0区、標高 29 mほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第 13号堅穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は径 1.95 ~ 2.10 mのほぼ円形である。底面は径 2.41 ~ 2.50 mのほぼ円形で、平坦である。確認面からの深さは 90cmで、壁は内彎して、袋状を呈している。

覆土 9層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。



第 508 図 第 583 号土坑・出土遺物実測図

土層解説

1	褐色	ロームブロック少量	炭化粒子微量	6	灰褐色	ロームブロック微量	
2	褐色	ロームブロック中量	炭化粒子微量	7	褐色	ロームブロック少量	
3	極暗褐色	ロームブロック少量	焼土粒子微量	8	暗褐色	ロームブロック少量	
4	暗褐色	ロームブロック少量	炭化粒子微量	9	にぶい褐色	ロームブロック微量	
5	明褐色	ロームブロック多量					

遺物出土状況 縄文土器片 135 点（深鉢 128、浅鉢 7）、石器 1 点（磨石）、剥片 1 点（チャート）が、覆土全体から散乱した状態で出土している。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第 583 号土坑出土遺物観察表（第 508 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1449	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	口縁に沿って隆帯貼付 隆帯に沿って 2 列の有部沈線文	覆土中	
1450	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	器蓋により口頸部と胴部を区画 胴部は段多條単節縄文 RL (横) 縄文	覆土中	
1451	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口縁部と胴部を隆帯で区画 胴部単節縄文 RL (横) 隆文	覆土中	
1452	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子・磁鉄	にぶい黄褐色	普通	単節縄文 RL (縦) 3 本の沈線による横走文	覆土中	

第 584 号土坑（第 509 図 PL84）

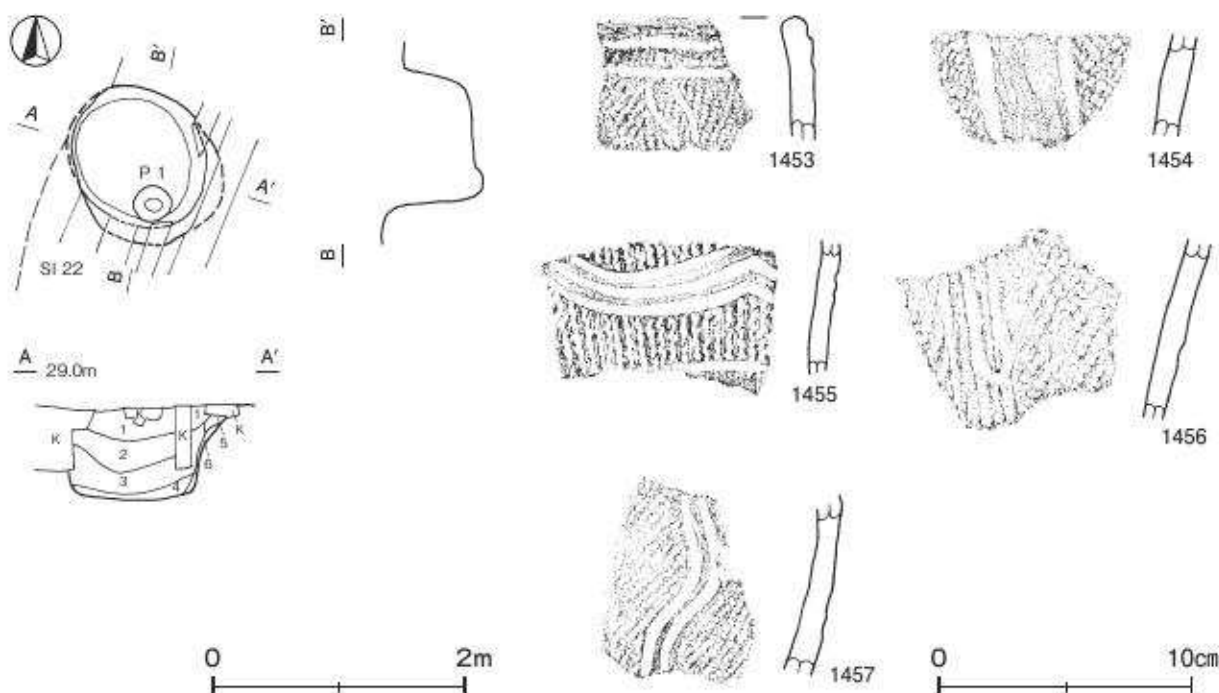
位置 調査区北部の C 4 c1 区、標高 29 m ほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第 22 号堅穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 1.35 m、短径 1.12 m の楕円形で、長径方向は N - 50° - W である。底面は平坦で、深さは 70 cm である。壁は直立している。

ピット 南壁際に位置し、深さは 8 cm である。性格は不明である。

覆土 6 層に分層できる。暗褐色土がレンズ状に堆積していることから、自然堆積である。



第 509 図 第 584 号土坑・出土遺物実測図

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------|------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 | 5 褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 6 褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 縄文土器片 176 点（深鉢 167、浅鉢 9）、石器 1 点（石皿）、剥片 6 点（チャート 3、瑪瑙 1、黒曜石 1、石英 1）が、覆土中層を中心に散乱した状態で出土している。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

第 584 号土坑出土遺物観察表（第 509 図）

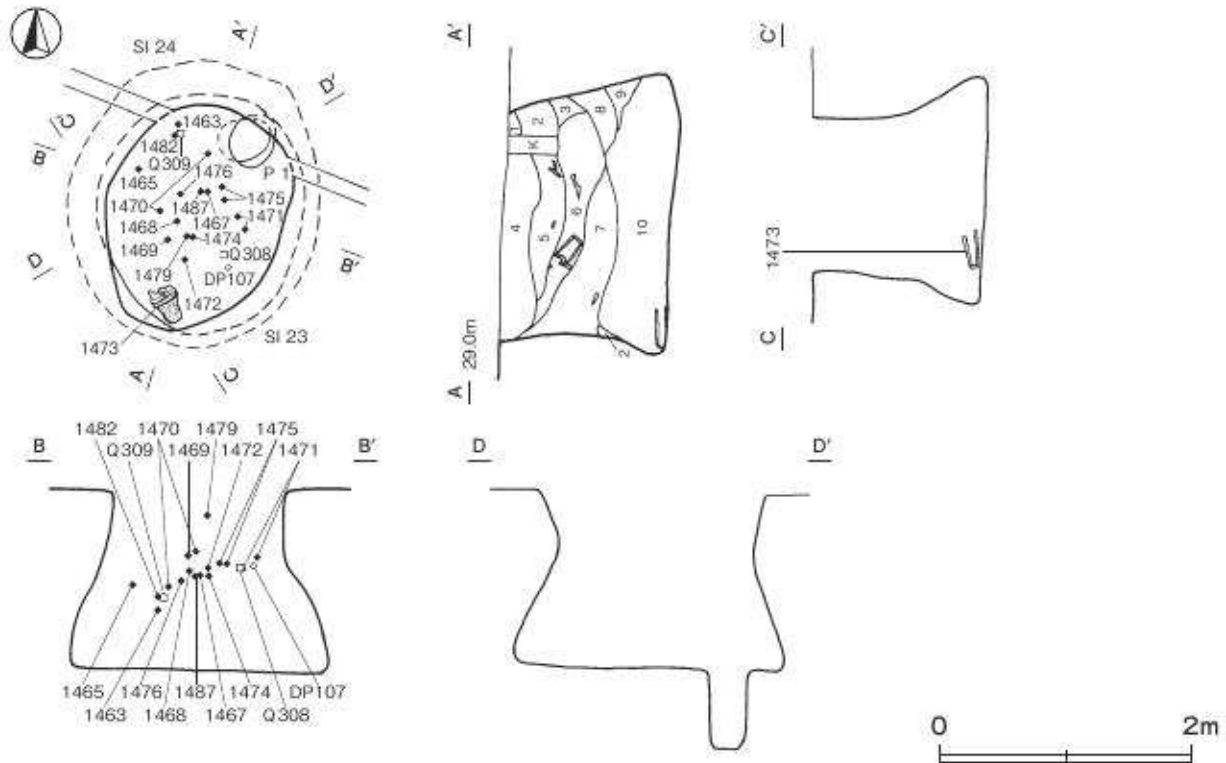
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1453	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・委存・赤色粒子・燧	橙	普通	単節縄文 RL（縦） 口縁に沿って 2 本の太沈線による横志文・懸垂波状文	覆土中	
1454	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰褐色	普通	0 段多条単節縄文 LR（縦） 太沈線間磨消懸垂文	覆土中	
1455	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子・燧	黒褐色	普通	縦位の燃糸文 3 本一組の沈線間磨消通弧文	覆土中	
1456	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐色	普通	単節縄文 RL（縦） 3 本一組の沈線による懸垂文	覆土中	
1457	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	単節縄文 RL（縦） 太沈線間磨消懸垂波状文	覆土中	

第 585 号土坑（第 510～515 図 PL84・85・102）

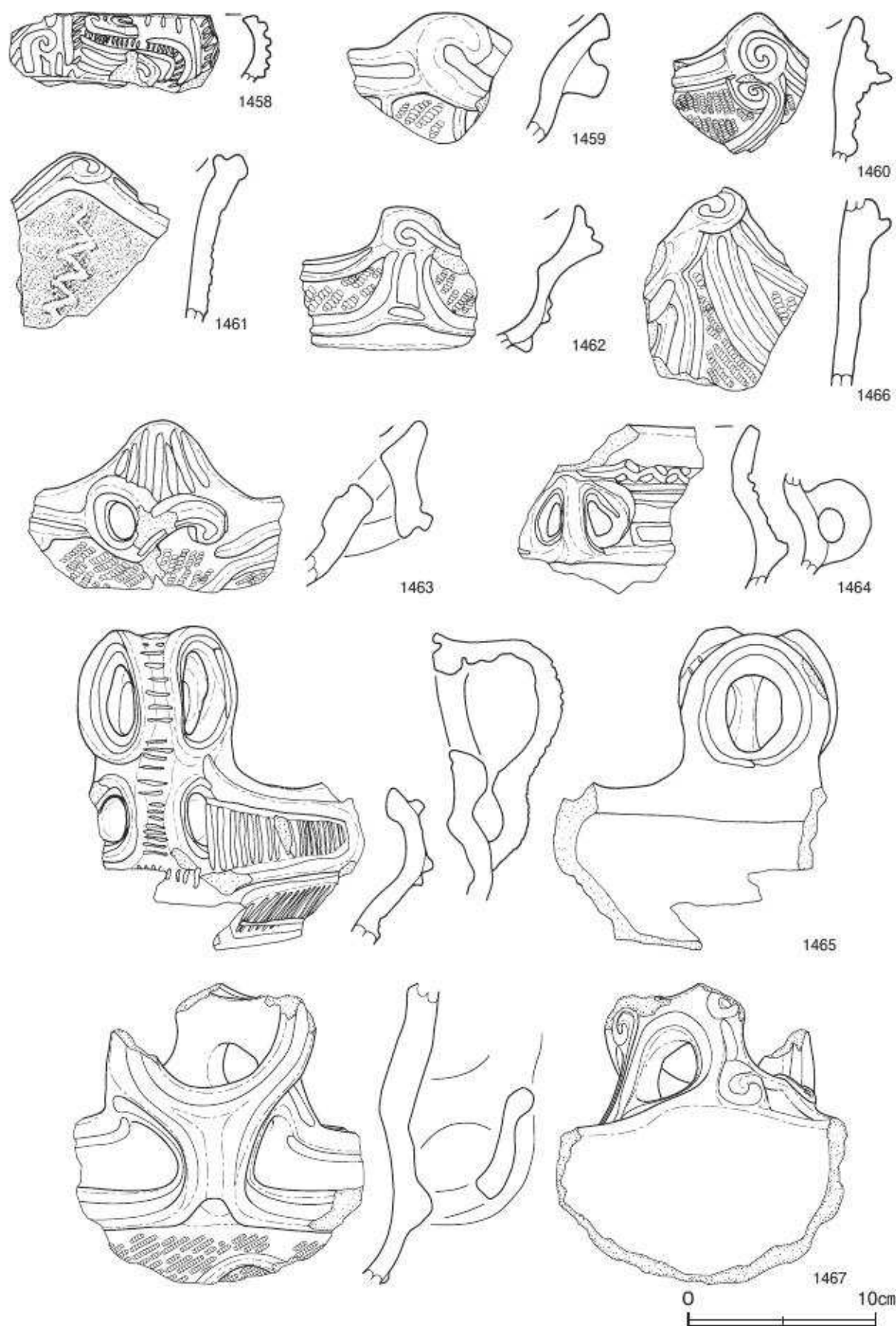
位置 調査区中央部の C 3 g4 区、標高 29 m ほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第 23 号堅穴建物跡を掘り込み、第 24 号堅穴建物に掘り込まれている。

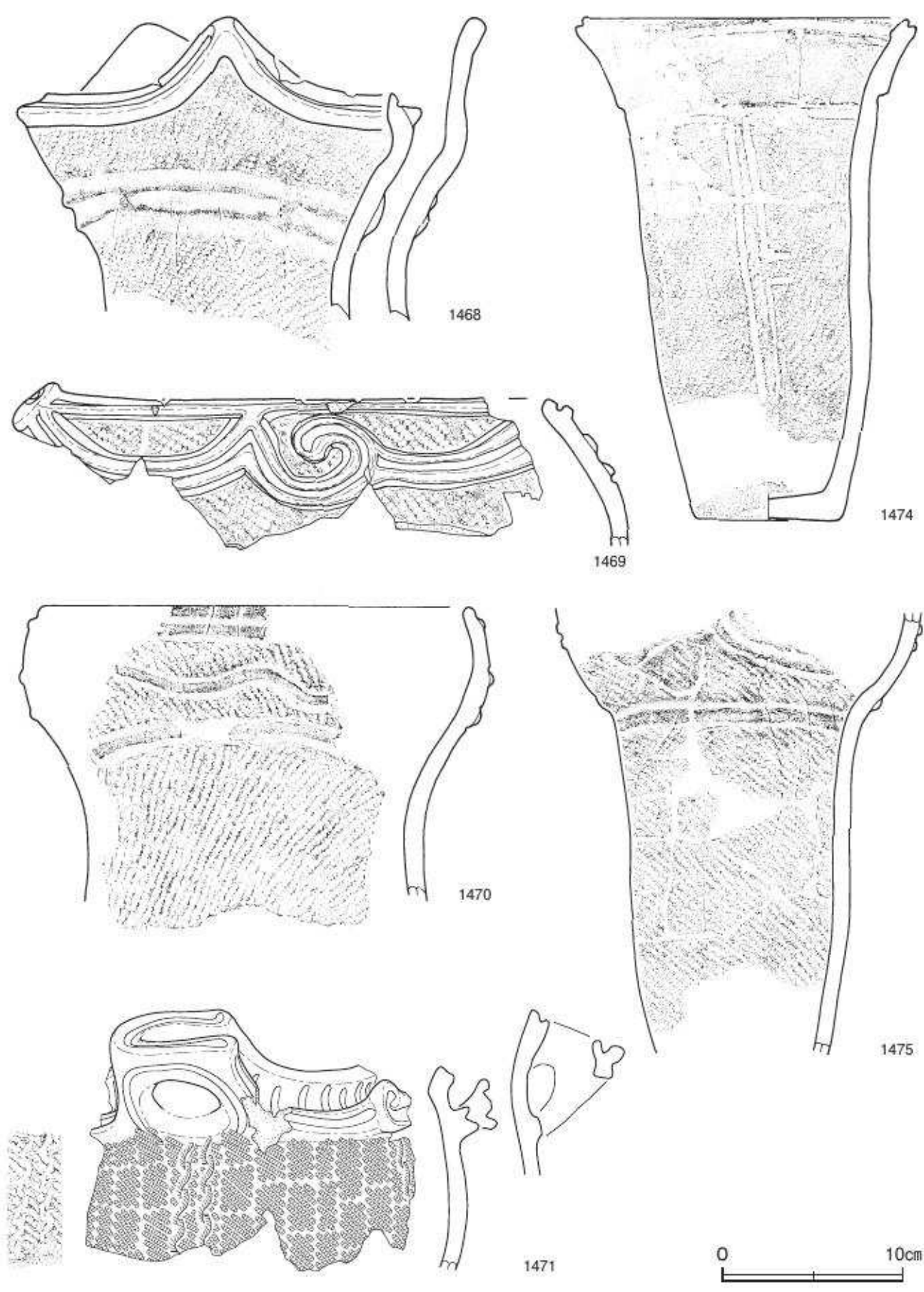
規模と形状 開口部は長径 1.81 m、短径 1.40 m の楕円形で、長径方向は N - 16° - E である。底面は長径 2.22 m、短径 1.99 m の楕円形で、平坦である。確認面からの深さは 140 cm で、壁は内傾して、袋状を呈している。



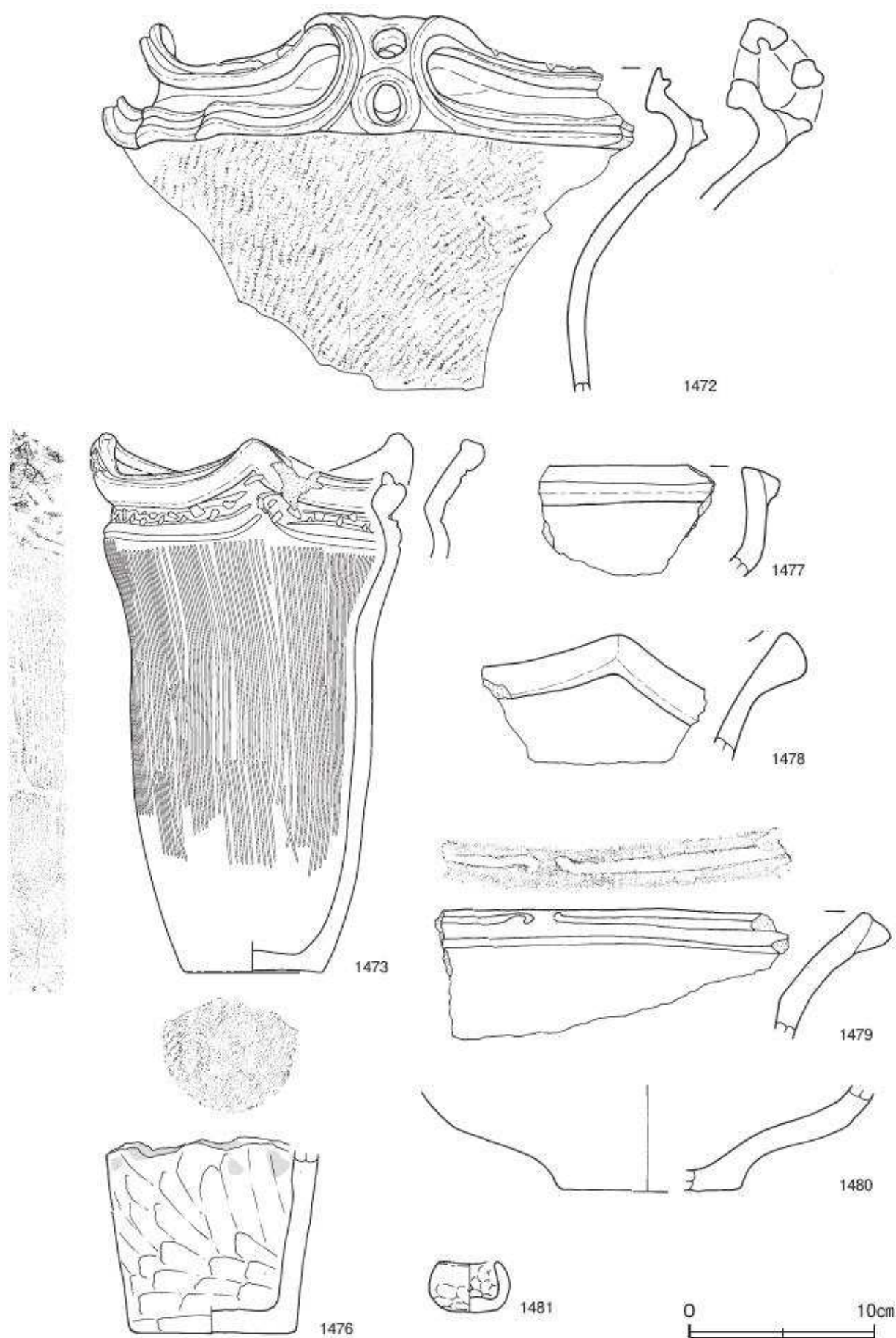
第 510 図 第 585 号土坑実測図



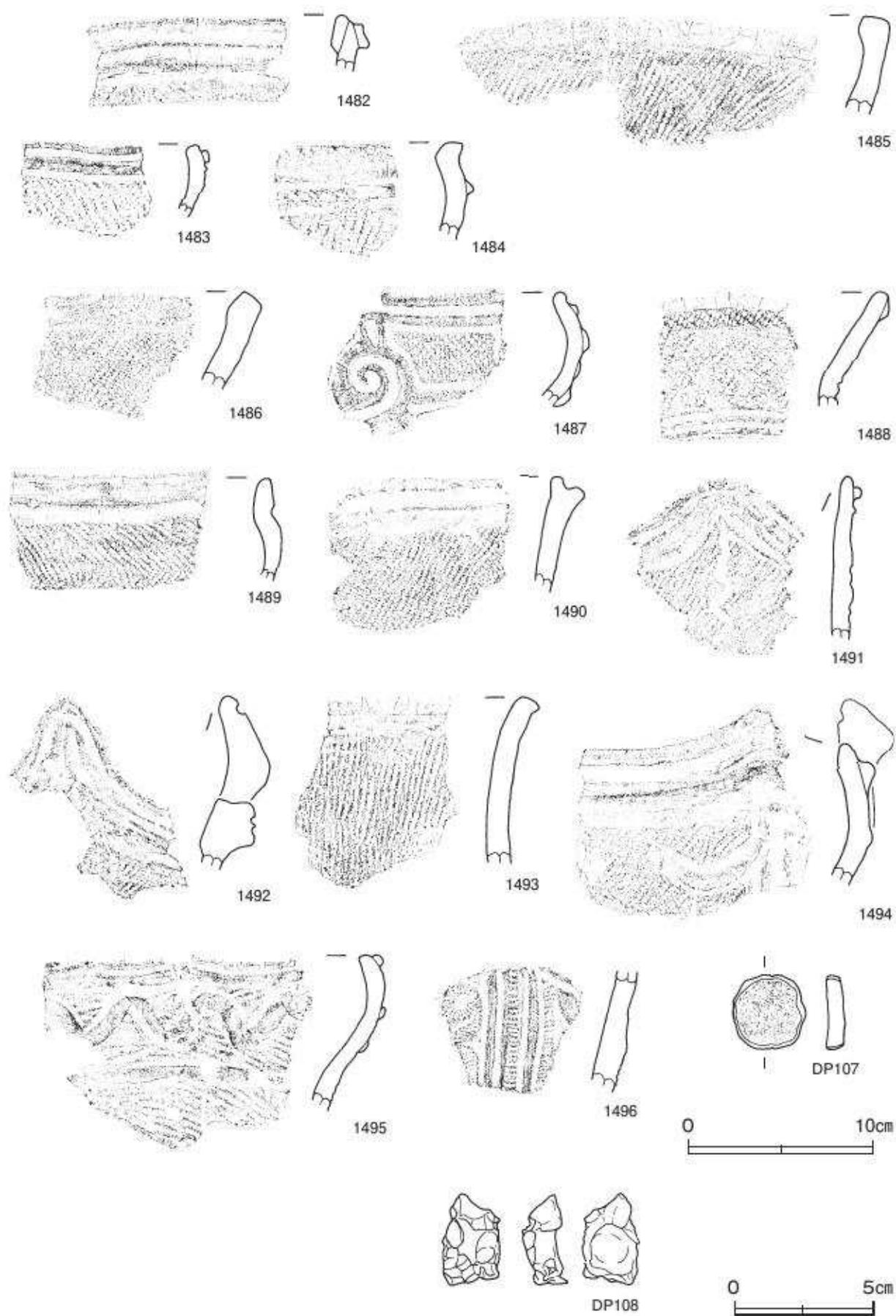
第 511 図 第 585 号土坑出土遺物実測図(1)



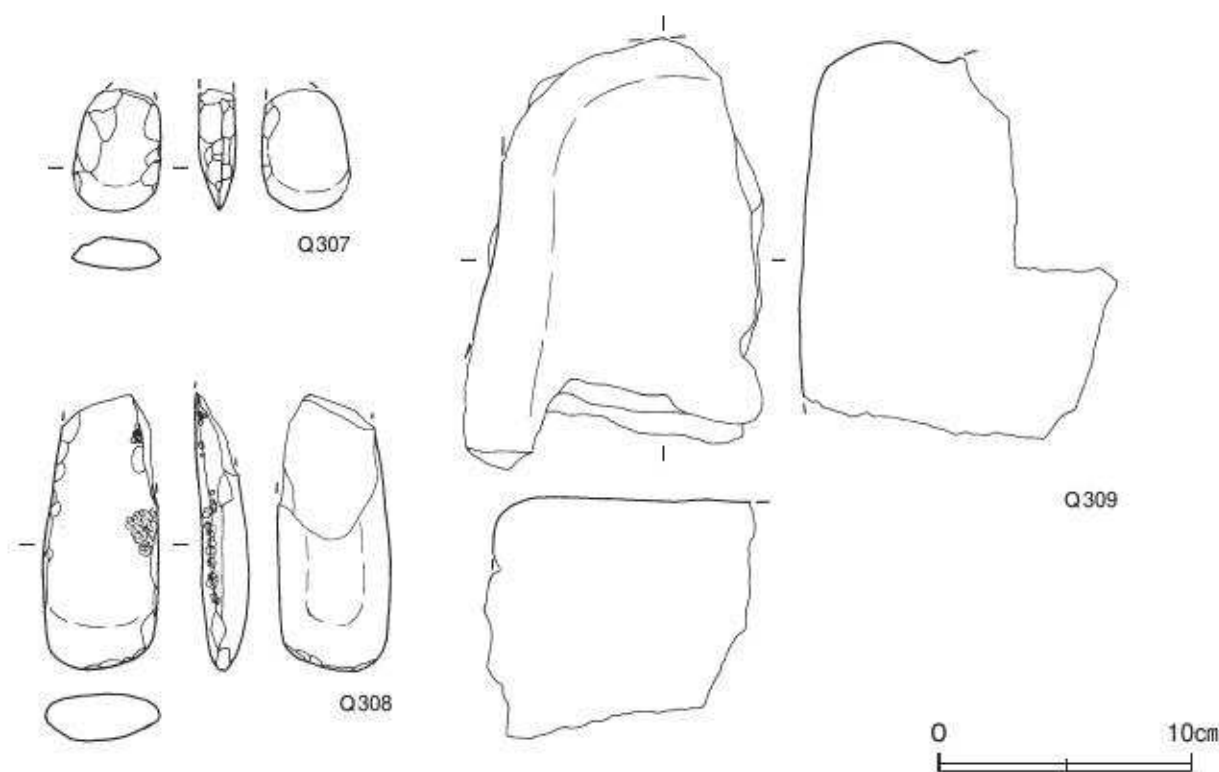
第512图 第585号土坑出土遗物实测图(2)



第 513 图 第 585 号土坑出土遺物実測图 (3)



第514图 第585号土坑出土遗物实测图(4)



第 515 図 第 585 号土坑出土遺物実測図 (5)

ピット 北東壁際に位置し、長径 46cm、短径 34cm の楕円形である。深さは 56cm で、西壁が内傾している。形状から、補助的な貯蔵施設と考えられる。

覆土 10 層に分層できる。ロームブロックを含む層などが不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|---------|------------------|--------|-------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量 | 6 暗褐色 | ロームブロック・炭化物少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量 | 7 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 3 にぶい褐色 | ロームブロック少量 | 8 褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 9 褐色 | ロームブロック少量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子中量 | 10 黄褐色 | ロームブロック多量、塊沼バミス少量 |

遺物出土状況 縄文土器片 1180 点(深鉢 1163、浅鉢 16、ミニチュア土器 1)、土製品 2 点(土器片錘、不明土製品)、石器 6 点(磨製石斧 4、磨石 1、砥石 1)、剥片 3 点(瑪瑙)が、覆土中層を中心に散乱した状態で出土している。1473 は、ほぼ完形で底面近くから出土し、埋め戻される前に遺棄されたと思われる。1474 は、ほぼ完形で覆土中層から出土し、ある程度埋まってから遺棄されたか投棄されたと思われる。1470 は、覆土中層から出土し、離れた位置にあるものが接合していることから、破砕したものを投棄したと思われる。1463・1465・1467～1469・1471・1472・1475・1476・1482・1487、DP107、Q 308・Q 309 は覆土中層から、1479 は覆土上層からそれぞれ出土し、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第 585 号土坑出土遺物観察表 (第 511 ～ 515 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1458	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	キザミ目をもつ條帯による区画文・区画内沈線による渦巻文・曲線文	覆土中	
1459	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	波瀾部太沈線を伴う條帯による渦巻文・単節縄文 RL (縦) 條帯垂下	覆土中	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1460	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	波頂部太沈線による渦巻文・単節縄文 RL (横) 沈線を伴う隆帯による渦巻文	覆土中	
1461	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・細砂	橙	普通	口唇部沈線文・波頂部渦巻文・単節縄文 RL (横) 波頂部から沈線による懸垂山形文	覆土中	1組と同一製作。
1462	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	波頂部に渦巻文・口唇部に凹み・波頂部から2本の隆帯を垂下させ区画文・区画内単節縄文 LR (横) 施文	覆土中	
1463	縄文土器	深鉢	-	(90)	-	長石・石英・雲母・細砂	にぶい橙	普通	頂部縦位の沈線文・眼線状把手・単節縄文 RL (縦) 2本の隆帯による区画文	覆土中層	
1464	縄文土器	深鉢	-	(88)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	交互斜突文と隆帯で口縁部区画・区画交点眼線状把手・区画内沈線による2本の横走文・矩形文	覆土中	
1465	縄文土器	深鉢	-	(17.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	環状部中央に沈線文・口縁部沈線を伴う隆帯による区画文・区画内縦位の沈線文で充填	覆土中層	10% PL149
1466	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・細砂	にぶい赤褐色	普通	波頂部に渦巻文・口唇部に凹み・単節縄文 LR (縦) 背割れ隆帯による区画文	覆土中	
1467	縄文土器	深鉢	-	(16.1)	-	長石・石英・雲母・細砂	にぶい赤褐色	普通	口縁部上半部同隆帯による幅の狭い楕円形区画文・口縁部下半部単節縄文 RL (縦) 隆帯による波状文	覆土中層	10% PL149
1468	縄文土器	深鉢	19.2	(16.9)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	全面に単節縄文 RL (縦) 施文・口唇部やや幅をもち中央部が凹む・口縁部と胴部を縦状隆帯で区画	覆土中層	60% PL150
1469	縄文土器	深鉢	-	(9.2)	-	長石・石英・赤色粒子・細砂	橙	普通	口唇部に沈線・沈線を伴う隆帯による区画文・区画内単節縄文 LR (縦) 同隆帯による風状文・渦巻文	覆土中層	PL149
1470	縄文土器	深鉢	[22.9]	(16.4)	-	長石・石英	灰褐色	普通	口縁部沈線を伴う隆帯による区画・単節縄文 RL (横) 隆帯による横走波状文・胴部同一形体 (縦)	覆土中層	10% PL149
1471	縄文土器	深鉢	-	(14.5)	-	長石・石英・赤色粒子・細砂	にぶい黄褐色	普通	口唇部に沈線文・彫状の背割れ隆帯により胴部と区画・区画内縦位の沈線文で充填・胴部単節縄文 LR (縦) 2列縦位の粘結縄文	覆土中層	10% PL150
1472	縄文土器	深鉢	-	(20.5)	-	長石・石英・赤色粒子	明黄褐色	普通	背割れ隆帯による幅の狭い楕円形区画文・区画2本を有する條状把手・胴部単節縄文 RL (縦) 施文	覆土中層	30% PL150
1473	縄文土器	深鉢	16.5	29.2	7.4	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	波状隆帯と沈線を伴う隆帯で幅の狭い口縁部文様帯区画・区画内交互斜突文・胴部楕円状工具による条線文・底面網代痕	覆土下層	90% PL150 内面炭化物付着
1474	縄文土器	深鉢	[17.9]	28.0	8.1	長石・石英・雲母	橙	普通	口唇部沈線文・太沈線で胴部と区画・胴部単節縄文 LR (縦) 2本組の下の字状の沈線文	覆土中層	90% PL150
1475	縄文土器	深鉢	-	(24.7)	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	全面に単節縄文 LR (縦) 施文・口唇部沈線を伴う隆帯で区画・区画内背割れ隆帯によるクラック文	覆土中層	60% PL150
1476	縄文土器	深鉢	-	(9.9)	8.1	長石・石英・雲母・赤色粒子・細砂	にぶい黄褐色	普通	外・内面指ナデ	覆土中層	10% 炭化物付着
1477	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口唇部外側ぎざ状で平坦・外・内面磨き	覆土中	
1478	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・細砂	橙	普通	口唇部外側ぎざ状で平坦・外・内面磨き	覆土中	
1479	縄文土器	浅鉢	-	(7.0)	-	長石・石英・雲母・細砂	橙	普通	沈線文一筋・外・内面磨き・内面に稜	覆土上層	
1480	縄文土器	浅鉢	-	(5.8)	[9.7]	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	下端部指ナデ・底部突出・内面磨き・赤彩痕	覆土中	10%
1481	縄文土器	ヒコブツ土器	3.0	2.7	2.4	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	手摺ね・外・内面指ナデ	覆土中	60%
1482	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・細砂	明黄褐色	普通	口縁に沿って凹みのある厚めの隆帯貼付・櫛歯状工具による縦線文	覆土中層	
1483	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐色	普通	口唇部沈線一筋・口縁に沿って沈線を伴う隆帯貼付・0段多条単節縄文 RL (横) 施文	覆土中	
1484	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐色	普通	口縁に沿って縄文施文の2本の隆帯貼付・単節縄文 RL (縦) 施文	覆土中	
1485	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・細砂	橙	普通	単節縄文 RL (縦) 施文・口縁に沿って磨消	覆土中	
1486	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・細砂	にぶい黄褐色	普通	全面単節縄文 RL (縦) 施文	覆土中	
1487	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・細砂	にぶい黄褐色	普通	単節縄文 LR (横) 太沈線を伴う隆帯による区画文・区画内渦巻文	覆土中層	
1488	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・細砂	明褐色	普通	口縁に沿って隆帯貼付・隆帯上に単節縄文 RL (横) 胴部 (縦) 施文・3本の沈線で区画	覆土中	
1489	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・細砂	にぶい黄褐色	普通	口縁に沿って隆帯貼付・隆帯下太沈線周囲・単節縄文 RL (横) 施文	覆土中	
1490	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子・細砂	にぶい黄褐色	普通	口唇部太沈線・単節縄文 RL (縦) 施文	覆土中	
1491	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・細砂	橙	普通	口縁に沿って隆帯貼付・単節縄文 RL (縦) 波頂部から沈線による懸垂山形文	覆土中	1組と同一製作。
1492	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・細砂	褐色	普通	波頂部沈線による縦線文・交互斜突文・口唇部に凹み・口縁に沿って沈線を伴う背割れ隆帯貼付・単節縄文 RL (縦) 施文	覆土中	
1493	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・細砂	にぶい黄褐色	普通	口縁に沿って隆帯貼付・胴部縦位の條線文	覆土中	
1494	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・黒色粒子・細砂	赤褐色	普通	単節縄文 RL (縦) 口縁に沿う隆帯と波頂部から垂下する隆帯による区画文・区画内隆帯による波状文	覆土中	
1495	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	単節縄文 LR (斜) 断面半円形の隆帯で口縁部区画・区画内同隆帯による波状文	覆土中	
1496	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明黄褐色	普通	キザミ目をもつ隆帯と沈線を伴う隆帯による区画文・区画内キザミ目をもつ隆帯による嵌手文・三叉文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP107	土器片鏝	4.0	3.9	1.0	16.9	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	一端のみ粗線に研磨・両端にキザミ目	覆土中層	
DP108	不明土製品	3.3	2.1	1.6	5.1	長石・石英	にぶい黄褐色	土端部突起状・下端部貼付文・内面指頭による抉り	覆土中	巻き貝模倣。

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 307	磨製石斧	(4.9)	3.5	1.5	(39.0)	緑色岩	小型・表裏面研磨・両側縁部打直縁・基部欠損・刃端は表裏から突き出す・ハマグリ刃	覆土中	
Q 308	磨製石斧	(11.0)	4.5	2.1	(115.7)	砂岩	短冊形・両側縁部微細な磨打調整・基部欠損・刃端は表裏から突き出す	覆土中層	PL168 被然
Q 309	砥石	(16.1)	(11.8)	(12.5)	(257.0)	砂岩	表面に縦面・中央部敲打によりわずかに凹む	覆土中層	被然

第 586 号土坑 (第 516 図 PL85)

位置 調査区中央部の C 2 9 区、標高 29 m ほどの台地縁辺部に位置している。

規模と形状 開口部は径 1.21 ~ 1.30 m のほぼ円形である。底面は長径 2.42 m、短径 2.20 m の楕円形で、平坦である。確認面からの深さは 109 cm で、壁は内彎して、袋状を呈している。

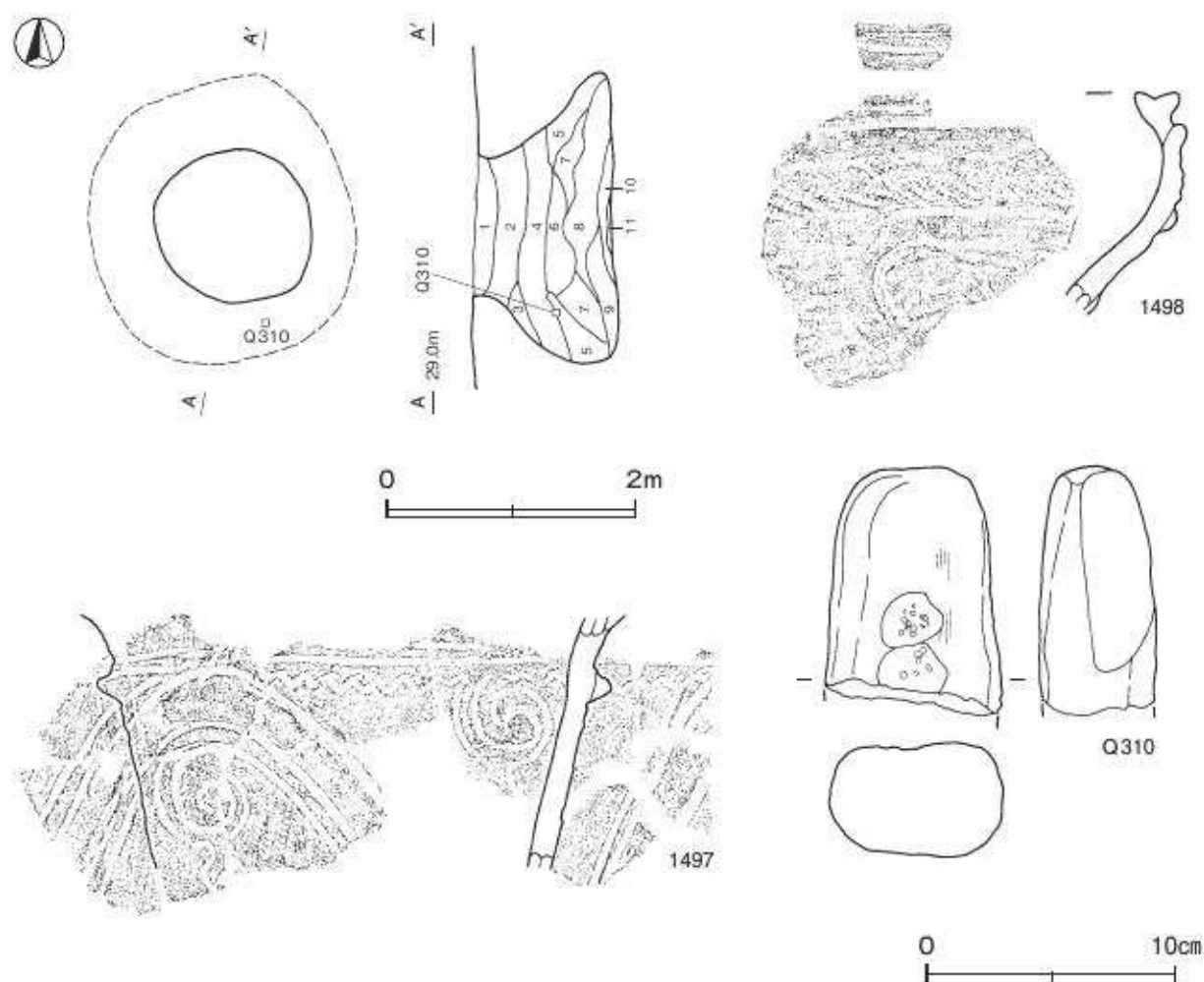
覆土 11 層に分層できる。ロームブロックを含む層などが不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

1	黒褐色	ロームブロック少量	7	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
2	黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	8	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量
3	黒褐色	ローム粒子少量	9	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
4	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	10	暗褐色	ロームブロック少量
5	黒褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	11	にぶい黄褐色	ロームブロック少量
6	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子中量			

遺物出土状況 縄文土器片 124 点 (深鉢)、石器 3 点 (磨製石斧、敲石、凹石) が、覆土中層を中心に散乱した状態で出土している。Q 310 は覆土中層から出土し、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第 516 図 第 586 号土坑・出土遺物実測図

第 586 号土坑出土遺物観察表 (第 516 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1497	縄文土器	深鉢	-	(10.3)	-	長石・石英・雲母	にじみ味	普通	施文に単部縄文 RL (斜) 沈線文付の隆帯で頸部と胴部を区画。隆帯に沿って沈線による菱歯状文。胴部2本の沈線文を伴う隆帯による曲線文。間隔を置いて沈線による渦巻文・波状文垂下。	覆土中	PL149
1498	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒期	普通	隆帯により口縁部文様帯区画。区内単部縄文 RL (横) 波状隆帯によるクラック文。	覆土中	PL149
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
Q 310	凹石	(9.9)	7.1	4.6	(439.3)	安山岩	表面磨り調整。表面中央部に2か所の敲行による凹み痕。先端部敲行痕。下端部欠損。磨石兼用。		覆土中層	PL181	

第 588 号土坑 (第 517 ~ 523 図 PL86・103)

位置 調査区北部の C 4 c2 区、標高 29 m ほどの台地縁辺部に位置している。

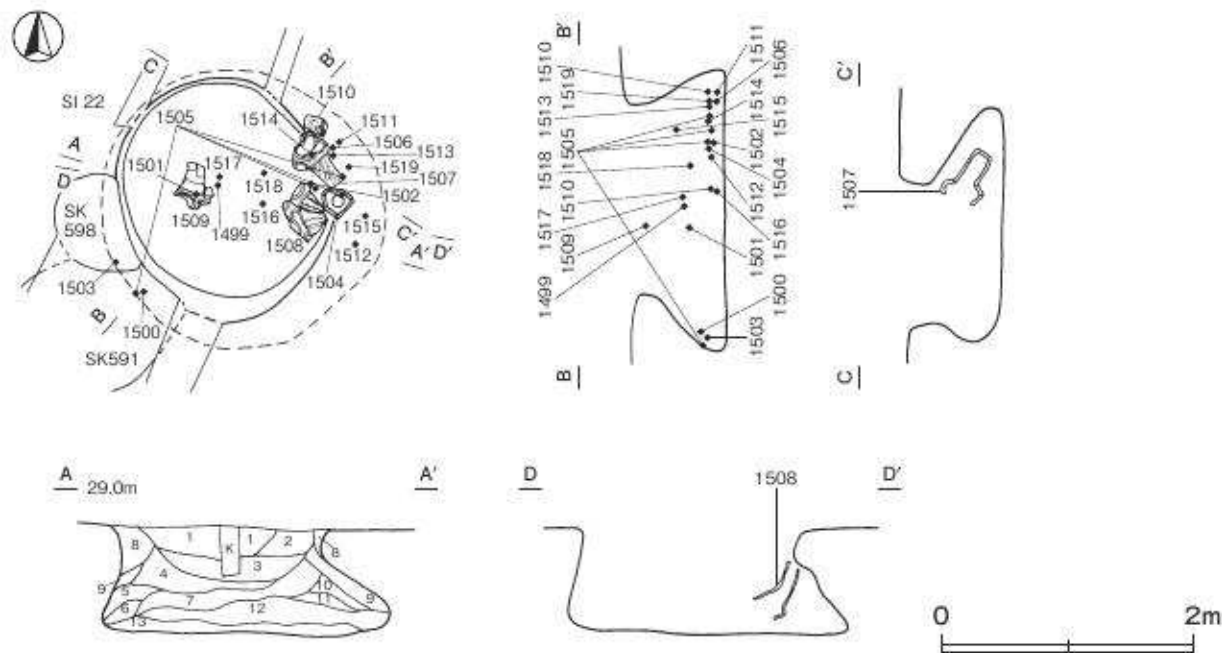
重複関係 第 22 号竪穴建物、第 591・598 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は長径 1.88 m、短径 1.55 m の楕円形で、長径方向は N-45°-W である。底面は径 2.14 ~ 2.19 m の円形で、平坦である。確認面からの深さは 84 cm で、壁は中位まで内彎して、袋状を呈し、上位はほぼ直立している。

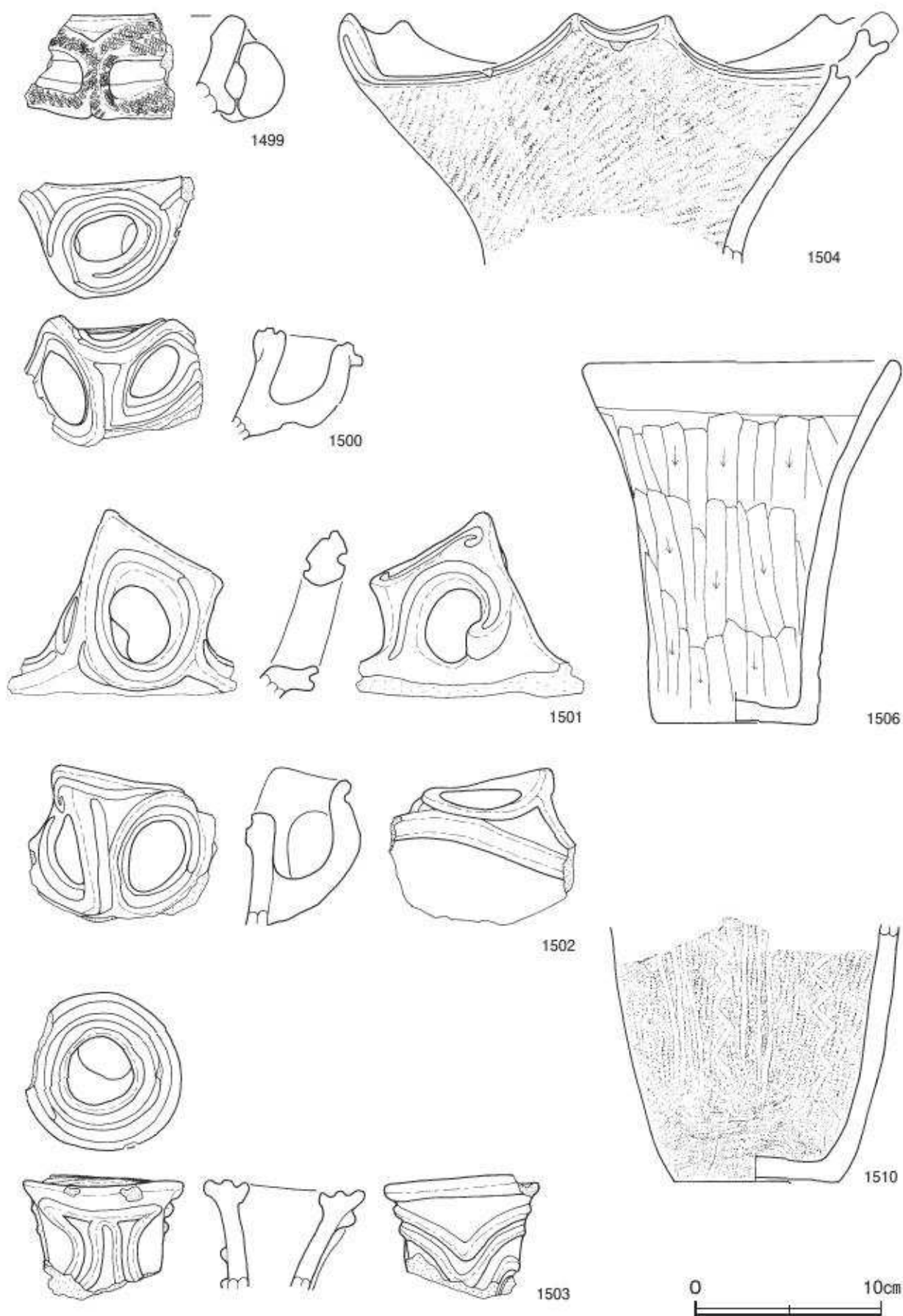
覆土 13 層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

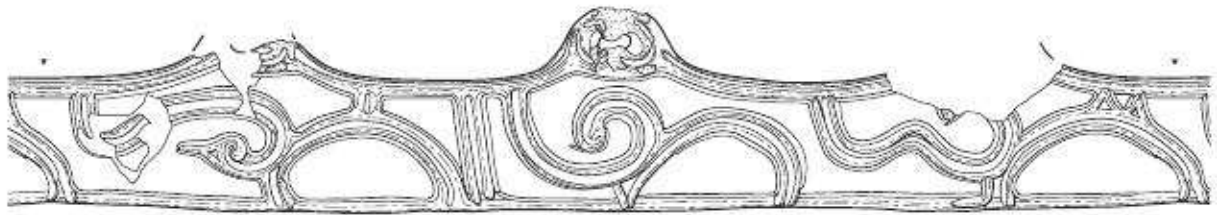
1 暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック少量、炭化物微量	7 暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量
2 暗褐色	ロームブロック中量、炭化物少量、焼土粒子微量	8 暗褐色	ロームブロック中量、炭化物微量
3 黒褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量	9 暗褐色	ロームブロック少量、炭化物微量
4 暗褐色	ロームブロック中量、炭化物少量、焼土ブロック微量	10 暗褐色	ロームブロック少量
5 暗褐色	ロームブロック中量、炭化物少量	11 暗褐色	ロームブロック中量
6 褐色	ロームブロック多量	12 褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
		13 暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量



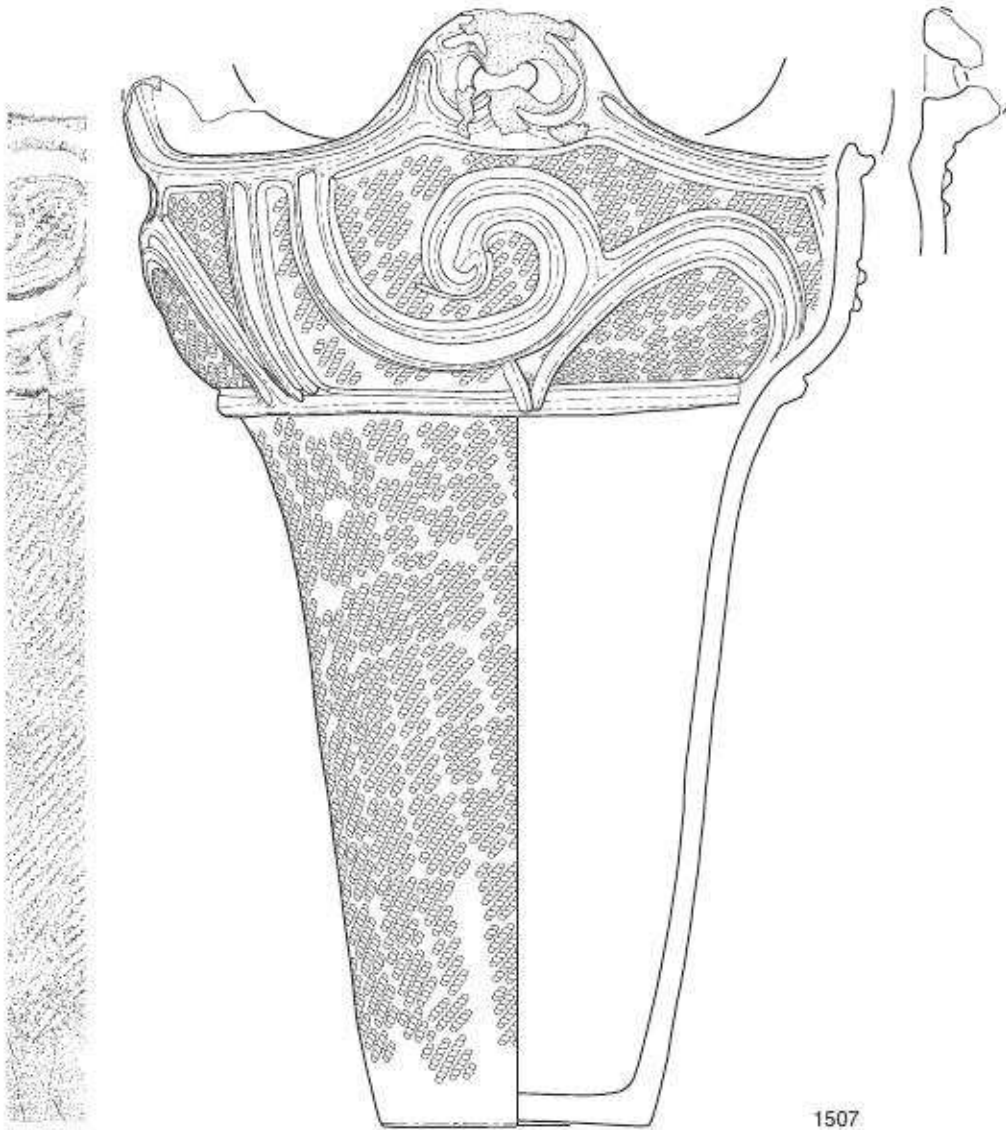
第 517 図 第 588 号土坑実測図



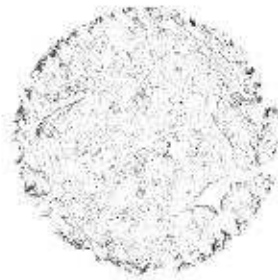
第 518 图 第 588 号土坑出土遺物実測图 (1)



0 10cm

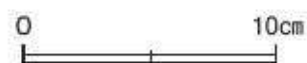
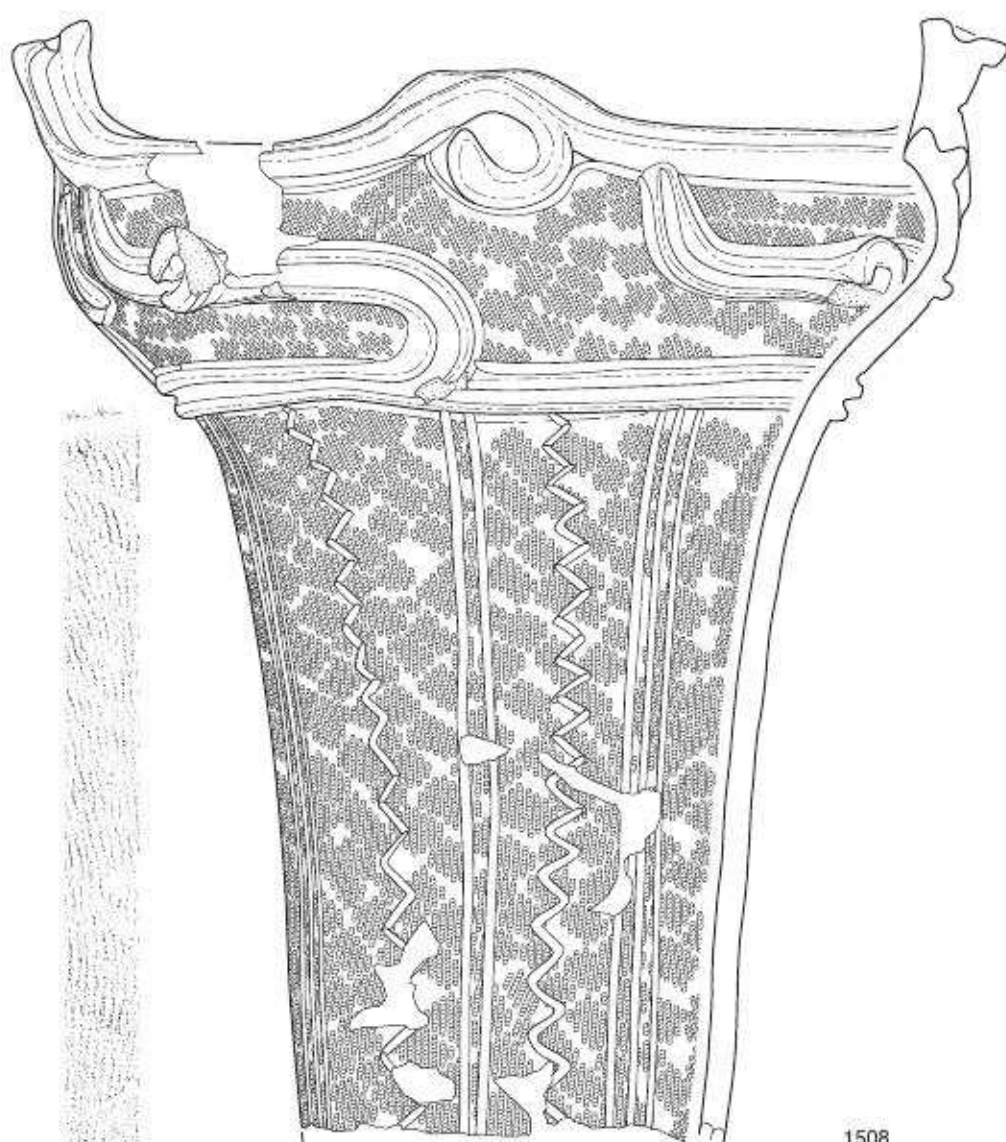
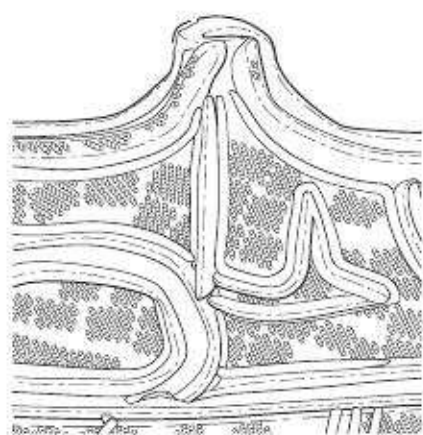


1507

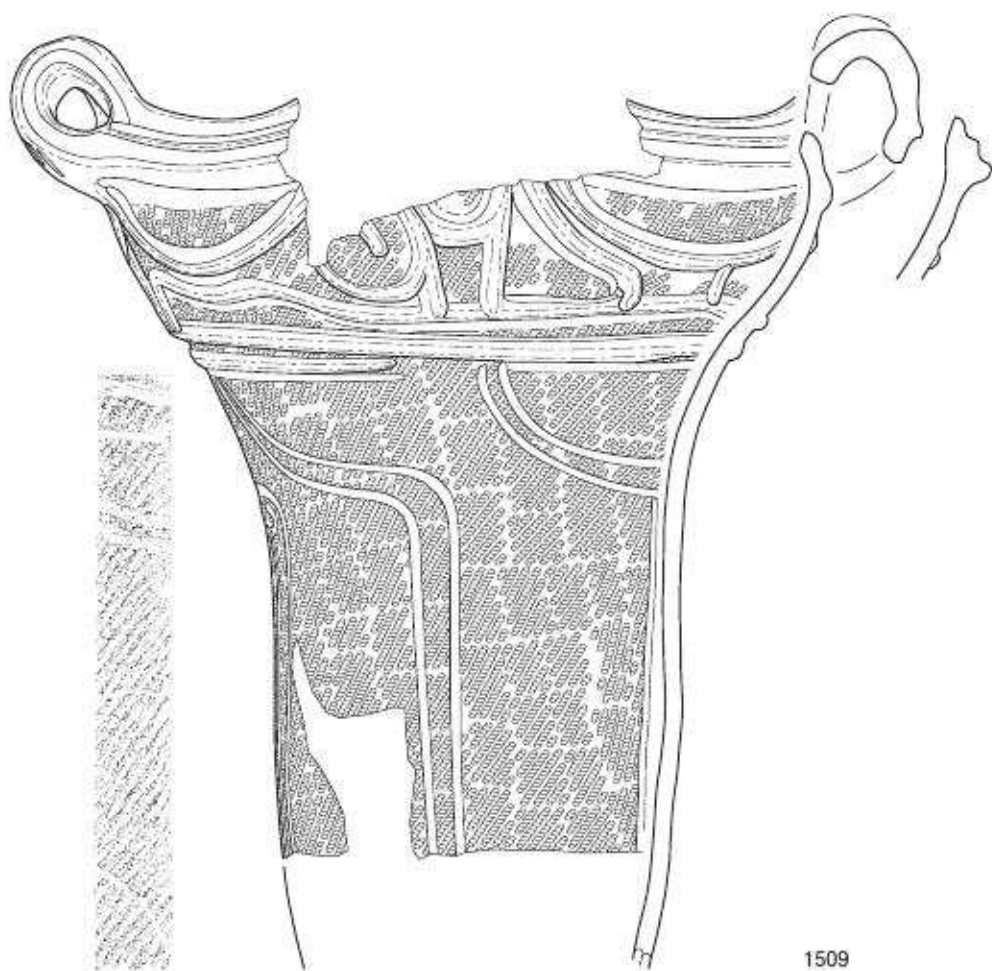
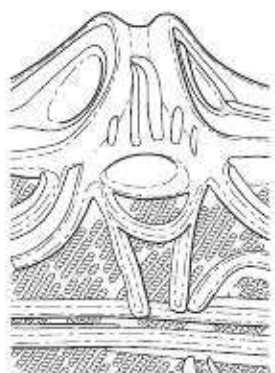


0 10cm

第 519 図 第 588 号土坑出土遺物実測図 (2)



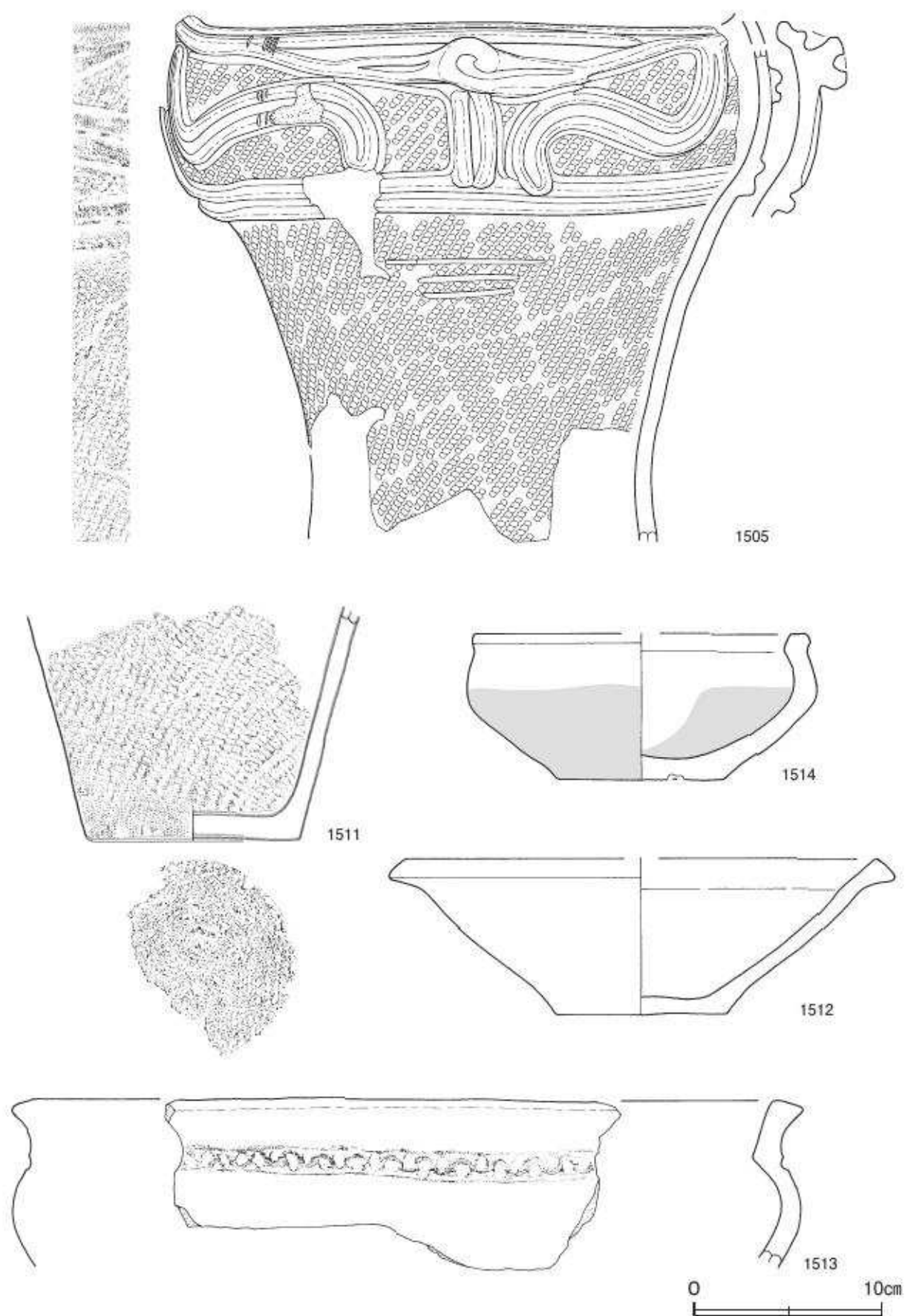
第 520 図 第 588 号土坑出土遺物実測図 (3)



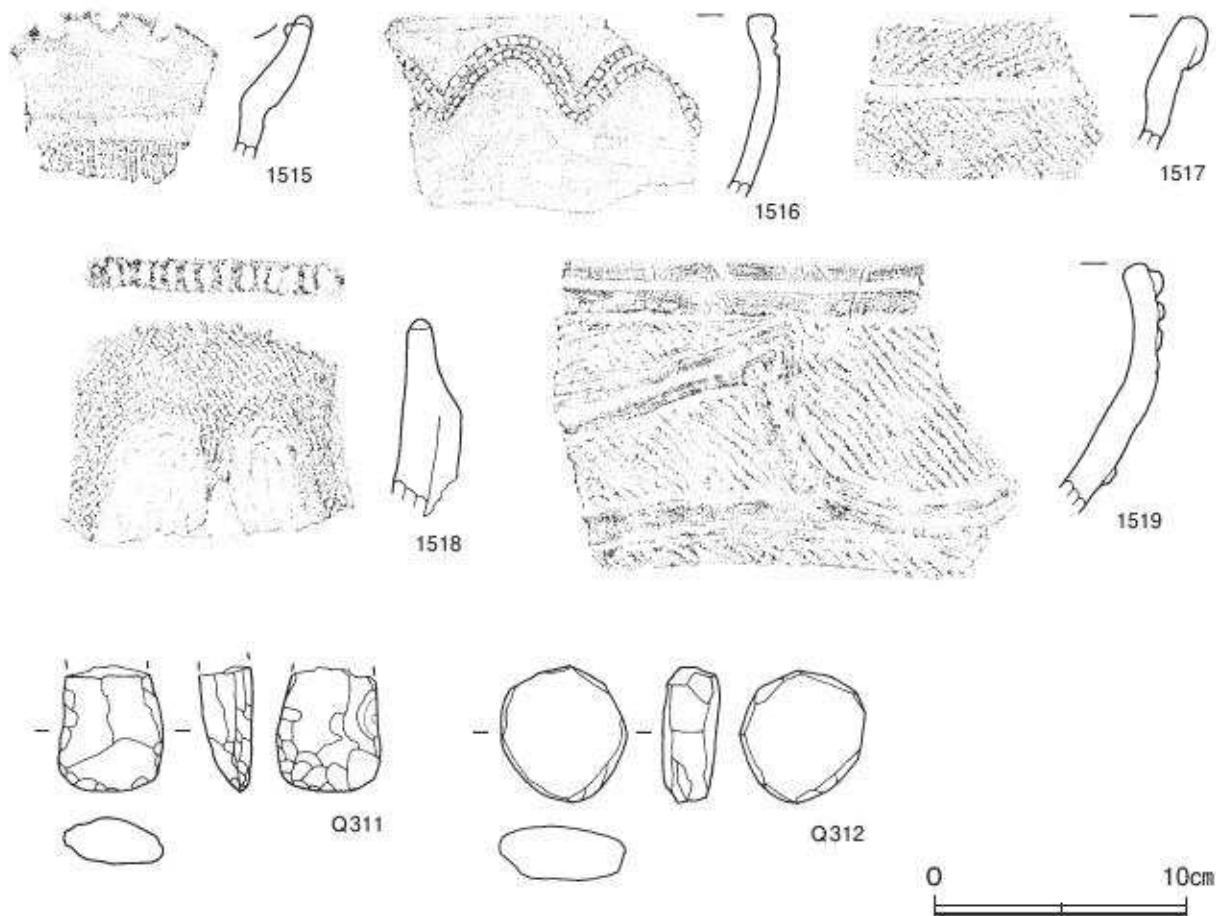
1509



第 521 图 第 588 号土坑出土遗物实测图 (4)



第 522 図 第 588 号土坑出土遺物実測図 (5)



第 523 図 第 588 号土坑出土遺物実測図 (6)

遺物出土状況 縄文土器片 444 点 (深鉢 431, 浅鉢 12, 小型浅鉢 1), 石器 4 点 (打製石斧 1, 磨石 2, 敲砥石 1) が, 覆土下層を中心に散乱した状態で出土している。1507・1508 は覆土下層からほぼ完形で, 横位及び倒位で出土していることから, 廃絶して間もないころ, 遺棄あるいは投棄されたものと思われる。1509 は覆土上層からほぼ完形で横位で出土しており, ある程度埋まってから, 遺棄あるいは投棄されたものと思われる。1505 は覆土下層から出土し, 離れた位置のものが接合していることから, 破碎して投棄したものと思われる。1500・1502～1504・1510～1514・1516・1519 は覆土下層から, 1499・1501・1515・1517・1518 は覆土中層からそれぞれ出土していることから, 埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。

第 588 号土坑出土遺物観察表 (第 518～523 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1499	縄文土器	深鉢	—	(5.8)	—	長石・石英・雲母	にぶい黄澄	普通	単節縄文 RL (横) 施文の厚みのある隆帯による銀鏡状把手	覆土中層	
1500	縄文土器	深鉢	—	(7.1)	—	長石・石英・雲母・細礫・黄色砂子	にぶい橙	普通	孔に沿って環状の太沈線文	覆土下層	
1501	縄文土器	深鉢	—	(10.1)	—	長石・石英・雲母	橙	普通	孔に沿って環状の太沈線文 一部に糜手文	覆土中層	
1502	縄文土器	深鉢	—	(8.5)	—	長石・石英・雲母・赤色砂子・黄色砂子	明橙	普通	中空部に沿って環状の太沈線文 一部渦状	覆土下層	
1503	縄文土器	深鉢	—	(6.8)	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	中空部に沿って 2 重の環状沈線文 把手側面部分割れ隆帯による文様描画	覆土下層	
1504	縄文土器	深鉢	27.0	(13.7)	—	長石・石英・細礫	橙	普通	口唇部に太沈線周回 全面に 0 段多条単節縄文 RL (縦)	覆土下層	60% PL152
1505	縄文土器	深鉢	33.5	(28.5)	—	長石・石英・雲母・細礫	にぶい橙	普通	沈澱を伴う管割れ隆帯により口頸部区画 区画内ケツク文 胴部 0 段多条単節縄文 RL (縦)	覆土下層	60% PL152

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1506	縄文土器	深鉢	[16.5]	19.7	8.8	長石・石英	橙	普通	口縁部横ナデ 横部縦方向の削りとナデ 底面下平なナデ	覆土下層	95% PL153
1507	縄文土器	深鉢	29.5	44.2	10.5	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	沈線を伴う隆帯による口縁部区画 2条一組の隆帯による渦巻文・弧状文・斜先文 胴部0段多条単節縄文RL(縦) 施文 底面細代垣	覆土下層	95% PL153
1508	縄文土器	深鉢	31.0	(44.6)	-	長石・石英・雲母・磁礫	黒褐色	良好	施文に単節縄文RL(横) 波消部隆帯による渦巻文 口縁部太沈線 口縁部沈線を伴う隆帯で区画 区画内沈線を伴う隆帯によるクラク文・斜先文 胴部沈線による壺垂文・波状壺垂文	覆土下層	90% PL153
1509	縄文土器	深鉢	26.7	(37.8)	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	2条一組の隆帯により口縁部区画 区画内隆帯による弧状文・渦巻文 胴部0段多条単節縄文RL(縦) 沈線による壺垂文・弧状文・印形文	覆土上層	80% PL152
1510	縄文土器	深鉢	-	(14.0)	8.8	長石・石英・雲母	橙	普通	間隔を空けて単節縄文RL(斜) 施文 3本単位の沈線による壺垂文 壺垂文間隔部状の沈線系下	覆土下層	30%
1511	縄文土器	深鉢	-	(12.5)	11.2	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	単節縄文RL(縦) 施文 下部部縦方向のナデ 底面細代垣	覆土下層	20%
1512	縄文土器	浅鉢	[25.2]	8.4	9.2	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	内面に横 外・内面横位のナデ	覆土下層	30% PL153
1513	縄文土器	浅鉢	[39.6]	(9.1)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	胴部交差部突による連続波状文 外・内面横方向の磨き	覆土下層	10%
1514	縄文土器	小型浅鉢	[17.6]	7.9	[9.0]	長石・石英・雲母・磁礫	にぶい橙	普通	口縁下に凹線 外・内面横方向の磨き	覆土下層	40% PL153
1515	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	波消部に棒状工具によるキザミ目 口縁部横方向のナデ 胴部半截竹管による縦位の条線文	覆土中層	
1516	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁に沿って2列の有節沈線による連続弧状文一筋	覆土下層	
1517	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐	普通	口縁に沿って沈線文を伴う単節縄文LR(横) 施文の隆帯貼付 隆帯下同一原体(縦)	覆土中層	
1518	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・磁礫	にぶい赤褐色	普通	口縁に沿う縄文施文の隆帯と波消部から垂下する隆帯による区画文 区画内半截竹管による並行沈線文で充填	覆土中層	
1519	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部に沈線一筋 単節縄文RL(横) 波消部隆帯で口縁部区画 区画内2条の隆帯による弧状文	覆土下層	

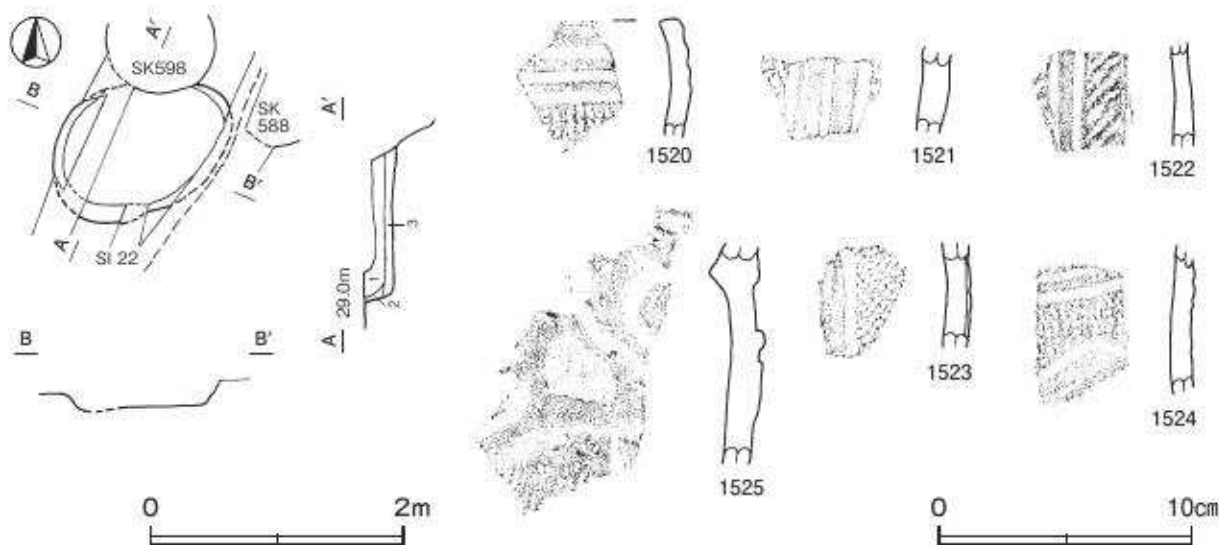
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 311	打製石斧	(4.9)	4.2	2.1	(59.2)	緑色岩	撥形 表裏面研磨 両側縁・刃部表裏を敲打 基部欠損	覆土中	
Q 312	敲破石	5.4	4.9	2.2	85.7	石英斑岩	円縁の筒縁部に微細な敲打痕・砥面をもつ 表面に砥面	覆土中	PL173

第 591 号土坑 (第 524 図)

位置 調査区北部の C 4 d2 区、標高 29 m ほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第 22 号竪穴建物跡・第 588 号土坑を掘り込み、第 598 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北東・南西径 1.45 m、北西・南東径 1.18 m の楕円形で、長径方向は N - 48° - E である。底面は平坦で、深さは 21 cm である。壁は外傾している。



第 524 図 第 591 号土坑・出土遺物実測図

覆土 3層に分層できる。暗褐色土がレンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック、炭化物微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片 81点（深鉢）が、覆土中からまばらに出土している。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

第591号土坑出土遺物観察表（第524図）

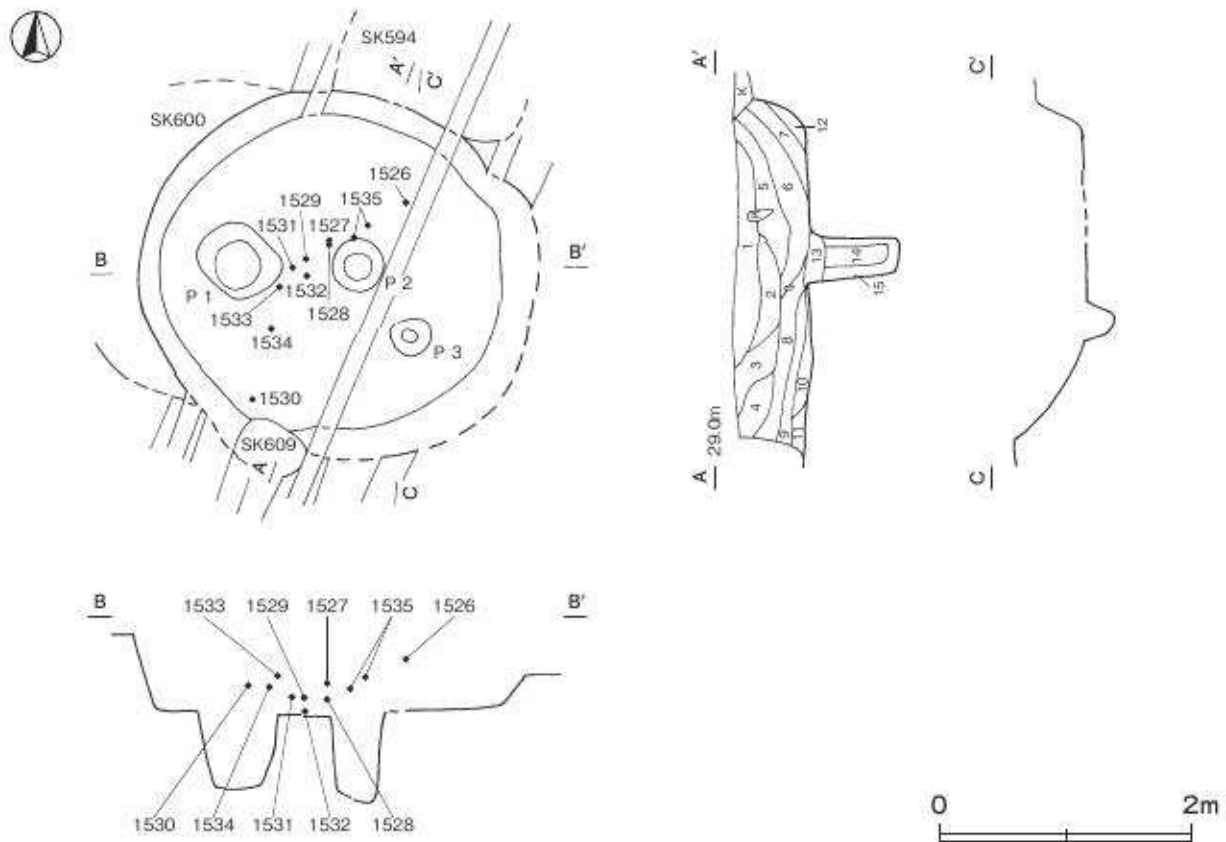
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1520	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁に沿って3本の沈線一巡。縦位の断糸文施文	覆土中	
1521	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐	普通	単節縄文LR（縦） 3本の沈線垂下 沈線間磨消	覆土中	
1522	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤	普通	無節縄文R（縦） 2本の沈線垂下 沈線間磨消	覆土中	
1523	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	複節縄文LRL（縦） 2本の沈線垂下 沈線間磨消	覆土中	
1524	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	縦位の断糸文上に弧状の並行沈線文 沈線間磨消	覆土中	
1525	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	太沈線を持つ隆帯による格円形区画文 区画内単節縄文充填 胴部単節縄文RL（縦）施文	覆土中	

第593号土坑（第525～527図）

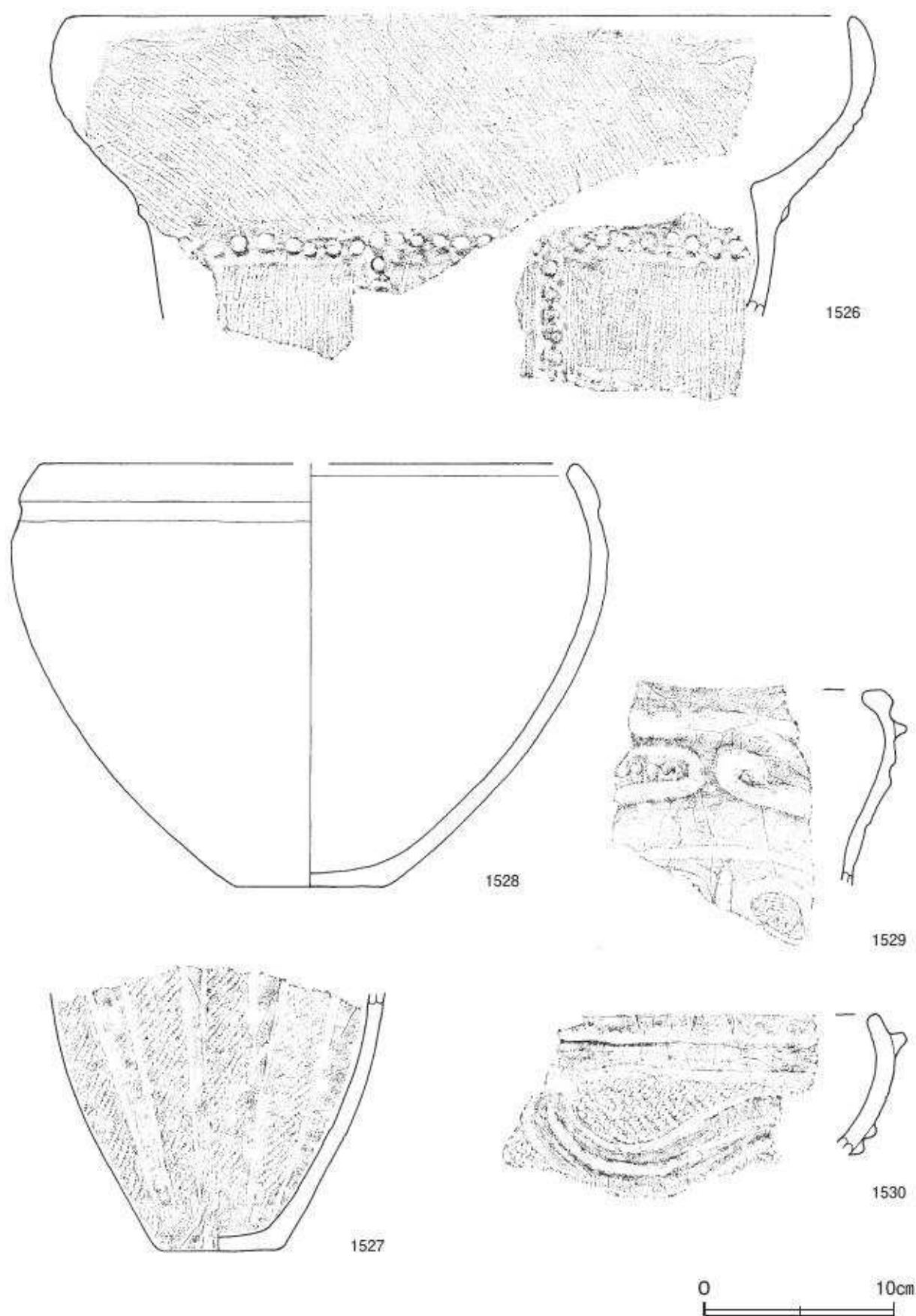
位置 調査区中央部のC4f2区、標高29mほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第594・600号土坑を掘り込み、第609号土坑に掘り込まれている。

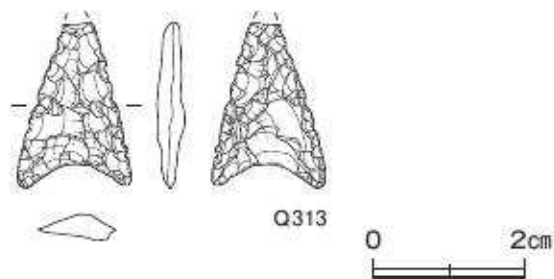
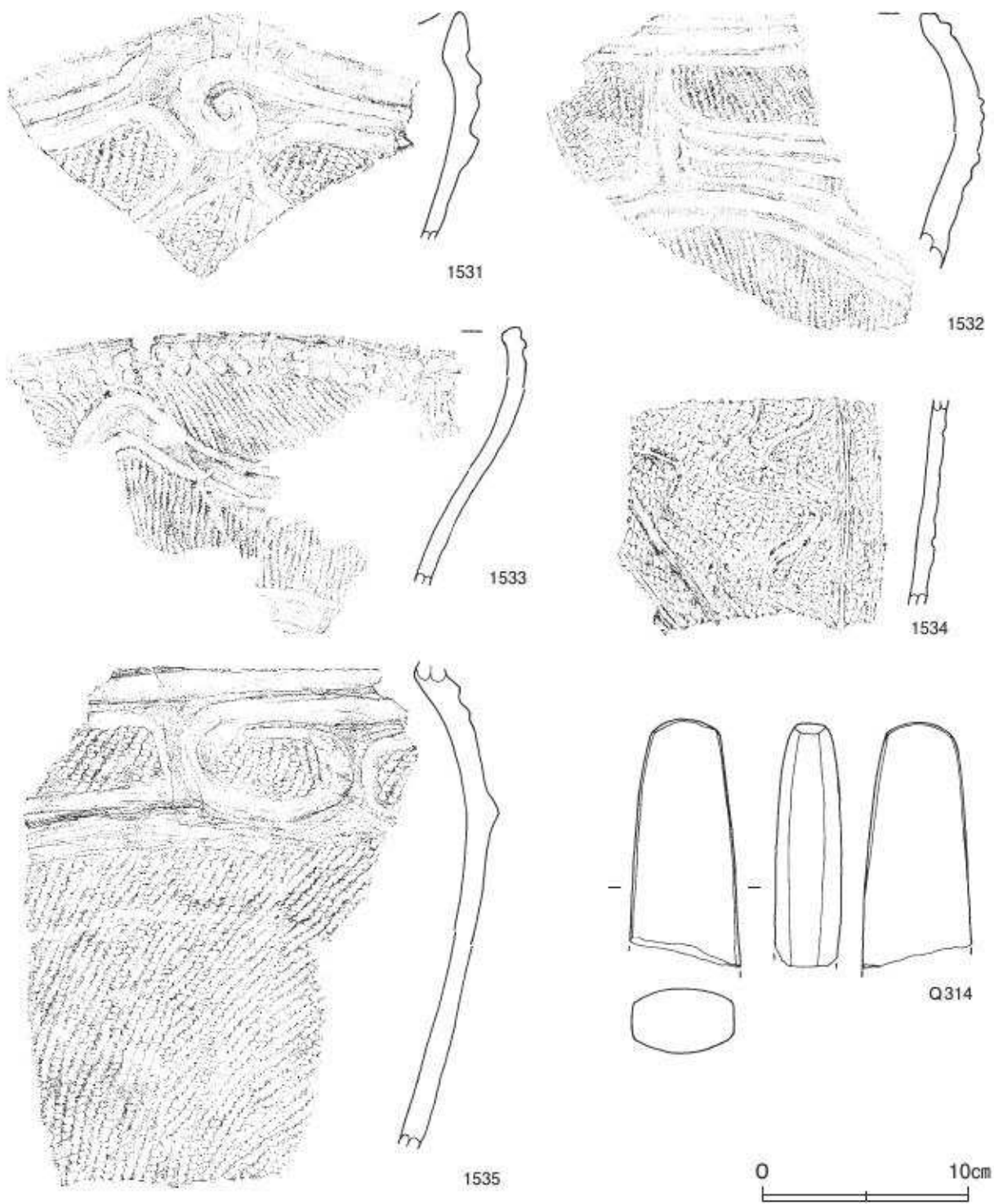
規模と形状 径3.06～3.18mのほぼ円形で、底面は平坦である。深さは64cmで、壁は外傾している。



第525図 第593号土坑実測図



第 526 図 第 593 号土坑出土遺物実測図(1)



第 527 图 第 593 号土坑出土遗物实测图 (2)

ピット 3か所。P1は西部、P2は中央部、P3は南東部に位置し、深さはそれぞれ64cm・74cm・22cmである。P1は、補助的な貯蔵施設と考えられる。P2は、位置や形状から柱穴と考えられる。P3は、性格不明である。

覆土 12層に分層できる。ロームブロックを含む層が堆積していることから、埋め戻されている。第13～15層はP2の覆土である。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量	9	黒褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量
2	暗褐色	焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化物少量	10	褐色	ロームブロック中量
3	暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量	11	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
4	暗褐色	ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量	12	褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量
5	暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量	13	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
6	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量	14	黒褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量
7	暗褐色	ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子微量	15	暗褐色	ロームブロック少量
8	黒褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量			

遺物出土状況 縄文土器片717点（深鉢698、鉢1、浅鉢18）、石器4点（鎌、磨製石斧、磨石、砥石）、剥片7点（砂岩3、チャート2、粘板岩1、石英1）が、覆土中層を中心に散乱した状態で出土している。1528・1529・1531・1532は覆土下層から、1527・1530・1533～1535は覆土中層から、1526は覆土上層からそれぞれ出土し、埋土と一緒に投棄されたと思われる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

第593号土坑出土遺物観察表（第526・527図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1526	縄文土器	深鉢	〔41.0〕	〔16.0〕	—	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口縁部へつ杖工具による斜行沈線文・円形刺突文をもつ隆帯で胴部と区画。胴部低位のへつ杖工具による低位の沈線文上に押し隆帯垂下	覆土上層	20% PL152
1527	縄文土器	深鉢	—	〔13.8〕	6.8	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	単部縄文RL（縦）2単位の沈線垂下・沈線同磨面・下端部縦方向の磨き	覆土中層	30%
1528	縄文土器	鉢	〔27.8〕	25.5	7.8	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口縁に沿って隆帯貼付・隆帯下太沈線・外・内面横位の丁寧な磨き	覆土下層	50% PL152
1529	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐色	普通	凹線を伴う微隆帯による区画文・区画内高卷文・胴部無文帯・胴部太沈線による楕円形区画文・磨き文・区画内単部縄文RL（斜）光景	覆土下層	PL152
1530	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	にぶい褐色	普通	口縁に沿って厚みのある隆帯貼付・0段多条単部縄文RL（横）背割れ隆帯による曲線文	覆土中層	
1531	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	波頂部に高卷文・単部縄文LR（斜）太沈線を伴う隆帯による区画文・胴部同一原体による筒文上に太沈線による磨き文	覆土下層	PL152
1532	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	2本一組の沈線を伴う隆帯で口縁部区画・区画内単部縄文LR（縦・斜）同隆帯による曲線文	覆土下層	
1533	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	口縁に沿って2列の円形刺突文・0段多条単部縄文RL（横・斜）2本の沈線による連続文沈線同磨面	覆土中層	PL152
1534	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤色粒子	灰黄褐色	普通	単部縄文RL（横・斜・縦）を粗磨りに施文・縦・斜の並行沈線・蛇行沈線垂下	覆土中層	
1535	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	橙	普通	単部縄文RL（縦）凹線を伴う隆帯による区画文・区画内楕円形文・柱形文	覆土中層	PL152

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 313	鎌	(22)	1.5	0.3	(0.9)	チャート	無茎鎌・両面押し剥離・先端部欠損	覆土中	PL161
Q 314	磨製石斧	(120)	5.4	3.2	(34.1)	砂岩	定角式・全面研磨・刃部欠損	覆土中	PL167

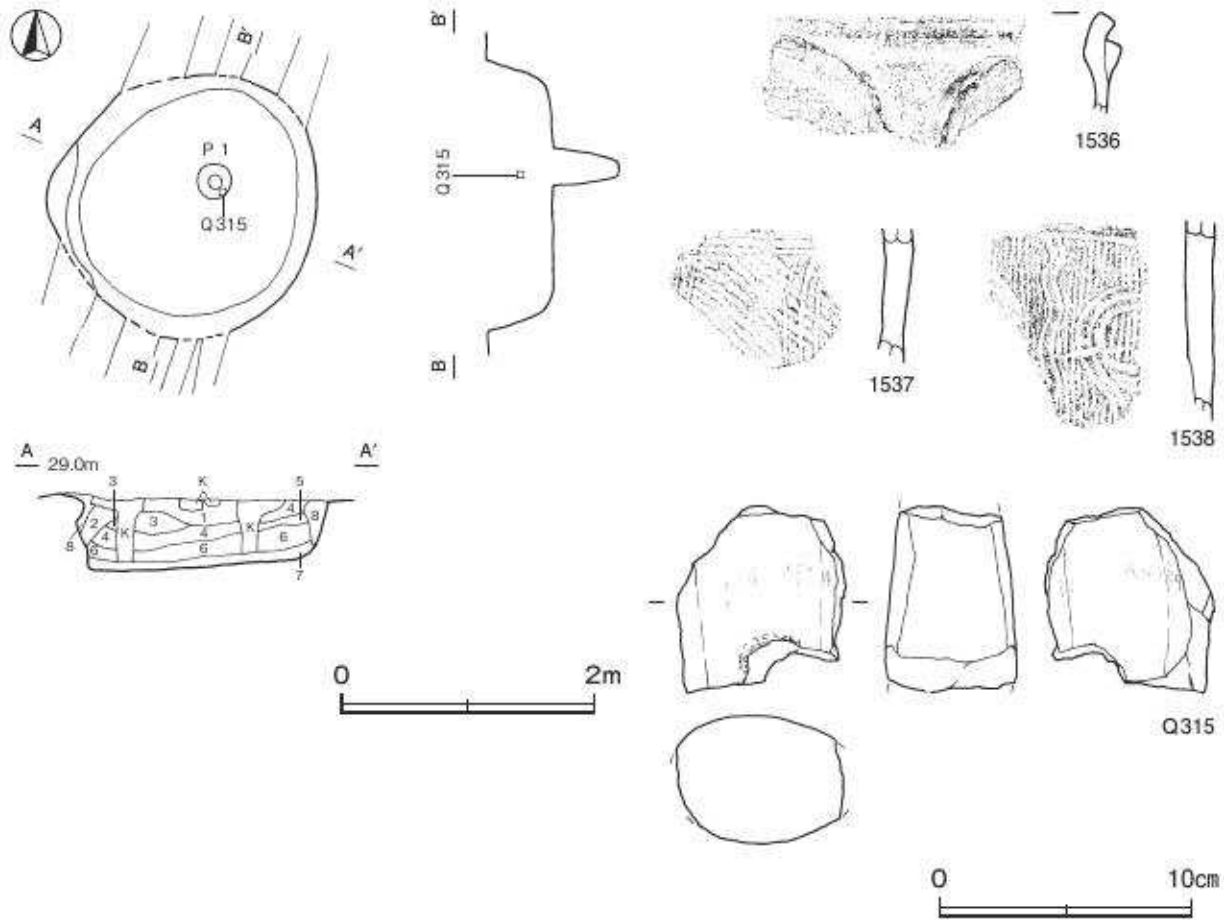
第595号土坑（第528図 PL87）

位置 調査区中央部のC4e2区、標高29mほどの台地中央部に位置している。

規模と形状 径2.14mのほぼ円形である。底面は平坦である。深さは56cmで、壁は外傾している。

ピット 中央部の北東寄りに位置し、深さは54cmである。位置や形状から、柱穴と考えられる。

覆土 8層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。



第 528 図 第 595 号土坑・出土遺物実測図

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|---------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック、炭化物微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 6 にぶい褐色 | ロームブロック中量、炭化物微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック、炭化物微量 | 8 褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 縄文土器片 75 点（深鉢 69、浅鉢 6）、石器 2 点（磨製石斧、磨石）が、覆土中からまばらに出土している。Q 315 は覆土中層から出土し、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第 595 号土坑出土遺物観察表（第 528 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1536	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐色	普通	断面三角形の隆起線による弧状文	覆土中	
1537	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	底部縄文 R（横）上に半軟竹管による横走文・縦走文	覆土中	
1538	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	縦位の燕条文上に半軟竹管による横位区画・横位同軸文具による波状文・縦手文	覆土中	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
Q 315	磨石	(7.5)	(4.7)	5.3	(320.7)	砂岩	表表面研削	表面中央部微細な敲打痕	筒縁部割離	覆土中層	

第 596 号土坑 (第 529 図)

位置 調査区北部の C 4 e3 区, 標高 29 m ほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第 599 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 1.02 m, 短径 0.78 m の楕円形で, 長径方向は N - 78° - W である。底面は平坦で, 深さは 67 cm である。壁は直立している。

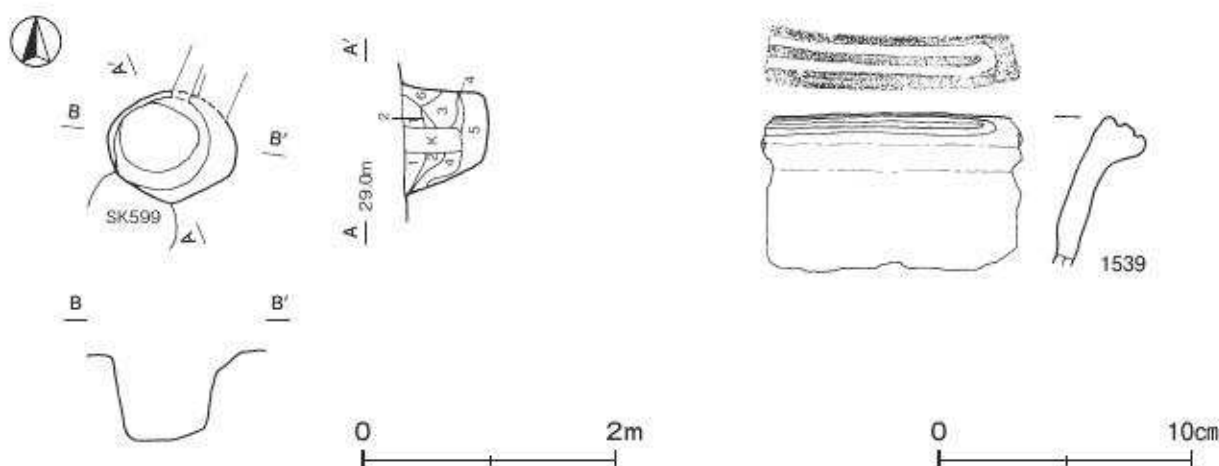
覆土 6 層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから, 埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 6 褐色 | ロームブロック多量 |

遺物出土状況 縄文土器片 22 点 (深鉢 20, 浅鉢 2) が, 覆土中からまばらに出土している。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。



第 529 図 第 596 号土坑・出土遺物実測図

第 596 号土坑出土遺物観察表 (第 529 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1539	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	沈線による長楕円文 内面に縦・外・内面横方向の磨き 口唇部・口縁部内面赤彩痕	覆土中	

第 600 号土坑 (第 530 図 PL85)

位置 調査区中央部の C 4 f2 区, 標高 29 m ほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第 593 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 径 2.45 ~ 2.62 m のほぼ円形である。底面は平坦で, 深さは 93cm である。壁はほぼ直立している。

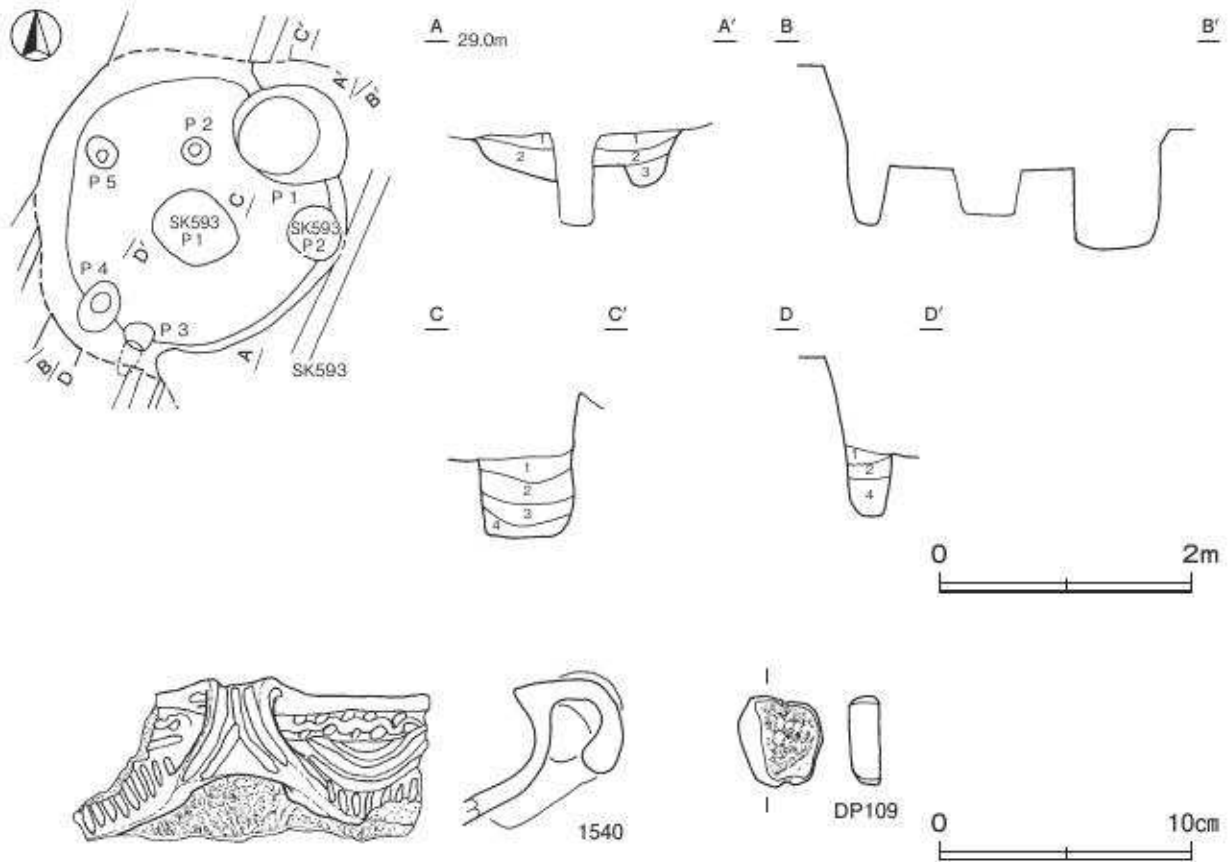
ピット 5 か所。P 1 は北東壁際, P 2 は北部, P 3 は南壁際, P 4 は南西壁際, P 5 は北西部に位置している。

深さはそれぞれ 65cm・32cm・36cm・48cm・28cm である。P 1 は, 位置や形状から補助的な貯蔵施設と考えられる。

P 2・P 3 は, 位置や形状から柱穴と考えられる。P 4・P 5 は, 性格不明である。

ピット土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------|-------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化物少量, 焼土粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック中量, 炭化物・焼土粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子中量 |



第530図 第600号土坑・出土遺物実測図

覆土 3層に分層できる。ロームブロックが含まれている層が堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片101点(深鉢98, 浅鉢3), 土製品1点(土器片錘), 石器1点(磨石)が, 覆土中から散乱した状態で出土している。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土状況から中期中葉と考えられる。

第600号土坑出土遺物観察表(第530図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1540	縄文土器	深鉢	-	(65)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	隆帯と瓦状隆帯で口縁部区画。口縁に沿って交互斜交文。区内内洗線による屈伏文と箱線文で充填。胴部縦位の隠糸文	覆土中	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考	
DP109	土器片錘	36	34	12	166	長石・石英	にぶい褐色	両縁部研磨 両端にキザミ目	覆土中		

印刷仕様

編集	OS	Microsoft Windows 10 Home
	編集	Adobe InDesign CS4
	図版作成	Adobe Illustrator CS4
	写真調整	Adobe Photoshop CS4
	Scanning	6×7 film Nikon SUPER COOLSCAN9000ED
	図面類	RICOH imagio MP W4001
使用Font	OpenType	リュウミンPro・L
写真	線数	モノクロ175線以上 カラー210線以上
印刷		印刷所へは、Adobe InDesign CS4でレイアウトして入稿

茨城県教育財団文化財調査報告第419集

吉 十 北 遺 跡 勘 十 郎 堀 跡 (第2分冊)

東関東自動車道水戸線(鉾田~茨城空港北間)
建設事業地内埋蔵文化財調査報告書

平成29(2017)年 3月15日 印刷

平成29(2017)年 3月17日 発行

発行 公益財団法人茨城県教育財団

〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内

TEL 029-225-6587

HP <http://www.ibaraki-maibun.org>

印刷 株式会社あけほの印刷社

〒310-0804 水戸市白梅1丁目2番11号

TEL 029-227-5505

茨城県教育財団文化財調査報告第419集

吉 十 北 遺 跡 勘 十 郎 堀 跡

東関東自動車道水戸線(鉾田～茨城空港北間)
建設事業地内埋蔵文化財調査報告書

第2分冊

平成29年3月

東日本高速道路株式会社
公益財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第419集

吉
十
郎
北
遺
跡
勘
十
郎
堀
跡

(第2分冊) 公益財団法人茨城県教育財団